其名世に著はる。「笠のべにびも横ちよで結ぶ娘ざかりよオヨラ桑ざかり」「八尾坂道降り積む雪もとけて流れてオヨラおわら節」〔聞名寺〕今町にあり。眞宗本願寺派。桐野山と號す。開基は願智坊覺淳。慶應遷の後天正十一年兵火に燒かれ明和二年本堂を再建、爾來修興に努力し寺觀次第に舊に復せり。寺寶多し。

ヤツカ　八束

【八束村】千葉縣安房國安房郡の西部。南は那古町・船形町、西は富浦町、北は岩井町と隣りす。大部分丘陵地にて森林多きも、南部の小流附近には狹き平地あり て水田をなす。農業行はれて米・麥を産し養鶏も盛なり。村道は中部及び西部を縫走し船形町及び岩井町に通ず。隣接する船形町に省線房總西線那古船形驛、岩井町に同岩井驛あり。古くは和名抄平群郡達良郷の内とす。大字宮本に宮本城址あり。里見成義の城くところにして享祿・天文の間里見義豐こゝに居す。のち稻村に移り、其臣宮本宮内・錄田孫六をして城代たらしむ。天文三年義豐戰死し二人これに殉ず、よりて城廢す。

【八東郡】鳥根縣十六郡の一。出雲國の北端。鳥根半島の東部及び宍道湖南岸の地を占め、北は日本海に面し、東は中海に臨む。西は斐川郡、南は大原郡に接す。面積四四九・二平方粁。郡内美保關・舟屋・宍道の三町外三十一ヶ村を含む。人口約八・五萬人。地勢上北・中・南の三部に分かる。北部は鳥根半島の地にて、背梁山脈東西に連亙し、朝日山（三四二米）・澄水山（五三六米）・高尾山（三三二米）等聳え南北の兩斜面に傾斜せり。北方の日本海岸はリヤス式ななし、天然の良港數多存すれど、その後背地なきため良港發達せず、漁村相連りて鰯・鯛・鮪・柔魚等の漁撈行はる。中部はその南斜面と宍道湖・中央に松江平野、東に中海ありて、湖岸及び松江附近は平地多く耕地よく拓け、交通利便にして郡の農・商・工業の中心地たなせり。宍道湖と中海は松江市を貫く馬潟瀉戸を以て相連る。物産に米・麥・繭・蠶絲・清酒・醬油・味噌・赤貝・蜆・蝦等あり。南部は中國山脈に屬し、地勢南方に漸高し南端は四—五百米の山地をなして山林に蔽はる。諸川北流して河岸に平地を有し、耕作行はる。一般に農業・養蠶業の純農村多きも宍道町は生絲・清酒等の産多し。省線山陰本線は中央平地及び宍道湖南岸を東西に貫通し、舟屋・馬潟・松江（以上明治四十一年設置）湯町・宍道（以上明治四十二年設置）等の諸驛を置く。また山陰街道略々これに並行し、松江市より縣道分岐北走して美保關町に至り、バスの便よし。美保關港は松江・鳥取・下關・隠岐島等へ定期航路を有す。明治三十九年鳥根・秋鹿・意宇の三郡を合併して本郡を建つ。

【八東村】鳥根縣出雲國八束郡の東部。中海に横はる大根島・小大根島より成り、海を隔てゝ北に森山村、西に本庄村と相對す。面積六・〇三平方粁。二島ともに玄武岩の低き熔岩臺地狀を呈し、大根島の最高峯大塚山は高さ四二米あり。一般に地勢平坦地味肥沃にして村内概ね耕地ななす。棄落海岸に相連り、波入・二子等の船着場あり。村内農業・養蠶業盛んにして、米・麥・桑・甘藷・大根・繭・赤貝・蝦・鰒等の産多し。本島は牡丹の名勝地にして花時遊覽客多し。松江市・美保關町・米子市へ定期汽船の便あり。昭和四年波入村・二子村を廢し、その地域を以て本村を建つ。〔大根島の熔岩隧道〕指定天然記念物。字遅江に在り。大小二筒ありて南北に位し相通じて環狀をなす。大なるは南に在りて長さ約六四米、高さ最大約二米四、巾最大約七米三にして、入口は上方に開け右に入れば小洞、左すれば大洞に至る。小洞中分岐の大洞に連る所は土砂崩壊し伏して通ずべく、これを背撃と云ふ。〔蟹鰭神社〕大字江島に鎮座。郷社。祭神、素盞嗚命外三神。例祭、十月十七日。

【八東村】岡山縣美作國倉庭郡の北部。旭川の上流山中に位し、北は鳥取縣に界す。東は中和村、西は川上村、南は二川村に接す。面積六三・三平方粁。四周を高峻なる山脈に圍繞せられ、北に上蓮山（一二〇〇米）、西に三平山（一〇一〇米）村界を屈し、村内山地起伏して地勢高燥なるも、山間を旭川東南流し、河谷に低地をひらき、沿岸に耕地多し。米・麥・繭・木炭・酒類等の産あり。上蓮山麓は好適なるスキー場なり。伯耆街道貫通し、勝山町を經て津山市に至るバスの便あり。明治三十五年縣村と茅部村の一部とを以て本村を置く。〔大山椒魚棲息地〕指定天然記念物。↓中和村〔四ツ塚古墳〕指定史蹟。長田に在り。旭川上流の原野に並列する四箇の圓墳にして、何れも封土の直徑約二七米内外あり て環濠の址を存し、第一墳墳は近年發掘せられたり。片袖形平面の石槨は口を北に開き天井及び壁面に朱の塗抹あり、底部に礫石並に木炭を敷く。また玉類・鐵製品・齋瓮土器等百餘點の遺品發見せられ、主なるものはいま東京帝室博物館に收めらる。〔福田神社〕大字中福田に鎮座。郷社。祭神、大己貴命・素盞嗚命・稻田姫命等十六柱。もと布施神社と云へり。本殿・幣殿・釣殿・拜殿・神輿庫・神樂殿・寶庫・神饌所・參籠所・社務所等を具ふ。

【八東村】高知縣土佐國幡多郡東南部。中村町・下田町の西南に位し、西は具同・東中筋二村に、南は三原・伊豆田二村に隣接し、東は太平洋に面す。幡多山地東部の地を占め高距三—四百米餘の山嶺東西に連亙して數條並び何れも東に傾斜し一部は海に、他は西北方より流下する四万十川右岸に向つて低下す。南部にも葛籠山聳ゆ。四万十川の流域に狹少の沖積地あるも耕地少し。繭・米・麥を作りまた黒芋の産出多し。縣道は中村町より南走し河岸にそひて村の中央に來たり、葛籠山北麓にて方向をかへ屈曲しつゝ西南方伊豆田村に至る。村名八東は八大字よりなるを以てなりといふ。江戸末期の土州藩文武の先覺者にして、尊攘の志士なる間崎哲馬（幽斐四位）ば此地の人なり。〔八東村くさまるはち自生地〕指定天然記念物。山路字かうか峰山の曾我神社境内に在り。社殿後方卽ち西方一帶の山地は曇性の樹種に富み樹下には灌木草本繁茂し、後方の山崖及び南側の斜面にはクサマルハチ點々散生す。この植物は他に自生せず。〔八宮神社〕大字初崎に鎮座。郷社、祭神、阿遲鉏高彦根命。例祭、八月十五日。

ヤツカ　八嘉村　↓八嘉村（熊本縣玉名郡）

ヤツカ　谷塚村　埼玉縣武藏國北足立郡の東南隅。草加町の南隣にして、南は東京市足立區と隣りし、東に南埼玉郡に接す。面積五・九七平方粁の小村なり。東境を綾瀬川南流し、全村低平にして水田多く、西北部に畑地をなす。農業行はれて米を主産し他に麥の産もあり。陸羽街道は東京市より來り東部を北走して草加町に入り、社線東武鐵道またこれに沿ひ、村内中央に谷塚驛（大正十四年設置）を置く。

ヤツカミ　八頭郡　↓八頭郡（鳥取縣）

ヤツカミ　八東水　鳥取縣氣高郡にありし村。大正四年本村外一村を廢し、正條村を置く。

ヤツカン　驛館　（ヤツカン）

【驛館村】大分縣豐前國宇佐郡の北部。驛館川に臨り四日市町の東に接し、東部は宇佐町に界す。全村地形概ね平坦にして中央に驛館川が東北々流す。地味肥沃にして村民の大部分は農業に從事すれど商工業を營むものもあり。副業としては養蠶盛なり。東南隅を大分街道が掠めて過ぎ自動車の便よく、北方約二粁に省線日豐本線の柳ヶ浦驛あり。古くは和名抄、宇佐郡幸島郷の地にして、大字幸島はその遺稱とす。また延喜兵部省式に見ゆる驛館驛は蓋し此地なるべし。〔鷹居八幡神社〕大字上田に鎮座。縣社。祭神仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。宇佐修起に據れば、和銅五年の創建といひ、和銅元年郡内、大河西岸の一勝地に化鷹現を顯はす。これ大神の御心荒琵坐なりとし、同五年大神比義、幸島勝目と共に神託に依りて社殿を造營し、鷹居瀧社といふと見ゆ。例祭、三月十五日。〔泉神社〕大字幸島に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇外三神。創建年代不詳なれども、社傳に孝德天皇大化四年、幸島勝比咩宇佐大神の神勅に隨ひ創建せりといふ。例祭、九月十五日。

【驛館川】大分縣の北部にある縣下五大河川の一。源を遠見郡由布院村に發し、宇佐郡の中部を北に貫き宇佐町の西を過ぎり長洲町にて周防灘に注ぐ。流程約四九粁。支流數は八にして惠良川・浮見川は共に流程二五粁に及び主支流とす。この川は山國川と同じ地質の上に同じ樣な方向に流るゝものにして、其長さも略同じ。中流に安心院盆地を作り下流に堆積平野を作る。流域面積は約四一八平方粁にして、このうち約二割は農耕地として利用さる。古くは薬狹川といひ、神武紀に「行至二筑紫國薬狹一、時有二薬狹國造祖一、號曰二薬狹津彦薬狹津姫一、乃於二薬狹川上一、造二一柱騰宮一、而奉二饗焉一」と見ゆるは之にして豐前志に刑部大輔篤成宇佐參宮日記を引きて、「正安三年二月十六日、著二宇佐河驛館一、同西時着二社頭一」とあれば此頃までは尙薬狹川と呼ばれしことを知るべし。

ヤツギ　八次　廣島縣雙三郡にありし村。昭和十二年十日市町に編入す。

ヤツシロ　八代

【八代】下總國（千葉縣）の古地名。和名抄に印幡郡八代郷あり。其の地いまの印旛郡公津村の地なるべし。同村の大字八代は郷名の遺稱なり。

【八代（郡）】甲斐國（山梨縣）の古郡名。絵紀神護景雲二年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄に夜豆之呂と訓じ長江・百井・沼尾・川合・八代の五郷を管す。明治十三年五月八代郡を分けて東西二郡とす。

【八代】甲斐國（山梨縣）の古地名。和名抄に八代郡八代郷あり。八代郡家の地なり。中世八代莊と稱せしも此の地なるべく、その地は近世小石和筋に屬す。いま東八代郡の南八代村・北八代村・英村等に亙る。

【八代（縣）】明治の始め肥後國（熊本縣）に置きし縣。明治四年十一月人吉縣を廢してこれを置き肥後國の下益城・宇土・球磨・葦北・八代・天草の六郡を管せしが六年一月廢して白川縣に合す。

【八代郡】熊本縣十二郡の一。肥後國の中央南偏。球磨川下流を含みて西は八代海に臨み東は長く延びて宮崎縣西臼杵郡に界す。東部・中部は九州山脈に屬し西部は八代平野なり。九州山脈の地は峻險にして殊に東部に高く、東境には國見山（一七三九米）・五勇山（一六四四米）・鳥帽子嶽（一六九二米）等の山峯が南北に相連り、北境には京ノ丈（一四七三米）・鷹俣山（一三四五米）・白山嶽（一〇七三米）・大行司山・樋現山（七四二米）等が相連りて郡境を劃す。東南部には上福根山（一六四五米）・岩宇土山・茶臼山（一四四六米）等が聳りて五家莊の別天地を形成し、其西を繞りて西南流する川邊川の谷を隔てて西に南北に連る一分水嶺あり西流する氷川の谷を分つ。郡内には平石山（一一三〇米）・六本杉山（一一四九米）・大金峰（一三九六米）・小金峰（一三七七米）・保日岳（一二八一米）・矢山嶽（八六九米）・八峰山（五七四米）・八龍山（五〇〇米）等が聳立す。西麓は東北より西南に走る斷層を以て終り八代平野に連る。東部は球磨川の支流川邊川の源流地ななし、東北隅に發する同川は附近の水を集めて西南流し球磨郡に入る。中央東偏に發する氷川は北部を屈曲しつゝ西流し八代平野に出でて西北に方向を轉じ海に注ぐ。西南部に

は南方より來る球磨川ありて屈曲しつゝ山地を北流し八代平野に流れ出でて西流し、北に前川を分ち西南方へ南川を分けまた流溪川の細流は南々西に向ふ。共に八代平野の南部を潤す。海岸には縣營・郡營の新埋立地あり。八代平野は田畑よく拓けて米・麥・繭を産しまた野菜・果樹等あり。球磨川口の八代町は上流より下す木材の集散地にてまた其他の貨物の重要なる運輸譯をなすと共に近來工業地としても發展し洋紙・製材・セメント等の工場多し。郡内は八代町・太田郷町・鏡町・宮原町の外二十七ヶ村を含み、人口密度は一方粁一七三人、八代町のみにては四六一八人を算す。交通は西部に發達し鹿兒島街道は山麓を通過し、省線鹿兒島本線は其西を並走し、その八代譯より球磨川に沿ひ山中に入る肥薩線を岐つ。八代港は近海航路の寄航地にして陸海交通の中心をなす。景行紀に天皇八代縣の豐村に至り給ふとあり。この縣は大化改新の時郡となれるものならん。續紀天平十六年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は夜豆志呂と註し肥伊・高田・豐福・木行・小川の五郷を管す。

【八代町】 熊本縣肥後國八代郡の西部。八代平野にありて球磨川の分流前川河口の右岸に位し、西は八代灣に臨む。地形極めて低平にして東方一粁餘の地點にて球磨川より分れる前川が南境に沿ひて西流し河口にて球磨川と相合す。町の西北方には郡築新地と呼ばれ明治三十二年より三十八年にかけ郡營にて干拓したる方一一四粁餘の新地あり。近く又それに隣りして縣營による方一三粁余の昭和新地成功せり。八代港は球磨川河口にあり改修に伴ふ築港の實現を期しつゝあり。當町は鹿兒島地方及び球磨川上流より搬出する貨物の重要なる運輸譯なると共に、海上交通の便を有する爲、從來港市として繁華を呈せり。また近來工業地として發展し日本セメント會社及び九州製紙會社・樺太工業株式會社の工場等があり、洋紙・セメント・製材は其重要工業なり。其他高田燒・球磨川鮎・朱櫨(ハゼ)の産物を出す。市街地は中部・東部の大部分に亙りて發達し、人口密度一方粁四六一八人、郡中の最高位を示す。(郡の平均密度は一七三人なり)。八代町より南方及び東方へ走る縣道あり。省線鹿兒島本線の八代譯(明治二十九年設置)は東方約一粁、太田郷町地内にありて省線肥薩線の分岐點たり。バスは各方面に通じ八代港は近海航路の寄港地にして海陸の交通至便なり。舊名を德淵といひ、近代一郡の治所たり。元和五年三月、麥島城地震のために傾倒せしを以て、翌年加藤忠廣新にこの地の北松江に城きて八代城と稱す。これより城名を取り德淵を八代と改む。のち加藤氏除封せられ、細川忠利入國して其有となり父忠興當城に入る。其歿後老臣松井興長城代となり、爾來其子孫相繼いで城代たり。明治十年西南役には別働の各旅團この地に上陸し熊本城を援けんとす。薩軍の別府晋助・逸見十郎太等、人吉より來りしも之がために熊本に到る能はず、乃ち兵を分ちて八代を攻め官軍の背後を衝かんとす。官軍の山地中佐・古川少佐等來りてこの地附近に戰ひ、遂に薩軍を擊退す。〔八代宮〕 官幣中社。主祭神懷良親王、配祀神良成親王。懷良親王は後醍醐天皇第九皇子、良成親王は後村上天皇第七皇子なり。兩親王共に吉野時代天下擾亂の際に、征西將軍として儲西に下り給ひ、西國平定の重任を帶びて皇軍を指揮し給ふ。懷良親王は弘和三年三月二十七日、南風競はざるを歎かれつつ當郡高田の閑居に薨じ給ひ、良成親王も亦官軍潰落の中に應永初年矢部の山中に薨ぜらる。例祭、八月三日。〔松井神社〕 宇北ノ丸に鎮座。郷社。祭神、松井康之外一神。明治十四年創建す。例祭、十一月一日。〔松井神社の臥龍梅〕 松井神社境内にあり、石玉垣を繞らす。樹幹は地上を東方に匍ふこと七米二、屈曲して左右に枝を出す。その主幹の起伏せるさま恰も龍の雲に御するが如く、枝の屈曲せるさま四肢の玉を弄するが如く、臥龍梅の名に反かず。樹幹の根廻り一米四、樹高二米七、枝張り東西八米七、南北六米二、枝端の周圍二三米半、花は淡紅重瓣にして乙女の袖と云へる品種なり。細川忠興(三齋)八代在住の折その庭園に手植せし遺愛の梅なりと傳へらる。傍に童山名和範藏撰文の臥龍梅碑建てり。神社境内の東北方には今尚ほ別業當時の假山泉石あり、多數の鄙躑躅樹ありて花時絢麗を敎く。〔八王社の欅〕 大字北小路淺井神社境内にあり、根廻り二四米五、枝張り東西三二米、南北三二米、樹勢盛なり。〔醫王寺〕 古義眞言宗。高野末。木造藥師如來立像一軀は國寶。〔淨喜寺〕 眞宗本願寺派。豐前小倉淨喜寺末。開山は了慶。開基は忠興。當初、當地城下長小路にありしも了慶入寂後寺領沒收せられ、寛文九年現地に轉ず。

【八代平野】 熊本縣西部の平野。八代海に沿ひ、北緣は宇土半島の基部なる大野川流域より南緣は日奈久町附近に至る約二五粁、幅は平均六粁以上の帶狀をなせる平野にして、その東緣の花崗岩地は九州山脈の方向に少しく斜向せる斷層線によりて切斷さる。北より大野川・砂川・氷川・日置川・球磨川等これを灌流し、水田遠く連りて縣下主要米産地帶の一をなす。この平野は不知火海(八代海)地溝の北東隅に成生せりと見るを得べく、前記河川は何れも平野の成生に對してコンセクエントに延長したるものとす。從つて海岸は開拓によりて新田を生じ、また鹽田に利用せらるゝ箇所もあり。省線鹿兒島本線はこの平野を南北に貫走し交通の便よく、八代町は實にその中心都邑をなす。

【八代灣】 九州の西岸と宇土半島・天草島及び長島により抱かるる内海。一に不知火海といふ。南半が深く、灣内は深度六〇米、長島瀬戸にて七〇米以上に及ぶも

北半は一〇米以下にして、特に八代附近は遠淺なり。灣内の干滿の差は大にして四米以上に及ぶ。水産業は製鹽業以外には養殖業盛んにて、カキ・ハマグリ・マテを産し、またイワシ等も漁獲さる。不知火は昔より名高く、八代附近がその好觀望地たり。

【八代村】 宮崎縣日向國東諸縣郡の北部。大淀川支流の深年川の源流地を占め、本庄町の西北に隣接し、西は綾町に界す。地稍西北より東南に長く、北及び東の一帶は兒湯郡に接す。西北隅に掃部嶽(一二二三米)の高峯そびえ、それより東南に延びる山脈は東南にのびるに從ひて兩者間の巾を擴げ東・西兩境を限る。中央部にも掃部嶽より東南に連る山地ありて盤木山(七一一米)を起す。東南の山麓部は台地狀丘陵をなし、東南方へ緩傾斜す。深年川は掃部嶽に源流して西部を東南流す。東南郡諸處に低地開けたり。西部は茶臼岳官有林をなし林産資源豐かなり。また米・麥・繭をはじめ各種の農産多くまた椎茸を産す。本庄町を過ぎ宮崎市へ自動車の便あり。和名抄に諸縣郡八代郷と見ゆるは、いま本村及び高岡町・本庄村等に亙る地域を稱せしものならん。

ヤツタ 八田村 兵東縣但馬國美方郡の西部。溪坂町の西部より南方約四粁にありて、北部は温泉町の西部に接し、土地南北に細長く、西及び南は鳥取縣岩美郡・八頭郡に圍まる。四周山地を繞らし西南境に扇ノ山(八三一〇米)、西境北偏に牛ヶ峰(七一三米)そびゆ。中央には南境に發して北流する岸田川ありて東北隅より溫泉町に入る。米・繭・蔬菜・食用農産・大麻・大麥・果實・稞麥等の外、鶏卵・獣物等を産す。山陰道北部を通過し北方溪坂町へはバスの便あり。古くは八田郷に作り、和名抄には三方郡八田郷と見ゆ。

ヤツタ 八田村 石川縣加賀國河北郡の西部。河北潟の東南岸に沿ふ面積一・二九方粁の小村。土地平坦にして殆んど水田となし米を主産とす。その他河北潟の魚、蓮根の特産物等多少あり。省線北陸本線森本譯(森本村内)に近し。

ヤツブ ——島 Yap I. 我が南洋委任統治地域に屬するカロリン群島中の一島。北緯九度二五—三六分。東經一三七度五八分—一三八度八分。實際はヤップ・ルムンゲ・コップ・トミールの四島と約十箇の小島の總稱にて、南北二二粁幅二—七粁、面積二一五・九平方粁あり。島の最高點は二〇〇米内外に及び、周圍には勿論珊瑚礁が發達せるも、その基盤をなすものは結晶片岩にして、この點は他の諸島が悉く火山島もしくは珊瑚島なるとは大いに趣を異にす。島の周圍附近の海は我が南洋中水深最も大にして、南方は二三〇〇米、西方は四二〇〇米、東方の如きは、實に七五三〇米以上に及ぶ。また島の南方一帶を西方に向つて流るる赤道流は、フィリッピン群島にあたつて轉向北上し、黑潮・對馬暖流となる。氣溫は二月二六・六度、九月二八・二度、年平均二七・七度にて殆んど較差なく、年降水量は三〇〇〇粍、一般にはスコールとして降下し、炎熱を頗る緩和するが六—九月にかけては大暴風雨に襲はるること珍しからず、ために椰子樹の如きは大被害を受くることあり。島の主産物はコプラ・高瀨貝・海鼠・玳瑁・タピオカ・タロ芋等なり。住民の大多數を占むるものはカナカ族にて、彼等は自由民と奴隸民とに分たれ、後者は三十に近き部落に分たれ各々酋長を戴き、主に山地に住む。ここのカナカは南洋諸島唯一の男尊女卑の風を存し、石貨・貝貨があり、遊惰淫卑にて、服裝は裸體に近きも、住宅は比較的大にして、殊に集會所なるアバイは廣大なるものなり。グアムより來りしチャモロ族と少數のマニラ人とは共同にてチャモロ村をつくり、海邊の沃地に居を構ふ。ドイツ領時代には東にポナペ、西はヤップ—メナド線の三海底電信線が、本島のドラを陸上げ點とせることは注目に値す、尤もヤップ—上海線は我が統治後、奄美大島に引揚げて内地と連絡す。いま行政上ヤップ支廳管區をなす。

ヤツホ 八ツ保村 埼玉縣武藏國比企郡の東南部。川越市の北方約七粁。面積六・三五平方粁の小村なり。東方僅か一粁の所を荒川南流し、全村平地にて、水田多し。農業行はれて、米を主産し、麥・甘藷の産もあり。養蚕行はれて繭の産多し。縣道は西部を南走して、川越市に通じバスの便あり。その他、西北方松山町、東方北足立郡桶川町にも縣道を通じ、バスの便あり。

ヤツミ 八積村 千葉縣上總國長生郡の東南部。茂原町の東南隣にして、東南は一宮町と隣りす。九十九里濱沿岸平地の南端部を占め、沼澤地多く、西半は畑地、東半は水田をなす。農業行はれて、米・麥を産し養蚕・養鶏も盛なり。縣道は茂原町より來り村の南部を經て一宮町に通じ、バスの便あり。省線房總東線また之に沿ひて東南に走り、村内中央に八積驛(明治三十一年設置)を置く。近世、千葉廣常の弟金田小太夫頼次在住し、いま金田の名大字に殘る。

ヤツメ 矢集

【矢集】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に可兒郡矢集郷あり、訓を缺くもヤツメと訓すべし。其の地はいま可兒郡敷治村の邊か。同村の大字に谷迫(ヤツサコ)間あり、郷名に由縁ある名稱なるべし。而してまた同郡の春里村に谷戸あり、これも矢集に因める名稱ならんといふも、何れも詳かならず。

【矢集】 駿河國(靜岡縣)の古地名。和名抄に駿河郡矢集郷あり。其の地詳かならざるも、いまの駿東郡小山町北郷村の邊なるべし。

ヤツモト　八茂村　埼玉県大里郡の西北部。利根川の南岸に位置し、西は児玉郡に接し、北は利根川を隔てて群馬県佐波郡に対す。面積五・八六平方粁の小村。全村平地に開発され、耕地の多くは利根川の沖積土に属し、大部分畑地となる。米・麦を主とし、養蚕盛んなり。戸数三百五十戸、人口一千六百。

ヤツヤマ　八山　東京市の異名。今の目黒川流域・目黒川の北岸、芝区に接する高地。御殿山の東方。目黒川の八山に上ること遠く、東海道沿の要衝なるに、なほ広く知られる。「港区に暮らすにはこれほどまでに又よいところ。中南八の町の山坂をば通って」呼子鳥「あれは見やれ八ツ山から鳴がおかれ人とうけわたりまし」「見見人大勝・人人人「遠く武蔵く麦なれた米」「人の白足を踏米ゆで、ずっと谷の頭の御殿山より」和合人・四人上「モツ八タ山、御殿山、御殿山、やがて人やまから鳴が出る、鳴どもやないもの人じやもの」

ヤツヤマ　八ツ山村　三重県伊勢国一志郡の西部。布引山塊の東麓面に位置し、東は相可村に接し、西は八幡村に接し、南は相可村に接し、北は八幡村に接し、面積二千三百三十九町。人口二千三百。

ヤツリ　八釣村　埼玉県大里郡の北部。利根川の南岸に位置し、東は上川原村に接し、南は下川原村に接し、西は下川原村に接し、北は利根川を隔てて群馬県佐波郡に対す。面積五・八六平方粁の小村。全村平地にして、耕地多く、米・麦を産し、養蚕盛んなり。戸数三百五十戸、人口一千六百。

ヤツリ　八釣村　埼玉県大里郡の北部。利根川の南岸に位置し、東は上川原村に接し、南は下川原村に接し、西は下川原村に接し、北は利根川を隔てて群馬県佐波郡に対す。面積五・八六平方粁の小村。全村平地にして、耕地多く、米・麦を産し、養蚕盛んなり。戸数三百五十戸、人口一千六百。

ヤツリ　八釣村　埼玉県大里郡の北部。利根川の南岸に位置し、東は上川原村に接し、南は下川原村に接し、西は下川原村に接し、北は利根川を隔てて群馬県佐波郡に対す。面積五・八六平方粁の小村。全村平地にして、耕地多く、米・麦を産し、養蚕盛んなり。戸数三百五十戸、人口一千六百。

ヤトミ　八戸村　埼玉県大里郡の西北部。利根川の南岸に位置し、西は児玉郡に接し、北は利根川を隔てて群馬県佐波郡に対す。面積五・八六平方粁の小村。全村平地にして、耕地多く、米・麦を産し、養蚕盛んなり。戸数三百五十戸、人口一千六百。

ヤトミ　八戸村　埼玉県大里郡の北部。利根川の南岸に位置し、東は上川原村に接し、南は下川原村に接し、西は下川原村に接し、北は利根川を隔てて群馬県佐波郡に対す。面積五・八六平方粁の小村。全村平地にして、耕地多く、米・麦を産し、養蚕盛んなり。戸数三百五十戸、人口一千六百。

ヤトミ　八戸村　埼玉県大里郡の北部。利根川の南岸に位置し、東は上川原村に接し、南は下川原村に接し、西は下川原村に接し、北は利根川を隔てて群馬県佐波郡に対す。面積五・八六平方粁の小村。全村平地にして、耕地多く、米・麦を産し、養蚕盛んなり。戸数三百五十戸、人口一千六百。

四会堂には本田・宗則多く、野川治井に野川治井に出で東北に流れ、野川の野井に流れは野川橋流の東あり。明治三十九年安岡・長谷の二村を合せて新に建て上村なり。和名抄に見ゆる八名郡八名郡の郷に八名井の小字名残れり。東南国道に字利ヶ岳あり。東南国道に通じ、北東一帯は中世字瀬庄と呼ばれたり。慶応年間安住氏此地に移り住せしより、幕末治世に渡るまで安住氏の所有せられたり。古峰山麓には天正二年宗治安盛と中川勢との交戦あり。上野三河後風土記に見ゆ。もと高麗のあり上野、いま桑原・新屋敷を置く。〔郷帳〕大字屋野にあり。寛永・創建・治承共に不詳。本尊木造薬師如来。例祭一月に国家。

ヤナ　山名　安田郡井羽郡にあり上村。明治三十九年本村外三村を廃して共栄村を置く。

ヤナイ　柳井　やぎい

【尊井町】山口藩周防国玖河郡の南港市。東は防長に接し、西南部に商宅・高に接し、東は雲門村、西に新庄村に隣す。面積三・三二平方粁。西端に大平山、東端に琴石山（五百六米）ある。中部に大平山、東端に琴石山（五百六米）ある。東南は民代島に到し、西南は鷹ヶ岳・牛島の北部につづきて海面は良港なし。浜内入行はる。平地には耕地の山麓に沿ひ、治井には農田多し。市街地は治井に集注し、商業・産業さかんなり。

柳井・高水・柳井・柳井・柳井・カスケード等の特産物あり。鰯・水・金魚を移出し、塩・鰯・鰯等を入す。市場柳井港通じて、柳井駅（明治四年設置）・柳井港駅（昭和四年設置）あり。近年定期汽船の便もあり。明治三十八年柳井村・柳井港町・和名抄、以河郡倉口郷の内なるべし。古くは柳井に作り、中世は港湾業あり。元禄年間浜平田の吟、柳井に移り、元禄年間浜平田の吟、柳井に移るも此地にして、元禄年間浜平田の吟、柳井に移り、二ヶ所より移出したり。代子入明の記に柳井、勘合船安丸七百梅とあるは、この柳井の船なり。安西寺城に弘治三年陶が安芸元就父子に大一統軍記、主の宗英に出等元就父子に大一統軍記、主の宗英に出る。其は港湾の一繁原二千余人を相率ひとあるも宜しかの港湾業が著なり。〔代田八幡宮〕大字柳井字宮本に鎮座。祭神、誉田天皇・神功皇后外四座。創建年代不詳。例祭、八月十七日より九月朔日迄。〔金剛寺〕古来船宮宗。白雲山と称す。国主大内氏の創建。常初天台宗に属し浄瑠璃院金剛寺と称す。大内氏滅亡後一時衰微し、寛文四年領主吉川監物の命により現地に再興す。元禄四年、浅野氏により浄瑠璃院を岩国に移し、日蓮宗の寺院を建立す。城内に谷に上田大尚と呼ぶ大尚寺あり寺名不詳。〔清和寺〕浄土宗。故実山と称す。永正十三年、一遍建法華の四山に属る。貞享三年、十四世本会禁令を発せり。天正十三年、一遍建

柳井駅（昭和四年設置）あり。近年本村・柳井港町・和名抄、以河郡倉口郷の内なるべし。古くは柳井に作り、中世は港湾業あり。元禄年間浜平田の吟、柳井に移り、元禄年間浜平田の吟、柳井に移るも此地にして、元禄年間浜平田の吟、柳井に移り、二ヶ所より移出したり。代子入明の記に柳井、勘合船安丸七百梅とあるは、この柳井の船なり。安西寺城に弘治三年陶が安芸元就父子に大一統軍記、主の宗英に出等元就父子に大一統軍記、主の宗英に出る。其は港湾の一繁原二千余人を相率ひとあるも宜しかの港湾業が著なり。〔代田八幡宮〕大字柳井字宮本に鎮座。祭神、誉田天皇・神功皇后外四座。創建年代不詳。例祭、八月十七日より九月朔日迄。〔金剛寺〕古来船宮宗。白雲山と称す。国主大内氏の創建。常初天台宗に属し浄瑠璃院金剛寺と称す。大内氏滅亡後一時衰微し、寛文四年領主吉川監物の命により現地に再興す。元禄四年、浅野氏により浄瑠璃院を岩国に移し、日蓮宗の寺院を建立す。城内に谷に上田大尚と呼ぶ大尚寺あり寺名不詳。〔清和寺〕浄土宗。故実山と称す。永正十三年、一遍建法華の四山に属る。貞享三年、十四世本会禁令を発せり。天正十三年、一遍建

の助力を仰て再建す。〔愛八宮〕（柳天宮の）大字柳井に鎮り。〔国魂宮〕（柳井宮）の東の記にて国魂宮とあり。有明宮（柳井宮）（昭和三年設置）の東の記にて国魂宮とあり。有明宮年代不詳。

【尊井村】　岩国市の南方約六粁。北は和泉郡柳村・西は柳井市に、東は岩国市に、南は岩城村に接し、西は柳井市に接す。面積三・三平方粁。西端に大平山（一一一一米）の西南麓に位し、北端に山地なるも港湾に平地あり。東は岩城村に接し、南は柳井市に接す。市街地は柳井市に接し、商業・産業さかんなり。

東北方南下町を経て谷谷井尊井駅（昭和三年設置）の東の記にて国魂宮とあり。有明宮年代不詳。

【尊井町】　岩国市の南方約六粁。北は和泉郡柳村・西は柳井市に、東は岩国市に、南は岩城村に接し、西は柳井市に接す。面積三・三平方粁。西端に大平山（一一一一米）の西南麓に位し、北端に山地なるも港湾に平地あり。東は岩城村に接し、南は柳井市に接す。市街地は柳井市に接し、商業・産業さかんなり。

は北部を走り筑後柳河驛は三橋村に置かる。郡の首邑にして舊郡役所のありし所。いま警察署・區裁判所・福岡供託局出張所・氣象觀測所・縣立盲學校等あり。立花氏の居城址は、町の南部にあり、また東方の高畑にある三柱神社には、藩祖戸次道雪、立花宗茂及びその夫人の靈を祀る。町の中を多くの講堀貫通して、水郷として知らる。男色大鑑・二「筑後の國柳川の邊に身をかくし、表向は兒藥師と見せ懸、一家中軍の指南して渡世すと、委細に聞出し女の身ながら、本望をとげぬべしと思ひ極めて」〔柳河城〕現今、破壞され遺址察し難し。永祿年中蒲地鑑盛の創築。蒲地氏滅亡後天正九年龍造寺家晴領す。天正十五年豐臣秀吉の島津氏を伐ち九州平定するや、筑前立花城主立花宗茂をこれに移し、筑後下田郡十三萬余石を領せしむ。關原役に西軍に黨したる罪により所領沒收せられ、のち陸奥棚倉(今磐城國)一萬石を給せらる。大阪役には東軍に屬し功を樹て、元和六年十一月舊領柳川城に復歸、十一萬石を食む。之より子孫相承け明治維新に至る。〔西方寺〕恵比須町にあり。眞宗本願寺派。天正十六年、曾慶信の創建。

ヤナガワ　梁川（やながは）

【梁川町】福島縣岩代國伊達郡の北部。藤田町の東南、保原町の東北各約六粁。面積七・七三方粁。東境は海拔約三〇〇米にして西方に傾斜し、西部は福島盆地に屬して平坦なり。廣瀬川は町の西部を西北に流れて阿武隈川に合す。繭の產多く、また米を產し、製絲業行はる。道路は町の西部を西南に貫通し、保原町へはバスの便あり。社線福島電鐵梁川驛を置く。人口密度は一方粁につき八四五人あり。此地は桑折と共に伊達氏の遺址を傳ふ。蒲生氏鄕の會津に封ぜらるるや、其將蒲生鄕舍を梁川城に置き、のち須田長義之に居る。〔梁川城〕文治五年中村朝宗此地に城き、伊達氏世々此に住す。鶴ヶ岡城とも稱す。天正十八年、蒲生氏の會津に封ぜらるゝや、其將蒲生鄕舍を置き、上杉景勝の時、其將須田長義も亦此城に主たり。寛文四年、上杉氏削封の時、須田氏米澤に移住するに至り、城遂に廢す。今其址は公園となる。文化五年、幕府、蝦夷の經營を圖り、松前藩主松前廣章を此地に移す。文政五年、松前氏、蝦夷に復し、安政三年、再び此地に封ぜられしも、松前氏は日代を置きて之を治す。明治戊辰の役、八月、仙臺藩の兵來り、其日代邸を焚く。〔天神社〕字上町に鎭座。鄕社。祭神、菅原大神・武甕槌命・天兒屋根命等五柱。永觀年中に山際政朝の勸請と傳ふ。領主伊達・須田・松平・安藝氏の崇敬あり。例祭、二月二十五日、六月二十五日。

【梁川村】山梨縣甲斐國北都留郡の東南部。桂川に沿ひ南は關東山地の一支脈を以て南都留郡に界す。上野原町と猿橋町の略中間を占め、桂川は村の北部を東西に貫流す。南境には高さ千米程度の山地ありて北方に傾斜し、北部にも五百米余の山地あり。山地よりは木材・薪炭を出し、また平地には養蠶行はれ麥を產す。桂川左岸に沿ひ甲州街道貫通し、省線中央本線之に並走す。四方津・鳥澤兩驛へいづれも約四粁を隔つ。もと綱の上・新倉・鶴瀬及び立野の舊四箇村に分かれ、名主の支配に屬せしが、のち合併して梁川村を建つ。村名の起原は往時、越後國の某、漁業用の簗を持ち來りて字彥田に鮎漁獲のため位置を撰定し、桂川に簗を掛けしによると。

ヤナガワ　簗川村（やながは）　岩手縣陸中國岩手郡の東南部。盛岡市の東南約六粁。南は紫波郡・上閉伊郡、東は下閉伊郡に隣接す。面積一三四・六六方粁の大村。北上山地の西斜面に屬し、東南境に毛無森(一四二七米)、東境に桐ノ木澤山(一二〇九米)、北境に建石山(六六一米)、西境に大日向山(四八〇米)・鬼ヶ瀬山(七二四米)聳え、村の西北境を除く四境には山地相連亘し、中部には高森(七〇〇米)聳え、全村殆ど山地をなし、簗川は東境に發して村の中北部を西流し、根田茂川は東南境に發して村の中部を西北に流れ、簗川に合す。米・麥・大豆・馬鈴薯を產し、また木炭・馬等の產多し。宮古街道は村の中北部を東西に通じ、西方盛岡市及び東方宮古町へは、各バスの便あり。人口密度一方粁に僅に一六人に過ぎず。本村は其の起原詳かならざるも、夙く南部氏所領に屬し、寛永十二年六月不來方城を修して治むるや、上田通代官所の支配を受けたり。年貢米は約六百石にして、大半は盛岡內丸なる新藏に納め、一部は宮古街道往復の諸御用傳馬繼立驛として御用を勤むるを以て年貢諸役を免除せられたるものなりと。明治に及び簗川村となれり。

ヤナギ　柳　長崎縣北松浦郡にありし村。大正七年、笛吹・前方二村と合し小値賀村を建つ。

ヤナギガウラ　柳ヶ浦

【柳ヶ浦】福岡縣企救郡にありし村。明治四十一年大里村と改め、後大里町となり、大正十二年門司市に編入。

【柳ヶ浦村】大分縣豐前國宇佐郡の北部。驛館川河口の左岸に位し、東は川を隔てて長洲町・宇佐町に相對す。全村地形極めて平坦にして東境に沿ひて驛館川が北流す。米產多くまた麥・繭を產す。大分街道及び省線日豐本線中央を橫斷し、後者の柳ヶ浦驛(明治三十年設置)あり。此地は源平盛衰記に、豐前國柳と云ふ所へ波入らせ云々とある地なりと。

ヤナギサワ　柳澤（やなぎさは）

【柳澤】陸奥國(陸前・宮城縣)の古地名。續紀、光仁天皇の寶龜十一年十二月の征東使の奏言中に、柳澤等の五道を經略すべき旨を述ぶ。その地いま明らかならざるも、加美郡宮崎村の大字柳澤の邊に當るか。

【柳澤峠】山梨縣東山梨郡神金村にある峠。最高點は海拔一四七八米を算し、東嶺と西嶺との中間鞍部に位す。この峠路は南東方に當る大菩薩峠(最高點一八九七米)の嶮を避けて開かれしものにして、甲府方面と東京方面を結ぶ北方の交通路たる青梅街道に當る。

【柳澤村】愛媛縣伊豫國喜多郡の北部。內子町の西北、大洲町の東北に當りて北は伊豫郡に界す。石鎚山脈西部の山岳地をなし、高距數百米の山峯聳立して平地殆んどなし。農產に米・麥及び繭あるも產額多からず。山地は森林よく繁茂し木炭・栗等の產あり。內子町に縣道通じバスの便あり。明治四十二年田處村・柳澤村を廢して置けるもの。村內に來光の瀧(高二〇米、巾五米)あり。

ヤナギシマ　柳島　東京市本所區の橫川以東の地を稱す。もと柳島村の地。今その地に柳島の字を冠する町名多し。里見八犬傳・三ノ三「田畑を過る夏の雨に、追れて簑輪の笠やどり、石濱村に舟まちて、稍うち渡る墨田河、その樹下の涼しさに、暫時とてこそ柳島、ここ下總と人はいへど、なほ遙なる許我の里、今宵の宿りへいそぎけり」同・六ノ三「筆はなけれど、誰が硯せし墨田河、前面に黑き牛島は、宛も水に臥せるが如く、彼方に蒼き柳島は、糸よる濤に靡くに似たり」

ヤナギタ　柳田

【柳田】省線奧羽本線の一驛(大正十五年設置)。秋田縣平鹿郡榮村大字新藤柳田にあり。

【柳田村】石川縣能登國鳳至郡の東北部。南は宇出津町・神野村・鵜川村に、西は三井村・河原田村に、北は鵜巣村・南志見村・町野村に夫々隣接し、東は珠洲郡に境す。西北境に標高五四四米の山あるも外四周何れも二百―三百米の山地にて圍繞せられ、村內またそれ等の支脈縱橫に走りて丘陵性山地を成す。町野川は西部山地に發源して東流し、東部にて南方より來る小流を合せて北流す。その沿岸に帶狀の小低地を開き、こゝに耕地及び部落發達す。地勢上山林多きも沿岸低地よりの米・麥等の農產も相當見るべきものあり。外浦と內浦とを連絡する縣道は宇出津町より來りて西北方に走りバスの便あり。明治四十一年、柳田・上町・岩井戶の舊三村を廢し更に本村を建つ。和名抄、鳳至郡待野鄕の內。〔白山神社〕鄕社。祭神、久久利姫命・大物主命外三神。藩主前田氏の崇敬厚かりき。

【柳田村】長崎縣壹岐國壹岐郡の中部西偏。武生水町の北に接し、東北は那賀村に、東南は志原村に隣り、西は沼津村と渡良村の間に灣入する小灣に臨む。西部は概ね丘陵性山地なるも、東中部は低地にして田畑よく發達し米・麥・甘藷・繭等を產す。縣道が中部を縱貫し武生水町及び北方勝本町へ通ず。この地は和名抄、石田郡物部鄕の內にして、海東諸國記に「也那伊多三百餘戶と」あるも此地なり。〔天手長男神社〕村社。祭神天手力雄命外二神。式內名神大社。壹岐國一ノ宮。例祭、九月十六日。〔天手長比賣神社〕村社。祭神、栲幡千千姫尊外四神。式內名神大社。例祭、九月十三日。

ヤナギバシ　柳橋　東京市內神田川の、隅田川に注入せんとする處に架せる橋。柳原の東部にあるを以て名づくといふ。此橋の附近は江戶時代より遊山船の船宿あり。また料理店も多く、その藝妓は新橋と共に新・柳二橋と謂はる。淫女皮肉論「おやじ橋は人めうるさく、和國橋よりまつすぐに、富澤丁の橋こへて、柳ばしから寶橋」通言總籬「此間柳ばしより大きんばし迄、船中のしやれ、よしはらやうじのふさなりで、あまり長々しければここにもらす」七偏人・初上「往來の表通りは五月蠅とすこし避たる見識も、江湖上は風の柳橋、隙人の子の律義より、老子莊子の新道こそ住居よけれといふ氣にて、萬事茶にした家造りも有德の人の若隱居」

ヤナギハラ　柳原

【柳原村】長野縣信濃國下水內郡の西南部。飯山町の北に接す。東は外様村、北は新潟縣中頸城郡上鄕村、西は同郡豐葦村に境す。村は殆んど山地にして、中央にある富倉峠(六八一米)は關川の支流をなす長澤川と、南の千曲川の支流との分水界をなす。富倉峠は飯山町より北陸の高田市・糸魚川町に至る飯山街道の要所に當り、峠の北に關屋部落あり。昔の關所の名殘なるべし。東部山地は七五〇米の高度を示し黑倉山(九三八米)の延長にして東側は斷層崖をなして飯山盆地の西緣を作る。西境には毛無山(一〇二二米)あり。村は分水界を界にして南北二區に分れ、富倉は北部の中心聚落をなし、長澤川の谷底にあり、南部は四屋を中心とする聚落あり。何れも飯山盆地西緣をなす黑岩山斷層崖下に位置し水田卓越す。耕地面積六六〇町、卽ち田三九九町、畑二六一町、うち桑畑一〇五町。全面積に對する耕地率二一%にして、山麓村たる性質を有す。〔旭神社〕大字旭字下出に鎭座。鄕社。祭神、健御名方命。創立年月不詳。口碑に永正年間の勸請なりと。例祭、八月十八日。

【柳原】→柳原（京都市）

ヤナギハラ　楊原　靜岡縣駿東郡にありし村。大正十二年沼津町・楊原村を廢し、沼津市を置く。

ヤナギマチ　柳町　筑前國博多にありし遊里。現今福岡市博多柳町、石堂川の西岸に在り。のち那珂川の上流、春吉の南方新柳町に移轉す。好色一代男・五「都より飛梅、筑前の柳町を見にまかりぬ、昔しは博多小女郎と申て、冠氣者ありけるし、人の命を取て、袖の湊の大曝ぎよりこのかたは、夜の道をとめられて晝さへ門をさして、獨〳〵くぐりよりの出入、然も武士はとがめ侍る」博多小女郎波枕・上「首尾よからうば、筑前さなへ此船廻し、柳町のしやう〳〵ていども請出いて、上方さなへ突走る」同・上「知邊の方へも身を恥ぢて、問ひ音信は絕えしか

ど、小女郎が情忘れず、戀しき風の吹き立つる、柳町には來たれども、金銀なければ肩すぼり、己と心奥田屋の門をのぞいて退いて見つ、案じ佇み居る風情」

ヤナギモト　柳本町　奈良縣大和國磯城郡の北部。田原本町の東方約四粁、土地東西に稍長く面積四・九方粁餘。東半部は龍王山（五八六米）山地の西斜面にて山地なれども西半部は奈良盆地の一部を占め地形低平なり。産物には米・麥・繭等を産す。西部を上街道及び省線櫻井線南北に走り後者の柳本驛（明治三十一年設置）あり。この地は戦國の頃、柳本氏の居りし處にして、のち織田氏の陣屋あり。〔柳本城〕織田信長の弟、有樂齋長益、關ヶ原の役に功あり、德川家康より大和國に於て三萬石を受け、元和元年五男大和守尙長をして一萬石を領し、此地に居らしむ。爾來子孫相繼ぎて、明治維新に至る。〔崇神天皇山邊道勾岡上御陵〕大字柳本にあり。ニサンザイ山と稱し奉り、山に倚り西北面して築かれし前方後圓墳にして前後徑約二四二米、松樹鬱蒼として生茂し、周濠存す。〔景行天皇山邊道上御陵〕崇神天皇御陵の南約半粁、大字瀧谷にあり。王墓、または向山と云ひ、山に倚り西面せる前方後圓墳にして三段に築成せられ、前後徑約二九八米、陵上雜樹蒼鬱として茂り周濠は御陵が山の傾斜面に存するが故に點々臨續して、小池相連なりて陵周を繞る。御陵の西南約一粁、織田村答申には僕遠々日宮殿郷命大市御墓あり、箸の墓と稱し鐵道線路の西側に横はり、長軸約三〇〇米を有する前方後圓墳なり。命は孝靈天皇の皇女なりと云ふ。〔伊射那岐神社〕村社。祭神、伊邪那岐命。式内社。例祭、九月十日。〔長岳寺〕古義眞言宗。俗稱釜口寺。往昔は堂宇僧坊甍を連ねしも寛文以來荒廢す。寺域宏闊風致に富む。樓門・五智堂その他は國寶。

ヤナギワラ　柳原（やなぎはら）　【柳原】東京市神田區の町名。もと神田川の南岸の土手を柳堤と稱せり。古着屋軒を連ね今も何舊態を存す。西鶴置土産・四「其戀種のゆかりたづねて存たり、其君こひしくば柳原のそのそこにとしま屋とかたる、其後餘所ながら見に行けるに今は所帶持とてむかしは手にふれざるに鹽買て錢わたすなどおかしかり」呼子鳥「われ〳〵の申まする事、いたしまする事、申そこなへがち、いたしそこないがち、そこどころはせんこ」柳原の古着物はのりづけじやとおぼしめされ、御やうしやあつてお聞下されませうず」

【柳原村】長野縣信濃國上水内郡の東部。信濃川の左岸に沿ひ、長野市と上高井郡須坂町の中間にありて、夫々約六粁を隔つ。北は古里村、西南は朝陽村、東は信濃川を距てゝ上高井郡日野村に對す。村は善光寺平の中央部にありて信濃川の氾濫原に位置するため古來屢々水災の憂あり。然れども水田卓越し、赤砂礫の河岸に沿ひて桑畑あり。村内には須坂と長野を連絡する長野電鐵通ず。耕地面積二七五町、卸ち田一六九町、畑一〇六町、うち桑畑九七町。耕地率七五%にして開拓よく行はれ盆地中央の特色を示す。この地は和名抄、水内郡尾張郷の内。

【柳原】京都市下京區の七條通の南北の賀茂川の西岸の地名。もと紀伊郡柳原町なりしが大正六年京都市に入る。〔柳原御所〕この地の御所内にその址あり。應安四年目野忠光この地に住し柳原家の祖となり、のち後光嚴上皇仙洞とせられて柳原御所、又は柳原殿と稱す。大永元年足利義晴此處に新亭を築き柳原御所といふ。享祿元年義晴失走後荒廢す。

ヤナセ　柳瀬　【柳瀬村】埼玉縣武藏國入間郡の東南部。所澤町の東方にして、これと松井村を挾み、東は北足立郡大和田町と、南は東京府北多摩郡と隣りす。武藏野臺地の一部なる占め、南境を柳瀬川東北に流る。全村畑地多く、農業・養蠶行はれて甘藷・麥・繭・米の産多し。縣道に所澤町・大和田町及び大和田町の北隣志木町に通じ、何れもバスの便あり。所澤町の社線西武・武藏野兩鐵道の所澤驛、志木町の社線東武鐵道東上線志木驛に近し。

【柳瀬村】富山縣越中國東礪波郡の東北部。庄川の左岸。出町の東北方約四粁にして太田村の北に接す。面積三・五二方粁の小村。全村平地にして灌漑の便よく肥沃なる田野なるを以て米を主産し麻織物の産出あり。東西・南北に通ずる縣道交錯し交通便利なり。省線中越線油田驛へ約二粁なり。

ヤナセ　梁瀬町　兵庫縣但馬國朝來郡の東北部。和田山町の東に接し、東北より西南に稍々長く、東北部は京都府天田郡に昇す。四周丘陵地にして東境・北境に高く中部・西南部には低地ありて南隣及び東南隣より來る河川はこゝにて合して西北流し、和田山町にて圓山川に合す。産物に米・繭・麥類・蔬菜・花卉・食用農産物・果實及び蠶絲・鞣油・木製品・瓦・製絲・雑物・藁製品・鶏卵等あり。西部平地に位する矢名瀬集落は山陰道に當り、また竹田・佐治間の縣道通じ、省線山陰本線の梁瀬驛（明治四十四年設置）あり て町の中心をなす。この地は和名抄、朝來郡穴部郷とある地。大正十五年町制を布く。幕末の勤王家、吉井定七（贈從五位）・小山六郎（贈從五位）は共にこの地の人なり。

ヤナタ　梁田　出羽國（羽前國・山形縣）の古地名。和名抄に村山郡梁田郷あり。その地明らかならざれども、いま最上郡の域内に入れる、新庄町の邊に當るならんか。

ヤナダ　梁田村　栃木縣下野國足利郡の南部。足利市の東南約三粁にして、西は御厨町に隣り渡良瀬川の南岸にあり。面積四・七平方粁の小村なり。北境を渡良瀬川東南に流れ全村土地平坦にして水田多く、川の附近は畑地をなす。農業行はれて米を主産し、繭・麥の産もあり。

また足利市に近く、機業盛んにして、絹織物を産す。縣道は足利市・御厨町及び東方安蘇郡佐野町、東南方邑樂郡館林町等に通じ、足利市及び館林町へはバスの便あり。省線兩毛線足利驛、御厨町内の社線東武鐵道伊勢崎線福居驛に近し。この地は中世の御厨領内にして、梁田氏の居りし所、なほ此地は日光例幣使街道に當る。〔御厨神社〕大字福富神明に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神（内宮）・豐受皇大神（外宮）。後冷泉天皇康平五年の創建と云ふ。一に下野國二ノ宮と稱し伊勢神宮の御厨にして絹布・綿等を獻れりといふ。例祭、三月十五日・九月十五日。特殊神事に筒粥神事（陰暦一月十四日）等あり。

ヤナダニ　柳谷村　愛媛縣伊豫國上浮穴郡の東南部。北は弘形・中津二村に、西は參川・浮穴二村に界し、東及び南は高知縣に隣接す。面積一一一方粁餘の大村。嶮嶽聳立する四國山脈中の地をしめ、西北部には大川・笠取の二山屹立す。中央溪谷を北東に黒川ながれ、北境中央を東へ流れる面河川に注ぐ。平地少く耕地は谷地に拓き畑作を營む。稗・粟・玉蜀黍等を産しまた米・麥も作る。主産物は林産にして木材・木炭・三椏等を出し、椎茸の特産もあり。北東部に土佐街道通過し西北方松山と東南方高知市とを繋ぐ。村名は柳井川と西谷の舊二村合して本村を建つるの際、その各の一字宛を取りて名付く。〔八釜の甌穴群〕面河川の支流黒川の河床をなせる堅硬なるプリント質角岩の上に、大小三十餘箇の甌穴あり。甌穴群は凡そ四群に分つべく、第一群は川の左岸に沿うて八箇一列をなし、深き溝によりて相連續し、各穴間に小瀑を懸く、甌穴はその瀑壺にして、八釜の名はそれに起因す。第二群は河床の中央にありて五箇相連り、第三群はその右にありて七箇連り、第四群は最も右岸に近く三箇連る。その他孤立せる數箇の甌穴あり、甌穴の最大なるものは、横徑九乃至一二米、深さ約一二米なり。かく多數の甌穴相密接し群をなせるは極めて稀に見る所なり。

ヤナバ　築場　省線大糸南線の一驛（昭和四年設置）。長野縣北安曇郡平村にあり。

ヤナハラ　柵原（しがはら）　↓南和氣村（岡山縣勝田郡）

ヤナモリ　柳森　愛知縣愛知郡にあり し村。明治三十九年、本村外二村を廢し常磐村を置く。常磐村は大正十年名古屋市に編入さる。

ヤヌチ　家内谷（やぬち）　↓家内谷

ヤヌチ　屋裏　出雲國（島根縣）の古地名。和名抄に大原郡屋裏郷あり。もと矢内といひしを、神龜三年屋裏に改むといふ。その地ほぼいま大原郡加茂町の内に當り、昭和九年以前の舊屋裏村は郷名を襲ひしもの。

ヤノ　八野　【八野】播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に赤穗郡八野郷見ゆ。中世には矢野莊といふ（後字多院御領目録）。その地は今の矢野村なるべし。

【八野】出雲國（島根縣）の古地名。和名抄に神門郡八野郷あり。いま簸川郡四疆村の邊なるべし。同村の大字矢野は郷名の轉ぜしものならん。

ヤノ　矢野　【矢野村】兵庫縣播磨國赤穗郡の東北部。相生町の北方約四粁、揖保郡龍野町の西方約八粁にあり。北境には三濃山（五〇九米）が聳え、これより西南方へ山地連りて西境を限り、三濃山より東方へ連る山地は北境を劃す。これ等の山地は南方へ緩かに傾斜す。東境には西南方へ連る丘陵あり、東境に發する千種川の一支流は中央を西南流して南隣の若狭野村に入り、その西を南下する小川と相合して西流す。この二川の岸に稍々低地開く。産物には米・麥・煙草・蔬菜・花卉・繭・果實・食用農産物及び竹製品等あり。南部には東西に横臨する縣道ありてバスを通ず。この地は和名抄、赤穗郡八野郷の地にして、後世は矢野庄と稱せし地なり。東鑑文治元年の條に、歓喜院領、播磨國矢野別府とあるは此地なり。〔磐座神社〕大字森井に鎮座。郷社。祭神、磐座神・倉稻魂命・泰河勝。もと森の神社また權現と稱せり。例祭日、十月二十日。

【矢野村】廣島縣備後國甲奴郡の西南隅。上下町の西南に隣接し、西及び西南は世羅郡に、南は鹿品郡に昇す。東は清盛村なり。面積二〇・一九平方粁。地形南北に細長く、北境に孔法山（五八五米）、西に女鹿山（六三四米）聳え、村内疵して山地に占めらるるも、東北部は上下川の流域に屬し平地展けたり。流域及び山間の低地に耕地存す。中部山地に矢野温泉の湧出あり。米・麥・繭・酒類・木炭・工産物・家畜等の産あり。縣道通じて福山市・尾道市・庄原町へ自動車の便あり。此地は甲奴村と共に和名抄、甲奴郡矢野郷の地なるべし。

【矢野町】廣島縣安藝國安藝郡の西北部。海田市町の南に連り、西北は廣島灣に面す。東南は昭和村に、西南は坂村に隣接す。面積一一・三五平方粁。東境に金ケ燈籠山・矢野峠連り、西南部また山地なれど、地勢西北方に傾き、灣岸に小平地あり。北部山麓より沿岸にかけて耕地拓く。海岸に極めて短く、漁業稍々行はる。町は「かもじ」を特産物とし、全國需要の七割を滿たす。また農牧業盛んなり。省線吳線海岸に通じ矢野驛（明治三十六年設置）を置く。また國道中央山中を縫走し、海田市町・吳市へ自動車の便あり。この地は坂村・横濱村・大屋村・燒山村と共に和名抄、安藝郡養濃郷とあるは誤）の地にして、大正六年町制施行。町内に城址あり、建武二年、熊谷四郎三郎據りて官軍に屬し、屢々足利方の吉川經盛と戰へり、文安二年に野間重能、尾張より來り、曾孫隆則に至り、天文年中、毛利氏に滅ぼさるといふ。江戸中期の神道學者、香川景樹（贈正五位）はこの地の

人なり。〔尾崎神社〕大字矢野に鎭座。郷社。祭神、息長帶毘賣命外二柱。創建年代は詳かならざるも觀應二年に大宮司照政當時御宸筆の額奉納の記あれば、その以前の勧請ならん。例祭、陰暦八月十五日。

【矢野】伊豫國（愛媛縣）の古地名。和名抄に喜多郡矢野郷見ゆ。古今著聞集には伊豫國矢野保と見ゆ。近世は宇和郡に係け、元祿檢田帳には宇和郡保内郷ともいふ。其の地いま八幡濱市の邊に當り、大字名に矢野町あり、郷名を傳ふるものなるべし。

ヤノー 矢納村 埼玉縣武藏國秩父郡の北部。神流川の南岸にて、北は群馬縣多野郡と相對す。關東山脈一支脈の東部を占め、南境に城峯山（一〇三八米）あり、北方に傾斜して、北境を東流する神流川の谷に迫る。山地一帶森林多く、また名高き三波川石を産す。北部には小聚落ありて養蠶等をなすも産業振はず。山間に一條の村道あるのみにして交通頗る不便なり。〔城峯神社〕大字東神山に鎭座。郷社。祭神、大山祇命。創建年代詳ならず。正保二年再建す。本殿・幣殿・拜殿、社務所等を具ふ。例祭、四月十七日。

ヤノクチ 矢野口 →稻城村（東京府南多摩郡）

ヤノサキ 矢野崎 愛媛縣西宇和郡にありし村。昭和五年八幡濱町に入り、八幡濱町は昭和十年市制を布く。

ヤバガワ 矢場川村 群馬縣上野國山田郡の南部。足利市の西南約三粁にて、東は栃木縣足利郡御厨町等に、南は邑樂郡に隣る。面積六・七九平方粁の小村なり。全村平地にて東境に渡良瀬川の舊河道矢場川あり。村內大部分水田にて米を主産し、麥の産もあり。縣道は足利市・御厨町及び西方新田郡太田町に通ず。社線東武鐵道伊勢崎線は北部を西走するも村內に驛なく、西隣韮川村內の韮川驛及び東隣足利郡山邊村內の野州山邊驛に近し。明治二十六年、韮川村の內大字矢場外三大字を分離して本村を置く。

ヤハギ 矢作 【矢作村】岩手縣陸前國氣仙郡の西南部。高田町の西方約五粁にあり。西は東磐井郡、南は宮城縣に隣接す。面積一〇八・一五方粁の大村。北上山地の東南部に位し、西境には原臺山（八九五米）・黑森山（六〇二米）聳えて東方に傾斜し、南境に八森平山（五六九米）、東部に陣ヶ森（五八四米）・秋ノ倉山（四二六米）、北境に生出山（七七一米）聳えて四圍に山地迫り、氣仙川の一支は村の西北境に發源して中部を東南に流れ、氣仙川に合す。氣仙川は東南境を南流し、沿岸に耕地拓く。村の生業は農を主とし、麥・大豆・繭を産し、また薪炭・木材・鑛石等の産あり。當村には金銀等の金屬鑛區は數多あれどいづれも振はず。そのうち雪澤鑛山（金銀山）は昭和九年金鑛三二九噸、生出鑛山（鑛種は金銀銅にて鑛區は矢作村と竹駒村とに跨る）は金鑛二〇噸を産出す。天嶺鑛山（鑛種は金銀銅鉛亞鉛硫化鐵にて鑛區は横田村にも跨る）は昭和十年より事業を開始す。今泉街道は村の南部を東西に通じ、東方の高田町と西方の大原町へは各バスの便あり。また省線大船渡線通じて陸前矢作驛（昭和八年設置）を置く。封內記に、村內の鶴崎城は正和年中、葛西家の臣、千葉廣胤居所、天正年中、子孫千葉玄蕃、子因幡居りきと。

【矢作】新潟縣西蒲原郡彌彦村の大字。省線彌彦線矢作驛（大正五年設置）あり。

【矢作町】愛知縣三河國碧海郡の東端。北は上郷村、東は矢作川を隔てて額田郡岩津町・岡崎市に對し、南は六ツ美村・櫻井村、西は安城町に隣る。東は矢作川を以て限り、矢作川の沖積地より成る。町內の平野部は殆ど水田と化し、一部分に養蠶行はる。聚落は舊東海道に沿ひし渡津聚落なりしも、矢作大橋の架設以來頗る寂寥たる街村となれり。今日も東海道は岡崎より此地を經て知立宿に至り、松並木のみ往時の繁昌を物語る。東海道と並行していま社線名古屋鐵道東部本線通じ、矢作橋・宇頭の二驛（共に大正六年設置）を置き、南部には省線東海道本線東西に通じその安城驛に近し。本町は和名抄、碧海郡驛家郷の地にして、古の鳥捕驛または矢矧宿に當る。鳥捕は延喜式にヲジトリと讀ませ、鷲取とも書す。此地は矢作村と本郷村との合併し町制を布けるものにして、古の矢作驛に本郷の字渡の邊と思はれ、其の對岸明大寺は矢作の東宿と呼ばれたり。矢作大橋は海道中名高き橋にして長さ二百八間、勾欄に擬寶珠を飾り、五十三次第一の長橋と云はれたり。牛若丸奥州下向の際、矢作の宿の長者の娘淨瑠璃御前に戀想せられたる哀話を殘し、之を小野阿通、十二段の院本に作りしを淨瑠璃の基因とすと。豐臣秀吉がこの橋の上に臥し、蜂須賀小六に出合ひし由緒の橋にして、今の橋は明治十年の架設なり。大字佐々木には佐崎城址あり、松平三左衞門親久が始めて之を築き、孫三藏信次に至り事を構へて敗れ、永祿六年本城は陷落し廢城となる。大字桑子には桑子城址ありて、往昔、阿部因幡正ここに城を作り、のち安藤念清房、子帶刀以來世々在城し、彥四郎直次に至り德川家康に仕へ紀州侯に從ひその地に赴き廢墟となる。大字西本郷の本郷城址は植村新六榮康が遠州より此地に轉じて築城し松平長親に仕へ氏義・榮安と傳へて廢城となる。大字渡の渡村城址は新田義貞の將鳥居中務忠景が紀州熊野より來り、渡里傳內と改名して築城し、子孫累代居城し天文年中に松平氏に仕へ、その子忠宗・元忠・忠政と傳へ、元忠は慶長五年に伏見城に戰死し、忠政は奥州岩城を領してかの地に移りてより廢城となる。〔酒人神社〕坂戸に鎭座。郷社。祭神、倉稻魂尊・酒人親王。式內社。例祭十月三日。〔長瀬八幡宮〕大字森越に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・息長足姬命。創

立年代不詳。源親忠造營し德川家康赤崇敬す。江戸時代朱印領三十石を有せり。例祭、八月十五日。〔矢作神社〕字矢作に鎭座。郷社。祭神、素盞嗚尊・豐受大神。本殿・拜殿・社務所等を具ふ。例祭、八月十七日。〔北野廢寺址〕指定史蹟。大字北野字郷裏、村社天滿宮の東一〇〇米の畑中にあり。寺址は頗る廣く、所々に土壇及び礎石遺存し、塔・金堂・講堂等の舊規を徵すべきものなり、なほ奈良時代の特徵ある古瓦及び大和國以外にては發見さるること稀なる塼佛等發見され、國分寺にあらざる重要寺址として史蹟に指定さる。〔上宮寺〕上佐々木にあり。眞宗大谷派。太子山聖德皇院と號す。推古天皇二十九年の草創にて聖德太子の御願に成ると傳ふ。三河三院家の隨一にて蓮行の遺跡なり。初は天台宗、後に現宗に改む。永祿六年九月、德川家康軍寨を當地に築き糧食を當寺に徵せし時三河一揆の起りし事あり。本尊阿彌陀如來（傳聖德太子作）。〔勝鬘寺〕大字矢作にあり。眞宗大谷派。柳堂と號す。初め柳堂藥師寺と稱せしが、嘉禎元年、親鸞、關東より歸洛の途次寺內に留りて道俗を敎化す。蓋し當國最初の化導なりといふ。のち改めて眞宗の道場となる。境內に説法石あり。親鸞、この上にて説法せりと傳ふ。〔妙源寺〕眞宗高田派。正嘉二年親鸞の弟子蓮慶の創建、初め明眼寺と號す。江戸時代、武人厚く崇信す。國寶に太子堂（柳堂）・善光寺如來繪傳・法念上人繪傳・親鸞上人繪傳あり。

【矢作川】愛知縣三河國の西北部を東北より西南に貫流する川。源を長野縣下伊那郡に發し、北設樂郡の稻橋村にて武節川と合し、美濃界を西流しつつ段戸川を併せ、西加茂郡小原村にて南轉し、東西加茂の郡界を下り、西加茂郡に入り、曲流して足助川（巴川）と合し、碧海・額田の郡界を南下し、また大平川（乙川）と合し碧海郡に入り、更に幡豆の郡界に出で、矢作古川を分流して、本川は碧海郡旭村にて西南流し、幡豆郡平坂村にて知多灣に注ぐ。流程約一二二粁。舉母町附近より下流は三河平野に屬し、碧海臺地は西加茂郡猿投村大字越戸に於て矢作より分水せる明治用水によりて水田化せられ、安城村を中心とする碧海郡は多角農業地域として知らる。

ヤハギ 矢矧 福岡縣遠賀郡にありし村。明治四十年、岡崎村と共に廢せられ、新に岡垣村を置く。

ヤバケー 耶馬溪 【耶馬溪】大分縣豐前國の山國川の上流・中流に展開する勝地。地形的に觀察すれば標式的メサ及びビュートに富み、一種の熔岩臺地にて、その高さは平均四〇〇米を示し、大體に於て表面は平坦面を作る。これに侵蝕作用が働きて深き峽谷が穿たれ、その兩岸には熔岩層が絕壁をなして聳立す。耶馬溪の名稱は賴山陽によりて與へられたる雅號なり、その區域は山國川の流域約五〇方粁に亙り、これは更に舊耶馬溪・深耶馬溪裏・耶馬溪の三つに分たる。この中にて舊耶馬溪は山國川の中流の部分にして、大體に於て、青の洞門及び羅漢寺附近より始まり、耶馬溪鐵道柿坂驛附近に至る鐵道沿線一帶の峽谷をいひ、從來一般に單に耶馬溪と稱せられし部分なり。峽谷と平地の境に鮎歸灘あり。これより愈々耶馬溪に入り、約四粁にして青の洞門に達す。これは小學校の教科書にも出で廣く世に知られし如く、僧禪海が衆生濟度の目的を以て寛永三年より工事を始め三十餘年の歲月を費して穿ちし隧道なり。これを出ずれば更に右側に競秀峯あり、山容の奇なるを以て知らる。その東南に羅漢寺あり。寺は孝德天皇の大化年中法道仙人の草創といはれ、延文五年僧健順來住し五百羅漢及び諸佛を刻みて安置す。羅漢寺の名ここに起る。寺寶に數十種の國寶を有す。その本堂は岩窟を背にして立ち古色蒼然たるものあり。ここより附近の絕景を一眸の中に收むることを得。羅漢寺を下りて前方の小道を過ぎ、更に丘を越ゆれば古羅漢にてその最高所を飛來峯といふ。山腹の岩窟中には多くの石像を安置し廻廊築かる。青村より本流に沿ひて上れば景色は益々その奇を加ふ。柿坂の西には擲筆峯あり、嘗て賴山陽がその絕景に筆を擲ちし所と傳へらる。またその近くに臥龍峯あり。柿坂の南方にて分るる支流山移川の峽谷に沿ひて玖珠郡森町に至る間が深耶馬溪にて、この背面に相當する金吉川の谷が裏耶馬溪なり。またこの二つを合して特に新耶馬溪とも稱す。深耶馬溪は森町に至る約一六粁の間にて、一目八景・麗谷・布目の瀧等の奇勝あり、奇岩怪石、或は飛泉をかけ、或は奔馬の狀をなして人の目を奪ひ、その景の雄大なること遙かに舊耶馬溪に勝るともいはる。また裏耶馬溪には伊福峽・飛猿谿・立羽田・手袋岩・天狗岩・鶴ヶ原・阪の上・鳥屋台等の奇勝あり。觀光は省線日豐本線中津驛より分岐する社線耶馬溪鐵道によるを便とす。

【耶馬溪鐵道】私設鐵道。大分縣下毛郡にあり。省線日豐本線中津驛に起り、眞坂・洞門・深耶馬等の數驛を經て守實驛に至る。全長三六・一粁。省線と連帶運輸をなし動力は蒸氣・ガソリン、軌間は一・〇六七米。耶馬溪探勝客に利用せらる。

【耶馬溪村】大分縣豐前國下毛郡の中部。中津市の西南方約一〇粁に位して山國川に跨り、北は福岡縣築上郡に界す。北境には大平山（五九七米）・瓦岳（六二五米）・雁股山（八〇七米）等の諸峯が東西に連りて南方へ傾斜し、西境の山麓に烏帽子山（五三二米）を起す。東南部一帶にも山地起伏して東境南部に大獄（木ノ子嶽、六三〇米）あり。山國川は中央を東北に流れ山峽深潭をなし兩岸は熔岩層より成る絕壁屹立す。ここに有名なる耶馬の景勝成り溪間低き處の諸所に小平地を見る。農産・林産あり。縣道及び社線耶馬溪鐵道は河岸を走りて耶馬溪平田驛・冠石野

驛（共に大正三年設置）あり。縣道上にはバスの便あり。明治十七年、もと柿坂外七箇村を合併して柳井村となし、大正十四年、柳井村を更に耶馬溪村と改稱す。〔八幡社〕大字平田に鎭座。鄕社。祭神、應神天皇・神功皇后外三柱。社傳に建久六年成恒近江守顯俊の勸請なりと。例祭十月十一日。

ヤハシ 八橋 →八橋町（鳥取縣）

ヤハシラ 八柱 千葉縣東葛飾郡にありし村。昭和十三年松戸町に編入。

ヤハズ 矢筈

【矢筈山】淺間火山群に屬する一峯。主峯なる淺間山（二五四二米）の北東方約一三粁、群馬縣吾妻郡坂上村・長野原町と碓氷郡烏渕村との境に跨る。南方の鼻曲山（一六五四米）・角落山（一三九六米）と共に、その間に一大火口を擁する古き角落火山の外輪山なりといはる。東方より望めば秀麗なる富士型を呈し、中央少しく窪みて矢筈狀をなす。又東方山麓よりはこの山のため淺間山を望み得ざるを以て淺間隱山の別名あり。

【矢筈山】富士火山帶天城山塊の一峯。天城山の北東方の火山にして、靜岡縣田方郡對馬村に屬す。伊東温泉は北東方約九粁に當る。山峰双頭に分れ、遠方より望めば宛も矢筈の如し。この山へは伊東よりバスによりて八幡野に至り、それより大室山を經て登る。尙この山より南西方に續く遠笠山・万二郎・万三郎等の諸山へも縱走可能なれども、山道は稍困難なり。※天城山

【矢筈山】紀伊山脈の一峯。日高川中流の左岸、和歌山縣日高郡川上・川中の二村の境上に峙つ。標高八一一米、山體中生層より成る。山姿壯大にして東方の淸冷山（八七八米）と相對す。北方に小谷峠（最高點、四二二米）續く。

【矢筈山】白山火山帶大山山彙の一峯。大山（一七一三米）の北東方四粁餘、鳥取縣東伯郡古布庄・上中山の二村の境上に峙り、標高一三五九米。大山國立公園に屬す。※大山・大山國立公園

【矢筈山】防府市の北嶺にして、山口縣佐波郡小野・右田の二村にも亙る。標高四六〇米。西麓を佐波川南西流し、その堤防には數百米に亙りて櫻樹あり花期は美し。川を隔てて西方には右田嶽と相對し、また南東方には大平山（六三一米）連る。

【矢筈山】劍山山脈の一峯。主峯劍山の北西方約一二粁、德島縣美馬郡東祖谷山村と一宇村との境界に跨る。標高一八四九米、山骨露出す。この山より南東方は祖谷川上源地の彼方に劍山山塊を見渡し展望佳なり。

【矢筈山】讃岐山脈の一峯。高松市の東南方約二一粁、香川縣大川郡長尾町と多和村との境上に峙つ。標高七八八米。北東方は檀特山（六三一米）に續く。南東麓に四國八十八番の札所大窪寺あり。※多和村

【矢筈山】八方ヶ嶽（熊本縣）の別名。

【矢筈嶽】肥薩山塊の一峯。南面は鹿兒島縣出水郡出水町と米津町に、北面は熊本縣葦北郡水俣町に屬する山にして、西麓は直に八代灣（不知火海）に洗はる。標高六八七米。山頂二峯に分れ、雌嶽・雄嶽と稱せらる。この山一に矢越山と呼ばれ、檜垣集に「君が射し昨日の的のあたらぬは矢越の山のあればなりけり」とあるはこの山なる如し。

ヤバセ 八橋

【八橋鑛山】秋田油田中の一石油山。鑛區は秋田市と南秋田郡寺内町とに跨りて約五九萬坪。鑛區内は殆んど第四紀層により覆はるるも、そは二〇—五〇米にして第三紀層に入る油層及び瓦斯層は深度僅に二〇〇米前後の間にして、灰色頁岩中に存す。日本石油會社の稼行に係り、昭和十年には原油四三、三五三竏、瓦斯二、八三二、一〇〇立方米（この總價額一四三萬餘圓）を産出す。但し精製は秋田製油所にて行ふ。同年六月末の鑛夫數は八五人とす。當鑛山は長く試掘せられたれど成功せざりしが、昭和十年隣接せる雄物川鑛山上總式油井の成功により鑿井を試みたるに多量の出油を見るに至り、同年重要鑛山に列す。

【八橋（郡）】伯耆國（鳥取縣）の古郡名。一にヤパシともいふ。續日本後紀承和八年の條に郡名初めて見ゆ。和名抄は夜波志と記し方見・由良・荒木・古布・八橋・篦津の六鄕を管す。明治二十九年四月河村・久米二郡と合して東伯郡を建て郡名を失ふ。

【八橋町】鳥取縣伯耆國東伯郡の北部。西は赤碕町に、東は市勢・上郷二村に界し、北は日本海に臨む。面積一七・一二方粁。大山火山の北方に竝びて屹立する矢筈・勝田等の諸岳の山脚北に延びて海に臨む地を占め、北部の山麓には沖積平地展く。山地は開析進み、放射谷はよく發達す。山麓の平地には桑園よく拓けて養蠶業行はれ、山地は好牧場をなして牛馬の飼育盛なり。また海上漁業盛に行はれ鰮・鯖の漁獲多し。市街は西北部海岸に開け街村形をなす。海岸に並行して國道山陰街道東西に貫きこの市街を通過す。又ここより東南方に縣道出づ。省線山陰本線は國道の南側を東西に貫通し東北部に東八橋驛（明治三十六年設置）、西北部に八橋驛（昭和三年設置）を設く。此地古くは和名抄、八橋郡の郡家所在地たりし八橋鄕（也八之と訓ず）の地なるべし。本町海岸は八橋濱海水浴場として知らる。明治三十二年町制を布く。城址あり、天正年中、毛利家の侍大將杉原播磨守盛重の守れる所なりといふ。

ヤバセ 矢橋 →老上（滋賀縣栗太郡）

ヤハタ 八幡村 →八幡村

ヤバタイコク 耶馬臺國 古代倭人國の一。今の福岡縣山門郡地方に當る。支那に於て漢の時に倭人百餘國の稱あり、魏志によるに、魏の時使譯して通ずる者三十國。中にも耶馬臺國の女王卑彌呼最も勢力を有し、其の南なる狗奴國以外の二十八國は皆女王に統屬す。狗奴國の官に狗古智卑狗あり、蓋し菊池彥の義にして、狗奴國は今の熊本縣北部地方に在りしものなるべし。卑彌呼死して男王を立てしも國中服せず、相誅殺す、よりて卑彌呼の宗女臺與を立てて王となして、國遂に定まるとあり。魏の景初二年卑彌呼使を遣はして方物を獻じ、親魏倭王に封ぜらる。其の後屢々往來あり。二十八年を經て晉の泰初二年、倭の女王使を遣はして重譯貢獻する事、日本紀引晉起居註に見ゆ。蓋し壹與女王もしくは其の次代の女王の事なるべし。倭人の支那に對する交通之を以て最後となし、是より後約百五十年間、支那の史籍復我が國に關する記事を見ず。蓋し我が國家の威力十分倭人の上に及びし結果なるべし。舊唐書に、日本倭の地を併すとあるもの之を示す。倭人は蓋し我が國史に所謂熊襲に相當す。仲哀天皇の御代に筑前筑後地方の熊襲叛いて朝貢せず。天皇卽ち神功皇后と共に之を親征し給ひ、軍中に崩じ給ふ。ここに於て皇后其の遺業を繼承し給ひ、最後に山門縣の土蜘蛛田油津媛を誅し給ふ。蓋し耶馬臺國の女酋にして、女王卑彌呼及び壹與の後を襲ひしものなるべし。然るに日本紀の著者魏志に見ゆる卑彌呼を以て我が神功皇后の御事なりと誤認し、爲に年代を按排するに干支二運百二十年の錯誤を生ず。田油津媛の誅は恐らく卑彌呼の死後數十年を經たるものなりしならん。一說に耶馬臺國を以て我が大和國の事なりとなす。日本紀が神功皇后の年代を以て卑彌呼の時代に當てたるもの蓋し其の濫觴と謂ふべし、魏志に、奴國卽ち我が古への儺縣なる今の博多地方より、東行して不彌國卽ち今の糟屋郡宇美に到り、それより水行二十日投馬國に、更に水行十日陸行一月にして耶馬臺國に至るとあることによりて、九州北岸より海路二十日にして投馬卽ち但馬に到り、更に十日にして敦賀、一月にして大和に到ると解せんとするもの亦其の理由なきにあらず。然れども、魏志には不彌國より耶馬臺國に到る方角をすべて南行となす。九州北岸より南行して、水行二十日更に十日といふが如き地あるべからず。蓋し應神天皇の御代に再び東晉と交通を開き給ふに及び、支那人は之を倭國の延長と誤認して、古への耶馬臺國を以て大和に當て、我が國亦之に倣つて、一時倭國の稱を用ひたるものにして、本來倭國と大和とは全然其の地域を異にす。而も魏の頃には既に我が國家の勢力は倭人國の上に及びし事なれば三國末晉初の人魏志の著者の如きも、夙に我が大和朝廷の存在を知りて、其の九州北岸より大和に到る地理上の知識を以て帶方郡使の倭人國に使せし當時の史料を按排せしかば、其の耶馬臺國に到る方位に於ては魏の史料に基づき、日程に於ては著者當時の大和に達する日數を以て之に當てたるものと解すべし。倭人の俗頗る我が日本民族と相容れざるもの多く、殊に耶馬臺國の女王卑彌呼の立つて王となれるは、後漢の桓帝靈帝間に於ける倭國大亂の後を承けたるものとして、其の後晉初に於ける倭の女王の交通まで、少くも、百餘年の間、代々女王を以て繼承せしが如きは到底我が大和朝廷に於て求むべきにあらざるなり。（吉田）

ヤハバ 矢幅 省線東北本線の一驛（明治三十一年設置）。岩手縣紫波郡煙山村又兵衛新田にあり。

ヤハラ 八原村 茨城縣常陸國稻敷郡の西南部。龍ヶ崎町の北隣にあり。大部分は低き臺地にて畑地をなし、所々林を交へ、南部は利根川流域低濕地の一部にして水田をなす。農業行はれて米・麥・大豆・小豆を產し、副業として養蠶行はる。特產物としては栗の產出多し。縣道は村の中央を西南に走りて龍ヶ崎町に通じ、また北は新治郡土浦町方面に通ず。龍ヶ崎町へは自動車の便あり。この地は和名抄、信太郡稻敷鄕の內なるべく、大字八代には屋代氏が天正年中まで居りしといふ古墟あり。大字泉には往時、東條英重が東條城より移りて居りしといふ城址あり。のち土岐氏の族、東條重定これに居り、小田氏治と信太郡の小坂村に戰ひてこれに死す、子乙丸出でて走り城廢す。もと八代・羽原の二部落に分れしが明治二十二年町村制實施の際に合併して八原村と名づく。〔富士神社〕大字八代に鎭座。鄕社。祭神、木花開耶姬命。正治二年駿河國富士郡の淺間神社を勸請する所なりといふ。領主土岐・內藤・久世氏の崇敬する所となる。例祭、七月二十一日。

ヤハラ 埜原 千葉縣印旛郡にありし村。大正二年本郷村と共に廢し本埜村を置く。

ヤバラアサダ 矢原朝田 山口縣吉敷郡にありし村。明治三十一年大歲村と改稱す。

ヤヒコ 彌彥

【彌彥村】新潟縣越後國西蒲原郡の西南部。彌彥山（五八六米）の東麓を占め、東は信濃川分流の西川を境として吉田町に接し、西は彌彥山を越ゆれば日本海の間瀨海岸なり。西部の彌彥山斜面の山地を除けば越後平野の一部にて、土地低平、灌漑の便よく沃田開く。農業を主とし米の產多し。聚落は概ね西部山麓に沿ひて發達し國道北陸道これらを結びて南北に走る。吉田町よりは縣道と省線彌彥線來り、後者は矢作・彌彥の二驛（共に大正五年設置）を置く。新潟・三條・寺泊へはいづれもバスの便あり。地は舊北陸道の一驛にて國幣中社彌彥神社鎭座するを以て知らる。三代實錄、貞觀三年の條に彌彥神とあり、大同類聚方の眼藥にも彌彥藥あり、往古は伊夜なりしを後世、夜に約めたるものなり。東鑑、文治二年の條に彌彥庄、三位大納言家領とある所なり。〔觀音寺鑛泉〕彌彥山の南麓にある鹽類泉。加熱浴用。〔明治天皇御小休所〕指定史蹟。大字麓にあり。明治十

一年北陸東海御巡幸の際九月十五日御小休所となりし處にして舊規模よく保存せらる。〔彌彥神社〕大字彌彥に鎮座。國幣中社。祭神、天香山命。延喜式に伊夜比古神社とあり。創立年代不詳なれど、崇神天皇の時勅して社殿を草創せしめらると云ふ。天香山命初め熊野に在して時の御名を熊野高倉下命といひ、神武天皇の時此地に降臨し、賊を征討し民を水火塗炭の中より救ひ、田野を拓きて農桑の業を勸め、衣食を足らしめ、禮節を敎へ給ひ、其餘烈久しきに及ぶ。是を以て國人皆其德に感じ最も尊敬す。淳和天皇天長十年七月、名神祭に預る。當國旱疫ある毎に祈願する時、必ず神感ありて雨を降らし、病を救ひ給ふを以てなり。仁明天皇承和九年無位より從五位下を授け、清和天皇貞觀三年八月從四位下を賜ひ、延喜の制名神大社に列せられ、のち當國一宮と稱す。源賴朝神領三千貫を寄進せしも戰國の爭亂に亡ぶ。慶長年間に至り江戸幕府は彌彥村に五百石を寄す。北越軍記に、上杉謙信社殿修造のため料所として平村の土貢を寄進す。江戸時代、松平忠輝五百石を寄せ、又家光以後歷代の將軍朱印地五百石を寄す。社殿は寶暦四年に改造せられ、明治四年國幣中社に列せらる。當時は神殿・幣殿・拜殿・隨神門・神馬舍等頗る宏壯を極めしが、明治四十五年類火によりて建物全部烏有に歸す。現社殿は大正五年の造營に係り、社地は彌彥山麓にありて、前には坦々たる越後平野を望みて景觀廣大、境內には老杉鬱葱として茂り、春秋の交には參詣を兼ねて遊覽する者甚だ多し。例祭、五月十四日。

【彌彥山】 越後山系彌彥火山群の主峯。三條市の北西方約一五粁、新潟縣西蒲原郡彌彥村と三島郡寺泊町との境界上に峙つ。標高五八六米。西麓は直に日本海に洗はれ、その海岸は浦濱として知られ、約八粁に亙り、奇岩怪石の多き景勝地をなす。山は火山岩より成り、山腹以上は樹木蓁なり。山頂には彌彥神社奥ノ院あり、附近より佐渡の眺望誠に良し。北方は多寶山（六三四米）・角田山（四八二米）に連り、南方は國上山（三一三米）に續き一連の火山群をなす。南東麓に彌彥神社鎭座す。

【彌彥線】 省線信越線の一部。新潟縣の中部日本海岸近くを走る。彌彥驛（西蒲原郡彌彥村）より發し、燕・東三條等の數驛を經て越後長澤驛（南蒲原郡長澤村）に終る。延長二五・三粁。途中西吉田驛にて省線越後線、北三條驛にて社線新潟電鐵、東三條驛にて省線信越本線にそれぞれ連絡す。

ヤヒロ　八尋

【八尋村】 廣島縣備後國深安郡の東部。福山市を距る約九粁の東北方に位し、東は岡山縣に界す。北に御野村、南に下竹田村と相接す。面積二・七三方粁の小村。東南に山地存し、地勢西南に開け、下竹田村界に耕地多し。他の大部は養牧地と山林地なり。米・麥・繭・木炭・木材・牛・馬・鷄卵等を産す。社線神高鐵道の兩備金光・御領の二驛（共に御野村內）に近し。いま上竹田村・下竹田村と組合村をなし役場を下竹田村に置く。

【八寺】 福岡縣鞍手郡西川村の大字。省線室木線の八寺驛（明治四十一年設置）あり。

ヤブ　養父

【養父】 三河國（愛知縣）の古地名。和名抄に八名郡養父郷あり、也布と訓ず。その地いま詳かならず。

【養父】 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年、他の一町三箇村と共に廢し、新に横須賀町を置く。

【養父】 近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に愛知郡養父郷あり。その地いま詳かならず。

【養父郡】 兵庫縣二十四郡の一。但馬國の一部にて縣の中央北偏に位し、地は東西に長く、西は鳥取縣八頭郡、東は京都府天田郡に界し、南は朝來・宍粟二郡、北は出石・城崎・美方三郡に隣接す。面積四五六方粁餘。中國山脈の山地にて、西隅には氷ノ山（一五一〇米）、北西境には妙見山（一一四二米）、西南境には藤無山（一一三九米）・須留ヶ峰（一〇五四米）あり、西半部山地の南谷を稻津川、北谷を八木川東流す。東境の山地には東隅に鐵鈷山・床ノ尾山（八三九米）等あり。その山腳は西南方へ延び、朝來川は東南隣朝來郡より來りその西谷を北流し、西より來る稻津・八木二川を合せ、北隣城崎郡に出づ。郡內山地多きも朝來川沿岸と支流稻津・八木二川の谷には狹長の河谷平地發達す。産物は米・麥・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・製茶・果實等の農産物及び醬油・藁製品・木製品・刄物・瓦等を産し、南谷村には明延鑛山ありて金・銀・銅を産す。郡內は八鹿町・廣谷町の外十二箇村を含み人口四・九萬人に近く、一方粁の密度は一〇七人なり。山陰道は朝來川河谷に沿ひて下り、北部にて八木川谷を西に上り西北隣の美方郡に入る。稻津川谷にも縣道通じ宍粟郡北部に出で因幡街道に連る。東部には八鹿町にて山陰道より分れ朝來川に沿ひて北走するもの及び數條の東北方へ走る縣道等あり。省線山陰本線は東部の和田山に於て播但線を合し、朝來川に沿ひて北方に通過す。郡の名稱は殘篇風土記によれば古へ民の居住する者なく草木叢生す、故に藪郡と名づくとあり。日本後紀、弘仁四年の條に郡名初めて見ゆ。和名抄は夜不と訓し、綠井・石禾・養父・輕部・大屋・三方・建屋・奚香・淺間・遠佐の十郷を管す。

【養父】 省線山陰本線の一驛（明治四十一年設置）。兵庫縣養父郡大藪村にあり。

【養父】 肥前國（佐賀縣）の古地名。和名抄に養父郡養父郷あり。郡家の所在地なり。その地詳かならざるも、いま三養基郡旭村の大字牛原の字名に養父あり、されば郷域は凡そ旭村の邊なるべし。

ヤブイチバ　養父市場村　兵庫縣但馬國養父郡の東北部。朝來川に跨りて廣谷町の東北に接し、西北は八鹿町に隣り、東北は出石郡に界す。北・東・南の三境には山地が連りて最高處は海拔五〇〇米內外に達す。中央の谷は村の西部を屈曲しつつ西北流する朝來川沿岸の低地に達る。西北部には西南方より來る稻津川ありて朝來川に合す。これら河岸の低地には耕地拓けて繭・米・麥類・蔬菜・食用農産・製茶及び蠶絲・藁製品・刄物・鷄卵等を産す。河谷に沿ひて山陰道及び省線山陰本線が通過しその養父驛（大藪村）に近し。稻津川谷を西南走する縣道もあり。この地は和名抄、養父郡養父郷の內。〔養父神社〕縣社。祭神、倉稻魂命・少彥名命外三柱。祭神五座の內二座は式內名神大社。神位、貞觀十六年正五位上。例祭、十月十日。

ヤブカミ　荊上　越後國（新潟縣）の古地名。和名抄に魚沼郡荊上郷あり。和名抄諸本荊上に作るも高山寺本によりて訂す。その地いま詳かならず。藪神の名を襲ふもの南魚沼・北魚沼二郡にあり、藪神は荊上の轉訛ならんも何れが荊上の遺域なるかを定め難し。

ヤブカミ　藪神

【藪神村】 新潟縣越後國北魚沼郡の中部。小出町の東北に接し、破間川の左岸に沿ひその支流羽根川の流域をなす。村は東西に細長く、東・北境には唐松山（一〇七九米）をはじめ高度一千米前後の山脈連互す。村の東南隅に發せる羽根川は南境をなす一山脈との谷を西流し、西境を南流する破間川と共に小出町にて魚野川と合す。平地は西南部河岸に發達し、水田開け米を主産す。養蠶の副業又盛なり。山地よりは木葉石の特産あり硯を製す。縣道は西部を北に貫き羽根川の谷沿には村道通ず。省線上越線小出驛へ三粁餘。

【藪神村】 新潟縣越後國南魚沼郡の西北部。魚野川の左岸。西北は北魚沼郡に、西南は中魚沼郡に界す。北部西部には五〇〇米前後の丘陵を負ひ、東南部は魚沼川沖積平地にて耕地拓く。農・蠶を主生業とし米・繭を主産し山地には林産物を出す。又家內機業による絹織物も多少産す。國道上越街道及び省線上越線は東部平地を南北に貫走し、その浦佐・五日町兩驛へは各約四粁、バスの便あり。

ヤブカワ　藪川村　岩手縣陸中國岩手郡の東部。盛岡市の東北方約二一粁。東北は九戶郡、東と東南は下閉伊郡に隣接す。土地は東西に長く約二二粁。面積二一一・六四方粁の大村。北上山地の西斜面に屬し、東境に大森山（一〇〇五米）・七兵衞頭（一一一六米）、南境に大堂山（一一九六）・大倉山（六七一米）、北境に大森（九二五米）、西部に大尺山（九六五米）、東北部に茶臼峯（一一四〇米）等聳え、全村山地起伏す。柴澤川は西北部に發源して北部を東流し、南境よりの輕松澤、東境よりの末崎川を合し、流路を變じて西北に流る。大豆・馬鈴薯・蕎麥・麥等を産し、米産は少し、また木炭を産し、牧馬も行はる。當村內に土室鑛山あり、鑛種は金銀銅水鉛にして、昭和十年より事業を開始す。小本街道は村の北部を略東西に通じ、西方省線東北本線澁澤驛へは約二〇粁あり。人口密度は一方粁につき僅に五人なり。いま西隣玉山村と組合村となり役場を玉山村に置く。

ヤブキ　矢吹町　福島縣磐城國西白河郡の東北部。白河町の東北約一三粁。北は岩瀨郡に接す。町の西北部及び西南部は臺地性丘陵にて原野多く、東南部は平坦なり。附近は國營によりて原野を開墾し良田を開きつつあり。米・繭・馬を産す。陸羽街道は町の中部を東北に貫通し、又これより東方及び東南方に分岐する道路ありて東南方石川郡石川町、南方東白川郡棚倉町へは各バスの便あり。省線東北本線矢吹驛（明治二十年設置）を置く。この地の大字矢吹は舊奧州街道の矢吹宿、大字中畑新田は新田宿のありし所。明治天皇、明治九年奧羽御巡幸の際、及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせらる。明治三十五年町制施行。

ヤブズカホン　藪塚本町　群馬縣上野國新田郡の北部。桐生市の西南隣にて、西は佐波郡と隣る。東北境には茶臼山（二九四米）等の丘陵地あるも、他は平地にて畑地多く、林を交ふ。農業行はれて麥・米を産す。養蠶も盛なり。縣道よく發達して桐生市及び東南方太田町等に通ず。社線東武鐵道桐生線は東部を北走し、藪塚驛（大正二年設置）を置く。町內に藪塚鑛泉ありて名高し。藪塚石の産地なり。この地はもと高燥にして水少かりしかば江戸時代、岡登景能、渡良瀨川の水を引きて田野を造りしに、沿川の諸村悅ばず、上に讒訴し、景能屠腹すと傳ふ。大字藪塚は岩松遠江五郎經兼の弟六郎朝兼ここに居り、藪塚を氏とせり。〔藪塚鑛泉〕 弱アルカリ泉。療養並に行樂向。天智天皇の御代の發見と傳ふ。地は八王子の山裾に位して、瀧の入・湯の入・西長岡の三鑛泉を含む。後方に山の神・六千石の雜木林あり。前方は田圃に面して野趣に富む。東方に當り雷電の翠巒、天王・茶臼・根本の諸峰、丘陵狀に連り、それらの山々よりは赤城山・日光諸山、關東平野の展望良く、附近は春秋の蕨狩・初茸狩の山遊に適す。〔神明宮〕 大字本町に鎭座。鄉社。祭神大日孁命。例祭、九月十九日。

ヤブタ　藪田村　富山縣越中國氷見郡の北部。富山灣西岸にあり、氷見町の北方約三粁。寶達山脈の東南山麓を占め、西北より東南へ傾斜する丘陵地にして聚落は海岸に沿ふ。漁業を主とし米・麥等の耕作及び養蠶の副業も行はる。海沿の縣道により氷見町へバス通ず。

ヤブナミ　藪波村　富山縣越中國西礪波郡の西北部。津澤町の西北に接し、小矢部川左岸に沿ふ。南部に山地ありて村內に傾斜する外概ね平地にして灌漑の

便よく水田開く。米を主產し、養蠶を副業となし、水島柿の特產あり。社線加越鐵道は村の東北部を貫通し四日町驛（昭和九年設置）・藪波驛（大正十年設置）を置く外、津澤町より縣道來りてバス通じ、交通比較的便なり。式內の古社荊波神社あり。萬葉・一八「やぶなみの里に宿借り春雨にこもりつつむと妹につげつや　大伴宿禰家持」

ヤブハラ　藪原　長野縣西筑摩郡木祖村の大字。省線中央本線の藪原驛（明治四十三年設置）を置く。附近は藪原スキー場として知られ、また此驛よりは鳥居峠に近し。

ヤベ　矢部　【矢部村】福岡縣筑後國八女郡の東南隅。矢部川の源流地にありて、黑木町の東東南方約一六粁に位す。東北より東にかけては大分縣日田郡に接し、南は熊本縣鹿本郡に界す。釋迦ヶ嶽火山群の西部の山地にて、東境に權現嶽（一二一一米）・釋迦ヶ嶽（一二三一米）・猿駈山（九六八米）、南境には三國山（九九四米）・國見山（一〇一八米）・休鹿山（八五七米）・星原山（七九三米）等聳ゆ。山地の水は矢部川となりて中央部を西北に流る。低地に乏し。林產物・農產物あり。當村は筑豐炭田の一部にて石炭鑛區は多々あれど村內のものは何れも振はず。河谷に沿ひて縣道通じ黑木町へはバスの便あり。この地は五條頼元が懷良親王を奉じて南朝の正朔を奉じ、菊池氏と呼應して、勤王に盡し、また頼元の孫頼治は良成親王（後村上天皇の皇子）を奉じ、此鄕に據りて忠節を全うせし處。〔矢部山城址〕五條頼元の城く所にして、九州無二の要害の稱あり。天授元年夏、征西將軍懷良親王、其職を猶子良成親王に讓りて此地に退隱し、五條良遠に頼らる。弘和三年三月薨じ給ふ。良遠の子頼治、良成親王を輔け奉り、再擧を謀る事六年、遂に策盡き、親王亦此深山中に薨じ給ふ。矢部の征西府は、古文書に御在所矢部楠山とあり。矢部山を今五條山とも云ふ。〔八女津姬神社〕大字矢部に鎭座。鄕社。祭神、八女津媛命。社記に元正天皇養老三年に創立せりと。例祭、十一月廿日。〔良成親王御墓〕大字北矢部御側名、御側川の上流僻地にあり、後征西將軍宮良成親王の征西府の置かれし矢部大楠の地にして、御墓の前にある吉野櫻は北白川宮能久親王の御手栽にかかる。

【矢部川】福岡縣の南部にあり。源を筑後・豐後の國境釋迦ヶ嶽火山の西に發し、その谿谷は日向神の美景を以て知られ、それより八女郡大淵村・黑木町を經、福島町附近にて支流星野川を合せ筑紫平野に出で、下流は瀨高町（山門郡）を過ぎ有明海に注ぎ、その一支は柳河町（山門郡）を過ぎ沖ノ端川として海に注ぐ。上流は山村、下流は平野の農村地域なり。筑紫平野に於ける筑後川に次ぐ一流域をなす。

ヤベ　宅部　肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に益城郡宅部鄕あり。訓を缺くもヤヘと讀むべきものならん。中世には矢部莊といひしもの、その地詳かならざるも、今上益城郡濱町・下矢部村の邊なるべし。

ヤベカワ　矢部川　省線鹿兒島本線の一驛（明治二十四年設置）。福岡縣山門郡瀨高町にあり。省線佐賀線・社線九州肥筑鐵道の起點たり。

ヤヘノシモ　八下　河內國（大阪府）の古地名。和名抄に丹比郡八下鄕あり。波知介と註するもこは後人の竄入する所なるべく、よろしくヤヘノシモと訓ずべし。卽ち八戸下を修略したるものなるべし。その地いま南河內郡南八下・北八下・金岡村の邊に當る。

ヤホ　谷保村　東京府武藏國北多摩郡の南部。立川町の東隣にて多摩川の北岸にあり。西南は川を隔てて南多摩郡日野町東部と相對す。武藏野臺地の一部を占め、平坦にして畑地多く、南部の多摩川附近には水田あり。農業行ばれて米・麥・甘藷等を產し、養蠶盛にて繭の產多し。甲州街道は南部を西走し、立川町を經て日野町に入り、主なる聚落はこれに沿ひて發達す。省線中央本線は北部を西走して國立驛（大正十五年設置）を置き、社線南武鐵道中部を西北に走りて谷保驛（昭和四年設置）・矢川驛（昭和七年設置）を置く。北部の中央線の南側は商大專門部を中心として國立大學町をなす。大字谷保の梅林に谷保天滿宮あり、社傳によれば延喜元年、菅原道眞、太宰府に左遷せらるるや、その子小三郎道武も亦武藏多摩郡分倍莊栗原鄕に配せられ、領主壬生貞盛なる者の邸に迎へらる。同三年道眞薨ずるや、道武は悲しみの餘り、自ら父の像を刻み朝夕禮拜す。同十九年勅說ありて太宰府に安樂寺を建立せらると聞き、此處にも安樂寺を建立し、此の像を祭祀す。のち天曆二年、北野天滿宮の造營せらるるや武藏國司の奏上により右神像を神體とし當社を創立し官社に加へられ、安樂寺を別當とす。

ヤホー　八方ヶ岳　阿蘇火山帶の一峯。熊本縣鹿本郡內田村と菊池郡龍門村との境上に跨る。標高一〇五二米。肥後の名山として知られ、一に矢筈山といふ。八面一樣の山姿を有し、山勢雄偉怪奇にして四邊の群山を壓す。全山火山岩より成り、山頂に噴火口址の如き小池を存し、又石造の金比羅宮を祀る。山上よりは西南に肥後平野を一眸に收め、東南に阿蘇の噴煙を望み、展望佳なり。この山古來傳說に富み、天狗の栖とも云はれ、また詩歌にも多く詠まれたり。なほ山腹に隈部氏の城址あり。登山には社線鹿本鐵道來民驛より西麓內田川に沿ふ內田村堀川まで乘合自動車、これより川を遡り深瀨を經て達頂す。

ヤホコ　八鉾村　廣島縣備後國比婆郡の東北隅。北は鳥取縣・島根縣に界し、東は小奴可村、西南は美古登村に接す。面積九三・二平方粁の大村なり。北境には中國山脈の高峰東西に連る。卽ち東部に道後山（一二六九米）、中部に三國山（一〇〇四米）、西部に烏帽子山（一二二五米）あり、村內はその南斜面にて概ね山地をなし南方の低部にても海拔六〇〇米を下らず。山間處々の凹地に耕地存し米・麥・繭等を產するもその額多からず。外に木炭・酒類等を產す。省線木次線は村內を走り油木驛（昭和十二年設置）を置く。縣道南北に通じ西城町・鳥取縣日野郡多里村方面へ自動車の便を有す。

ヤマ　夜摩　大和國（奈良縣）の古地名。和名抄に平群郡夜摩鄕見ゆ。もと山部と云ひしを桓武天皇の御諱山部親王を避けて山とし更に夜摩と改めしものならん。地はいま生駒郡法隆寺村の邊なるべし。

ヤマ　耶麻郡　福島縣十七郡の一。岩代國の北西部にして、北は山形縣、西は新潟縣に境し、東は信夫郡・安達郡、東南は安積郡、南は北會津郡・河沼郡に隣接す。面積一、三五二方粁餘。西境は越後山脈の飯豐山塊の南部に屬し、その三國山より西南に亙りて、疣岩山（一六五四米）・鏡山（一三三九米）・立石山（九九〇米）・高陽山（一一二七米）、東方には地藏山（一四三五米）・牛ヶ岩山（一四〇二米）・赤崩山（一〇一一米）・大塚山（一三二二米）等連り、東南方會津盆地に傾斜す。東北境には吾妻火山群の東鉢山（一五一二米）・西大巓（一九八二米）・西吾妻山（二〇二四米）・東大巓（一九二八米）・一切經山（一九四九米）・東吾妻山（一九七米）・相ノ峯（一四一二米）、東境には安達太良火山群ありてその鬼面山（一四八二米）・鐵山（一七一〇米）等連り、東南境には大瀧山（一三七〇米）聳え、その西、卽ち郡の東部には磐梯山（一八一九米）蟠居す。磐梯山と東北境に連る吾妻火山群の間には明治廿一年七月十五日磐梯山の爆裂によりて生じたる檜原・小野川・秋元の三湖をはじめ大小幾多の泥流堰塞湖あり。湖沼の水は聚りて長瀨川となり磐梯山の東麓を南流し猪苗代湖に注ぎ、湖の北岸に沖積平野を形成す。磐梯山西面には大鹽川・田付川あり、西北部山地に出づる川には東に濁川、中央に一ノ戸川、西に奥川あり。大鹽・田付・濁の三川はみな會津盆地の北部を南下して猪苗代湖の西北部より出でて郡の南境をなし西北に流るる日橋川に合す。一ノ戸川と奥川も南流して日橋川の下游阿賀川に注ぎ、越後山脈を先行谷をなして新潟縣に入る。會津盆地・猪苗代湖岸及び諸川の流域には耕地拓け、米・大豆・繭等を產し、また西北部山地には木炭・木材等を產す。首邑喜多方町は會津盆地の北部に位し、郡の中心をなし生糸・漆器を產し、木炭の集散地をなす。省線磐越西線は郡の南部を略東西に通じ、東より上戸・關都・川桁・猪苗代・翁島・大寺・鹽川・姥堂・會津豐川・喜多方・山都・荻野等の諸驛あり。川桁驛よりは北に社線耶麻軌道分岐す。道路には郡の南部を略東西に通ずるもの、及び會津盆地より東北方の米澤市に至る米澤街道あり。喜多方・猪苗代間、喜多方・熱鹽間、及び喜多方・大鹽間はバスの便あり。續日本後紀には耶麻郡とあり、和名抄は耶麻に作り、山と註し、入野・佐戸・芳賀・小野の四鄕を管す。

ヤマ　野麻　豐前國（大分縣）の古地名。和名抄に宇佐郡野麻鄕あり、野麻は山に因める稱なるべし。その地未だ詳かならざるも、龍王谷の內なるべく、明治村の大字山ノ口は鄕名に因めるものといふ。

ヤマ　野摩　伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に員辨郡野摩鄕あり。也末と訓す。神鳳抄に見ゆる山村御厨といふは卽ち此處なるべし。その地は山鄕村・笠田村・大泉原村の地に亙るを稱せしものならん。

ヤマ　野磨　播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に赤穗郡野磨鄕あり、また延喜兵部省式に播磨國野磨驛驛馬二十疋と見ゆ。これ鄕にして驛を兼ぬるもの。その地いま詳かならざるも赤穗郡上郡町の邊か。同町の大字に山野里ありて山陽道に沿ふ。

ヤマ　山　【山村】山梨縣甲斐國東山梨郡の南部。笛吹川の支流重川に沿ひ、勝沼町の北に接す。面積一・二二方粁の小村。甲府盆地の東北部に當り重川の扇狀地を占む。土地東より西へ緩傾斜す。概ね桑園・葡萄園に利用され田地は多からず。繭の產最も多く、次いで葡萄・米・麥類の農產あり。西部を南走する縣道により省線中央本線鹽山驛へ約四粁。いま小佐手村・休息村・綿塚村と組合村をなし、役場を休息村に置く。

【山（村）】岡山縣後月郡にありし村。明治三十三年他の二個村と共に廢され新に共和村を置く。

ヤマイエ　山家　上總國（千葉縣）の古地名。和名抄に周准郡山家鄕見ゆ。その地いま小糸谷の奥地にして君津郡三島村・秋元村の邊に當るか。

ヤマイチバ　山市場　神奈川縣足柄上郡にありし村。大正十二年谷ヶ村・川西村と共に廢され清水村を置く。

ヤマイリ　山入　常陸國（茨城縣）久慈郡山田鄕の別名。

ヤマウチ　山內　【山內村】神奈川縣武藏國都筑郡の北部。北は橘樹郡と隣す。多摩丘陵の一部を占め森林多く、東部には丘陵間にやや平地ありて農業行ばれ、甘藷・麥・大豆・粟等を產し、養蠶も行はる。大山街道は村の南部を西南に走り、東北は川崎市に道路通じてバスの便あり。南方約五粁の新治村內に省線横濱線中山驛あり。また北方に接する橘樹郡生田村に社線小田原急行鐵道東生田驛ありて、何れも縣道、或は村道を通ず。

【山內村】滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西南に位して、野洲川の源流

地を占め、西は土山町に接し、南と東は三重縣鈴鹿郡と境す。東境より南境にかけては鈴鹿山脈連りて縣境を劃し、その南境上に鈴鹿峠(三七八米)あり。村内はこれら山地の傾斜面に屬し東境に發する横田川(野洲川の上流)の一支は屈曲しつつ西流し西隣土山町に出で、その沿岸にはやや平地開けて耕地發達す。米産を主とし茶・木材・木炭等の特産あり。土山町より來る東海道は西南部を東南方へ走りて鈴鹿峠を越え關町に至る。西部にてこれより分れて北隣の鮎河村へ通ずる縣道あり。自動車の便よし。大字黒川には城址あり。黒川大和守以後數世これに居りて豐臣秀吉に仕ふ。〔甕峯寺〕大字柏原にあり。天台宗寺門派。天平勝寶年間沙門鑑眞の創與に係る。天正年間兵燹に罹り寛文年間再興、現在に至る。四天王立像(木造)四驅は國寶。〔長松寺〕大字黒川にあり。臨濟宗永源寺派。創立年代不詳。享保年間僧石峯中興、延享年間僧賢叟永源寺派に屬せしめ、前任永源佛頂國師を勸請開山とす。大日如來坐像(木造、胎内銘延慶三年十一月)一驅は國寶。

【山内村】熊本縣肥後國鹿本郡の西南部。山鹿町の西南方約八粁にあり、西は玉名郡に界す。西南境に國見山(三八九米)聳え、南境と西境には之より延びし丘陵あり。地は東北へ緩傾斜し西北部に稍低地あり。米・麥・繭・林産・畜産あり。東北部と東部南北に縣道通じ、山鹿町、社線鹿本鐵道山本橋驛・省線鹿兒島本線木葉驛へバス往來す。此地は和名抄、山本郡三重郷の内なるべし。肥後國志によれば、大字霜野に權現岳城址あり、これ内空閑備貞の築く所なりと。伊賀國住人、服部備前守基貞、明德三年に肥後國へ下向し山本郡内の所々を押領し、當城を築き内空閑に住する故、内空閑氏と稱す。菊池氏に屬せしが、のち島津氏に服せり。

ヤマウツリ 山移村 大分縣豐前國下毛郡の南部。山國川一支流の山移川に跨り、耶馬溪村に南接し、南部は玖珠郡に界す。村内山岳重疊し西北境には最高峯熊嶽(六六五米)聳立す。中央には山移川が西北に流れ、北隣耶馬溪村に出でて山國川に合す。溪谷は安山岩の岩床節理にして、之を挾める兩岸の絶壁直立一〇〇米突以上に達し、左右直に迫りて殆ど平地なし。此山移川の幽致は全溪中他に匹儔を求め難きも地積僻遠の憾あり。米・茶・麥・繭・木炭を産す。縣道は屈曲せる溪流に沿ひ森町に達し、幽悽を極むるもバスを通す。〔馬場城〕字馬場に址あり、世俗之を館と呼ぶ。また此附近に陣屋と云ふ地を存す。城は謂ゆる山移一黨の據れる所にして、その山移一黨とは想ふに甲斐氏を云ふなるべし。

ヤマウラ 山浦村 大分縣豐後國速見郡の西北部。立石町の南に接し西は宇佐郡に界す。西北境には雪ヶ峰(六五四米)あり、村の大部分は臺地にて所々に耕地點在す。中央に一湖沼あり。米・麥・繭を産す。當村内に鑛區約五十六萬坪を有する大高鑛山あり、昭和十年事業を再開したるが、同年の産額は僅に金銀粗鑛二七屯に過ぎざりき。この地は和名抄、速見郡山香郷に屬す。天文三年、吉弘氏直は陶晴賢と戰ひて敗死せる地なり。江戸中期の儒者、脇儀一郎(贈正五位)は本村の人なり。

ヤマエ 山家村 福岡縣筑前國筑紫郡の東南部。二日市町の東方に位し、御笠村を隔て南と東は朝倉郡に、東北は嘉穂郡に接す。地は西・北・東に高く西南の一方のみ開けて南方に擴がる筑紫平野に續く。北境より西境にかけては東北境に聳ゆる大根地山(六五二米)の西南嶺が續き、西南端の宮地嶽に終る。大根地山の東南には冷水峠あり、また東南境にも砥上岳(四九七米)一帶の山地あり。中央には東北より西南に連る山間低地ありて西南部の筑紫平野北隅の平地に續く。水と氣候に幸せられて農蠶業榮え米・繭・麥類・甘藷・菜種・櫨・鶏卵・雞等を産す。舊鹿兒島街道及び省線筑豐本線が冷水峠を越えて東北より西南に中部平地を走り後者は筑前山家驛(昭和四年設置)を置く。この地は熊本街道・大分街道の交叉する山驛にして、古來重要宿驛なり。黒田長政の福岡に入國し始めて藩政を布きし時、本村を以て藩内の要衝となし、黒田二十五騎の一人たる桐山丹波を以て山家宿初代の代官に任じたり。當時より山家宿は各藩に重きをなし六宿驛の一に數へられ、のち九州の諸大小名が江戸參覲交代の際の要路たり、また黒田藩よりは各藩との交誼折衝を重ぬるため、山家宿に別館を設け御茶屋と稱せり。德川氏三百年の治政中、初代代官桐山丹波より、千代田羽右衛門・南里太郎右衛門等を經て、明治四年梅田茂苗に至るまで山家宿代官を代ふること前後二十九代に及べり。〔寶滿宮〕大字山家に鎭座。郷社。祭神、神功皇后・應神天皇・玉依姫命。古來國守・武門の崇敬篤し。例祭六月十八日。

ヤマエ 山江村 熊本縣肥後國球磨郡の西部。人吉町の北に接し南北に長く西北部は八代郡に界す。村内は山岳重疊し四周は高峯を以て圍まれ、南部のみ低く人吉盆地に續く平地あり。即ち東北境には仰烏帽子山(一三〇九米)屹立してそれより南方へ延ぶる山嶺は東境を限り、西南へ延ぶるものは高岳(一一八九米)等を起して中央北部に蟠る。また北境及び西境にも一千米以上の高峯連り、西境の中央に白岩山(一〇〇二米)聳え、西境の南部には黑岳(五〇六米)あり。北部に源流する万江川は中央を屈曲しつつ南下し、東南部には西南流する一河川あり、共に人吉町にて球磨川に合す。南部河岸に低地あり。農業を主生業とし米・麥・繭・粟・甘藷等を産し大麻の特産あり。人吉町へバスを通ず。〔高寺院〕大字山田にあり。古義眞言宗。草創年次沿革不詳。本尊木造毘沙門天立像(木造、藤原末期作)は毘沙門天立像と共に國寶。

ヤマオカ 山岡村 福島縣磐城國東白川郡の中部。棚倉町の東南方約四粁。北は石川郡に接す。面積八・二二方粁。阿武隈山地の西緣に屬し、地勢東北部に高く、約六〇〇米にして、西南方に傾斜し、全村擧れ丘陵をなす。廣瀬川の一支中部を南流し、繭・木炭・馬を産す。村道は東西・南北に通じ、省線水郡線棚倉驛へは約五粁を距つ。本村は西隣の近津村と組合村をなし、役場を近津村に置く。

ヤマカ 山香

【山香(郡)】遠江國(靜岡縣)の古郡名。北部の山間にあり。延喜五年磐田郡の一部を割きて置きしもの、和名抄は也末加と註し、與利・岐階・大岑・氣多の四郷を擧ぐ。後、郡の大部を周智郡に併せ山香莊と稱す。

【山香村】靜岡縣遠江國磐田郡の北部。天龍川中流の峽谷にあり、西に佐久間村、西南に龍山村、東に周智郡氣多村、北に城西村あり。東境に龍頭山(一三五二米)を主峯とする赤石山脈の一支南北に走り、南西境を天龍川南流し、北部には支流水窪川の構造谷あり。大井・大滝・名古・舟代等の聚落は舊天龍川河床上の平坦地に發達す。山林多く木材・薪炭を産す。大輪の發電所、大井の明光寺、久根・平和の鑛山あり。久根鑛山の鑛區は山香村・佐久間村及び周智郡城西村に跨る。古河鑛業會社の稼行に係り、昭和十年には硫化鐵鑛二〇、三一〇瓲、銅鑛二、三五三瓲、沈澱銅二〇六瓲(この總價額六九萬餘圓)を産出し、現に重要鑛山に列す。※佐久間村 また村内に大井鑛山あり、鑛種は金銀銅硫化鐵なるが、昭和十年には銀銅鑛僅に九五瓲を産す。次に村内の鮎釣鑛山(鑛種は金銀銅硫化鐵)も昭和十年より事業を開始せり。

【山香】豐後國(大分縣)の古地名。和名抄に速見郡山香郷見ゆ。八坂川上流の地をいひ、今の立石町・東山香村・中山香町・山浦村・上村等に亙る地をいふ。

ヤマガ 山家村 京都府丹波國何鹿郡の南部。京都より本郡に入る玄關に位し、綾部町の東に接する村なり。南は船井・天田二郡に境す。面積約三三方粁。全村殆ど古生層より成る丹波高原の一部にして、四周山地の最高處は海拔五百米を超え、中部の河谷に向ひて傾斜し、全域森林を以て蔽はる。村の中央を由良川東西に貫流し、其の支流なる上林川は北隣の口上林村より來り、村の中央にてこれに合流す。由良川は本村の中央にて九十度の廻轉をなし西方綾部方面に至る。川は高原面を侵蝕し下刻作用著しく、U字形の谷は深さ數十米に及び、從つて所所に懸谷あり小瀧を見、また川底は古生層の堅岩を侵蝕して急湍をなす所あり。兩岸に幅狹く平坦なる舊河床あり水田・畑地多く爰に拓け、聚落・交通路等亦この上に竝ぶ。山地の末端は舊河床たる段丘上に突出しその間に小谷竝ぶ。谷は壯年期に侵蝕され、汽車はその間を幾つかの小トンネルを出入して進む。川に橋を見ること少く、對岸との往來便ならず。省線山陰本線山家驛(明治四十三年設置)と對岸とを結ぶ橋は、本村のみならず、近郷諸村への重要なる通路たり。また上林川も由良川と略ぼ狀態を等しくし、河畔に耕地を見る。農山村にして、養蠶業も亦行はる。また鮎の産は著名なり。交通は園部より山陰街道に分れて進む街道が由良川右岸を通じ、本村はその主要なる宿場にして江戸時代には人足驛問屋ありき。豐公時代の一里塚遺蹟あり。古名は鷹栖、その郷名明かならず、或は和名抄賀美郷の地とも云ふ。式内伊也神社は本村の中央、主邑廣瀬に鎭座、舊藩主陣屋址なる稻荷社是なり。中世の和久左衛門佐の山袰の館の城塞あり、址はいま廣瀬の山上に遺る。天正年中、谷衞友、一萬六千石を食みて此地に住し、山家殿とせらる、子孫一萬餘石を食み、世襲して明治初年に至る。藩校致道館は谷氏の創立せしものなり。〔八幡宮〕大字廣瀬に鎭座。郷社。祭神、應神天皇。古來當村の產土神たり。

ヤマガ 山鹿

【山鹿】信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に諏訪郡山鹿郷あり。その地はいま立科・八ヶ岳の西方の裾野にて所謂山浦と稱する地方をいひ、凡そ北山・豐平・玉川原・泉野・湖東・米澤の諸村に亙る。延喜式兵部省式に山鹿牧とあるも此の地なり。

【山鹿】福岡縣遠賀郡にありし村。明治三十八年、蘆屋町と合併して新に蘆屋町を置きいま大字にその名を存す。書紀、仲哀紀に天皇山鹿岬を廻りて崗浦に入り給ふとあり。和名抄に、遠賀郡山鹿郷見ゆ。中世には山鹿莊といふ。蓋しその地域は蘆屋町の邊なるべし。

【山鹿町】熊本縣肥後國鹿本郡の中部。菊池川の中流右岸、東方約二粁に來民町あり。地形低平にして西南境に沿ひて菊池川西北流す。夙に山鹿温泉を以て世に著はる。面積僅に二・五四方粁、人口密度は四〇〇一人を算す(縣平均密度は二三八人)。米穀・木材の集散地として活氣を呈し、温泉浴客のため繁華を加ふ。山鹿團扇の特産ありて有名なるも、その團扇は來民町を以て原産地とす。もと郡役所所在地にしていま區裁判所・警察署・稅務署・大藏省預金部出張所・女學校等あり。鹿兒島街道は市街地を貫きて縱走し、また東西に縣道走りて南は植木・木葉、西は高瀬方面へバスの往來頻繁なり。社線鹿本鐵道の終點山鹿驛(大正十二年設置)は南部にあり。此地は和名抄山鹿郡温泉郷の内なり。〔山鹿城〕菊池氏の庶流山鹿氏の居城。天正年中、島津氏の為に滅ぼさる。同十五年肥後の民、國守佐佐成政に叛し一揆を起すや、山鹿の族隈部親安此に據り一揆に與す。細川氏入國以來町奉行を置く。明治十年西南の役二月薩兵官軍を破りしが、三月三浦少將の軍來り奪回す。〔山鹿温泉〕泉質、アル

カリ泉、神經衰弱、リウマチス・腹膜炎等に效能あり、また行樂向。菊池川畔にありて小繁華地をなす。保元二年、宇野親治狩に出で、溪谷の泉に鹿群の浸り居るを見て湯の湧出するを發見すと傳ふ。浴場はすべて町營にて龍ノ湯・松ノ湯・紅葉湯・櫻湯・梅ノ湯あり。龍ノ湯は一名御前ノ湯ともいひ、舊藩主の入浴に充てられしものにして、今日にては貴賓用とし平日は閉鎖さる。町民は湧泉の餘水を利用してその下流に洗濯場を設く。昔は「山鹿千軒盥なし」といはれしほどにて町民は皆ここにて洗濯せしものなり。今もなほその風殘る。附近は浴園の探訪地なり。〔山鹿神社〕 大字山鹿に鎭座。鄉社。祭神、景行天皇。天皇行宮を營み給へる地に神靈を奉祀し、もと大宮大明神と稱せりと傳ふ。例祭、十一月十五日。特殊神事に燈籠祭(八月十六日)あり。

ヤマカズミ　山加積村

富山縣越中國中新川郡の北部。早月川左岸の丘陵地を占め、西南は南加積村を隔てて上市町へ約三粁。高さ二―三百米の丘陵臺地をなし、東部を早月川北へ流れ、西部には上市川の一支流れて西北部は平地をなし、山裾にかけて田地よく拓かれ米を主產す、南東半部は山地にして濶葉樹林多く、林產物に富む。里道により滑川町・上市町へ通ずるも冬季降雪期は交通不便なり。本村の地は加積のうち最も僻遠の地にて、蘭醫學者として知られし黑川良安(贈正五位)は本村の出身者たり。

ヤマガタ　山方

【山方】 出羽國(羽前國・山形縣)の古地名。和名抄に最上郡山方鄉見ゆ。その地は酢川の上流の地を含み、今の山形市の一部にも亙れるものの如し。

【山方村】 茨城縣常陸國那珂郡の北部東偏。大宮町の北方約九粁にて、久慈川の西岸にあり。東は川を隔てて久慈郡と相對す。八溝山脈一支脈の東斜面を占め、西北境に靑藏山(三九五米)ありて、土地は次第に東南方に傾斜し、概ね山地なるも、東境を南流する久慈川の岸に沿ひて狹き平地あり、畑地・水田をなし米・麥・煙草等を產す。また山地よりは木材を產し、其他、製絹等も行はる。村內に金銀或は金銀銅の鑛區多數あれど何れも振はず、僅に昭和十年より高館(鑛種は金銀銅)・船生(鑛種は金銀)の二鑛山が事業を開始す。縣道は川沿ひに縱走して南は水戶、北は大子へバスの便あり。省線水郡線また之に沿ひ山方宿驛(大正十一年設置)を置く。

【山方】 下總國(千葉縣)の古地名。日本後紀、延暦廿四年に下總國埴生郡山方驛を廢する記事あり。和名抄に埴生郡山方鄉あり。その地凡そ今の印旛郡佐倉町・中鄉村・遠山村の邊なるべし。

【山方村】 岡山縣備前國赤磐郡の北部。東は周匝村、南は仁堀村に接し、北及び東は久米郡に界す。面積二五・五六平方粁。西周山地に圍繞せられ村內概ね山地なるも、中央部より東方周匝村界におけて小平地を有し耕地開く。東部山地には原野存するも他の大部は山林に蔽はる。米・麥・繭・木炭を產し、また柿・薄荷を出す。周匝村に出づれば縣道ありて岡山市へバスの便あり。この地は和名抄、赤坂郡周布鄉の內なり。〔宗形神社〕 大字是里に鎭座。縣社。祭神、多紀理比賣命・市杵島比賣命・田心比賣命。式內社。例祭、十月十六日。杜柴祭と云ふ古式の神事行はる。

ヤマガタ　山形

【山形村】 靑森縣陸奧國南津輕郡の東部。黑石町の東南約六粁。東北は東津輕郡に接す。面積一五八・七四方粁の大村。八甲田火山群の西緣にて、東境には橫岳(一三四〇米)・櫛ヶ峯(一五一七米)聳え、土地は西北方に傾斜し、全村概ね山地をなす。南隣竹館村の諸水を併せて北流する淺瀨石川は村の西部を北流し、東境の櫛ヶ峰の西面に發源し北部を西流する中野川その他の支流を合し西北に流れて黑石町に出づ。沿岸に溫泉湧出し耕地拓け、兩側の傾斜面には苹果畑よく發達す。米を主產し、また苹果の產多し。山地には木炭の產あり。道路は村の西部を南北に通じ、西北方約六粁の省線黑石線黑石驛と、東南方の十和田湖岸へはいづれも自動車の便あり。人口密度は一方粁につき僅に四三人なり。〔溫湯溫泉〕 酸性硫黃泉中の酸性收斂の綠礬泉、淺瀨石川原に湧出せる湯を引く。後陽成天皇の御宇、大納言花山院忠長黑石に左遷、偶入湯せしに浴後溫氣長く保てり、故に溫湯と命名せりと。附近に楓樹にて有名なる中野山・糸瀧瀑布等あり。〔板留溫泉〕 石膏性苦味泉。熱ノ湯・變ノ湯・淺瀨石ノ湯の三に分る。溫湯溫泉の東方淺瀨石川の上流に位し、幽邃の地なり。初め板にて浴槽を圍みしよりその名出づと。附近に中野山の楓林あり、十和田湖北岸の分水嶺瀧之澤峠の展望よし。〔中野神社〕 大字南中野に鎭座。鄉社。祭神日本武尊。創建年代不詳。例祭、七月廿八日。

【山形村】 岩手縣陸中國九戶郡の中部。久慈町の西方。大川目村を隔て、南は下閉伊郡に接す。面積二九六方粁の大村。北上山地の東部斜面に屬し、西南境に多良山(九七一米)・平庭嶽(一〇六〇米)・南境に遠別嶽(一二四一米)・遠島山(一二六三米)聳え、村內にも山岳起伏すれど概して土地は東方に低下す。戶呂町川は西北境に、日野澤川・川井川は西境に、遠別川は南境に各發源し、村の東北部に至る間に相合して久慈川となり東流す。地質は大部分古生層に屬し沖積層と花崗岩層僅に存す。土性は概ね壤土・腐蝕質壤土・礫質壤土にて各所に占在し砂質壤土は下小國・日野澤の一部に存す。林野面積卓越し、私有林は村の總面積の五割一分、國有林は二割二分を占め、耕地は四分に滿たず。生業は農業・林業を主とし牧畜も行はる。稗・麥・大豆・馬鈴薯(十九萬圓)、木炭・木材(三十三萬三千圓)、牛(二萬八千圓)を產出す。他に鑛產(廿萬七千圓)あり(以上昭和十一年)。村內の鑛山は優秀とはいはれざるも多數あり、特に滿俺山多し。而して多くは昭和九年に於ける試掘に始まる、同年に於ける產額は別表の如し。

鑛山名	鑛石	產額(瓲)
瀧ノ澤	滿俺鑛	三〇一
日野澤	同	二五六
高松	同	二五五
川井	同	一八
[illegible]	同	一八
荷輕部	金鑛	一〇

縣道久慈・葛卷線は西南隅より東北隅に、福岡・久慈湊線は西北隅より東北に橫斷し、省線八戶線久慈驛へ東方約一八粁。人口約五七〇〇人、密度は一方粁に一九人。藩政の頃、小國關のありし地にして、岩手鄕より本郡葛卷村を經、小國關に出で、久慈町に達せしものなり。大字霜畑字成谷に古代民族の住居せしと覺しき成谷館下の古跡あり、この外本村に川井館・成谷館あり、古代民俗の住居跡ならんか。

【山形縣】 本州の東北部に位し、羽前國と羽後國の一部より成り面積約九三〇六方粁。東は宮城縣・南は福島縣に接し、北は秋田縣、西南は新潟縣にして西北は日本海に面す。〔地形〕 東は奧羽山脈、西に出羽丘陵・越後山地等連亙す。奧羽山脈は第三紀層を基底とし、これに那須火山帶を伴ひ、吾妻山(二〇二四米)・藏王山(一八四一米)・船形山(一五〇〇米)等の諸火山聳え、吾妻山北麓には五色溫泉群、藏王山麓には高湯、船形山の北麓には潮見・赤倉等多數の溫泉湧出す。出羽丘陵にはまた鳥海火山帶を伴ひ鳥海山(二二三〇米)・月山(一九二四米)・羽黑山(四七九米)・湯殿山(一五〇四米)等の諸火山其上に被覆す。奧羽山地の西部は南北の方向を持つ斷層により尾花澤・山形・米澤を結ぶ線によりて西部沈降し、出羽丘陵は東の東緣斷層によりて東部沈降し一種の地溝帶をなし、爰に新庄・尾花澤・山形・米澤の諸盆地を形成す。出羽丘陵は奧羽山脈の前山をなす傾動山塊にして西方に傾斜し、酒田・鶴岡の陷沒地をなす。最上川は梨棚式水系をなし、中央諸盆地の水を集め出羽丘陵を侵蝕して峽谷をなし、酒田平野に出づる地點に白糸瀧附近の溪流をなす。卽ち橫谷をなして西部に流出し、扇狀地式三角洲の發達によりて酒田平野の沖積地を作り、南方より大赤川鶴岡平野の扇狀地平野を形成して之に連る。酒田・鶴岡兩平野の海岸は、最上川、大赤川の流出土砂と沿岸潮流によりて砂丘をなす。斯くて山形・米澤・鶴岡・酒田の四市と二六町、一九八箇村を發達せしめ行政上、東・西・南・北の四村上郡、東・西・南の三置賜郡、東西兩田川郡、最上・飽海二郡に分轄され、縣廳を山形市に置く。〔氣候〕 冬季は北西卓越風出羽及び越後山脈を衝いて上昇するを以て寒氣強く降雪多く、裏日本の深雪地帶の一部をなす。降霜期は十月下旬より五月上旬、降雪期は十一月中旬より四月上旬に及ぶ。降雪の多きことと、梅雨期の影響少きこととは本縣の特色たり。〔產業〕 全面積の約七〇%は林野、一一%は田地、四〇%は畑地にて、耕地は沿川地域を主とし、山腹耕作は殆ど行はれず。生產總額約九三八七萬圓、その內農產四二%、畜產一・七%、林產五・九%、工產四七・五%にて水產・鑛產は各一%に過ぎず。由來本縣の產業は米作及び養蠶を主とする農業と、養蠶を背景とする製絲・絹織物工業を主體とす。米は年生產二一一萬石、約五四五〇萬圓に達し農產の大部を占む。就中酒田・鶴岡の庄內平野は其の生產核心地域にして鶴岡は取引中心地をなし、酒田港より積出さる。古來出羽米として江戶・大阪方面に海路輸送せられしが、現在に於ても五九萬石を移出す。米に次いでは冷涼氣候の本縣の地に適する大豆・馬鈴薯の產多く、麥の產少きは冬季積雪の多きを主因とす。園藝作物として櫻桃・生柿・梨・葡萄の果樹栽培行はる。櫻桃は山形附近の內陸盆地の冷涼氣候地に適し日本第一の產あり。苹果も亦栽培され、梨は砂丘地帶に、葡萄は赤湯附近に多し。煙草の產三六萬圓に達す。蔬菜として大根・漬菜・茄子等あり。養蠶は山形・米澤二盆地を中心とし七八〇萬圓の產繭あり(桑畑二四三二六町)。立通が其の半に達するは氣候的條件による。馬は新庄盆地に稍多く、近年發達しつつある緬羊の飼育、鯉・鮒の養殖は注目に値す。林野面積は全面積の七〇%にして其の產額五五五萬圓なるも產額順位は全國第三位にあり。水產業は一般に不振なれども、オホーツク海沿岸に出漁するものあり。工業としては機業を第一とし年產一二〇三萬圓にして米澤を中心とする絹織物その首位を示し、絹綿交織・綿織物これに次ぎ山形・宮內等に產す。多くは農家副業として小工場にての賃織なり。〔交通〕 鐵道は省線奧羽本線が盆地群を南北に縱貫し北は秋田、南は福島に達す。省線羽越本線は日本海沿岸を連絡し新潟を經て大阪に向ひ、此線の余目より陸羽西線岐れ新庄にて陸羽東線に連り宮城縣に出で東北本線に合す。また山形附近よりは仙山線通じ奧羽山脈を越えて仙臺に達す。南方赤湯よりは新潟縣に出で羽越本線に連る米坂線あり、其他支線に長井線・左澤線あり。また社線には高畠・三山・尾花澤・谷地・庄內等の各電鐵あり。冬季積雪のためには、特別の裝置を必要とし、不便なる憂あり。酒田は鐵道開通前河川交通の咽喉として榮えしも、近年は流出土砂によりて汽船の寄港には不便なり。縣下至るところ溫泉の湧出ありて保養地をなし、冬季スキー場に利用せらるるあり。本縣は明治三年九月酒田縣を廢して山形に置きしに始まり、翌年八月天童藩の縣となりし天童縣を併合す。翌年十一月に至り本縣及び新庄・上山二藩の何れも縣となりし新庄・上山二縣を廢して更に山形縣を置き、村山・最上二郡及び置賜郡の一部を管す。此時羽前の西南部にありし大泉縣・松嶺

縣を廢して再び酒田縣を起し田川郡と羽後の國の飽海郡を管し、米澤藩の縣となれる米澤縣を廢して置賜縣を米澤に置き置賜郡の大部分を管し、玆に三縣鼎立せり。明治八年八月に至り酒田縣を鶴岡縣と改稱す。翌九年八月鶴岡・置賜二縣を廢して山形縣に合し以て今日に至る。

【山形市】 山形縣治の中心都市。縣の東部最上川中流域に當る山形盆地の南東隅に位し、南は南村山郡、北は東村山郡と境す。東西約六・四粁、南北六・二粁餘、面積二〇・八四方粁あり。藏王火山の北西山脚は東南境に近く延びて千歳山（四七二米）となり、笹谷峠の山嶺は東境に迫りて盃山（二七九米）となり、藏王山の北谷に出づる馬見ヶ崎川はその間より北流して市の北東境をなし、市街はその扇狀地上に發達す。概ね平坦なるも南東より北西に緩く低下し、市域の北西半部には水田廣く横はる。省線奥羽本線は南北に貫きて山形驛（明治三十四年設置）・北山形驛を置き、左澤線は北山形驛より分岐して北西に走る。國道羽州街道また省線と並行し、笹谷街道は東方に、寒河江道は北西に通じいづれもバスの運轉ありて市は交通上の中心地をなす。全戸數約一萬二千三百戸中、工業家約三千戸、商家約三千四百戸を數へ商工業榮ゆ。工産には生糸（二四萬圓）・織物（四六萬圓）・金屬製品（六〇萬圓）・漆器（二九萬圓）・木製品（三五萬圓）・果實罐詰（一二萬圓）等あり。その絹織物には山形節織、綿織には山形縞、金屬製品には鐵瓶・青銅器等有名なり。官公衙には縣廳・地方裁判所・市役所・仙臺地方專賣局出張所・步兵第三十二聯隊・高等學校等あり。古蹟に山形城址・最上義光墓・千歳山、社寺に八幡神社・鳥海月山兩所宮・湯殿山神社・諏訪神社・專稱寺・龍門寺・藥師堂等著はれ、公園に雁島・千歳・第二の諸公園あり。市外には千歳山（瀧山村）・釋迦堂（東澤村）・高湯溫泉（堀田村）の名所あり。天平年間陸奥鎭守府將軍兼按察使大野東人がこの地に城き、人民を移住せしめし金井莊は本市の基礎をなせるものなり。延文元年斯波兼賴出羽按察使として最上郡府中山形に入部し子孫最上氏を稱す。かくて第十一代義光に至り四隣の地を併呑して武威を振ひ山形の最隆昌期をなせり。然るに元和年中義光の孫義俊の時國を除かれ、爾後鳥井・保科・松平・堀田・松平・大給・秋元・水野等の諸氏相次いでここに封ぜられ、城主の更迭頻繁なりしため繁榮を阻害せられたり。明治三年山形縣第一大區に屬し、同九年置賜・鶴岡二縣を廢し現在の縣域となるやその縣廳の所在地となる。次いで明治二十九年步兵第三十二聯隊の衞戍地となり、他方省線奥羽本線開通して商工業また發展し、昭和六年東澤村の一部小白川を編入して現在の市域を擁するに至れり。（山形城）一に霞ヶ城といふ。市の中央部にあり、延文元年、斯波兼賴陸奥大崎よりここに移り居館を營む。子孫最上を氏とし、その義光は豐臣秀吉・德川家康と時代を同じくし、關ヶ原の役には國に在りて上杉景勝の兵と戰ひて功あり、加封せられて五十二萬石を食む。然るに義俊家老の爭ひを治むる能はずして國除かれ、鳥井忠政は磐城平より移封二十萬石を領し、寛永十三年保科正之信州高遠より入部、正保三年松平直基越前大野より、慶安元年奥平忠弘播州姬路より、寛永八年奥平昌能野州宇都宮より、貞享二年堀田正仲下總古河より、同三年松平直矩豐後日田より、元祿五年松平忠弘陸奥白川より、同十三年堀田正虎陸奥福島より、延享三年大給乘佑下總佐倉より、明和四年秋元淳朝武藏川越より交々封ぜられ、弘化二年には水野精忠遠州濱松より來り治し五萬石を領し子忠弘の時明治維新となる。二ノ丸址と外濠・土壘等遺存し、郭内は步兵第三十二聯隊兵營となる。（最上義光の墓）市内三日町曹洞宗光禪寺境内にあり。大正二年、三百年祭擧行に際して改築せるもの、五輪塔にて光禪寺殿玉山白光大居士と刻さる。寺は義光の草創に係りもと慶長寺といひ七日町にありしを元和年中現地に移す。（八幡神社）鐵砲町にあり。縣社。祭神、品陀別命・息長足姬命・玉依姬命。例祭九月十五日。天平年中大野東人の創建せるもの。最上氏累代の祈願所たり。今の建物は寛永七年城主鳥井忠恒の修營する處。境内欅の大木多し。（鳥海月山兩所宮）市内宮町にある縣社。祭神、稻倉魂命・月夜見命。例祭八月一日。康平六年源賴義が安倍貞任追討の時、鳥海山兩所神社に祈誓し、平定の後當地に勸請す。例祭は藥師祭・八幡祭と市の三大祭の一なり。（湯殿山神社）市内旅籠町にある縣社。祭神、大巳貴命・大山咋命・少彥名命。例祭五月十八日。明治九年縣廳舍新築地鎭祭の際湯殿山神社の分靈を招祭せるもの。（諏訪神社）市内諏訪町にあり。鄕社。祭神建御名方命。例祭九月廿七日。文明六年城主斯波義春の創建。（專修寺）市内七日町にあり。眞宗。本尊は阿彌陀如來。文明十五年蓮如上人の弟子願正法師村山郡高楯村に一宇を建立し、三代詩全教正法師の時專稱寺號を許さる。慶長元年最上義光その女阿今の方のために仁王堂小路に移し、後再び現地に移る。今の堂宇は元祿十三年の建築にて出羽五箇所の一に數へらるる大伽藍なり。（龍門寺）市内皆川町にあり。曹洞宗にて本尊は釋迦牟尼佛。文明二年城主最上義秋その父義春菩提のため創建し、朴堂和尚を開山とす。今の堂宇は寶曆年中の建築に係る。（藥師堂）宮町字藥師町、千歳公園内にあり。本尊は藥師瑠璃光如來。天平九年行基菩薩が聖武天皇の勅を奉じて建立せる國分寺の一なり。その後源賴義、藤原秀衡等これを修補し壯麗なりしも應仁以來屢兵燹に罹り堂宇殆ど亡失す。天正中最上義光これを建立し、天保六年また燒け、嘉永元年また修建せしも明治四十四年の大火に類燒す。よりてもと實輪寺の

本堂を求めて建立す。稀に見る大伽藍なり。（千歳公園）宮町字藥師町にあり。もとの國分寺藥師堂の境内にして東は馬見ヶ崎川に臨み樹木欝蒼として幽邃境をなし、中央に國分寺藥師堂、西隣に柏山寺（舊國分寺）、北部に招魂社・縣營グラウンド等あり。（第二公園）市内香澄町にあり。明治三十六年開設。泉水築山あり、櫻樹多く植栽せられ花時の風景最も佳なり。園内に明治十年の役及び日清戰役に於ける縣内戰死者の招魂碑建てり。（雁島公園）市の中央部旅籠町にあり。園内に縣社湯殿山神社、附近に裁判所・市役所あり。

【山形盆地】 山形縣中部東偏の盆地。一に村山盆地とも呼ばる。山形市を中心とし東村山郡・北村山郡の主要部、並に西村山郡の東部に亙る最上川流域の地にして、この盆地は古き地質年代に於て一大湖盆をなし、これが東北日本の隆起に伴ひ次第に乾涸せるものと考へらる。卽ち南方いまの米澤市を中心とする置賜湖盆が陸地隆起に基因して、白鷹山塊の西部を環流してこの盆地へと流路を求め、更に北して新庄湖盆を經、出羽丘陵を横斷して日本海への流路を作り、以て最上川の原始的形態を構成するに至りしものにて、山形盆地は置賜の水系を悉く聚めたる最上川本流と、西方の朝日連峰並に西北方の月山より來る寒河江川の水とを湖盆の中心に受容し、そこに廣大なる扇狀地を形成せしが、湖盆の乾涸に伴ひ、この二川は扇狀地上を交錯して流れ、次第に蝕刻して、いま僅に寒河江町の北部に長岡山（一六一米）を殘丘として孤立せしむるに至れり。この他、西部には葉山に發源する千座川の小扇狀地あれど、白鷹山塊に發する河流は盆地緣邊に僅に崖錐狀扇狀地をつくるに過ぎず。盆地の東には那須火山帶に屬する高峻なる諸峯屹立し、それより流下する亂川・倉津川・白川・馬見ヶ崎川・酢川・藏王川等は何れも水量少く、流路の傾度大なり。之等諸川は大雨ある毎に火山の谷壁を崩壞し大量の土砂を盆地に運び、かくて諸川の扇狀地は互に相隣接して、盆地東部に著しき地形の特徴を成さしむ。山形市は馬見ヶ崎川の大傾度扇狀地に發達せし都市とす。以上の水系と地質的關係とにより、盆地は東半と西半とにて著しき異相を呈し、西部は水利よくして水田拓け、東部は扇狀地内を伏流する水のために水田は僅に扇狀地末端より湧水線以下に發達するのみ。扇狀地は畑地となり桑園・果樹園として利用さる。

【山形村】 長野縣信濃國東筑摩郡の西部。松本市より西南約一〇粁。東は今井村、南は朝日村、西北は波田村に接す。村は日本アルプス（飛驒山脈）の東緣に當り、中央地溝帶の斷層崖なり。而して松本平の西緣部を形成す。村の平地は松本平を構成する鎖川・梓川の兩扇狀地の複合扇狀地部に位す。耕地面積九四二町（田一八六町、畑七五六町）、桑畑六二〇町。全面積に對する耕地率三七%にして畑多く扇狀地の特色を示し、桑畑は全耕地の六〇%に達し、養蠶は村の農業經濟の根幹をなす。

【山形】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年他の一町六箇村と共に廢され稻澤町を新置す。

【山形】 鳥取縣八頭郡にありし村。大正八年、虫井村・大内村を廢して新に本村を置き、昭和十年、智頭町・那岐村・土師村と共に廢し、その區域を以て新に智頭町を置く。

ヤマガタ 山縣

【山縣郡】 岐阜縣十四郡の一。美濃國の中部に南北に細長き形域を占む。東は武儀郡に、南は稻葉郡及び岐阜市に、西は本巣郡に接す。面積二一二方粁餘。古生層より成る美濃山地の中部に位し、北部山地より神崎川南流し、西部尾並坂峠より葛原川發し、谷合村にて相合して武儀川となり、謂ゆる武藝谷をなす。南部よりは鳥羽川・伊自良川發して稻葉郡に出づ。北部に日永岳（一二一六米）、西部に蝙伏山（一〇四〇米）・天狗ヶ城（六八三米）・釜ヶ谷山（六九六米）起伏す。東南部は長良川を以て限り、武儀川のこれに合流する所は瓢形を呈する保戸島の中洲あり。長良川はもと此地より高富町方面へ向ひ梅原の狹隘を經て現伊自良川の流路を流れたりしも、室町時代に堤防を決潰して津保川の谷に落ち現流路を取るに至れり。いま鳥羽川・伊自良川の二川は舊頭河の如くなりて小流となり長良川に注ぐ。美濃山地南部は濃尾平野に陷沒しいま埋殘りは急崖をなして聳え、多くの分離丘陵その南緣部に見らる。眉山（二三一米）・百々峯（三四一米）・源太峯（二二八米）・番場山（一一九米）卽ちこれなり。此地の山間平地・河岸低地は廣く水田分布し、米・麥の產多く富有柿の產も多く伊自良方面は串柿（甘干）の產も多し。山地は良材に富み、神崎・葛原二川の谷は殊に多く、谷合杉はトラックにより岐阜に移出さる。また薪炭の產多くこれも岐阜に出され、松茸は東京に出荷さる。工業としては武藝谷の續きには武儀郡の製紙に刺戟せられ今製紙行はる。また南部には製瓦業盛んに、清酒の產も多し。交通はさして便利ならず、南部には高富街道・伊自良街道・美濃町街道・犬山街道あるも、北部は僅に河谷によるのみ。尾並坂峠よりは本巣郡根尾村に入る。高富よりは北へ武儀郡西武藝村へバス通じ、鐵道は社線名古屋鐵道高富町まで通ずるのみ。和名抄には夜末加太と註し其外の古記錄にも同樣に見え、淸輔朝臣の袋草紙にのみ山形と記せり。而して和名抄には出石・大竹・片野・三田・大桑・餘戸の六鄕が載せられ、續日本後紀には「承和十年正月丙辰美濃國山縣郡少領外從八位上勝淨長云々」と見ゆ。行政上高富町外十六箇村に分ち、舊郡役所は高富町に置かれたり。

【山縣村】 岐阜縣美濃國山縣郡の北部。

岐阜市の北方約一二粁。北は武儀郡東武儀村に、東は南武藝村及び武儀川を挾んで千疋村に接し、南は春近村・嚴美村に、西は富岡村に隣り、面積一〇方粁餘。美濃山地が濃尾平野に陷沒し、その埋殘りの古生層山地が急峻に聳つ地に當る。南部の門屋・岩附近、中部の西山・三輪附近の分離丘陵は皆之なり。武儀川は此等古生層山地を開析し僅に東南境を限り、南端部は曾ての長良川の流路なりき。この陷沒地域には水田よく拓けて米・麥の農産多し。交通路には美濃町街道が南部を東西に走り、西は郡の主邑高富町に連絡す。鐵道は高富町に出づるを唯一の捷路とし、春近村・嚴美村へはバスを通じ之によるも便なり。本村は古く和名抄の山縣郡大神(みわ)鄕の地にして、いま三輪の地名殘れり。江戸時代は幕領たり。大字北野の古城址は初め鷲巣美作守住せしが、のち弘治元年の秋齋藤秀龍、長子義龍と長良川に戰ひ、秀龍利あらずして退き、この美作守の空き城に立籠り、翌二年春城田の城に移る。蕉門十哲の一人たる美濃派の俳祖各務支考は此地の人にして、中頃伊勢の山田に住み、老いて後美濃に歸りて獅子庵を結び隱遁せり。〔三輪神社〕大字三輪に鎭座。鄕社。祭神、大物主命。例祭、四月九日。〔眞長寺〕大字三輪にあり。古義眞言宗。三輪山と號す。天平年間行基の開創。永祿元年堂宇悉く燒失。本尊釋迦如來坐像(木造)一軀(弘仁期の作)は國寶。

【山縣郡】 廣島縣安藝國の西北隅。縣下十六郡の一。北と西は島根縣に界し、東は高田郡、南は安佐・佐伯二郡に接す。面積九八七・七二方粁。加計・戶河內・大朝・八重・壬生の五町、十五箇村を含む。北部には中國山脈の分水嶺東西に連りて國境をなし、阿佐山(一二一八米)・大佐山(一〇六九米)等の高峰相連りて地勢頗る高峻なり。南部は太田川の上流・支流及び可愛川の流域に屬し、沿岸に肥沃なる平地を有す。西部太田川流域地には加計町・戶河內町發達し、東部の可愛川流域地には大朝町・壬生町・八重町開け、郡內主要農産集散地にしてまた交通の中心をなす。流域の耕地よりは米・麥・繭等の産多し。北部は概ね山林地なるも凹地には耕地あり、木材・木炭・牛・馬等の産多し。縣道東部及び西部に通じ、郡內バスの便良し。また太田川に舟楫の便あり、廣島市・大朝町間に定期自動車往復す。文德實錄仁壽三年紀に郡名見ゆ。和名抄は夜末加太と註し、賀茂・壬生・山縣・品治・宇岐の五鄕を管す。

【山縣】 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に山縣郡山縣鄕あり。郡家の所在地とす。その地いま八重町の地なるべし。同町の大字に古保里あり、郡家の地たるを證するに足る。

ヤマガタジュク 山方宿 省線水郡線の一驛(大正十一年設置)。茨城縣那珂郡山方村山方にあり。

ヤマガノ 山ヶ野鑛山 鹿兒島縣にある金銀山。鑛區は薩摩郡永野村及び姶良郡横川村・栗野町に跨りて約一五九萬坪、薩摩・大隅の國境に位す。母岩は輝石安山岩を主とし往々石英粗面岩・粘板岩・頁岩の被覆交錯を見る。鑛床は裂罅充塡卽ち正規鑛脈にして大小四十餘條あり、金は輝銀鑛・黃鐵鑛・黃銅鑛・輝安鑛の中に含まれ、時として集團的自然金を見る。昭和十年の産額は金三三〇、六七三瓦、銀二七二、七〇〇瓦(この總價額約一〇四萬圓)にして、同年六月末の鑛夫數は四八九人なり。當鑛山は寛永の頃薩摩國宮之城の領主島津圖書久通の發見に係るといふ。寛永十七年開坑せるが盛時には年産青金四八〇貫に達したりと。明治十年鑛主島津忠義は佛國鑛山技師を招聘して竪坑及び通洞を開鑿し、搗鑛製鍊所を山ヶ野・永野の兩所に設けしが、下つて同卅七年竪坑・通洞・動力方面を更に改造し、また永野村に大製鍊所を建設す。かくて長く島津家の有なりしが、大正十一年薩摩興業株式會社の手に移る。現に重要鑛山に列す。

ヤマカミ 山上

【山上村】 山形縣羽前國南置賜郡の東南部。米澤の東南に隣り、東と南は福島縣に接す。土地西北より東南に長く、面積一一六・七七方粁。奥羽山脈の西斜面に屬し、西南境に吾妻火山群に屬する東大巓(一九二三米)、東南部に高倉山(一四六三米)、東境に鉢森(一〇〇三米)聳え、西北方に傾斜し、羽黑川は東南部に發源して村の中部を西北に流る。全村概ね山地をなすも、西部は米澤盆地に屬して平坦なり。地味瘠瘦なるを以て村民多く養蠶機織に從事し、また米の産あり。省線奥羽本線關根・大澤・峠・板谷の四驛(大澤は明治三十九年、他は皆明治三十二年設置)を置く。人口密度は一方粁につき二三人に過ぎず。この地は有名なる温泉鄕にして、東南部の五色温泉をはじめ所所に湧出せり。また子持瀧(高四〇米、幅四米)・不動瀧(高二〇米、幅二米)・滑瀧(高一五米、幅二米)・二階瀧(高二五米、幅三米)等あり、上杉治憲敬師郊迎址は指定史蹟たり。〔五色温泉〕泉質アルカリ性の炭酸泉、療養向、スキーの適地。天武天皇の朝、役小角の發見との口碑あり。不忘山の中腹海拔約九〇〇米、北は板谷峠の峻嶮と相對し、南は吾妻の高峯に連り、東は信夫・伊達の平野を望み風光の美に富む。殊に秋紅葉の美觀は冬季のスキーと共に著名なり。スキー季節は一月中旬より四月上旬まで、雪質は北海道・樺太には及ばざるも、粉雪なれば信越地方より良く、附近の山にも四五の假小屋あり、旅館には乾燥室もあり、別にスキーファンのため六華倶樂部設けらる。附近に子持瀧・賽ノ河原あり。〔新五色温泉〕泉質アルカリ性炭酸泉、療養向。安政五年の發見と傳へ、不忘山の山腹に位し、五色温泉の西約半粁を距つ。南は吾妻山を望み、東は信夫・伊達の平野を一眸にし、西は米澤盆地を瞰下す。

湯は豐富なり。五色と共にスキーに好適し、また吾妻登山の出發點として知らる。吾妻の主峯一切經山頂へ八粁、山麓には鎌沼・五色沼・桶沼などの山湖あり。〔姥湯温泉〕泉質炭酸泉、療養向。吾妻山の北谷にあり、天文二年遠藤氏の發見と傳ふ。風光明媚の深山にて、その卓越せる景勝は實に南置賜の諸温泉中首位に推さる。この温泉に木片や木葉を浸す時は半年位にして化石する奇現象ありと云ふ。〔滑川温泉〕泉質炭酸泉、療養向。四境極めて閑寂、夏は涼風に暑さを忘れ、深秋の紅葉は殊に美觀を呈す。寛保三年大沼の鄕士齋藤盛玢の發見にかかる。附近には大瀧・布引瀧・龜瀧及び信州淺間より飛來せりと傳ふる藥師如來の堂あり。吾妻富士へは温泉場より六粁、附近は大小の沼四十八を數へ、高山植物殊に駒草多し。〔上杉治憲敬師郊迎址〕指定史蹟。寛政八年米澤藩主上杉治憲(鷹山)が其の師細井平洲を江戸より招聘せし九月六日郊迎のため羽黑堂に待受け山上普門院にて献酬せり。兩所共によく舊規を存し迎師遺跡として著名なり。〔大物忌神社〕大字關根に鎭座。鄕社。祭神倉稻魂命。創建不詳と雖も社殿に崇峻天皇第三皇子佛理に參じて創立せりと。例祭、陰曆四月一日・六月十五日。

【山上村】 福島縣磐城國相馬郡の北部。中村町の西南に隣り、北部は宮城縣に接す。阿武隈山地北部の東斜面に屬し、西北境には千倉山(六七二米)聳え、東南方に傾斜し、南境は海拔約六〇〇米の山地にして東北方に傾斜し、中部の谷を宇多川略東に貫流し、沿岸に耕地拓く。村の生業は農業を主とし、米・繭・馬を産す。中村街道は宇多川に沿ひて東西に通じ、東方省線常磐線中村驛へは約五粁あり。本村はいま西隣玉野村と組合村をなし、役場を本村に置く。また村內に石器時代の遺跡の貝塚多し。

【山上】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に鹽谷郡山上鄕あり。その地いま詳かならず。或は泉村・矢板町の邊を稱せしものか。

【山上村】 石川縣加賀國能美郡の北部。手取川下流曲流部の左岸に沿ひ東北は川を境に石川郡鶴來町に接す。南部・東南部には加賀山脈の餘脈の末端の丘陵ありて北へ傾斜し、手取川はこの山地を東より北へ環りて西に流る。平地は北部河岸に細長く水田開く。聚落は山麓に沿ひて點在し、農を主業とし米の産あり。山地には森林ありて薪炭を出し、九谷燒の窯業も行はれ、副業として養蠶も行はる。北部諸部落を結び略東西に貫通する縣道及び之と並走する社線能美電鐵ありて上開發・辰口・來丸・火釜・岩內・三口・宮竹・燈臺笹・岩本・天狗山の十驛(何れも大正十四年設置)を置く。明治四十年、山口・宮內の舊二村を合併して置けるもの。和名抄、能美郡山上鄕の地にして村名はそのの遺稱。大字辰口に辰口鑛泉あり。泉質鹽類泉。加熱浴用。大字岩本の觀音堂は文治三年源義經奥州下りの際立寄りし處と傳ふ。

【山上村】 滋賀縣近江國神崎郡の東端。愛知川の上流にして鈴鹿山脈の西南面に位し土地東西に長く北・東・南の三面は他郡に圍まる。卽ち北は愛知郡に、南は蒲生郡に、東は三重縣三重郡に界す。東境に釋迦ヶ嶽(一〇九二米)を中心として鈴鹿山脈が南北に連り、愛知川上支の谷を挾んで其西には南方の雨乞嶽より延ぶる山嶺が北へ連り、また雨乞嶽より一肢脈が西北方へ延びて南境上に連り北及び西北に傾斜して中央に蟠る。西部は低平なる湖東平野の一部をなす。愛知川の上支は南隣市原村の雨乞嶽附近に發し、東部を西北北し、次いで北境に沿ひて屈曲しつつ西流す。西部に至りて北流する細流を合す。産物には米・繭・麥・綠肥用作物・桑葉・茶・菜種等の農産物及び林産物等豐かなり。北部には西方八日市町より來る縣道走りて東部の杜葉尾に達す。西部には之より分れて南走し日野町に至るものあり、共にバス通ず。此地は江戸時代、稻垣安藝守の山上陣屋ありし處、近世は一萬三千石を領し、世襲して明治維新に至る。藩校文武館は明治二年稻垣太淸の創立せるもの。〔識苗神社〕大字山上に鎭座。鄕社。祭神、天兒屋根命・經津主命・武甕槌命。仁和元年の創建と傳ふ。貞享五年改築す。例祭、四月八日。

【山上庄】 臺灣臺南州新化郡の略中央。東は玉井庄、西は新市庄、北は曾文溪を隔てて曾文郡大內庄、東南は郡下の左鎭庄、西南は新化街に各相隣接す。管內西半は概ね平地にして農耕地拓け、東半は稍高く丘陵をなし、雜木林をなす。本庄は純然たる農村にして、住民の主業をなすは農業にして住民の約八割は農業に從事す。從つて農産は本庄下諸種産業中首位をなす。米・甘蔗・甘藷・落花生・胡麻・黃麻・蔬菜・豆類を生産し、芭蕉・龍眼・マンゴー・柑橘等を若干産出す。農家に於て副業として營むところの水牛・黃牛・豚・山羊・鷄・家鴨等家畜・家禽の飼育は甚だ盛にして、その年屠畜高も十數萬圓に達し、管外に搬出せらるるもの多し。東部山地よりは、若干の木材・薪炭材等を出すもその額大ならず。工業に於ては、殆ど見るべきものなきも、麵類・磚瓦類・醬油・籾摺及び精米等を主なるものとす。庄下の金融機關としては一の信用組合あるのみ。敎育機關としては、公學校一、分敎場一を有し、また社會敎化機關として青年團・部落振興會・國語講習所等設置せられ、近年皇民化運動の盛なると共に國語の普及は盛となりつつあり。鐵道の通過するなき本庄下の交通は必ずしも其便良好なりと稱する能はざるも、郡の首邑たる新化街を西南に隣せるを以て道路の發達著しく、概ね自動車の運行良好なれば、管內貨客の搬出入に不便を感ずる事なし。本庄管內は曾文溪中流の南方に當り、その開拓の歷史

古く、明末鄭氏の時代に一里を立てゝ新化里と稱せり。清氣後も之を襲ぎしが、後に拓殖區域の漸大するに伴ひ道光年間これを東・西・南・北の四里に分ちしが後更に南里を内新化南里・外新化南里の二里に分轄せり。是等の六里は我領臺後もその行政區劃として採用せられしが、大正九年十月新化北里中の大社、北勢洲の二庄(現大字)、新化東里下の山仔頂、牛稠埔(現大字山子頂、牛稠埔)、及び外新化南里下の潭頂庄(現大字)の地を以て山上庄を建てゝ現在に至れり。大字北勢洲・大社の地、また山子頂の地は往時鄭氏の開屯の地と爲せし處なりと云ふ。

ヤマガミ　山上村　鳥取縣伯耆國日野郡の南西部。北は大宮村に、東は黒坂村に南は日野上・多里二村に界し、西は阿毘縁村及び鳥根縣仁多郡に隣接す、面積四八・三七方粁。周圍には高距五百米臺の山岳連亙し、中央に向つて傾斜し盆地をなす。盆地内は大體に於て平坦にして耕作行はれ米を産す。特に糯米は品質優良にして有名なり。山地よりは木材・木炭を産し栗・山椒・山芋・香茸・山蕗等の産あり。また牧牛を營む。村道は四隣に通ずるのみにて交通なほ便ならず。

〔日谷神社〕　大字笠木字足羽に鎮座。郷社。祭神、大日本根子彦太瓊命外二神。創立年代不詳。例祭、四月十九日。

ヤマガル　山輕　北海道北見國枝幸郡頓別村の大字。省編北見線の山輕驛(大正八年設置)あり。

ヤマカワ　山川　【山川】　出羽國(羽後國・秋田縣)の古地名。和名抄に平鹿郡山川郷あり、その地今の平鹿郡横手町の邊に當る。

【山川村】　茨城縣下總國結城郡の北部。結城町の南方約七粁にて鬼怒川の西岸にあり。東は川を隔てゝ筑壁郡關本町と相對す。全村平地にて、中部及び西境附近は水田多く、他は畑地をなす。農業行はれて米を主産し大麥・小麥の産も多し。縣道よく發達し結城町・關本町及び東南方筑壁郡下妻町等に通じ、結城町・下妻町へはバスの便あり。大字新宿に綾戸城址あり。平將門の築きし支城にして、のち山川氏再築せるも慶長六年廢城となる。大字新宿の鷲神社は天日鷲命を祀る。

【山川村】　福岡縣筑後國三井郡の西南部。久留米市の東にあり。これと御井町を挾む。面積四・二方粁の小村。南部は耳納山塊の西端高良山(三一二米)の北斜面なれども北半は筑紫平野の一部にして土地平坦にして耕地拓け、米・麥・繭・菜・楮等の産あり。北部には縣道と省線久大線が東西に走りて後者の御井驛に近し。大正十五年、御井町の一部を本村に編入せり。和名抄、御井郡山家郷の内なるべし。〔安國寺〕大字山川にあり。臨濟宗南禪寺派。神代山と號す。天武天皇、九州佛法流布のため僧萬法唯一を派せらるゝや、武内神代これに歸依し伽藍を建立し萬法寺と稱す。慶應年中足利尊氏の命にて安國寺と改稱、爾來寺運隆盛を極めしが今はその盛觀なし。

【山川村】　福岡縣筑後國山門郡の東南部。瀦高町の東南に接し、東部は八女郡に南は三池郡に界し、東南部は兩郡中に突入して東南端は熊本縣玉名郡に接す。面積三一平方粁餘。東部は肥筑山塊の西端部に位し、東北境には清水山(三五一米)聳え、東境には牧山(四〇九米)の山地あり。西部は筑紫平野南部の矢部川の流域に屬し、土地平坦にして田畑よく發達し、米・麥・繭・菜・楮實等を産す。國道及び社線九州肥筑鐵道は西北より東南に貫通して後者の野町(大正九年設置)・筑後原ノ町・北關(以上大正十一年設置)の三驛あり。明治四十年、宮原村・竹海村・萬里小路村及び綠村の清水・河原の二大字の地域を合して新たに本村を置く。俗説に萬里小路某卿と稱せし京客の隱栖の地と傳ふるも詳かならず。〔八幡宮〕大字竹飯に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・住吉三神外一神。社記に據るに光孝天皇仁和二年の創建。例祭、九月二十九日。〔乙姫神社〕大字大神に鎮座。郷社。祭神、豐玉姫命。創立年月緣由不詳。例祭、十二月十六日。

【山川町】　鹿兒島縣薩摩國排宿郡の東南部。薩摩半島の東南端を占め東方の大隅半島に相對して鹿兒島灣口を扼し、指宿町の南に接し、東と南は海に臨む。全村丘陵いたる處に起伏して高燥地をなす。西部には開聞火山群の辻之嶽(二二八米)あり。北部の甕尼嶽の東に鰻池あり。東岸の北部には火口湖岸の一部の決潰により成れる山川港あり、灣内水深く大船巨船を入るるに便なり。南には西南部より東南方へ突出せる赤水鼻・長崎鼻等を有する小半島ありて北に曲浦を抱く。鰻池は鰻池火山の火口湖にて水面の高さ一二六米、西方の池田湖より六〇米高し、楕圓形をなし、東西稍短かく短徑一・一粁、長徑一・三粁、周圍四粁、深度平均三七米、周緣は絶壁をなし、ただ東北部湖岸の温泉の湧出する邊に一小平地あり。注入河殆どなく排水口亦なし。水量の豐富なるは湖底湧泉の豐富なる爲なるべし。東南岸に現今の水面より稍々小高き所の熔岩の間に割目ありて水は其處より伏流となりて火口壁外に流出したりと傳へらる、現今はそれより稍々北東に當りて火口壁の最も低く水面上二〇米を越えざる附近に人工トンネルを穿ちて排水し南斜面の荒蕪地に灌漑し多少の水田を拓きたり。池中には鰻・鮒・鯉・沙魚等棲息し、沿海の漁獲と共に水産額は町内生産の首位を占む。工産これに次ぎ米・麥・繭の農産は第三位にあり。省線指宿線東部に通じ山川驛(昭和十一年設置)を置き縣道またこれに並行し、中央より岐れて西方に走るものもありて自動車・車馬の便よく、また航海の便よし。この地は和名抄、排宿郡排宿郷の地なり。山川港は古く山川津と稱す。慶長十四年三月、國守島津家久、琉球を征するや、家久この地に來りて軍事を指揮し、舟師この港より發す。四月、島津の兵琉球王を降し、國王尙寧等を率ゐて、この港に旋る。また薩摩惟寓、嘗て明國に渡航せんと欲し、海上風波に遇ひて此港に著す。乃ち此地の正龍寺に僧桂庵及び文之の遺書、讃點等を得たり。昭和五年に町制を施行す。

〔長崎鼻〕　開兒水の南端、海中に突出する岬なり。西に秀麗なる薩摩富士の開聞岳、南は渺々たる太平洋上に浮ぶ竹島・屋久島・硫黄島・黒島を望み、東は大隅半島南に延びてその末端は佐田岬となりて海に落つるあり。四邊の眺望の壯觀云ふべからざるものあり。浦島太郎の傳説を傳へて龍宮神社を祀り、祠邊には蘇鐵自生す。〔蘇鐵自生地〕指定天然記念物。編元竹山にあり、蘇鐵自生北限地の一なり。〔開聞温泉〕開兒水、白砂青松の海岸にあり、西に開聞岳を望む。鹽類泉にて飲用に適す。〔鰻温泉〕鰻池の東北岸にあり、一帶の地に熱湯噴出、白煙濛々と立昇る。泉質は硫化水素泉なり。西郷南洲が明治七年桂冠の後、來浴中、江藤新平翁に來訪せし家も殘る。〔山川温泉〕山川港の西岸成川にあり、風光明媚の境なり、温泉は田村湯・大村湯・みのる湯・須の湯あり、いづれも鹽類泉なり。田村湯は飲用に適す。〔熊野神社〕大字編元に鎮座。郷社。祭神、速玉男神外二神。創建年代不詳。例祭、一月七日。

ヤマキタ　山北　【山北町】　神奈川縣相模國足柄上郡の中部。東は松田町に隣る。酒匂平野の北端を占む。丹澤山塊の南麓に當り、北部は謂ゆる御坂層にして南部には足柄層・山北層等の第三紀層發達し、酒匂川谷並びに其の支流の沿岸には砂礫層より成る沖積層分布す。北部山地は高度六百—八百米に達するも、急に低下して三百米内外の丘陵地となる。其の界は謂ゆる神縄逗隠層線にして、北方の御坂層は南方の足柄層上に衝上して此處に著しき構造運動を示す。地質學上極めて重要視せらる。山地には林産多く、平地には農業行はれて麥・甘藷等を産し養蠶もまた行はる。縣道は南部を横走し東は松田町西は静岡縣方面に通ず。主要聚落はこれに沿ひて西部に發達す。省線御殿場線また之に沿ひ西部に山北驛(明治二十二年設置)を置く。大字山北は江戸時代、川村關の置かれし地にして、また秀郷流の氏族、波多野氏の一流が河村氏を稱せし處なり。江戸初期の經世家、湯山彌五右衛門(贈從五位)の出身地たり。〔室生神社〕宇山北に鎮座。村社。祭神、建御名方命・譽田別命・天兒屋根命等十四柱。本殿・拜殿・幣殿を具ふ。

【山北村】　高知縣土佐國香美郡の南部。赤岡町の北方、野市町の東北方にありて共に約五粁を隔つ。面積四・六方粁の小村。北境に聞樂山聳え、南部に平坦地あり、香宗川の上支は東北より西南方に流る。この平坦部は高知平野の東端に當り耕地よく拓く。農業よく行はれ米・繭等の産多く、また柑橘類を栽培す。縣道は用の右岸に添うて南西に走り、赤岡町に至りて、阿波街道に連り、また社線高知鐵道の赤岡驛へバスの便あり。この地は幕末、大和の義擧に應ぜし安岡嘉助(贈從四位)及び安岡覺之助(贈正五位)の出身地たり。〔淺上王子宮〕大字山北に鎮座。郷社。祭神、天照皇太神。正平年間に當郡平子村より勸請せりと。例祭、七月二十一日・十月十九日。〔觀音堂〕新義眞言宗智山派。神魚二年に行基の開創。行基自刻の本尊十一面觀音立像を安置し岩清水山觀是院惠日寺と號す。明治六年廢寺となりいま觀音堂のみを殘す。國寶に本尊一驅・金剛界大日如來坐像(木造)・胎藏界大日如來坐像(同)あり。境内の乳銀杏は授乳の驗ありとて著はる。

【山北】　筑後國(編岡縣)の古地名。和名抄に生葉郡山北郷あり、その他今の浮羽郡山春村の邊に當る。

【山北村】　熊本縣肥後國玉名郡の東南部。高瀬町の東南約七粁にあり、東は鹿本郡に界し南隅は飽託郡に接す。熊ノ岳(六八五米)北嶺の北面にして、北に緩傾斜し山林多きも、中部の巾狹き低地には米・麥・繭あり。省線鹿兒島本線が東北隅を掠めその木葉驛に近し。本村は西南戦役に激戦地として知らる。

ヤマグチ　山口　【山口村】　岩手縣陸中國下閉伊郡の東部。宮古町の西北に接す。面積七八・二六方粁。東南より西北に長く約一六粁。北上山地の東斜面に屬し、西北境に峠ノ神山(一一二三〇米)聳え、中部に大鰐谷森(七八八米)あり、全村概ね山地をなす。土地東南方に傾斜し、田老川は峠ノ神山の南谷に發して村の中北部を東流し川谷に巾狹き平地あり。米・大豆・稗・大根・馬鈴薯・繭・木材・木炭・天然氷等の産あり。省線山田線宮古驛へは東南約二粁あり。人口密度は一方粁につき三六人なり。

【山口村】　山形縣羽前國北村山郡の南部。西南は天童町、南は東村山郡に隣接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東南境に雨呼山(九〇六米)、東境に水晶山(六六八米)聳え、各西北に傾斜し、亂川は北部を、その支流は中部を各西流し、村の東南部には山地をなすも、西北部には山形盆地の東緣なる亂川扇狀地に屬して平坦なり。村の生業は農業を主とせるも水田少きを以て多く養蠶に從事し、その産額は縣下一二を爭ふ。また毎年十月より翌四月に至る期間には鴨猟行はれ、千數百圓の收入あり。村内に鐵區一二萬餘坪を有する山口鐵山あり、鐵種は金銀銅亞鉛にして昭和十年より事業を開始す。道路は村の西部を西南に貫通し、省線奥羽本線天童驛へはバスの便あり。〔春日神社〕大字道漏字屋敷續に鎮座。郷社。祭神、武甕槌神外三神。創建年代不詳。例祭、陰暦八月十九日。

【山口炭礦】　茨城縣多賀郡磯原町にある石炭山。鎮區五三萬餘坪。昭和十年の産額は塊炭五、九七三瓲、粉炭一八、四七二瓲、粗炭一一、一四二瓲(この總價額

一三萬餘圓）にて、同年六月末の鑛夫數は二一六人、現に準重要鑛山に列す。

【山口村】 埼玉縣武藏國入間郡の南部。所澤町の西南に接し、南は東京府北多摩郡と隣す。狹山丘陵の中央部を占め、西部丘陵間に東京市上水道の山口貯水池あり。東部丘陵間に畑地拓け甘藷・麥・米等を產し、養蠶盛にて繭の產多く機業行はれて村山絣の產額大なり。縣道所澤町に通じ、社線武藏野鐵道は西所澤驛より支線を分ちて山口貯水池附近に通じ、山口貯水池・村山貯水池際・下山口の三驛（共に昭和四年設置）を置く。山口貯水池附近は村山貯水池と共に東京市人の行樂地なり。武藏七黨の山口氏は此地に居りしものか。鄕社中氷川神社あり。

【山口貯水池】 埼玉縣入間郡にある貯水池。山口村外六ヶ村に跨る狹山丘陵の北側氷川谷卽ち山口谷を利用して多摩川の水を取入れ、東京市上水道用に供するものにして、池は周圍約二〇粁、滿水面積約一六五ヘクタール、貯水量一、七六八萬立方米、卽ち村山貯水池の一倍半とす。昭和二年に起工、昭和八年に竣工す。貯水池邊は風光勝れ、近時遊覽地として東京人士の來遊する者多し。

【山口】 上總國（千葉縣）の古地名。和名抄に山邊郡山口鄕あり、今の山武郡大和村にて大字山口はその遺稱なり。

【山口】 石川縣能美郡にありし村。明治四十年宮内村と合し山上村となる。

【山口村】 長野縣信濃國西筑摩郡の南部。木曾谷の溪口にありて、西は岐阜縣に境す。中津町（岐阜縣惠那郡）より約五粁北東にあり。東南境上に木曾山脈の延長高土幾山（一〇三七米）あり、北西は木曾川の峽谷なり。從つて木曾川谷の河岸段丘上に僅に水田桑畑を有するのみなり。山地は有名なる木曾山林の一部をなす。耕地面積一五三町（田七八町、畑七五）、桑畑六六町。全面積に對する耕地率は九・三%にして山村的特色を示す。

【山口】 飛驒國（岐阜縣）の古地名。和名抄に大野郡山口鄕あり、その地今の大野郡大八賀村なるべく、大字山口はその遺稱なるべし。

【山口】 遠江國（靜岡縣）の古地名。和名抄に佐野郡山口鄕あり、也萬久知と訓ずその地今の小笠郡東山口村・西山口村の邊に當る。

【山口】 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年に外一箇村と共に廢され幡山村を置く。此地は和名抄、山田郡山口鄕の地なり。

【山口村】 兵庫縣但馬國朝來郡の西南部。東南は生野町に接し、西は宍粟郡に隣り西北部は養父郡に圍まる。西境には段ヶ峰（一一〇三米）・笠杉山（一〇三二米）等が聳え、西北隅には須留ヶ嶽（一〇五四米）屹立し、殆ど山地にして東南方に傾斜す。圓山川は東南部を貫きて北に流れ、佐囊川及び田路川は共に西部に發し中央を流下して之に合す。圓山川の沿岸に僅かに低地を見る。東部には縣道及び省線播但線が縱貫して後者の新井驛（昭和九年設置）あり、縣道は略中部にて二條に分れて北走す。產物は繭・米・麥類・蔬菜・食用農產物・製茶・果實等の農產物及び鷄卵・醬油・木製品・刄物等あり。錫の產を以て有名なる明延鑛山（鑛種は金銀銅鉛錫重石）の鑛區は當村と北隣の養父郡南谷村・西隣の宍粟郡繁盛村に跨る。當鑛山の山元より當村大字佐囊字神子畑までは鐵索ありて鑛石を神子畑の選鑛所に運び、此處にて錫鑛と其他の鑛石とを區別す。而して錫鑛は明延鑛山に於て製錬し、其他は香川縣の直島製錬所に送りて製錬す。神子畑と生野鑛山間にも軌道あり、生野よりの錫鑛送致せられ、生野產の錫鑛と共に合併製錬せらる（明延に就ては南谷村參照）。また村內に約二七萬坪の鑛區を有する新井鑛山（鑛種は銀銅鉛亞鉛）あり、昭和十年には銀銅鑛一、五二八瓩を產す。當鑛山は住友別子鑛山會社の稼行にて、同十年六月末の鑛夫數は三四人、鑛石は四坂島製錬所に送致して合併製錬す。この地は和名抄、朝來郡山口鄕の地。大田文に「山口鄕、田道庄畠十五町、本家一條殿」とあるも此處なるべし。尊攘の志士、河上彌市（贈從四位）・戶原卯橘（贈從四位）は共に本村の人。〔八代の大樟〕指定天然記念物。一株、樹勢壯大にして樟の巨樹として有數のものなり。

【山口村】 兵庫縣攝津國有馬郡の南部。六甲山によりて西宮市の北に接し、西南は有馬町の北及び東を圍む。土地東南より西北に長し、東南境には六甲山脈が連り、その東端に庵頭谷あり、東境に畑山（五二九米）を起す。武庫川支流の船坂川は東を、有馬川は西を共に北流して北隣の道場村に出でて本流に合す。西の有馬川流域に稍々低地あり。米・蔬菜・食用農產物・裸麥・繭・果實・切花等の農產物を產し、竹製品の產額著しく、經木製品・木製品・藁製品・紙・鷄卵等も出す。當村と塩瀨村とに跨りて有馬鑛山（鑛種は金銀銅硫化鐵）あり、昭和十年より事業を開始し、同年は銀銅鑛を僅に一〇瓩を產出せるのみ。西部には南北に通過する縣道あり。北部には之より分れて西ノ宮街道が東走し、南部には有馬街道が橫走す。省線有馬線は西部を縱走し、有馬口驛（大正四年設置）あり。〔公智神社〕大字下山口に鎭座。縣社。祭神、久久能智命・建速須佐之男命・奇稻田姬命。延喜の制、官幣の小社に列せられ、新年祭に預り、鍬靫各一口を加へらる。山口莊內の總社として崇敬せらる。例祭、十月十六日。〔明德寺〕大字上山口にあり。眞宗大谷派。創建年代不詳。當初山口總道場と稱せしが、東本願寺十二世教如より明德寺の額を受けしより現號を稱す。貞享三年類燒す。本尊阿彌陀如來立像一軀（木造、室町初期作）は國寶。

【山口村】 和歌山縣紀伊國海草郡の東北部。和歌山市の東北約六粁にあり、東は那賀郡に接し北は大阪府泉南郡に界す。北境を東西に連る和泉山脈が南側斜面を占め、中部以北は山地にして、北部には菟砥川あり、西部に出で東境に下り北折し大阪府泉南郡に出づ。南部は紀ノ川流域の低平地を占め田畑よく拓く。米・麥・柑橘等の農產物を產し綿織物を出す。東境に沿ひて大阪街道北走し、南部には之と交叉する淡路街道あり。社線阪和電鐵はその北方を東に走り東境の大阪街道と並走し菟砥川谷を下りて大阪府に延ぶ。古くは和名抄、名草郡野應鄕の地にて、大日本史によれば大館氏清、足利義滿の將山名義理・細川賴元等の軍を本村の山中に破るとあり。大字湯屋谷には白鳥關址あり、大化二年に置かれたる關塞なりしが、この廢止年代詳かならず。白鳥關の手束弓の故事は今昔物語・詞林采葉抄・俊祕抄等に見ゆ。

【山口】 出雲國（島根縣）の古地名。和名抄に島根郡山口鄕あり、その地今の八束郡持田村・川津村の邊なるべし。

【山口村】 島根縣出雲國簸川郡西南端。石見・出雲兩國境に當り、大田町（安濃郡）の東方約一三粁の東方山口に位す。東及び南は飯石郡、西は安濃郡、北は田儀・田岐・窪田三村に接す。面積四六・五七方粁。三瓶火山（一一二六米）の西南境上に蟠り、村內大部分は高さ二－三百米の臺地性山地をなし、神戶川中部を北流し、沿岸に聚落多し、山間所々の窪地及び流域に耕地存す。村內は農業と林業行はれ米・麥・繭・木炭の產多く家畜類・酒類等また產す。西方省線山陰本線石見太田驛へバスの便あり。此地は和名抄、神門郡伊秩鄕の內にして、風土記、不在神祇官、波須波社は此處にあり。〔波須波神社〕大字下橋波に鎭座。鄕社。祭神、意富斗能智神・意富斗能邊神。本殿・拜殿隨神門を具ふ。例祭、十月十九日。

【山口縣】 中國地方の西端の縣。北と西は日本海、南は瀨戶內海にして、九州北端との間は僅かに一葦帶水の下關海峽を隔てて門司に對す。周防・長門の二國を含み、面積六〇八二方粁。茨城縣より僅に狹く內地道府縣中第二十四位を占む。山口・下關・宇部・德山・防府・萩の六市と玖珂・熊毛・都濃・佐波・吉敷・美禰・厚狹・豐浦・大津・阿武・大島の十一郡を管し、昭和十二年十月推計人口一、二一三、四〇〇人。一方粁人口密度一九九人。縣廳は山口市にあり。〔地形〕中國地方の西部に當り、東部より西部に次第に斷層によりて階段的に高度を減ず。西部は沈降大なりしため東部島根・廣島兩縣境の部分最も廣く、莇ヶ岳（一〇〇四米）・平家岳（一〇六六米）・冠山（一三三九米）・羅漢山（一一〇九米）聳ゆるも、縣の西端なる高峯狗留孫山・華山（七一三米）・一位ヶ岳（六七二米）は遙かに高度を減ず。地形は東北西南の方向を持つ中國地方に一般的なる斷層線と、略これと直角をなす斷層線に支配され、多くの地塊に分割さる。これ等の構造線は著しき地形的特徵を示し、例へば、周防において島田川の流路は東北に延びて岩國に出で廣島灣の西邊をなす斷層崖をなし、更に廣島・三次に連り、主要交通路にも利用せらる。縣の中央にありては宇部より椹野川の谷を山口に達し、物見山（七四六米）の山崖より高津川の支流に沿ひ、津和野・日原に延び日本海に面する斷層をなし、中國山地の西方への派出を切斷す。この線はまた山陰道が山陽道に達する一交通路なり。萩を中心とする日本海岸線はまた須佐より萩の海岸線を形成し、西南に延長し、天井山（六〇二米）を經て響灘の觀音崎に達す。陸地の沈降は瀨戶內海側は日本海側に比して少く、海岸は出入に富むリアス海岸を形成し、海上には大島を初めとし長島・笠戶島・向島等多數の島嶼あり。これ等は沈沒を免れし山頂を示すものなり。河は瀨戶內斜面には岩國川・島田川・佐波川・椹野川・厚東川・厚狹川等ありて南流し、いづれも三角洲を形成し、防長海岸平野をつくる。日本海斜面には阿武川・粟野川あれども、いづれも川口に僅かに扇狀地域と三角洲を形成するのみ。中國山地は古期の形成になり、準平原をなす。厚東川の上流なる秋吉臺には石灰岩層ありて準平原をなし、石灰岩地準平原の特色たるカルスト地形を示す。中國山地は古期の生成にかかる花崗岩・片麻岩の山地にして、北部には所々に玄武岩の噴出あり。山地は花崗岩の風化によるバッドランドの景觀を示し、海岸平野はこれら風化岩の堆積によりて鹽田として好適なる沖積地を作り、防長鹽田に利用せらる。〔氣候〕縣は山陽と山陰の接觸部に當り、防長海岸平野地域は瀨戶內氣候を示し、降水量少く、晴天多く蒸發盛なり。殊に夏季は蒸暑く朝凪夕凪の現象あり。萩附近は裏日本氣候の影響を受け、瀨戶內地方に比し冬期寒冷にて降雪あるも、氣溫は尙ほ瀨戶內に類し柑橘の栽培にも適し、萩は夏蜜柑の栽培地として名あり。霧は下關海峽に多く時に船舶の航行に支障を生ず。之は本州・九州の山地がこの海峽を挾み谷狀をなすため氣流沈滯し、工業地域並に航行船舶の煤煙によりて誘發するものなり。〔產業〕生產構成は工產四九%、農產二一%、水產一五%、鑛產八%、林產四%、畜產二%にして、工業は全生產額の半に近し。北九州工業地域と共に滿・支・印より內地に入る關門に當り位置の良好なるに因る。工業地としては德山・岩國・下關等が山陽線の沿線に勃興す。最大產額を占むるは人造絹糸にて年額一三九五萬圓に達し、岩國の岩國川の溪水を利用する。農業は主として防長海岸地域が核心をなし、年產約一五〇萬石の米を主體とし府縣中第一五位にあり、其他麥類約四〇萬石、食用農產物一六四萬圓、果實は一三四萬圓にして萩附近の夏蜜柑有名なり。また蔬菜園藝農產三八二萬圓あり。養蠶は東部地方に行るゝも微弱にして、畜產の中養鷄業發達し鷄卵の產多く、之は工業地域に近接するためとす。牧牛は中國牧牛地帶

の西端なる七ヶ野の谷間を流れ、ほぼ中央を南北に流れて瀬戸内海に注ぐ。本流の長さ二里半、流域の面積は二百平方里、流域の大部分は山地にして、僅かに沿岸の一部に平野あり。本流の上流は二股に分れ、東流するものを東川と呼び、西流するものを西川と呼ぶ。東川は山口の西南、西川は山口の西北を流れ、共に山口の西南なる小郡の西方に於て合流し、一流となりて南に流れ、小郡の西を過ぎて海に注ぐ。東川は長さ二里半、西川は長さ三里半、合流後の本流は長さ一里半にして、東川の流域は西川の流域の二倍半に当る。東川は山口の東南なる鳥居原の西方、大内村の北方に於て、二股に分れ、東流するものを東川と呼び、西流するものを西川と呼ぶ

その地名は今日からさらに字春日川村・上分町の名ならんか。

【山口村】 福岡縣筑前國筑紫郡の南部。二日市町の南に接して東北より西南に長く、西端西半は佐賀縣三養基郡に界す。北部は山地にて西南端の大部分は平地なり。筑紫川二支の山口川が北部を東流し山麓を東に繞りて東南流し南麓中村に出づ。本・麥を東に繞りて東南流し林産もあり。有線電兒島本線の福岡驛(西方約七粁)及び赤線筑手軌道の鉄道驛丸木驛(東南約一粁)へそれぞれバスの便あり。

【山口】 佐賀縣神埼郡にありし村。昭和七年、鈴に[illegible]村と合して北村と改つ。

【山口炭鑛】 長崎縣北松浦郡にある石炭山。鑛區は佐々村と小佐々村とに跨りて三千萬坪、山口炭鑛會社の稼行、昭和十年の產額は約炭三六、〇〇〇瓦、粗炭一、四五〇瓦(この數所谷三六萬瓦)にして、同年六月末の鑛夫數は三七九人なり。現に神平炭鑛山に對す。

【山口】 長崎縣北松浦郡にありし村。昭和五年に[illegible]郡に改稱す。

【山口村】 大分縣豐後國下毛郡の東北部。中津市の南方約六粁に位す。南部に八面山(六五九米)を控えて北方に開ける。北部は中津平野の一部にて地形平坦にして詳細よく拓け、大丸川の上支は南部中央を北流し、東北部に東南方より來る本流と合し北麓の本耶村に出づ。米・麥・蠶を產す。西北部に赤穂郡流通にて上ノ原驛・護山驛(共に大正三年設置)あり。(南山神社)大字田口に鎮座。祭神奈良時代不詳。例祭、毎年四月二十日。

ヤマクニ　山國

【山國】 出雲國(島根縣)の古地名。和名抄に能義郡山國鄕あり、その地今の能義郡大塚村なるべし。

【山國川】 大分縣の西北部にある河。源を英彥山東麓の、下毛郡耶馬溪村に發し、三郡村守實を經て郡馬郡木村に發し、鈴村に屬する新郡馬郡を宜く支流となる。合流せず、郡馬郡の前野、柿坂・中を經て二つの流谷の中心耶田に注し、それより中津市に於て周防灘に注ぐ。全流域は郡馬郡・下毛郡・佐賀郡・上毛郡・宇佐郡・東北郡の一部にして、

し、南は美濃郡西美濃郡岩瀬町と隣り。東端附近は低き山地をなすも、其他は概ど平地にて、美濃名小貝川西南に流る。村内本田多く一部は頗地をなす。農業行は特に米・麻・繭の産も多く、特産物としては駒下あり。副業として叺をつくる。藩政は館岡町・鉾子町及び岩瀬町に渡り、名藩館岡藩に北部を支配し て、西田井郷（大正二年設置）を置く。大字君島は、相武平氏、千葉氏の流、君島氏の居りし所。大字南高岡は日光二荒山神社の滝上人の滝生地たり。

【山術】 石見国（島根縣）古地名。和名抄に美濃郡山術郷あり。也末在本と同字。その地今の中西村・高井町の邊か。

ヤマサキ　山崎

【山崎】 名藩南部本藩の一郷（明治三十七年設置）。北海道藩家国山崎郡にあり。

【山崎】 美濃国（岐阜縣）の古地名。和名抄に石井郡山崎郷あり、その地今の海津郡高須町山村に當る。大字山崎はその遺称なり。

【山崎】 駿河国（静岡縣）の古地名。和名抄に駿河郡山崎郷あり、也賀左本と同字。その地今はの駿東郡大岡村・金岡村の邊か。

【山崎】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年他の二町三郷村と共に廃し更ふ て東・西・北・江・町を置く。

【山崎】 山城国（京都府）の古地名。和名抄に乙訓郡山崎郷あり、その地は今の乙訓郡大山崎村の邊にて、中世には山崎庄と 称せし地なり。

【山崎】 摂津国（兵庫縣）西宮郡の南部。猪名川中流の左岸に沿ふ。面積僅に三・五三方粁。西部は正覚の東南部面なるも東部には低平なる平野地帯に沿ひて鉄道・猪名川が南下し、北端には伊丹川・西 南端には平野川あり、ふな東南流して非常洪川に合す。平地狭きも地味肥沃にして 田畑よく拓け米・麦類・蔬菜の産あり。また蒟蒻・木製品・瓦・鉄・反物・苦荞 等を出す。大字南は郡の明能部にあり て鬼 力の特産蒟蒻本地とならり、而内の中部にあり り。人口七・〇九七人にして一方粁の密度は二〇二人を算す（伊丹市均衡密度に七四人なり）。因幡街道東部を縦走し、また中部を東に西走る鉄道あり、市街地は其交叉点に発達し白鶴酒の産地なり。新西高校所の在りし地にして、いま寺林寺・ 鳥塚神社・法田寺跡・宗家の支流として此地に六翼石なる巨石あり、しば 宜木十七年陸封せら れ、本多忠政の次子政信一万石を分封せられ、延宝七年その子忠英 に伊丹城を置き、子孫相継いで明治維新に至る。（八幡神社）藩社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后外一柱。池田新武・松平相元を始め山崎城主の崇敬厚かりし社。例祭、十月十五日。

【山崎村】 和歌山縣紀伊国那賀郡の西北部。和泉山脈の南麓面に位して紀ノ川北岸にあり、東南部は粉河町に界す。西は 海草郡に、北は大阪府泉南郡に隣る。北 部は山地をなし起伏多く、中央に粉河・西 国三十三番霊場の一なる粉河寺あり。粉河 寺は宝亀元年の開創にして、本尊は千手観 音なり。門前は粉河町の中心にして商業 盛んなり。粉河寺は明治維新の廃仏毀釈 に際し、その所領を没収せられ、僧侶は 一時離散せしも、その後復興せり。粉河 寺の西南に接し、紀ノ川南流し、また これに合する丹生川あり。両者共に 多く砂礫を流す。西北部の谷間は 平野に開け、水田多く、米・麦・蔬菜 の産多し。粉河寺の西南に接して 粉河 町あ

に廃藩置県の際、京都府・堺県・奈良県・乙訓郡・宇治・久世・綴喜・葛野・相楽郡の七郡に分ち、京都府の管轄下に属す。この国はもと山背国に作る。京都・宇治・久世・綴喜・相楽郡は武士等の開墾する所、葛野郡は秦氏の開墾する所なり。明治四年、京都・宇治・久世・綴喜・相楽郡は堺県に、葛野郡は奈良県に移り、翌年、堺県は奈良県に移り、翌年、大山崎の地に移る。甲斐武天皇の延暦十三年、都を一時この国の相楽郡恭仁郷に移され、ここを山背国と称し、国府を置き、大和国とは別国となる。桓武天皇の延暦三年、都を平安京に移し、恭仁宮を廃して、その材を移して平安京の造営に用いられたるが、後、恭仁宮は再び国府となる。桓武天皇の延暦十年、都を難波に移し、翌年、難波宮を廃して、その材を移して平安京の造営に用いられたるが、後、難波宮は再び国府となる。桓武天皇の延暦十三年、都を山背国に移し、翌年、長岡宮を廃して、その材を移して平安京の造営に用いられたるが、後、長岡宮は再び国府となる。桓武天皇の延暦三年、都を山背国に移し、翌年、長岡宮を廃して、その材を移して平安京の造営に用いられたるが、後、長岡宮は再び国府となる。桓武天皇の延暦十

ヤマタ　八代村　茨城縣下結國浜島郡の北部。城町の北方約四粁にて、阪沼川の西岸にあり。東は川を隔てて結城郡と相對す。全村平地にて切地多く西南部には小田・木田の二村あり。農業行はれて米・大麥・小麥を產し、また苗木の產出多し。縣道河内町に通じ、何れもバスの便あり。

ヤマタ　山田

【山田川】　岩手縣陸中國下閉伊郡の東南部。東は山田灣に面し、西は上閉伊郡に接す。北上山地の東麓に屬し、土地東西に長く、北端は山母森（八〇七米）・五葉森（五三二米）・鬼谷ヶ岳（五五二米）あり。關口川は西部に走り、山田灣に注ぐ。河口で町の中部を東流し、山田灣に注ぐ。市街は灣岸に近く小平地あり。市街は灣岸に近く治び漁業盛し、對岸には船越半島突出して風波を遮り三陸港中に於ける魚港の一なり。町の生業は漁業を主とし、これに次ぎ農業・林業等行はる。水產物・特に鮑・海藻の產多く、また米・麥・大豆・雜穀・木炭等の產あり。道路は東部沿岸を南北に通じ、北方宮古町へ乘合の便あり。

【山田】　陸奥國（岩手縣）の古郡名。和名抄に餘戸郡山田郷あり、也萬多と訓す。今の東餘戸郡山田村の邊に當る。

【山田郡】　奥羽東北部の一郡。岩手縣の西北部を走る。東北本線盛岡驛（盛岡市）に發し、區界・川內・宮古・陸中山田驛等を經て大船渡（上閉伊郡大船渡町內）に至る。全長二四五・二粁。

【山田村】　秋田縣秋田郡の西北部。東北に南秋町に、西北に西均等內町に隣接す。西南部には大高森山（六四三米）、南部には鉢山（六一三米）等あり。東北方に傾き北部は稜手金剛に屬し土地東北に傾き物川に東流する北流す。米・麻の產多し。

【山田村】　茨城縣久慈郡の南部。東は山田灣に面し、西は上閉伊郡に接す。北上山地の東麓に屬し、土地東西に長く、北端は山母森（八〇七米）・五葉森（五三二米）・鬼谷ヶ岳（五五二米）あり。關口川は西部に走り、山田灣に注ぐ。河口で町の中部を東流し、山田灣に注ぐ。市街は灣岸に近く小平地あり。市街は灣岸に近く治び漁業盛し、對岸には船越半島突出して風波を遮り三陸港中に於ける魚港の一なり。町の生業は漁業を主とし、これに次ぎ農業・林業等行はる。水產物・特に鮑・海藻の產多く、また米・麥・大豆・雜穀・木炭等の產あり。道路は東部沿岸を南北に通じ、北方宮古町へ乘合の便あり。

【山田郡】　奥羽東北部の一郡。岩手縣の西北部を走る。東北本線盛岡驛（盛岡市）に發し、區界・川內・宮古・陸中山田驛等を經て大船渡（上閉伊郡大船渡町內）に至る。全長二四五・二粁。

【山田村】　秋田縣秋田郡の西北部。東北に南秋町に、西北に西均等內町に隣接す。西南部には大高森山（六四三米）、南部には鉢山（六一三米）等あり。東北方に傾き北部は稜手金剛に屬し土地東北に傾き物川に東流する北流す。米・麻の產多し。

【山田村】　茨城縣久慈郡の中央部を南流する川。高倉村の北部東北山（五二四米）田の西麓に出で高倉・天下野・柴和田・山田・久米等の各村の野邊を流れ、宇久井村にて本流久慈川に合流す。流程約三〇粁。

〔山田〕　下野國（栃木縣）の古郡名。和名抄に那須郡山田郷あり、その地は今の那須大山田村の邊か。

【山田郡】　群馬縣（上野國）十一郡の一。南北に長く北に數多郡、西に新田郡、南は邑楽郡、東に栃木縣足利郡・安蘇郡と接す。中央に利生市あり。南北に二分す。面積一六七平粁。東北部は足尾山塊西南部面の一部にて、東北端には根本山（一一一九七米）・三峰山（一〇八八米）等あり。郡內には、これに續く山塊連り、水源地は利根川に注ぐ。山塊に發し、東南に流れ、利根川に注ぐ。東南部は平地にて、桑園多く、山田川の流域は桑園多く、養蚕行はれて繭・米・小麥・大麥を產す。縣道は川沿ひに南走して太田町に通じ、バスの便あり。流域は川沿ひに沿ひて發達し、東流も主としてこの縣道に沿ひて發達す。村內に學校組合立高等小學校あり。

和の地は和名抄に、久慈郡山田郷にして、沿革は高和氏佐竹氏の統の高和氏を稱せし所、高和氏佐竹氏の統の高和氏を稱せし所、大字宇賀瀬地にあり。（青蓮寺）山大字宇賀瀬地にあり。慈宗本寺寺宗。臨濟宗。寺觀は大字下町に在り、觀音堂と稱す。寺觀は大字下町に在り、觀音堂と稱す。寺觀は大字下町に在り、觀音堂と稱す

【山田村】 京都府丹後國與謝郡の西南部。加佐谷に在し、野田川流域の小野盆地と其の北部の花崗岩山地とは北に高く南に傾く。北部の山地と南方の平地山・鍋山・鍋知山間の街道は右の山地と平地との境に在り。北部の山地は三四〇餘米に過ぎず、其の中央を南北に流下する田鶴野あり、東西に延び、平方の三系村の谷平地に沿り、明治時代に廃置郡の沿ずる所なり。また谷非常に西北より河底谷西方に走るもの、其の一部は岩盤を穿て南西に向ひ、本村を經て宮津市に向ふ南方の盆地に出る。際は明治なり。何れも昭和三年北丹鉄道に沿ひ、山田盆地は本村に所謂山田盆地谷入口の一部にして丹後盆地の北端を占し平地は百餘十萬圓に達し、農業地として著しく進歩す。農業は水田多く、米・麦・菜種・蔬菜・養蚕・牛馬・家禽・其他の産物多し。本線の第六本線(東北約四粁)に近し。往古山田庄と稱し、往國だけ。元亀年間は赤松氏、天文年間は細川氏、天正年間は織田氏の領地なりし。江戸時代には藩代に所管三岳石藩門、宮交の初期のは藩領の藩主より正德の頃まで石川主殿、宝暦年間に松平外の藩主となり、文政年間に至る。明治廃藩置県後、宮津藩に属し、明治三年北丹鉄道に沿ひ、山田村古城より、本線沿の田舎村に分れ、其の中央を南北に流下する田鶴野あり、東西に延び、平方の三系村の谷平地に沿り、明治廃止なる廃置郡の沿ずる所なり。また谷非常に西北より河底谷西方に走るもの、其の一部は岩盤を穿て南西に向ひ、本村を經て宮津市に向ふ南方の盆地に出る。際は明治なり。何れも昭和三年北丹鉄道に沿ひ、山田盆地は本村に所謂山田盆地谷入口の一部にして丹後盆地の北端を占し平地は百餘十萬圓に達し、農業地として著しく進歩す。農業は水田多く、米・麦・菜種・蔬菜・養蚕・牛馬・家禽・其他の産物多し。本線の第六本線(東北約四粁)に近し。往古山田庄と稱し、往國だけ。元亀年間は赤松氏、天文年間は細川氏、天正年間は織田氏の領地なりし。江戸時代には藩代に所管三岳石藩門、宮交の初期のは藩領の藩主より正德の頃まで石川主殿、宝暦年間に松平外の藩主となり、文政年間に至る。明治廃藩置県後、宮津藩に属し、明治三年北丹鉄道に沿ひ、山田村古城より、本線沿の田舎

自由もの三四戸、商業を営むもの四〇戸、なり。農業四二戸、家内業二戸、其他一〇戸なり。松茸産物には米・麦・菜蔬・蔬菜・養蚕・牛馬・家禽・其他一〇戸あり、

産物等あり。神戸市より延ぶる有馬街道が本村を通過し、又西方及び北方へ走る藤道もあり。社線神戸有馬電鉄が通じ其谷・谷口の二駅あり。昭和三年設置）及び山口の町（昭和十年設置）の二駅を置く。〔八幡神社〕祭神。誉田別尊、仲哀天皇。保安四年勧請歟、六柱左女牛八幡を勧請す。例祭、十月十一日。〔若王子神社〕村社。祭神、小井出諸尊。紀州熊野新宮社を勧請せる古社。もと若王寺と同村熊野寺社を合祭せる。〔薬師寺（来来寺・福寺）〕大字福地にあり。古墳遺址多し。一説に若来寺・福寺と称し、字前年次治定。大日如来坐像一軀（不定）、薬師如来不明作。大日如来坐像一軀（同）、薬師如来坐像一軀（同）、阿弥陀如来坐像一軀（同）、薬師如来不明作）・不動明王坐像一軀（同）、薬師如来不明作）・聖観音立像一軀（同）、薬師如来不明作）・十一面観音立像一軀（同）、薬師如来不明作）に何れも国宝。

【山田村】兵庫県有馬郡の西北部。新宮市の東北五粁余にあり。東に加西郡とし、界す。南部及び東北部は丘陵地なるも、其他は低平地にして西方凡そ二粁の地を南下する市川流域低地の一部をなす。米・麦・豆類・菜・蔬・花卉・果樹等・食用農産・乳牛・養蚕・製茶及び木製品・品・鶏・鴨・鶏卵等の産額あり。中央には東西に藤道が通過し、又西方約三粁の所に鉄道駅あり。和名抄、神戸郡山田郷の内。

【山田村】兵庫県宍粟郡の西部。江井町の南に接し、西に播磨国揖西郡に隣し、全村丘陵羽る地に起伏し、概して西川に流り。東南部に発する一河川は中央を西北に流れて海に注ぎ、附近海岸を明神浦と呼ぶ。海岸に岩礁なれど中央に瓦谷の一突出あり。田畑は比較的よく拓け米・麦類・蔬菜・花卉・食用農産物・蚕繭・養蜂等を産し、養鶏・養豚・養卵・水産製品等もあり。西部には主要道路が南北に走れども交通稍不便なり。〔八幡神社〕大字山田に鎮座。祭神、足仲彦命・誉田別命・息長足姫命。例祭、九月十五日。

【山田村】和歌山県紀伊国伊都郡の北部。高野山麓の南斜面に在りて紀ノ川の北岸に接し、南は高野山の西に隣接す。北は大阪府南河内郡に界す。北境には高野山麓が連り、南河内郡に鎖さる。東境北部に三石山（七二九米）あり。南麓には紀ノ川流域の平野開け紀ノ川に南境を西流す。中央には東南流する一河川ありて之に合す。大半は山麓なるも南部は田畑よく拓け、米・麦の産を主とし林産の特産あり。また工産・茶産・林産なども多し。南部を藤道及び有稲和歌山線が縦貫して橋本駅に東方約三粁、高野口駅は西方約二粁に位置し、共にバスの便あり。和名抄、伊都郡村主郷の内か。中世には山田庄と称す。大字神野々に熊野神社あり、鎮座年代不明なれども、紀伊国伊刀郡条に延喜式天皇の御代、紀伊国伊刀郡条に延喜式の尼寺云々とあるは之か。大字高野口町に鎮座の尼寺跡は、古墳時代に官寺に昇格したる名草郡氏（一説に昇格に作る）の氏寺跡なり。

【山田村】和歌山県伊都郡の西部。紀ノ川の南に接し、西は橋本町・隣接し、北は高野口町・隣接し、東は高野口町・隣接し、南は高野口町・隣接し、東西約二粁、南北約一粁。大字は山田・中村・上村・下村・高野口・名倉・大字名倉・大字高野口・大字名倉・大字高野口・大字名倉・大字高野口

屋敷の地にして、大字山田の小山田に骨董・書画・古器・古銭に造詣深く、茶道・華道・謡曲・能楽・囲碁・将棋・俳句・和歌・漢詩・書・絵画・彫刻・篆刻・写真・ゴルフ・テニス・ボーリング・ヨット・ヨット・ヨット

鎌足町の東北隅にて北流に流れ込む。東は北流分岐き寒地にて切地をなし、中部及び北流沿岸に低地ありて水田をなす。農業主にて米を主産し、蚕業行はれて繭の産も多し。北流沿岸には漁業行はれて公魚等を産す。二條の鉄道縦走して磯生町等に通ず、また鉄道鳥都の田畑村と鉄道の間に渡船あり。和名抄、行方郡道の田郷・蓮馬郷の便あり。中古行方郡の田畑は、鉄切鳥郷の地なるべく、村内の田畑は、鉄切鳥居右三曾征伐の時、此地の古郡北古なる者三度三曾に渡り、その功を以て賜ばりしのあり。日本武尊御東征、此野に宿り給ひし際、弓矢の修理を行はせ給ひきといふ。大字新宮は羽州出羽十二郡の一なる北郡に修封された者の居りし所。慶長三年に右羽州欠島に配れり。

【大和村】千葉縣上総國山武郡の西南部。大新町の北隅にて東金町と隣す。西半は丘陵地にて森林多く、北部には蜂蜜池あり。東半は九十九里沿岸平地の一部をなす。農業行はれて米を主産し、蚕業も盛んなり。その他、蔬・鶏等を産す。藤沼は西部を貫通して大新町・東金町に通じ、右新線東金線また此に沿ふも村内に駅なく、東金駅に近し。和名抄、山辺郡山口郷の地にして、大字山田西には古城址あり。千葉氏の旗臣、原胤宗守鳳凰の築く所と。鳳凰の墓には正法寺にあり。（正法寺）大字小西にあり。目通杉。鈴宮山法寺小西の鎮守。

【大和村】東京府武蔵國北多摩郡の北部。立川町の北方約四粁。北に均玉藤入間郡の一部と隣る。北部は狭山丘陵の一部を南なし、丘陵間に村山貯水池あり。中部以南は武蔵野叢地の一部にして切地多く、茶の栽培盛にして狭山茶として知らる。其他、農産物としては麦・甘藷・米なども産し、養蚕も盛にて繭の産多く、新線蚕業を産す。村山貯水池を産す。貯水池は正陵の叢を積定する所のもの、また一説より分れた南東北にて立川町に通ずるものあり。東隣の東村山村に西武鉄道の東村山駅あり。バスを通ず。回駅より出て村山貯水池に交線を敷く。貯水池一帯は風致良佳なし、良き行楽地となる。（村山貯水池）字手荒地先及び字貯水地先、所謂村山の地に今東境を敷き又鈴の地形を利用し、上下二箇の大貯水池を設けたるものにて、その貯水池五倍一千六百六十六万六千貫立方尺、下貯水池五倍一千貫立方尺、合計六倍五千貫立方尺。即ち東京市民五百萬人に対する一・一五箇月分の飲料を貯水せるものにして、大正五年六月に工事起工式を挙行し昭和五年に完成せり。清水百瓦斯貯金、川面貯十萬貯、清水百瓦斯貯金、川面貯十萬貯、清水百

と隣す。谷柿小西殖林。長峰二年、朝原風鼎前起、同山は日意だり。天正十八年壊林となり、谷宗四十四本山の一とす。（蜂蜜池・男蜂池） 大字田中にあり。清蔵の利約千町。慶長年間、島田伊伯の春俊に成ると称ふ。

【大和村】東京府武蔵國北多摩郡の北部。立川町の北方約四粁。北に均玉藤入間郡の一部と隣る。北部は狭山丘陵の一部を南なし、丘陵間に村山貯水池あり。中部以南は武蔵野叢地の一部にして切地多く、茶の栽培盛にして狭山茶として知らる。其他、農産物としては麦・甘藷・米なども産し、養蚕も盛にて繭の産多く、新線蚕業を産す。貯水池は正陵の叢を積定する所のもの、また一説より分れた南東北にて立川町に通ずるものあり。東隣の東村山村に西武鉄道の東村山駅あり。バスを通ず。回駅より出て村山貯水池に交線を敷く。貯水池一帯は風致良佳なし、良き行楽地となる。（村山貯水池）字手荒地先及び字貯水地先、所謂村山の地に今東境を敷き又鈴の地形を利用し、上下二箇の大貯水池を設けたるものにて、その貯水池五倍一千六百六十六万六千貫立方尺、下貯水池五倍一千貫立方尺、合計六倍五千貫立方尺。即ち東京市民五百萬人に対する一・一五箇月分の飲料を貯水せるものにして、大正五年六月に工事起工式を挙行し昭和五年に完成せり。清水百瓦斯貯金、川面貯十萬貯、清水百瓦斯貯金、川面貯十萬貯、清水百

【大和村】愛知縣三河國八名郡の西部。豊橋市の北方約一〇粁。東は豊川を隔てて金澤村・賀茂村に接し、南は東郷郡川町、西は同郡一宮村にそれぞれ接す。東より南にかけては豊川を以て限られ、その沿岸盆地地帯に在り。全村谷と称所にして桑園に農家の主業となり、水田の如きは甚だ僅少なり。豊川の東外岸には竹林多し。交通の便もきしてよからず。豊川鉄道草山驛または一宮驛に出づるを便とし、伊奈街道に之と並行す。もと豊井村と稱尾村の二箇村なりしが大正九年之を合併して大和村となす。

北葛城郡の東北約五粁に位し、村形は西北より東南に長く東一帯は多河郡、西北は神崎郡に界す。村内は丘陵地なれども、周囲の地は北流に流れて多河郡に入る。流域に沿へる低地開く。米・麦類・蕎・麻・花卉・食用農作物・果實・鶏卵・木製品・麦藁製品等を産し、味噌醤油・煙草等の特産あり。北葛城郡と石橋鉄道(現在廃線)(西南方約二粁)へバスの便あり。

【大和國】 畿内五国中の一国。中に大和平野(内国)あり、青山四周す。古へ玉垣宮(崇神天皇)より、平城宮(元明天皇)に至る間、皇都の所在地たる畿内の一国なりき。日本紀に「日本此には我国の大倭となる。日本紀に「日本此には我国の大倭となる。日本帝国の大名なり。より転じてヤマトの名を帝国全体に及ぼす。「倭国」と書く。「倭」にも「大和」と訓ずる者あり。古へ文字に之を

原町の東北に接する大和川の流路は比較的近代の開鑿に属し、舊河道は大阪藤井寺市の一部・羽曳野市・柏原市・大和川・玉川村・久宝寺村・三郷村・西郡村・若江村・長瀬村・八尾町・三野郷村・西郡村・若江村・玉川村・久宝寺村及び布川・川俣・高安の一部地域に於ける恩智川ほか三筋の阪手野の流域に於て行はる。國西郡に於ては大和川の舊谷に沿ひて内外低地を流路す。

【大和國道】 弘仁國道。奈良藤原京・大和・河内の三郡に亘る。新王寺（北葛城郡王寺町）より起り笠尼・田原本等の諸驛を經て奈良藤原宮跡に終る。全長二里七・六粁。新王寺驛にて奈良線に接し、田和驛山線・社線行貨生駒電鐵・櫻井驛線・カッ＝ジを使用し、終点にて一〇六七米とす。

【大和天皇陵】 文武天皇の陵。三峰大和の東端より西に寄る所街道。

【大和小泉】 奈良藤原宮跡の一部（大正九年發掘）。奈良藤生駒郡富雄村小泉に在り。

【大和新庄】 奈良藤原宮跡の一部（明治二十九年發掘）。奈良藤北葛城郡新庄町北花内にあり。

【大和三見】 奈良藤原宮跡の一部（明治三十五年發掘）。奈良藤宇陀郡五條町二見に在り。

【大和鳥取】 鳥取藤伯耆國西伯郡の西北部。北は江府町の西に位し、西は淀江村に界し、東は日野川を隔てて中河内郡の西部を流るる日野川の沖積平野の地を占め、大山麓面より出づる流水は南方より来りて平地の中央を貫流し北に注ぐ。土地平坦にして肥沃なれば農業盛に行はる。商業は米・麻・煙草・蚕・牛を産す。商業は牧牛をなす所あり。又漁業・水産・海産物に富む。海岸に沿って山陰街道貫通し、又伯耆山陰本線これに並行して走る。日野川西方鳥取村に伯耆大山麓あり。麓まで約二粁バスの便あり。（三峰神社）大字小波に鎮座。祭神、大物主神・素盞嗚命。少名毘古那神等二柱を合祀す。創建年代詳かならず。貞觀十五年従五位下を授けらる。正保二年三峰山より今の地に移遷すといふ。

【大和村】 鳥取藤因幡國氣高郡の東部。北は宮下村に、西は東郷村に、南は中井村に界し、東は手代川を隔てて宮下村に接す。高度一〇〇—一五〇米の丘陵頂へ起伏して東及び東北に傾斜し、手代川左岸の沖積地その麓下に終結す。西南方より来る支流は、この平地を北及び東に流れて手代川に注ぐ。從つて平地は耕地よく拓け農業盛なり。米・麻・玉蜀黍の産あり。山地は牧牛を養む。東部平野を南北に縦貫す。和名抄、高草郡委文郷の内。村内に玉井の鳴尾の城址あり、天文年中、武田勢術守高信の居城なり。米麻

年中、高信軍敗戦の時に高城は今の又三郎に置り、その身は鳥取に在城して武威を張へり。天正元年、山中鹿之助に攻伐せられ、鳥取を問ふて又た城に籠る。回四年所形豊國の砦に誅せられ、その後は無主の廃城となれり。

【大和村】 岡山藤備中國小田郡の西北部。南北に上房郡高梁町、西は川上郡に界し、南は日笠村に隣接す。面積四四・三九方粁。成羽を北に向けたる三等辺三角形の如き地形を有し、二條の山脈東部・西部の山嶺南北に連りて山林に蔽はれ、谷山地の中央部南及び西北部面に耕地拓く。西北端には大和山（六〇三米）聳えて、南東端に有名なる高梁あり。高梁には本村及び池田村に亘る幅谷川の流谷にて、特定名勝・穴蔵・鍾乳洞にバス通ず。（鈴木寺）大字北に鍾乳洞あり。目瀬宮。貞足山と號し、一に西寺寺號といふ。創建年代、伊達景正開基、鎌倉時代に至り、一時衰微せしが、鎌倉末期に再興せられ、足利尊氏の祈願所となる。（大正七年寺宝調査）を有す。大正十一年、和生・豊茂の二村を廃して新に本村を置く。（出石郡山）

【大和村】 岡山藤備中國小田郡の西北部。西は高梁村に接し、東は日土村（西字和郡）に隣接す。面積四四・三九方粁。成羽を北に向けたる三等辺三角形の如き地形を有し、二條の山脈東部・西部の山嶺南北に連りて山林に蔽はれ、谷山地の中央部南及び西北部面に耕地拓く。西北端には大和山（六〇三米）聳えて、南東端に有名なる高梁あり。高梁には本村及び池田村に亘る幅谷川の流谷にて、特定名勝・穴蔵・鍾乳洞にバス通ず。（鈴木寺）大字北に鍾乳洞あり。目瀬宮。貞足山と號し、一に西寺寺號といふ。創建年代、伊達景正開基、鎌倉時代に至り、一時衰微せしが、鎌倉末期に再興せられ、足利尊氏の祈願所となる。（大正七年寺宝調査）を有す。大正十一年、和生・豊茂の二村を廃して新に本村を置く。（出石郡山）

【大和村】 岡山藤備中國小田郡の西北部。南は日土村に隣接す。面積四四・三九方粁。成羽を北に向けたる三等辺三角形の如き地形を有し、二條の山脈東部・西部の山嶺南北に連りて山林に蔽はれ、谷山地の中央部南及び西北部面に耕地拓く。西北端には大和山（六〇三米）聳えて、南東端に有名なる高梁あり。高梁には本村及び池田村に亘る幅谷川の流谷にて、特定名勝・穴蔵・鍾乳洞にバス通ず。（鈴木寺）大字北に鍾乳洞あり。目瀬宮。貞足山と號し、一に西寺寺號といふ。創建年代、伊達景正開基、鎌倉時代に至り、一時衰微せしが、鎌倉末期に再興せられ、足利尊氏の祈願所となる。（大正七年寺宝調査）を有す。大正十一年、和生・豊茂の二村を廃して新に本村を置く。（出石郡山）

【大和村】 岡山藤備中國小田郡の西北部。北は宍粟郡に接し、東は高梁村に隣接す。面積四四・三九方粁。成羽を北に向けたる三等辺三角形の如き地形を有し、二條の山脈東部・西部の山嶺南北に連りて山林に蔽はれ、谷山地の中央部南及び西北部面に耕地拓く。西北端には大和山（六〇三米）聳えて、南東端に有名なる高梁あり。高梁には本村及び池田村に亘る幅谷川の流谷にて、特定名勝・穴蔵・鍾乳洞にバス通ず。（鈴木寺）大字北に鍾乳洞あり。目瀬宮。貞足山と號し、一に西寺寺號といふ。創建年代、伊達景正開基、鎌倉時代に至り、一時衰微せしが、鎌倉末期に再興せられ、足利尊氏の祈願所となる。（大正七年寺宝調査）を有す。大正十一年、和生・豊茂の二村を廃して新に本村を置く。（出石郡山）

【大和村】 岡山藤備中國小田郡の西北部。南は日土

港都本庄村の北部。

ヤマト　山郡村　福島縣岩代國耶麻郡の西南部。喜多方町の西方凡そ九粁。西南は日橋川を隔てて河沼郡に接す。面積四・八四方粁。北部には谷地（三三二米）聳え南方に延び、宮古川は東北北流して日橋川に走る。沿路には村の南部を東西に通ず。また磐西十樂村内を走り山都驛（明治四十三年設置）を置く。往時、耶麻郡西領の要地山三郷と流俗せり、江戸時代には幕府に代官所を置き近郷を支配せり。いま小川村・本郷村・山都村と組合村たりしが、後ち本村に置く。

ヤマト　医

【俗村】　奥野縣信濃國伊那郡の南部。梓川に沿ふ。松本市より西約四粁、西は梓村、北は島・明善二村に、東・南は東筑摩郡に接す。村は松本平の中央に位置して梓川の扇狀地により。松本盆地に於ては最下水に位し、梓川の川水と共に本田地として、全面積に對する耕地率は二三所に比して、全面積に對する耕地率は六五%に達す。田三四二町、畑八二町、うち桑畑八七町に至る。耕地面積に對する水田率は八一%に達し、全耕地第一なり。畑は粟と桑園化し、桑園耕地の約七%を示す。

【俗村】　奥野縣信濃國下高井郡の西部。東南北山町の東南三粁に在し、東西三粁餘、南北二・四粁、面積一二・五方粁あり。東南は高井郡土（高井山）、一三五二米）聳え、北西に向ひて急傾斜す。西境を千曲川北流し、川沿ひに帯に開けて水田・桑園あり。米・麥・蕎を產す。千曲川に沿うて國道・中野町間の驛逓通じ、バスの便あり、社線奥野電鐵また之とほぼ並走し、舞浦（大正十四年設置）・田上（大正十五年設置）の二驛あり、交通便利となり。舞浦・夫婦岩は村内の名勝とす。

【俗村】　三重縣伊勢國一志郡の西北部。布引山脈の東麓面に位し久居町の西方約八粁にあり。西に河内村と接し、東は東北北に界す。西境に沿ひ東北北より西南南へ布引山脈連亘して東南方へ傾斜す。東南部に平坦地あり。住民の多くは農業を主とし、作物を主とする農業を營み、副業として蠶業盛なり。但し二千町歩の山村あり、三十年前より桑園に着手し、今や漸く桑園耕作業完成の域に達す。南部には東方の參宮線久居より分岐し來る雲出が西走し、青山峠を越えて名賀郡に入る。社線樹參宮急行電鐵に中央を縱貫す。中世、小俣城と稱し、其所すると佐田氏の居りし所、家格に北畠敬い、其三男之其佐田城にあり、この後なりしと云ふ。〔史蹟等〕大字上村にあり。天台宗妙雲寺。本寺三重郡妙法寺の一にして中本寺たり。同山妙雲。明治三年伊勢の國司北畠家の執權藤斯長門守親政、妙雲の化を受けて剃髮出家、居城の外郭を拓き其刹を創建せしに始まる。一時衰頽せしも大正十年再興す。本尊、阿彌陀如來坐像一軀、小林所並附御請本と称し、阿彌陀如來坐像一軀（本寺、鎌倉時代作）・刹本清色帳（本寺、鎌倉時代作）・刹本清色帳（本寺、鎌倉時代作）・刹本清色帳（本寺、鎌倉時代作）。大字上野に在り、北畠氏の一族、上野城主の居城なりしと。〔古山址所傳者〕創建年代詳かならず。古來、小俣城の產土神たり。元和八年再建す。例祭、三月十五日。

ヤマトーリ　山通村　新潟縣越後國古志郡の中部。長岡市の東南に隣接す。東南部に東山丘陵の南麓山・三ノ峰山（四六九九米）聳え西北へ傾斜し、信濃川の小支流を流通す。平野は西北部に向ひて傾斜し、東南部は東北北に走る。米を主產とし、蠶・林產物の輸出行はる。米を主產とし、蠶・園林產物の輸出行はる。長岡市より北越鐵道の長倉驛・悠久山驛（共に大正十三年設置）通じ、また長岡市へバスの便あり。

ヤマトガワ　大和川村　新潟縣越後國西蒲原郡の東部。長岡市の東に接して信濃川の右岸に沿ひ、東は中川の河口を含む。村内丘陵性にて東南隅に小宮寺山（三四二米）聳え、北港岸へ傾斜し、鹿熊尾を以て港に切らる。東部に數箇の溜池あり、水田拓かる。東部は數箇の溜池に沿ひて發達し、產業・農業相半ばす。字鎌倉は國道に沿ひて發達し、北部に鎌倉驛（大正元年設置）を置く。ここは古の久比岐國造の一族に大和直あり、その人々の居りし所か。同國續記「清寧の御代に、大和直の祖、吉備臣の遠祖、兄多毛比命、二人を遣はして、白髮部を求ぎたまひき。二人、播磨國に到りて、宿の長の家に問ひしに、爾に答へて曰ひしく、『播磨の縣の主、伊等許和気の大王の御子、白髮の王、今、この國に在りと聞く。』と。爾に、二人、その白髮の王を尋ね求めて、遂に、その王の御子、白髮の王を得て、上り來て、大和の國の高市の高の宮に、天の下を治しめしき。」と。明治天皇、明治十一年、北陸・東海巡幸の際、ここに御小休ありたりとされたり。いま明治天皇御休所敷地小林所並附御請本と称し、大正二年所創の小林所並附御請本と称し、大正二年所創の小林所並附御請本と称し、大正二年所創の

鉄鋼・甲冑・刀剣・水品製工等なり。農業者は全戸数の六九・一%を占め、山地の結果、耕地面積五三六〇七町にして全面積に對する耕地率は一二%に過ぎず。農業戸数は八三三五にして一戸当り耕地面積は六段四畝、農業経営者は殆ども小農にして集約的なり。田一八六八町、畑三四九二町。桑園は其中、二三二五町にして蚕・米・畑菜を主なるものとす。本藩には早野・新井両藩と共に蚕糸國として聞え、桑園に農業経営の主要部分をなし、其の原料の消費は重大關係を及ぼし、山地桑無・山地の藩下等地域に行はる。水田は地域の湧水及び谷河川の川水を利用す。盆地に流下する谷河川は何れも二川に合流し、其の副産にて藩の主要産項にして、古くより鈴鹿峠の往来交通に重きを置くこと、なり。有名なる信玄堤は赤川に沿ふ。

菜種・菜種・甘藷・麻・綿・蒟蒻・茶・蚕・桑・畑菜・蔬菜・果樹・牛・馬・豚・鶏・蜂・蜜蜂・蚕種・蚕糸・蚕繭・蚕種・蚕糸・蚕繭・蚕種・蚕糸・蚕繭

ヶ鼻(八五四米)、中部には高森(七一九米)・鳶ノ巣(八〇五米)等連りて全村概れ山地なし、大瀧川の一支流西南境に發して西部を北流して常葉町に入り、東北境より發するものと合す。米・繭・木炭を產す。都路街道は村の北部を東西に通じ、東方都路村、西方常葉町へは各バスの便あり。

【山根村】 茨城縣常陸國東茨城郡の中部より稍北にあり。水戸市の西北方約八粁にして西は西茨城郡の一部と隣す。八溝山脈一支脈の東端を占め、西北境に淺房山(二〇一米)あり。山地一帶森林多し。東境附近は稍平地をなして畑地・田地があり、農業行はれて米・麥を產す。縣道は西部を縱走し、北方石塚町及び南方下中妻村に通じ、何れもバスの便あり。下中妻村には省線常磐線内原驛を設く。

【山根村】 埼玉縣武藏國入間郡の西部。越生町の南隣にあり。全村山地にして西境附近に越上山(五〇〇米)、南境には物見山(三七五米)あり。山地はこれより次第に東北に傾斜し、東境附近は山裾をなす。山地一帶森林多く林產あり。山裾には畑地多く麥・米を產し、養蠶も盛んにて繭の產多し。縣道は東部を北走し、東北隣毛呂村を經て越生町に通じ、省線八高線も亦これに沿ふも村内には驛なく、毛呂驛に近し。もと瀧ノ入村と稱せしも、明治二十四年山根村と改稱す。

ヤマノ　山野

【山野村】 富山縣越中國東礪波郡の中部。礪波平野の東南部を占め、福野町の東方、井波町の北に隣接す。全村平坦にして灌漑路の發達により沃田開けたり。米を主產とし、藥品の特產もあり。縣道中央を南北に走り井波・出町間のバス通過す。社線加越鐵道は南境を走り井波・高瀬兩驛に近し。

【山野村】 廣島縣備後國深安郡の北端。東は岡山縣に界し、西北に神石郡に隣接す。南は廣瀬・中條二村接す。面積三八・五六平方粁。四周山地を繞らし、中央に馬乗山(五〇〇米)・笠木山(五一三米)連り、村内概ね山岳地帶に占められ平地乏し。高屋川の支流小田川の上流山間を東南に貫流し谿谷を作る。沿岸に耕地あり。集落山間に散在し、農牧に從事し、また木炭・酒類・醬油・蒟蒻等を製造す。山間の僻村なれば交通不便。省線福塩南線萬能倉驛に約一四粁なり。〔山野峡〕高屋川の支流小田川の中、來見・仙養(神石郡)・山野の三村境より山野村聖曲に至る約五粁の峡谷に於ける山水の勝景地域を云ふ。帝釋峡に類似し、水成岩の谷深く兩岸の巖峰峙立し、瀧淵・奇岩・堰塞湖等の秀景に富み、河鹿・山椒魚等棲息す。小田川の支流原谷川に注ぐ古谷川の峡谷に龍門・龍頭・三つ瀧の如き絶景ありて、三段峡の龍門・三段瀧・三つ瀧に對比せらるべき絶景なり。古谷川と原谷川の合流點より原谷川を溯ること約六〇〇米にして鐵泉あり、浴場・宿舍の設備を有す。〔龍頭の瀧〕大字田原にあり。造中まで自動車の便あり、瀧は高さ六一米扇、鎌ヶ峰と稱する絶壁は彎曲して瀧壺に覆ひかかる。ここより約一粁餘にある猿鳴峡と共に、初秋より晩秋にかけて探勝すべき所。〔山野温泉〕山野川の清流に臨む廣場にて、温泉は弱アルカリ性泉、加熱して浴用に供す。附近には鬼窟權現・馬乗觀音・龍頭の滝・猿鳴峡・相宮八幡などの勝あり。

【山野村】 鹿兒島縣薩摩國伊佐郡の北部。川内川支流羽月川の源流地を占め、大日町の西北に接す。西南は出水郡に隣り、北及び東北は熊本縣葦北郡及び球磨郡に界す。東北より西南に長き稍長方形をなす。東西兩部は山地をなし中央に低地開く。卽ち東境に國見岳(九六九米)・宮ノ尾山(八七七米)等の高峯が西北より東南に連り、西境にも六〇〇米以上の山脈西北より東南に延びて村境を劃す。國見岳に發する羽月川は山地を西南流して中央に出で、中部を東南流し沿岸に低地發達す。米・繭・麥及び林產・畜產多く、又工產及び鑛產もあり。中央低地を縣道及び省線山野線通過し山野驛(大正十年設置)・西山野驛・薩摩布計驛(共に昭和十年設置)あり。又自動車の便もあり。和名抄、菱刈郡山野郷の地にて、山野城は中世、牛屋氏の一族、山野孫二郎城主たり。文明記に文明十七年、菱刈孫三郎忠氏、山野・羽月の二氏を率ゐて島津忠廉に從ひ、俱に鹿兒島に服從云云とあるによれば此頃まで尙ほ山野氏が此を領せしものならん。〔布計(ふけ)鑛山〕大字山野字布計にある金銀山。薩摩布計驛より鑛山事務所まで僅かに百米。また鑛區は布計川に沿ひ交通頗る便なる處なり。鑛區は一三三萬餘坪、地質は第三紀時代迸發せる安山岩にて山頂部には石英粗面岩の露出を見る。鑛床は安山岩中に胚胎せる含金銀石英脈にて、舊時代稼行せられたるもの十數條あれど、現に稼行する鑛床は本鑛・靈峯場鑛一號鑛の三條のみ。品位は鑛水に付五〇瓦にして昭和十年には金二一、九六五瓦、銀九、九六八瓦、金銀鑛一九九鑛(二の總價額一六萬餘圓)を出し、同年六月末の鑛夫數は二二一人。本鑛山は明治二十三年頃事業を開始せしも排水困難のため休止し、昭和八年鋼生金山會社再び稼行を開始せしに成績よく、遂に同十年重要鑛山に列す。

【山野線】 省線鹿兒島線の一部。熊本・鹿兒島二縣に亙る。鹿兒島本線水俣驛より起り久木野・山野・菱刈等を經て肥薩線の栗野驛に終る。全長五五・七粁。もと山野東線・山野西線に分れしも、久木野・薩摩布計間開通して山野線と稱するに至る。

ヤマノイ　山野井

福島縣安積郡にありし村。大正十四年に日和田町と改稱さる。

ヤマノウエ　山之上村

岐阜縣美濃國加茂郡の西部。岐阜市の東方二四粁。南北に細長き矩形をなし、北は三和村に、東は川邊町に、南は古井町に、西は蜂屋村・伊深村に夫々相隣る。本村は低夷なる丘陵地より成り、第三紀層とす。北部には富士山(三五七米)、東境には鬼飛山(二九〇米)が連亙し、南部は洪積層の太田盆地に屬す。盆地の北緣には段丘發達し、加茂川は中部を南流して木曾川に合流す。東境には益田川の河成段丘が見事に發達し、段丘面は森林や草地となる。北境は川浦川を以て限り、加茂川の流域には耕地認めらる。この地の段丘面には果物の產多く、富有柿・葡萄・梨を產す。柿は主として古井驛より東京市場に出荷さる。交通路には村の中部を東西に中街道通じ、鐵道は高山本線古井驛に近し。村名は恐らく地形に基きて名付けしものならん。和名抄の賀茂郡小山郷の俗稱なるべし。室町時代は廣橋家領山ノ上庄たりしも、寛正二年奈良春日神社に寄進せられたり。文明年中に至り年貢不納となり、江戸時代は名古屋藩に屬せり。此地は本地・佐口・中ノ番・金屋・繭畑・野地・南坂・西洞に分れ、山之上八ヶ村と呼ばれたり。

ヤマノウエ　山野上村

岡山縣備中國後月郡の東部。東は小田郡に界し、南は井原村、西は青野村・西江原村に接す。面積九・六四平方粁。地形西北—東南に細長く東西に狹し。村内概ね三〇〇米内外の山地に蔽はれて平地乏しきも、山の斜面に畑地多し。部落山間に散在し米・麥・繭・柿・梨・薄荷等を產す。人口密度少なり。省線福塩南線七日市驛(約八粁、自動車の便あり。

ヤマノウチ　山内村

香川縣讃岐國綾歌郡の東部。北は鎌岡村に、西は府中村に、南は陶・昭和二村に界し、東は香川郡に隣接す。東北部に伽藍・六ツ目の二山、南には火ノ山、西には鷲ノ山等が屏居して聳え、北及び中央に傾斜す。西南隅には橋池その他の小池あり。東南隅より中央平地を北に本津川の上流貫通し廣く耕地を拓く。土地濕潤の便よき爲、農業よく行はれ米・麥の產多く、特產物に麥稈莚田あり。北隣鎌岡村に省線琴讃本線東西に貫通し、その鎌岡驛・岡府驛までは約二粁バスの便あり、また西部山麓下を南北に縣道走る。此地は和名抄、阿野郡新居郷の内にして、大字福家に全讃史によれば福家城あり、新名藤太夫資幸これを築き、子孫或は福家を負て氏と爲し、天正七年家滅ぶと。〔府中山内瓦窯址〕指定史蹟。岡分驛の南一粁。府中村前谷と本村の村界に存し、低き臺地の傾斜面に營まれ、數日あり。中には底面階段狀をなし、且つ煙出しの部分を存せるものありて、内部に奈良時代の瓦片を多量に有す。

ヤマノウチ　山ノ内

省線藝備線の一驛(大正十三年設置)。廣島縣比婆郡山内西村にあり。

ヤマノウチキタ　山内北村

廣島縣備後國比婆郡の西部。南に庄原町、北に比和町接し、東に西城町、西に口南村隣接す。面積六八・二平方粁。北境に髯光山(九四七米)聳え、南境には西城川西流す。村内概ね山地に蔽はるも地勢河岸に向ひて展く。比和川山間を南流して西城川に合し溪谷を作る。耕地沿岸に拓け、四周山林に圍繞せらる。米・麥・繭・木炭・木材・牛・馬・酒類・鐵物等の產豐かなり。縣道南北に通じ、省線藝備線の庄原驛及び比和町にバス通ず。村内に月吞瀧あり、高さ三〇米、幅二米。※山内西村(やまのうちにしむら)

ヤマノウチチョー　山内町

省線東海道本線の一貨物驛(昭和九年設置)。横濱東市神奈川區山内町(やまのうちちやうち)にあり。

ヤマノウチニシ　山内西村

廣島縣備後國比婆郡の西南隅。西南及び東南は雙三郡に界し、北は口南村、東は山内東村を挾みて庄原町に對す。面積三一・八三平方粁。四周に山地を繞らし、北部山地と南部山地の中間に盆地展く。北境を西城川西流し附近一帶山林なり。中央盆地に耕地拓け、村民集落す。農業・林業・牧畜盛にして、米・麥・繭・木炭・家畜等の產多し。省線藝備線山ノ内驛(大正十三年設置)あり。この地方は往時、慈眼庄と稱し、また山内とも稱し、いま山内北・山内西・山内東の三村に分れ、山内西村の大字上原山内の首里とす。和名抄の三上郷・土木郷の地なりしとも稱せらる。往昔、首藤氏の食邑にて、甲山(本村大字市の西南にあり)に居城し、惠蘇・三上の二郡を領知す。首藤氏の祖、通資は相州山内郷より正和五年に此處に來り初め部山に築城したりしが、のち部山を弟通俊に讓りて甲山に居り、之より山内氏は二流となる。甲山は十四代元資に至り毛利家に從ひ彼の落地に轉ず。〔圓通寺〕大字本郷にあり。臨濟宗妙心寺派。慈高山と號す。元亨年中、山内首藤左衛門尉通資の創建にして、開山は京都天龍寺玉洲。本堂天井に雪舟の畫あるを具て著る。

ヤマノウチヒガシ　山内東村

廣島縣備後國比婆郡の西南部。庄原町の西に接し、北に山内北村、西に山内西村南に雙三郡界す。面積二一・八七平方粁。北部・南部を略々東西に山地連りて中央山麓に盆地展く。農業・牧畜旺んなり。北部山地は森林繁茂す。村内農工業盛んにして、米・麥・繭・木炭・養油・酒類等の產少なからず。省線藝備線の七塚驛(大正十二年設置)・備後三日市驛(昭和五年設置)あり。村内の七塚原は明治三十年以來、國立種畜場なりしが大正十四年、廣島縣種畜分場となれり。その面積約四九六アールに亙る高原にして櫻樹に富み、スキー場としても好適の地なり。※山内西村(やまのうちにしむら)

ヤマノクチ　山之口

【山之口村】 岐阜縣飛騨國大野郡の南端。高山市の南方凡そ一二粁。北は宮村に、東は久々野村・益田郡小坂町に、南は益田郡川西村に、西は益田郡馬瀧村に夫々相接ぜり。北部山地は日本海側と太平洋斜面との分水嶺をなし、位山(一五二九

ヤマノウチ　山之口村　宮崎縣日向國北諸縣郡の東部。郡城市の東北約一粁に在し、宮城町の東南に接す。村内は山の東に東諸縣郡と宮崎郡に接す。村内は山の麓に沿する道あり。南に山之口川の谷へ出づる道利とす。此地は山之口川の谷へ出づる道利とす。此地の舊名は在山の入口にあるを以て「山之口」と呼ぶと云ふも明らかならず。本村は和名抄の大野郷三條郷の一部なるべし。村域の在山は標（一五六米）を以て有名なり。舊藩天領の御宇、此の木を以て物を一作り糸り、他の木の及ぶところにあらずと云ふを以て貢せらる。一位を以て貢せらるるこれより一位の木とも呼べり。千歳・一七「のぼる」べきの意にそまとふ在山、これより奥のしるべなければ　法印會國、新古今・一八「在山のけとをたづねてのぼれども手をかけ道にたどりあるいちほまさるひろ　土御門內大臣」（在山は「いちる原始林」相定天領記合帳。いちるの五郷に宮むる茶名なる山林。いちるる原始林とこと二代茶的茶名なる山林。

利前山麓郡（大正十年度）を置く。明治二十九年に町制を布く。此地は和名抄、上野国山麓郡の地にして、高上氏の世に、その一族、三郎高家の居城し、山野辺氏を称せり。文政八年より明倉藩領郡代所あり。明治維新に至る。

【山辺町】 栃木県下野国足利郡の西南部。足利市の南東に接し、西は足利市の南部より南は群馬郡山田郡の一部と隣す。面積六・八八方粁の小村なり。北境を渡良瀬川東流し、全村平地にて北半は切開多く、南半は水田なす。農業行はれ、利を絞へて蚕業発達し、薪・炭の産も多し。足利市を控へて蚕業発達し、村の東北隅より更に西南に折れ、北走して群馬郡に入る。村内に野州山麓郡（大正十四年設置）を置く。昭和十三年町制を布く。（八幡宮）大字八幡宮に鎮座。祭神、誉田別命・大足彦命。天満宮同の創建と伝へ、足利・藤田・新田・豊臣・足尼氏等の崇敬厚し、来母宮創建二十石。例祭、九月十六日。（幾切祈祷）大字八幡の踏鞴にあり。明女岡の峯を切ら乞こと之を断ち切れば、数あり、といひ修く、断腸金蔵の峰は男女が背中合せに歩きて、断腸金蔵の峰は男女が背中合せに歩いたるを解可たるがゆえといふ。

【山麓(郡)】 上総国（千葉県）の郡名。古くは キヤマノと訓す。高麗郡参二十二郡名を見ゆ。和名抄には也末乃郡と注し、本先・国山・野原・山口・高宝・芳野・武射の七郷を置く。明治二十年四月、武射郡と同じく山武郡を建て郡名を欠ふ。

【山麓村】 千葉県上総国に山武郡の西南部。大網町の西隣にて西は土気本郷町と隣す。全村丘陵地にて森林多く、東部は九十九里浜沿岸平地の一部をなし、水田あり。丘陵地には林業を走し、養蚕も農業行はれて本郷、東金、茂原、大網町及び土気本郷町に通じ、名鉄沿線東金駅南部を東走し、東端に大網駅（明治三十九年設置）を置く。同駅より更に東北に走る。この地に和名抄の山麓郡谷文郷の内にして、中世には山麓庄と称す。沿線東金駅の西、大字東金に真さ約五〇〇米の大網駅の遺跡を発見せり。

【山麓町】 新潟県岩船郡北部の西北部。石瀬川の左岸。小千谷町の南部に接す。村内中央に三一四百米の丘陵あり、その麓を西縁し集落散在せり。石瀬川は東に南流より東流・北流とかけて蛇曲し河岸を、家内産業の副業を行はる。東部の河沿沿岸を縫流は南北に貫走し、西部には村道三沿線西小千谷駅へ約三粁、魚沼線西小千谷駅へ約三粁を隔つ。昭和十三年に町制を布く。

【山麓】 → 川崎村（千葉県）

【山麓郡】 谷貞郡大和和国十郡の一。郡の東北部。西は谷貞郡より笠置山脈を合みて東は三市郡名貞郡境界に接す。西部は名貞市の南方四粁位に当る。中部及び東部は笠置山脈の諸脈がほぼ東北北より西南に流れ、東端に茶臼山（五三五米）聳え、その西に笠置川が東北流して東北端に流れる西北流する名張川に合す。笠置川の西に南部に鎧井岳（八二六米）・貝ヶ平山（八三二米）・都谷野鎖（六三二米）、北部に鎧山野山（六一九米）等を有する山脈が聳り。丘陵地には林業走し、養蚕も農業行はれる。

南北に走る鷹尾ヶ山（五八六米）等の低平地に中央を西流する河川あり西南隅にて西北流する初瀬川に合す。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭等を産す。西部は交通等が鷹走し、東部には山中を南北に走る笠置街道あり。又、これ等の街道を縫に結び、交通路数多あり、東北部には月ヶ瀬街道等あり。

右貫又鬼の六字に高名見ゆ。和名抄は夜馬乃郡と注し、郡小・瓜川・服部・長屋・石成・右上の六郷を管す。

【山麓】 谷貞郡山麓郡にあり。二十六年に狩倉村と合併して村と改称す。

ヤマボ　山保村　山梨県中巨摩郡西八代郡の西北部。御坂山脈の一部、その西南部を占め市川大門町の南方約四粁。全村は山林地にして東北・北端の二千米の山地はほぼ西南に延び、東部は西南部に多く起伏す。宗教ふ主生業とし、茶・蒟蒻・桑・蚕・西南には笠置山脈の諸脈がほぼ東北北より西南に流れ、東端に茶臼山（五三五米）聳え、その西に笠置川が東北流して東北端に流れる西北流する名張川に合す。笠置川の西に南部に鎧井岳（八二六米）・貝ヶ平山（八三二米）・都谷野鎖（六三二米）、北部に鎧山野山（六一九米）等を有する山脈が聳り。丘陵地には林業走し、養蚕も農業行はれる。

南北に走る鷹尾ヶ山（五八六米）等の低平地に中央を西流する河川あり西南隅にて西北流する初瀬川に合す。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭等を産す。西部は交通等が鷹走し、東部には山中を南北に走る笠置街道あり。又、これ等の街道を縫に結び、交通路数多あり、東北部には月ヶ瀬街道等あり。

右貫又鬼の六字に高名見ゆ。和名抄は夜馬乃郡と注し、郡小・瓜川・服部・長屋・石成・右上の六郷を管す。

【山麓】 谷貞郡山麓郡にあり。二十六年に狩倉村と合併して村と改称す。

ヤマボ　山保村　山梨県中巨摩郡西八代郡の西北部。御坂山脈の一部、その西南部を占め市川大門町の南方約四粁。全村は山林地にして東北・北端の二千米の山地はほぼ西南に延び、東部は西南部に多く起伏す。宗教ふ主生業とし、茶・蒟蒻・桑・蚕・

利前山麓郡（大正十年度）を置く。明治二十九年に町制を布く。此地は和名抄、上野国山麓郡の地にして、高上氏の世に、その一族、三郎高家の居城し、山野辺氏を称せり。文政八年より明倉藩領郡代所あり。明治維新に至る。

【山麓町】 栃木県下野国足利郡の西南部。足利市の南東に接し、西は足利市の南部より南は群馬郡山田郡の一部と隣す。面積六・八八方粁の小村なり。北境を渡良瀬川東流し、全村平地にて北半は切開多く、南半は水田なす。農業行はれ、利を絞へて蚕業発達し、薪・炭の産も多し。足利市を控へて蚕業発達し、村の東北隅より更に西南に折れ、北走して群馬郡に入る。村内に野州山麓郡（大正十四年設置）を置く。昭和十三年町制を布く。（八幡宮）大字八幡宮に鎮座。祭神、誉田別命・大足彦命。天満宮同の創建と伝へ、足利・藤田・新田・豊臣・足尼氏等の崇敬厚し、来母宮創建二十石。例祭、九月十六日。（幾切祈祷）大字八幡の踏鞴にあり。明女岡の峯を切ら乞こと之を断ち切れば、数あり、といひ修く、断腸金蔵の峰は男女が背中合せに歩きて、断腸金蔵の峰は男女が背中合せに歩いたるを解可たるがゆえといふ。

【山麓(郡)】 上総国（千葉県）の郡名。古くは キヤマノと訓す。高麗郡参二十二郡名を見ゆ。和名抄には也末乃郡と注し、本先・国山・野原・山口・高宝・芳野・武射の七郷を置く。明治二十年四月、武射郡と同じく山武郡を建て郡名を欠ふ。

【山麓村】 千葉県上総国に山武郡の西南部。大網町の西隣にて西は土気本郷町と隣す。全村丘陵地にて森林多く、東部は九十九里浜沿岸平地の一部をなし、水田あり。丘陵地には林業走し、養蚕も農業行はれる。

南北に走る鷹尾ヶ山（五八六米）等の低平地に中央を西流する河川あり西南隅にて西北流する初瀬川に合す。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭等を産す。西部は交通等が鷹走し、東部には山中を南北に走る笠置街道あり。又、これ等の街道を縫に結び、交通路数多あり、東北部には月ヶ瀬街道等あり。

右貫又鬼の六字に高名見ゆ。和名抄は夜馬乃郡と注し、郡小・瓜川・服部・長屋・石成・右上の六郷を管す。

【山麓】 谷貞郡山麓郡にあり。二十六年に狩倉村と合併して村と改称す。

ヤマボ　山保村　山梨県中巨摩郡西八代郡の西北部。御坂山脈の一部、その西南部を占め市川大門町の南方約四粁。全村は山林地にして東北・北端の二千米の山地はほぼ西南に延び、東部は西南部に多く起伏す。宗教ふ主生業とし、茶・蒟蒻・桑・蚕・

西は東部隣郡に接す。西端には烏帽子山（八一一米）・西南端に鷹巣山（八一一米）・北部に給々平山（六四〇米）、東部に三ツ石山（六三七米）・西南端に鷹巣山（八一一米）、全村東西に山脈なす。村の生業は農業と養蚕業なり。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭・蒟蒻・桑・蚕・西南には笠置山脈の諸脈がほぼ東北北より西南に流れ、東端に茶臼山（五三五米）聳え、その西に笠置川が東北流して東北端に流れる西北流する名張川に合す。笠置川の西に南部に鎧井岳（八二六米）・貝ヶ平山（八三二米）・都谷野鎖（六三二米）、北部に鎧山野山（六一九米）等を有する山脈が聳り。丘陵地には林業走し、養蚕も農業行はれる。

南北に走る鷹尾ヶ山（五八六米）等の低平地に中央を西流する河川あり西南隅にて西北流する初瀬川に合す。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭等を産す。西部は交通等が鷹走し、東部には山中を南北に走る笠置街道あり。又、これ等の街道を縫に結び、交通路数多あり、東北部には月ヶ瀬街道等あり。

右貫又鬼の六字に高名見ゆ。和名抄は夜馬乃郡と注し、郡小・瓜川・服部・長屋・石成・右上の六郷を管す。

【山麓】 谷貞郡山麓郡にあり。二十六年に狩倉村と合併して村と改称す。

ヤマボ　山保村　山梨県中巨摩郡西八代郡の西北部。御坂山脈の一部、その西南部を占め市川大門町の南方約四粁。全村は山林地にして東北・北端の二千米の山地はほぼ西南に延び、東部は西南部に多く起伏す。宗教ふ主生業とし、茶・蒟蒻・桑・蚕・

の各郡いづれも西一五粁を隔つ。

ヤママエ　山前村　栃木県下野国足利郡の西部。足利市の西方に接し、西は葛生町に接す。渡良瀬川の北岸にて、南は川を隔て群馬郡山田郡の一部と相対す。村の北部は足尼尼山塊の南麓をなし、低き山地にて南端に森林あり。中部以南は平地にて南端を渡良瀬川東流し水田多く、川の南岸には知地あり。米・麦・蚕の産も多し。また蚕業発達し、薪・炭の産も多し。また蚕業発達し、村の産額大なり。足利市より来れる鹿沼街道は中部を西北に走り足利市と葛生市に通じ、バスの便あり。葛生町に隣せる鹿沼街道は東部より南に出中を南北に走る。

ヤママワリ　山廻　はぜまえ　宮崎県鹿山郡にあり上村。昭和三年に美和村と改称す。

ヤマミ　山海　宮城県知多郡にあり上村。明治三十九年に西海村と共に廃され新たに内海町を置く。

ヤマミナミ　山南村　谷知郡土佐国香美郡の南部。北西は西部に接し、西は香美郡の南方に接す。中部及び東部は笠置山脈の諸脈がほぼ東北北より西南に流れ、東端に茶臼山（五三五米）聳え、その西に笠置川が東北流して東北端に流れる西北流する名張川に合す。笠置川の西に南部に鎧井岳（八二六米）・貝ヶ平山（八三二米）・都谷野鎖（六三二米）、北部に鎧山野山（六一九米）等を有する山脈が聳り。丘陵地には林業走し、養蚕も農業行はれる。

南北に走る鷹尾ヶ山（五八六米）等の低平地に中央を西流する河川あり西南隅にて西北流する初瀬川に合す。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭等を産す。西部は交通等が鷹走し、東部には山中を南北に走る笠置街道あり。又、これ等の街道を縫に結び、交通路数多あり、東北部には月ヶ瀬街道等あり。

右貫又鬼の六字に高名見ゆ。和名抄は夜馬乃郡と注し、郡小・瓜川・服部・長屋・石成・右上の六郷を管す。

【山麓】 谷貞郡山麓郡にあり。二十六年に狩倉村と合併して村と改称す。

ヤマボ　山保村　山梨県中巨摩郡西八代郡の西北部。御坂山脈の一部、その西南部を占め市川大門町の南方約四粁。全村は山林地にして東北・北端の二千米の山地はほぼ西南に延び、東部は西南部に多く起伏す。宗教ふ主生業とし、茶・蒟蒻・桑・蚕・

の治岸には水田拓け米を走し、山麓には村の産多くして、ブナ・弁慶・牧代港町等に於て販路せられ、牧代港町には製材業行はれ、北港沿・港外には漁業行はれ、北港沿・カムチャツカ・カ等へ出稼をなす者また少からず。商業は港外に於て北上し米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭・蒟蒻・桑・蚕・西南には笠置山脈の諸脈がほぼ東北北より西南に流れ、東端に茶臼山（五三五米）聳え、その西に笠置川が東北流して東北端に流れる西北流する名張川に合す。笠置川の西に南部に鎧井岳（八二六米）・貝ヶ平山（八三二米）・都谷野鎖（六三二米）、北部に鎧山野山（六一九米）等を有する山脈が聳り。丘陵地には林業走し、養蚕も農業行はれる。

南北に走る鷹尾ヶ山（五八六米）等の低平地に中央を西流する河川あり西南隅にて西北流する初瀬川に合す。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭等を産す。西部は交通等が鷹走し、東部には山中を南北に走る笠置街道あり。又、これ等の街道を縫に結び、交通路数多あり、東北部には月ヶ瀬街道等あり。

右貫又鬼の六字に高名見ゆ。和名抄は夜馬乃郡と注し、郡小・瓜川・服部・長屋・石成・右上の六郷を管す。

【山麓】 谷貞郡山麓郡にあり。二十六年に狩倉村と合併して村と改称す。

ヤマボ　山保村　山梨県中巨摩郡西八代郡の西北部。御坂山脈の一部、その西南部を占め市川大門町の南方約四粁。全村は山林地にして東北・北端の二千米の山地はほぼ西南に延び、東部は西南部に多く起伏す。宗教ふ主生業とし、茶・蒟蒻・桑・蚕・

村の産多くして、ブナ・弁慶・牧代港町等に於て販路せられ、牧代港町には製材業行はれ、北港沿・港外には漁業行はれ、北港沿・カムチャツカ・カ等へ出稼をなす者また少からず。商業は港外に於て北上し米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭・蒟蒻・桑・蚕・

形前山麓郡（大正十年度）を置く。明治二十九年に町制を布く。此地は和名抄、上野国山麓郡の地にして、高上氏の世に、その一族、三郎高家の居城し、山野辺氏を称せり。文政八年より明倉藩領郡代所あり。明治維新に至る。

【山麓町】 栃木県下野国足利郡の西南部。足利市の南東に接し、西は足利市の南部より南は群馬郡山田郡の一部と隣す。面積六・八八方粁の小村なり。北境を渡良瀬川東流し、全村平地にて北半は切開多く、南半は水田なす。農業行はれ、利を絞へて蚕業発達し、薪・炭の産も多し。足利市を控へて蚕業発達し、村の東北隅より更に西南に折れ、北走して群馬郡に入る。村内に野州山麓郡（大正十四年設置）を置く。昭和十三年町制を布く。（八幡宮）大字八幡宮に鎮座。祭神、誉田別命・大足彦命。天満宮同の創建と伝へ、足利・藤田・新田・豊臣・足尼氏等の崇敬厚し、来母宮創建二十石。例祭、九月十六日。（幾切祈祷）大字八幡の踏鞴にあり。明女岡の峯を切ら乞こと之を断ち切れば、数あり、といひ修く、断腸金蔵の峰は男女が背中合せに歩きて、断腸金蔵の峰は男女が背中合せに歩いたるを解可たるがゆえといふ。

【山麓(郡)】 上総国（千葉県）の郡名。古くは キヤマノと訓す。高麗郡参二十二郡名を見ゆ。和名抄には也末乃郡と注し、本先・国山・野原・山口・高宝・芳野・武射の七郷を置く。明治二十年四月、武射郡と同じく山武郡を建て郡名を欠ふ。

【山麓村】 千葉県上総国に山武郡の西南部。大網町の西隣にて西は土気本郷町と隣す。全村丘陵地にて森林多く、東部は九十九里浜沿岸平地の一部をなし、水田あり。丘陵地には林業走し、養蚕も農業行はれる。

南北に走る鷹尾ヶ山（五八六米）等の低平地に中央を西流する河川あり西南隅にて西北流する初瀬川に合す。米・麦・豆・茶・蕎麦・木炭等を産す。西部は交通等が鷹走し、東部には山中を南北に走る笠置街道あり。又、これ等の街道を縫に結び、交通路数多あり、東北部には月ヶ瀬街道等あり。

右貫又鬼の六字に高名見ゆ。和名抄は夜馬乃郡と注し、郡小・瓜川・服部・長屋・石成・右上の六郷を管す。

【山麓】 谷貞郡山麓郡にあり。二十六年に狩倉村と合併して村と改称す。

ヤマボ　山保村　山梨県中巨摩郡西八代郡の西北部。御坂山脈の一部、その西南部を占め市川大門町の南方約四粁。全村は山林地にして東北・北端の二千米の山地はほぼ西南に延び、東部は西南部に多く起伏す。宗教ふ主生業とし、茶・蒟蒻・桑・蚕・

本守山麓の伊那谷への直線距離にして二里に過ぎず。村に近く山麓の直線距離にして二里に過ぎず。村の西方は天龍川の河成段丘面より成る。

山形・秋田及び北海道行幸の際、御小休あらせらる。明治卅七八年戦役に功ありて勲死せし歩兵特務曹長矢口運太郎（贈従五位）は本村の人。

ヤムベツ　止別　北海道北見國斜里郡小清水村の大字。鐵網線の一驛（大正十四年設置）にして北見鐵道の起點。

ヤムラ　谷村町　山梨縣甲斐國南都留郡の北部。桂川上流右岸に沿ふ。桂川地溝帶の一部を占め、西北は寶村斷層に區切られ約八百米の狹隘部をなす。桂川は斷層線に沿ひて西—西北部を貫流して谷合の耕地を潤し、發電に利用さる。本町は郡内地方唯一の町にて機業地として附近物産の集散地として榮え、機業・染色業・練絲業その他これに關連せる商工業一切を以て生計を立つ。甲斐絹は主に布團地・羽織裏・洋傘地・風呂敷地等を出す。町は桂川に沿ふ舊國道に沿ひ街村形式を以て發達し、往時は郡内諸地方、富士山頂に至る宿場たりし所、今はこれに並行して社線富士山麓電鐵走り、谷村町驛・谷村横町驛（共に昭和四年設置）を置く。省線中央本線大月驛へは約二十分にて連絡す。舊郡役所の所在地、もと谷村と稱せしが、明治二十九年町制を布き谷村町と改稱す。村内に相模川水系桂川を利用せる谷村發電所（出力一三・五〇〇キロワット）あり。〔谷村城〕新古の二址並び存す。一は本町にありて小山田氏の修造に係り、一は川棚（寶村の大字）の城山にありて、寶水中まで城主相鐵ざしが、のち城廢し、石和代官所の吏員この地に出張し郡政を視たり。即ち天文元年小山田氏は金井の故館より移り本町に新城を置く、小山田氏は天正十年に滅亡、鳥居彦右衛門元忠來りて郡内を治し、小山田氏の故城に居る。羽柴・加藤・淺野の三氏國守の時も藉士に分派せらる。文祿三年、淺野左衛門氏重、新たに川棚八幡山に相して築城す、之を谷村勝山城と號す。慶長六年、鳥居土佐守成次代りて谷村三萬八千石を領知す。寛永九年、淡路守成行、翌年秋元但馬守泰朝、二萬石を以て封ぜられ、泰朝の孫喬朝に至り增封五萬石、寶永二年武州川越城へ轉じ谷村城これより廢す。〔西願寺〕上天神町にあり。蒼宗大谷派。水上山と號し貞和四年の草創、西願法師の開山といふ。もと瀧中にありしを天正の頃に現地に移り、同十八年願如上人より本尊一幅を與へらるといふ。〔西涼寺〕横町にあり。淨土宗。古今山と號し開基は里正吉庄大夫、開山は信蓮社深譽上人とす。本尊阿彌陀如來を安ず。〔長安寺〕上谷村にあり。淨土宗。縛定山と號し北條氏綱の男、金蓮社匡譽上人の開基たり。氏綱、幼名を龜若丸といひ、七歳にして神奈川慶雲寺に參りて僧となる。長じて天正十三年鳥居元忠に會するや、元忠は歸敬の餘り別莊を寺院となし上人を請ず。即ち本寺なり。〔法泉寺〕上谷村にあり。曹洞宗。大道山と號し明信周光和尚（天正五年寂）の開創。和尚歿後、當山の本寺たる長生寺六世榮傳宗喝和尚これが開山となる。中興を八世天巖祖嶋とす。

ヤムワッカ　止若　北海道十勝國中川郡幕別村の大字。根室本線の驛（明治三十八年設置）あり。

ヤメ　八女

【八女郡】福岡縣十九郡の一。筑後國の東南隅。矢部川の上・中流を含み西部は筑紫平野の一部を占む。南は熊本縣、東は大分縣に界す。中部と東部は北・東・南の三面に山脈を繞らし、東境には熊渡山（九六〇米）・權現嶽（御前嶽、一二一一米）・釋迦ヶ嶽（一二三一米）・猿飛山（九六八米）・三國山（九九四米）等の連山あり、北境と南境にも山脈が連亙して郡界をなし、北境の中部には耳納山脈が東東北より西西南に延び、鷹取山（八〇二米）・發心山（六九八米）・白金山（三五七米）・明星山（三六二米）等あり。また南境には國見山（一〇一八米）・休鹿山（八五七米）・星原山（七九三米）・女岳（五九六米）等聳ゆ。中央には東境の權現山より西に連る一脈あり て竹山（九〇五米）・大山（五九九米）・高峰（五六七米）等を起し、北には星野川が西流し、矢田川は南を西北流し、その西麓にて相會し、筑紫平野に出でて西南流す。西部の郡域は矢田川の北岸に開け、地形低平なり。西北部には西西北流する筑後川支流の細流あり。低地は田畑頗るよく拓け米・麥・繭・煙・栗・甘藷等を產し、山地は木材・薪炭を供給す。郡内は福島町・黒木町・羽犬塚町の三町外二十五箇村を含み、一方糎の人口密度は二二九人にして最大の密度を有するは福島町の三、四九二人なり。西部には鹿兒島街道が西北より東南に通過し、その西には久留米市と山門郡瀦高町とを結ぶ縣道と省線鹿兒島本線が南北に走り、また三潴郡大川町より東走する縣道は西部の羽犬塚町・福島町を過ぎて矢部川の谷に沿ひ東南部の矢部村北矢部に至る。社線南筑軌道線は鹿兒島本線羽犬塚驛と黒木町を結ぶ。書紀、景行天皇の十八年に見ゆる八女縣の國郡制定の時、郡となりて陽咩と稱し後更に上下二郡に分れしものなるべく、特稱天皇の四年紀には上陽咩郡名見ゆ。奈良時代に地名に二字に限られしを以てこれを上妻・下妻に作り、以て明治に至る。明治二十九年四月、上妻・下妻の二郡と地勢上本郡に屬すべき生葉郡の星野村を併せて八女郡とし舊稱を復興す。

【八女（縣）】→八女郡

ヤモチ　矢持村　三重縣伊賀國名賀郡の東部。布引山脈の西斜面に位し、西北部は僅に阿保町に接す。東境には布引山脈が連りて南に鬱ヶ嶽（七七八米）が聳え、其他、村内は山岳到るところ起伏して高燥地をなす。山間所々にやや低地あり。米・繭・木材・薪炭を主とし、また畜產・工產・鑛產もあり。阿保町と附近町村へ道路通ず。

ヤヤマ　矢山岳　九州山脈の一峯。熊本縣八代郡柔木村と下岳村との境上に峙ち、標高八六九米。八代町の北東約一

八粁。山體は秩父古生層より成る。永川は東麓より發し北麓を經て西流す。

ヤヨイ　彌生炭鑛（石狩國）→三笠山村

ヤヨイチョー　彌生町　龍山線の一驛（昭和四年設置）。朝鮮京畿道京城府彌生町にあり。

ヤヨス　八代洲河岸　東京市麴町區の宮城前廣場の東濠端一帶の地。今日のほぼ丸内に當る。外濠に架けたる八重洲橋にその名殘を留む。名稱は慶長年間來朝したる和蘭船の乘組員ヤンヨーステンなる者が、屋敷を賜り居住せしに因むといふ。

ヤリ　槍

【槍ヶ岳】日本北アルプスの一峯。中部山岳國立公園の略中央に位し、長野縣南安曇郡安曇村・北安曇郡平村・岐阜縣吉城郡上宵村の三村境上に跨り峙つ。山體は石英斑岩より成り、尖峯數百米、宛も槍の穂先の如く直立し、最高點は三一七九・五米。北アルプスに於ては奥穂高岳（三一九〇米）に次ぎて第二位、本州に於ては富士山（三七七六・三米）・白峯山（北岳三一九二・四米、間ノ岳三一八九・三米）及び奥穂高岳に次ぎ第四位の高峯にして、日本のマッターホルンとして登山者頗る多し。また北西に走る山稜を西鎌尾根と稱し、縱澤岳（二七五四米）・双六岳（二八六〇・三米）を經て、三俣蓮華澤（二八四一・二米）に至り、これより二分し、北東方に走りては鷲羽岳（二九二四・二米）等を經て鳥帽子岳（二六二一米）・針ノ木岳（二八二〇・六米）方面に達し、北西方に走りては黒部五郎岳（二八三九・六米）等を經て薬師岳（二九二六米）・立山方面に續く。北東方に派出する山稜を北鎌尾根と稱し、高瀬川の深谷に下り、南東方に向ふ山稜は東鎌尾根にして、西岳（赤岩岳二七六八・七米）より大天井岳（二九二二・一米）・燕岳（二七六三・四米）等となり、南稜は大喰岳（約三一〇〇米）・中岳（約三一〇〇米）・南岳（三〇三二・七米）を經て北穂高岳（約三一〇〇米）以南の穂高連峯に達る。槍ヶ岳は廣義にはこの大喰岳・中岳・南岳を含む。北方斜面より發する天上澤・千丈澤・湯俣川の水は相合し高瀬川となりて北流し、南東斜面より發する槍澤の水は南東流して梓川の水源をなし、南西斜面より發する左俣谷・右俣谷の水は南西流して蒲田川となり神通川の上源をなす。槍ヶ岳尖峯の頂上は極めて狹く、僅かに三十人位立つことに足るのみ、されど展望は實に雄偉・廣豁・壯麗を極め、北アルプス殆ど總ての高岳・玉峯を一眸に收め、又遠く東方より南東方にかけては淺間山より八ヶ岳・南アルプス連嶺・富士山を眺め、南方には木曾山脈の連峯を望み、北方には白山等の大岳を見渡し、本州中部に於ける山海の最も良き展望臺をなす。山頂部尖峯の北側に牙の如く附帶する小岩峯を小槍と稱し、この登攀には ロッククライミングの技術を要し、困難なれども興味深し。先年、秩父宮殿下にはこれに御登攀遊ばされたり。なほ小槍に對しその主體たる尖峯を大槍と稱す。登山路は北方の三俣蓮華岳方面乃至は南方の穂高方面よりの縱走路の外に、上高地方面・中房温泉方面、及び蒲田方面より通ず。南方上高地よりは甚だ便利なればこの方面よりの登山者多し。上高地より梓川北方を廻り、温泉より約四粁にて白澤にて德本峠よりの道を合せ、更に北進して德澤の牧場に達す。この邊一帶に牛・馬放牧せられ、自樺・アララギ等の巨林立ち並び、それより槍見平を過ぎ一ノ俣小屋を經て二ノ俣に至る。この邊より梓川は次第に狹流し、清冽の水奔流す。かくて赤澤の岩小屋に至り、その上方の槍澤小屋に達す。小屋を過ぐれば槍ヶ岳の大雪渓あり、雪渓の兩側は偃松茂り、青と白との色彩壯觀なり。雪渓の上部に大槍小屋立つ。この近くに槍ヶ岳の開祖播龍上人が登山の際雨露を凌ぎし坊主小屋と呼ぶ洞穴あり。また大槍小屋附近には高山植物多くお花畑をなし、シナノキンバイ・タカネヨモギ・ベニバナイチゴ等生育す。この上方に殺生小屋あり、それより更に登攀すれば尖峯の肩部に着し、ここに肩ノ小屋あり。この小屋は標高三〇五〇米の箇所にあり、北アルプス山小屋中最高所に位し、設備も整ふ。之より尖峯の最高點まで一三〇米なり。第一日は多く大槍小屋・殺生小屋・肩ノ小屋等に宿泊し、翌日尖峯の頂上を極めて歸路につく。次ぎに北東方の中房温泉よりは燕岳・大天井岳間にアルプス銀座の名にて知らるる安曇にて展望良き縱走路通じ、更に展望に勝れたる喜作新道を辿れば、西岳を經て東鎌尾根に取り着き殺生小屋に至る。この間、强行一日行程なり。大天井岳より常念岳を經て一ノ俣谷を下れば一ノ俣小屋にて、上高地よりの登山路に合す。南西方の蒲田方面よりは蒲田川を廻り、更にその支谷なる右俣谷を登り詰め西鎌尾根に取り着き、ついで肩ノ小屋に達す。この間、强行一日行程なり。このほか、北東方の高瀬川を廻行し、天上澤乃至千丈澤より登攀するも興味あれど、途中二泊を要し稍困難なり。なほ槍ヶ岳より三俣蓮華岳間の縱走は略一日を要し、穂高岳を縱走して上高地に至るは强行一日行程なれども、穂高小屋にて一泊するも良し。

【鉾ヶ岳】→白馬岳（長野・富山縣境）

【鉾岳】→鹿島鉾岳（長野・富山縣境）

ヤルート　——島　Jaluit I. 南洋群島マーシャル群島中の首島。同群島の南部、ボナペ島の東方約七〇〇浬に位す。本島は一環礁の上に形成せられたる多數の珊瑚島より成り、礁湖の長經は三十三浬に及ぶ。高潮面は五呎を超えず、遠望すれば海上直ちに樹木の叢生するが如し。年平均氣温は二七・八度、年中の較差は極めて乏しく、且つ晝夜の差も少く概して南洋一の暑氣といひ得べし。產物中主なるものはコプラにして南洋重要

檢出品の一たり。その外に麵麭果・パパイヤ・胡瓜・ヨロ芋等あるも其産は多からず。また黑蝶貝を母介とする眞珠養殖業も近時行はれ、內地養殖場の如く赤潮その他の被害なく、また內地に比し短期間に眞珠形成完了するを以て將來は大いに囑目するに足るべし。住民はカナカ族大部を占め、昭和十二年四月一日現在の人口總數は一、七一一人にして、之を種族別に見れば、內地人四二五、カナカ族一、二七四、外國人一二とす。また昭和四年よりの累年人口を見れば左表の如し。

年度	內地人	朝鮮人	カナカ族	外國人	總數
昭和四年	二五七	—	一、八九四	一五	二、一六六
同八年	三七七	一	一、二八八	七	一、六七三
同十二年	四二五	—	一、二七四	一二	一、七一一

これに依つても知る如く、內地人に漸次增加しつつあるも、カナカ族の著しく減少しつつあるを知る。本島のカナカ族はサイパン島に亞いで人智最も開け英語を語る者多く、また混血なる者多し。これは英・西・獨・米人等の往來頻繁なりしに因るものにして、其性質は敏捷狡猾なり。衣裝は比較的淸淨なるも家屋は狹小にして、犬小屋にも比すべきものあり。また淫風偸の盛んなること他島と異ならず、母を知る兒あるも父を知る者は極めて少き狀態なり。宗教は殆んど新教を奉ず。ツヤコール港は良港にしてヤルート支廳・醫院・郵便局・學校等設けられ、東回線は年六回、東西連絡船は年十回、マーシャル群島線は年二回寄港す。

ヤロ　治墟面　朝鮮慶尙南道陜川郡の北部。郡邑陜川の北約一五粁。南北に長く一〇粁餘、副は平均五粁あり。伽倻山の山脈は北境に於て二つに岐れ、一は東境に延びて南走し美崇山（七三四米）を聳立せしめ、その西には冠冒峰（四一一米）あり、また他の一脈は西境に走りて自警山（五〇三米）を起し、南部また二—三百米の山地をなす。伽倻山に發する伽倻川は東西の兩山地間を南流し、沿岸に盆地狀に平地を拓き、次で南部を嵌入蛇曲して、西方より來る安林川と合し城外に去る。米・麥・大豆・蔴等の農産ある外、北部より金を産す。川沿ひに三等道路通じ、南部にて東方高靈に、西方妙山面を經て居昌方面に至る道路あ岐つも、交通は未だ便ならず。主邑冶墟里は盆地の中央、川の左岸に位する古邑にして、文廟を存し、また金融組合・市場等あり、且つ南方より至る伽倻山海印寺參詣路に當り、市況やや盛なり。

ヤワタ　八幡（やはた）
【八幡村】福島縣岩代國南會津郡のほぼ中部。田島町の西北約二九粁。土地は南北に長く約一七粁。面積五四・〇六方粁あり。南境には小手澤山（一五一九米）聳え、北方に傾斜し、東境には北より御林山（九四三米）・辰巳山（一一五一米）・九山（一四八八米）、西境には笠山（九二三米）・大根下山（一〇八三米）・赤羽根山（一一二八米）等連り、廣ノ岐川は中部を北流して伊南川に合す。伊南川は北境を西北に流れ、沿岸に水田拓く。米・蔴・木炭等を産す。省線會津線田島驛へは道路通ず。いま小塚村・布澤村と組合村をなし役場を小塚村に置く。

【八幡村】福島縣磐城國相馬郡の東北部。中村町の南に接す。阿武隈山地の東斜面に屬し、地勢は西南部に高く東北方に傾斜し、西北境に鎌手山（一三二米）聳ゆ。東北部は平坦にて、宇多川は北境を東流す。村の生業は農業を主とし、米・蔴を産す。東北方の常磐線中村驛へは約四粁。東方の同線日立木驛へは約三粁あり。和名抄、宇多郡仲村郷の內にして、大字坪田には横穴・土器塚あり、坪田山に坪田八幡宮あり、近世は相馬氏の崇敬社たり。（八幡神社）郷社。祭神、樂田別命・帶中彥命・息長足姬命。北畠顯家の部下白川入道忠誼は鬼城追討のため石清水八幡を勸請す。白河城主相馬昌胤の崇敬厚し。例祭、十月六日。

【八幡村】福島縣岩代國河沼郡の中部。坂下町の西に接す。會津盆地の西緣に位し、村の中部には丘陵南北に走りて東方と西方に傾斜し、東部は會津盆地に屬して平坦なり。西境には只見川が東北に流る。村の生業は農業を主とし、米・麥・大豆・蔴等を産す。道路は村の中部を東北に貫通し、東方の坂下町、西南方の柳津村へは各バスの便あり。省線會津線の塔寺驛・會津坂本驛（共に昭和三年設置）を置く。大正十二年に塔寺・氣多宮・新館・船形・坂本の五箇村を廢して本村を置き、塔寺の心淸水八幡宮に因み八幡村と稱す。氣多宮は大國主命を祀れる氣多宮あるによりこの名生ぜしといふ。新館は館跡を麗きしによりてこの名あり、坂本は氣多宮に至る道の下なるにより坂本の名生ぜりと云ふ。（心淸水八幡神社）塔寺村大字梨山に鎭座。縣社。祭神、應神天皇・仲哀天皇外二柱。舊稱、塔寺八幡。天喜年中源賴義の創建に係る。塔寺八幡宮長帳四卷（紙本墨書）は國寶にして、新篇風土記及び續群書類從にあり。例祭十月一日。（觀音堂（立木觀音））大字塔寺にあり。新義眞言宗豐山派。石塔山と號し俗に塔寺ともいふ。大同三年坂上田村麻呂、坂下組窪の地に惠隆寺を建立せしに始る。養和元年、城四郎長茂は義仲征討の際に惠隆寺が參加せざりしため寺領沒收に遇ひ文書悉く散逸す。維新後荒廢甚しかりしが大正五年改修さる。本尊千手觀音像（木造）一軀は觀音堂と共に國寶。（塔寺石器時代遺蹟）塔寺驛の東北約一粁、越後街道の北側、塔寺村役場背後の長谷川富士太郎氏宅地附近が遺蹟にて、其他、立木觀音堂境內と附近一帶に亙り廣汎なる地域を占む。石器・土器等の遺物の多くは長谷川氏が保管す。なほ街道

三年、御ち今より約千二百年前上野國群馬郡下賀郷高田里の三家の子孫が團結して、その祖先及び現在の父母のため、天地に誓願して佛を供養せし由來を記せしものにて、碑の全文は

上野國群馬郡下賀郷高田里　三家子孫
爲七世父母現在父母　現在侍家刀自□
□君目頰刀自又兒□　那刀自孫物部君
午足次訓刀自次乙訓　刀自合六目又智
識新結人三家毛人　次知万呂穀飾磯部
君身麿合三口　如是智識結而天地誓願
仕奉

石文

神龜三年丙寅二月廿九日

とあり。この碑は山上碑・多胡碑と共に上野三碑として知らる。（山上碑）指定史蹟。上信電鐵山名驛の西約一粁半、山神丘陵の中腹にあり。碑は安山岩の自然石にて高さ約一・二米、正面の幅、最大部約五〇糎。この碑は放光寺の僧長利がその母なる黑賣刀自の爲に立てたるものにて、碑の全文は

辛巳歲集月三日記　佐野三家給健守命
孫黑賣刀自此　新川臣兒斯多々彌足尼
孫大兒臣娶生　兒長利僧侍爲記定文也
放光寺僧

碑文に年號がなく、辛巳の歲とのみあれば、天武天皇の九年と聖武天皇の天平十三年の二說あり。碑の傍に上代の墳墓の石棺が開目するにより、或はその墓標として建てられしものかと云ふ說もあり、多胡碑・金井澤碑と共に上野三碑として名高し。（根小屋城址）大字根小屋の西方に見ゆる山上に存し、一帶に山林なるが、遠望するに、よく城址の狀態を窺ひ得。その地籍は大字山名に屬す。武田信玄の鷹巢城と共に築けるものにして、信濃の望月甚八郎・友野彥十郎をして之を守らしめたりと謂はれ、山上には濠壘の跡を存す。金井澤碑はその北方に、山上碑はその南麓にあり。（八幡宮）郷社。祭神、玉依姬命・品陀和氣命・息長足姬尊・大日靈命。宇佐八幡宮を勸請す。山名・酒井二氏の崇敬厚し。古來安產守護神として聞ゆ。例祭、九月十五日。

【八幡村】群馬縣上野國碓氷郡の東部。高崎市の西北隣にて、一部に豐岡村を挾む。西は板鼻町、北は群馬郡の一部と隣す。北境を烏川、南部を碓氷川東流し、川沿ひは平地をなすも中部及び南境附近は低き山地をなす。平地には水田・畑地ありて米・麥を產し、山地附近は桑畑ありて養蠶盛なり。當村內、或は隣接町村に跨りて幾多の亞炭山あり、卽ち鼻高・田島・山王・西尾・立石・大平など之なるが、前二者を除きては何れも振はず。鼻高鐵山は當村大字鼻高に因みて鐵山名となせど、鐵區は岩野谷村と高崎市に跨り約二十三萬坪、兩して昭和十年には亞炭三、九三〇瓩（價額約二萬七千圓）を產出す。また田島鐵山は本據は高崎市にあり、當村にも鐵區跨りて約十八萬坪。兩して昭和十年には三、七五五瓩（價額二萬五千餘圓）を產出し、只上兩鐵山共平坦

要鐵山に列す。中山道は碓氷川に沿ひて西走し、高崎市へバスの便あり。省線信越線また中央を西走し、群馬八幡驛（大正十三年設置）を置く。この地はもと川間村と稱せしが明治二十三年に八幡村と改稱す。和名抄、片岡郡若田郷の內。大聖寺八幡宮あり、村名これに因よる。（八幡宮）大字八幡に鎭座。郷社。品陀和氣命を主神とし、相殿に息長足姬命・玉依姬命を祀る。天德元年、山城の石淸水八幡宮を勸請すといふ。のち新田・足利・武田・豐臣・德川氏等の武門の崇敬あり。江戸時代朱印領百石を有せり。例祭、八月十五日。（達磨寺）大字鼻高にあり。黃檗宗。少林山と號す。天和年中、一守居士は丈四尺餘の達磨像を作り當地に安置し、享保年中に了無居士が開基す。當初は曹洞宗を奉ぜしもの、黃檗宗に轉じ現在に至る。本尊は十一面觀世音。

【八幡村】埼玉縣武藏國南埼玉郡の最南端。西に綾瀨川を隔てて浦和市足立區と北足立郡草加町・谷塚村に對し、北に本郡八條村、東に溯止村に接す。此地は關東平野の一部に位し、全村低平なり。主生業は農にして米麥を多產し、副業の養蠶また見るべきもの多し。社線東武鐵道草加驛に近くバスの便あり。

【八幡町】千葉縣上總國市原郡の北端。東京灣に臨み、西南は五井町、北は千葉郡の一部と隣す。北境を村田川西流し、全町平地にして水田多く、米を主產し、他に麥・蔴を產す。海岸は單調なる砂濱

西北方約五粁を距つ。宮山平野の一部を占め、全村平田配次にして耕之と水田とを主とし、米を主産し蔬菜の副産あり、その行商に從ふもの多し。市街地中心部は南北に貫通し八町（六五十三年改置）・野（大正十三年改置）・横（大正十三年改置）の三町に分つ。市場は毎月一・六・十・十五・二十・二十五・三十日の開市にして、農産物・家畜・家禽・蔬菜・薪炭・肥料・農具・雑貨・呉服・文具・書籍・化粧品・酒・醤油・味噌・菓子・魚・肉・塩・砂糖・米・麦・豆・野菜・果物・鶏卵・牛・馬・豚・鶏・犬・猫・鳥・蜂・蜜・蚕・繭・生糸・真綿・絹・木綿・麻・毛・皮・革・木・竹・藁・蓆・畳・瓦・煉瓦・石・砂・土・肥料・薪・炭・鉄・金・銀・銅・鉛・錫・亜鉛・水銀・硫黄・石油・ガソリン・ペンキ・ニス・ラッカー・ゴム・ガラス・電球・電線・電池・電話・電信・電灯・電力・電熱・電動・電気・ガス・蒸気・ボイラー・ポンプ・モーター・ベルト・ハンマー・ドリル・ノコギリ・ヤスリ・ペンチ・スパナ・ハケ・ブラシ・ホウキ・ハタキ・ザル・カゴ・ケース・ボール・バケツ・ヒシャク・ジョウロ・ホース・ノズル・ポンプ・ピストン・シリンダー・ベアリング・ネジ・ボルト・ナット・ワッシャー・クギ・ハリ・ピン・ハサミ・カッター・ナイフ

る。[illegible]

【八幡村】 愛知縣三河國賀茂郡の中部。[illegible]三河高原の北方約四粁餘。北部は丘陵作の[illegible]より成り、古生層の[illegible]山（四一三米）[illegible]。丘陵地の南部には分離丘陵あり、[illegible]川の支流が貫し、流域には米作行はる。[illegible]は國有林[illegible]。[illegible]創立年代詳ならず。もと大頭社と云ひ、國分寺の崇敬篤かりき。本殿・拝殿・[illegible]・[illegible]・社務所等を具す。〔國分寺〕大字八幡にあり。曹洞宗。天平年間、聖武天皇勅建の諸國國分寺の一。一時廢絶せしを永正年間に再興、現在に至る。鐘一口は國寶。〔[illegible]寺〕[illegible]あり。古墳[illegible]。[illegible]尼山[illegible]と號す。三河七師寺の一。同前に行基。本尊千手觀音は鳥仏師の作。

【八幡】 愛知縣東春日井郡にあり[illegible]村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され[illegible]村を置く。

【八幡】 愛知縣港區にあり[illegible]村。明治三十九年に外二箇村と共に廢され[illegible]村を置く。

【八幡】 愛知縣愛知郡にあり[illegible]村。大正十年に名古屋市に編入せらる。

【八幡村】 三重縣伊勢國一志郡の西南隅。雲出川の源流を占め、南は飯南郡に接し、西は山岳に隔され中央大谷盆地を[illegible]。西南は[illegible]に三峰山（一三三六米）[illegible]。雲出川は[illegible]に發し中央を[illegible]し[illegible]川に合流し、更に中央を[illegible]。[illegible]は[illegible]。[illegible]は[illegible]。[illegible]は

等も産す。縣道は河谷に沿ひて通じ、南郡にも縣道と省線山陽線が東西に走り、英賀保驛に東方約一粁にあり。

【八幡村】和歌山縣紀伊國有田郡の東部。有田川に跨り箕島町を距たる東方約一九粁にあり。北部東半は安諦村に隣るも西半は那賀郡に界し、南部の東半は日高郡に接す。東部は奈良縣吉野郡に隣る。面積一〇九・九七方粁を有する郡中最大の山村なり。北部の那賀郡との境界には長峯山脈が東西に連りて、生石ヶ峰（八七〇米）・飯盛山（八〇八米）・黒松山（六四五米）・尖峰山（八六二米）・床山（七九八米）等が聳え、東部は白口峯（一一一〇米）の尾根によりて奈良縣と界す。中部にはこれより西方へ延ぶる一脈ありて朽碇山（八五八米）・矢筈山（六八三米）等を連ねて有田川と湯川川の合流點に達す。南境にも東部の山地より城ヶ森山（一一二六九米）・若藪山（一一五二米）・石堂山（一〇八一米）・水ヶ寶形山（一〇六四米）・兵ヶ城山（七〇一米）・五社山（六〇八米）等が西方へ東に西北方へ連り高峯なる地形をなして村境を劃す。有田川は長峰山脈の南麓を屈曲しつゝ西流し數多の細流南下して之に合す。東南部に發する湯川川は南部を西北に流れ中部山地の西端にて有田川に合す。低地乏しきも灌漑よき河岸は耕地拓け米・繭を産す。全村山岳地をなせば林産豐かなり。有田川に沿ひて縣道通じ、西方の社線有田鐵道金屋口停車場（西方約一〇粁）へバスの便あり。湯川川沿岸を走る縣道は城ヶ森山を越えて日高郡に入る。また西北走して長峯山脈を過ぎ那賀郡に出づる縣道もあり。此地は中世の阿瀬川庄の内にして、菩石清水八幡宮を鎮守とし、その山上に阿瀬川氏の城址あり、附近は吉野時代の古戰場なり。※阿瀬川

【八幡】鳥取縣西伯郡にありし村。明治四十五年に古豐千・王子の二村と共に廢せられ、新たに奈日村を置く。

【八幡】岡山縣浦郡にありし村。明治三十九年に外一箇村と共に廢され湯原村を置く。

【八幡村】廣島縣備後國比婆郡の東部。東城町・西城町の間に挾まれ、北は小奴可村、南は帝釋村と接す。面積四八・三七平方粁。西部を中國山脈の支脈南に延び、飯山（一〇〇〇米）聳えて土地高し。東境を東城川南流して溪谷をなす。附近は山地をなす。中央に小平地ありて耕地やや拓け米・麥・木炭・木材・酒類を産す。省線藝備線は村内を走り備後八幡驛を置く。縣道は南部を東西に通じ、庄原町・東城町間にバス通ず。

【八幡村】廣島縣安藝國山縣郡の西端。北と西は島根縣に接し、東は雄鹿原村、南は戸河内町に界す。面積四〇・四四平方粁。全村中國山脈の屋根に位し、苅尾山（一二二三米）・大佐山（一〇六九米）等村界をなし、村内山岳起伏し地勢頗る高燥にして、中央にやや傾きて四周の山地の中央に盆地開け、耕地を有す。米・麥・繭・薯・酒類等産す。島根縣より通ずる縣道は分岐して加計町に定期自動車の便あり。本村と戸河内町とにかかる三段峡は指定名勝たり。

【八幡村】廣島縣安藝國佐伯郡の東南部。廣島市の西約六粁、南は五日市町に隣接す。東部と西部は山地を成すも、中部は低平にして耕地よく拓く。北隣の河内村に發する八幡川はこの低地を南流して瀧渡に便す。主生業は農業にして米・麥を産し、廣島市に近きを以てこれに供給する蔬菜の栽培行はる。縣道は村の中部を南北に走りて南方の廿日市町（東海道線廿日市驛あり）へバス通ず。

【八幡村】廣島縣備後國御調郡の西部。三原市の北に隣り、西は安藝國豐田郡に境す。南境に龍王山（六六六米）、西境には大峯山（六一〇米）連立し、その支脈は北・東の二境をも走り、何れも中央に傾斜し村内微れ山地ななす。鹿田川の小流一は大峯山の東麓に發源して北流し、一は龍王山の北麓に發源して東北流し、この二小流は東隣の河内村にて合して東北流す。これ等の小流沿岸には低地ありて耕地・集落發達す。主生業は農にして米・麥・繭を出し、また林産多し。三原市にバス通じ交通やや便なり。古は御調八幡宮社領の地にて、中世は地頭杉原信平・爲平父子の治下にありたり。大字本庄はその當時庄園の主邑にして、宮内・垣内は社領に關する名なり。（八幡神社）縣社。祭神、品陀和氣命・息長帶比賣命・宗像三女神。石清水八幡宮領たりし御調庄に造立せられし別宮なり。毛利・淺野兩氏の崇敬厚し。別稱、御調八幡宮。例祭、四月九日。

【八幡村】廣島縣備後國雙三郡の東南隅。吉舍町の南に接し、南は世羅郡に界す。西に川西村に接す。面積二九・〇九方粁。岡田山（六三九米）西北境に聳え、西北部は地勢高峻なるもその裾を馬洗川北流し、沿岸に平地展く。河の東岸に山地迫る。河岸に耕地拓け、附近に養蠶・牧畜行はる。岡田山には森林繁茂す。米・麥・繭・木炭・牛・馬等を産す。縣道は中央平地を南北に通じ、省線北陸線吉舍驛に自動車の便あり。

【八幡川】廣島市に注ぐ太田川の上流。苅尾山の北麓に發源し八幡高原を經て樽床盆地に入り、その南端より峡谷をつくる。次いで東北より小板川を合せ耕ノ木盆地を經て三段瀧の奇勝を形成し、更に横川の溪流を合して柴木川となる。古來八幡川沿岸は柴木奥と稱し險峻にして道なく、人跡未踏の地なりしが、大正六年頃より探檢されて、その奇勝を天下に紹介せられ、同十四年内務省より名勝の指定を受くるに至る。

【八幡町】徳島縣阿波國阿波郡の南部。東は柿島・土成二村に、西は市場町に界し南は麻植郡に隣接す。面積一〇・三方粁。北隣に三〇〇米に近き山地屹立し、南は吉野川左岸の沖積平地を廣く占め、水無川の窄谷中部に平地横ばり土地平坦

なれども砂礫多く農耕には適せず。山麓下に河岸段丘發達す。耕作を營み米・繭及び糧麥を作る。市街は中央東部に開け旅舎街道ここを横切りて東西に走る。省線德島本線は東南隅を掠めて通ず。西麻植・阿波川島二驛へは約二粁、何れもバスの便あり。明治四十一年町村制施行の際に八幡宮に因み町名となす。和名抄、阿波郡秋月郷の内なるべし。（事代主神社）伊月に鎮座。郷社。祭神、事代主神。式内社。一時、事代主大明神と稱せり。例祭、十月十日。（切幡寺）切幡にあり。古義眞言宗。得度山と號す。空海當地巡錫の砌、虚空より幡一旋降り來り中空にて兩斷、一は西に飛去り、一は當山に留まる。仍て此處に一宇を創し切幡寺と號す。延元四年、足利直義、六十六州に安國寺を立つるや當寺をその一に充つ。天正年間兵火の爲、本堂以外は焼失す。のち再建す。四國巡路第十番札所。御詠歌「慈心をただ一筋にきりはたし後の世までの障りとぞなる」

【八幡】愛媛縣北宇和郡にありし村。大正十年に外一町と共に廢して宇和島市を置く。

【八幡市】福岡縣北部の大工業都市。謂ゆる北九州工業地帶の中心に位し、北東部は戸畑市に、東は小倉市に、南は企救郡西谷村及び遠賀郡香月町に、西は同郡中間町・折尾町に隣り、北は東北にて響灘に連る洞海を隔てて若松市と相對す。東西九粁、南北約一〇粁、面積五四・七九方粁を有す。福智山塊の北部にてその末端は略中部に帆柱山・皇倉等の高度約六百米の山峰を起し、その北面は丘陵性をなす。北部の洞海沿岸には平坦地ありて市街の主部ここに發達し、その端々は南部に續く丘陵地の谷沿ひに伸張す。長崎街道は北部を西して黒崎より南方に通じ、省線鹿兒島本線は洞海に沿ひて東西に走り、枝光驛（明治四十一年設置）・八幡驛（明治三十五年設置）・西八幡驛（貨物驛、昭和二年設置）及び黒崎驛（明治廿四年設置）を設く。また門司市より來る九州電氣軌道の本線は市内を横ぎりて折尾町に達し、戸畑線は本市の中央區より分岐して戸畑市に通じ市内の交通を助く。本市の基は明治二十二年町村制施行に際して起りし八幡村に始まる。當時戸數は約三五〇戸、人口一二〇〇餘人に過ぎざる小村なりしが、明治廿年農商務省の製鐵所ここに置かれてより自然的の發展を遂げ地域の擴張も行はれ、今や人口二一萬を超え縣内の先進諸都市を凌ぎ福岡市に次ぐ第二の大都會となる。本市の工業は日本製鐵會社の八幡製鐵所を首位に、旭硝子の牧山工場、安田商事の安田製釘所、日本タール工業の牧山及び黒崎工場、小野田セメントの八幡工場、安川電氣製作所・黒崎窯業會社・九州化學工業會社等の大工場によりて行はる。殊に八幡製鐵所は洞海の南岸里除に亙りて展開し巨大なる煙突林立し東洋第一の大工場なり。明治三十四年二月五日第一熔鑛爐の點火式を擧げ、五月三十日製鋼作業を開始し、爾來擴張を以てし今日に至る。なほ大正十年には東洋製鐵の戸畑工場を、昭和三年には九州製鋼の設備一切を借受け、戸畑作業場・西八幡工場と稱して作業を繼續し來りしものなり。然るに政府の製鐵鋼業合同の鐵國策樹立は日本製鐵會社法の議會通過によりて實現せられ、昭和九年九州製鋼・輪西製鐵（室蘭市）・釜石鐵山（釜石市）・富士製鋼（川崎市）・三菱製鐵釜二浦工場（朝鮮）、次いで東洋製鐵等の諸會社合同して日本製鐵會社の成立せるものにて、その八幡製鐵所は從業員實に三萬五千人を突破し、昭和十年の生産額は銑鐵一二九萬瓲、鋼材一五九萬瓲に上り、製品には軌條・山形鋼その他の鋼・線材・鋼矢板・鉄力板・ナフタリン・クレオソート油・ベンゾール・セメント・ピッチ・クレゾール・硫酸アムモニヤ・鐵洋綿等あり。以上日本製鐵所の生産以外本市の工産額は六、六〇〇萬圓を突破し、その生産品の主なるものに曹達灰・板ガラス・機械・鐵釘・ベンゾール・耐火煉瓦・鐵製品・クレオソート油・紙器等あり。工業の隆昌なるにつれ商業もまた活況を呈し個人經營より、漸次會社組織となすもの殖加し來れり。本市への輸移入貨物は各種工業原料を主とし日常生活品これに次ぎ、輸移出貨物は各種工業製品を主たるものとし、陸上に於ては八幡・枝光・黒崎・西八幡の省線各驛にて、海上は枝光海岸・前田海岸及び黒崎海岸に於て行はれ、八幡製鐵所の原料及び製品は構内海岸による。而して貨物の輸移出二三一萬瓲、輸移入九一〇萬瓲に達す。この地は往古、小倉庄に屬し、中世長く麻生氏の領地たり。天正年間豐臣秀吉筑前國を小早川隆景に與へしが、當時の領主麻生左衛門大輔重郷（彌里）は隆景の命に從はず、爲に居城花尾城を攻略せられ薩摩に逃亡す。よりて秀吉は尾倉・枝光兩村を安國寺惠瓊に賜ふ。慶長五年黒田長政筑前に封ぜらるるに及び老臣井上周防之房に二萬石の采地を與へ黒崎城に居らしむ。のち本郡の地はまた黒田家の直領となる。明治に入り、十七年枝光に戸長役場を置き枝光・尾倉・大蔵・戸畑・中原五箇村を管せしむ。同二十二年中原・戸畑二村を割きて戸畑村を建て、大蔵・枝光・尾倉三村を以て新に八幡村を建つ。これ實に本市の基礎をなせるものにて、當時はなほ一小村に過ぎざりしが、同三十年製鐵所設立せられてより急激に發展し、同三十三年町制を布き、爾來製鐵事業の擴張に伴ひ町勢も益々發展を示し、大正五年四

工産額（昭和十年）

	千圓
曹達灰	23,029
板ガラス	9,828
諸機械	5,913
鐵釘	4,140
ベンゾール	3,950
耐火煉瓦	3,114
鐵製品	2,050
クレオソート油	1,845
紙器	1,241
その他	11,002
計	66,112

月には企救郡板櫃町大字槻田の一部を、同七月には遠賀郡黒崎町大字前田の一部を編入し、翌六年に市制を布く。更に大正十四年には板櫃町の一部を、翌十五年には黒崎町を、昭和十二年には上津役村を併合し、以て全國屈指の大工業都市を現出す。〔帆柱山〕市の南部にあり。東北に皿倉山に連り、山容富士に似て山上の展望宏濶なり。北は洞海を俯瞰し、若松市西部の島郷丘陵を越えて響灘・玄界灘の浩波を望み風光雄大なり。神功皇后三韓征伐の砌、船材と帆柱をこの山より伐採せしめられしより山名出づと云ふ。〔洞海〕本市北面の海灣にして東西六粁餘、南北一粁、東北口は狹く宛も湖沼の觀あり。遠賀川の支流堀川(吉田川)折尾町を經て洞海の西南隅に通ず。洞海は古く大淺川ともいへり。續筑紫風土記に、此海は遠賀川の末にて淡鹹まじれり、而して其東一半甚だ廣し。是れ程の廣き川は他國になし、依て大淺川といふ。其西一半甚だ狹く最も狹き處は四五間計りあり、斯くの如く狹き海灣亦他方にて未だ見ざる處なり、藻鹽草に大淺川筑前にある由記せり云々。〔豐山八幡神社〕大字尾倉に鎮座。縣社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。推古天皇の御宇に來目皇子の創建に係ると傳ふ。例祭、十月十日。特殊神事に朝敵退治の儀式あり。〔到津八幡神社〕大字板櫃に鎮座。郷社、祭神、息長帶姫命和魂外七柱。社記に、當社の御鎮座は神功皇后三韓征伐の時、筑紫樫原宮より穴門豐浦宮に還幸ありて御船を寄せたまひし故に到津といふとあり。其後、後鳥羽天皇文治四年宇佐八幡を勸請せりと。例祭、九月十五日。〔篠崎八幡神社〕大字篠崎に鎮座。郷社。祭神、帶仲彦命外六柱。欽迫天皇十二年の創立なりと。例祭、十一月十日。〔河内貯水池〕鞏の西南五粁、市内大蔵電車停留場より自動車の便あり。海拔二〇〇米の山間を流るる大蔵川を堰止めしものにして、周圍八粁、滿水面約五〇ヘクタール、深さ約三六米、水量は約七五〇キロリットルと稱され、この池より鈴出される水は更に面積五五アールの小貯水池に入りて噴水化す。日本製鐵會社の作業用水は主として之より引く。煤煙を避け清新の氣に浴すに恰好の地にて、特に夏季は納涼釣魚の客多し。〔五軒上陸地〕黒崎驛の東北、船町の海岸にあり。九軌電車によれば田町下車、明治維新の際、蛤門の變後、三條實美以下三田尻より乘船してここに上陸せり。黒崎町宇田町の旅宿穀屋は當時五軒の宿泊所なり。〔皇后崎〕黒崎驛の西方二粁、九軌電車により皇后崎下車、市の西境にあり。神功皇后三韓征伐の時、帆柱山より船材を伐採して造船し、この地より博多の濱に向ひて船出せられしところと傳へ、數年前に公園として設備を施す。附近に王屋敷の名殘る。

【八幡村】福岡縣筑紫國八女郡の西部。矢部川の右岸、福島町の西南に接し南に川を隔てて山門郡に界す。筑紫平野の東部を占め全村地形低平にして、南境に沿ひ矢部川が西流す。北境には東方にて矢部川より分るる細流が西流す。米麥等を産す。福島町に近く交通の便よし。

【八幡】福岡縣筑紫郡にありし村。大正十五年福岡市に編入さる。

【八幡村】熊本縣肥後國玉名郡の西南部。大牟田市の東南約四粁にあり。西北部は荒尾町に接す。全村丘陵地をなし、中部より西南部にかけ低地あり。築切川が西南南流す。東南部には湖沼多し、全戸數四五〇戸中四〇〇戸は農家、そのうち九五戸は果樹園を營み年收一〇萬圓以上に上る。その面積は一四〇町あり。南部を省線鹿兒島本線が横走して長洲驛(西方一粁たらず)に近し。

【八幡村】熊本縣鹿兒島郡の中部。山鹿町の北に接す。北部には東北方に聳ゆる雲嶽の南麓の臺地あり。其他は概して低平にして、西部には岩野川が南流し山鹿町の西境にて菊池川に合す。主生業は農業・養蠶業にして米・麥・繭を主産物とす。特産にシット細工(蠶網を主とす)あり。鹿兒島街道が中央を縱貫す。和名抄、山鹿郡緒鍾郷の内にて、石村八幡宮あるにより村名あり。大字石村に石村温泉あり、泉質硫黄泉。大字熊入に古墳あり、往昔、吉田城攻められし折に城主の幼女を乳母が連れて此處まで落のびしも敵の捕ふるところとなりて殺さる。幼女の墓は御料人塚といひ、乳母の墓を乳母塚といふ。

【八幡村】大分縣豐後國宇佐郡の北部。四日市町の北に接して周防灘に面す。全村地形低平にして水田拓け米産多し。又麥・繭を産す。日向街道及び省線日豐本線横斷す。和名抄、宇佐郡葛原郷の内なるべく、村内に宇佐大宮司公道の善提所安樂寺あり、平田井堰を起せし人なり。〔乙咩社〕大字下乙女村に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇外八柱。元明天皇和銅三年の創建と云ふ。例祭、四月三日。〔安樂寺〕曹洞宗。後白河天皇の勅願所。壽永二年安德天皇御西下に際し、御閑逗の所願を修す。

【八幡村】大分縣豐後國大分郡の北部。大分市と別府市とに挾まれ北は別府灣に臨む。全村丘陵性の高燥地をなし西北部に高崎山(四條山、六二八米)屹立す。東部には東北方に開く細長き低地あり。田畑は低地に拓け其他は概して山林地帶なり。産物には米・麥・繭及び林産あり。日向街道・省線日豐本線・社線別府鐵道が海岸に沿ひて走り、日豐本線西大分驛(東方約〇・五粁)・濱脇驛(西方約一粁)に近し。又自動車の便もあり。和名抄、大分郡神前郷の内。〔柞原神社〕大字八幡に鎮座。國幣小社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。天長四年に延壽寺僧金龜の創建と云ふ。一に賀來社と稱し、また豐後國一宮とも稱せらる。阿彌陀如來立像・太刀等は國寶なり。例祭、三月十五日。特有の祭事に放生會(八月十四日

あり。境内の樫は枠原八幡宮の樫として指定天然記念物なり。

【八幡村】大分縣豐後國南海部郡の北部。佐伯町の北約一粁にありて、東は佐伯灣に臨む。西境には山脈が南北に連り東部の中央に海岸低地あり。海岸はやや屈曲して北隣の西上浦村より一半島が東南方へ突出して灣型をなす。米・麥・繭等の農産及び水産あり。また日本セメント佐伯工場あり。東部には省線日豐本線南北に走りて海崎驛(大正十二年設置)あり。また海上には發動機船の便あるも交通不便なり。

【八幡村】大分縣豐後國玖珠郡の西北部。森町の西に接し、西は日田郡に北は下毛郡に界す。全村山地起伏して高原狀を呈す。東南部にやや南北に長き低地あり、河川南下して一粁餘の南方にて玖珠川に合す。耕地やや拓けて米・麥・繭等を産し林産多し、東南部は森町市街地に近く交通の便よきも其他は概して便ならず、殊に西北部の山地極めて不便なり。

ヤワタ　八和田村　埼玉縣武藏國比企郡の西北部。小川町の東北隣にて北は大里郡の一部と隣す。村の大部分は秩父山地に續く丘陵地をなし森林あり。東部には稍平地ありて東境を市ノ川東南に流る。平地は畑地・水田をなし米麥を産し桑園ありて繭の産多し。縣道は小川町に通じ、同町に省線八高線と東武鐵道東上線小川町驛ありてバスを通ず。また東北方熊谷市(約一二粁)にも縣道を通じバスの便あり。大字高見の附近は高見原と稱し上信二州より鎌倉に至る通路に當り、長享二年十一月、上杉顯定はこの地に上杉定政を破る。明應三年十月、上杉定政は高見原の陣中に卒せり。大字奈良梨は天正の頃より織場として、傳馬の置かれし地なり。

ヤワタジュク　八幡宿　省線房總西線の一驛(明治四十五年、匹)。千葉縣市原郡八幡町にあり。

ヤワタハマ　八幡濱市　愛媛縣西南部の港市。西宇和郡の東部中央に位し、南は双岩村・川上村に、西北は川之石町・喜須喜村・日土村に、北東は喜多郡平野村・南久米村に、東南は東宇和郡多田村に境し、西は佐田半島南側の宇和海に臨む。東西一一・三粁、南北約六・九粁、面積約三八・七方粁。北・東・南の三境は山地に圍まれ、西には南に諏訪崎、北に矢野崎の突出ありて其間に宇和海の一支灣八幡濱灣を擁す。平地は中部を西流する千丈川、南部を西北流する五反田川の流域と新川沿岸に幅狹きものある外は概ね山腹に段々畑を開墾す。省線讃本線はなほ東隣平野村の伊豫平野驛に終るも其間の縣道上には三共自動車會社八幡濱線のバスの運轉あり。南方の宇和島市へもバスの便あり。海上には八幡濱灣による水運の便よろしく九州各港への船舶の出入碇泊繁く、また漁船の來集多し。市内には丸喜綿布・鐘ヶ淵紡績・八幡濱織布等を初め小工場多く綿織物(七二一萬圓)・生糸(八一〇六萬圓)を主とし、清酒・罐詰・菓子等の工産ありてその總額は一〇〇〇萬圓を超え、市の各種生産總額の八〇%を占む。水産これに次ぎ漁獲物にチタヒ・鯛・イトヨリ・ホーボー・エソ・アマギ等の魚族、製造物に蒲鉾・竹輪(六二萬圓)を主とし其他に乾海鼠・鹽乾海鼠等を産し、總額一五五萬圓に近し。また農産には温州蜜柑・夏橙・梨・ネーブル等の果實を第一に、米・甘藷・麥・野菜類あり。此地は慶長十九年以來宇和郡の領主伊達氏の領内たり、明治四年宇和島縣第十七大區となり、のち神山縣と改稱、更に同六年愛媛縣となり、その西宇和郡治たり。同二十三年、矢野崎村と神山村字菜野浦を分離して八幡濱町となり、昭和五年に矢野崎村を、同十年に神山町・千丈村・舌田村を合併して市制を布く。人口約三・一萬。

生産額(昭和十年)		
種別	産額(千圓)	百分比
工産	10,024	80
水産	1,543	12
農産	579	5
養蠶産	203	2
畜産	93	1
林産	66	
計	12,537	100

ヤワノサキ　八輪野崎　埼玉縣北葛飾郡にありし村。明治三十三年に穀田と改稱す。

ヤワラ　八原　信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に安曇郡八原郷あり、夜八良と讀す。その地は今の南安曇郡穂高町・西穂高村・有明村の邊に當る。

ヤワラ　谷原村　茨城縣常陸國筑波郡の西南隅。小貝川の東岸にある小村なり。西は川を隔てて北相馬郡の一部と相對す。全村平地にて農業行はれ米を主産し、特産物に太郎兵衛糯・繭あり。西隣の北相馬郡小絹村に社線常總鐵道の小絹驛ありて縣道を通ず。昭和十三年に鹿島村・長崎村を廢して當村を置く。なほ長崎村はもと北相馬郡に屬せしが、明治二十九年に本郡に編入せらる。

ヤワラ　和　省線札沼線の一驛(昭和六年設置)。北海道石狩國南龍郡北龍村にあり。

ヤンゲシリ　焼尻村　→焼尻村(北海道留萌支廳)

ユ

ユ　湯

【湯沼】 北海道勝茂國鵡川郡鵡川村の湯の周囲は約一粁、ほぼ圓形をなす。數多の噴氣孔に囲まれ、湯滴出して黒色を呈し、湯底を蔽つて硫黄や硫酸を採集す。これ等二つのソルファタラは、噴出口の囲繞されし火口と見られ、時々活動してポ小噴爆をなす。

【湯ノ沢】 岡式郡山地の一峯。平市の南西方約九粁、磐城國石城郡内郷・綴崎・芋島の三村境上に聳つ。標高五九四米。南南東山腹に鹿島線あり。東方近くに磐城炭坑あり。

【湯ノ湖】 栃木縣上都賀郡日光町にある湖。中禪寺湖の北にあり。高度一四七八米、長さ一・一粁。湖形輪に西・五粁八にて、面積〇・五三三平方粁。東に男体山、西に牛島突出し、湖の形は蚕豆狀をなす。男体島の南方は岩石より成り、上に蓮輪堂の生えたる淡き二米の淺瀬三箇所あり。南の淺瀬により湖盆が二分せられ、北の主湖湖盆は深さ二・五米、西南隅の小なる副湖盆は深度二・三米なり。白根大山の花崗岩を彩づくる石英斑岩に東より玄武大山の噴出物流来りて、間の谷川を導き、岩流を経て滝下し、湖盆となれる川となりて中禪寺湖に注ぐ。水色蒼緑にして透明度は三一五米。水温は夏も二〇度を昇らず、深度は二二度位にて冷り過ぎず。結氷は十二月より四月末までにして、完全には凍らざるも一二六日に亙り、結氷下の底層水温は四度以下に降る。富栄養性の珪藻を繁殖し、底棲動物は高度所以外には、Chirmomus flumosus に属す。魚類は帝室林野局が放流、繁殖し、主なるものは ヒメマス・ブナにて、特に前者は放流数のモ割を捕獲し尚る好成績なり。底の沈澱物は、浅所は灰色、深所は淡黒色の軟泥に属し、冷り程度の湿まり西和的富栄養型に属す。湖の北岸に湯元温泉あり、湖上に釣魚・舟遊行はれ、四周の山はモミ・ツガ及び落葉樹の原始林にて美色よし。

【湯島】 →湯島村（栃木縣天竺郡）

ユ　温泉

【温泉】 但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に二方郡温泉郷あり、由と訓ず。温泉湯出ずるを以てなり。中世には温泉荘と呼ぶ。後世、湯崎荘にも作る。いま美方郡温泉町に郡ち是なり。

【温泉】 石見國（島根縣）の古地名。和名抄に邇摩郡温泉郷あり、由と訓ず。温泉の湯出ずるに因む。いま邇摩郡温泉町及び湯川村・大浜村・福光村の地に跨る。

【温泉】 肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に山鹿郡温泉郷あり、但馬・石見二國の例によつて由と訓ずべし。乃ち温泉の湯治場に在り、水温は夏も三〇度を昇らず、冬は結氷する。

【温泉】 但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に温泉郷あり、由と訓ず。

ユ　由

【由宇】 山口縣周防國玖河郡の東端。徳山市を去る東方約四〇粁。東に防府湾に臨む。北境は花崗岩地起伏し、南部には大峰東山（四二九米）・鎧崎山（五四〇米）等連亙す。由宇川に沿の北部の花崗岩地を開析して東流し防府湾に注ぐ。海岸線は単調にして由宇川の小デルタあるのみ。耕地は由宇川の流域に多く分布し、他は小川の谷に部落毎に分布す。町は地方的中心をなし、商業盛にして、古来岩国街道の宿駅として栄ゆ。交通路には浜崎沿ひに岩国街道あり、有線電信線も此町を通過し、由宇駅（明治三十年設置）を設く。古くは通津村・湯村と共に通島郡和名抄、玖河郡由宇郷に属り、源義経島国なといふ所々を北に見ゆ」とあり、これは寄ばただ由の一字なりしが由宇と変ず。大正十年町制施行。

【由宇】 長門國（山口縣）の古地名。延喜式諸国名式に長門國由宇驛々馬三疋と見ゆ。由宇は周囲に因める名称にして、いま大津郡俵山村に属し、北の境に俵山温泉あり。

ユー　粘面

【ユー粘面】 朝鮮平安北道白城郡の北部。白城面の東南に隣り、西北一東南の南に稍長く約二〇粁あり。南東東山脈の支峰にして、東端に南東峰（一四七〇米）聳え、西端には三峰山（八九七米）、北端には東崖峰あり、北部が比較的緩傾斜なるを外、地勢概ね嶮しく、東南端の鷲頭峰（五八九米）は二分水嶺をなして洛、昇地を流す。要・大小豆・玉蜀黍・大麻等の農産あるの外、金銀・タンガステン等の鑛産を出す。白城より来る三峰道路は西北端にて白作線を経え、水を西南川から南り、鷲頭峰を経えて寄山地市に通ずるも、交通便なら ず。

ユーエハ　熊延鉄道

熊本縣の中部にあり。有線電信・私設鉄道。

【ユーカ　粘質】 愛知縣中島郡にあり。明治三十九年、本村外四箇村を廃し、朝日村を置く。

ユーキ　結城

【結城郡】 茨城縣十四郡の一。下総國の南部に在り、北及び西北は栃木縣下都賀郡に接し、東より南に向て香取郡・猿島郡・岡式郡・豊田郡・新治郡・真壁郡に隣り、西に茨城郡に隣り、西方約六粁、面積約二六一粁、ほぼ長方形をなす。数多の噴氣孔に囲まれ、湯滴出して黒色を呈し、湯底を蔽つて硫黄や硫酸を採集す。これ等二つのソルファタラは、噴出口の囲繞されし火口と見られ、時々活動して小噴爆をなす。

【湯ノ沢】 岡式郡山地の一峯。平市の南西方約九粁、磐城國石城郡内郷・綴崎・芋島の三村境上に聳つ。標高五九四米。南南東山腹に鹿島線あり。東方近くに磐城炭坑あり。

【湯ノ湖】 栃木縣上都賀郡日光町にある湖。中禪寺湖の北にあり。高度一四七八米、長さ一・一粁。湖形輪に西・五粁八にて、面積〇・五三三平方粁。東に男体山、西に牛島突出し、湖の形は蚕豆狀をなす。男体島の南方は岩石より成り、上に蓮輪堂の生えたる淡き二米の淺瀬三箇所あり。南の淺瀬により湖盆が二分せられ、北の主湖湖盆は深さ二・五米、西南隅の小なる副湖盆は深度二・三米なり。白根大山の花崗岩を彩づくる石英斑岩に東より玄武大山の噴出物流来りて、間の谷川を導き、岩流を経て滝下し、湖盆となれる川となりて中禪寺湖に注ぐ。水色蒼緑にして透明度は三一五米。水温は夏も二〇度を昇らず、深度は二二度位にて冷り過ぎず。結氷は十二月より四月末までにして、完全には凍らざるも一二六日に亙り、結氷下の底層水温は四度以下に降る。富栄養性の珪藻を繁殖し、底棲動物は高度所以外には、Chirmomus flumosus に属す。魚類は帝室林野局が放流、繁殖し、主なるものは ヒメマス・ブナにて、特に前者は放流数のモ割を捕獲し尚る好成績なり。底の沈澱物は、浅所は灰色、深所は淡黒色の軟泥に属し、冷り程度の湿まり西和的富栄養型に属す。湖の北岸に湯元温泉あり、湖上に釣魚・舟遊行はれ、四周の山はモミ・ツガ及び落葉樹の原始林にて美色よし。

【湯島】 →湯島村（栃木縣天竺郡）

ユ　温泉

【温泉】 但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に二方郡温泉郷あり、由と訓ず。温泉湯出ずるを以てなり。中世には温泉荘と呼ぶ。後世、湯崎荘にも作る。いま美方郡温泉町に郡ち是なり。

【温泉】 石見國（島根縣）の古地名。和名抄に邇摩郡温泉郷あり、由と訓ず。温泉の湯出ずるに因む。いま邇摩郡温泉町及び湯川村・大浜村・福光村の地に跨る。

【温泉】 肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に山鹿郡温泉郷あり、但馬・石見二國の例によつて由と訓ずべし。乃ち温泉の湯治場に在り、水温は夏も三〇度を昇らず、冬は結氷する。

【温泉】 但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に温泉郷あり、由と訓ず。

ユ　由

【由宇】 山口縣周防國玖河郡の東端。徳山市を去る東方約四〇粁。東に防府湾に臨む。北境は花崗岩地起伏し、南部には大峰東山（四二九米）・鎧崎山（五四〇米）等連亙す。由宇川に沿の北部の花崗岩地を開析して東流し防府湾に注ぐ。海岸線は単調にして由宇川の小デルタあるのみ。耕地は由宇川の流域に多く分布し、他は小川の谷に部落毎に分布す。町は地方的中心をなし、商業盛にして、古来岩国街道の宿駅として栄ゆ。交通路には浜崎沿ひに岩国街道あり、有線電信線も此町を通過し、由宇駅（明治三十年設置）を設く。古くは通津村・湯村と共に通島郡和名抄、玖河郡由宇郷に属り、源義経島国なといふ所々を北に見ゆ」とあり、これは寄ばただ由の一字なりしが由宇と変ず。大正十年町制施行。

【由宇】 長門國（山口縣）の古地名。延喜式諸国名式に長門國由宇驛々馬三疋と見ゆ。由宇は周囲に因める名称にして、いま大津郡俵山村に属し、北の境に俵山温泉あり。

ユー　粘面

【ユー粘面】 朝鮮平安北道白城郡の北部。白城面の東南に隣り、西北一東南の南に稍長く約二〇粁あり。東東東山脈の支峰にして、東端に南東峰（一四七〇米）聳え、西端には三峰山（八九七米）、北端には東崖峰あり、北部が比較的緩傾斜なるを外、地勢概ね嶮しく、東南端の鷲頭峰（五八九米）は二分水嶺をなして洛、昇地を流す。要・大小豆・玉蜀黍・大麻等の農産あるの外、金銀・タンガステン等の鑛産を出す。白城より来る三峰道路は西北端にて白作線を経え、水を西南川から南り、鷲頭峰を経えて寄山地市に通ずるも、交通便なら ず。

ユーエハ　熊延鉄道

熊本縣の中部にあり。有線電信・私設鉄道。

【ユーカ　粘質】 愛知縣中島郡にあり。明治三十九年、本村外四箇村を廃し、朝日村を置く。

ユーキ　結城

【結城郡】 茨城縣十四郡の一。下総國の南部に在り、北及び西北は栃木縣下都賀郡に接し、東より南に

東西に走り、東より雄尙・雄基(共に昭和四年設置)・寛谷(昭和十年設置)あり、更に九粁にして羅津に達し、羅津にて北日本汽船・日本海汽船の兩航路に接續す。また國道は中部を東北—西南に通じて羅津・慶興に至り、東方西水羅にも道路通じ、羅津・西水羅・清津へバスの便あり。雄基港の貿易額は昭和十一年移輸出一一一二萬圓、輸移入一五六〇萬圓に達す。邑に慶興郡廳・清津地方法院支廳・稅關支署・軍馬補充部支部・咸鏡北道種馬所・測候所等あり。本邑は要塞地帶に編入せらる。

【雄基灣】朝鮮咸鏡北道北部の灣。造山灣の一支灣。※造山灣・雄基邑

ユーギョ　遊漁面　朝鮮慶尙南道昌寧郡の西部中央に位し、郡邑昌寧の西方五粁餘。洛東江左岸に沿ふ南北に長き地を占め、面積三三方粁餘。北部と南部とに一〇〇—一五〇米の丘陵起伏し、東南境に寺谷山(二〇一米)聳ゆるも、中部と洛東江沿岸とに廣き平地ひらく。また面は昌寧湖沼群地帶に當り、北境の牛浦、東境の蛇沒浦の二大湖を始め數箇の湖沼あり、丘陵地間に至るまで灌漑の便頗るよろし。耕地は畑地が水田より多く水田の一部には二毛作行はる。米・大麥・小麥・大豆・綿花・甘藷・莞草等を產す。中部に昌寧・居昌間の二等道路通じバスの便あり、洛東江の水運の便と相俟ちて、交通便利なり。主邑釜石里には陰曆二・七の日に開く馬首院市場あり。本面より梨房・大合・大池の各面に亙る低地帶は白鳥の渡來するもの多く、昌寧白鳥渡來地として天然記念物に指定せらる。

ユーギョスイ　雄魚水山　朝鮮平安北道江界郡龍林面・熙川郡新興面と平安南道寧遠郡小白面とに跨る山。狼林山脈中の雄峰にして標高二〇一九米。その南麓に山脈の主峰、狼林山(二〇一四米)に連り、北麓に咸鏡南道・平安南北兩道の境上なる小白山(二一八四米)に至る。山の東斜面に大同江發し、北斜面よりは鴨綠江上支なる秃魯江發源し、西麓には清川江の上源が流る。

ユーザキ　結崎　↓川西村(奈良縣)

ユージ　有治面　朝鮮全羅南道長興郡の西北部。郡邑長興の北に接し、南北に長く約一八粁、東西は平均六—七粁あり。全域山地にして、東境の迦智山(五〇九米)、西境の國師峰(六一三米)、南境の修仁山(五六一米)は著はる。此等の山地は老年期に入りて岩骨露呈する處少からず。中部を耽津江西より東に横谷を刻み、北部山地より來る支谷を容れ、次で南流に轉じ、この沿岸に狹長な平地拓けて農耕行はる。米・麥・大豆等を產す。谷沿ひに道路通じ、南方長興、北西方柔山浦にバス通ず。迦智山西南麓に寶林寺あり、新羅時代普照國師の創建に係り、俗に天下三寶林の一と稱する名刹たり。修仁山には山城址あり、石築にして周回三粁余あり。之を陰ゆれば康津郡長興に出づ。

ユージ　熊耳面　【熊耳面】朝鮮咸鏡道豐山郡の西北部。豐山面の西に隣る。東北は甲山郡に、北は三水郡、西は長津郡に、西南は新興郡に圍まれ、東西三〇粁餘、南北は五〇粁に余り、面積一四二三方粁にして東京府の七割弱に當る。東南部に赴戰嶺山脈走りて犬德山(二一一三米)・黃峯・白山(二三七九米)等聳え、西境には北より頭雲峰・大岩山・恵日峰・北水山等二千米以上の山連り、豐山面との界には鷹德山(一八三八米)あり、域内にも東谷山・北水白山・鉢峰等の高峰鎬まり、總じて臺地狀地貌を呈す。西南境に熊耳江發し藥水川・西洞川等の水を容れつつ北流し、次で東流に轉じ、三水郡に入りて虛川江に合す。近時この水は西洞川合流點附近に於て堰止せられ長經一〇粁に余る一大貯水池を造り、虛川江水電の發電に利用さる。西部・南部は人煙稀めて稀薄なれど東北部の熊耳江沿岸と山岳斜面とは耕作せられて、亞麻・大麻・燕麥・大麥・粟・稗・馬鈴薯・菜豆・杞柳等を產し、亞麻は豐山邑の亞麻工場に供給せらる。その他、山地よりは木材・藥草を出す。東部に豐山・甲山間二等道路走り、中部には面邑楊平里を中心として豐山・長津・江口浦・倉坪里等に至る三等道路通ず。

【熊耳江】朝鮮咸鏡南道豐山郡・甲山郡を流るる河。鴨綠江の一上支。豐山郡熊耳面の西南境に近く、白山(二三七九米)の間に發源して北流し、西北方山地に發する藥水川・西洞川を容れ、都下里附近にて東流に轉じ、甲山郡山南面に入り、東北に嵌入蛇曲して後、虛川江に合す。流程八〇粁に近きも熔岩臺地間を流るるを以て沿岸に平地の見るべきものなく、僅かに亞麻・大麻・大麥等の栽培行はるるのみ。その熊耳面内に於て南流より東流に轉ぜんとするところに於て河水を堰止し虛川江水電貯水池を造り發電に利用せらる。

ユージ　熊峙面　朝鮮全羅南道寶城郡の西南部。寶城面の西南に隣る。東西に長く八粁余、南北五—六粁あり、面積約三九方粁。四面殆んど山を以て繞らし、東境に活城山(四五二米)、南境に日林山(六二四米)・骨峙あり。西南境には獅子山(六六九米)聳え、北麓に帝岩山(七七八米)突兀として峙つ。南部山地の水は蓮香川となりて中部を北流しこの流域に廣き平地ひらく。米麥・棉花・繭・叺等を產し、牛・豚の飼育また行はる。交通はやや不便なり。東境の活城山の北麓に活城址あり。

ユーショー　雄尙　朝鮮咸鏡北道慶興郡雄基邑の洞名。鐵道北鮮東部線の雄尙驛(昭和四年設置)あり。

ユージョー　熊上面　朝鮮慶尙南道梁山郡の東部。郡邑梁山の東北約一〇粁。東北は蔚山郡、南は東萊郡により圍まる。東西、南北とも各約一〇粁あり。東部と西部とに何れも大白山脈末端の支脈南北に通り、東境の大雲山(七四二米)、西境の元曉山(九二二米)相對峙す。中部に南北に長き平地ひらけ、回夜江これを灌漑して北流す。米・麥・繭等を產す。川沿ひに釜山・蔚山間二等道路通じバスの便ありて交通便なり。この街道に沿ふ主邑三湖里に水利組合・市場等あり。

ユーシン　熊津　朝鮮の古地名。熊川に同じ。↓熊川・熊川面(慶尙南道)

ユーセン　幽仙湖　千島列島の一なる温睡古丹島の南部にある火カルデラ湖。圓形にて周圍二〇〇—五〇〇米の絶壁にて圍まれ、出口も注入河もなし。中央より稍〻西北寄りに火山島の黑石山(一三三一米)が湖面上九五〇米に聳ゆ。湖中の火山としては稀有の例にてフィリッピンのボンボン湖のタール山に比すべきものなり。始め海上より望見せし頃は黑石山は單なる火山と思はれしが、大正初年に陸地測量部員によりこの湖發見され、黑石山は島と判明せり。幽仙湖といふ名もこの時つけらる。海拔三八七米に位し面積は二四・三五平方粁にて田沢湖より稍小さく、湖岸は三四・五〇粁。我が版圖内にては未だ測定されずに殘されし深湖の隨一なり。

ユーセン　遊仙炭礦　朝鮮咸鏡北道會寧郡雲頭面にある石炭山。昭和十年には有煙炭一三九、〇九〇瓲(價額九九萬餘圓)を產出し、同年六月末の從業員は一、八二二人。現に重要鐵山に列す。

ユーセン　熊川　【熊川面】朝鮮忠清南道保寧郡の西南部。郡邑大川の南方凡そ一二粁。西は黃海に臨み、西南はベイジャー灣の入江を距てて庇仁邑西方の半島部と相對す。東北—西南に長く約一三粁、幅は約六粁あり。車嶺山脈の末端部が三條の小山脈となりて東北—南西の方向に走りて何れも海岸に達し、餘勢は西岸に石台島・黃竹島・直言島等の小屬島をつくる。上記山脈中東南境を劃するものに雲峰山(三三七米)あり、中央のものは北鎭の烽燧臺址に於て四一七米を示し、花落山(二一〇七米)を經て、海岸に東達山(一八四米)を起す。中部の大川流域に廣き平地ひらけ、また西南部の丘陵地間にも田畑よく發達す。海岸に南部に於てベージャー灣の北支深く灣入して大川の水を容れ、干潮時には遠く泥濘を露呈せしむ。米・麥・大豆・棉花・繭等の農產を主とし、また工產に蓆製品・苧布・酒類等あり、海岸には製鹽行はる。中部に社線京東鐵道忠南線と瑞山—群山間の道路並走し、前者に熊川驛(昭和六年設置)あり、後者にはバス通じ、交通便なり。熊川驛の西約二粁、武昌浦の海岸は海水浴場として著はれ、驛よりバスの便あり。

【熊川面】朝鮮慶尙南道昌原郡の東南部。儻海邑の東に隣り、また東は熊東面に接し、南は儻海灣に臨む。陰地島・水島・友島・草理島・熊島・松島・椽島等の屬島を含み、面積約二一方粁。佛母山の山麓に於て北鎭に於て約五百米の標高を示し海岸に向つて比較的急勾配を以て下り、西北境には天子峯あり。海岸は頗る屈曲出入に富み、東部は儻海灣の支灣熊川灣を成す。若干の農產ある外、沿海にちぬ・鮃・鰤・鯉・鯽・海鼠・牡蠣等の漁獲多し。儻海邑より海岸沿ひに金海郡内に至る三等道路通じ、儻海邑との間にバスの往來あり。主邑熊川は熊川灣支灣に臨み、もと熊川郡廳の置かれし地。加德水道の咽喉を扼し、往時對馬貿易時代に於ける謂ゆる三浦の一にして、熊川の名は上代より吾が史上に現はれ、金海に至る關門をなせしものの如く、その海岸に古く薺浦と稱し、邦人の最も古く居住せし地とす。本面の地域は要塞地帶に編入せらる。※薺浦

ユーソン　熊村面　朝鮮慶尙南道山郡の中部西南偏、蔚山邑の西南一〇粁余に位す。東西約一〇粁、南北五—八粁あり。北境に南嶺山(五四二米)ありて以南は中部に至るまで二—三百米の丘陵地をなし、また西部・東南部にも小山地あり、西南境に於ては最高約六百米を測る。之等丘陵地間を西南—東北に回夜江流れ、沿岸に平地ひらく。米・麥・繭・牛等を產す。釜山・蔚山間二等道路通じバスの便あり、交通不便ならず。

ユータリ　勇足　北海道十勝國中川郡本別町の大字。省線綱走本線の勇足驛(明治四十三年設置)あり。

ユータン　熊灘面　朝鮮江原道伊川郡の最北部。郡邑伊川の東北約四十五粁。南北の長さ三〇粁に近く、幅は十二粁前後あり、咸鏡南道の安邊・德源兩郡の間に嵌入するを以て元山府へは東北約二〇粁に過ぎざるも、隔絕せる山村なり。卽ち安邊郡との境には白岩山・雪峰(一三四〇米)・楸愛山等、德源郡との境には梨德山・裏冀德山(一五八五米)・琴瑟峰・鳳凰山等、何れも一千米以上の山嶺連り、南境には古來峰聳ゆ。東西兩山地間を臨津江上支の古味呑川が南方に鎭谷を刻むも、沿岸平地に乏し。大豆・粟・麻その他雜穀類を出し、蜜蠟・蜜蜂行はれ、また金銀の鑛產あり。谷沿ひに道路通じ、郡邑伊川へは南境近くよりバスの便あり、其他峠を陰えて京元線高山驛又は釋王寺・安邊等に出づるを得るも、交通なほ便ならず。

ユーチ　勇知　省線宗谷本線の一驛(大正十三年設置)。北海道北見國宗谷郡稚内町にあり。

ユートー　熊東面　朝鮮慶尙南道昌原郡の東南部。儻海邑の東約十粁。西は熊川面、北は金海郡長有面、東は同茶山面に接し、南は加德水道と熊川灣とに面す。北西—東南に稍々長く一〇粁、幅は約五粁あり。北西境に佛母山聳えこれより出づる山脈、一は東北境に沿ひ寶蓋山を起し、一は熊川面界に連る。海岸は中央に一半島西南の方向に突出して、西側に深き熊川灣を抱き、この灣の北岸と東南海岸とに平地ひらく。米・麥等の

農産ある外、沿岸に牡蠣の産多く、また鰹・太刀魚・鯛・鰤・鰯等の漁獲あり。海岸に沿ひ道路東西に通ずるも途中に坂峠ありて交通不便の憾みあり。

ユートク　有德面　朝鮮咸鏡北道慶源郡の南端。雄基邑の西北十粁余。南北に長く約一六粁、東西最大一〇粁余あるも、南に至るに從ひ狹まる。面積約一三〇方粁。南境に松眞山（一一一四六米）聳え山脚西北に連り、江八嶺の鞍部を經て北境に塔香峰（八二六米）あり、西南境に近く阿吾地川發して東流し流域に平地あり耕地ひらく。大豆・粟その他の雜穀並に若干の米・麥を產す。當面と慶興郡上下面とに跨りて阿吾地炭礦あり。朝鮮石炭工業會社の稼行に係り、昭和十年には有煙炭九五、五一三瓲（價額三七萬餘圓）を產出し、同年六月末の從業員は六九四人とす。採掘炭を利用して現地に石炭液化工業を行ふ。中部に慶興・茂山間の道路東西に通ず。本面は要塞地帶に編入せらる。

ユーナン　熊南面　朝鮮慶尙南道昌原郡の中部。北は昌原面、東は上南面、南は鎭海邑に接し、西は馬山灣を隔てて馬山府及び龜山面と相對す。東西約九粁、南北六—七粁あり。南部に佛母山の山脚のびて丘陵東西に連り、鎭海邑との境にて最高約六百米を測るも、北部に平地ひらく。海岸は出入に富む海岸にして、ただ北部の入江は低平にて鹽田に利用せらる。米・麥・綿花・蠶等の產あり。東境に近く鐵道鎭海線と昌原・鎭海間二等道路通じ、交通不便ならず。

ユーバリ　夕張（ゆふばり）【夕張郡】北海道石狩國空知支廳の東南隅。支廳管內四郡の一。東は上川支廳、南は鑛振支廳に界し、北は空知郡に接す。面積一二六七・三平方粁。人口八一九九二。夕張川の上支流々域地を占め、地形東西に延ぶ。卽ち東境は夕張山脈南北に連亙し夕張嶽（一六六三米）・鉢盛山（一一四五〇米）等の高峯重疊して、諸川の發源地たる所より、諸川合して夕張川の二支流を南北に西流せしめ、流域の斜面地を經て石狩平野の東南部に出で江別川に合流す。東部に夕張町、中西部に角田・由仁の二村、西部低地には長澤村存す。中部山地は謂ゆる夕張炭田地にして溪谷及び沿岸に近き山地に北海道炭礦汽船會社の經營にかゝる夕張鑛・新夕張礦・眞谷地礦・登川礦及び三菱鑛業大夕張鑛等數多の炭礦存し、發電所・鐵道等の設備完備す。省線函館本線野幌驛より分岐せる社線夕張鐵道は河岸に通じてこれ等數多の炭鑛を連絡し支線を分岐し、バスまた之に並行して運輸交通の便を助く。由仁・角田二村は山地・平地の相接する所にして、諸川合流して廣大なる合成沖積平野を有し、農業頗る盛んなり。省線室蘭本線貫通し、夕張炭田を控へてその需要に應じ近時愈々開發の著しきものあり。米・甜菜・馬鈴薯・大麥・小麥・燕麥及び澱粉・砂糖・麥粉・家畜類等の產多し。郡の西端長沼村は地勢稍々平坦なるも、往時夕張川の氾濫の跡なる沼澤地多し。農業・牧畜甚だ盛んなり。

【夕張町】北海道石狩國空知支廳夕張郡の東部。夕張川發源地方の夕張山脈中に位し、大部は夕張御料林地帶なり。東は分水嶺連亙して上川支廳に界し、北は空知郡、西と南は角田村・由仁村に接す。面積七六一・七五平方粁。東・北の山中より發する諸川は合流して夕張川となり西南流す。沿岸低地の外は悉く山地に占められ地勢稍西方に傾く。市街地は西北志幌河岸にひらけ、此邊一帶は夕張炭田地區にして炭礦多く、人口稠密にして活況を呈す。また木材の產豐かにして農牧業も副業的に行はる。省線夕張線及び社線夕張鐵道の便ありて、交通便なり。夕張はアイヌ語の Yū paro（ユーパロ）より轉訛せるものにてそは溫泉口の意なり。古くはアイヌすら住ざりし地。かの十勝のアイヌ此地に來りて千歲のアイヌと婚し遂に部落をなすてふ傳へは夕張郡の海岸のこととす。文政四年松前藩の家臣が上夕張・下夕張の兩場所を設置するに至り、海岸に住むアイヌが、冬など獸類を追うて今の夕張町の邊まで來しこともあるかと云ふ位のところ、この奧深き山地に今や人口四—五萬の町を見る。これ全く炭礦に負ふものとす。顧るに明治九年北海道開拓使廳の雇米人ライマンは、夕張に石炭の存することを語れりと雖も、地形餘りに險峻にして敢て測査を逢ぐるものなし。北海道廳技師坂市太郎は、曾てライマンに從て北海道の測量をなし、また彼の言を信じ居たるものなるが、明治二十一年遂に幌內より炭層の走向を追ひ山谷を越えて夕張に入り、ソーホロカベツ（却流川の意）の上流に沿うて下り今の夕張町の地に至りしに、炭層累々として溪間に露出し居るを發見すといふ。かくて同二十三年北海道炭礦汽船會社は開坑に着手し、同二十五年石炭搬出のための鐵道を完成し以て今日の繁榮を產むに至る。今や夕張炭礦に本坑の外に新夕張坑・角田坑（以上夕張郡）・萬字坑・美流渡坑（以上空知郡）の支坑あり、また眞谷地・登川の兩炭礦は夕張炭礦と姉妹炭礦たり、卽ち以上何れも北海道炭礦汽船會社の經營に屬するが、獨り大夕張炭礦のみは三菱鑛業會社の經營下にあり。（別表中產額・價額は昭和十年の年產、鑛夫數は同年六月末現在、重は重要鑛山、準は準重要鑛山）。【夕張炭礦】鑛區八〇六萬餘坪、シーホロカベツの上流地方にて、三角山（標高七七三・四米）の南麓に位す。附近一帶の地質は白堊紀層の基盤を厚く被覆せる下部第三紀層より成り、幌加別頁岩及び夕張夾炭層に屬する砂岩・頁岩の互層を主とす。炭層は後者に夾まつて數層あり、その走向は北部にては北五〇度西に偏すれども、南部に於ては南北に轉じ、東に二五度の傾斜を示す。その總延長少くとも八〇〇米、シーホロカベツの西北岸より東岸に延び、そのうち特に本層は七米を超え、上層及び下層また各々一米を超ゆ。炭質は發熖粘結性にして火力强烈、粉碎すること少なく、北海道產の石炭中最も良質たり、汽罐燃料・瓦斯又は骸炭の製造用に適す。昭和十年の產額は塊炭三〇二、七七四瓲、粉炭六八〇、四七二瓲、切込炭八、三一五瓲、粗炭七三、五五八瓲にして、同年六月末の鑛夫數は二、五四一人、而して上記の產額は同年に於て北海道に於ける第一位、本邦に於ける第五位を占む。【夕張神社】字夕張炭山番外地に鎭座。郷社。祭神、天山祇大神・草野比賣大神・大國主大神。明治三十四年の創立。

【夕張線】省線室蘭線の一部。北海道石狩國夕張郡にあり。室蘭本線道分驛より分岐し川端・沼ノ澤等の數驛を經て夕張驛（夕張町）に至る四三・六粁。鹿ノ谷驛よりは社線夕張鐵道を分岐す。

【夕張鐵道】私設鐵道。北海道石狩國にあり。函館本線野幌驛より分岐し栗山・鹿ノ谷等數驛を經て新夕張驛（夕張町）に至る五三・二粁。省線と連帶運輸をなし勤力は蒸氣、軌間は一・〇六七米とす。なほ栗山驛にて省線室蘭本線へ、鹿ノ谷驛にて省線夕張線に接續す。

【夕張岳】夕張山脈の主峯。北海道空知支廳夕張町と上川支廳南富良野村との境上に峙つ。標高一六六八米。山頂に高山植物多く、偃松の間にリンネサウ・イハアクロ・チシマキンレイカワ等咲亂れ、またユウバリコザクラ・エゾイハベンケイ・ウシノケグサ・ユキバヒゴクタイ・ムカゴトラノヲ等の珍花も多く生育す。西麓は夕張岳御料地にして、南西麓は名高き夕張炭田為なす。登山は北東麓の根室本線金山驛よりトナシベツ川を南西方に遡るか、西麓夕張川の一水源なる白金川を北東方に遡りて行ふ。冬季登山も可能なり。

【夕張川】北海道石狩國の一河川。夕張山地に源を發し、嶮峻なる山間の溪流を集めて南北流し、川端附近にて石狩平野に出るや急に亂流し角田附近にて由仁・阿野呂の二支流を合せ、馬追山麓の東端を繞り、栗山驛附近にて更に南轉別川を合して水量・水深を增し、流向を南々西に轉じ、幅廣・長沼の兩平野の中央を緩流し、夕張太に於て千歲川と合して江別川となり、北流して江別町の東端にて石狩川に流入す。流路延長一六四粁、流域面積一二六二平方粁。流域の上半部は夕張炭田の主要部にて、夕張・新夕張・眞谷地・登川等の諸炭坑あり、省線夕張線、社線夕張鐵道がこれ等を省線室蘭本線・函館本線と連絡す。

ユーヒョー　雄坪面（ゆうひょう）　朝鮮咸鏡北道吉州郡の東南部。吉州邑の南に隣り、西は德山面、東は明川郡上加面に接す。やや南北に長く面積約八八方粁。城內殆ど三—四百米の丘陵地をなし南境に馬乳山（三九五米）・平德山（三三八米）・城內山（三〇三米）等あり、西北部にやや廣き平地横ほる。西境を南大川南流す。產物は米・大麥・大豆・粟等。南大川對岸に國道と鐵道通ずるも、交通便ならず。

ユーフツ　勇拂（ゆうふつ）【勇拂郡】北海道膽振國の東北端に位し行政上は上川支廳の南端部に入る。占冠村一村より成り、面積五七二平方粁。人口二一六二。北は上川支廳空知郡に、西は空知支廳夕張郡に、西南は膽振支廳勇拂郡に、南は日高支廳に界す。卽ち四支廳の間に介在す。四周山地に圍繞せられ東部に日高山脈、西部に夕張山脈連亙す。最高峰は東境のトムマ山（一二三九米）なるも、郡內の地勢概ね海拔七〇〇米以上あり。地勢四周より稍々中央に傾き、四方より發したる諸川中央にて合して鵡川となり、西南流す。沿岸に稍々耕地拓けたるも他の大部は廣大なる山林地あり。米・馬鈴薯・甜菜・木材・馬等を產するも少額なり。山間の僻地にて交通不便、省線根室本線金山驛へ約一六粁、社線北海道鐵道邊富內驛に約二六粁なり。

【勇拂郡】北海道膽振國膽振支廳の東南隅。支廳管內五郡の一。太平洋に南面し、東は日高支廳、北は空知支廳、西は白老郡及び東北は上川支廳勇拂郡に界す。郡內は苫小牧町外四ケ村を含む。人口五二七七八。面積一九二四・一二方粁。東部に鵡川、中部に安平川南流し、諸川を合して廣大なる流域を有す。西北境に支笏湖あり。樽前岳（一〇二四米）その東南岸に聳え、西北部の地勢は高峻なるも、海岸に傾斜す。鵡川は流程約八〇粁。東北夕張山中より郡內を貫流し海に注ぐ。山間に大河岸平原を作り、農業・牧畜及び交通の中心をなす。安平川の下流は低濕地多くカトナイト沼・辨天沼等あり、附近に聚落乏し。上中流沿岸に耕地及び聚

礦坑名	鑛區所在地	塊炭	粉炭	切込炭	粗炭	總額	鑛夫數	備考
夕張炭礦	夕張町、空知郡栗澤村	三〇二、七七四	六八〇、四七二	八、三一五	七三、五五八	一、八六六、〇三二	三、二四一人	重
同新夕張坑	夕張町	六〇、三二四	一六五、〇〇二			二三三、一六七	六二二	重
同角田坑	夕張町、角田村	七、三六一	二八、九六九	二四六	一二四	三、〇〇三、一三〇	三七七	準
眞谷地炭礦	夕張町	八九、三三二	一三四、九六六		三三、九七四	三四四、八六八	三七二	重
登川炭礦	夕張町	四四、〇六八	四三、二九二		六、七八二	四八、〇二八	二四四	重
大夕張炭礦新坑	夕張町、空知郡栗澤村	三五、一八二	三九八、三七八			三、六七七、九七六	九四〇	

落あり。海岸は諸川の堆積平野及び海岸平野相連りて極めて平滑なり。苫小牧の市街地は西南岸に發展し王子製紙工場の製紙業を中心に活況を呈し、また附近交通上の門戸たり。厚賀村には振老油田あり。北部山地は嶺れ山林地にて木材を產す。馬鈴薯・麥類・甜菜・馬・水產物等の產あり。省線室蘭本線西部に通じ、その苫小牧驛よりは日高線分岐し沼ノ端驛にて社線北海道鐵道に接續す。

【勇拂川】北海道膽振國の一河川。樽前火山群の東山腹に源を發して東流し、アツベナイより下流にては谷底が急に廣くなりて勇拂澤と呼ばれ、省線室蘭本線沼ノ端驛附近にてウトナイト沼より流出する一川を合せ、更に北より來る安平川を入れ、勇拂部落の西にて太平洋に注ぐ。流路延長約四〇粁。

【勇拂】北海道膽振國勇拂郡苫小牧町の大字。省線日高線の勇拂驛（大正二年設置）あり。

ユーベツ　湧別

【湧別】北海道網走支廳紋別郡にありし村。明治四十三年下湧別村と改稱。

【湧別川】北海道北見國紋別郡の最大河。源を北見・石狩の分水嶺をなすニセイカウシュウベの高峯に發して、郡の東南部を環流し、遠軽に於て生田原川を合せ、下湧別にてオホーツク海に注ぐ。流路延長一三〇粁、流域面積一五一六平方粁。遠軽までは山間の渓流にて農耕地狹小なるも、これ以下の約三〇粁の間には比較的廣き沖積平野を有し、社名淵・上湧別・中湧別・下湧別等の農業部落發達し、從來は薄荷の產にて知られしが、近年は盛んに水田が造成されつゝあり。本川に沿ひて省線石北線通ず。

ユーベツ　雄別

【雄別】北海道釧路國阿寒郡阿寒村大字徹別の字。アイヌ語Yu-pet（ユーペツ）の轉訛にして、ユーペツは溫泉澤の義なり。舌辛川の上流に溫泉湧出して澤となりし處ありしなるべし。此地に重要鐵山たる雄別炭礦あり。（雄別炭礦）釧路市の西北約四五粁の地にあり、鐵區二四四萬餘坪。當炭礦は雄別炭礦鐵道會社の經營に屬し、同鐵道は當炭礦と釧路港とを連絡す。當炭礦は白糠炭田（一名阿寒炭田）の東北部に屬し、白堊紀層を不整合に被覆する下部第三紀層中の石炭を採掘するものにして、炭層五十前後を數うれども、主なるものは上層・中層（徹別層）・下層にて、厚さは夫々一・三、一・一、五・〇米、而して上中層間二〇〇米、中下層間一四五米を隔つ。炭質は嶺れ黑色乃至黑褐色の低度瀝青炭に屬し非粘結性にして碎け易く、發熱量六八〇〇カロリー、汽罐用燃料に適す。昭和十年の產額は塊炭九四、四五三瓲、粉炭一二二、〇九〇瓲、粗炭二八、九九五瓲（この總價額一四一萬餘圓）にして、同年六月末の鑛夫數は五六七人とす。

【雄別炭礦鐵道】私設鐵道。北海道釧路國にあり。省線根室本線釧路驛より分岐し平戸前・舌辛等の數驛を經て雄別炭山驛に至る四四・一粁。省線と連帶運輸となし、動力は蒸氣、軌間は一・〇六七米とす。

ユーホ　友保面

朝鮮慶尙北道軍威郡のほゞ中央。郡邑軍威の東南約一〇粁。東西約六粁、南北約一一粁あり。二百—三百米の丘陵地帶その大部分を占め、北境には國通山（三二〇米）あり。洛東江支流渭川中部を流して西に流れ、流域に狹長なる平地ひらく。產物に米・麥・大豆・棉花等あり。東部に新寧・義興・義城を經ぬる二等道路通じ、これより西に渭川に沿うて下り軍威・孝令間の道路に連絡する道路あり、何れもバスを通ずれど、南部は途中坂路多くして、交通なほ便ならず。

ユーホ　熊浦面

朝鮮全羅北道益山郡の西北部。郡邑裡里の北北西一五粁餘。錦江左岸に沿ふ南北約一〇粁に亙る狹長の地を占む。東境に一〇〇米臺の丘陵南北に長く連り、北に峰峰聳え、南端に於ては一七九米の高度を示し、西方に緩斜して平地をつくる。米・麥・大豆・棉花等を產す。江岸に沿ひて三等道路通じ、錦江の舟楫の便と相俟ちて交通便利なり。主邑熊浦は江に臨む河港にして、また東方咸悅並に對岸なる韓山の兩邑に出づる交通上の要地を占む。

ユーモー　湧網

【湧網東線】省線網走線の一部。北海道北見國網走・常呂の二郡に亙る。網走本線網走驛より分岐し常呂驛（常呂郡常呂村）に至る三〇・三粁。なほ網走驛にては網網本線にも接續す。

【湧網西線】省線名寄線の一部。北海道北見國紋別・常呂の二郡に亙る。名寄本線の中湧別驛（紋別郡上湧別村）より分岐し中佐呂間驛（常呂郡佐呂間村）に至る二九・三粁。

ユーヨー　熊陽面

朝鮮慶尙南道居昌郡の北部。郡邑居昌の北方約一二粁。東は加北面、南は主尙面、西は高稀面に接し、北は慶尙北道金泉郡大德面と界す。南北に長く九—一二粁、東西は平均約六粁あり。四面は山を以て圍まれ、東境には修道山の南肢長く延びて白磊山（一〇一九米）聳え、西境には大德山の南肢連りて嶺れ七—八百米の高度を持し、何れも南するに從ひ低炎す。北境には烽山（九〇二米）聳え山肢南走して城內中央部に達す。北西部に小盆地介在しここに渼水川發し、烽山東麓の牛頭嶺（最高點五八七米）附近に發源する水と中央部に於て會し南流するところ兩岸に平地ひらく。米・麥・大豆等を產し製紙・麻布の機織等行はる。河沿ひに金泉・居昌間二等道路通じバスの便あり。

ユーラクチョー　有樂町

東京市麴町區の町。省線東海道本線の有樂町驛（明治四十三年設置）あり。

ユーラップ　遊樂部岳

一に見市岳とも云ふ。渡島半島の脊稜をなす遊樂の一峯。北海道檜山支廳熊石村と太

檜村との境上に聳ゆ。標高一二七六米。北東方に太檜岳（一〇五三米）峙つ。東流する遊樂部川、南流する見市川、北流する左俱川の分水嶺をなす。從來熊狩の地としてその名を知られしが、近來登山者に注目せらるるに至れり。登山路は函館本線八雲驛下車、遊樂部川を遡り、太檜岳に至り、南西方左俱川上源を泝りて達頂す。冬季スキー登山も興味あり。

ユーワ　友和村

廣島縣安藝國佐伯郡の南部。嚴島町より約七粁の西北山中に存し、津田町の東南に接す。面積三六・九四平方粁。北は山地を以て玖島村に接し、東は縣道を以て宮內村に、南は七〇〇米の山を以て大野村に界す。卽ち四周山地迫りて中央に三角形の盆地あり。玖島川發して南流し耕地を作る。米・麥・繭の產多く、また林產物・醬油・酒類・牛馬等を產す。省線山陽本線廿日市驛へ約一〇粁、バスの便あり。昭和四年友原村・三和村を廢し、その區域に新に友和村を置く。佐西郡穗尾城主たる友田興藤（佐伯氏）は友田村（友和村の大字）に住し友田氏を稱し上野介に任ず。

ユアサ　湯淺町

和歌山縣紀伊國有田郡の西部。湯淺灣の奥に位し、山田川の兩面一帶の山地を含む。東部に山地にして四周に高く東境の三本松峰は標高五三三米を有す。地藏峰は南境にありて四一一米なり。中央を山田川が西流す。西部は低地發達して湯淺港に臨み、廣川西北流しこれに注ぐ。湯淺港は西方に廣く開口し、北は丹崎、南は宮崎に圍まれ前方遙かに毛無島・苅藻島・鷹島・黑島等の羅列せるを望む。產業發達して農產・水產豐富にして、產物には米・蜜柑・繭・帽子・鰯・鯖等あり、近時また工業發展して藥品・綿織物及び日本最初の歷史を有すと言ふ湯淺醬油等を產す。西部には縣道及び省線紀勢西線が縱走して後者の紀伊湯淺驛（昭和二年設置）あり。また社線有田鐵道は海岸驛・湯淺驛（共に大正四年設置）を置く。湯淺港は海水深く自然の良港なるも、近來鐵道發達したるため、物貨輸出の便を奪はれ、出入する船舶も次第に減少して往時繁榮の俤を見ず、沿岸漁船の假泊・避難地たるに止まる。大阪・神戸・三重縣への定期航路あり。此地は豪族、湯淺氏の所領として知られ、その後、畠山・白樫氏を經て德川頼宣の領となり、古くより榮え、舊郡役所の所在地たり。明治二十九年町制を布く。稅務署・大阪地方專賣局煙草販賣所・大藏省預金部出張所・高等女學校等あり。〔湯淺城〕湯淺氏累代の故城にして、其館址は鍛冶町の北、殿屋敷の地とす。鎌倉時代の初、湯淺宗重出でて大に家名を揚げ、城を同町の東なる青木山に築く。吉野時代、湯淺氏南軍に應じ忠節を盡す。天授元年九月、細川氏の爲め敗らる。嘉吉三年、楠木某兵を擧げ、八幡に戰ひ破れ、退きて此城に入る。文安四年十二月、畠山基國、兵を率ゐ來り攻め城陷に陷る。〔勝樂寺〕別所にあり。淨土宗西山派。別所山藥師院と號す。もと當町藤願寺（古義眞言宗）の奥ノ院なりしが、のち衰頽、淨土宗に歸す。本尊木造阿彌陀如來坐像一驅（藤原時代作）・木造地藏菩薩坐像一驅（鎌倉時代作）・同藥師如來坐像一驅（藤原末期作）・同釋迦如來坐像一驅（鎌倉末期作）・四天王立像四驅（藤原末期作）は何れも國寶。

ユイ　由井

【由井村】東京府武藏國南多摩郡の中部。八王子市の東南隣にあり。多摩丘陵の一部を占めて森林多く、東北境を東流する淺川の流域には稻平地あり。農業行はれて米・麥を產し養蠶盛んにて繭の產額多し。また窯業行はる。二條の縣道八王子市に通じ、省線横須賀線は中央を東北に走りて八王子市に入り、社線京王電氣軌道は北部を西走して長沼・北野・片倉・山田の四驛を置く。この地は近世、由井領と稱せし地。村內に片倉城址あり、應永年中、大江備中守師親の居城たりしと傳ふるも詳かならず。

【由井ヶ濱】↓鎌倉町（神奈川縣）

ユイ　由比町

靜岡縣駿河國庵原郡の東南部。富士川の河口西方に在り。東に蒲原町・富士川町、北に松野村・內房村、西に小島村あり。北部は第三紀層より成る丘陵性山地にして西境に濱石岳（七〇七米）あり。中央を南に由比川流れ海岸に街村型の由比の市街あり、これより海岸に沿ひて南西に町屋原・今宿・寺尾・倉澤等ありて薩埵山（二四四米）にて終る。北部には久保山・舟場・檜野・入山等の聚落あり。櫻蝦・蜜柑等を產す。薩埵峠は東海道の名所として知らる。省線東海道本線は海岸に沿うて通じ、由比驛（大正五年設置）をおく。和名抄、盧原郡蒲原郷の內にして、東海道五十三次の由井宿のありし所。由比正雪の誕生地と傳へ、いま海水浴場として知らる。明治天皇、明治元年東京行幸及び京都還幸の際、同二年東京再幸の際、同十一年北陸東海御巡幸の際等に此地に御小休あせらる。丹波與作待夜の小室節「とんと打つたる興津波、松原ばるる膏藥買うて、月をすひ出せ清見寺、由井、蒲原や吉原の花の蒲燒名物の、鰻のほだ（沼津の宿」藤栗毛・二中「由井より興津へ二里十二丁……エエやかましい女どもだ。呼たつる女の聲はかみそりや、さてこそ髮由井の宿」（豐積神社）郷社。祭神、木之花佐久夜毘賣命。式內社。朱印領十六石八斗。舊稱、淺間社・由井淺間豐受大神宮・豐積淺間。例祭、十月十四日。

ユイ　油井村

福島縣岩代國安達郡の北部。二本松町に北接す。面積七・七一方粁。奥羽山脈の東斜面に屬し、地勢西部に高く、全村概れ丘陵をなし、湯川は村の中部を東南に流れ阿武隈川に合し、阿武隈川は東南境を東北に流る。村の生業は農業を主とし、米・葉煙草・繭を產す。陸羽街道は村の中部を略々南北に通ず。省線東北本線の安達驛（大正六年設置）を置く。

ユイズミ 温泉 宮城縣玉造郡にありし村。大正十年本村を分割し鳴子町・川渡村を置く。

ユエ 湯江 【湯江村】長崎縣肥前國北高來郡の東北部。諫早町の東北約一〇粁、北は佐賀縣藤津郡に境し、南は有明海に臨む。地に五家原岳の東南斜面を占め、北境に多良岳(九八三米)・帆柱岳連立して南に傾斜し、村内の大部分は山地を成し、南部沿岸に低地ありて耕地拓く。主生業は農にして米・麥を產し、また養蠶業行はる。海岸を縣道走りてバス通ず。雲仙國立公園の一部に當り、舊の濠あり、高さ約一二米あり。外にも二十餘の濠連續して楊柳の濠・大龍の濠・不動濠等あり。〔老松神社〕大字湯江に鎮座。郷社。菅原道眞を祀る。古來老松大明神と稱す。例祭、十一月二日。

【湯江村】長崎縣肥前國南高來郡の北部。雲仙岳の東北々部中腹より東北方へ延びて海岸に及び、南部は幅次第に狹まりて尖塔狀をなす。地形は南部に高く背後に雲仙岳(一三六〇米)が聳ゆ。山麓は中部より北部に於て臺地狀の極めて緩き傾斜をなす。耕地よく發達し米・麥・粟・大豆等を產す。海岸に沿ひて縣道及び社線口之津鐵道が走る。

ユエ 湯坐 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に周淮郡湯坐郷あり。その地凡そ今の君津郡貞元村・周西村に當るか。貞元村の大字に上湯江・下湯江あり、湯江は卽ち湯坐の遺稱なるべし。

ユカ 瑜伽面 朝鮮慶尙北道達城郡の西南部。大邱府の南々西約一八粁、玄風の東に隣り、東に清道郡角北面、南は慶尙南道昌寧郡城山面と界す。南北に稍長く約一〇粁、東西は六—七粁あり。東北境には琵瑟山(一〇八四米)聳え、山脈西及び南に延びて高峻なれど、漸次西に低夷し、此等山地に發する溪水は西流又は西北流して洛東江に注ぐ。山麓に耕地ひらけ、米・麥等を產す。西境に沿ひ大邱・昌寧間二等道路通じバスの便ありて交通不便ならず。琵瑟山中には古刹瑜伽寺・消災寺あり。

ユガ 由加 省線宇野線の一驛(明治四十三年設置)。岡山縣兒島郡灘崎村にあり。

ユガノ 湯ヶ野 ↓上河津村(靜岡縣)

ユカワ 湯川 【湯川村】和歌山縣紀伊國日高郡の西北部。御坊町の北に接し西南は約一・五粁にて太平洋岸に出づ。北部は白馬山地にして北方に高く、東境に城ヶ峰(三〇九米)、西境には藥師谷山(三六七米)聳ゆ。南部は平地にして附近の隣村と共に日高川下流の平野を占め、小河西南流し日高川の支流に合す。低地は地味肥沃且つ氣候溫暖なる爲め田畑よく拓けて米產多くまた繭・柑橘を出し、その他工產・杏產もあり。省線紀勢西線は村内に御坊驛(昭和四年設置)を置き社線御坊臨港鐵道と接續す。和名抄、日高郡財部郷の内にして、中世湯川氏の廢墟なり。近世は安富庄と稱し、大字安富はその遺稱なるべし。大字丸山の湯川城址に清和源氏、武田氏の族、湯川氏の居城せし所にして、武田系圖に「湯川の先祖は甲斐國武田之次男なり…甲州を立退き、紀伊國熊野の内湯川と申す所に城を構へ居住す、湯川の先祖是也」と見え、その裔孫の直春の時秀吉に亡ぼされる。

【湯川】和歌山縣東牟婁郡那智町の大字。省線紀勢中線の湯川驛(昭和十年設置)を置く。

ユガワラ 湯河原町 神奈川縣相模國足柄下郡の南端。西は箱根町、南は靜岡縣熱海市に接し、東は相模灘に臨む。箱根山の東南斜面を占め、西境には外輪山たる鞍掛山(一〇〇四米)あり。山地は次第に東南に傾斜し、東部の海岸附近に至りて僅に平地あるのみ。平地には農業行はれて麥・甘藷・菁蓼等を產す。南境を東流する藤木川に沿ひて南部の山間に溫泉湧出し主要聚落をなす。縣道は海岸沿ひに南走するもの及びこれより分れて川沿ひに溫泉に通ずるものあり。省線東海道本線は東部を南走し湯河原驛(大正十三年設置)を置く。湯河原はもと土肥村の一字名なりしが、大正十五年土肥村を湯河原町と改稱す。特に東海道線開通して湯河原驛の設けらるるに及び著しき發達を遂げたり。古くは源平の頃、土肥次郎實平の居城の地。いま城址は千年川(藤木川の下流)左岸の山上に殘る。土肥氏は平良文の子忠頼の三男、頼尊の後裔實平(土肥次郎)此に土肥氏を稱せり。その後裔は德川秀忠に仕へて名あり。東鑑に椙山と云ふは、この地の山名を指せるものか。治承四年、源頼朝石橋山に敗れてこの山中に逃れ、大庭景親兵を率ゐて到るに及び更に後塞に走るといふ。〔湯河原溫泉〕湯河原驛より西北約三・三粁。箱根外輪山の一放射谷なる藤木川の河畔に湧出す。東京より約二時間にして達し、驛よりは自動車又は人力車等の便あり。無色透明の弱アルカリ性鹽類泉なり。行樂並に療養向。溫泉の起源は不明なるが、既に萬葉集の相模國歌によまれまた白鳳二年加賀金澤の人、二見三郎は此地を開闢しつつ雲泉に浴し長壽を保ちしと傳ふ。また源頼朝の士卒、傷痍を治せし事も史に見ゆ。戰國時代はコゴミの湯と稱し、江戸時代に小梅の湯と呼ばれ幕末より湯河原溫泉と稱し、明治三十七八年には戰傷軍人の療養所となりて、一躍天下に知らる。藤木川に沿ひ約一粁遡れば廣河原溫泉・大倉公園等あり。

ユキ 由基 千葉縣安房郡にありし村。大正四年主基村と改稱す。

ユキ 油木町 廣島縣備後國神石郡の中部。北境は成羽川の上流帝釋川東流して新坂村を隔て、東は豐松村に、南は小畠村に、西は草木村に接す。面積四九・〇五平方粁。城内の大部は海拔五—六百米の山地丘陵に蔽はれ、針葉及び闊葉樹林繁茂せるも、河岸及び山間の窪地に田畑拓け牧畜行はる。米・麥・蕎・繭・木炭・酒類・家畜等の產多し。縣道二線中央に通じ油木町その分岐點に位す。福山市・井原・東城町にバス通じ、東城町より省線備後庄の便あり。郡の首邑にして、大正六年町制を布く。和名抄、神石郡三坂郷に屬せしものか。

ユギ 由木村 東京府武藏國南多摩郡の中部。八王子市の東南方にして間に由井村を挾む。多摩丘陵の一部を占め、全村丘陵地にて森林多く、丘陵間に畑地・桑園あり。中部より東流する多摩川小支流の流域には、狹き平地ありて水田をなす。農業行はれて米・麥を產し、養蠶盛にて繭の產額大なり。縣道は八王子市、北方日野町及び東南方町田町に通ず。八王子市へは自動車の便あり。また北隣七生村より西北隣の由井村へ社線京王電氣軌道通じ、南平驛・北野驛に近し。和名抄、多摩郡小野郷の内、近世は楢木領と稱す。

ユキガタ 行方原 また行方野ともいふ。義經記に「白川の關を打越えゆきかたの原に驢附て負任を攻む、云々」と見え、いま福島縣岩代國西白河郡の東部、阿武隈川の左岸にして沿津村より北矢吹町に至る間の平地を稱せしものか。

ユキクラ 雪倉岳 日本北アルプス(飛騨山脈)の北端にして、白馬山の北方約五粁に當る。東側に新潟縣西頸城郡小滝村に、西側は富山縣下新川郡黑部國有林地域に屬す。標高二六一一米。北稜は赤男山を經て白馬岳に連り、南稜は鉢ヶ岳を經て白馬岳に續く。山頂部は緩かにして美しき傾斜を有し、北面は雪渓と苔にて掩はれ、高根薔薇美し。

ユキノウラ 雪浦村 長崎縣肥前國西彼杵郡の西部。長崎港の北西凡そ三〇粁餘の地點にあり、西彼杵半島の南北分水嶺以西、海に至る迄を其の地域とす。分水嶺は彼杵半島の最高嶺たる飯盛山等の五百米以上の山地連り、全部結晶片岩より成り、山形急峻、谷の浸蝕進み壯年期の地貌を表はす。北境に雪ノ浦川あり、其の支流南方より來り、海岸近くにて合流す。下流近くに多少の耕地ある他、全村、彼杵半島特有の山地なり。雪ノ浦川は彼杵半島最大の河川にて、川口近くに主邑雪ノ浦あり。河は入江深く流地をなす。山麓海岸に迫り絕壁をなす所あり、他は砂濱にして利用價値少し。道路は彼杵半島西岸廻りの縣道通じ、北方瀆戸に至る。東西の交通は中央分水嶺の爲に阻害され、僅かに小逕を通ずるのみ。沿岸通航また便ならず。產業は農林・漁業なり。本村は風土記記載の周賀郷の地ならん。大字河道(雪ノ浦川の支流に沿ふ)には石器時代の遺蹟を見る。また字古田より結晶片岩にて造りし石斧・石鏃・鋸・杓子等、二十餘點を得たり。また附近の岩石中に海棲穿孔蟲の穿穴せる海蝕岩を多數發見せりと。往昔は海岸なりしか。また字小田郷にて石鏃・土器・貝殼・人骨等を發見せり。雪ノ浦川流域下釜郷字岩崎の海岸にても石刀一箇拾得す。近世天主教傳來するや、本地方は最も盛なりき。今尙ほ村には壯大なる天主堂を有し信仰厚し。

ユグチ 湯口村 岩手縣陸中國稗貫郡の西部。花卷町の西に接し、西北は岩手郡及び和賀郡に隣接す。面積一二七・三二平方粁の大村。奥羽山脈の東斜面に屬し、西北境に青ノ木森(八五一米)聳えて東南方に傾斜し、豐澤川は西北境に發源して、村の中部を東南に流れ南境をなして東流す。村の西北部は山地をなすも、東南部は北上平野に屬して平坦なり。米・麥・大豆・粟・木炭等を產す。また大字豐澤には營澤鑛山あり、硫黃を產す。河川の沿岸には大澤・鉛・志戸平等の溫泉湧出し一大溫泉郷をなす。道路は川に沿ひて東南に通ず。〔志戸平溫泉〕泉質食鹽泉、療養向。別に砂風呂・蒸風呂あり。松稜山の翠巒は東に、豐澤川の清流は前方を走り、溫泉はその河岸に湧く。延暦年間、坂上田村麿、蝦夷征伐の時、流矢に中り此地にて癒せしが濫觴なりと傳ふ。附近には太田清水觀音・薄衣ノ濠あり、松稜山の紅葉亦良し。〔大澤溫泉〕豐澤川の霧谷に湧く食鹽泉。療養向。〔鉛溫泉〕泉質無色透明の食鹽泉、療養向。志戸平の奥、豐澤川の上流にあり。白猿の湧と、月の湯の二箇所に分る。約半粁に高倉山スキー場あり。〔西鉛溫泉〕泉質、無色透明の弱食鹽泉。療養並に行樂向。附近諸溫泉中の最奥に位し、豐澤川の岸にあり。日向街道及び省線日豐本線が中部を南走し、後者の行橋驛(明治二十八年設置)ありて省線田川線の起點をなす。日向街道より分れて西南走し田川郡香春町へ至る縣道あり。和名抄、仲津郡鴾野郷の地にして明治二十二年、行事・大橋の二聚落を合し行橋町と改稱す。大字行事に行橋地名標識あり。〔正八幡神社〕大字行橋に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后外一神。社傳に據れば、清和天皇、貞觀元年宇佐八幡宮を男山に御勸請の折、路傍の小丘に神輿を奉じたる跡なりと。例祭、八月廿四日。

ユクラ 湯倉 ↓花山村(宮城縣)

ユゲ 弓削 【弓削村】京都府丹波國北桑田郡の西部。地形弓狀をなし、東北西の三方は古生層より成る山地にして、其の地形は南・西に稍低く、北東に高く八百米以上の山岳連亙す。この高地帶は樹木鬱蒼として本

村の富源の藏せらるる所、之を八丁山と總稱す。八丁山附近は上山良・大堰兩河の分水嶺にして、日本海斜面と太平洋斜面との境界なり。弓削川は深見峠に發し域内の諸川を合して本村の中央を南西に貫流すること約一二粁、周山に至りて大堰川に入る。流筏・灌漑共に利用せられ本村の動脈たり。弓削川流域の小平地は農業行はるゝも、一般山地は林業の他見るべきものなし。林業は古來盛にして山國と共に京都への木材供給地となり、歴代大嘗祭の悠紀・主基兩殿の御用材を奉進する等朝廷との關係深し。居民の農・林の兼業に從事するもの相半ばす。「なぐり」と稱する薬材は本村の特産なり。また桐を栽植し、それを材料とする箒筒等の桐材指物業盛に行はれ京都方面に送らる。當村内或は他村に跨りて二三の滿俺山あり、大谷鐵山は鐵區が隣接の山國村にも跨り、昭和十年には滿俺約二六一瓲を産出し、村内の赤石鐵山は同じく九瓲を産出す。また村内の知谷鐵山は同十年の試掘に於て二二瓲を産出せり。この地は和名抄、弓削郷の地にて、村内鳥谷には古墳あり。弓削の名の國史に現るる始は續日本紀、元正天皇養老六年三月の條に「丹後國韓鍛冶首法麻呂、弓削部名麻呂等合七十一戸云々」とあり。また歴代大嘗祭の主基田を本郷内に設けられし事一再ならず。中世は建仁寺・天龍寺の莊園となる。大寺院の莊園となりしは、一に寺院建築に本村の良材を使用せんとしたるに據るならん。戦國時代は一時、宇都氏の領たりしも、明智光秀之を征し配下とす。交通は周山より主道本村中央を通り深見峠を越え若狭方面（通ず。京都驛より省營バス近在まで通じ、また山陰本線殿田驛へもバスの便あり。〔福德寺〕曹洞宗。和銅四年、僧行基の開基。往時寺運盛觀を極めしも中古以來退轉、安永年間復興成る。藥師如來像（木造）ほか二點は國寶。〔中道寺〕古義眞言宗。大覺寺末。草創年次不詳。脇長天立像（木造）は國寶。

【弓削】 河内國（大阪府）の古地名。和名抄に若江郡弓削郷あり、由介と調守。中世、弓削莊と稱し法隆寺領たり。僧道鏡に此地の人。其の地はいま南河内郡志紀村の邊なるべし。同村の大字に弓削あり、郷名の遺稱とす。

【弓削町】 岡山縣美作國久米郡の南部。福渡町の東北方約八粁に存し、北は加美村、東及び南は龍川村、西は龍山村に接す。面積約二〇平方粁。地形東西に長く四周山地に圍繞せらる。町内の地勢概ね山地なるも中央に低地あり、南北にのびて隣村に連る。社線中國鐵道こゝを貫通し附近に耕地拓く。米・麥・繭・生柿・木炭・酒類等の産多し。國道また鐵道に沿うて南北に通じ、津山市にバスの便あり。社線中國鐵道弓削驛（明治三十一年設置）を置く。大正六年町制を布く。この地は津山・岡山兩市間の街道に沿ひ、地方的山間都邑として發達せしものにして附近に名勝舊蹟多く、天磨瀧（高さ一八米、幅三米）・本丸公園・龍王山下の洗顔清水・龍王瀧等に名あり。本町より龍川・龍山・神目の諸村に亙る地域は、古くは和名抄、久米郡弓削郷に當り、中世には弓削莊といふ。赤松氏の作州を守護する頃はその一族、上野介家の傳領地たり。〔厨神社〕大字上弓削に鎮座。郷社。祭神、宇氣母智神。社傳に元正天皇和銅六年四月の創建なりと。例祭、十月二十六日。〔波多神社〕大字羽出木に鎮座。郷社。祭神瀧玉之男命、相殿に伊邪那美命・事解男命を祀る。

【弓削村】 愛媛縣伊豫國越智郡の東北部。弓削島・佐島・豐島・高井神島等より成る。主島弓削島は南北に長く凡そ六粁、中央部稍々狹く周圍は約二〇粁あり。最高部は東北部にありて三二六米あり。島内嶺ね山地を成し沿岸に僅に低地ありて耕地拓く。大島石の産あり。部落は上弓削・下弓削の二部落に別れ漁部に發達せる下弓削最も繁華なり。島民は主として漁業及び航海業に從事す。縣立弓削商船學校あり。交通は今治・尾道兩市を連絡する汽船寄航す。屬島高井神島は周圍約五粁の小島にして、島上に高井神島燈臺あり。燈質は達四紅白交光（八秒を隔て四秒間に白二閃光、更に八秒を隔て四紅光）にて、光達距離は二九浬とす。〔高濱八幡神社〕大字上弓削に鎮座。郷社。祭神三女神外二神。例祭、九月廿二日。

【弓削島】 ↓弓削村

【弓削村】 福岡縣筑後國三井郡の中部。筑後川の右岸に沿ひ久留米市の東方約二粁にあり。全村地勢平坦にて東境、更に南境に沿ひて筑後川が南流のち西流す。東部には南下する一支流あり。水利の便よく水田發達し米・麥を産す。久留米に近く交通至便なり。此地は和名抄に御井郡弓削郷とあり、東鐵、文治二年に筑後國弓削莊の名見ゆ。その地は本村の外、味坂村より北野町の一部に亙る地を稱するか。大字高良は太平記に一色探題大友氏と共に少貳氏を古浦城に圍みたること見ゆ、古浦は高良なるべし。

ユケイ　刃連　豐後國（大分縣）の古地名。和名抄に日高郡刃連郷あり、風土記には敷編郷と見ゆ。その地は詳かならざるも、日田町・三芳村・高瀬村に亙る地か。

ユケイ　靱負　備前國（岡山縣）の古地名。和名抄に邑久郡靱負郷あり、由介比と調守。其の他は詳かならざるも、いま行幸村・福田村の邊なるべし

ユゲタ　弓削田　福岡縣田川郡にありし村。明治四十年後藤寺町と改稱す。

ユサ　由佐村　香川縣讃岐國香川郡の南部。香東川の山地を脱せんとする處、其の西岸を占め、東は川を以て川東村に對し、西は池西村、西南は綾歌郡粉所村に界し、南は山地を以て安原村に隣り、北は川岡村に達る。廣袤東西一粁九七、南北五粁六七、面積八・七一平方粁、戸數六八三、人口三、五〇二（昭和十年）。

地勢南より北に向ひて傾斜し、南部は花崗岩質の山岳をなし、西南部は一帶洪積紀の丘陵をなし、地味概して豐饒ならざるも、東部並に北端部は廣濶なる沖積の平野をなし、香東川の分流は縱横に之を灌漑し、水利潤澤、美田よく開け田三、三三六反、畑三六四反。全戸數の七〇％は農業に從事し、純農村として發達す。米（約六千石）を主産物とし、麥（穫麥約二千石、小麥約四千石）なも産し、特殊作物として藺草・標草の栽培も盛んなり。近時はまた丘陵地を開拓、果樹の栽培をなし、柿を始め、甜橘・枇杷・梅なも産出し、副業産物としては麥稈莨田・鶏卵・墨表・鹽叺等あり、また製粉・綿出向日傘・酢・醬油・瓦・竹製品等を製出す。村の農會により鶏卵の共同處理、墨表・叺の共同販賣、青物市場等を營みつゝあり。本村は香川郡の南部に位すと雖も縣道の由佐・香西線が南北に、長尾・瀧宮線が東西に村内を通り、南は鹽之江より德島方面に、北は圓座・高松方面に通じ東は植田、西は池西・陶・瀧宮に通じ、定期自動車は高松築港と本村岩崎間を往來し、社線琴平電鐵圓座驛は本村の北部に近く、また同鐵道佛生山驛と鹽之江とを結ぶ社線鹽江温泉鐵道が村の東方を東西に通り、川東驛を有するを以て交通は決して不便ならず。この地はもと井原郷に屬せし處にして、奈良時代既に行基により寺院の建立を見る、今の天福寺の始めなり。平安時代に入り弘法大師此地の天福寺に觀音像をまつり、貞觀三年には智證大師今の冠纓神社の元なる祠をつくり寶藏寺を建造し、鎌倉時代には、天福元年四條天皇の勅願により天福寺が造營され、吉野時代に入り後村上天皇の延元二年細川頼之ここの地の國に居館を造營せり、宇行成の「國の館」是なり。當時、由佐彌二郎なる者あり頼之の父頼春と共に京都より來り由佐城を築く。頼之京に歸りし後、由佐氏代りて村を治め、天正十一年長曾我部の攻略にあひしが、由佐左京進秀盛よく防ぎ遂に和勝す。江戸時代に入り高松藩に屬し、岡村の丸岡・由佐の福田・吉光の瀧家庄屋をつとむ。明治に入り、其の五年には區劃設置せられて三十五區となり（岡村・由佐村・西庄村・池内村・横井村）、同七年第十八大區を改正、同八年第六區と改められ、同十一年廢區置郡の際各一村獨立となり、同十七年十二月岡・由佐・吉光の三村聯合、同廿三年二月町村制實施により三ヶ村合併由佐村と改稱せり。村内史蹟に富み、丘陵地には石器時代の遺跡多く、由佐小學校敷地・天福寺附近等よく知られ、古墳時代の遺跡は比較的少きも尚ほ大字吉光には稍大なる石室墳を殘す、明神社と稱し、刀工の祖神天目一箇神を祭祀す。此他史蹟としては行基の創建と傳ふる天福寺は村の西南丘陵上に在り、もと清性寺と稱せしが天福元年改稱、朝廷並に領主の崇信深く由緒に富み、弘法大師の建立に係る敎勝寺は寶樹山紫雲院と號し、鎮川鎮之の臣、秦主水敎清の孫敎勝の再興する處。智證大師の創建にかゝる寶藏寺は萬松山神生院と號し、冠纓八幡宮の祠令たりしが、廢寺となり、冠纓神社々務所に其の遺跡を止む。尚ほ弘法大師の創建と傳へ、もと屋島山上に在りしを寶暦中再建、文政二年利劍寺と改め、明治二十四年今の地に移せる利劍寺、西本願寺末寺にして、永正年中僧正賢の建立にかかる西光寺、眞宗興正寺派に屬する王子山北勝院專妙寺、同興正寺派の經納山妙光寺等あり。神社には貞觀三年の建立、四國管領細川頼之の崇崇深かりし冠纓神社を始め、境外末社として天滿神社その他多くの神祠各所に散在す。本村は古來傑者を出せしこと多く、中山城山は儒者にして全讃史（十二卷六冊）を著はせしを以つて知られ、菊池高洲は諱を武矩と云ひ、朱子學を研め高松藩儒の家を嗣ぐ。友安三冬は冠纓神社々司友安家に生れ、菊池高洲等に學び、高松藩に仕へ、國學を以て知られ、また草王の志厚く、類題集補闕（六卷）を著はす。この他、博學家たりし岸田亮仲（字は竹渠、號默翁）、書家の由佐久右衛門並に吉補（天福寺住僧）書家の加藤栗洞・岸田月窓・三枝保年等あり。

ユサ　遊佐・湯坐　【湯佐・湯坐】室町時代の頃、出羽國（山形縣）飽海郡の南部に就き私に稱へし郡。和名抄に見ゆる遊佐郷に因めるものとす。※飽海（郡）

【遊佐村】 山形縣羽後國飽海郡の北部。酒田市の東北約一七粁。鳥海山の西南斜面に屬し、村の東北境は海拔約一三〇〇米にて西南方に傾斜し、西南部は庄内平野に屬して平坦なり。月光川は南境を、高瀬川は西北境を各東南に流る。村の生業は農業を主とし米の産多く、また繭・木材等の産あり。道路は村の西南部を略南北に通ず。省線羽越本線遊佐驛（大正八年設置）を置く。往古遊佐郷或は遊佐庄と稱せし地にて、近世は兩羽驛路は遊佐の西一里、蕭崎を亭舎となしたれども、往古は此地を經由し、延喜式遊佐驛驛馬十疋とあるも此なるべし。大字大原田に遊佐大稲址あり、應仁の頃、遊佐某、出羽の守護代となり、その子太郎繁光の居館なりしと。〔御嶽神社〕大字野淨字水上に鎮座。郷社。祭神、少彦名命外一神。後冷泉天皇永承二年吉野金峯神社より勸請せりと。例祭、陰暦三月十三日・九月十三日。

ユサカ　湯坂　↓川淺村（宮城縣）

ユサキ　湯崎　↓瀬戸鈴山村（和歌山縣）

ユザト　湯里村　島根縣石見國邇摩郡の西海岸。日本海に面し、西は温泉津町、東は大森町の間に挾まれ、北に馬路村、南に大家・井田二村あり。面積一八・七平方粁。大江高山（八〇八米）の西北麓に位し、地形東南—西北に長し。東南部一帶は山地にして林野に占めらるるも中央より西北海岸に地勢傾きて山間低地よ

り市井にふけて詩歌多し。港内に小山人口四萬を有し商業を行ふ。米・麦・繭・木炭・塩酒・牛・馬・木材等を産す。名勝山倉天神の神山詩（明和十年創設）あり。和名抄、周防国玖珂郡の内にして、延喜式に駅馬駅伝社地にあり。

ユキワ　湯津

【備後国】　郡新市村の北部。西は同郡内町の東南部の一部に接し、北は芦品郡に接し、東は下下谷・横尾村の境界に接し、南は芦品郡に接し、東は下下谷・横尾村の境界に接し、南は芦品郡に接し、東は下下谷・横尾村の境界に接し、南

河岸に沿うて村道南北に通ず。もと西津野村と稱せしが、明治四十五年椋原村と改稱す。延喜十三年、藤原經高（在原朝臣と稱す）伊豫國より此に來移し、深山を伐開きて里と爲し、椋木多きによりて椋原（くらはら）と稱す。のち椋原城を築城し居住せり。勢振ひ土佐七豪の一に數へられ、經高五代の孫、彌次郎高行、津野庄一圓を領し、元貫の時に津野五千貫の主となり葉山須崎に城郭を構へしが、幡多郡一條殿に滅ぼさる。本村は幕末に於て吉本寅太郎（贈正四位）・掛橋和泉（贈從五位）・那須信吾（贈從五位）・前田繁馬（贈正五位）・那須俊平（贈正五位）・中平龍之助（贈正五位）の勤王家を輩出せり。〔宮野野關址〕 文久、元治前後、天下の時勢益切迫に及び、勤王の志士、家を忘れ身を捨て四方に奔走するや、本藩並に他藩の志士も憂憤の餘り密に此の關門を越え或は入國し、或は國を脱し、再び故郷に歸らずして、國難に殉じたるもの少なからず。文久二年三月六日、吉村寅太郎、薩州に使すと稱し脱關せり。三月廿六日、坂本龍馬・澤村惣之丞脱關す。この月、越後浪士本間精一郎は吉村寅太郎の書を携へ、密に關を越えて津野山に來りしかば、武市瑞山の代理として河野萬壽彌・上田楠次應接せり。同三年九月廿二日夜深更、千屋菊次郎・松山深藏脱關せり、九月二十五日の夜、上岡鐵治脱關せり、十一月二十一日に、田所嘱太郎・尾崎幸之進・安藤貫之助・中平龍之助の四人脱關せり、元治元年五月卅日夜、千屋金策脱關六月六日拂曉、那須俊平・玉川莊吉脱關せり。これ等愛國の志士、斯く關門を脱し、再び故國に還らずして、或は大和の義挙に斃れ、或は京師の難に殉じ、或は天王山の曉露となり、或は美作土居の朽土と化せり。古關の番所は尙ほ農家となりて存す。關址は桑畑・麥畝となれり。〔大鳴見神社〕 大字初瀬に鎮座。郷社。祭神、瀨織津姫命。もと窓彦大明神とも稱す。例祭、三月二十日・十月二十日。〔天神宮〕 大字松原に鎮座。郷社。祭神、菅原道眞。古來もと松原村・中平村の總鎮守。例祭、七月一日・十一月十七日。〔三島神社〕 大字椋原に鎮座。郷社。祭神、雷神・大山祇命・高龗神。延喜年間伊豆國三島明神を勸請する所と傳ふ。古來椋原村の總鎮守たり。一名、三島大明神。例祭、七月十五日・十月廿九日。〔三島神社五社神社〕 大字越知面に鎮座。郷社。祭神大山祇命・天山祇命。天文十七年、中越三河守吉長の勸請する所といふ。もと三島大明神五社大明神と稱す。明治元年今の名に改む。例祭、七月二十五日、十一月二日。

ユスバル 油須原 省線田川驛の一驛（明治二十八年設置）。福岡縣田川郡赤村にあり。

ユズリハ 譲葉山（ゆずりは） 六甲山塊の北東端の一峯。兵庫縣武庫郡良元村に峙つ。標高四八九米。山中譲葉の木多き爲山名出づと傳へども今はその木なし。山の南面は大崩壊をなして笹瀬谷に崩れ、西面は座頭谷に降る。山頂より大阪灣の眺望佳なり。東麓を武庫川南流し、川に沿うて寶塚温泉あり。北麓には有馬街道略東西に通ず。

ユズリハラ 椚原村（ゆずり） 山梨縣甲斐國北都留郡の東北部。關東山地の一部を占め、北は千米前後の山嶺を以て東京府西多摩郡に、東は神奈川縣津久井郡に隣接し、南は上野原町に界す。全村山岳地帶にして森林多く、西より東南へ桂川の一支貫流し河岸僅かの耕地開く。農業を主生業とし蒟蒻を產し、外に木材・薪炭等の產もあり。上野原町より谷沿に縣道來り、北へ分岐せる一條は多摩川上流に通ず。省線中央本線上野原驛へ約八粁。交通便ならず。

ユズルハ 譲鶴羽山（ゆづ） 淡路島の南端、兵庫縣三原郡神代村・北阿萬村・灘村の境上に峙つ山。山體和泉砂岩より成る。山名は山中譲葉の木多き爲とも、神乘鶴來るに因るとも云ふ。山頂より東方は紀伊の山々、南方は渺々たる大洋、西方は鳴門海峽の潮流を望み、眺望甚だ佳なり。山上に譲鶴羽神社鎮座す。

ユゼ 湯瀬 省線花輪線の一驛（昭和六年設置）。秋田縣鹿角郡宮川村にあり。

ユセン 楡川 朝鮮總督府鐵道京釜本線の一驛（明治三十八年設置）。慶尙南道密陽郡上東面にあり。

ユゼン 温泉

【温泉花】 郡須火山帶日光火山群の一峯。この群峯中最も古き山にして、他峯は安山岩より成れど、この山は流紋岩より成る。東面は栃木縣上都賀郡日光町に、西面は群馬縣利根郡片品村に屬す。標高二三三三米にて、尖頭尖銳なり。南方は金精（かねせい）最高點（二〇二四米）・金精山（二二四二米）を經て、白根山（二五七八米）に連り、北方は尾瀨の山々に續く。山體畫尙ほ暗き密林と篠とを以て掩ぼる。東麓に切込湖・刈込湖、西麓に菅沼・丸沼・大尻沼を滿ふ。この山金精峠より約一時間にて達頂し得らるるも困難を伴ふ。

【温泉】 ↓温泉（但馬國）

ユタ 湯田

【湯田村】 滋賀縣近江國東淺井郡の南部。南は坂田郡に境し、西南方約六粁に同郡長濱町あり。西方約八粁にして琵琶湖に達す。東北の一部には丘陵性の台地あるも、其他は低平にして耕地廣く拓く。姉川は東方より來り南境に沿ひて西流す。主生業は農にして米を多產し、養蠶業また盛んなり。また茶園拓けて相當量の茶を產す。北國脇往還は中部を東南より西北に走りバスの便あり。また西隣の虎姫村に北陸本線の虎姫驛ありて交通は便なり。〔湯次神社（ゆすき）〕 郷社。祭神、御名貫多命。式内社。例祭、四月十二日。

【湯田】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に度會郡湯田郷あり。その地いま有田村の地といはる。蓋し同村の大字に湯田あり。郷名の遺稱なり。

ユタ 油田村 山口縣周防國大島郡の東端。屋代島の東端に位し、西は和田村に接するも他の三方は海に面す。北は廣島灣、東は水道を挾みて情島に對す。面積一〇・八六方粁。西に大見山、東に銅ノ峯あり、村内西南部は山地なるも北東部に傾き、海岸に平地存す。海岸に出入多く、伊保田・小伊保田・油字等の鎭地あり。附近に耕地拓け、米・柑橘類・水產物・罐詰・酒類等を產し、養鶏も行はる。久賀町に縣道通じ森町にバスの便あり。また近海に發動機船を通ず。大字伊保田の名は嚴島誌記に「伊豫國伊さき、かふろ、いほた」とある地にして、中古以來漁民住居して漁獵を為し、以て生活す。源頼朝天下統一の後は大江廣元、安下庄・屋代庄と共にその地頭職となり、藤原朝官親康、島末御庄下司職に補せらる。江戸時代に至り、毛利氏の部將村上氏の所領となり、村上彼行經當の子孫の治むる所となる。その屋敷は今の八幡宮の地なりといふ。

ユタ 湯田

【湯田村】 岩手縣陸中國和賀郡の西南端。黑澤尻町の西方約二五粁。西は秋田縣、南は態澤郡の隣接す。南北凡そ二六粁。面積三〇四・七七方粁の大村。奥羽山脈の東斜面に屬し、西境には北より女神山（九五六米）・笹峠（六一八米）・萱峠（六四四米）・割倉山（七七一米）・白木峠（六〇二米）・三森山（一一〇二米）等連りて東方に傾斜し、東境には北より荒澤山（九一七米）・黑森（九四五米）・仙人山（八八二米）・兎森山（一〇五四米）・鷲ケ森山（一二〇七米）・牛形山（一三四〇米）、南境には西より蟻巢山（一一五五米）・三界山（一三八一米）・燈石森（一五四八米）等連りて全村圍れ山地なるも、和賀川は北方より來り、村の中部を南流し、南境より鷲ノ巣川・南本内川等を合して、中部を東流し、沿岸に耕地拓く。また村の北部和賀川の沿岸には湯本、西部には湯川の二溫泉湧出す。道路は和賀川に沿ひて北方より來り東方に向ふ。省線横黑線陸中川尻（大正十一年設置）・陸中大石・大荒澤（以上大正三年設置）の三驛を置き交通便なり。米・大豆・馬鈴薯等を產し、また木材・木炭等の產あり。當村内には第三紀層よく發達し、両して金屬鑛山は二十以上もあるべし。されど現在のところ盛んなるものの別表の如し（產額は昭和十年の年產、鑛夫數は同年六月末現在、重は重要鑛山、準は準重要鑛山）。表中の見立・鷲合森の二鑛山は鑛區岩崎村にも跨るが他は湯田村内に存す。本ノ松鑛山はもと榮えしが今は振はず。それは兎もあれ、湯田村は東北の一山村に過ぎざるに郡内唯一の町たる黑澤尻の人口が浚駕し今や一萬を超えたり。正に鑛業に負ふ處なるを知るべし。〔赤石鑛山〕 湯田村内に凡そ四七萬坪の鑛區を有する金銀銅山。湯本溫泉より三、四粁の地點にあり。その地質に第三紀層に屬する凝灰岩及び石英粗面岩・安山岩にして、鑛床は大體に於て凝灰岩中に胚胎せる正規石英鑛脈にて黃銅鑛を主とし少量の輝銅鑛と微量の金分を伴ふ。當鑛山は明治二十三年以來の稼行に係り、大正末年頃は鑛夫も六十人内外なりしが今は百五十人内外あり其の發展を寶ふに足らん。なほ現在は田中鑛業會社の稼行に係り、精鑛は日立鑛山に送致して合併製錬さる。〔卯根倉鑛山〕 湯田村内に二九七萬坪の鑛區を有する金銀銅水鉛山。南本内川の上流地方にあり、鑛區の地質は第三紀層の凝灰岩と頁岩との互層より成り、之を貫ぬきて石英粗面岩及び安山岩の諸所に露出するを見る。鑛床は此等岩石の裂罅を充塡せる普通鑛脈なりとす。當鑛山は明治七年地主嘉右衛門なる者舊坑を發見せるに始まると云へば、最初の發見乃至採掘は明治維新前にあるべし。明治時代は隆昌なりしことあり、大正末年とても從業者は二百五六十名ありしが昭和十年に於ては百八十名内外たり。なほ現在田鑛業會社の稼行に係り、精鑛は小坂鑛山に送致し合併製錬す。〔土畑（つちはた）鑛山〕 湯田村内に一三五萬坪の鑛區を有する金銀銅山。當鑛山は和賀川の支流なる小鬼ケ瀨川と白土澤との間に介在し地形険隘急峻にして地質は第三紀層及び石英粗面岩を以て構成せらる。第三紀層は主として凝灰岩にして、石英粗面岩は殆んど全鑛區に分布し鑛床と密接す。重要鑛床は畑平鑛床と白土黑鑛鑛床の二なり。前者は石英粗面岩中に輝銅鑛・斑銅鑛・黃銅鑛・黃鐵鑛・石英等を含む無數の細脈縱横に走り以て鑛樓を形成し、後者は第三紀層と石英粗面岩との接觸部附近に發達し、主として硅鑛より成り不規則塊狀に產出し斑銅鑛・黃銅鑛・重晶石・閃亞鉛鑛・方鉛鑛等を含む。當鑛山は明治の三十年代に發見、両して探鑛せられしも成功せず、大正に入り良銅鑛脈に逢着す。これまで湯川金山と稱したりしが此頃より土畑鑛山と改め發展の曙光を見るに至る。現在田中鑛業會社の稼行に係り、從業員は六百數十人たり。大正末年の三百人程度に比しその發展を偲び得べし。なほ鑛山名は湯田村の字土畑に因めるものとす。〔湯本溫泉〕 泉質は鹽類泉。療養並にスキー根據地。地は和賀川の河畔にあり、峯巒四周を繞り、横黑線開通以來、湯町として相當發展せり。環境はさして優れずと雖も湯は豐富にして、旅館の内湯の外に藥師湯、久左衛門湯・牛ノ湯・鳥ノ湯・花ノ湯等の共同湯あり。附近に和賀川に架る山室橋・湯本公園・赤石金山・岩目の滝などあり、溫泉場一帶は冬季スキー場とし

鑛山名	鑛石種類	產額	鑛夫數	備考
赤石	金銀銅鑛	二六、九九〇	一四八	重
卯根谷	金銀銅鑛	二、二二二	一八五	重
鶯澤	銅鑛	一、二二四	五五	重
金當	銅鑛	四四一	三一	準
土畑	銅鑛	九、七二三	六二〇	重
見立	硫化鐵鑛	一、四二三		
鷲合森	銅鑛	三、三六	四三	準
鷲ノ巣	銅鑛	三、三七	一三五	重
金	鑛	九〇一	七〇	重

【豊村】 福井縣坂井郡の東部。東は日野川を隔てて今立郡鯖江町に接する。略東西に長く坂形をなし、西部には二八〇米の三峯山、其他の丘陵連亙する外は概て米石平野にして耕地所々に散在し、物産米を主産とす。外に農業を主とし、商業・消費の工業盛まれた多し。南北・東西鉄道に貫通する縣道は村内中央にて交叉し、沿線新興市街の發達は村内中央にて交叉し、社線鉄山村と接せしが、明治三十年之を廢し、明治三十四年に現名に改む。〔谷日神社〕大字鳥井に鎮座。祭神・武甕槌命・天兒屋根命・經津主命・比咩大神。大内大山御祓神社に共つる說あり。例祭、十月一日。

【豊村】 山梨縣中巨摩郡の中部。小笠原町の東北に接し、甲府盆地の西部を占む。鉄道は川沿に縣道に屬し、村は東西北・東南に傾に風景す。村内農業主生産業とし、繭の產額多し。甲府市より小笠原町に至る縣道は村内を通過し、バスの便あり。また社線山梨電鐵の明穂驛に近し。〔諏訪神社〕大字吉田組に鎮座。祭神・建御名方命。例祭、十一月三日。

【豊村】 東京縣荏原郡下谷區の西南端。下蒲・宮前の二村、東は大下蒲・蒲原の二村、西は根釜・浪合の二村に界す。村の西端には米石山（一四一五米）あり。耕地は概て少く全面積の三分にして、山林に次ぐ。荒林の一部をなし本村・蒲原を通ずる縣道は東方に通ずる。

【豊村】 福島縣安達郡の西南端。東は日山村・鶴沼村・中村・小倉・新殿・高野・高倉・高倉・高倉

北及び西は佐渡郡に界し、東は夜市村、南は戸田村に接す。面積二四・七九平方粁。西境には山脈走りて村内の西北部は概ね海拔五—六百米の山地に占めらるるも、やや東南方に地勢展け、山麓に平地を有す。宮川東南に發して南流し、附近に耕地多し。河畔には湯野鑛泉の湧出あり。米・麥・繭・鶏・御影石等を產す。省線山陽本線戸田驛へ約四粁。鳥地村・福川町と共にバスの便あり。和名抄、都濃郡平野郷の内。〔湯野鑛泉〕無色透明無臭の單純泉。療養向。宮川の畔にあり、湯は一帶の花崗岩の割目より三段に瀑下し上段六米、中段八米餘、下段一一米餘。それ等は濃になり深さ一米、廣さ數十人を容るる瀑布狀をなし、夏は湯浴と瀑浴とを同時に兼ね得らる。この濃は魚切の濃ともいふ。この湯は往昔、村内の野原到る處より湧出せるものにして、湯野の名を生じ、湯も高温たりしと傳ふ。日露の役には廣島衞戍病院驛地療養所開設せられたり。海岸よりは約四粁隔れたるも氣候温和、療養に適す。

ユノウラ　湯浦村　熊本縣肥後國葦北郡の中部。佐敷町の南に接し西北部は八代灣に臨み、東南に長く延びて佐敷川流域一帶の山地を占む。西南部は水俣町に接す。土地四圍に高くして山岳を繞らし、東南境に最高の大關山（九〇二米）が聳ゆ。東南に發する佐敷川は中央を屈曲しつつ西北々流して北隅より海に注ぎ、沿岸に稍低地あり。海岸は山地海に迫りて屈曲し、西方海上に唐松岩・竹島・木島・沖ノ島等を浮ぶ。北部に炭酸含有鉄アルカリ泉の湯ノ浦温泉あり。產物には農產・水產・林產あり。鹿兒島街道が中央を東北より西南に走り、三太郎越の一たる津奈木太郎越を過ぎて津奈木村に入る。之より分れて佐敷川の右岸に沿ひて佐敷町に至る縣道あり。省線鹿兒島本線は同じく右岸を東南走し、村内に湯浦驛（大正十五年設置）を置き、豐岡にて川を渡りて西南に走り津奈木トンネルを經て津奈木村に入る。和名抄、葦北郡川田郷の地なり。慶長五年九月、關原役の終るに及び、同十一月、黑田如水・加藤清正・鍋島直茂は島津征討のため本村まで兵を出せしが、島津義久は歸順せるにより、征討を中止す。この時に清正の建てし制札あり。蜂須賀系圖によれば蜂須賀義久の子家氏・義親、湯浦城主たりと見ゆ、これ名和義興が葦北郡を領有せる頃なるべし。

ユノオ　湯尾村（ゆお）　福井縣越前國南條郡の中部。日野川上流に沿ひ、今莊村の北に隣接す。西半部には四ノ潟山・ホノケ山・鍋倉山等七〇〇—四〇〇米の丘陵連亙し、東部には楠山（四九二米）・松尾山等峻立し、略中央を南より北へ貫流する日野川と東より來り合する一支流の谷を挾む。平地は谷沿に僅に開析せられ米作行はる。山地には森林繁茂し、木材・薪炭を主產し、米の產これに次ぐ。また瓦その他の工產もあり養蠶の副業も行はる。冬季は雪嶮隘となり、我が國有數の深雪地にして、中央を南北に貫通する北陸本線は往々不通となる。今庄・鯖波兩驛の略中間に當り、縣道河沿に貫通す。湯尾に一に楠尾に作り、壽永・延元兩度の古戰場にして、燧城址・楠山等隣接す。燧城址は大字燧にありしものなるべし。卽ち壽永二年は木曾義仲の軍、燧城に據り、楠尾峠に陣す。楠尾峠は湯尾峠にして、今庄に通ずる山嶺なり。延元二年には楠山城主の瓜生保、この地に關を設けて北國道を扼し、附近四五里間の在家を燒き、湯尾のみを殘して北軍を欺き寄せて之を擊破す。楠山城址は一都は本村に屬するも、大部分は南楠山村の地籍に屬す（※南楠山村）。この地は舊北國街道の湯尾宿のありし所。明治十一年、明治天皇、北陸・東海御巡幸の際、山口太郎兵衞宅及び湯尾峠に御小休あらせられ、いま明治天皇湯尾峠御小休所及び明治天皇湯尾峠御小休所址及び建物は共に史蹟に指定せらる。

ユノオ　湯之尾（ゆお）　省線山陽本線の一驛（大正十年設置）。鹿兒島縣伊佐郡菱刈村にあり。

ユノカミ　湯野上　福島縣南會津郡江川村の大字。省線會津線の湯野上驛（昭和七年設置）あり。

ユノカワ　湯川町（ゆのかわ）　北海道渡島國渡島支廳亀田郡の中部。函館市の東北に隣接し、津輕海峽に南面す。北は茅部郡、東は鉄亀澤村に界す。面積二〇七・二一平方粁。北部一帶は山地に蔽はるも湯川・松倉川南流して海に注ぎ、海岸に小平野ありて耕作行はる。河口附近に湯ノ川温泉（無色透明鹽類泉）の湧出あり、函館市を控へ繁華なる温泉街をなせす。北部山中は木材の外に硫黃の產あり。製紙業盛んにして湯治客相手の土產細工品製造と共に工產は最も高額を占む。東南山麓に天子園あり。附近は牧畜・製酪行はる。函館市に近く電車・乘合自動車等交通便なり。この地には往昔より和人居りしが、安政六年以後、幕府は開墾費・堀割設備費を貸與して植民を募りしにより、亀尾・深堀・鷲巢等の新部落を生ぜり。鷲巢村・上湯川村を合して上湯川村とし、深堀村と下湯川村を合し下湯川村とし、昭和十一年に上湯川村・下湯川村・亀ノ尾村を合併して湯川町とす。柏野には函館競馬場あり、場内には函館ゴルフ場あり。〔三盛鑛山〕鑛區は當町と亀田村とに跨りて八五萬餘坪、湯川温泉場の北方一四粁の地點にある硫黃山。鑛區の地質は第三紀に屬する頁岩および砂岩にて、鑛床は凝灰質頁岩を母岩とし、鑛層は二層あり、本層の厚さ約六米、前層約一・五米なり。三盛鑛業會社の稼行にて昭和九年には九三一瓩の產出に對し、十年には五、四五四瓩（價額約三三萬圓）を產出して同年重要鑛山に列す。當鑛山は從來屢々試掘せられたるも成功を見ず、昭和八年に至り始めて優良部を發見して今日の殷盛を見るに至りしもの、十年六月末の鑛夫數は二一一人とす。〔松倉鑛山〕町内に約三二萬坪の鑛區を有する硫黃山。日本金屬會社の經營に係り、昭和十年には硫黃四、七四九瓩（價額二十八萬七千餘圓）を產出し、同年六月末の鑛夫數は二〇一人たり。現に重要鑛山とす。〔湯ノ川温泉〕三森の丘陵を負ひ、松倉川の清流を隔てて根崎温泉と相對し南方は津輕海峽に面して陸奥の連山を望む。永應三年に松前氏の嗣子千勝丸が病を癒して藥師堂を建立せしことあり、北海道にて最も早く發見せられたる温泉の一なり。されど温泉の大湧出は明治十八年十二月のこととす。温泉は無色透明の含鹽アルカリ泉にしてラヂウムエマナチオンの放射能一三・二マウヘを有す。〔根崎温泉〕松倉川を隔てて湯川温泉と相對す。もと一面茫々たる砂濱なりしが、明治四十一年頃より温泉場として急速に發展し、湯ノ川と同じく函館人士の遊樂地となる。〔トラピスト修道院〕湯ノ川温泉の東南約三粁半、上湯川にあり。佛國天主教の一派トラピスト團の經營せる一修道院にして、天使園とも呼ばれ、明治三十一年佛國人の創設にかかる。敬度聖淨なる一種獨特の絕對禁慾的宗教生活を送り、傍ら牧畜及び製酪に從事す。

ユノカワ　湯ノ川（ゆのかわ）→**莊原**（しょうばら）**村**（島根縣）

ユノキ　柚木村　長崎縣肥前國北松浦郡の東南部。佐世保市の北に接し、東南部は東彼杵郡に界し、東は佐賀縣西松浦郡に隣る。北境には丘陵が東西に連り多利山・塚嶽等が聳え、東部及び南部も廣く山地蟠り、東境には西岳山脈が南北に連りて其中央に八矢岳、東南境には隱居岳あり。相之浦川が東南部に發して西北流し、中央北偏を西流する一河川は西部にて之に合す。沿岸には段丘發達して耕地拓く。產物には鑛產・農產・林產・工產・畜產あり。西部には河岸に沿ひて東西に走る縣道ありてバスを通じ、省線松浦線は西部に入り來り終點柚木驛（大正九年設置）あり。附近町村と共に要塞地帶の一部に屬す。〔池野炭礦〕登錄上五鑛區あり、柚木・皆瀬・大野・世知原の四箇村に跨りて總計約三七二萬坪、山地多く地質は第三紀に屬する砂岩・頁岩の互層より成り、所々玄武岩により被覆せらる。炭層は二枚もの、三枚もの の二層にて、炭質は粘結性あり、二枚ものは發熱量七、七七五カロリー、三枚ものはカロリーは前者に劣るも何れも汽罐燃料に適す。現在礦業會社の經營に係り、昭和十年の產額は塊炭四四、六五一瓩、粉炭一三六、六〇三瓩、粗炭三七、七四八瓩（この總價額一一六萬餘圓）にして、同年六月末の鑛夫數は一、七九九人、現に重要鑛山に列す。

ユノキバル　柚ノ木原　省線唐津線の一驛（明治三十六年設置）。佐賀縣小城郡北多久村にあり。

ユノゴー　湯郷村（ゆのがう）　岡山縣美作國勝田郡の東南部。吉井川上流梶並川の西岸に位し、東は川を挾みて英田郡林野町に相對す。北に勝間田町、西に北和氣村、南は公文村に接す。面積一七・二四平方粁。西北境に高比野山（三四七米）聳え、地勢西方に高く東方河岸に傾斜す。東境を梶並川南流し、流域には耕地を拓く。東南部に原野存するも村内の大部は山林に蔽はる。鷺ノ湯温泉（鹽類泉）東方山麓に湧出す。村内農藥盛んにして米・麥・繭・木炭・柿等の產あり。縣道東西に貫通し、省線山陽本線和氣驛に自動車の便あり。この地古くは和名抄、勝田郡鹽湯郷の内なり。〔湯郷温泉〕弱鹽類泉、吉野川の沿岸にあり、鹽垂山の翠巒を負ふ。慈覺大師が白鷺に導かれ浴場を再興せしとの傳說より鷺の湯温泉とも稱す。皮膚病に特效あり。古くは勝間田御湯と云へり。〔鷺神社〕大字位田に鎭座。郷社。祭神、大己貴神外一神、例祭、十一月三日。

ユノコヤ　湯ノ小屋　→**水上**（みなかみ）**村**（群馬縣）

ユノサワ　湯澤（ゆさわ）　→**院内町**（いんないまち）（秋田縣）

ユノサワ　湯ノ澤（ゆのさわ）【湯ノ澤】　樺太鑛鐵道西海岸線の一驛（昭和三年設置）。樺太眞岡郡眞岡町にあり。

【湯ノ澤岳】　越後山系朝日山塊北方部の一峯。主峯朝日岳の北方凡そ四〇粁に當り、山形縣東田川郡本郷村と西田川郡福榮村との境上に峙つ。標高九六四米、山體は花崗岩より成る。西斜面より五十川發し、北西流して日本海に入り、東麓を大鳥川北流す。

【湯ノ澤】　→**坂本町**（さかもとまち）（群馬縣）

ユノサワ　湯の澤（ゆのさわ）　→**碇ケ關**（いかりがせき）（青森縣）

ユノシマ　湯ノ島　→**下呂町**（げろまち）（岐阜縣）

ユノタイ　湯ノ岱【湯ノ岱】　省線江差線の一驛（昭和十年設置）。北海道渡島國檜山郡上ノ國村にあり。

【湯ノ岱】　→**秋ノ宮村**（あきのみやむら）（秋田縣）

ユノタニ　湯ノ谷　石川縣河北郡にありし村。明治四十年に外二箇村と共に合し浸川村を置く。

ユノタニ　湯之谷村　新潟縣越後國北魚沼郡の東南部。東は阿賀川支流只見川の峽谷を境に福島縣南會津郡に接し、南より西へかけては越後山脈の一支脈連亙し、南は群馬縣利根郡に、西は南魚沼郡に界す。面積三四七・七八方粁の大村にして村内一〇〇〇米——二〇〇〇米の山岳重疊し、中央西部の小倉山・駒ケ嶽の尾根を境に西北部の水は佐梨川となり西北流して魚野川に合し、東部の水は數條の澤を穿ちて東境を北流する只見川に合す。聚落は佐梨川の流域に多く、西部には平地も開け小出町に接す。農耕・養蠶を主とし林業また盛なり。また兩河流域には温泉の湧出あり。小出町より佐梨川流域の栃尾又温泉までは縣道バスの便あ

り。また佐渡・只見兩谷の交通は枝折峠（一二三六米）を越ゆる村道により只見川の谷に出で、南へ溯りて利根川上流に通ず。〔栃尾又温泉〕無色透明の單純泉。ラヂウムエマナチオンの含有量比較的多し。療養向。地は海拔約四五〇米、高燥の氣漲る避暑の好適地、盛夏なほ日中二十七度を超ゆること少し。附近に温泉の發見者と傳ふる僧行基の藥師堂、つつじの多き金刀比羅山などあり。峠を越えて約二八粁の銀山平は、昔、銀を採掘せし處と傳ふ。風光佳良にして數ヶ所に温泉も湧く。〔大湯温泉〕弱食鹽泉。療養向なり。栃尾又温泉を約一粁隔てて佐渡川畔にあり。

ユノツ　温泉津町　島根縣石見國邇摩郡の西海岸。西北及び西南は日本海に面し、東北は湯里村を隔てて大森町に對し、南は大濱村に接す。江津港より海岸傳ひに約一二粁の東北に存す。面積三平方粁。リヤス式の海岸と海蝕臺地より成る三角形の小町ながら、古來韓土交通の要津として開け、帆船時代に於ける山陰屈指の良港にして、日本海氣定の船舶は多くここに寄港し、今は省線山陰本線の開通のため漁港及び小貨集散地として存す。一方温泉町として篤病に效果多き鹽在類泉を有し、昔客年に二萬を迎ふ。特地に移に松山の石見燒あり。本港より各產物出さる。一般に米・麥・繭・漁獲物・清酒・木炭・温泉土產物等の產多し。省線山陰本線温泉津驛（大正七年設置）に隣村大濱村にあり、また大阪商船の寄港地にして山陰各港に汽船の便あり。明治三十六年町制施行。和名抄、邇摩郡湯泉郷に屬す。湯城址あり、その創建年代詳かならず。戰國の頃、小笠原氏ここに居り尼子氏に屬す。永祿元年五月、毛利元就來りて之を包圍す。尼子晴久、兵を出して援けしも、七月、城主小笠原貞雄出でて毛利氏に降る。〔温泉津温泉〕泉質は元湯・新湯ともラヂウムを含有せるアルカリ性炭酸含有食鹽泉。療養並に行樂向。舊と新とに分れ、湯は少なけれど港町の温泉情調に富む。〔小濱温泉〕湯泉津驛より三三〇米。温泉津港に面して眺望良く、泉質はラヂウムを含有せるアルカリ性炭酸含有食鹽泉。低温のため加熱昔用す。療養、行樂向。湯泉津町より四粁に福光温泉あり。

ユノトー　湯ノ峠　省線美禰線の一驛（大正十年設置）。山口縣厚狹郡厚狹町にあり。

ユノハマ　湯濱　↓花山村（宮城縣）

ユノハマ　湯之濱　↓加茂町（山形縣）

ユノハラ　湯原　宮城縣刈田郡七ヶ宿村の大字。羽前街道に沿ひ、往時は米澤より奥羽街道に通ずる唯一の交通路の要衝にして、峠田・滑津・關・渡瀬・下戸澤・上戸澤と共に、山中七ヶ宿の一たり。いま此の地に湯原鐵山あり。〔湯原鐵山〕七ヶ宿村内に鑛區六萬餘坪を有する金銀銅鉛亞鉛山。三井宿驛の東方二粁の地點にあり。鑛區内の地質は第三紀層の角礫質凝灰岩及び之を貫く朽安山岩より成り、鑛床は此等の岩石中に胚胎する含金銀銅硫化鐵鑛脈にして凡そ本鑛・東元鑛・金福鑛の三條あり、脈幅は〇・五—六・〇米、平均品位はほぼ金瓦當り三瓦、銅一・五%なり。但し本鑛に於ける當鑛部は殆ど採掘を了したり。當鑛山は既に明治三十年代に發見せられたるものの如く、先頃までは準承要鑛山に過ぎざりしが、昭和十年金銀鑛二、四一七瓦を產出して重要鑛山に列す。現在日本鑛業會社の稼行下にあり、製錬は日立鑛山に於て行はる。

ユノハラ　湯ノ原　群馬縣利根郡にありし村。明治四十一年、久賀村と共に廢せられ、新治村を置く。

ユノハル　湯原　↓長湯村（大分縣）

ユノヒラ　湯平村　大分縣豐後國大分郡の西隅。大分川の上流に跨り、別府市の西南約八・五粁に位し、北は速見郡に、西南は玖珠郡に界す。四周山岳を繞らして高燥地なし、大分川は東部を東南に貫き、中央には東流する一河川ありて之に合す。大分川流域に稍々平地發達す。米・麥・繭・大根・大豆・小豆等を產す。大分川に沿ひて縣道及び省線久大本線が通過し湯平驛（大正十二年設置）あり。〔湯平温泉〕弱食鹽泉。療養向。避暑に適す。温泉は海拔六〇六米、高燥にして空氣清澄、三面は山に圍まれ、花野川の清流か挾む。

ユノマエ　湯前　【湯前町】熊本縣肥後國球磨郡の東部。人吉盆地の東隅を占め多良木町の東に接し、東は宮崎縣兒湯郡に界す。東北部・東部及び東南部は高峻なる山岳連り東境には最高峰牧良山（九九六米）聳立す。西北部は人吉盆地東北隅を占むる低地にして、北境に沿ひて球磨川西南流す。西北部一帶は耕地の發達著しく米・麥・粟・甘藷等を產し、東部一帶は草地にして牧場に適す。縣道は中央を横斷し西北部には省線湯前線が入り來りて、終點湯前驛（大正十三年設置）あり。昭和十二年町制を布く。〔明導寺〕眞宗本願寺派。享和元年、僧靈藏の開基。大正の末年洋風を以て本堂を再建す。阿彌陀如來像（木造）ほか二驛は國寶なり。

【湯前線】省線鹿兒島線の一部。熊本縣球磨郡にあり。省線肥薩線の人吉驛より分岐し一武・多良木等の數驛を經て湯前驛（湯前村）に至る。全長二四・九粁。

ユノマタ　湯岐川　福島縣南會津郡の川。栃木縣との境上、枯木山（一七五五米）の山間に發し、日詰瀧となりて大藏岳（一六三五米）の西を下り、湯花温泉地を經由して伊南川（只見川の一支流）の一支流なる館岩川に合す。合流點の北東に粗山（一三三三米）屹立す。

ユノマル　湯ノ丸山　淺間火山群に屬する一峯。王峯淺間山の西方約一一粁に當り、東側は群馬縣吾妻郡嬬恋村に、西側は長野縣小縣郡鹿津・傷島の二村に屬す。濃高二一〇五米、山麓鄭石安山岩より成る。北方鞍部か角閃峠の山路東西に通ず。山頂よりの眺望に勝れ、信府統記にも「コノ山享保七年山見通ノ事命セラレシ時ノ見次山ナリ」とあり。特に北方と東方に連嶺をなす淺間火山群の展望良し。スキーツーアに適する山としても名高く、北麓の角田峠路に沿ひて湧く鹿澤温泉はその根據地とせらる。

ユノモト　湯之元　省線鹿兒島本線の一驛（大正二年設置）。鹿兒島縣日置郡東市來村にあり。

ユノヤマ　湯山村　愛媛縣伊豫國温泉郡の東北部。桑原村を挾みて松山市の東北にあり、西は河野・五明・伊臺の各村に界し、東は北吉井村、南は小野村に隣し、北は越智郡に對す。面積六〇・九四方粁の大村。明神ヶ森・福見山・北三方ヶ森等の高峯重疊して屹立し、南部にも數百米の山岳聳立し高峻なる地形をなし、西部山麓の峡谷を東北より西南に石手川流れて松山市に出づ。耕地は松山市近郊に細きて僅かあるのみ。米麥を產し、山地は林產物を出す。松山市へは約五粁、交通は便ならず。此地は和名抄、温泉郡井上郷の内。圓福寺に新田雲社あり、新田左少將義宗・脇屋右衛門佐義治を祭る。石手川の上流の本村の末に湯ヶ濱あり。附近は山容迫り奇岩怪石を噛む水流は瀨となり淵となり奇勝を呈す。

ユノヤマ　湯ノ山　↓萩野町（三重縣）

ユハラ　湯原村　岡山縣美作國苫庭郡の中東部。勝山町及び久世町の北方に位し、旭川上流々域の山中を占む。中國山脈の分水嶺に近き山郷にて、入道山（一〇四〇米）・蒜山（一〇七四米）等村界をなし、村内の地勢概ね海拔六〇〇米以上の山岳地に蔽ゆる。旭川の上流村心を南流し、支流本庄川東流し來りて之に合し峡谷をなす。農賀・湯原等の温泉河谷に湧出し、峡谷の美と共に喧傳さる。二川の沿岸に耕地拓け、米・麥・繭・柿等を產し、また木炭・酒類の製造行はる。勝山町と鳥取縣東伯郡倉吉町へバスの便あり。明治三十七年、八幡・神湯兩村を廢して本村を置く。〔大山椒魚棲息地〕指定天然記念物。湯原村を初め、中和・八東・川上・二川の五村に亙る旭川流域なり。大山椒魚は兩棲類中最大の有尾動物にて本邦產のもの世界に著明なり。大きさ一米三〇糎に及ぶものあり。〔湯原温泉〕旭川の上流中國山脈の分水嶺に近き山郷にして、謂はゆる旭仙峡中の閑寂郷なり。一條天皇の御代、播磨書寫山の性空上人の開く所と傳ふ。慕湯・二の湯・三の湯の外、旭川の河中の岩根より湧く露天の砂吹温泉あり。此地は旭川の清流に臨み對岸に鼓ヶ岳の奇岩屹立し、北に湯山城址、東方には南乞山聳え、その登麓、京の嵐山に倣て湯原嵐峡と呼ばる。附近にまた河鹿の名所なり。〔農賀温泉〕旭川の上流櫃ヶ山の西南麓にあり、自動車の便あり。山峡の狹隘なる懸崖の上に湧出し、アルカリ性炭酸泉にして、岩盤を穿て浴槽を設く。尙ほ農賀より湯原への途中に旭川を隔てて東岸に足温泉、旭川支流の本庄川に沿ひ郷雄温泉あり。〔形部神社〕大字社に鎭座。縣社。祭神、神阿陀都姫命。式内社。例祭、十月九日。〔八宮〕大字禾津に鎭座。郷社。祭神、譽田別命。相殿に息長帶姫命・武内宿禰を祀る。例祭、十月二十九日。〔久刀神社〕村社。祭神、久那止神。式内社。九月九日。

ユハラ　湯原　↓木上村（群馬縣）

ユヒ　湯日　陸奥國の古地名。延喜・兵部式に陸奥國湯日驛見之驛駅馬十疋を置く。或は今の福島縣信夫郡の飯坂温泉の所在地に充つ。卽ち飯坂は湯日坂の轉ならんといふも如何にや。

ユビソ　湯檜曾　群馬縣利根郡水上郡の大字。省線上越線の湯檜曾驛（昭和六年設置）を置く。湯檜曾温泉あり。

ユフ　由布　【由布岳】阿蘇火山帶の一峯。別府温泉の西方約一〇粁、大分縣速見郡由布院村の東嶺。泉郷別府の背景をなして峙ち、豐後富士とも稱せらる。山容に變輝石・角閃石・安山岩より成り塊狀火山をなし、山頂部は東西二峯に分れ、西峯に一五八三米の一等三角點を有し、その二峯間に深き輪狀を呈する噴火口址を有す。山腹には七つの寄生火山あり。山頂部ににキリシマツツジの群落ありて開花期は美景を呈し、その他イワカガミ・イワスンアヤメ・マイヅルサウ等生育し、山麓以下は落葉樹の森林を以て掩はれ、新緑・紅葉の候は美し。南西山麓は由布院盆地をなし、由布院温泉湧き、東方に鶴見岳（一三七五米）・内山（一二七二米）・ガラン岳（一〇四五米）等連嶺をなして峙つ。登山は別府より由布院行バスにて東麓一軒茶屋に至り、かくて約五粁、二時間にして達頂す。また南西麓由布院温泉の一なる嶽本より約四時間にても登頂し得らる。山頂よりは東方の鶴見・内山・ガラン岳等の嶺々の彼方に別府湾を望み、背後には九重の連山を一眸に收め、北方は遙かに英彦・脊振等、筑紫の山々を雲表に望見し得らる。この山は四時とりどりに興趣深く、近時、別府温泉に遊ぶ者好んで登山を試む。

【由布】豐後國（大分縣）の古地名。和名抄に速見郡由布郷見ゆ。風土記には柚富郷と見ゆ。蓋し木綿の產多きを以て郷名を得たるか。また延喜・兵部省式に由布驛々馬五疋と見ゆるも此の地なるべし。この地はまた温泉湧出するを以て湯の義にも因れるものならん。地は由布岳の西麓にして由布院村に當る。

ユフ　遊部　↓由布院村（大和國）

ユフイン　遊部　由布院村　大分縣豐後國速見郡の西南隅。別府市の西方約六粁にあり、南は大分郡に、西は玖珠郡に北は宇佐郡に界す。東北より西南に桁長し。四周山岳を繞らし高峻なる地形ふな

し、東部には城ヶ岳（一二六八米）・由布岳（一二二七米）・鶴見岳（一五八四米）の秀峰及び四山（一二二七米）・ケヲン嶽（鶴寺山、一〇四五米）等起立す。北端には豊戸山（八三一米）・立石山（一〇五九米）などあり。

ユフカ 由布川 大分郡 由布岳の北麓に位し、東部には城ヶ岳（一二六八米）・由布岳・鶴見岳等の秀峰及び四山（一二二七米）・ケヲン嶽（鶴寺山、一〇四五米）等起立す。北端には豊戸山（八三一米）・立石山（一〇五九米）などあり。

ユフガワ 由布川 大分郡 由布岳の北麓に位し、東部には城ヶ岳（一二六八米）・由布岳・鶴見岳等の秀峰及び四山（一二二七米）・ケヲン嶽（鶴寺山、一〇四五米）等起立す。北端には豊戸山（八三一米）・立石山（一〇五九米）などあり。

ユフキ 湯木村 京都府山城国相楽郡の東北部。東に綴喜郡甲賀郡に境す。史蹟に富む。

ユフツ 湯津村 京都府山城国相楽郡の東北部。東に綴喜郡甲賀郡に境す。史蹟に富む。

ユフツ 湯津村 栃木県那須郡（いま白河郡）川上の小字として存し、一に湯津村と云ふ。中古以来、国守立券以下の文書を今記して六所権現と号す。

ユフツ 湯津

に上て真光寺に至る。之く海岸に沿道あり。

ユキヤ 油谷村

山口縣日本海岸の東。油谷半島の根に沿ひ、前口の南方を限る。東北、北方を海に臨む。南西は南谷村に接し、東方に臨入する。二〇戸余の部落あり、油谷半島の根部なる大浦を最良の泊地とす。本庄六一二戸、戸数一五〇戸。アヲメ・鯨とも称す。

ユキヤマ 湯山

【海山】 兵庫縣川辺郡にあり、二十九年に有馬町と改称す。

【海山】 熊本縣飽託郡にあり、江戸・岩野村と合併し本上村となる。

【海山峠】 九州山脈中央山塊を東西する山路の一。宮崎縣西臼杵郡東郷村と熊本縣球磨郡上村との境上近くに設置され（九四八米）を置く。北方の国見山方面、南方の市房山への連絡行はる。

ユラ 由良

【由良村】 兵庫縣淡路國津名郡の北部。丹後由良川の川口を控。東南西・南に接し、北は海に臨む。海岸は岩石多く、南部に小石浦港あり、漁業盛ん。〔温泉神社〕大字浦本に鎮座。祭神、大己貴命・少彦名命。白鳳二年九月、小子部連鳥の創建なる者、田を寄せて社領とし、少彦名命を勧請し後に平安朝に至りて大己貴命を合祭せるものなりと称ふ。毛筋式内社。祭礼九月七日の一。〔産業〕農業主、漁業は従。〔沿革〕〔温泉神社〕〔産業〕〔人口〕〔一般沿革〕海本温泉の南方六町、鳴沼川支谷に臨む。二軒宿の中間、海抜七六〇米にあり。食塩性温泉泉質、婦人病に効ありといふ。〔海本温泉〕有馬郡湯山西部の山上腰の東南約一二軒、内八軒は明治以前の創立。海抜六〇〇米、四方谷間に囲まれ鳴沼川に臨む山の麓なり。〔温泉性能〕鉄泉、婦人病・創傷・皮膚病・神経痛に効あり。

【海本】 →鳴沼村（海本温泉）

【海本町】 海谷川筋相模國足柄下郡の中部。湯本山の一部を占め、西南は湯本町・元箱根村に接す。西北部には中央火口丘の一たる三子山あり。南端には外輪山たる白煙山（九九三米）あり、中央部は開ける白煙谷をなし、鳴沼川は東北に流る。山麓は東北に傾斜し、町の東北端を早川支流として流る鳴沼川を合す。鳴沼川は東北に流れ、駒ヶ岳の大村。北端に合井村・引山（一〇八一米）・三峰山（一五四四米）・鳴沼山（一五二七米）・二子山（一〇七七米）・大白峯山（一六五六米）・鷹取山（一五二〇米）、東端に鳳凰峠（八三八米）・丸山（九五七米）等連り、中部に戸倉山（一〇二二米）、西北部に向山（九五九米）、西南部に小白峯山（一五六三米）等え、全村は鳴沼川谷に沿ひ湯本温泉にかかりしが、今は新道が早川谷に沿ひて設けらるるに及べど、鳴沼川は北部と南部の木材を集めて村の中部を西流し、沿岸に白河滝・湯本温泉出し、また鳴沼折へ、米を產す。また山の新道には教場行はれ東南部に本村の西南鳥居町有名あり。道路は村の中部を東西に通じ、西方谷間・鳴沼の上部に分れ、一方鳴沼に沿ひ、東方谷間に分れ、一方は鳴沼の上部に出で、一方は鳴沼の上部に出で、一方は鳴沼の上部に出で

り。東鑑、文治二年の條に蓮華王院領、紀伊國由良荘とある地なり。港は日ノ御崎の北凡そ一六粁に在り。彎入約二浬。鱶島および一ノ波石と稱する岩礁ありて港口を蔽ふ。但し西—南西の强風を防ぐ能はず。港内は水深くして船舶の碇泊に適し、紀伊水道の一要地たり。萬葉・九「朝ひらきこぎいでて我は湯羅前釣するあまを見てかへりこむ　持統天皇」とあるは此地なりと。（門前の大岩）指定天然記念物。白堊紀の鳥巣層に屬する石灰岩にして、該層の示準化石たるシダリス（海膽類）の化石（方言海牙干）を夥しく藏するを以て知らる。本岩の如く多數のシダリス化石を有するは本邦中他に見ざるところなり。（興國寺）臨濟宗妙心寺派。安貞元年に顯性卽ち源實朝の臣なる葛木五郎の開基、開山は法燈國師覺心。法燈派（由良門徒）の根本道場。

【由良町】 鳥取縣伯耆國東伯郡の北部。倉吉町の西北方約一〇粁。伊勢崎町の東にあり、北は日本海に臨む。面積九、四四方粁。大山火山東北の山麓と其の下に開く海岸沖積平地とより成り、東北部には小河流れて海に注ぐ。海岸は單調低平なり。南部山地は緩めて緩傾斜をなして徐々に高まり森林よく繁茂す。麓には桑畑よく拓けて養蠶盛なり。また平地には耕地拓けて米・麥を產す。市街は北東部左岸の平地に開け、國道山陰街道ここを通りて海岸傳ひに走り、また省線山陰本線も是れに並行して東西に横斷し由良驛（明治三十六年設置）を設く。南部山地を東西に縣道走りて西方の八橋町にて國道と合す。大正五年に町制を布く。町内に城址あり、天正年間に一條氏の居城たり。この地は大誠村と共に和名抄、八橋郡由良郷に當る。

【由良郷】 愛媛縣南豫海岸の岬。豐後水道に臨む南豫リヤス式海岸に於ける小半島のうち最も細長く突出するものにて、その長さ約一四粁に達す。半島の分水界は北宇和・南宇和兩郡界をなす

ユラ　油良　兵庫縣氷上郡にありし村。明治二十三年に幸世村と改む。

ユラ　湯羅前　↓由良村（和歌山縣）

ユラノト　由良門　紀淡海峽の雅稱。

ユリ　由利

【由利郡】 秋田縣九郡の一。羽後國の西南部。西は日本海に面し、北は河邊郡、東は仙北郡・平鹿郡・雄勝郡、南は山形縣に隣接す。面積一、五四九・六三方粁。土地南北に長く、西南部は鳥海山の北麓にして、南境には西より觀音森（六八五米）・稻倉嶽（一五五四米）・飯ケ森（一一九八米）・兜山（九二五米）・丁嶽（一一四六米）・大森山（一〇七八米）・甑峠（七五一米）・大仙山（九二〇米）等連りて北方に傾斜し、東部は出羽丘陵に屬して西方に傾斜す。全郡小起伏に富みて山地海岸に迫り、海岸平野の見るべきものなし。南部海岸は概ね岩石海岸をなし、北部は平直にして狹き砂濱をなせり。白雪川は西南境に發して西北に流れ、笹子川は東南境に、鳥海川は西南境に各々發し、合りて子吉川となり西北に流れ、東南方より高瀬川を合して更に西北に流れ、次で東北方より岩谷川を合し西流して日本海に注ぐ。子吉川の北には衣川・君ケ野川・鮎川等東境に發して西流し、日本海に注ぐ。子吉川の下流には本荘平野、上流には矢島盆地あり。本荘平野及び河川の沿岸には水田拓け米を產し、本荘米は良質を以て著る。また南部及び東部の山地には木材・木炭を產し、鳥海山北麓の院内油田は目下我が國三大油井の一に數へられ、原油は油槽鐵管によりて平澤驛のタンクに送り、一部は平澤製油所に於て製油せらるるも、他は土崎・長岡・新津等へ送らる。西部海岸には漁業行はれ、季節によりて北海道・樺太・カムチヤツカ等へ出稼をなす者少からず。道路には海岸を南北に通ずるもの、子吉川に沿ひて郡の東南より來り本荘町に達するもの、東方横手町より來り本荘町に達する本荘街道、及び本荘町より東北に向ふ刈和野街道等あり。所々にバスの便あり。海岸には省線羽越本線南北に通じ、北より道川・羽後象田・羽後岩谷・羽後本荘・西目・羽後平澤・金浦・象潟等の驛あり。羽後本荘驛よりは東方に社線横荘鐵道を分岐す。名稱は寶龜十一年紀に見ゆる由理柵に因む。和名抄、飽海郡に由理郷あり。中世に至り、私に由利郡を建て、近世に至り改めて由理とせしが、正保以後は由利に作る。

【由利鐵山】 秋田縣由利郡にあり、秋田油田中の一重要鐵山。鐵區は上郷・道川・下濱の三箇村に跨りて三八萬餘坪。その地質は概ね第三紀層に屬する頁岩にして含油層は其の間に介在せる砂質凝灰岩なり。現在日本石油會社の經營に係り、昭和十年の產額は原油七、二一三竓、瓦斯一、〇一二、九〇〇立方米（この總價額二五萬餘圓）にして、同年六月末の鑛夫數は一〇九人。而して精製は秋田製油所にて行ふ。

【由利島】 ↓彙那島（愛媛縣）

ユリ　由理　出羽國（羽後、秋田縣）の古地名。和名抄に飽海郡由理郷あり。また延喜、兵部省式に出羽國由理驛・驛馬十二疋、傳馬六疋と見ゆ。奈良時代、蝦夷防禦・奥羽經營のために置かれし由理柵は此の地に築きしものか。いまの由利郡の本荘町・子吉村・鮎川村の邊にあたるか。由理柵は續紀、光仁天皇の寶龜十一年八月の條に「由理柵者、居二賊之要害一、承二秋田之道一、亦宜二建レ兵相助防禦一云々」と見ゆるが如く、當時秋田城は賊地に孤居して危險多きが故に、一旦は最上河畔の出羽の舊府に遷移すべきの議ありしにより、秋田城下の蝦夷が不安を感じ、願請するところありたるが爲めに、改めて軍士を充實し、また賊地の要害にして、秋田城に通ずる要衝にあるこの由理柵にも兵を置はし、相助けて防禦せしものなるべし。卽ち秋田城の後衛として築營せられしものにして、驛家が置れたる山麓の要地たり。さればその遺址は由理郷の本地と思はるる本荘町の邊に探るべく、その地は子吉川が東より北を廻りて直ちに日本海に注ぐところにして、その河口を古雪港と稱し、また古木と呼ぶは、これ卽ち古柵または古城の意にして由理柵の故墟に因めるにあらざるか。

ユリアゲ　閑上町　宮城縣陸前國名取郡の東部。仙臺市の東南約一一粁。西は增田町に接し、東は名取川を隔て六郷村に境す。面積九・四五方粁。仙臺平野に屬し、全町概ね平坦にて水田拓け、名取川は北境を東南に流れ、海岸に出で東境をなして南流し太平洋に注ぐ。町の生業は農業と水產業を主とし、米・麥及び水產物を產す。道路は町の中部を東西に通じ、西方の省線東北本線增田驛へは約六粁、社線增東軌道の便あり、町内に閑上驛を置く。もと東多賀村と稱せしが、昭和三年閑上町と改稱す。和名抄、名取郡餘戸郷の内。海岸に閑上濱或は洲上濱と稱し、港は名取川の土砂のため船舶の出入に危險多きも、河口改修の曉は鹽釜以南の漁港として地理的に有利なる立場にあるを以て、その發展を期待せらる。（多賀神社）大宇高柳に鎭座。郷社。祭神、伊弉諾命外五神。式内社。社傳に景行天皇二十八年、日本武尊東夷征伐の折勤請せりと。例祭、三月一日。

ユリンテー　楡林亭　朝鮮總督府鐵道慶全南部線の一驛（大正七年設置）。慶尙南道鎭海郡二北面にあり。

ユルギ　動山　金澤市の南方凡そ三五粁。石川縣能美郡西尾・大杉谷の二村境上に峙つ山。標高六〇四米、山體第三紀層より成る。北麓には鷹落山（四九四米）續く。

ユルギ　震岳　熊本市の北方約二八粁に當る山。熊本縣鹿本郡八幡村の北嶺にして、北斜面は三岳村に亙る。標高四一六米。西麓を洗ふ川は南流して菊池川を潤す。

ユルギ　淘綾郡(郡)　相模國（神奈川縣）の古郡名。延喜式に郡名見ゆ。和名抄は餘綾に作り與呂岐と記し、伊蘇・餘綾・霜見・磯長・中村・幡多・金目の七郷を管す。明治二十九年に大住郡と合して中郡と稱す。

ユルギ　萬木森　↓安曇村（滋賀縣）

ユルベ　入部村　福岡縣筑前國甲良郡の中部。東隅は福岡市の西南部に接續す。東境には油山（五九二米）聳えて福岡市を界し、西南境には西山（四三〇米）の秀峰屹立す。共に中央へ傾斜し、中部には平野開けて北部にて擴がり北部は隣村に連る。西部の山麓に沿ひ室見川が西北流す。產物は米・麥・薪等なり。福岡市に接するためバスの往來頗繁なり。此地は和名抄、早良郡能解郷の内なるべし。大宇重留に安樂平の寨址あり、續風土記に往昔、大友家の小田部儀通入道紹叱、天文二十二年に始めてこの城主となり、早良郡を奪へたり。小田部氏この城に在ること二十七年にして亡ぶと。

ユワクダニ　湯湧谷村　石川縣加賀國石川郡の東部。淺野川上流の左岸に沿ふ。金澤市の東南約一〇粁にして、東と北は河北郡に界す。東南部には加賀山脈の一部なる高尾山（八四一米）及び吉次山（八〇〇米）屹立して西北に傾斜す。淺野川はこの山裾に發し、北境に沿ひて西北に流れ河岸に僅の耕地開かる。其他は概れ山林なり。米・繭の產多少あり。河岸の湯涌温泉は金澤市に近く、また醫王山のスキー區に近きを以つて賑ふ。淺野川に沿ひ縣道來り金澤市へバスの便あり。和名抄、加賀郡田上郷の内。（湯涌温泉）食饗泉。療養向。高峰山の麓、淺野川の上流に臨み、幽邃なる境なり。湯は養老年間の發見と傳へ、安政二年の地震にて一時潰滅せしが、のち再興す。

ユワン　湯灣岳　鹿兒島縣大島郡、奄美大島に峙つ山。山は椎の木を主とする密林を以て掩はる。

ヨ

四村　和歌山縣紀伊國東牟婁郡の西北部。奈良縣南端の吉野郡十津川村より南方約六粁にあり。西は西牟婁郡に界してその近野村の東部が本村西北部と北隣三里村の西南部との間に深く嵌入す。村内到るところ山岳重疊し、北境には要害ノ森山・約七〇〇米〉聳えて南東・南方へ傾斜して北部・中部の山地をなし、西南境に屹立する三日森山〈九〇一米〉より東方へ延ぶる山嶺が南境をなす。三日森山に發する四村川は南部を屈曲しつつ東流して約五粁東北に於て熊野川に合す。西部にて要害ノ森山の西麓を南下して本村に入り來る支流を合す。域内山林地廣くして林産額は首位を占め、繭・米・麥の農産は之に次ぎ、また工産・畜産・水産もあり。熊野街道中邊路が河谷に沿ひて横斷す。本村は古來温泉あるを以つて其名知られ、また大字湯瀬及び大字湯峯の一部は吉野國立公園に屬す。〔ゆのみねしだ自生地〕指定天然記念物。湯峯にあり、湯氣のかかるところに多く生ず。吸地性羊齒の著しき種類にして、この地は正にその北限地帶に當る。〔川湯温泉〕新宮より本宮行のプロペラ船により本宮に近き請川にて下船、それより西南一粁餘、自動車の便あり。始め本宮に詣で湯峯に廻行するもよし、本宮より湯峯、湯峯より川湯、いづれも自動車の便あり。〔湯ノ峯温泉〕成務天皇の御代の發見と傳へ熊野本宮參詣者の湯垢離湯たり。泉質、硫黄泉。

ヨーカ　陽化面　朝鮮咸鏡南道北青郡の西南部。西南は新浦邑、東は骨厚面に接し、南は海に面す。東西約一三粁、南北六—八粁あり、面積約八五平方粁。北部及び西部に壮麗嶺山脈の支脈延び來り、北境に大口嶺・大陽山〈七〇五米〉、西南境に泥蓋峰〈五四一米〉あり。大口嶺附近より山脚南東に延びて、松島岬に達し、西方覆蓋峰の山肢突端なる色作端との間に幅五粁、奥行ほぼ之に等しき陽化灣を抱く。松島岬以北は四粁餘に亘りて低砂洲をなし、この海岸低地西方に龍淵のラグーンあり。陽化灣岸と龍淵附近に耕地ひらけ、米・麥・大豆・粟等の農産あり。養蠶並に牛・豚・鶏の飼育行はれ、近海には鰯・明太魚・鱈等の漁獲多し。陽化灣に沿ひ、鐵道咸鏡本線通じ陽化驛〈大正十三年設置〉あり、また新浦邑より北青・新昌に至る街道通ず。陽化市場は農産・水産等の集散盛にて年賣買高二八萬圓を超ゆ。驛附近の海岸は海水浴場として著はる。

ヨーカ　楊下面　朝鮮平安北道龍川郡の北部。新義州と龍岩浦との中間に位す。南北に長く約七粁、幅は二—四粁あり。南部に三〇—五〇米の丘陵尾伏する外は概ね低平にて、北境を三橋川流れその支流は東境を灌流す。米・大豆等の産多し。東部に新義州・龍岩浦を結ぶ二等道路南北に通じ、之に沿ふ主邑楊市より東南方舊邑・枇峴に至る道路あり、何れもバスを通じ、交通便なり。楊市は農産物の集散地にして、その市場の盛なること郡第一と稱せらる。

ヨーカイチ　八日市　【八日市町】滋賀縣近江國神崎郡の中部。湖東盆地の中央に位し、西・南は蒲生郡に界し、西々北方約八粁に八幡町あり。地形概ね平坦にして耕地拓く。米・繭・桑葉・菜種・麥・緑肥用作物・茶等を産するも市街地よく發達して商業繁盛の地なり。湖東最古の商業都市にて、聖德太子の開市に始まると傳へられ今に毎月二・五・八の日に舊式の市が開かれ、特に師走二十八日・八月十五日は間の市と稱し最も殷賑を極む。最近陸軍飛行第三聯隊が町外の沖野原に設けられてより湖東第一の活潑なる市況を呈す。人口密度は四七六二人にして〈郡平均密度は三五五人なり〉郡中質角を抜く。縣道は東西南北に開通し昔より御代參街道と八風峠越兩道の合合點として湖東交通の一中心なりしが、現在は更に社線近江鐵道が町の西側を南北に通じ、社線八日市鐵道は南部を東西に走り、又バスは八風街道に通ずるあり交通上の位置を益々高む。八風街道の山峡に入らんとする愛知川畔に、關西第一の紅葉の名所と稱せらるる禪刹永源寺あり、臨濟宗永源寺派の本山にして河を距てて望む楓の老樹の中に聳見する境内の風光は特に佳なり。寺より奥の谷深く政所の茶所あり。町の西、箕作山の山腹には南に太郎坊と稱する阿賀神社、東に本郡に關係ある瓦屋寺の古刹あり。八日市の西方一帯の原野は古の蒲生野にして、その中心の市邊には市邊押磐皇子の墓あり。八日市の北、五ケ庄・愛知川の近江鐵道に沿ふ部落は何れも近江商人の發祥地にして近江南人の典型的な人々、及び東京日本橋・大阪本町筋の豪商の本據地にして、何れの部落も戸々白堅高塀に囲を繞らし黄金村の稱あり。

【八日市鐵道】私設鐵道。滋賀縣にあり東海道本線近江八幡驛起りに平田・新八日市等の數驛を經て飛行場驛（神崎郡御園村）に至る。全長一・五粁。省線と連帶運輸を成し、動力は蒸氣・瓦斯倫、軌間は一・〇六七米とす。

ヨーカイチバ　八日市場　【八日市場町】千葉縣下總國匝瑳郡の中部。北半は丘陵地にして森林あり。南半は九十九里濱沿岸平地の一部をなして沼澤多く、大部分水田をなす。農業行はれて米を主産し養蠶・養鶏も盛なり。縣道は丘陵の麓を横走し、主要聚落はこれに沿ひて中央に發達し、郡の中心をなす。西北方香取郡多古町等にも縣道を通ず

省線總武本線は中央を東北に走りて八日市場驛（明治三十年設置）を置く。また社線成田鐵道は同驛より西北に分岐し印旛郡成田町に通ず。此地天正以前は千葉氏の所領たり、室町時代に至りて後野彈正少弼・木村常陸介これを領し、江戸時代には寛文の頃稲垣藏人の所領たりしと云ひ、元禄以後將軍幕下の旗本數人に依り分割所領せらる。維新となり明治廿二年町村制實施に際し、本町はもと南條庄福岡郷と稱せしに因み福岡町と云ひしが、大正四年現稱に改む。

【八日市場】山梨縣南巨摩郡にありし村。昭和八年他二村と共に廢し原村を置く。

ヨーカン　楊廿面　朝鮮京畿道水原郡の南部。水原邑の南方約一八粁。南は振威郡青北面と界す。東西約八粁、南北四—五粁。西の一部に於て汾郷灣の支灣に臨む。中部に百米豪の丘陵南北に連るもの凡そ二條あり、その西方の丘陵群中に明峰山〈一四一米〉聳ゆ。また東北部その他にも三〇米乃至五〇米の丘陵起伏す。東境に振威川上流なる黄口池川南方に蛇曲流し、之とその西方なる支流の流域、並に海岸に近く平地ありて、田畑拓く。米・麥・豆類・綿花・菜草等を産す。中部西偏に三等道路走り、北は發安場を經て水原・烏山に、南は安仲里を經て平澤に各バスを通じ、交通不便ならず。

ヨーカン　遂堪村　鳥根縣出雲國簸川郡の西北部。西は荑木村を挾みて大社町に對し、北は鰐淵村、東は高濱村・四雲村に接す。南部の大半に宍道地溝帶の西部平野に屬し、地勢極めて平坦、耕地頗る拓けたるも、北部は東西に連る山脈平野の緣邊に階層崖をなして聳ゆ。その崖下に聚落發達す。農業盛にて米・繭・鶏卵・豚等の産あり。大社町に約二粁、村内には社線一畑電氣鐵道鍵ヶ崎驛（昭和五年設置）を置き、交通便利なり。和名抄、出雲郡杵築郷の内にして、村内に菱根池址あり、もと池沼なりしも寛永年間に開拓さるといふ。〔阿須伎神社〕祭神、阿遅須伎〈阿須伎・味鋤〉高彦根命外十柱。式内社。出雲風土記の阿受枳、此舊稱、阿式大明神。例祭十月十三日。

ヨーキョー　腰橋湖　朝鮮全羅北道益山郡の中部西偏に位する大湖。三箕・八峰・北二・黄登の各面に囲まる。南北に長く約七粁、周囲三一・一粁、面積八二五ヘクタール餘。現在は臨益水利組合の貯水池にて、これより延長約七〇粁の水路を導き、附近五千餘ヘクタールを灌漑す。この湖は古く馬韓時代の築堤なりと傳へ、のち中央と北端の二箇所決潰せるを以て、中央の決潰所に橋梁を架し交通の便を圖れり、これ即ち腰橋にして、湖名また之による。而して堤の決潰と共に貯水涸渇し、湖底は農耕地となり、堤の荒廃と共に附近一帯の平野は旱水害相踵ぎ農民の苦しむこと莫大なりしが、内地人の移住すると共に水利組合設けられ、その貯水池として明治四十三年二月起工、翌年五月竣工せしものとす。

ヨーコー　楊口　【楊口郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の中部東北偏に位し、北は淮陽、東は麟蹄、西は金化・華川、南は春川の各郡に接し、南北に長く約四五粁、東西は約二〇粁あり。面積一〇二七方粁。大白山脈に屬する山地にして、北境に智異山〈一一九一米〉・馬峰・龍門山〈一〇六八米〉・思已山、東境に鷹峰・加七峰・大嶽山一三一六米〉、西境には四明山〈一一九八米〉等聳え、餘脈縱横に走り、北部に魚隱山〈一二七七米〉、中部に白石山・大嶽山・城柱峰等あり、山嶺相連りて數箇の分水嶺をなし、北に金剛川西流し、中部以南の水は水入川となり、南境には昭陽江あり、何れも山間を蛇曲して末は漢江に入る。之等流域に狹長なる平地ひらけ、又ば盆地介在するも、山勝ちにして人煙稀薄、一方粁人口五三人〉、産業また振はず、山間に今なほ火田民居住する處あり。米・麥・大豆・棉花・煙草・繭・蜂蜜等を出し、また多少の陶磁器並に鑛産を出す。南部の郡邑楊口を中心として春川・麟蹄方面に二等道路走りバス通じ、西方華川にも自動車道路至り、また水入川を溯り北方淮陽郡末輝里に至る道路等あれど、交通不便なり。行政上、七餘面に分ち、郡廳を楊口面に置く。

【楊口面】朝鮮江原道楊口郡の南部西偏。東は南面、北西は北面、西は華川郡看東面、南は春川郡北山面に接す。北北東—西南南に長く約一八粁、幅は平均五粁あり。西境に四明山〈一一九八米〉聳え山脈東北及び東南に延び、東方の烽火峰の裾と相連り南半は峻嶮なれど、北するに從ひ低廻し、遂に二—三百米の丘陵地となる。南境に昭陽江曲流し、中部以北の水は水入川に入り、後者流域にやや廣き平地ひらく。米・麥・大豆・繭・棉花・煙草等を産し牧牛・養蜂も行はる。郡邑楊口は水入川上支右岸に位し、郡廳・京城地方法院出張所・金融組合・市場等あり。此地はまた地方交通の要衝に當り、春川・麟蹄・華川の諸邑に何れもバスを通ず。

ヨーコー　楊光面　朝鮮平安北道龍川郡の東北部。新義州を距る東南約一二粁。北境に三橋川曲流し、面は略ぼ三角形をなす。高距一〇〇—一五〇米の丘陵東西に連り東より圓峰・烟豪峰一四二米・大嶺峰〈一四九米〉・東德山等あり、東南境にも百米豪の起伏丘陵するも、三橋川とその支流沿岸にやや廣き平地ひらく。米・大豆・雑穀・豚等の産多し。鐵道京義本線東部を通じ、枇峴驛（明治四十一年設置）あり、西部を一等道路貫き交通便利なり。

ヨーコー　楊江面　朝鮮忠清北道永同郡の略中央。永同面の西南に隣る。西北—東南に長く一五粁餘、幅約七粁あり。東南半は平均五百米以上の山地にし

て、南境に千萬山(九六二米)聳え、山脉北と西北とに走り西麓には天摩嶺(最高點七七八米)あり。山地は西北方に低夷して、北境に城山(四三六米)あるも、北半の大部は二—三百米の丘陵をなす。東部山地の水は北流し、西部の水は西流し、その下流に平地ひらく。また錦江は西北境近くを曲流して北に流る。米・麥・大豆・蔴等を產す。當面と永同面とに鑛區跨りて三同鑛山あり、昭和十年に、金二四、二六九瓦、銀一八、五四一瓦、金銀鑛三七瓩(この總價額八萬餘圓)を產出し、同年六月末の從業員は一四五人なり。北部に永同・茂朱間道路通じバスの便あり。之より南に岐れ天摩嶺を陵え永同金山方面に出づる道路等あれど、交通未だ便ならず。

ヨーコク　陽谷面　朝鮮平安南道龍岡郡の中南部。鎭南浦府と龍岡面の間に位す。西北—東南に長く一二粁餘、幅は四粁前後あり。北方烏石山の山脉延びて西境を割し、黃嶺山(一五一米)等を起し、餘脈東に出で低丘を起伏せしむ。烏石山に發する河川東境を限り廣き入江に注ぎ以て大同江下流の水と相通じ、その右岸一帶並に南部に平地ひらく。米・麥・大豆・棉花等を產す。鐵道平南線南北に走り葛川驛(六五十三年設置)あり、その東方に平壤・鎭南浦間一等道路走り之に沿ふ南部の文艾里より東方釜二浦へ道路を岐つ外、北西部にも鎭南浦・龍岡間道路通じ、交通便なり。

ヨーコク　陽谷　朝鮮總督府鐵道惠山線の一驛(昭和八年設置)。咸鏡北道吉州郡鳴社面にあり。

ヨーサン　陽山面　朝鮮忠淸北道永同郡の西部。郡邑永同の西南約一〇粁。東西約九粁、南北六—七粁。北・西・南の三面山を繞らし、北境に摩尼山(六四〇米)聳え、山脉のびて東北境に甑峰、中部に登谷山(五〇二米)・老姑城(四二八米)・烽火峙等を起し、西境には國善峰(七一五米)、南境には飛鳳山(四八一米)・大王山(三〇四米)等あり、平地は東南部にやや廣きもの横はる。南境に近く錦江東西に曲流し、東南隅にて北流に轉じ東境を割す。米・麥・豆類等を產す。道路は中部の錦江支谷に沿ひ南北に通じ北方京釜線伊院驛、南方茂朱邑に至るも、交通未だ便ならず。

ヨーサン　蓉蠶村　茨城縣常陸國蓮堺郡の中部。下館町の東南隣。小貝川の中流に跨る。北は竹島村・新治村、東は古里村、南は村田村、西は嘉田生崎村と隣す。面積八・〇四平方粁。關東平野内の一部を占め、全部平地にて殆ど畑地をなし、東部には少し林を交ふ。省線水戸線は村の北端をかすめて西走し下館驛に近し。村より縣道を通ず。此地古くは和名抄、鷲田郷手向郷の内に屬す。いま下中山・蕨等十一大字より成り成田に役場を置く。(二所神社)大字成田に鎭座。

ヨーシャ　暘社面　朝鮮咸鏡北道吉州郡の北部。城津邑の北約五〇粁。南は長白面に接し、東は明川郡、北は鏡城・茂山の二郡、西北は咸鏡南道甲山郡、西南は同端川郡に隣まる。東西約四〇粁、南北は西部にて約一〇粁、東部にて二〇粁餘。面積約五〇〇方粁に及ぶ。東部は小長白山脈、西部は摩天嶺山脈に屬する山地にして、北境に萬塔山(二二〇五米)・高頭山(一九八八米)、西北境に雪嶺峰(一八三六米)・大角峰(二一二二米)・頭流山(二三〇九米)等の高峰連りて東南方に鋸斜し、東境に氣雲峰(一八六八米)、南境に鶴鮮山(一六四二米)等あり、西北境に近く南大川發し、境内の諸水これに集りて東東南に流れ、境外に去らんとする所に南大溪の勝景をつくる。平地は極めて少きも、谷沿ひ及び山岳斜面に耕地點在し、大豆・大麥・粟その他の雜穀を出し、また枕木等の林產あり。西北部にはマグネサイト・蠟石等の產多く、合水鑛山・白岩マグネ鑛山等に於て稼行せらる。鐵道惠山線は南大川に沿うて通じ東より載德・城德・蛇島・暘谷・合水(以上昭和八年設置)・南溪・白岩(共に昭和九年設置)の諸驛あり。更に大角峯に延長約二粁の隧道を穿ちて咸鏡南道に至り、白岩驛よりは森林鐵道白茂線(狹軌)東北に岐れ、大澤驛(昭和九年設置)を經て茂山郡の森林地帶に通ず。また鐵道に並走して吉州より來る道路あり、西方惠山鎭にバス至る。合水驛の北方、大澤驛附近に周圍四粁餘の臺澤池あり。

ヨーシュー　楊州郡　朝鮮京畿道三府二十郡の一。道の中部北偏に位し東北は抱川、西北は長湍、東は加平・楊平、南は廣州、西は坡州・高陽の各郡に接し、西南端に於て京城府と相接す。西北—東南に長く、面積九七二方粁あり。山岳丘陵到る處に起伏し、地形頗る複雜を極め、西部には北漢山に連なる道峯山(七一七米)聳え、東部の抱川郡界には天寶山・七峰山等あり、東南部には天摩山(八一二米)を始め栢峰山等南北に連り、中部には道樂山・佛國山・水落山・佛岩山等崛起す。而して前記の東西兩山地を分つ構造谷が南北に縱走す。河川は北部の諸水が北流して漢澄川となり臨津江に注ぐ外は漢江系にて、西部に漢川、東部に玉宿川あり、何れも南流し郡の南境を曲流する漢江に入り、北漢江の長流また東南境を割しつつ之に注ぐ。之等諸川の流域に何れも平地開け、特に南部の平地は廣く且つ膏沃なり。米・大麥・大豆・蔴等を主產物とし、また蠶製品・酒類・金屬器等の工產、金銀・タングステン等の鑛產あり。

元線走り、南より倉洞・議政府・德亭・東豆川等の驛あり、中央の議政府を中心として京城・元山間一等道路通ずる外、北方平壤に二等道路を出し、南部には春川街道東西に走り、交通便なり。行政上十六箇面に分ち、郡廳を議政府(柴苞面)に置く。

ヨージュテー　楊樹底會　關東州鹽子窩民政署管區の略中央部。東南は鹽子窩會に近くその間に宋家屯會を隔て、南西は楊樹房會に隣接す。東西兩境部には低き丘陵地あるも中部は土地平坦にして北隣鄭家屯より來る清水河これを南流す。耕地よく拓けて大豆・落花生・高粱・野菜その他の農產を出す。金福鐵道の李家屯驛(楊樹房會)に近きも交通はなほ便ならず。

ヨージュボー　楊樹房會　關東州鹽子窩民政署管區の南西部。東は鹽子窩會との間に宋家屯會を隔て、南は清水河會に隣る。域内到る處低き丘陵起伏するも、中部より東部にかけては幅狹き平坦地ありて耕地よく拓け、大豆・落花生・高粱・野菜等の農產あり。鹽子窩・普蘭店間、及び鹽子窩・金州間の道路は南部・中部を東西に通じ、また金福鐵道東部を掠めて李家屯驛を設け、交通不便ならず。

ヨージョー　陽城面　朝鮮京畿道安城郡の西北部。郡邑安城の西北約八粁。東北—西南に長く約一七粁、幅四—六粁にて、北半は龍仁郡内に嵌入す。北半は東境に双嶺山(五〇二米)聳え山脉南東及び南西に延び、西境には時宮山の山脉のびて二—三百米の高度を示す。南半は西境に千德山(三三六米)・高城山(二九八米)等連り、東部にも百—二百米の丘陵南北に延ぶ。中部の梨峴を界として北半に振威川上支西南流し、南半に漢川支流發し、東南境を割する本流に合し、此等流域に稍廣き平地あり、田畑拓く。米・麥・大豆・棉花・蔴等を產し、牛豚並に鷄の飼育行はる。梨峴を陵えて南北に道路通じ南方平澤邑に至り、安城・振威を結ぶ道路と陽城にて交叉し、陽城より安城・平澤・龍仁の諸邑へバスの便あり、珠に南部の交通便なり。陽城は東恒里の別稱にて、大正三年まで陽城郡廳の置かれし地とす。

ヨーセー　陽西面　朝鮮京畿道金浦郡の東南部。漢江左岸に沿ひ、郡邑金浦と京城府永登浦との中間に位す。東境に雨裝山(九九米)あり、山脉西に延びて南境に二〇—三〇米の丘陵を連ね、西北部には開花山(一三一米)孤立す。東は陽川水利組合の、西半は富平水利組合の灌漑地にして田畑よく拓け、米・麥・大豆・蔴菜等の農產物を出す。漢江に沿ひ自動車道路通じて東は京城、西は金浦に至り、南部も里道四通して城内の交通便利なり。

ヨーセー　楊井面　朝鮮平安南道中和郡の西部。郡邑中和の西方約一二粁。東北は唐井面、東南は新興面、西は海鴨面に界し、西北は大同江を距てて江西郡草里面と相對す。面積約三三方粁。大同江平野に屬し、域内處々に起伏する丘陵も多くは三〇米を超えず、地味肥沃にして農耕に最適す。產物は米・小麥・大豆・小豆・棉花等を主とし改良叺・繩等の製造、牛豚の飼育、養蠶等も行はる。域内に幹線道路を通ぜざるも、北部の面邑石陽里を核として里道四通し、交通不便ならず。石陽市場は毎月二・七の日に開き、一年の賣買高二十五萬圓に達し、郡中にて中和邑の市場につぎ殷盛なり。

ヨーセー　楊西　【楊西面】朝鮮平安北道龍川郡の北西部。新義州府の南方約八粁。西は鴨綠江を距てて滿洲國安東縣と相對す。鴨綠江に沿ふ南北に長き地を占め、東南境に煙臺峰(五五五米)の小丘ある外は、全域極めて低平なり。また三橋川は北境に於て鴨綠江に注ぎ、用水路縱横に通じ灌漑に便す。米・大豆・蘆草莚・蓆叺等を產す。域内に幹線道路を通ぜされど、東境に近く新義州・龍岩浦間の道路走り、交通不便ならず。

【楊西面】朝鮮平安北道楊平郡の西部。郡邑楊平の西北約七粁。北境に五—六百米の山脉走り清溪山やや著はれ、南方へ數條の山脉を出す。南境は漢江(南漢江)により限られ、南境は北漢江によりて隔てられ、兩江は面の西南端に於て合流し、江岸山麓に耕地開く。米・麥・大豆等を出す。南漢江に沿ひ楊平・京城間道路、北漢江に沿ひ京安里・清平里間道路通じ、前者にバスの便あり、また漢江に舟楫を通じ、交通不便ならず。

ヨーソン　陽村　【陽村面】朝鮮京畿道金浦郡の中部北偏。郡邑金浦の西約六粁。東北は漢江に、西南は江華灣に臨み、後者の海上に碁布する寶島・沙乭串島・梅雉嶼・安岩島等の屬島を包含す。東境に歌弦峰(二一五米)聳え北方の雲潛山(一〇三米)に連り、また西及び南に山脉を派し、南部は五〇—一〇〇米の丘陵起伏するも、北半は概れ低平にして水田遠く連る。米・麥・大豆等を產す。また江華灣岸には鹽を產す。北部を金浦・通津間道路東南—西北に通じバスの便あり。南部にも里道四通し、交通不便ならず。主邑陽谷里は中部西偏に位し、市場・金融組合等あり、地方的一中心をなす。

【陽村面】朝鮮忠淸南道論山郡の南部。郡邑論山の東南約一五粁、南北に長く一〇—一四粁、幅は四—八粁あり。東境に山脉連りその中部に於ける鞍部勿汗峠以南は特に高く最高約六五〇米を示し、東北部にも成朴峰(四〇四米)・國師峰(三三一米)聳ゆ。西南部また山地にして南境に長才峯(四八七米)あり。中部が論山川西北流し流域にやや廣き平地ひらけ、

農業盛に行はる。米・麥・大豆・棉花・繭等を主要産物とす。論山川に沿ひ三等道路通じ、南は全羅北道完州郡内へ、北は述山に通じバスの便あり。主邑仁川里は論山川に臨み交通の要衝に當り、市場・金融組合等あり。

ヨーチン　用珍面　朝鮮黃海道信川郡の西北境。信川邑の西北方約一五粁。東西約一二粁、南北六—九粁。西境には九月山（九五四米）聳え、山脚東に延びて北境を限り五峰（八五九米）・三峰（六一四米）等を起し漸次低夷して三〇〇米に降り、また南脚は西境に逝りて阿斯峰（六八七米）あり。東南部に廣き平地あり耕地はこの平地と山間傾斜地とによく發達す。米・小麥・大豆・棉花等を主産とし、九月山中よりは松實・松茸を出す。主邑柳川里は東境山川面に近く位し市場開け、里道これより放射狀に出づるも、交通未だ便ならず。北部に寒山寺、西南隅に月精寺の古刹あり、特に前者は朝鮮三十一本山の一にして、別名を貝葉寺と稱し、千百餘年前、唐僧貝葉大師の創建に係る。

ヨーテー　羊蹄山　アイヌ語名をマッカリヌプリといひ、山容より蝦夷富士とも呼び、又シリベシ山の別名もあり。北海道後志支廳倶知安町・東倶知安村・喜茂別村・眞狩別村の境上に聳ゆる山。北海道隨一の靈峯にして、後志盆地の中央に端正なる截頭圓錐形を孤立する成層死火山たり。尻別川は東・北・西麓を廻流し西流して日本海に注ぐ。此川を隔てて北西方にニセコアンヌプリ（一三〇九米）對峙す。南麓に蘆狩川發し西して尻別川に入り、川の被岸南西方に昆布岳（一〇四五米）聳起す。基座東西一三粁、南北一二粁に亙り、基底は上新第三紀にて、山體構成岩は紫蘇輝石安山岩・複輝石安山岩等の熔岩流・集塊岩物質・碎屑物等より成る。標高一八九三米。山頂には父の釜と稱する精圓形の火口あり周圍約二粁、融雪期には火口湖をなす。この火口に接し、北西方に母釜・子釜の二箇の小寄生火口、西方に一箇の爆裂火口を有す。また北西麓に半月湖・圓山等の爆裂火口址及び小寄生噴石丘を存し、南西山腹に小富士・南小富士等の泥流堆積丘あり。この山の植物には山麓に山毛欅・楢・岳樺等繁り合ひ、六合目迄は蝦夷松・椴松の原生林をなし、その上部は熔岩礫帶にして偃松これに點綴し、その下にネマガリダケ・ミヤマエンレイサウ・マヒグルサウ・ゴセンタチバナ・ミヤマカタバミ・コケモモ等生育す。また山頂お花畑にはキクバクハガヌ・ホソバオンタデ・イハギキャウ・イハブクロ・ミヤマキンバイ等生育し、その間にこの山固有のエゾノフウアザミの如きものも混り、總計二六一種を算し、我國高山植物の一寶庫とせられ、指定天然記念物なり。登山は西麓函館本線比羅夫驛または北西麓倶知安驛より行ばる。比羅夫驛より大曲を經て約三・五粁にて半月湖畔に至る。ここに登山事務所あり、それより山頂まで約六粁、四—五時間の行程なり。山頂部近くに電光形の急坂あり。山頂よりは東方に洞爺湖を下瞰し、有珠岳・樽前山等を一眸に收め、また駒ケ岳を望見し、西方は間近に倶知安平野を隔ててニセコアンヌプリの連山を望み、北方に余市・手稻の山々を望む。山頂の火口を廻るお鉢廻りは大凡一時間を要す。冬季のスキー登山も興味あれど、風のため雪面硬化し、シュタイグアイセンを要することあり。

ヨード　與布土村　兵庫縣但馬國朝來郡の東部。竹田町の東に接し、東南は氷上郡に界す。東・南・西の三部は山地を繞らし、東境には粟鹿山（九六二米）が聳え、南境には青倉山（八一一米）あり。西境には朝來山（七五七米）が蟠居す。中央には北流する一河川ありて流域の北部に平野發達す。農業を主生業とし米・繭・麥類・蔬菜・花卉・食用農産物・製茶・果實等を出し鷄卵・藁製品等の産もあり。竹田町に接するため交通の便よし。此地は和名抄、朝來郡朝來鄉の地なるべく、懷中抄に「秋の色はあさこの山の庶錦つゆいかなれば分けて染けむ」とあるは此地の山なり。此の朝來山は土人は愛宕山といふ。

ヨード　用土村　埼玉縣武藏國大里郡の西部。寄居町の北約三粁にて、西は兒玉郡と隣す。面積六・九七平方粁の小村なり。西境附近は稻丘陵地をなすも、他は平地にて畑地多く、所々林を交ふ。農業行はれて米・麥を産し養蠶も盛なり。縣道は寄居町及び東北方深谷町に通じ寄居町へは自動車の便あり。省線八高線は寄居町より來りて中央を北走し、兒玉郡に入り、村內中央に用土驛（昭和八年設置）を置く。近世は杉表庄藤田鄉と稱せし地。鎌倉古街道村內を通り兒玉郡八幡山町へ通ず。往古は用土原と稱せし廣野にて、元弘・建武の頃は戰場の地たり、また文明九年、長尾景春の亂に太田道灌出でて此處に戰ふ。

ヨートー　陽東面　朝鮮京畿道金浦郡の東南端。西北は陽西面、東は京城府永登浦町に接し、西南は富川郡と界す。漢江左岸に沿ひ、東境にはその支流葛川（安養川）北流す。中部・南部に五〇—一〇〇米の丘陵起伏し、中央一一八米の山は北に延びて江岸に五五米の甑山を起し、西境には雨裝山（九九米）あり、其他は概ね低平にして、ただ江岸に仙遊峰（五三米）・塔山・鳳山（七九米）等の殘丘ありて單調を破る。東部平地は陽東水利組合の灌漑地にして、水田發達し、米を多産し、また麥・大豆・繭等を産す。漢江に沿ひ永登浦より金浦・江華に到る並木街道通じバスの便あり。之に沿ふ陽川は鳳山南麓面に發達せる邑にして、水陸交通の要衝に當り、大正三年まで陽川郡廳ありし地なり。

ヨートー　楊東面　朝鮮京畿道楊平郡の東南部。郡邑楊平の東方約二〇粁。東は江原道橫城郡書院面及び原州郡地正面と界す。南北に長く約一五粁、幅は約八粁。四周四—五百米の山を以て繞らし、域內にも北部に金旺山（四八六米）あり、北部山地に發する鯉江支流南流し流域に狹長の平地ひらく。米・麥・大豆・雜穀を主産し、北部には鑛産あり。道路は谷沿ひに通ずるも、里道にして、交通便ならず。

ヨートク　陽德　【陽德郡】朝鮮平安南道二府十四郡の一。道の東南部に位し、北は孟山郡、西は成川郡に接し、東は成鏡南道永興郡・高原郡・文川郡・元源郡と、南は黃海道谷山郡と界す。西北—東南に長く、面積一三四六方粁あるも人口五萬に滿たず、一方粁密度三三人にして、人煙稀薄なること寧遼郡につぐ。北大峰山脈中部を南北に走り主峰北大峰（一三二七米）を始め白山・紫霞山・霞嵐山（一四八六米）等聳え、東南部また高嶺なる山地なし成鏡南道との界に載靈山・頭流山等千米以上の峻峰あり。北大峰山脈を分水嶺として、その西方の水は沸流江・平原川となりて西流し、以東の水は南江上支みなして南流し何れも大同江に入る。平地は之等流域に少しく開くるのみにて、主畑作農業行はれ、大豆・小麥・粟・煙草・麻等を産す。また畜牛・養蠶行はれ、工産に麻織物、鑛産に金銀等あり。鐵道平元西部線西方より來り平原川に沿ひ仁平・智水を經て陽德に達し、之に並行して平元一等街道更に東へ延び、東陽より南江に沿うて下り谷山方面に二等道路通じ何れもバスの便あれど、北半は交通の便未だ開けず。行政上、七箇面に分ち、郡廳を陽德面に置く。高麗太祖の時、陽岩鎭（いま東陽面）及び樹德鎭（いま陽德面）を置き成川府に屬せしめしが、李朝に入り兩鎭を廢合して陽德縣を設け、明治二十八年郡に改む。大正三年大邱面を成川郡に分讓し同十年郡衙を舊邑東陽面より破邑（陽德面）に移し今に至る。

【陽德面】朝鮮平安南道陽德郡の中部西偏。北は双龍・吳江の二面、東は溫泉面、西は成川郡大邱面に接し、南は黃海道谷山郡上岡面と界す。東西一五粁餘、南北約二〇粁。北大峰山脈に屬する山地にして四境山に圍まれ、北境に北大峰（一一二七四米）、東境に南大峰、南境に朴竹山（九四九米）、西境に紫霞山（一二一六米）等聳え、山地の諸水が集まりて平原川となり中部を西北流する處に狹長の平地ひらくるのみ。大豆・粟・麥・米・煙草等の農産ある外、繭・麻織物・絹布・燒酒・生牛等を出し、また鑛産（金銀）・林産あり。平原川に沿ひ鐵道平元西部線西方より仁平・智水・陽德の三驛（共に昭和十一年設置）あり、平壤より來る一等道路また平原川を溯り東陽を經て成鏡南道に至りバス通ず。主邑はもと破邑と稱せし地にて、いま陽德新邑と通稱す。平原川上流右岸に位し、地方的交通の要衝にて郡廳・平壤地方法院出張所等あり。東北約三粁、南大峰の麓に大湯池の溫泉地あり、附近の洛川峽と共に世に著はる。本面はもと九龍面・洛川面の地とす。昔て鄙衙は舊邑（東陽面）と破邑との間を移轉せらるること三度に及びしが、大正十年八月破邑に移し、諸官公署また之に伴ひて移轉し、同時に舊陽德面は東陽面と改稱、從つてその主邑陽德は之を東陽と改め、一方破邑は新邑と改稱せられたるものとす。

ヨートク　耀德面　朝鮮成鏡南道永興郡の西北部。郡邑永興の西北約三〇粁。東は賞興面、南は橫川面に接し、北は平安南道寧遠郡、西は同孟山郡と界す。東西約二〇粁、南北約三〇粁。四面山を以て圍まれ、北境に白山（一七二四米）、西境に屏風山（一五四九米）・望京臺嶺、東境に回城山（一七二一米）・長峰山・越王嶺等聳え、此等山地に發する水は立石川となりて南流し、沿岸に狹長なる平地ひらく。河沿ひと東南部山間とに耕地發達し、稗・小豆・大麻等の農産あり、山地より木材を出し、また立石川上流に金・砂金を産す。南部に永興・寧遠間の二等道路通ずるも、交通便ならず。

ヨーナン　陽南面　朝鮮慶尙北道慶州郡の東南部。郡邑慶州の東南約二〇粁。北は陽北面、西は外東面、南は慶尙南道蔚山郡江東面に接し、東は日本海に臨む。東西・南北とも各約一〇粁あり。大白山脈傍脈の東斜面にして、西境に五—六百米の山聳え、漸次海岸に向ひて緩斜す。海岸は屈曲少く、海岸と砂濱と斷續す。北境近く發源し南東に流れて海に入る川あり、その沿岸と海岸平地、並に山地の緩斜地に集落ひらけ農耕行はる。産物は米・麥・繭・和布等とす。道路は何れも里道に過ぎず、海岸線延長約一〇粁に及ぶも良泊を缺き、交通不便なり。東岸の下西里は漁業集落として稍開け、金融組合・市場等あり、穀類・漁獲物等の集散行はる。

ヨーバイ　楊梅庄　臺灣新竹州中壢郡の西南部。南に山岳を負し西北に進むに隨ひ傾斜し東西三里二十四町、南北二里二十町なり。東は平鎭庄、西は新竹郡湖口庄、南は新一郡新埔庄・大溪郡龍潭庄、北は新屋庄・中壢街に隣接し、其面積州下隨一の大庄をなす。庄內は概ね丘陵屈曲起伏し、相思樹・松等の生育するもの多きが故に、秋より春にかけ茸發生し、臺北方面より茸狩りに來庄するもの近年增加せり。本庄下は純然たる農村にして、庄下住民の生業をなすは農業にして、農産額は庄下諸種生産額中首位を占む。主なる産物は米・茶・甘藷・落

安・米城両二郡の東部を占め、ベスの産あり。

社線・東浦線・鶴山線に由つるに便なり。

ミーホク　鶴北面（ぬきた）　朝鮮慶尚南道咸安郡の東部。慶州邑の東方約一五粁。西は内東面、南は鶴南面、北は西日郡に接し、東は、日本海に面す。東西一二一一一三粁、南北一二一一一五粁あり。西部には大白山脈の余脈南北に連亙し、西端には吐含山（七四五米）聳え、東方に底蛇するも、その麓部により、全域を通じて高峻なし。鶴南面なる平地に乏しく、山地の水は面の中央に発し大鶴川と合流し、この流域と共に南北に流れて海に入り、この流域と共に南北に流れて海に入り、この流域なり東南の二流に沿ひ上ること三粁、社内に鶴出し、梁老峰・半子山・三角山・鶴山・鶴大豆等の産出の外、沿海に鶴・鯖・鰯・鱈・大刀魚・鰈、又は和布・天草等の海産多く、水産製造も行はる。吐含山北麓の小鶴内には半朝の良沼あり。米・麥・大豆等の産出の外、沿海に鶴・鯖・鰯・鱈・大刀魚・鰈、又は和布・天草等の海産多く、水産製造も行はる。吐含山北麓の間自に沿ひ、海岸線を辿り、北部の間自に沿ひ、海岸線を辿り、北部の間自に沿ひ、海岸線を辿り、北部

宮の折行啓遊ばされ、電車の開通以來親
光地として名高し。〔養老神社〕郷社。
祭神、元正天皇・聖武天皇・菊水天神。例祭
九月二十日。〔久久美雄彦神社〕郷社。
祭神、久久美雄彦神。式内社。神位、承
和五年從五位下。例祭十月一日。〔養老
寺〕創宗大谷派。元正天皇の靈亀三年勅
願によりて建立。天正中兵火に罹り、同
十八年再建。明治後諸堂を修繕し古蹟維
持令を組織す。寺内養老公園は名勝を以
て聞ゆ。十一面觀音像(木造)等は國寶。
〔身延別院(妙見堂)〕大字白石にあり。
日蓮宗。寛永三年、大旱に際して雨乞を
なせし跡に妙見堂を建立し、丈六釋尊像
を安置す。

【養老電鐵】 社線參宮急行電鐵の一部と
なり養老線となる。

【養老村】 京都府丹後國與謝郡の北部。
與謝半島の東岸に位し、東北より西南に
やや長し。全村山岳地にして西南境に土
地最も高し。北部と南部には東南流して
海に注ぐ河川あり。その沿岸は田畑拓け
米・繭を産し海岸は水産頗多し。縣道は
海岸を縫走し北部には之より分岐して西
北に走るものあり。宮津町へ定期汽船及
びバスの便あり。

【養老】 大分縣大野郡にありし村。明治
四十年、他の四箇村と共に廢して東大野
村を置く。東大野村は昭和三年大野町と
改稱。

ヨアケ　夜明村　大分縣豐後國日田
郡の西北部。筑後川の右岸に位し、日田
町の西方約四粁にあり。川を距てて西南
と西北は福岡縣浮羽郡・朝倉郡に界す。
西北境に北方よりつづく約四〇〇米の山
峰ありて中央を東南隅へ延び、山麓は筑
後川に終り東西に傾斜す。東北部も小丘
陵をなす。東部には小河川が南流し、南
境に沿ひて西北流する筑後川に合す。筑
後川流域は低地乏しきも東部の河川流域
に低地開け耕地發達す。米・麥・繭・栗・甘
藷及び薪炭・木材を産す。筑後川に沿ひ
て縣道・省線久大本線が走り後者の夜明
(昭和七年設置)・今山(昭和十三年設置)
の二驛を置き、夜明驛よりは彦山線を分
岐す。日田町へバスの便あり。本村は大
鶴村及び朝倉郡寶珠山村と共に和名抄、
日高郡夜明郷の地とす。

ヨアケ　夜開
【夜開】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名
抄に三潴郡夜開郷あり、諸本夜關に作る
も高山寺本によりて訂す。近世夜明莊に
作る。いま三潴郡大善寺村の邊が其の域
なるべし。同村の大字夜明は郷名の遺稱
なりといふ。

【夜開】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名
抄に菊池郡夜開郷あり。諸本夜關に作る
も高山寺本によりてこれを訂す。其地い
ま詳かならず。或は菊池郡戸崎村・花房
村の邊か。

【夜開】 日向國(宮崎縣)の古地名。和名
抄に郡珂郡夜開郷あり、その地不詳。

ヨイタ　與板町　新潟縣越後國三島
郡の東部。信濃川の左岸を占め、東は川
を境に南蒲原郡に接す。西半部は二百米
近き丘陵にして村内へ傾斜し、東半部に
平地あり信濃川支流の黒川北へ貫流し北
隅にて本流に會す。米・繭を主産し、丘
陵には標草の特産あり。南北に貫通する
社線長岡鐵道の便あり。上與板(昭和三
年設置)・與板(大正四年設置)の兩驛を置
く。縣道また諸方より集合し、長岡市・
見附町・地藏堂町・小島谷等へバス通ず
信濃川には舟楫の便もあり交通頗る便な
り。近世、吉河庄と稱せし地なり。〔與
板城〕天正の頃直江景綱居城すと云ふも
定かならず、寛永十一年長岡城主牧野忠
成の第二子康成、此地に於て一萬石を分
封され、元祿十五年、康重の時、信濃小
諸城に移る。寶永二年、井伊直矩封ぜら
れ、二萬石を賜ひ、陣屋を置く。文化元
年八月、直朗、若年寄の功を以て、城主
格に列す。戊辰の役、官軍來り、五月下
旬より戰ふこと七十日に渉り、兵燹の慘
害長岡に亞ぐ。〔與板別院〕浄宗本願寺
派。天保四年、僧廣如之を創建して與板
御坊と稱す　文久年間本堂再建の工を起
し明治三年七月落成す。

ヨイチ　余市
【余市郡】 北海道後志支廳後志國の東北
端。支廳管下十四郡の一。小樽市の西南
に隣接し、西北は小樽灣に面す。東は石
狩支廳札幌郡、南は虻田郡、西は古平・岩
内兩郡に界す。面積五七八・二五平方粁、
人口二八三九六。郡内余市町及び大江・
赤井川二村を含む。余市川の流域地を占
め、沿岸に廣大なる平野ひらけ河口に余
市町の市街地發達す。東南の上流地方は
山地に開繞され、東境に朝里嶽(一二八
一米)・美比内山(一〇六三米)・余市嶽(一
四八八米)等南北に連りて地勢高燥なる
もやや西方に傾斜す。余市川朝里嶽の西
麓に發して西流し、西南境に近く急に迂
曲し、下流は郡の西部を北流して小樽灣
に入る。流域に耕地拓け、米・馬鈴薯・
麥類・大豆・甜菜及び除蟲菊・苹果等を
産す。また塩落流域に多く、製粉・牧畜
等も行はる。海岸線短きも出入に富み余
市灣彎入し、漁業盛んなり。省線函館本
線西北部に通じ余市驛・仁木驛・然別驛・
銀山驛等を置く。支流白井川上流及び余
市川下流西岸山地に炭礦あり。

〔余市町〕 北海道後志支廳余市郡の北部
海岸。小樽灣に面し、西は古平町に隣接
し東は忍路郡塩谷村を隔てて小樽市に對
す。面積一〇六・二七平方粁。中央を余
市川北流して海に注ぎ廣き沖積平野を展
く。耕地多し。河口に余市町・大川町の
市街發達す。東部・西部は山地に蔽はる。
海岸線の出入に富み良港灣に惠まれ、殊
に西北部は岬角數多海中に斗出せり。農
産・水産に富み、米・馬鈴薯・鮭・鱈・鯡等
を産す。町内に余市鐵山及び湯内鐵山あ
り、何れも金銀銅山にして住友合資會社
光地として名高し。〔養老神社〕郷社。
祭神、元正天皇・聖武天皇・菊水天神。例祭
九月二十日。〔久久美雄彦神社〕郷社。
祭神、久久美雄彦神。式内社。神位、承
和五年從五位下。例祭十月一日。〔養老
寺〕創宗大谷派。元正天皇の靈亀三年勅
願によりて建立。天正中兵火に罹り、同
十八年再建。明治後諸堂を修繕し古蹟維
持令を組織す。寺内養老公園は名勝を以
て聞ゆ。十一面觀音像(木造)等は國寶。
〔身延別院(妙見堂)〕大字白石にあり。
日蓮宗。寛永三年、大旱に際して雨乞を
なせし跡に妙見堂を建立し、丈六釋尊像
を安置す。

【養老電鐵】 社線參宮急行電鐵の一部と
なり養老線となる。

【養老村】 京都府丹後國與謝郡の北部。
與謝半島の東岸に位し、東北より西南に
やや長し。全村山岳地にして西南境に土
地最も高し。北部と南部には東南流して
海に注ぐ河川あり。その沿岸は田畑拓け
米・繭を産し海岸は水産頗多し。縣道は
海岸を縫走し北部には之より分岐して西
北に走るものあり。宮津町へ定期汽船及
びバスの便あり。

【養老】 大分縣大野郡にありし村。明治
四十年、他の四箇村と共に廢して東大野
村を置く。東大野村は昭和三年大野町と
改稱。

ヨアケ　夜開
【夜開】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名
抄に三潴郡夜開郷あり、諸本夜關に作る
も高山寺本によりて訂す。近世夜明莊に
作る。いま三潴郡大善寺村の邊が其の域
なるべし。同村の大字夜明は郷名の遺稱
なりといふ。

【夜開】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名
抄に菊池郡夜開郷あり。諸本夜關に作る
も高山寺本によりてこれを訂す。其地い
ま詳かならず。或は菊池郡戸崎村・花房
村の邊か。

【夜開】 日向國(宮崎縣)の古地名。和名
抄に郡珂郡夜開郷あり、その地不詳。

ヨイタ　與板町　新潟縣越後國三島
郡の東部。信濃川の左岸を占め、東は川
を境に南蒲原郡に接す。西半部は二百米
近き丘陵にして村内へ傾斜し、東半部に
平地あり信濃川支流の黒川北へ貫流し北
隅にて本流に會す。米・繭を主産し、丘
陵には標草の特産あり。南北に貫通する
社線長岡鐵道の便あり。上與板(昭和三
年設置)・與板(大正四年設置)の兩驛を置
く。縣道また諸方より集合し、長岡市・
見附町・地藏堂町・小島谷等へバス通ず
信濃川には舟楫の便もあり交通頗る便な
り。近世、吉河庄と稱せし地なり。〔與
板城〕天正の頃直江景綱居城すと云ふも
定かならず、寛永十一年長岡城主牧野忠
成の第二子康成、此地に於て一萬石を分
封され、元祿十五年、康重の時、信濃小
諸城に移る。寶永二年、井伊直矩封ぜら
れ、二萬石を賜ひ、陣屋を置く。文化元
年八月、直朗、若年寄の功を以て、城主
格に列す。戊辰の役、官軍來り、五月下
旬より戰ふこと七十日に渉り、兵燹の慘
害長岡に亞ぐ。〔與板別院〕浄宗本願寺
派。天保四年、僧廣如之を創建して與板
御坊と稱す　文久年間本堂再建の工を起
し明治三年七月落成す。

ヨイチ　余市
【余市郡】 北海道後志支廳後志國の東北
端。支廳管下十四郡の一。小樽市の西南
に隣接し、西北は小樽灣に面す。東は石

り、何れも金銀銅山にして住友合資會社
の經營に係る　而して前者にては昭和九
年に金銀鑛五二一瓩を産出す。省線函館
本線中央を貫通し余市驛(明治三十五年
設置)を置く　地方道・準地方道は海岸
及び平野を通じて小樽・古平・余別を連
ねバスの便あり。抑も北海道の西海岸即
ち古への西蝦夷地に於てアイヌの殺も有
力なる部族四あり、箇石・潮彌・岩内・余
市これなり。このうち余市は最北にあり
て最も文化遅れ居たりしも非常に強力に
して近隣なる岩内族は屢々壓迫を蒙り或
は壓迫に堪へずして噴火灣方面へ移住し
たるものすらありき。寛正二年に於ける
アイヌの大叛亂のとき、余市邊に僅少の
和人ありしが殆んど殺戮せられたり。勿
論古へより神威岬以北には婦女の入るを
禁ぜしかば余市邊にありし和人の數も僅
少なるべくまた永移せるものにはあらざ
るべし。かの近海は鰊漁に富みし故アイ
ヌは勿論、和人の生業も亦漁業なりしな
るべし。ロシヤが屢北邊を侵すに及び安
政二年幕府は北海道の地を松前藩より取
上げて直轄したるが、此時より神威岬以
北に移住人を禁ぜ無視して家族連の移
民を奬勵せしかば、西海岸に移住する漁
民多く、余市は實に此時より和人の居住
地となれり。當町名はアイヌ語「イオチ」
より轉訛せるものにて、イオチは蛇の居
る處即ち蛇多き處の義なり。古へ余市川
筋には蛇多かりしと云ふ。〔大谷地貝塚〕
大字黍郡村小字大谷地にあり。沼澤地に
突出せる丘陵麓の砂丘上に存し、面積約
四〇アール、かき・はまぐり・ながにし
等多く積虎し、獸骨・魚骨・土器破片等
出土し、人骨も發見せられたり。土器は
厚手土器多し。土器破片と共に石斧・石
匙・石錐・冠石等西側の住居址より發見
せらる。〔黍郡古代文字〕大字黍郡村に
あり。函館本線鐵路附近にて線路の北側
にあり、小丘狀をなす岩山の下方にアイ
ヌのイトゥパ印に似たる異樣の文字樣
彫刻存す。その新古に就きては論ずる者
あり。〔余市神社〕宮澤町に鎮座。縣社。
祭神天照大神・保食神外三神。文政十年
林長左衛門、京都伏見稻荷神社の分靈を
勸請して創立す。もと稻荷神社と稱す。
例祭六月十日。

【余市臨港軌道】 私設軌道。北海道の西
部。石狩灣岸にあり。省線函館本線余市
驛より西北方の濱余市驛に至る。全長一
七粁。省線と連帶運輸し、動力は電氣・
蒸氣・瓦斯倫。軌間は一・〇六七米。

【余市岳】 小樽市の南方約一七粁、北海
道後志支廳赤井川村と石狩支廳愛平町と
の境上に聳つ山。標高一四八八米、この
附近に於ける最高峯たり。北麓に朝里岳
續き、北東方に白井岳(一三〇二米)屹立
す。山麓は落葉松・白樺の疎林にして、
中腹以上は岳樺・蝦松・蝦夷松の原生林
たり。山頂部は無樹帶にしてスキーに好
適のスロープ多し。山頂よりは朝里・白
井の山々を脚下に見下し、白井岳の彼方
には手稲山を望見し、また南西間近には
秀麗蝦夷富士を仰望し、展望壮大なり。
大正九年六月初登高に、同十年二月スキー
登山に成功せり。夏季には東方白井川
(豐平川の上支)を北西方に遡りて南斜面
に取付き、又は西方余市川を東方に遡り
て西斜面に取付く。冬季には小樽方面よ
り小樽中學校を經て朝里岳に至り、それ
より縱走して登頂し、朝里岳より一二粁
五時間行程、滑降は二時間にて足り、又
札幌方面よりは手稲山を經、白井岳乃至
朝里岳を越えて達頂す。

ヨウラ　四浦
【四浦村】 熊本縣肥後國球磨郡の中部。
球磨川支流の川邊川に跨り人吉町の東北
約七粁にあり。東西兩境は高峻なる山嶽
をなし西北境に仰烏帽子山(一三〇二米)
の峻岳聳ゆ。北境は東西兩境より中央へ
延びる肢脈が次第に高さを減じつゝ連り
て村境を限る。川邊川は中央を貫きて南
流す、南岸低地乏し。全村山岳地なる爲
森林雲濃鬱かにしてまた農産・畜産もあ
り。村内に二七萬餘坪の鑛區を有する三
陽鑛山あり、休山の麓なりしが昭和十年
事業を開始す、されど同年には銅精鑛僅
に七・三瓩を産出せるのみなりき。河谷
に沿ひ主要道路走りて人吉町へ通じ、自
動車の往復日に八回あり。

【四浦村】 大分縣豐後國北海部郡の東南
端。津久見町の東約五粁、南は南海部郡
に境し、北及び東は遠敵灘に臨む。南
境に高平山ありて村内微れ山地を成し、
平地殆んど見るべきものなし。故に農業
は殆んど行はれず、住民は專ら漁撈を營
む。西隣日代村にバス通じ、同村の省線
日豐本線日代驛へ連絡す。明治二十五年
四保戸村より分割して本村を置く。

ヨカイチジロマル　四日市次郎丸
廣島縣賀茂郡にありし村。明治二十三年
西條町と改稱。

ヨカタ　四方町　富山縣越中國婦負郡
の北部。富山灣に面す。東は草島村及び
神通川を隔てて上新川郡東岩瀬町にあり
富山市の北方約七粁なり。面積は一・二二
方粁に過ぎざるも、人口は八尾町に次ぐ
郡内の大邑なり。從來漁港として發達せ
し所にして漁獲物は主要なる物産なるも
工業亦盛にして、賣藥と水産加工物は本
町生産額の大部分を占む。その他農産物
あり。富山市・新湊間の社線越中鐵道通
過し四方驛(大正十三年設置)を置く。縣
道また四方より來り、交通至便なり。此
地は和名抄、婦負郡岡本郷の内か。中世
は胸見郷と稱し、濱街道の要衝たり。附
近に四鶴の湯ありしにより四湯と稱し、
のち四方と改め、更に四方町を形成する
に至る。往時富山藩唯一の港にして魚鹽
及び米穀はここより移入せられしが廢落
詳縣後は舊時の如くならず。出稼者多く
窮退の傾ありしも近年漁業・賣藥盛となり
り、また發展の途上にあり。夏季は海水

浴場に適し、浴客多し。文化年間の義民梅野喜八の祠あり。

ヨカワ　吉川　播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に美囊郡吉川郷あり、與加波と訓す。今の美囊郡細川村・中吉川村・奥吉川村・口吉川村の邊に當る。

ヨカワ　余川　【余川】新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年六日町外八箇村と合し、新に六日町を置く。

【余川村】宮山縣越中國氷見郡の中部。氷見町の西北方、加納村を隔てゝ約四粁。村内綾れ丘陵にして北より中央へ二〇〇米餘の丘陵傾斜し、南境をまた低き山脉東西に連亙し、菲石村より來る一小流、村を貫きて東へ流る。流域に僅の耕地あり。米を主産し、製炭・養蠶等の副業僅に行はる。省線氷見線氷見驛へ約四粁、縣道にバスを通ずるも冬季降雪期間は休止さる。和名抄、射水郡阿努郷の内。

ヨカワ　横川　【横川】近江國（滋賀縣）の古地名。書紀天武紀に村國男依近江軍を息長横河に戰つてこれを破る記事あり、また續紀、聖武天皇の天平十二年十二月に坂田郡横川頓宿に至り給ふと見ゆ。延喜兵部省式に近江國横川驛々馬十五疋とあり、東國に到る街道の要驛なり。その地は、息長川（一に横河）の畔にして、今、坂田郡醒井村に當る。

【横川】比叡山四谷の一。横川谷の奥、中堂の北方約四粁。滋賀縣滋賀郡坂本村に屬す。天台座主慈覺・慈恵兩大師の居りし所。廬屋道滿大内證・一「折からどつと一類、土砂ぐるめ吹く風に、保名の文も卷きこんで、空に飄ひら〳〵〳〵比良や横川の方より吹く、天狗風とは知られたり」

ヨカワ　横河　出羽國の古驛名。續紀、淳仁天皇の天平寶字三年九月、始めて出羽國に横河ほか五驛を置く記事あり。その址未だ詳かならざるも、秋田縣羽後國雄勝郡横堀町の邊に當るか。

ヨカン　餘閑面　朝鮮平安北道鐵山郡の中部北偏。東北は沽面、東南は鐵山面に接し、西端に於て海に瀕す。東西約一〇粁、南北六—七粁。東南境に雲暗山（三六六粁）聳え、餘脉西北に延びて丘陵を起伏せしむるも、西部・北部には廣き平地ひらく。米・大小豆・棉花等を産す。鐵山邑より出づる道路、一は東北走して事業館へ、一は西北走して南市に至り、何れもバスを通じ、以て京義本線に連絡す。雲暗山には山城址あり、その麓に藥水湧出す。

ヨキ　與來　↓餘喜村（石川縣）

ヨキ　餘喜村　石川縣能登國鹿島郡の西南隅。邑知潟地溝帶の一部を占め邑知潟東岸に沿ふ。南より西及び西北へかけては羽咋郡に接し東北は能登郡町に東南は御祖村に界す。西北に眉丈山逆亙し、東南部は寶達山脉の山裾にして、何れも斷層崖を以て中央を西南—東北の方向に伸びる地溝帶を界す。聚落は概ね兩斷層崖下を走る二縣道に沿ふ街村形式を取り低地には水田開け米を主産す。その他養蠶・漁業等を副業とす。省線七尾線は邑知潟の北岸、即ち北部山麓を東北に走り金丸驛に近し。縣道により七尾町・志雄村へはバスの便もあり。南北兩縣道を結び地溝帶を横斷する縣道もあり交通便なり。本村は鹿島路村・金丸村・能登郡町・御祖村と共に和名抄、能登郡與來郷（與岐と訓す）の地にして中世は與來院とも稱す。大字酒井は曹洞宗の瓦刹永光寺あり田數目錄に「鹿島郡酒井保壹町五平」とある地。大字大町は中世大町保と呼ばれし處。田數目錄に「大町保、壹町七段七（本は二町七段四）永久元年檢注定」とあるは即ち之なり。「酒井ノ馬場椎」指定天然記念物「椎の代表的巨樹として有數なるもの。（永光寺）」曹洞宗　正和元年僧紹瑾の創建。後村上・後花御門・後光明の各朝御崇信殊に厚く、勅願所の綸旨を賜ふ。諸堂宇具備し北陸有數の瓦刹たりしも、天正年間一山焚亡し、のち漸次復興さる。

ヨギタ　與北村　香川縣讃岐國仲多度郡の中央部。西は善通寺町に、東は垂水村に界し、丸亀市の南約一〇粁にあり。南部に如意山の小丘起伏して中央部にその山脚を伸すも、北は丸亀平野の中央を占め、平坦にして肥沃なれば、農業盛なり。西境に金倉川流れ山麓には用水池ある為灌漑の便よし。米・麥・繭を産し、叺を製造す。中央平野を東西に縣道通り善通寺までバスを通ず。和名抄、那珂郡垂水郷の内にして、嘉元御領目錄に「垂水郷如來善院料」とある地とす。

ヨクコー　沃溝　【沃溝郡】朝鮮全羅北道二府十四郡の一。道の西北隅に位し、東は益山郡に接し、南は萬頃江を距てて金堤郡と、北は錦江を距てて忠清南道舒川郡と相對し、西方は黄海に面す。西方海上の内草島・葉蓋島・飛鷹島・開也島・蝟島・於青島並に古群山群島等を含み、面積三八一方粁あり。東北部に百米臺の丘陵群あり、東北境に於て最高一八〇米を測り、北西部錦江々岸に抱擁さるる群山府の南方と東南方にも百米程度の丘陵繞まるも、中部及び東南一帶は謂ゆる全北平野にして、沃野遠くひらけ、本道の重要農業地帶を示す。西部海岸の米面・沃溝面と萬頃江河口に臨む大野面・澄縣面等に亙る地域は一大干出地を成すも、近時大規模なる干拓事業行はれ、その主要なる干拓地のみにても四箇所、その面積二八〇〇ヘクタールに及び、之等は今や美田と化せり。前記平野と之等の新田とは概ね臨益・益浜・沃溝西部の三水利組合の灌漑地なるを以て氣候の適度なると相俟ち、農事經營盛に行はれ、組織的農法を採用せる内地人經營の農場尠からず。産物は米を第一とし

麥・大豆・棉花・繭等の農産あり。沿海は石首魚・太刀魚・鰯・鰹・鯉・鰒等の漁獲多く、古群山群島方面には海苔養殖行はれ錦江下流には白魚の産多し。また西方海上の於青島は本道に於ける漁業の一大中心地をなす。鐵道湖南本線東境に近く走り、その裡里驛より群山線岐れて郡内に入り臨陂・地境を經て群山港に達す。また全州・群山間二等道路ほぼ之に沿ひて通じ、地境・臨陂等を中心に道路網發達し、交通至便なり。行政上、十餘面に分ち、郡廳は群山府に置く。本郡の東部はもと臨陂郡の地、また西部はもと沃溝府（永で群山府と改む）の地にて、群山府が明治四十三年府制を施行して略々現在の境域に獨立分離するや、もと群山府・臨陂郡の管轄なりし二十一箇面と、もと全羅南道智島郡に屬せし古群山群島、並にもと忠清南道鮫川郡に屬せし岡也島・竹島・椅島・於青島等を併せて沃溝郡を新設す。のち面の廢合を行ひ、更に昭和七年十月米面・開井面の各一部を群山府に讓り、現在に至る。

【沃溝面】朝鮮全羅北道沃溝郡の陸地部西南に位す。群山府の南約五粁、北は米面、東は玉山面・澄縣面に接し、西は黄海に南は萬頃江河口に臨む。中部に五〇米前後の丘陵起伏し、東北部に二〇—三〇米の低丘あり、西南端海岸に標高五一米の低丘ありて單調を破る外は極めて低平なり。西岸と南岸は干潮時に泥濘甚く達るも、近時、不二興業會社によりて干拓事業行はれ、美田を著しく增加せり。農業盛に行はれ、不二農場等の大農場ありて合理的農耕營まる。米を主産物とし、また魚介・食鹽を出す。群山府に近きを以て交通便なり。

ヨクセン　沃川　【沃川郡】朝鮮忠清北道十郡の一。道の南部に位し、北は報恩郡、南は永同郡、東は慶尚北道尚州郡、西は忠清南道大德郡、西南は全羅北道錦山郡に接す。東西に稍々長く、面積五四一方粁餘あり。小白山脉の支脈がほゞ東北—西南の方向に走りて成す山地にて、山脉は老年期に屬し削剝大いに進めり爲め高峻なるもの少しと雖も、處々岩骨露出し、加ふるに支脈縱横に走り、地勢複雜を極む。東部の八音山（七七二米）・道德峰（五四四米）・三丹山・金精山（六五二米）、南部の摩尼山（六四〇米）・大聖山、西部の環山（五八一米）・瑪城山・食藏山等は著しき山峰にて、なほ西部山地は鷹嶺山脉の東北緣を成す。而して錦江は中部を極めて特色ある嵌入蛇曲をなし、報青川その他、東西兩山地に發する支谷を容れつつ北流し、この流域に屬する沃川・伊院・青山等を中心として平地ひらく。産物は米・麥・大豆・棉花・麻等を主とし養蠶・敢耆行はれ、鑛産に黒鉛・金銀等あり。西部に鐵道京釜本線と京城・釜山間一等道路並走し、前者に沃川・伊院等の驛あり。兩驛及び東部の青山邑を中心として道路網やや發達するも、西部を除き交通なほ不便なる憾みあり。行政上、九箇面に分たれ、郡廳を沃川面に置く。本郡は古く管城郡又は沃州と稱し、李朝太宗の時沃川郡と改む。光武十年陽山面を永同郡に分割し大正三年府郡廢合に際し、青山郡を併合して現在に至る。

【沃川面】朝鮮忠清北道沃川郡の西部。北は郡北面、東は東二面、西は郡西面、南は伊院面に接す。南北に長く約一〇粁にて、東西は最大約六粁あり。西境に鷹峰（四三七米）・瑪城山（五二三米）等南北に連り、南境には京に道岱峰（四〇七米）西に菲龍山（約六〇〇米）相對峙し、また東北境には瑪城山（四一〇米）あるも、城内の大部は一〇〇—二〇〇米の丘陵地にして、南境に近く發源し中部を北流する錦江支流の沿岸を中心として稍々廣き平地ひらく。耕地は前記丘陵の斜面に至るまでよく發達し、農業盛なり。米・麥・豆類・棉花・繭等を産す。中部の川沿ひに鐵道京釜本線と京城・釜山間一等道路並行して通じ、北側に沃川驛（明治三十八年設置）を置く、同驛に於て京釜街道と交叉する道路あり東北方報恩、西南方錦山に至り、報恩・青山・錦山行のバス發する を以て、交通便なり。沃川邑は驛の東北二粁半に位し、附近沃野に産する穀類の集散地とす。郡廳・公州地方法院出張所・金融組合等あり。近年郡廳其他の主なる機關は驛附近に移され、爲めに舊邑は稍々繁華を衰ほるるに至れり。

ヨクチ　欲知島　朝鮮慶尚南道南部海上の島。巨濟島の西南約三〇粁に位す。行政上統營郡遠梁面に屬し、その主島たり。東西約六粁、南北三—四粁。島頂は西部に偏し標高約三〇〇米あり。島周やや屈曲に富み、特に東北の一灣は良港地をなし、また漁業の中心地たり。島民は甘藷栽培等の外は、概ね漁業に從事し、また内地人多く居住して進歩的漁法を營む。近海は鯛・鱚・鯛・鯖・鰹等の漁獲多く、欲知漁業組合の昭和十一年漁獲高四七萬圓に上る。

ヨクリ　横栗　上總國（千葉縣）の古地名。和名抄に埴生郡横栗郷見ゆ。その地いま詳かならざるも、長生郡西村の邊に當るか。

ヨコ

【横川】東京市本所・深川二區の中央を略々南北に貫通する川。源森堀の末にして長さ約四粁。竪川・小名木川・十間川と交叉して二十間川に至る。萬治年間の開鑿といふ。また大横川ともいふ。

【横岳】飛騨山脉北ノ俣岳より西方に派出する一支脈に屬する山。槍ケ岳の西北約二八粁に當り、岐阜縣吉城郡船津町と宮山縣上新川郡福澤村との境上に峙つ。北内麓に東棒鐵山あり。

【横川】伊賀國（三重縣）の古川名。書紀天武紀に名墨横川と見ゆ。いま名賀郡を

流る。長田川を合せしのち小さい。

ミコ　今宮　【今宮村】　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。西南の一部は箕面川に面し今宮川との間に幾多の山(四三三米)を控え、山麓に山田・五月田・今宮・今宮川に沿ふ。今宮川は箕面川に合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

【今宮村】　信濃国の北、豊科の東、右手に位し面積一・八平方粁。西南は箕面山(四三三米)を控え、今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

【今宮村】　信濃国の北、豊科の東、右手に位し面積一・八平方粁。西南は箕面山(四三三米)を控え、今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

【今宮村】　信濃国の北、豊科の東、右手に位し面積一・八平方粁。西南は箕面山(四三三米)を控え、今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコイ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコウ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコエ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコオ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコカ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコキ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコク　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコケ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミココ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコサ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコシ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコス　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコセ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコソ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコタ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコチ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコツ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコテ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコト　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコナ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコニ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコヌ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコネ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコノ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコハ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコヒ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコフ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコヘ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコホ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコマ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコミ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコム　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコメ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコモ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコヤ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコユ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコヨ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコラ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコリ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコル　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコレ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコロ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコワ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

ミコヲ　今宮村　摂津国豊能郡の西北に接し今宮川に沿ひ、村内に今宮原を抱ぶ。今宮川は箕面川と合流する。地は山林多く、田畑は僅かに開墾せられ、戸数二百一八人。

に、南は大和村・北方村・排蛇町東迫に、西は久慈村に夫々相隣る。山地の南部は古生層の美倉山あり、本村の高度は五一六百米なり。川は本郡より流出して西南へと流れ排蛇川に合流す。村内には平地少く、従つて耕地少し。桑園も行はるれど、主生産は林業にして、林産物には木材・木炭があり、其他雑穀・自給米（山芋）の産あり。交通は山地間道の等しく便なら ず、谷沿方面へは岩坂より、南排蛇方面へは仁尾及び鳥渡川の谷を利用するも、排蛇又は谷沿に出づるを便とす。道路も排蛇又は仁尾に通ずるも、口碑に依れば村名は此地の名和明神山麓薬師寺より来しものと云はれ、薬師とは薬師如来の略称にして、薬師寺開基推古天皇の時、聖徳太子の命により、高麗僧慧灌の開創せしと伝へられたる寺が現に明治初年迄存在せしが、廃寺となり、其後再興せられたるも、明治初年廃寺となり、其後再興せられたるも、明治初年廃寺となり、其後再興せられたるも、明治初年

有良氏十七の子の一人倉橋定内、ニに成り、事柴橋に養定せり。「倉橋の給」相定り、日清戦争に際し、「倉橋の給」相手命令に応じ、一隊、日清命令同盟の義兵を、古来まで有名の名高く、武器の瓦斯及び弓矢として有名の名高く、武器の瓦斯及び弓矢として有名の名高く、武器の瓦斯及び弓矢として

治井に喜多の給水業あり。特産多し。本・蓆・本炭・清酒・生糸等を産す。村内に鎌倉時代の横田氏居住したる有所本村の人。「横手城」大字中村に在り。古城址なり。「伊賀名高雑記」大字中横田に横産。鉱泉。祭神、天王社。祭礼、七月十日。「岩手県寺の銀杏の切図」相応寺（後頁に作）。

【横手】 横本郡横手市に隣接する一直線に走りて、西北より東南に向ひて一直線に走りて、小城谷を起点とし、横手の馬宿は横手花園駅より成り、長さ七〇〇米、左右の宿屋は全部瓦葺にして、西北より東南に向ひて一直線に走りて

り貫田川の現の間流れを北に廻り鶴鳥・三島和・五田の三村を北に流し、北部村人家西原に至りて原番川に於て合流す。村内は教

三億圓に達せしものと期待さる。本市が生絲の町と云はるるも決して故なしとせず。かくて市内には國立の生絲檢査所・組織試驗所の設けられたるほか市立の試驗場も作られ、本港は完全なる港となるに至れり。米に回三十二年より第一回米穀工事に着手し回三十八年完成の第一回に引續き第二回米の繁殖井堰、一二三二町歩の開墾事業及び鹽田の改良、物産陳列場・上屋・倉庫・荷揚機等の施設を行ひ、その内に約六六一米の防波堤を築造され、その内に約四九五米の繫船ドックの設備を設け、七三三米の繫船ドックの土地を埋立て、別に造船所・修理工場・上屋・倉庫・荷揚機等の施設を行ひ、港勢の發展に資せり。

〔貿易〕 本港の貿易は年々增加の傾向を示す。

年	輸入	輸出	總額
大正十年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
大正十一年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
大正十二年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
大正十三年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
大正十四年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
大正十五年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和元年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和二年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和三年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和四年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和五年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和六年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和七年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和八年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和九年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和十年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和十一年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓
昭和十二年	一億二千五百萬圓	一億二千五百萬圓	二億五千萬圓

本港貿易の發達に本市貿易の發達を示す

米穀等の米穀が作られしものなり。

〔貿易〕 本市の貿易は概して良好なる港港性貿易と云ふことを物べし。一箇年の輸入額は一四・四億圓にて東京より稍多し。殊に月に八月にて、その上旬には三四度前後に昇る。また京城月は一月にて、その中旬には零下五度前後に降るを常道とす。從來の京城は零下八・二度なり。六・三度、京城氣温は零下八・二度なり。氣温の二五度以上に昇るは五月より十月迄までの間にして一年に平均八十九日、十二月より三月迄までの冬期間下に降るは一年に四十日位なりとす。本市の年間雨量は、一、七三三粍にして東京市のそれより稍多し。四季別の雨量は春一四二粍、夏一九〇粍、秋一九〇粍、冬七〇粍。明治十四年の統計によれば冬は春・夏に最も多く、秋・冬には冬・春・夏に最も少し。一年の雨量は北緯が最も多く北北西風・北東風・南西風の順序にて之に次ぐ。

〔產業〕 本市の產業の合位に位するは工業なり。水陸交通の至便なる市は早くより工業都市として發達し、現今は東京・川崎市と共に本邦四大工業地帶の一なる大都市の一となりしは、この工業の盛大なるに負ふ所多大なり。工場は水陸運輸の便と工場用水との關係より、有機體・木材・川町・鶴見・川崎・生麥・鶴見の地帶に多く、また本牧より横浜・鶴見の地帶に多く、また本牧より横浜・生麥・鶴見の地帶に多く、また本牧より横浜・生麥・鶴見の地帶に多く、また本牧より横浜・生麥

三度の輸船を回船に輸送する。こゝを得。港内輸船停泊は二十五箇にして二萬噸餘、一萬噸餘六箇、六千噸餘六箇より成る。他に港内碇泊は五千噸・三千噸餘の船十六隻を收容する。こゝを得。また三菱新工業・淺野造船所・三井物産・高砂内に設けられる。以上を合計して、船舶二千三百九十隻、三萬噸餘に達する。内訳は汽船二百六十隻、外國船二百三十隻、合計五千三十隻、ほかに帆船三百六十隻、合計二千六百三十隻、そのうち汽船は二萬餘噸、外國船二千六百七

して悪業し、島崎を言詞する者の三名合名に及べり。故りて横濱村意見に立戻さを命ず。二月、石川・中村・川尻より寄書を命ず。石川・中村・横濱村の中央部設語港学まで輪合問、長崎五百人合問を問和に問答し、而場に更なる人しん、これに三橋を来く。谷戸橋・面田橋これなり。而して石川・中村巻に国門及び番所所を設け番兵を置き、酒役の外印鑑に手帯刀人の出入を禁じたり（この頃朝は三家筆頭の家臣にて建言せるものにして、答吟、横濱村三方は港まだ出来ざるに拘へて国長崎出島の如く造したらば、真橋もつくくなら人との意見なり。而も横濱は永禁に盛大に赴きて外国人の居留地を造る者多し。此の出島以外まで以及ぶことなしとの考へなりしも、之より十年を出でずして外国人の居留地実現し、国外山手に達るまでとなれり。答吟、答氏を国外に移せしことこれ、居留地の中心の如くなり、大いに其の繁栄の基となり、大いに其の繁栄の見地の小なりしを嘆ずるを云ふ（横濱市史）。同月、横浜の実山下（意深元十郎新吉）。同月、横浜の実山下（意深元十郎新吉）を横浜町と称し、名を横浜町と称し、名主、組頭、百姓代を定む。五月、勘年寄名を移譲せしめ、名を横浜町と称し、名主を上して、移住商業者の重なるもの百名を命ぜしも、それにはれば、横浜町（本町）一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）五十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）六十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）七十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）八十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）九十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百二十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百三十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百四十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百五十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百六十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百七十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百八十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）百九十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百二十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百三十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百四十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百五十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百六十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百七十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百八十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）二百九十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百二十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百三十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百四十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百五十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百六十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百七十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百八十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）三百九十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百十九丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十一丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十二丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十三丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十四丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十五丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十六丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十七丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横浜町（本町）四百二十八丁目に谷七軒（内九軒が生糸貿易商）、横

日活館〔東京市麻布区霞町〕、日活館〔東京市麻布区霞町〕、日活館〔東京市麻布区霞町〕、

神、牛頭明王社、鎌倉山の内より移したる東慶寺の本堂、聖武天皇の勅願により建立せる三重の塔（山城の國燈明寺より移したるもの）及び千利休の意匠に成る一閑亭等あり。臨春閣（傳聚樂第遺構、桃山時代）・月華殿（傳伏見城遺構、桃山時代）・春草廬（傳伏見城遺構、江戸時代）・天瑞院壽塔（桃山時代、等は前記の舊東慶寺佛殿、室町時代）・三重塔（室町時代）と共に何れも國寶建造物たり。〔圓海山〕礒子區峯町にあり。市内第一の高地に最も眺望に富む、山腹に圓海山清淨院護念寺あり。名炙を點ず。世俗、峯の灸點と呼び、その名遠近に聞ゆ。〔釜墳山〕保土ケ谷區上星川町にあり。高さ約四十米の山上に窯あり。石を重ね上の石に丸き穴を穿つ。後鳥羽天皇建久四年、源頼朝が富士裾野に狩靈せし途上點茶せし釜墳の石なりとの說あり。〔帷子の里〕保土ケ谷天王町にあり。太田道灌の平安紀行「日盛はかたはだぬぎて旅人の汗水にたる帷子の里」と詠ぜし所。蓋し帷子の地名は後花園天皇御代良前に既に知られたるものなるべく、いま天王町・宮田町・峯岡町一圓の處なるべし。今の人家稠密せり。〔花月園〕鶴見區鶴見町にあり、大正三年五月開園。敷地面積一〇ヘクタール、交通の便よし。園内廣く、加ふるに天然の起伏高低に富み、且つ緑蔭深き園内には運動・演藝・娯樂場等完備せるを以て老幼の清遊、團體の催樂に適す。〔杉田梅林〕礒子區杉田町にあり。古來、梅の名所として有名なり。明治十七年に英照皇太后宮、同十九年に昭憲皇太后宮の行啓の榮を給ふ。毎年、花の候に杖を曳く者群をなす。園に接する古刹東漸寺は臨濟關東十刹の一にて鎌倉時代の古鐘を存す。また境内に老杉あり、旗立杉と稱し共に名高し。附近の妙法寺も日蓮宗の古刹にして境内に窺海の勅請と傳ふる牛頭天王御座す。この附近は往昔、日本武尊御東征の砌り御上陸あらせられたる地と傳ふるも、確證なし。〔浦島寺舊址〕神奈川區浦島丘にあり。觀福壽寺は俗に浦島寺と稱し、浦島子の故事を傳へ、龜化大龍女および龍宮の出現の聖觀音を安置し、龍燈の松浦島鐘堂を存し、世に名高かりしが、惜むべし明治維新の役に廢寺となれり。然れども廢址いま尙存し、松籟濤聲と和し、人をして轉た懷古の情に堪へざらしむ。之が遺寶と稱せらるゝは同所慶福寺にありと傳ふ。〔綱島桃園及び鐵泉〕神奈川區綱島町にあり。綱島の邊、桃園多く紅烟一抹の美と共に果實の產額また亘多にて俗に地方の特產と稱せらる。而して此地の「ラジウム」鐵泉もまたその名酒く遠近に傳り、加ふるに東京横濱間の電氣鐵道も通ずるを以て來遊するもの頗る多し。〔御殿跡及び御殿石〕神奈川區御殿町にあり。往時、神奈川は震ケ浦、又は袖ケ浦と呼ばれたる海濱に沿へる砂地にて、神奈川の三軒家・七軒家等の名傳はるが如く、人煙稀なる荒廢の地にして將軍一行は宿泊に便なら寸、之が爲に此地に御殿・御守御殿・休息所・御臺所と稱する諸建物を設けたるものなり。其後、人口漸く稠密となり、將軍家綱の頃には之が必要も無くなりしかば廢毀せり。御殿石（御膳水）神奈川區齊藤分町にあり。明治の初年、明治大帝御東行の砌り、神奈川石井本陣へ御行在の時に御飲料水を奉りしなり。慶應の末、神奈川宿の名主、石井源左衛門が西の町本陣まで約一粁の鐵管を敷設し之を飲用に供したり。蓋し我國水道最初のものにして、其後、横濱水道の完成により廢止となれり。〔神奈川行在所の舊跡〕神奈川區神奈川通にあり。神奈川町舊石井本陣は明治元年十月十一日、長くも明治天皇東京へ御遷都の砌り、並に其後二回行在所に充てさせられし由緒深き處なれば、近年神奈川・青木兩町青年團相謀り其の聖蹟に記念碑を建設せり。〔生麥の碑〕鶴見區生麥町にあり。文久二年八月二十一日島津久光西下の際に、偶々英人四名騎馬にて行違ひ其の行列を横斷せんとす。先驅の士、其の無禮を怒りて、其の一人リチャードソンを斬り、他の三名は危く其場を遁れ去りしが、當時の目擊者、鶴見の人なる黑川莊三氏はリチャードソン落命の場所をトして、明治十六年六坪の土地を購ひ建碑し、其の事蹟を今に傳へて一劃を存す。附近一帶は老松と共に當時の面影を語るものの如し。〔山崎後閑寶寺跡〕保土ケ谷區星川町にあり。正親町天皇永祿四年、上杉輝虎兵を率ゐて小田原の北條氏康を攻め、歸途この寺に落人を匿ひたるを以て破毀したりと云ふ。いま僅かに跡を止むるのみ。〔六郷加賀守屋敷跡〕保土ケ谷區星川町にあり。正親町天皇元龜年間に、字芝ケ谷臺に六郷加賀守の居住せし所なりと云ふ。里人は加賀屋敷と呼ぶ。いまは何等その跡を認めず。近世まで遺したる井戸あり、石を投ずるとき「カンカン」と音響す、人々呼びて「カンカン」井戸と云ふ。〔權太坂〕保土ケ谷區保土ケ谷にあり。舊東海道の往還中、屈曲せる急坂にして難所なり。古來、權太坂と呼ぶ。この坂の上方敎町を距る武藏相模の國境を境木と稱す。武相の境なるが故に此の名あり。往昔、旅人の往來著しかりし處。〔御臺所の水〕保土ケ谷區岩間上町の、舊金澤往還に沿へる所にあり。往昔、源頼朝の室政子の方、此地を過ぐるに當り、此の水を以て化粧に用ひたりと傳ふ。今に至るも清水滾々として湧出す。〔根岸鼎馬場〕中區鼎澤。馬場は臺地にあり、周圍一・八粁餘、地積三三ヘクタールあり。慶應二年の間設に係り規模宏大にして諸般の設備東洋一の稱あり。往時、明治天皇行幸あらせられ給ひ、爾來、毎年春秋二回開催の際は必ず皇族の宮の御成を辱うし、また遠近よりの觀衆群をなして横濱名物の一をなせり。〔神奈川臺〕神奈川區高島臺にあり。江戸名所圖繪・平安紀行等に本所より袖ケ浦青木町（宇鶴屋町・南北幸町・岡野町・平沼・高島町一圓）の脚下に迫りたる絶景を說けるは多く人の知る所にして、往年、海道を通行せる文人墨伯の賞讃して止まざりし處なり。〔保土ケ谷ゴルフ競技場〕保土ケ谷區峯岡町にあり。岡野公園に隣接し、面積約五二・九ヘクタールあり、其の規模廣大にして一八ホールのコースあり、起伏高低、變化に富み、名士の來遊頗る多し。〔ベルリ上陸地〕中區山下町にあり。英國領事館構内に存する「玉楠」は、米國使節ペルリ提督と幕府の委員とが開港談判を開きたる遺蹟と傳へらる。大正十二年の大震火災の際に類焼せしも、根幹より餘蘖發生し益々繁茂せり。〔八聖殿〕中區本牧大里町にあり。安達證藏氏の建立にして、古杉老松の梁棟に圍まれたる高臺にありて白壁の殿堂紺碧の海に映じ、一卷の繪卷物なり。堂内には聖德太子・釋迦・キリスト・孔子・ソクラテス・弘法・日蓮・親鸞の八聖像を安置さる。〔皇太神宮〕中區宮崎町に鎭座。縣社。祭神、天照大神。舊戸部村の海岸伊勢の森に鎭座せしを、明治三年に横濱の鎭護として市の中央臺、現在の伊勢山に奉齋す。同四年九月、伊勢兩宮勸請の故を以て等外別格たりしが、後ち八年縣社に列せられ横濱の總鎭守たり。麓下に横濱港ありて、眺望絶佳なり。招魂碑二基あり。例祭、五月十五日。〔洲崎神社〕神奈川區宮前町にあり。郷社。建久二年六月、源頼朝が官幣大社安房神社の分靈を奉祭せるものにして、青木町一帶を氏子とし、その崇敬後からず。〔篤野神社〕神奈川區師岡町に鎭座。郷社。仁和元年に光孝天皇の勅願により再興ありしと傳ふ。古來、圓東隨一の靈驗所と稱せらる。境内は樹木鬱蒼、社殿神寂たり。毎年一月十四日箭粥の神事を行ひ參詣者頗る多し。〔本牧神社〕中區本牧十二天に鎭座。もと十二天と稱せしが明治維新後、現社號に改稱す。境内は海に臨み岩石を負ひ、清風濤聲と谷べ風光絶佳なり。毎年八月、御馬淩しと唱ふる古式の神事を行ふ。而してこの附近、春は汐干狩、夏は海水浴に適し、市中の遊覽地として知らる。〔日枝神社〕中區山王町に鎭座。二百數十年前、渤々たる入江なりしを萬治二年に吉田勘兵衛埋立かなし、其の一帶の基礎を造り、之を建立したる神社にして圓外三十六ケ町を氏子とす。その社殿は大震災の際に猛火より免れたり。俗に御三ノ宮と稱し、隣接せる村社稻荷神社と共に崇敬するもの頗る多し。〔厳島神社〕中區羽衣町に鎭座。治承年中に源頼朝の勸請せしところと傳ふ。往時は洲干辨天、又は清水辨天と稱して洲乾島に鎭座し、その境内一萬餘坪は青松海波に映じ風光明媚の勝地たりき。明治維新の後に今の境内に遷座し、社號も亦改稱せられしが、往年、横濱村の總鎭守たる由緒を有し、加ふるに市内繁華の中心に鎭座するを以て參詣者殊に多し。〔岡村天滿宮〕礒子區岡村町に鎭座す。建久の昔、鎌倉幕府の臣葉の祀れるを、明治四十三年に鎭守杉山神社と合祀し、いま杉山天滿宮と稱す。毎月二十五日の緣日には未明より深更まで參詣者絶ゆることなし。〔弘明寺〕中區弘明寺町にあり。古義眞言宗。瑞應山と號す。本尊は行基菩薩の作十一面觀音にして國寶に指定せらる。奠老五年に印度の善無畏三藏來朝し、此地を靈場とし當山を草創す。天平九年、行基菩薩勅を奉じ、關東に巡錫せる際に伽藍を作り、大同四年、弘法大師また當山に宿錫一千座の大護摩供奬を修す。これ當山勃興の由緒なるが、爾來、國守・武將の歸依厚く、堂宇興隆、寺内老樹多く、離俗の靈場なるを以て、參詣するもの頗る多し。〔三會寺〕神奈川區鳥山町にあり。源頼朝の建立にて古義眞言中本寺、末寺三十二ケ寺あり。印藏師は同寺中興の名僧にして、その學風今なほ宗門に尊重せらる。〔東漸寺〕礒子區杉田町にあり。臨濟宗建長寺派。靈樹山と號し、關東十刹の一。正安三年、北條宗長、宏覺禪師を請じて開創し、且つ寺田を獻じてその香華所とす。北條氏の滅亡後に寺運傾きしも、小田原の北條氏これを再興し、寺領を寄す。天正年中、兵火に罹り、幾許もなくして再建す。寶永年中、間宮敎信なるもの種々奔走し再興す。より中興開基となす。〔東福寺〕鶴見區鶴見町にあり。新義眞言宗智山派。子生山福本院と號す。市内金藏院の末寺なり。寛治元年、當地の豪族稻毛三郎重成、勝覺上人を請じて開創す。本尊如意輪觀世音は俗に子育觀音と云ひ、重成夫妻、この像に祈願し一子を得たりと稱せらる。また堀河天皇、康和二年に勅使藤原道房をして本寺に祈願せしめ給ひしに、皇子（鳥羽天皇）御誕生ありければ、長治元年に子生山東福寺の扁額を賜はると傳ふ。爾來子女の誕生を所るもの多し。〔總持寺〕鶴見區にあり。曹洞宗の大本山。諸嶽山と號す。本宗末寺一萬二千有餘ケ寺を統ぶ。もと石川縣能登國鳳至郡櫛比村（今の門前町）にありしが、明治三十一年火災に遭ひ、その後、現地に移りて舊地なる寺を別院となす。行基の草創と傳へられ、もと諸末院と號して眞言宗に屬せしが、元亨元年、寺僧定賢が瑩山紹瑾に歸依して之を讓與す。これより曹洞宗となり、寺名のみを總持寺と改め、舊寺名を山號となす。その聖二年、後醍醐天皇は「日域無雙之靈苑、曹洞出世之道場」の綸旨を下し、また藤原行房をして扁額を書かしめて之を賜ふ。瑩山在住四年にして弟子峩山紹碩に讓る。峩山は高德にして三轡および元に入り、高德の譽高く、寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内各方ともの、中部を東西に面するものあり。南部の大谷館の便あり。東方谷館羽越本線沿線に「村内館に」と呼ぶ。天王に武藤氏の支流の別居せし館に住居し、天正年中まで天王城主なりしが、後裔の年代詳なら ず。大字動川には動川館址あり、風土略記に指置きし地なりと。明治十四年、明治天皇行幸の際御小休所となりたり。

【横山村】東安村武藤氏の一族。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。人王手諸・飛川諸に近し。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】東安村武藤氏の一支流。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】大谷館駅南四谷住館の西北部。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】東安村武藤氏の一支流。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】東安村武藤氏の一支流。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】大谷館駅南四谷住館の西北部。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】東安村武藤氏の一支流。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】東安村武藤氏の一支流。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】大谷館駅南四谷住館の西北部。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】東安村武藤氏の一支流。人王手市の西南隅にて、西は飛川町に隣る。多摩丘陵の西北の一部を占め起伏多く、桑園多く、蚕業・薪炭・畜産を主とす。丘陵間に桑園地・田地あり。農業は粗放にして、麦・米・蕎麦を産す。南北に人王手市に通じ、有線電話・自動車線路に北部を西南に走る。村内に諸なく、八本線北部を西南に走る。武蔵横山・多摩御陵南の二諸を置く。武蔵横山の地、多摩御陵の所在地として知らる。横山氏の始祖は武蔵守護代として、その子孫守護を妨げて武蔵に住し、子孫横山氏を称し、横山城の始祖となれり。戎家城に「赤飯を炊かず」の伝説あり。横山野に放し捕り不時で多摩の横山少ゆかず。

【横山村】大谷館駅南四谷住館の西北部

に至る。二流の山地。東は[illegible]・[illegible]・[illegible]・

る碑石に北の字の下に子、卽ち鼠の像を描きたるものなどありて羊は未の借字と考ふべきのみならず、また地理的にも上野の國府の位置より正しく未、卽ち南南東に當る。碑の全文の讀方は純粹の漢文體にてはなく、當時行はれし國文體のものにて黒板博士に從へば次の如く讀み下すべきなり。「弁官上野國に符し片岡郡・緑野郡・甘良郡并に三郡の内三百戸を郡と成し給ひ、羊の方多胡郡となす。和銅四年三月九日甲寅宣る。左中弁正五位下多治比眞人　太政官二品穂積親王　左大臣正二位石上尊　右大臣正二位藤原尊」文中の穂積親王は天武天皇の第五皇子にて當時知太政官事、石上尊は石上麻呂、藤原尊は藤原不比等なり。而して多胡郡の建置に關しては續日本紀和銅四年三月辛亥の條に、上野國甘良郡の四郷、緑野郡の一郷、片岡郡の一郷等六郷を別ちて多胡郡を置きし記事見え、且つこの碑によりて六郷の戸數が三百戸なることを明記せることは、大寶令の制に五十三戸を以て一郷となすとあるに一致し、當時令制のよく實行せられたることを知る好資料なり。なほ碑文中の九日甲寅と續紀の辛亥(六日)との差異につきては、黒板博士は恐らく辛亥を建郡勅許の日となし、甲寅を官符の上野國に下されし日と推定せり。

【吉井村】新潟縣佐渡國佐渡郡の中部。兩津町の西南、加茂湖の西南岸に沿ひ、金北山の東南斜面を占む。東南半は國中地峡の一部にして土地概ね平坦なり。加茂湖に臨む地帶は五〇米前後の臺地をなし湖岸は屈曲に富む。西北半は佐渡第一の高峰金北山(一一七三米)が村内へ急傾斜し、長江川を東へ源流す。主生業は農耕にして、米・麥・蔬菜等を產し、金北山麓より湖岸に及ぶ臺地は好適の牧場にして佐渡牛の放牧行はる。其他、山地には林產物、加茂湖には漁獲物あり、乳製品・木製品等の工產もあり多角的生產地帶をなす。國中平野を縱走する縣道に沿ひ、また新穗村へ横斷道路を分岐す。河原田・兩津兩町間バスの便あり、加茂湖上舟楫の便もあり。和名抄、賀茂郡佐爲郷の内なるべく、藍原氏の舊邑なり。藍原氏は本間・澁谷に並び鎌倉以來の土豪なりしが天正末に退轉す。(熱串產神社)大字長江に鎭座。縣社。阿都久志比古命を祀る。延喜式に阿都久志比古神社とある古社にて古來上下の尊信篤し。例祭、陰曆三月十三日。(住吉神社)大字吉井本郷に鎭座。郷社。祭神、住吉三神・息長帶姫命。相殿に菅原道眞・健岩龍命を祀る。寛治四年橋津の住吉より勸請するといふ。領主藍原・上杉氏崇敬す。元和六年再建さる。例祭、陰曆三月十三日。

【吉井川】岡山縣の東部を北より南に流れて瀨戸内海に注ぐ川。中國山脈の辰巳峠に發源し、羽出村布江に於て津黒山東麓より流來せる羽出川を合し、嵌入曲流をなして津山盆地に入る。この附近には階段上の山腹平坦面多く、大神宮原・恩原等はその著しきものなり。津山市の西方に於て久米川・皿川を合し、津山市の南側を東貫して、その東方にて、南流し來れる加茂川と合す。本流は再び先行性谷として比高二—三百米の中山性山地、卽ち謂ゆる中國隆起準平原地を貫流す。灘山(一一九七米)の東方より南流せる梶鉢川、白名倉山(一〇四七米)の西方より南流せる吉野川、この梶鉢川・吉野川は倉敷にて合し南流し來りて、周匝に於て吉井川と合す。これより水量を增して、嵌入蛇行をなしつつ和氣に至る。ここより構造谷としての特性を處々に取りつつ南西流して西大寺町の東側を通り、兒島灣の入口に注ぐ。土砂の運搬が特に著しく、萬富・御休・西大寺附近に著しく堆積盆地を形成し、河口に於ては兒島灣口を狹む。和氣川・西大寺川・東大川とも稱さる。全長一一七粁。西大寺町より下流は潮汐を通じ、舟筏は上流約九〇粁にまで通ず。

【吉井村】愛媛縣伊豫國周桑郡の東部。小松町の北に位し、西は周布村に、西北は多賀村に界し、他は燧灘に臨む。石槌山脈の北麓下に展開せる中山川下流の沖積平野の中央を占め、地勢平坦にて天惠的なる沃野をなすため耕地全般に發達し稻作を第一とし繭・麥の產もあり。養蚕業も盛にして鷄卵の產多し。小松町と西北方壬生川町を繫ぐ縣道は中央を斜に貫通し、また南部を東西に縣道縱貫し交通便なり。和名抄周敷郡石井郷の內。

【吉井】伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に久米郡吉井郷あり、その地今の溫泉郡北吉井村・川上村の邊に當る。

【吉井町】福岡縣筑後國浮羽郡の北部。筑紫平野の東北部を占め、田主丸町の東約四粁に位する面積一・七六方粁の小村。全村地形低平にして米・麥等を產するも市街地よく發達して商業亦盛なり。縣道は東西南北に貫通し、久留米市と大分縣日田町のほぼ中央にあり、省線も開通して市況やや活潑なり。人口密度は二七八四人を算して郡中第一位を占む。久大本線筑紫吉井驛(昭和三年設置)あり。舊郡役所の所在地。和名抄、生葉郡山家郷の內にして、東鑑に寛元二年、筑後國御家人吉井四郎長廣とあるは此地に在名を稱せしものか。土地開拓家として知られし田代彌三左衛門(贈正五位)は本町の人。(月岡古墳)日岡古墳(千歲村字若宮にあり)の西方一〇〇米、八幡神社境內社務所の後方にあり。長軸約九四米、西面せし前方後圓墳にて埴輪圓筒あり、後圓部の頂上に社殿設けられ、內部に石棺を置く。文化二年の發掘にて、石室は凡て解除され、石棺のみを墳上に遺存せるものにして、長さ三米に近く幅及び高さ一米餘。安山岩家形の組合せ式のものに屬し、突起八箇を有す。當時、棺內より玉類・刀劍・鏡鑑等を、棺外より武器類多數を出し、甲冑八領・携帶用砥石等ありしが今多く散逸して兜・鏡四面・直刀・鐵鏃・裝飾金具殘片等を神社に所藏す。兜は金銅裝鐵製にて、前庇を有する優秀なる製作物に屬す。

【吉井村】長崎縣肥前國北松浦郡の東部。佐世保軍港の北約一三粁、北松浦半島の基部、佐々川の北岸に位す。村の大部分は第三紀層より成り、北部は玄武岩の噴出地域なり。從つて丘陵性・臺地性の山地。福井川は北方子產坂を水源地として村の中央を南北に流れ後西に迂回す。村の南方は佐々川に限らる。何れも沿岸に小耕地あり、臺地はよく耕され階段狀の畑地並び農耕行はる。當村の地は肥前炭田の一部にて、村內或は隣村に跨り多くの石炭山あれど當村に關聯ある主なるもの別表の如し(產額は昭和十年の年產、重は重要鑛山、準は準重要鑛山)。また村且つ長大なる佐々川斷層線の通る所として、地形上交通上は勿論生產上注目すべき所なり。交通は佐々川沿岸に東西に走る主街道あり、また江迎方面に通ずるもの福井川に沿ふ他、便利ならず。然し近年省線松浦線の開通により佐世保方面への交通至便となる。村內に肥前吉井(昭和八年設置)・御稱觀音・祝橋(以上昭和九年設置)の三驛あり。本村は吉田村と福井村とありしが合併し各一字をとりて吉井村と命名せるもの、現在吉田・福井は共に大字として其名存す。

炭鑛名	鑛區所在地	產額	備考
江神第二大岳平田山二坑福井	吉井村・佐々村・江迎村	三八、三六六	重
	吉井村・佐々村	一一九、三三三	重
	吉井村・佐々村	三、三六八	
	吉井村・江迎村	一〇、〇一〇	準
	吉井村	二、二八六	準

ヨシイ　芳井町(よしゐ)　岡山縣備中國後月郡の中部。井原町の西北に連り、北は共和村、南は高屋町と接す。面積二五・七六平方粁。四周山地に圍繞せられ、町內丘陵起伏して疵ね山地に占められたるも、高梁川の支流小田川中央を東南流して、流域に平地を作る。耕地多く、また一般に養蚕業盛んなり。米・麥・蔬・薄荷・木炭・馬鈴・生糸・繭糸・酒類等を產す。縣道河に沿うて貫通し、社線井笠鐵道井原驛に自動車の便あり。明治三十七年、芳水村・足次村を廢し芳井村を設き、大正十三年町制を布く。江戸末期の儒者にして隱學者たる諸方研堂(贈從五位)は本村の人。(天神峡)町の北部にあり。山水の勝地にして小嵐峡の名あり、紅葉の名所なるも、新緑の頃もよし。林中に菅公を祀る小祠あり。

ヨシイダ　吉井田村(よしだ)　福島縣岩代國信夫郡の略中部。福島市の西南に接す。面積五・五八方粁。福島盆地に屬し土地概ね平坦にして、須川は村の北境を東流し阿武隈川に合す。村の生業は農業を主とし、米・繭・蔬菜等の產あり。道路には村の東南部を東北に通ずるもの、及び北部を東西に通ずるものあり。省線東北本線福島驛へは約一・五粁、バスの便あり。

ヨシウラ　吉浦　廣島縣安藝郡にありし町。大正五年村を町となし、昭和三年本町を廢し吳市に編入し、その町名となる。いま吳市吉浦町に省線吳線の吉浦驛(明治三十六年設置)を置く。

ヨシエ　吉江村　富山縣越中國西礪波郡の東部。福光町の東に接し、東は東礪波郡に界す。略南北に長く、全村平坦肥沃、礪波平野の西南部を占む。灌漑の便よく殆ど水田なり。米を主產する外、絹織物・絹織物業行はれまた製材業も盛にして、工產額の近出は農產を凌ぐに至る。略中央を省線中越線北より南へ走り福光驛(明治三十年設置)を置く。縣道また東・北・南より集り交通至便なり。

ヨシオ　吉尾(よしを)　【吉尾村】千葉縣安房國安房郡の北部。加茂川の上流に沿ひ、北は君津郡に隣接す。北境・南境共に約三六〇米の丘陵連りて村內に傾斜し、中央はその褶合にて加茂川東流し、流域は細き平地ななす。山地一帶森林多く、平地には水田・畑地ありて農業行はれ米を主產し、他に麥・鷄の產あり。養蚕も盛なり。川沿ひに横走する縣道は東方鴨川町、西方保田町に通じ、何れもバスの便あり。歌人古泉千樫は本村の出身なり。(八幡神社)大字仲に鎭座。郷社。祭神、譽田別命。天長六年の創建と傳ふ。足利尊氏を始め、領主諸形・間宮氏崇敬す。古來吉保郷の鎭守たり。例祭、陰曆八月二十八日。

【吉尾村】熊本縣肥後國葦北郡の北部。球磨川の左岸に沿ひ西南部は佐敷町に接す。東は川を隔てて球磨郡に界す。全村到るところ山岳起伏し、西境には最高峰笠山(五六七米)あり。東境には球磨川が屈曲しつつ東北北流す。村內低地乏し。林產豐かにしてまた沿岸漁獲物もあり。米・麥等も產す。また吉尾溫泉あり、泉質は硫黃臭のある鹽類泉。河岸に沿ひて省線肥薩線走り白石驛(南方約〇・五粁)にあり。

ヨシオ　芳雄炭礦(よし)　筑豐炭田の南西部を占め、遠賀川の上流なる嘉麻川の流域にある石炭山。鑛區は飯塚市及び嘉穗郡の稻築村・庄內村に跨りて一四五萬餘坪。地質は第三紀に屬する爽炭層にて砂岩・頁岩の互層より成り、炭層は凡そ八層にて其內二つは煙石層とす。炭質は固定炭素多量にして火力强し、なほ燃燒に際してはやや粘結す。當炭礦の現鑛區內にもと鷲子場・上三緒の二坑あり、先づこの二つが合併し其後幾多の小鑛區を

合併して今日に至れるものにて、鋤子場坑の發見は元祿年間にあり、藩政時代には山元丁場なるものあり、石炭は此丁場の扱にて蘆屋若松の藩設石炭所に送る、而して上三緒坑も亦山元丁場の取扱なりゆといふ。大正末年頃には從業員男女合して二千三百人を數へしが近時は九百人内外とす、以て盛衰を覗ふに足るべし、されど現に重要鑛山に列す。昭和十年の產額は塊炭二三五瓲、粉炭六九、一六一瓲、切込炭四八、五一六瓲、粗炭一八、五〇七瓲、煙石三五、六四七瓲（この總價額一一五萬餘圓）にして、煙石の相當多量なるは當炭鑛の一特徴とす。なほ炭鑛名は飯塚市の一字名に因めるものなり。

ヨシオカ　吉岡

【吉岡村】北海道渡島國渡島支廳松前郡の東南端。津軽海峽に面し渡島半島南端白神岬を距る約一粁の北方に位す。北は福島村、西は大澤村に接す。面積一三・九一平方粁。村内悉く山地に開されて平地に乏しく、長き海岸線に圍まれたる漁村なり。吉岡川中央を東流し海に注ぐ。來落概れ海岸に集る。鮭・鱈・昆布・柔魚等の漁獲あり。また少額の木材・馬鈴薯・大豆等を產す。吉岡川の沿岸傳ひに準地方道山間を福山町に通じバスの便あり。〔海福寺〕浄土宗。廣念山大法院と號す。貞享二年の開創にて開基は護念。維新前は廣念庵と稱する草庵なりしが明治十二年現寺號公稱を允許さる。

【吉岡町】宮城縣陸前國黒川郡の中部。仙臺市の北方約二〇粁。東北方三本木町へは約一一粁。陸前平野の南部に位し、北部は大松澤丘陵の南麓にして丘陵なし、南部はやや平坦にして吉田川は町の中部を略東流し、水田拓く。米・麥・繭・酒等を產し、また馬市を以て聞ゆ。郡の主邑にして附近農村の商業町をなせり。陳羽街道は村の中部を南北に通ず。社線仙臺鹽道吉岡驛（大正十二年設置）あり。本町は舊名を今村と稱し舊郡役所のありし所。元和元年、伊達河内守宗清、本町の上ノ原を開墾してより土木を起し附近を開拓して移り住み、土民來集して一郡の肆市となり吉岡と改む。宗清の死後は嗣子なく、のち黒木某一時この地を管せしが、寛文の頃、鳥山大學當辰の所領となり、四代を經て主計良風に至り、寶暦六年他に移され、翌年、土佐顯行この地を賜はり、土佐成行に至り、維新に遭遇す。成行は洋學を奬勵し、兵制を改革し洋式風帆船を造り、寒風沢港を企畫し、汽船を購入せり。殖產興業により國本を養はんとして樂海苦樂を本吉郡に開き、洋式手引機械及び大小旋條鉄砲の製造を始めたり。この二事は實に本邦に於ける嚆矢たり。戊辰の役起るや藩君を奉じ、西軍を拒ぐ。のち捕へられ江戸に送られ、死刑に處せらる。

【吉岡村】埼玉縣武藏國大里郡の東南部。熊谷市の南隣にて、荒川の南岸にあり。東南は比企郡と隣す。東南境附近は稻丘陵地をなすも、大部分は荒川流域の平地にて、西部は水田、他は畑地をなし、農業行はれて米・麥を產し、蠶も盛にて繭の產多し。縣道は四方より村の中央に集まり、更に北走して、荒川大橋を經て熊谷市に通じバスの便あり。明治四十三年、吉岡村・楊井村を廢し、新に本村を設く。明治十三年、明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際、本村に御小休あらせらる。

【吉岡村】鳥取縣因幡國氣高郡の中部。鹿野町の東に隣接し洞山池の南に位す。東西兩部に高さ二百米餘の丘陵連亙して起伏し何れも中央に向つて傾斜す。北は洞山池南畔の低平なる沖積平地を占め、中央の谷を流るる小河ここをうるほして北に出で隣村を經て洞山池に注ぐ。北部は農耕よく行はれ米・馬鈴薯・繭を產す。南部山地は牧畜行はれ牛を飼育す。主邑吉岡村落は北に開け、南北に縣道通ず。〔吉岡温泉〕上ノ湯は食鹽泉、下ノ湯は硫黄泉。療養向。江戸時代には藩主池田氏の浴室もあり、相當賑を呈せり、のち一時衰へしが現在は設備も整ひ純粹の湯治場として賑ふ。

【吉岡村】岡山縣美作國久米郡の東南端。吉井川上流西岸に位し、弓削町の東北に連る。東は川を以て勝田郡に、南は赤磐郡に界し、北は津山市に接す。面積三二・〇八平方粁。東境を吉井川南流し、沿岸に平地存するも、他の三周は山地に圍まれ、村内縁れ山地にして山林に蔽はれ、柵原鑛山の鑛區の一部存す。中央山間低地及び沿岸に耕地拓く。米・麥・繭・生柿・木炭・酒類等を產す。河岸に縣道通じ津山市へバスの便あり。當村の人口は別表の如く山村には珍しき增加を示すがこは自然增加以外に柵原鑛山の發展に負ふところ多大なるものあるを見逃すべからず。一柵原鑛山（鑛區は吉岡村及び勝田郡の南和氣村・飯岡村に跨りて一六二萬餘坪、鑛種は銅鐵硫化鐵とす。鑛區内の地質は中生層及び之を貫きて噴出せる火山岩より成り隨所に第三紀層の被覆を見る。鑛床は輝綠岩質火成岩の噴出後、花崗岩質岩石の噴出ありて、其餘波により生成せられたる單純交代鑛床なり。當鑛山の始りは明治十四五年頃にて、先づ最初に南和氣村大字柵原に於て所謂柵原鑛床の發見あり、次で同二十四年吉岡村大字久木の地に久木鑛床の發見あり、爾來幾多の鑛床を發見して今日の隆昌を見るに至る。現在藤田鑛業會社の稼行に係り、昭和十年の產額は硫化鐵鑛四二二、〇四三瓲、沈澱銅三二瓲にして、沈澱銅は小坂鑛山に送致して合併製錬す。なほ同年六月末の鑛夫數は八六七人にして、

大正十四年	三、四〇八人	
昭和五年	四、四四四	
同十年	四、六〇二	

現に重要鑛山に列す。〔塚角神社〕大字塚角に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚命。例祭、十月二十三日。〔本山寺〕天台宗。役小角の舊蹟にして、大寶元年獨覺の開創に係り、天平寶字年中、鑑眞伽藍を興し現稱に改む。

【吉岡】岡山縣赤磐郡にありし村。昭和七年他の一箇村と共に廢され新に萬富村を置く。

【吉岡村】愛媛縣伊豫國周桑郡の中部。東方に壬生川町、南方に丹原町あり何れも三粁を隔つ。北は國安村に、西は庄内村に、南は德田村に界す。西部は高縄山地東麓の地を占め、三〇〇米の丘陵南北に起伏して中央に急斜す。東部はその麓に展開せる低平なる沖積平地の一部を占め沃野をなす。從つて耕地よく拓けて農業行はれ、米作を第一とし繭・麥の產も多し。養鷄業も營まれ鷄卵の產出少からず。東部平地を南北に縣道通じまた省線豫讃本線の伊豫三芳驛へ縣道通じバスの便ありて交通甚だ便なり。古く庄名に呼ばれ吉岡庄と稱したり。三島文書、正應六年の條に吉岡庄と見え、また後宇多院御領目錄にも載せらる。〔護國玉甲々賀益八幡神社〕大字上市に鎮座。郷社。祭神、足仲彦尊外七柱。例祭、四月十一日。〔觀念寺〕臨濟宗東福寺派。大煙山と號す。延應二年、端牛の開基にて越智宿禰新屋太夫盛氏、女迫福のため創建す。往時は末寺三十餘箇寺を有し、今なほ九箇寺を存す。本尊、蒲陀聖身は弁圓（聖一國師）宋國遊學の際天台山にて神人授獨のものと傳ふ。開運延壽の靈驗ありと。

【吉岡炭鑛】肥前炭田の南西部にある石炭山。鑛區は長崎縣北松浦郡の中里村と大野村とに跨りて一四萬餘坪。昭和十年の產額は塊炭三、六七二瓲、粉炭八、六四二瓲、切込炭三、二九九瓲、粗炭七二四瓲（この總價額九萬七千餘圓）にして、同年六月末の鑛夫數は一一九人、現に準重要鑛山に列す。なほ炭鑛名は中里村の大字吉岡免に因めるものなり。

ヨシカ　吉賀（郡）　石見國（島根縣）の應足郡な近古に俗稱して吉賀郡ともいふ（國郡沿革考）。

ヨシカワ　吉川

【吉川町】埼玉縣武藏國北葛飾郡の南部。古利根川の左岸。北は旭村、東は三輪野江村、南は早稻田村・產成村に接し、西は古利根川を以て南埼玉郡八條村・大相模村・粕林村に對す。土地低平にして米・麥を多產し、副業として養蠶行はる。縣道は村の西部を南北に古利根川に沿うて走り、南埼玉郡越ヶ谷町及び千葉縣東葛飾郡流山町および東京市葛飾區金町方面に至りバスを通ず。近世、二郷半領と稱せし地にして櫻井郷下河邊庄に屬す。蓋し二郷半とは天正の頃に伊奈備前守忠次に此邊を一生支配すべしとの命ありし故一生を一升にかけ、支配を四配にかけ、卽ち二合半と稱へしより二郷半の名生ぜりと傳ふ。大正四年町制施行。〔延命寺〕新義眞言宗。寶光山地藏院と號す。江戸時代、寺領十石を領し、その朱印は慶安元年九月十七日賜はれり。清仙が此地に來りしを里人草庵を作り留まらしめしがその濫觴となす。天正年間、西ト堂宇を再興す。

【吉川村】新潟縣越後國中頸城郡の東北部。柿崎町の南方約五粁。南は朝日峠により東頸城郡に界し、黒川の支流吉川に沿ふ。村内縁れ一〇〇米臺の臺地性丘陵にして吉川に東南より村の南部・西部を西北に流走す。西北部には平地開け、寒ろ低濕にて小なる湖沼散在す。耕地は概ね西半部にあり米を主產す。外に養蠶・藁細工等を副業とす。西部を南北に走る縣道あり、省線信越本線湯町・柿崎兩驛へいづれも八粁餘、バスの便あり。

【吉川村】福井縣越前國丹生郡の東部。鯖江町の西北方約二粁。東は日野川を境に今立郡に接す。西南隅に三床山（二八〇米）の小岡ある外全村平坦肥沃にして水田に富む。農業を主生業とし米を主產し副業として絹織物・清酒醸造等の工業之に次ぎ、副業としては牧畜・養蠶も多少行はる。村を略東西に社線鯖浦電鐵貫通し越前平川・川去の兩驛（共に大正十五年設置）を置く。また朝日村・武生町間に縣道通じバスの便あり。古くは和名抄、丹生郡小泉郷の内なるべし。

【吉川村】京都府丹波國南桑田郡の中部。蟲岡盆地の中央蟲岡町の西に接續す。面積僅か一・一方粁、人口七百五十餘の農工商村なり。村の中央を大堰川の支流犬飼川が南北に流れ、洪水による土砂流出多く、堅固なる堤防を築き之を防ぐ。古來洪水の被害に惱む。村の耕地面積の約八五%は水田にて畑地・山林は殆どなく、從つて米・麥を主產物とす。特殊產業として米粉製造工業あり。其の製產高は農耕生產高の二倍以上に及ぶ。米粉は菓子の原料となる。百人以上の職工を有する工場二あり。製品は主に京阪地方へ移出す。本村は和名抄佐伯郷の地。中世佐伯莊あり。江戸時代は主に蟲岡藩領たり。町村制施行當時まで吉田・穴川二村に分れたるを合併して吉川村とす。上代の山陰街道は大枝關を越え蟲岡を經て葛田野村より篠山に出るものなりしかば、本村はその通路に當り早く聚落の發生を見たらんも明かならず。今も蟲山より篠山に至る通路を本村の主道とす。バスの往來自由にして交通至便なり。

【吉川村】大阪府攝津國豐能郡の中部。池田町の北方二粁餘にあり、北・西・西南は兵庫縣川邊郡に界す。四面皆山地にして東北隅に有名なる妙見山（六六二米）あり。西北境には高代寺山（四八九米）聳え、東南境に青貝山（三九一米）あり。中央西部には西南流する能勢川支流の細流あれど流域低地に乏し。工產額最も多く林產これに次ぎ、農產は第三位を占む。

村内或は隣村に跨りて天狗・妙見など三一四の鑛山あれど何れも振はず。但し僅に見るべきものに櫻谷鑛山あり、昭和十年に於て銀銅亞鉛鑛二〇・七瓩を産出す。社線能勢電軌は村の西南方より入り來り妙見驛を置く。

【吉川村】 岡山縣備中國上房郡の東南隅。高梁町の東方約一二粁に存し、東は御津郡、南及び西は吉備郡に界し、北は下竹荘村に接續す。面積二三・一二方粁。四周山地に圍繞せられ、南境に唐人山（五〇〇米）聳え、地勢やや中央に傾く。中部に小平地を有する外、村内の大部は山林地なり。米・麥・繭・木炭・生姜・薄荷等を産す。省線伯備線木野山驛へ約二〇粁、自動車の便あり。〔八幡神社〕縣社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。貞觀三年の創祭にて山城國石清水より勸請す。瑞河天皇・後陽成天皇特に御信仰厚かりき。近世藩主木下氏の崇敬また厚し。舊稱、松原八幡宮。別稱、吉川八幡宮。例祭、十一月廿五日。

【吉川村】 廣島縣備後國世羅郡の西部。西南は豐田郡に界し、西は上川村、北は津名村、東は小國村に接す。面積三一・二八方粁。北境に明神山（五三五米）、南境に天神嶽（七五八米）聳え、村内の地勢概ね高燥、山岳起伏して森林地多し。明神山南麓にやや低地存し耕地を拓く。農業・林業盛なり。米・麥・繭・用材・木炭・薪材・家畜類・酒類等の産多し。三原市へバスの便あり。

【吉川村】 廣島縣安藝國賀茂郡の西部。西條町の西南方約七粁、北は原村、西は熊野跡村、東及び南は郷田村に接す。面積九・四七平方粁。西部及び南部には山地連りて地勢海拔五—七百米の高度を示すも東北方に傾き、東北部には廣き平地展けて耕地を有す。純農業村にして米・麥・繭・木炭・家畜・酒類等の産あり。省線山陽本線八本松驛に近くバス通ず。村内に磯山城址あり、天文年中大内氏の將これを守り、毛利元就のために攻め落さる。

【吉川村】 高知縣土佐國香美郡の西南部。赤岡町の西に、野市町の南に位し、西は三島村に隣り、南は土佐灣に臨む。東西に狹長なる村にて東に香宗川、西に物部川の兩水共に南流して下流に沖積地を開き海に注ぐ。爲に沃野開けて耕作盛んなり。海岸は低平なる砂濱地ななす。農業最も榮えて米・繭の産多く蔬菜栽培も盛んなり。沿岸は鰹を産し、捕鯨も亦行はる。工産として蓙製品・造船・水産加工品等あり工産額また多し。社線高知鐵道は東北部を貫通して古川驛（昭和三年設置）を置く。また赤岡町より來る縣道は中央平地を西に貫通し前濱村に至る。鐵道に沿ひて國道通ず。幕末の勤王家にして、武市瑞山等と國事に奔走せし村田忠三郎（贈從四位）はこの地の出身とす。

〔西德善八幡宮〕 大字吉原に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。例祭、八月二日・十月十四日。

【吉川村】 福岡縣筑前國鞍手郡の西南部。宮田町を隔てて直方市の西西南にあり。南は嘉穂郡、西は糟屋郡に界す。西境には西山（六四五米）・鷹野峠・犬鳴山・熊ヶ城、五八四米）・犬鳴峠・鉾立山（六六六米）等の山地が連續し、中央には一分水嶺がありて東北方へ流る。南部及び北部も山地ななす。北部の谷には西境に發する犬鳴川が東北流して流域に氣地開け、南部の谷には西南隅に發する八木山川が東北流し沿岸やや平地ななす。産物は麥・米・繭・木炭等を産す。東北方約一・五粁にある社線鞍手軌道の終點福丸驛へバスが通ず。古くは和名抄、鞍手郡金生郷の内とす。明治四十一年日吉村・吉川村を廢し、その地域を以て本村を建つ。

ヨシカワ　良川（よしかは）　石川縣鹿島郡鳥屋村の大字。省線七尾線の良川驛（明治三十四年設置）を置く。

ヨシカワ　芳川村（よしかは）　長野縣信濃國東筑摩郡の南部。松本市の南に接し、奈良川の扇狀地上にありて松本平の最も重要なる水田地域をなす。その耕地面積四九七町にして全面積の七七%に達す。そのうち、田一八一町・畑三一六町・桑畑二八二町にして、養蠶は本村農業經濟の重要なる要素をなす。田は耕地面積の三七%に過ぎざるも水田少き同地方として特色あり。村内に省線篠ノ井線通じ村井驛（明治三十五年設置）あり。また松本より南方郷尻・洗馬へのバス通ず。舊善光寺街道の村井宿のありし地にして、和名抄、筑摩郡良田郷の内なるべし。

ヨシキ　吉城郡　岐阜縣十八郡の一。飛騨國の北端。北は富山縣東礪波郡・婦負郡及び上新川郡に、東は長野縣西筑摩郡に、南より西にかけては大野郡にそれぞれ境す。東部は日本アルプスの一部にて高嶺連互し、長野縣側に大斷層崖を向け飛騨側は緩斜面にて傾動地塊をなす。信飛國境には槍ヶ岳（三〇〇四米）・穂高の連山・蓮華岳聳え、その上に乘鞍火山脈走り、焼ヶ岳（二四五八米）峙つ。中部以西は所謂飛騨高原の一部をなし、大雨見山（一三三六米）・猪臥山（一五一九米）・尾崎山（一三六八米）・栗ヶ岳（一七二九米）・御前山（一八一七米）等峰ち、高度高し。本郡は日本海斜面に屬し、高原川は日本アルプスに源を發し、雙六川・藏柱川・跡津川を合せ片麻岩より成る飛騨高原を切り北流し富山灣に注ぐ。宮川は川上嶽に源を發し荒城川・小鳥川を合せ北流し古川盆地を作る。また万波川も北流す。東部山地は中部山岳國立公園の一部なる占め、夏季は登山者多く、冬はスキー客多し。高原川上流には湯田・平湯等温泉多く、雙六川の谷には材木岩の奇勝あり、これは安山岩の柱狀節理なり。産業は高原川・宮川の流域にのみ農耕地あり山麓は牧場となる。山間の地なれば林業

に依存するより外なく、木材・木炭・薬・漆・山葵・櫻桃・林檎等を産し、製紙も行はる。北部船津附近は鑛業盛なり。ここには三井鑛山の神岡鑛山ありて、銀・銅・鉛・亞鉛等を産出す。交通路は川の谷にのみ制約され、越中街道は高山より北上し、古川盆地に出でここより宮川の谷へは西街道が、高原川の谷へは東街道が通ず。鐵道は宮川の谷へ省線高山本線通じ、船津より宮山縣笹津へは鑛山專用鐵道通ず。其他の山間部は概ね交通不便なり。もと飛騨郡と稱し書紀特統天皇の條に郡名見ゆ。延喜式・和名抄荒城に作りしが芸の字を嫌ひ室町時代の頃吉城に改めしものならん。和名抄は阿良木と註し、名張・荒城・深河・高家・飽見・飽戸・遊部の七郷を置く。近世吉城に作りその後これに從ふ。

ヨシキ　吉敷　【吉敷郡】 山口縣十一郡の一。周防國の西南隅。山口市の東南部に接し、南は周防灘に面す。西は美禰郡・厚狹郡に界し、西南は宇部市に接す。北は阿武郡、東は佐波郡と接す。面積四四二・〇一方粁。橋野川の流域地方を占め、地形南北に長し。四周を山脈に圍繞せられ、東に白石山（五四一米）・蔵田ヶ嶽（六二一米）、北に龍門嶽（六八八米）、西に東鳳凰山（七三四米）・西鳳凰山（七四二米）等郡界を劃し、山林地ななせり。橋野川は北部山地に發して中央を南流し海に注ぐ。流域に廣濶なる平地を開き、川に沿うて山口市・小郡町の如き繁榮市街地を形成す。沿岸に耕地大に拓く。南部海岸は、河川海水の沖積及び干拓に依る平野顯る廣大にして土質農作に適し、耕地發達す。郡内は米・麥・繭・蔬菜・木炭・用材・石材・家畜等の産最も多く、また蓙製品・松茸・鶏卵・木製品・竹製品・生糸等の副産物あり。小郡町は橋野元結の特産あり。省線山陽本線南部を東西に貫通し、小郡驛より山口線・宇部線分岐し、郡内に大道・四辻・小郡・嘉川・阿知須（以上山陽本線）、上嘉川・江崎・深溝周防佐山・岩倉・本阿知須（以上宇部線）、上郷・大歳・湯田・宮野・仁保（以上山口線）等の諸驛を置く。本郡の地は山口源氏榮の發生地として古來著名なり。六月上旬その羽化最盛期に達せる夕刻八時頃には飛び交ひて美觀を呈す。郡名は天平二年紀に初見す。和名抄には與之岐と註し八田・宇努・仲河・益必・神前・多賀・八千・賀資・伊因・廣伴の十郷を擧ぐ。

【吉敷】 山口縣吉敷郡にありし村。昭和四年本村及び山口町と共に廢し、その區域を以て山口市を建つ。

ヨシクマ　吉隈炭礦　筑豐炭田の南西部を占むる石炭山。鑛區は福岡縣嘉穂郡の桂川村・穂波村・碓井村・稍榮村・大隈町に跨りて二〇四萬坪。昭和十年の産額は塊炭一四、七七八瓩、粉炭一五二、六七〇瓩、切込炭一、二〇〇瓩、粗炭三八、七九三瓩、煙石一三、六二一瓩（この總價額一五〇萬餘圓）にして、同年六月末の鑛夫數は一、七八四人、現に重要鑛山に列す。なほ炭礦名は桂川村大字吉隈に因めるものなり。

ヨシコガワ　吉子川村（よしこ）　福島縣磐城國西白河郡の東部。白河町の東方約一二粁。東は石川郡に接す。面積六・八九方粁。地勢は西北部に高く丘陵をなし、東南部は平坦にて阿武隈川は南部を東流す。村の生業は農業を主とし、米・繭・馬を産す。道路は村の中部を南北に通じ、南方郷倉町、北方矢吹町へは各バスの便あり。省線水郡線磐城淺川驛へ東南約八粁。

ヨシサカ　吉坂村　廣島縣安藝國山縣郡の東南部。南は安佐郡に界し、北及び西は都谷村、東は本地村と接す。面積三三・二八平方粁。海見山（八七〇米）東境に聳え、村内丘陵起伏して平地乏し。山間所々の窪地に耕作行はれ、聚落耕地と共に散在す。他の大部は山林地に屬す。純農業村にして米・麥・繭・用材・木炭・薪材・酒類等の産多し。山岳地にして交通便ならざるも可部町に通ずる道路を有す。

ヨシサキ　吉崎村　福井縣敦賀郡坂井郡の西北隅。北潟湖東岸に沿ひ、北と東に石川縣江沼郡に接す。面積一・一九方粁の小村にて北東部に山林を負ひ、聚落は西北隅北潟湖と大聖寺川との合流點にあり。工業を主とし、絹・絹糸及び酒の生産額の外著しきものなく、吉崎御坊の門前町として興りし所なり。殊に四月二十三日より十日間の蓮如上人の吉崎御忌には數萬の參詣人來り、村民はこの時に一年中の收入を得とさへいはる。加越を結ぶ縣道に沿ひ、加賀大聖寺町へ約八粁、自動車の便あり。細呂木村を經て金津町へも交通便なり。〔吉崎御忌〕 毎年四月二十三日より十日間吉崎別院にて行はるる本願寺蓮如上人の御忌なり。即ち當村は蓮如上人の開く所にして其以前は狐狸の巣窟なりしが如し。しかるに文明三年當寺の御山（本願寺を建てしより大繁盛ないたり。其の德を慕ひて毎年四月に本願寺は蓮如上人の御影を當別院へ下す。其の間御影は輿に入れられ無數の信徒に擁かれ數十餘所に立寄りをなし、ワイショ！！！！！で來り當別院にて開扉まる。集人實に數萬人、汽車の割引をなす等、驛の混雜は言語に絶す。かくて終日には又同樣興を擁き本願寺に返還す。因に當御影はもと同郡金津町永宮寺の藏にして蓮如上人自讃の繪像なり。〔吉崎別院〕 俗に吉崎御坊と云ふ。細呂木驛より五・九粁、大聖寺驛より六粁、各々バス通ず。眞宗本願寺派と同大谷派の二僧寺あり。共に文明三年蓮如上人現今の安居明源寺に巡化するや、國守朝倉敏景深く之に歸依し吉崎の地八千餘坪を寄附せり。よつて七月此に一宇を創立し眞宗の

本寺とせり。しかるに同七年宮番政親の爲め焼かれ上人は若狭に逃れ本寺は一時中絶せり。其後門徒数人二道場を現地に設け大家の道場は本浜本願寺へ彦作・重兵衛の道場は大谷派へ各々属し今日の雨別院となれり。〔吉崎御坊舊址〕字御山にあり。蓮如上人が本願寺を建立せし址にして史蹟に指定せらる。昔は枯死せし御花松もありしが今は取り除かれて無くその跡へ蓮如上人の銅像を建つ。

ヨシサト 吉里村 岐阜縣美濃國海津郡の中部。大垣市を去る南方凡そ二〇粁。北は長良川を挟み羽島郡桑原村に、東は木曾川を隔てゝ愛知縣中島郡長岡村に對し、南は東江村に、西は高須町・今尾町及び海西村に相接す。濃尾平野の南西部に位し、東部には長良川と木曾川が細長き潮刺りを以て並行し南流す。大體この地方は揖斐・長良・木曾の三大川に挾まれたる低濕地域にして、高度の如きも約一—二米に過ぎず。此等の天井川の爲に古来水害が多く、輪中なる水害豫防組合を組織して之が水防に當る。ここの輪中を高須輪中と呼ぶ。本村は平野部は殆ど水田を以て占め一部分の臨川地域には桑畑見らる。農家の子女の半數は出稼をなす。交通は尾張への街道も渡船を以てつながれ、今尾・高須兩町に近く、交通は便利なり。中世松ノ木は「松岐」と見え、江戸時代本村は幕領及び高須藩領たり。天正年間豊臣秀吉は木曾川以西の尾州海西郡を割きて、濃州に属せしめしが、當時松木・洲古・神桐・成戸・福一色・西島のかゝ村を合せて吉里郷を置き明治となり町村制施行せらるゝや舊稱を取りて吉里村と改稱す。松ノ木には古城址ありて吉村兵庫頭信實・吉村又吉郎安實が天正頃蕊居住し、其後徳永法印壽昌が二萬石を領して居城し、關ヶ原役に東軍に味方し、戦功を以て慶長五年高須城に移封さる。鹿野は康正二年造内裡段錢並國役引付に「山下孫三郎殿尾州賀野東方段錢」と見え、又尾張の妙興寺にある貞治六年の寄進狀には「尾張國中島郡賀野御厨」と見ゆる舊地なり。なほ村には鎌倉權五郎目洗ひの池と傳ふるものあり。

ヨシザト 吉里 新潟縣南魚沼郡にあり。明治三十九年本村外一町五村を合併し新に鹽澤町を新設す。

ヨシジマ 吉島村 山形縣羽前國東置賜郡の南部。小松町の東方約五粁。南は南置賜郡に接す。米澤盆地に属し、全村概ね平坦にして鬼面川は東境を東北に流れ松川に合し、松川は北境を西北に流る。村の生業は農業を主とし、繭の産多く、また米を産す。道路は村の中北部を東西に通じ、西方省線奥羽本線矢野目驛へは約五粁あり。〔八所神社〕大字吉田に鎮座。祭神、神皇産靈尊外七神。大同二年の創立。例祭、八月十九日。〔八幡神社〕大字洲島字新町に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。例祭、九月十五日。

ヨシジュ 吉壽 鳥取縣日野郡にあり。明治四十五年、日吉・吉壽の二村を廃し八郷村を置く。

ヨシズ 吉津 ゑし 〔吉津〕 靜岡縣濱名郡にありし村。昭和四年雲津町と改稱す。

〔吉津村〕 三重縣伊勢國度會郡の西南部。北牟婁郡長島町の東北約一五粁に位して熊野灘に臨む。東・北・西の三面は六—七百米の山脈を以て繞らし、東境及び西境の山地は南方海上に突出し、殊に西部山地は東南方へ狹長な半島となりて尖端は定ノ鼻に終り、兩山地中央に吉ヶ津浦を抱き、附近に鳥天島其他の小島散在す。本村は大字四あり。主生業は一は漁業にして其他は農業なり。主産物は蛸・鰹・鰤・秋刀魚等の水産及び米・蕨・繭・木炭等なり。近年大阪窯業セメント會社經營の石灰岩採掘行はれ、また鰹節の特産あり。西部山地のヒノキチ峠を越えて省線紀勢東線の伊勢柏崎驛、及び北部山地の藤坂を過ぎて同線三瀬谷驛へ共にバスの便あり。〔仙宮神社〕大字河内に鎮座。郷社。祭神、猿田彦命・大宮比賣命。相殿に天照皇大神等三柱を祀る。瑞相鎮守仙宮秘文を藏するを以て聞ゆ。社家加藤氏は吉野朝に忠勤を擢んづ。江戸時代領主紀伊徳川氏社領三石を寄せたり。例祭陰暦六月十三日。

〔吉津村〕 京都府丹後國與謝郡の中部。丹後天橋立の文殊所在の村にして、阿蘇海の潟湖の南岸に位し、宮津町の西方に連續す。南方より東方へ山地連り、全域荒蕪岩より成る丘陵性山地、最高三七〇米に過ぎず。村の北部中央海岸に多少の平地あり、また西方岩滝境にも小耕地を見る。阿蘇海より南西加悦地方に開く低地帶は、一の陥没地帶をなす。天橋立にもと文殊附近より南に延び現在の天橋立と連續せるものなるも、明治五年洪水により切斷され、其の結果天橋南端約一粁は分離せる小島となり今小天橋と稱す。本村との間に小溝を通ず。阿蘇海は鹹湖盆にして、金太郎蛸を名産とす。本村は文殊附近の蕊覧地帶を除き、農村にしてまた機業地、その他清酒をも産す。文殊は天橋立蕊覧客の爲に賑ふ。省線宮津線天橋立驛（大正十四年設置）は本村文殊にあり、驛前より切戸の渡場附近までは蕊覧客相手の旅館・料亭・土産物店並ぶ。蕊覧者は多く文殊の渡場より乗船、阿蘇海（與謝内海）を渡り、江尻に上陸するをコースとす。文殊は崇神天皇の朝、豐鋤入彦命天照皇大神宮を此地に奉遷し給ふ古の吉佐宮（與謝宮）の故地、文殊堂の地は其の遺跡なりと傳ふ。名刹文殊堂は智恩寺の事にて橋立の南方崖頭に建ち、天橋・成相山に對し、風光絶佳なり。文殊の南西方に本村の主邑須津あり、湖岸に位し延喜式吉野神社鎮座の地なり。本村は和名抄、物部郷に属す。交通路は宮津より文殊・須津を經て岩滝または加悦・峰山方面に至るものを其の主道とす。興謝宮遥宮當時よりの古道ならん。宮津線は宮津より右道路に沿ひ峰山に至る。村内に前記天橋立驛のほか岩滝口驛（大正十四年設置）を設く。文殊は蕊覧地にて又海水浴場として知らる。※天橋立。

〔吉津〕 廣島縣深安郡にありし村。昭和八年福山市に編入さる。いま福山市北吉津町に省線福塩南線の吉津驛（大正三年設置）あり。

〔吉津村〕 香川縣讃岐國三豊郡の西北部。仁尾町の東にあり、北は詫間村に、東は下高瀬・上高瀬二村に、南は比地二村に界す。西部には高瀬二—三百米の七寶山の諸峯南北に起伏して中央に急斜し、また北東及び南部に小丘並立す。東及び中央に低平なる沖積平地ひらけ、農作盛に營まる。米・麥を産しまた繭・鶏卵・薄荷・除蟲菊等を出し、叺は殊に名高し。中央部を横斷して縣道通じ、また東境を南北に縣道走る。省線豫讃本線詫間驛・上高瀬驛へは何れも約三粁。

ヨシスカ 吉塚 よしづか 省線鹿兒島本線の一驛、明治三十七年設置。福岡市にあり。省線篠栗線及び社線筑前參宮鐵道・福博電車の起點たり。

ヨシズミ 善積 よしづみ 近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に高島郡善積郷あり、その地今の高島郡今津町・三谷村の邊に當る。東鑑、文治二年に近江國善積庄とあるは此地なり。

ヨシタ 吉田

〔吉田村〕 宮城縣陸前國登米郡の南部。登米町の西南に隣接す。陸前平野の東部に位し、村の中部には丘陵西北に横ばりその北部及び南部は大谷地低地帶に属して平坦なり。村の生業は農業を主とし、米・麥・繭を産し、また牧畜行はる。道路には村の中部を東北に通ずるもの、及び西部を東南に通ずるものあり。北方社線仙北鐵道佐沼驛へは自動車の便あり。同線登米驛へは東北方約六粁。

〔吉田村〕 宮城縣陸前國黒川郡の西部。吉岡町の西に隣り、北は加美郡、西南は宮城郡に接す。面積一一三・七八方粁。奥羽山脈の東斜面に属し、西境に三峰山（一四一八米）聳え、東方に傾斜し、西部に大倉山（九三四米）、南部に高倉山（八五五米）あり。西部には概ね山地をなし、荒川は西境に發源して東北に流れ加美郡に入り、吉田川は西南部に發源して東北に流れついで流路を東南に變ず。沿岸に水田拓く。村の生業は農を主とし、次に林業行はれ、米・麥・繭・木炭等を産す。社線仙臺鐵道吉岡驛へは東方約五粁。バスの便あり。

〔吉田村〕 宮城縣磐城國亙理郡の略中部。亙理町の南に接し、東は太平洋に面し、西は伊具郡に接す。西南境に四方山（二七四米）聳え、それより山地北方に連りて東方に傾斜し、西部は山地をなすも、東部は概ね平坦なり。東北部に鳥ノ海あり、海岸は平直にして砂濱をなす。村の生業は農業を主とし、米・麥・繭・馬を産し、海岸には漁業行はる。陸前濱街道は村の西部を南北に通ず。省線常磐線濱吉田驛（明治三十年設置）あり。

〔吉田村〕 秋田縣羽後國平鹿郡の中部。横手町の西南約六粁。西は淺舞町に接す。横手盆地に属し、東北部稍高きも全村概ね平坦なり。河溝村内を南北に通じ、水利よし。村の生業は農業を主とし、米・麥・繭を産し、また泥炭・中山人形等の特産あり。道路には村の東南部を斜走するもの、北部を東西に通ずるもの及び西部を南北に通ずるもの等あり。東方省線奥羽本線横手驛、南方社線横荘鐵道淺舞驛へは各バスの便あり。此地は小野寺氏の一家、吉田孫市郎陣跡の居城あり、慶長五年十月、最上勢亂入の時には延澤遠江守この城を攻めたり。

〔吉田（郡）〕 常陸國（茨城縣）の私稱の古郡名。もと那珂郡の東部を稱せしが文祿の檢地の時廢して茨城郡に入る。

〔吉田村〕 茨城縣常陸國東茨城郡の中部。水戸市の南隣にあり。大部分低き湿地をなして畑地多く所々林を交へ、北部のみ狹き平地ありて水田をなす。農業行はれ中央を北走して水戸市に通じバスの便あり。社線水戸電氣鐵道通じ、下水戸・蓮華寺下・吉沼・一里塚・中吉澤・吉澤の六驛を設く。この地は水戸市方の潮門にして古く吉田古宿と稱したり。〔吉田古墳　指定史蹟　東組臺地上に存し、圓形墳にして上に竹藪あり。直徑八米、高さ二米、石室は南方に入口を開き長さ四米、幅・高さ共に一・五米、扁平なる切石を以て造られ、底部は地表より低く、奥壁は一枚石にて表面は平滑に削られたる上、線彫にて矢筈・小刀子その他の武器が彫刻さる。石室より發見せられたる遺物には金環・鐵鏃などあり。石室の壁にかゝる圓像を刻せる古墳は關東地方にては類例稀めて稀なり。

〔吉田村〕 栃木縣下野國河内郡の南端。鬼怒川の西岸にて、上三川町の南隣にあり。南は下都賀郡、東は芳賀郡と隣す。全村平地にて中央を田川南流し、川の附近は水田多く他は畑地をなす。農業を主とし米・麥・煙草・繭等を主産し、特産物には干瓢及び結城紬あり。二條の縣道村内を縱走し、北は上三川町、南は茨城縣結城町に通ず。又これと交叉して南部を横走するものは、西隣下都賀郡國分寺村、東方芳賀郡久下田町に通じ、鐵道は國分寺村内の省線東北本線小金井驛最も近し。古くは酒部郷の内とす。幕末の勤王家にして坂下門外の變に死せし越智瀬三三郎三郎、贈從五位）はこの地の人とす。〔八幡宮〕大字本吉田に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。もと社領四石を有せりといふ。本殿・拝殿・神饌所を具ふ。例祭、十一月十五日。〔東稱供奏塔婆〕大

宇東根宇藏王、小金井より吉田に至る道路の傍にあり。高さ約一・五米の蓋石を有する圓柱形の塔婆にて、柱の周圍に阿閦・寶生・阿彌陀及び不空成就の種子並に長文の供養願文刻書さる。その願文によれば、元久元年十二月に佐伯伴行等、亡父および現在の母のために建てしものなり。

【吉田村】群馬縣上野國北甘樂郡の中部。下仁田町の北隣にて、東は一ノ宮町、西北は妙義町と隣す。西北境に大桁山（八三六米）ありて村内に傾斜し、南境を鏑川の支流東流す。東南部の山裾には桑園・耕地ありて、繭・麥・米を產す。縣道は南部を西南走して下仁田町に通じ、社線上信電氣鐵道また之に沿ひ、村内に南蛇井驛（明治三十年設置）・千平驛（明治四十四年設置）を置く。古くは和名抄、甘樂郡宗伎郷の内とす。

【吉田村】埼玉縣武藏國北葛飾郡の北部。幸手町の東方約四粁にて、東境附近を江戸川南流し、北は茨城縣猿島郡と隣す。面積六・六六平方粁の小村なり。全村平地にて中央を庄内古川南流し、水田・畑地拓けて農業行はれ、米・麥を產し、養蠶も行はる。縣道は幸手町及び西南方杉戸町、東北方千葉縣關戸町に通じ、何れもバスの便あり。

【吉田町】埼玉縣武藏國秩父郡の中部。荒川の支流赤平川に沿ひ、西南は小鹿野町と隣す。北境には磯風山（六二七米）等の山地連りて南方に傾斜し、西南境は約四〇〇米、東南境は約二五〇米にして何れも村内に傾斜す。赤平川の本支流はこれ等の山間を東北に流れ、流域は細長き平地をなす。山地一帶森林多く、林產あり。平地は桑園・畑地多く繭・麥・米を產し、和酒の醸造も盛なり。縣道川沿ひに荒川流域に通じ聚落もこれに沿ひて發達す。もと下吉田村と稱せしが、昭和三年、吉田町と改稱。〔椋神社〕縣社。祭神、猿田彦大神・武甕槌命外三神。式内社。神位、貞觀十三年從五位上。舊稱、井椋五所大明神・春日四所明神。例祭、九月二十七日。〔長福寺〈菊水寺〉〕下吉田にあり。曹洞宗。延命山と號す。開山長山賢道。もと菊水寺と稱す。秩父三十四所第三十三番札所。御詠歌「春や夏冬も盛の菊水寺秋の詠に送る年月」

【吉田村】千葉縣下總國香取郡の南部。多古町の東南に近く、東より南は匝瑳郡と隣し、東南約三粁に八日市場町あり。面積五・八八平方粁の小村なり。中部より東部にかけては丘陵地にて森林あり。西部は栗山川上流々域の平地の一部にて水田多し。農業行はれて米を主產し養蠶も盛にて繭の產多し。多古町より八日市場町に通ずる縣道は中部を南走して、下總吉田驛（大正十五年設置）を置く。古くは和名抄、匝瑳郡中村郷の内か。

【吉田町】新潟縣越後國西蒲原郡の南部。燕町の西北に接し、西川の右岸に沿ふ。全村平地にして潦水の便よく、水田多く米を主產す。また町は附近農村の米の大部分及び郡内第一の漁港間瀬の魚類の集散地として商業盛なり。省線越後線と彌彦線の交叉點に當り西吉田驛（大正元年設置）を置く。縣道また四方より集り會し三條・彌彦間バスの便あり。大正十三年町制を布く。〔諏訪神社〕字吉田に鎮座。郷社。祭神、健御名方命・大日孁尊・大山祇命。本殿・幣殿・拜殿等を具ふ。

【吉田村】新潟縣越後國中魚沼郡の西部。信濃川の左岸に沿ひ、北は千手町に隣し西は四〇〇米—六〇〇米の丘陵を分水界として東頸城郡櫛海川の谷を界す。西境藥師峠に發し、村内中央を東流して信濃川に合する小流あり。平地はこの流域及び東部河岸に開け農耕・養蠶を主生業とし、他は概ね山林地なり。米・繭を主產し山地よりは薪炭を出す。村内を東西に貫通する縣道により十日町へ約四粁、バスの便あり。もと妻有庄の内にて、近世隣接諸村と共に吉田郷と稱す。

【吉田村】石川縣加賀國能美郡の西北部。寺井野町の北に接し、西北隅は手取川の河口を挾みて石川郡美川町に對し、西の一部は日本海に面す。加賀平野の一部を占め全村肥沃なる水田開け米を主產し、副業として養蠶行はる。東南部を北陸道貫通し、社線能美電鐵の本寺井驛に近し。省線北陸本線は海岸を通過し小舞子驛に近し。（三道山）大宇三道山にある丘。また三陀山にも作る。北陸街道の東に位す。城址あり、戰國の頃前田氏これに據り丹羽氏を討てり。

【吉田郡】福井縣一市十一郡の一。越中國の北部。福井市の北及び東に接し、九頭龍川の中流に沿ふ。面積一五七・一方粁、縣内第二の小郡なるも最も主要なる地帶を占め人口も多く產業また盛なり。郡は略東西に長く東半部は概ね山地丘陵にして殊に東北隅淨法寺山（一〇五三米）は加賀山脈の南端に屬し山勢峻しく郡内に傾斜す。九頭龍川は東より之の山麓に沿ひ北部を西へ流れ、西部を北流し來る日野川を合して西北流す。兩河の沖積する福井平野は郡の西半部に開け土地豐穣にして水田多し。農耕を主生業とする者多くして米を主產するも、郡の主產物は絹織物・人絹織物等の工產物にして我が國主要なる機業地の一部をなす。首邑松岡町を初め郡内諸町村いづれも機業地ならざるはなく、而もその產額は總生產額の大部分を占む。羽二重最も多く、富士絹・人絹・絹綿交織等あらゆる方面を開拓しつゝあり、概ね輸出品となる。次いで、西部平野の農產物、東部山地の林產物畜產物、或ひは松岡町の清酒、九頭龍川の漁獲物等の特產もあれど、其等產額は前者に及ぶべくもあらず。聚落は西部及び東部九頭龍川河岸に稠密にして、福井市より郡内を貫通し北走する省線北陸

本線及び社線三國廣原鐵道、また福井市に發し郡を縱走して東方の勝山・大野へ通ずる社線越前電鐵により連絡す。國道及び縣道は北陸道・勝山街道を初め何れも福井市を中心に諸方へ通じ交通頗る便なり。郡内松岡町・森田町外十三ケ村を含む。本郡名は延喜式・和名抄共に載せず。中世私に足羽郡を南北二郡に分ち更に北郡に吉田郡を建つ。近世に至り南北二郡を廢して足羽郡み復せしが吉田郡のみは傳へて今日に至る。

【吉田】山梨縣南都留郡の地名。富士山の北麓。北口登山の根據地。いま上下二大字となり上吉田は福地村に、下吉田は瑞穗村に屬す。

【吉田】長野縣上水内郡にありし町。大正十二年長野市に編入、いま町名にその名存し、省線信越本線の吉田驛（明治三十一年設置）あり。

【吉田村】岐阜縣美濃國惠那郡の南部。多治見町の東方約二〇粁。西北は陶町に北は鶯岡村に、東方は明知町に、東南は三濃村に、西南は愛知縣西加茂郡小原村に隣る。木曽地疊の西南へと延びる所、花崗岩山地よりなり、高度は五—六百米程度なり。本村は山地多く平地なく、農耕地の如き大田附近に見ゆるのみにして、僅は草地の山地連亙す。この村には古來良好の陶土を出し、村民の三割は窯業に從事す。東明知よりは本村北部を通過し陶町に至る道あり。鐵道は省線明知線明知驛に至るを便とす。和名抄、惠奈郡淡河郷は此地方一帶を指し、中世は手向の一部をなし、のち室町時代は遠山庄に屬し、江戸時代は遠山氏の所領たり。村名は吉良見村の「吉」と大田村の「田」を取りて付けられ、大字大泉は大船村と小泉村の二字を取り、更に大田は大栗村・田良子村・上田村の合併せしものの。小字小泉は東鑑の文治六年四月十九日の條及び神鳳抄に「美濃國小泉御厨」と見え、康正二年造内裏段錢並國役引付には「濃州小泉四ケ郷段錢」とあれど、安八郡の小泉なるか詳ならず。〔南宮神社〕大字大田に鎮座。祭神、金山彦命。白鳳年間の創立か。例祭、十一月九日。

【吉田】岐阜縣武儀郡にありし村。大正十年關町と共に廢せられ、その區域を以て新に關町を置く。

【吉田村】靜岡縣遠江國榛原郡の東南部。大井川の右岸河口にあり、東は駿河灣に面す。川崎町の北に接し、東北は志太郡相川村・吉永村に界す。村域は大井川の三角洲平野にあり、西部に高尾山（二一〇米）丘陵の東端あり、茶園をなす。東部には湯日川等の網狀河川ありて水田多し。海岸は砂濱にて防風林あり。東部に川尻、南部に住吉、北部に神戸、中央に吉田の聚落あり。社線藤相鐵道は北東より西南に通じ、神戸村・上吉田の二驛大正四年設置）を置き、藤枝にて省線東海道本線に通ず。古くは和名抄、榛原郡神戸郷の地にして、大宇神戸はその遺稱とす。舊名を片岡といふと。〔小山城〕天正三年八月、武田氏の兵當城に據る。徳川家康これを攻む。武田勝頼その後詰として九月大井川に陣す。同十年武田氏の滅亡後廢す。〔能滝寺の蘇鐵〕指定天然記念物。能滝寺の境内、本堂の前にあり。根元より十數本の枝を分ち、最高のものは七米半に及ぶ。〔片岡神社〕大宇吉田に鎮座　郷社。祭神、底筒男命・中筒男命・表筒男命・息長帶比賣命。中世住吉大明神とも稱せられ、除地五石を有せり。式内の片岡神社に充つる說あり。例祭、八月一日・三日。

【吉田】三河國（愛知縣）東部に在り、江戸時代東海道五十三驛の一。御油と二川の間に位す。今の豐橋市。武道傳來記・七「此書簡早々持參致すべしと周章數云付られ、問返すに及ばず支度して參州吉田に急ぬ」丹波與作待夜の小室節「思ひ〳〵の君待ち受けて、解く前乘の赤坂や吉田、二川、白須賀ちよいと越えて、手判御座るか振袖に」假名手本忠臣藏・八「水の流れと人心、若しや心はかはらぬか、日陰に花は咲かぬかと、いふて島田の憂き晴らし、我が身の上を嘶くとだに、人しらずかの橋越えて、行けば吉田や赤坂の、招く女の袖揺へ」伊賀越道中雙六・六「十兵衛が口からいふは、死んで行く此方樣へ餞別、今際の耳によう聞かつしやれ、貫五郎が落つく先は九州相良、道中筋は參州の吉田で逢うたと人の噂」舊栗毛・三下「ふしよう〳〵に荷もつをひつかたげゆくまに、やがて吉田のしゅくにいたる。吉田より御油へ二里半四丁。旅人をまねぐ薄のほくちかと、愛もよし田の宿のよれだち」

【吉田町】愛知縣三河國幡豆郡の南端。半田市の東南二〇粁。北は横須賀村に、東は幡豆町に境し、南は渥美灣に臨み、西は矢作古川を以て一色町に對す。町の大部分は矢作川のデルタ上にありて、東部には古生層よりなる三河山地の一部が渥美灣に終り、丘陵性をなす。矢作川は元この町の西境を本流となしゐたるも其後流路をかへ、現在此地は矢作古川と稱せられ、支流となる。中部には矢崎川南流し、何れも渥美灣に注ぐ。西南部には大島・離島・高島等の島嶼名多く、昔矢作川の川島たりし事を知り得る。矢作川の沖積地には水田多く、南岸は鹽田に利用され、漁港をなす。町は水產多く水產養殖も盛なり。一部絹織物も行はる。交通としては社線名古屋鐵道が南下し、吉良吉田驛（大正四年設置）を置き、社線三河鐵道は三河吉田驛（昭和三年設置）を置く。宮崎口驛（昭和四年設置）を置く。此地は和名抄、幡豆郡磯泊郷の地なり。此地は又デルタが開拓されて新田多く、吉田新田（寛正）・野津新田（永祿）・傳藏芝子新田（同上）・高原新田（慶長）・離島新田（同上）・高島新田（慶安）・辰新田（承應）・吉新田（延寶）・

中須新田（天和）・十港新田（元禄）・黒田新田（元文）・農間新田（天明）・吉崎新田（文久）・広袋新田（元禄）・乙川新田（明治）・白須新田（元禄）・[illegible]・[illegible]・[illegible]

【吉田村】 鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡の北隅。鹿兒島市の北に接し、西南の一部のみ鹿兒島郡の伊敷村に接し、他の三面は他郡に界す。卽ち西は日置郡に、北及び東は給良郡に關まる。周圍山岳を繞らし西境に花尾山（五四〇米）・三重嶽（四八七米）等聳え、北境西部には雄岳（四三六米）あり、東南境には赤扇（五七九米）・惣林嶽・牟禮ノ岡（五五三米）など相連りて西へ傾斜面をなす。中央には南に彎曲して東西に連る狹長なる盆地あり。北部は思川の源流地にして河川は東南流し、沿岸は農耕地をなす。米・麥・繭及び林産・工産・鑛産・畜産等あり。縣道は東北部を掠めて過ぎ、鹿兒島灣岸にある省線日豐本線重富驛（東南約四粁）へバスの便あり。〔猿田王子神社〕 大字佐多之浦に鎭座。鄕社。例祭、十一月初申日。

ヨシダ　良田

【良田】 信濃國（長野縣）の古地名。和名抄に筑摩郡良田鄕あり、與之太と訓ず。東筑摩郡廣丘村・片丘村・芳川村・壽村等の邊に當る。東鑑、文治二年の條に吉田牧とある地なり。

【良田】 讃岐國（香川縣）の古地名。和名抄に多度郡良田鄕あり、與之多と訓ず。その地今の伸多度郡善通寺町の邊か。

ヨシダ　芳田村　岡山縣備前國御津郡の南端。兒島灣の北岸に位し岡山市の西南に接す。笹ヶ瀨川河口東岸の地を占め、對岸に都窪郡福田村あり。面積五・三方粁。近世新樂の地にして村内の地勢平坦、肥沃、灌漑の便に富み美田多し。米・麥・柿・蒟等を產す。四國街道貫通し省線宇野線妹尾驛と岡山市へバス通ず。

ヨシダガタ　吉田方　愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年、牟呂村と共に廢せられ、牟呂吉田村を置く。牟呂吉田村は昭和七年豐橋市に編入す。

ヨシダグチ　吉田口　省線藝備線の一驛（大正四年設置）。廣島縣高田郡小田村にあり。

ヨシタケ　吉武村　福岡縣筑前國宗像郡の東隅。宗像郡の東へ突出せる地點を占め赤間町の東に接す。北は遠賀郡に東及び南に鞍手郡に界す。北部及び南部は山地をなして中央へ傾斜す。釣川は東境に發して中部を西に貫流し沿岸に耕地あり。米・麥を產す。西北部を掠めて省線鹿兒島本線が通過し西方約三粁に赤間驛ありてバスの便あり。吉留・武丸の二部落を合して本村を建つるの際、各その一字を取りて吉武村と名付く。〔八所神社〕 大字吉留に鎭座。鄕社。祭神、泥土煮尊外七神。神武天皇御東征を守護せるより此の地に遷座せり。式内社宗像宮に亞ぐ。例祭、九月十九日。

ヨシダジマ　吉田島村　神奈川縣相模國足柄上郡の南部。松田町の南隣にて酒匂川の西岸にあり。面積二・六二方粁の小村なり。酒匂川流域平地の一部を占め、水田・畑地ありて農業行はれ麥米を產し、養蠶も行はる。縣道は松田町及び南方足柄下郡小田原町方面に通じ、松田町には省線御殿場線松田驛・社線小田原急行鐵道新松田驛を置く。

ヨシダチョー　吉田町　江戸（よしがち）岡場所の一。本所吉田町。最下級の遊女卽ち夜鷹の住む所、多くは他へ出稼に行く。婦美車紫鹿子「吉田町。此浮土入江町にかわる事なし、もしも通りかかりつかまへらるると雷がなつてもはなさず、おそろしき處也。ここよりも切實いづる兩國向、藥研堀、柳原土堤、筋違橋、駿河臺、護持院はら、飯田町、石町河岸、四日市、原御堀ばた通、京橋びくに橋迄、本店の場所也」

ヨシタニ　吉谷村　新潟縣越後國北魚沼郡の西端。小千谷町の西南に隣接し南より西へかけては丘陵を以て中魚沼・刈羽の兩郡に界す。村境の三百米位の丘陵は擬れ東北に傾斜し信濃川の小支流を源流し、東北部に平地開く。農蠶を主とし米・繭を產し麻布織の產も多少あり。省線上越線小千谷驛より約四粁バスの便あり。吉谷は近世鄕名に呼ばれ四近諸村を統べたり。

ヨシチョー　芳町（よしちょう）　葭町にも作る。江戸岡場所の一。男色をひさぐ陰間茶屋のありし所。東京市日本橋區の略中央。堀留に架せし親父橋の東詰に芳町・新葭町等の名稱殘る。辰巳之圖「芳丁に西川重三郎と云、人形遣ひ、ぞうしがへやと云て有」契國策「中おふには、堺丁ふきや丁よし丁新道七間丁代地などは男色の根元」

ヨシトシ　吉利村　鹿兒島縣薩摩國日置郡の中央西岸。伊集院町の西南に接し、西は東支那海に臨み、東方約八粁に鹿兒島市あり。東部は丘陵地をなし西部には低地あり。海岸は沙洲にして碇泊に適せず。北境に沿ひ大川が西流し海に注ぐ。米・繭・麥を產し、また若干の工產・林產・畜產あり。西部には縣道および社線南薩鐵道が縱貫し、吉利驛（大正三年設置）あり。〔吉利神社〕 大字吉利に鎭座。鄕社。祭神、鎌倉權五郎景政。創立年月不詳。例祭、十月五日。

ヨシトミ　吉富村　京都府丹波國船井郡の南部。八木町の北に接續する村にして、東は大堰川を限り、支流園部川との合流點に位す。本村は亀岡盆地の北限並くにあり、大部分は古生層の山地にして、河川の流域に耕地あり、農業・養蠶業行はれ、特に多角的農業が發達せり。山地は最高三七八米に過ぎざる丘陵性山地にして、村を圍繞し、また村の中央に丘陵地突出し地形複雜なり。大字木原には一萬八千餘坪の鑛區を有する木原鑛山あり。昭和十年に滿俺鑛二九瓩を產出せり。交通は山陰街道が亀岡より八木を經て本村に入り、大堰川右岸に沿ひ園部に至る。省線山陰本線これに並行に通じ吉富驛（昭和十年設置）を置く。大堰川と園部川との合流點に位する鳥羽は、古くより大堰川流筏の中心地たりし所、慶長十一年八月、殿田・鵜嶋間の水路が角倉了以によつて開鑿さるゝや、其の二港間の中繼港となり、木材・米・鹽等の集散地として發展し、亀岡盆地に於ける舟筏の一中心地となれり。其の取引は、奥地の檜山・須知・竹野・園部・摩氣・新庄・川邊方面生產の取引所たり。また園部藩の御米藏も此地にあり、園部城下の外港たりき。然るに鐵道開通後に於ては、交通的變革により全く其の影を沒するに至れり。本村は和名抄志摩鄕の地なり。中世吉富莊として山城高雄神護寺領たり。後十一ヶ村に分れ内九ヶ村は元和五年より園部藩領となり、南部の南廣瀨・木原の二ヶ村のみ亀山藩領となる。明治維新に際し園部・亀岡二縣に分屬せるも明治四年より京都府治となる。

ヨシトミ　吉士賀村　廣島縣安藝國賀茂郡の東北部。西條町の東に接し、東南は豐田郡に界す。北は造賀村、東は西高屋村に接す。面積一〇・一五平方粁。地形南北に延び東西に狹し。北部及び東南部に海拔五—六百米の山地連りて、地勢中部より西部にかけて展け、西條町に接續する廣濶なる平地存し、耕地拓く農業・牧畜盛にして米・麥・繭・家畜・清酒等の產多し。山陽街道は西南部を貫き西條町に近く、また省線吳線竹原驛へバス通ず。この地は和名抄、賀茂郡賀茂鄕の内なるべし。中世は西條庄に屬す。もと吉行・土與丸・助實の三村に分れしが町村制實施の際合併して吉土賀村と名づく。〔安藝國分寺塔址〕 指定史蹟。大字吉行字伽藍にあり。塔址の土壇存し、十七個の自然石の礎石遺存し、中央の心礎は畿中に圓形の柄孔を有す。何れも火災に罹れる痕跡を存し、出土の瓦は巴瓦・唐草瓦あり、これより約六〇米を距てし現時の國分寺に所藏す。

ヨシナ　吉名

【吉名】 陸奥國 磐城・福島縣）の古地名。和名抄に行方郡吉名鄕あり、諸本訓を闕くも高山寺本によりて與之奈と訓む。其地詳ならざれども、いま相馬郡小高町（おだかまち）・金房村の邊か云ふか。小高町の大字吉名は鄕名の遺稱とす。

【吉名村】 廣島縣安藝國豐田郡の西南海岸。竹原町の西に隣接し、東南は瀨戸内海に面す。北は賀茂郡に界し、西に木谷村接す。面積九・七五平方粁。地は北に頂點を向けたる三角形をなし、北部に四—五百米の山地東西に連る。地勢海岸に向ひて傾斜す。西南部にも小山地蟠り海岸に迫る。海岸は標式的リヤス式海岸をなし、斷崖・峽灣相連りて風光美なり。山麓に耕地拓く。米・繭・麥・綿・鰯・鯉・家畜・酒類・木炭等を產す。省線吳線通じ村内に吉名驛（昭和十年設置）を置く。

ヨシナ　吉奈　→上狩野村（静岡縣）

ヨシナガ　吉永

【吉永村】 静岡縣駿河國富士郡の東南部。東南に須津村、南に元吉原村、西側に大淵村・傳法村・原田村・吉原町等あり。村の大部分は愛鷹山の北西山腹にて、東北境に呼子嶽（一三一三米）その北に越前嶽（一五〇五米）、南に大嶽（一二五三米）等あり、南部は地下水豐富にして水田多く、また製紙業盛なり。北部に勢子辻、高度七五二米・子東、高度六〇〇米の高地聚落あり、千東の北に心敬本部あり。一般に畑地・草原多く茶園・果樹園多し。古くは藤名鄕の地にして、大字比奈は其の遺稱とす。大字桑崎は富士箱根國立公園の内なり。

【吉永村】 静岡縣駿河國志太郡の東南部。北に静波村、南西に榛原郡吉田村あり、東は駿河灣に面す。村の西南は大井川にて限られ、同河の三角洲にして左岸にあり。水田多く、海岸に砂丘・松林あり、地藏森・宮島の聚落あり。海岸は釘ヶ浦と稱す。〔八幡宮〕 大字利右衛門に鎭座。鄕社。祭神品陀和氣命。相殿に須佐之男命を祀る。大同元年の勸請と傳ふ。足利義晴崇敬す。江戸時代朱印領七石五斗を有せり。例祭、九月十五日。

【吉永】 省線山陽本線の一驛（明治二十四年設置）。岡山縣和氣郡英保村にあり。

ヨシナリ　吉成　德島縣板野郡鷹神村の大字。省線高德本線の吉成驛（大正五年設置）を置く。

ヨシヌマ　吉沼村　茨城縣常陸國筑波郡の西北部。小貝川の東岸にて、西は川を隔てゝ結城郡と相對す。大部分低き臺地にて畑地多く、所々林を交へ、西境を南流する小貝川附近は平地にして水田をなす。農業行はれて米・大麥・小麥を產す。縣道四方に通じ東北方は北條町に至る。また西は結城郡に入り、宗道村に通じ、同村の此線常總鐵道宗道驛に出づるに便なり。古くは和名抄、筑波郡方穗鄕の内とす。

ヨシノ　吉乃鑛山　→西成瀨村（秋田縣）

ヨシノ　吉野

【吉野山】 北海道大沼公園の一部に峙つ小丘阜、渡島支廳七飯村に屬す。標高四八四米。北東山腹のスロープは吉野山スキー場として知られ、積雪も多く雪質も良く、地形にも種々變化あり、近時大シャンツェも建設せられたり。北方眼下に大沼、西方眼下に小沼を見下し、大沼の彼岸には駒ヶ岳を指呼し、展望佳なり。※七飯村

【吉野村】 山形縣羽前國東置賜郡の北部。宮内町の北方約一二粁。東は南村山郡、北端は東村山郡、西は西置賜郡に隣す。北方に白鷹山（九八六米）、東境に烏帽子山（六二七米）・黑森山（八一一米）聳え、吉野川は北部に發源し、村の中部を南流す。全村概ね山地をなし、河岸に耕地拓く。繭・米を產す。村内に日本鑛業會社

に所屬する日坂鐵山（鐵種は金銀銅鉛亞鉛）あり、一時は相當榮えしも現在は全く振はず。有會社はこれに代るに當村内なる吉野鐵山（鐵種は前同）を以てせんとし、昭和十年より事業を開始したるが、未だ成功の域に達せず。また村内に石膏を產する所あり。道路は村の中部を略南北に通じ、省線長井線宮内町驛へは南方約一二粁あり。

【吉野】 千葉縣君津郡にありし村。昭和十年大貫町と共に廢せられ、新に大貫町を置く。

【吉野村】 東京府武藏國西多摩郡の東部。青梅町の西隣にて、多摩川の南岸にあり。全村山地にして南境は約四五〇米あり。北方に傾斜して北境を東流する多摩川の谷に臨む。山地一帶森林多く、木材を產す。梅林ありて名高し。川沿ひには狹き平地ありて養蠶・農業行はれ、藍・米・麥を產す。その他織物業・醸造業等の工業盛なり。縣道は川沿ひに走りて青梅町に通じ、聚落は之に沿ひて發達す。川の北岸を社線青梅電氣鐵道西走し、青梅・日向和田・二俣尾・軍畑・澤井の諸驛近し。

【吉野町】 神奈川縣相模國津久井郡の西北部。桂川の北岸にて、東は與瀨町に隣り北は東京府南多摩郡と接す。面積小なり。全町山地にて、北境に陣馬峰（八五七米）あり。それより南方に傾斜し、南境を東流する桂川の谷に臨む。川沿ひに狹き平地ありて蔬等を產し、養蠶行はる。甲州街道は川沿ひに西走し聚落は之に沿ひてのみ發達す。省線中央本線また之に沿ふも町内に驛なく與瀨驛に近し。此地もと吉野驛と稱せしが、大正二年吉野町と改む。いま小淵・澤井村と組合町村をなし、役場を本町に置く。明治十三年明治天皇、山梨三重及び京都行幸の際、本町に於て御畫餐あらせらる。

【吉野村】 福井縣越前國吉田郡の中部。松岡町の南に接し、福井市の東方約六粁。南は足羽郡に隣接す。東南境の吉野ヶ嶽（五四七米）を初め東・南・西の三方に低き丘陵を繞らし、中央より北へ狹き平地を抱き、西北は福井平野に連る。聚落は概ね平地にありて、米作・養蠶に從ひ、人絹織物業も行はる。主生業を農・工とするも林業も比較的盛にて用材・木炭を出す。北部を東西に走る縣道あり、社線越前電鐵の松岡驛へ約二粁交通便なり。大字吉野境阜丘の頂に坂上刈田麻呂の墓あり。墓下に石棺を藏む。明治十三年風雨の爲め自然に棺蓋現はれ、棺は巾二尺六寸、長さ八尺二寸五分、深さ一尺二寸、側面に坂上刈田の四文字を發見す。現今坂上神社あり。

【吉野村】 福井縣越前國丹生郡の南東部。武生町（南條郡）の北に接し、東は日野川を隔てて今立郡に、東北隅は鯖江町に界す。東境を日野川北流し、西部に二百米餘の丘陵を有するのみにして、域内概して平原をなす。米・野菜・果實を主產物とし、近來人絹織も漸く盛となる。永坂焼は壺・擂鉢等を出すも產額多からず。東部を省線北陸本線・武生街道・社線福武電鐵の三交通路南北に並走し、武生・鯖江間の交通至便なり。福武電鐵の家久驛（大正十三年設置）を置く。また中央にて交叉する縣道あり、社線鯖浦電鐵去川驛へも通ず。古くは和名抄、丹生郡丹生郷の内とす。大字本保（ほぼ）に略々村の中央にあり、近世江戸幕府の陣屋を置ける所にして、散在の田凡そ十三萬石を支配したりといふ。即ち、飛騨高山陣屋の出張所とす。〔鵜甘神社〕大字片屋にあり。應神天皇・神功皇后・武内宿禰を祭る。今は一村社に過ぎざるも昔は府中（武生本多家の新願所として社殿壯麗を極めたり。〔妙心寺〕大字家久にあり。文明二年本願寺の蓮如上人が叡山の僧兵に逐はれて北國に入るや、當庵に匿れたり。故に今尙蓮如上人御影が吉崎下向の時には必ず御畫所として此地に立寄る也。〔本承寺〕大字家久にあり。本妙法華宗。妙榮山と號す。永祿三年の創建。初め眞言宗に屬せしが後現宗に轉宗。

【吉野村】 靜岡縣遠江國濱名郡の北部。東南は濱松市に隣り、西に伊佐見村・和地村あり。地は三方ヶ原の洪積臺地にして松林・原野多く、桑・茶・甘藷等の栽培盛なり。もと須ノ木澤村と稱せしが、明治二十四年吉野村と改稱す。村内に濱松航空燈臺あり。

【吉野】 京都府竹野郡にありし村。昭和八年、吉野村・鳥取村・溝谷村・深田村を廢し、畑榮村を設く。

【吉野郡】 奈良縣（大和國）十郡の一。縣の南半を占め、西より西南にかけては和歌山縣に界し、東より東南にかけては三重縣に接す。壯年期に屬する紀伊山脈の中央を占めて地形高峻なり。即ち中央には大峯山脈が南北に連り北端の吉野山より四寸岩山・大天井ヶ嶽・釋迦岳・行者還嶽・彌山（最高峯、一九一五米・明星ヶ嶽・土剪山・佛生嶽・釋迦ヶ嶽・大日嶽・天狗山・地藏嶽・涅槃嶽・行仙嶽・笙拾山・玉置山等峻嶮なる山峯櫛比し、東に鼓脈乏しく南流する北山川の谷に臨み、西は短き數多の支脈を西に擴げて、附近の水を集めつつ南下する十津川の深谷に臨む。北山川の谷を隔てて東境には臺高山脈が南北に連り三重縣を劃し高見山・國見山・池ノ木山・大臺ヶ原山の三津河落山・日ノ出嶽（最高峯、一六九五米等聳ゆ。西境には大峯山脈との間に複雜なる屈曲をなしつつ南流する十津川を挾んで、陣ヶ峯・白日峰・護摩ノ壇山（一三七〇米）・鉾尖嶽・崖又山・牛廻山・大峰山・和田森・安堵山・千丈山等の山峯が蜿蜒と連立して和歌山縣を限る。北山川と十津川は奈良縣を出でて兩者相倚り南方約四粁にて合流して熊野川となり、和歌山縣・三重縣界を東南流す。北境には龍門山脈が東西に連り

東境の大臺ヶ原山より發する吉野川は東北部を西北流し、吉野山の東より北を繞り、北東境の高見山より源流する小川の水を入れて龍門山脈の南麓を西流す。人煙稀なる深山岡谷多く北部の吉野川流域にのみ市街地の發達を見る。南部の十津川村には温泉の湧出地あり。全郡大產林地をなし北部の吉野杉の名高く、河川沿岸地は林業發達し、伐採せる木材は河川或は鐵道によりて下流への運搬盛なり。吉野川沿岸の下市町は木材の集散地をなす。其他產物には繭・米・麥・養蚕等を出しまた蜜柑・干柿（大和のツルシ柿）等を產する村もあり。郡内は上市町・吉野町・大淀町・下市町の四町外二十一ヶ村を含み、郡平均の人口密度は一方粁四四人を示すに過ぎず、吉野川流域の上市町は一四〇一人を擧して郡中頭角を抜くも、上北山村の如きは僅かに一四人を數ふるのみ。交通は北部が稍々發達し吉野川流域には伊勢街道が横斷し、西北部にて奈良盆地より來る中街道が之に連絡し、東北部にては、榛原街道が之より分れて北走し、また中央にて伊勢街道より分岐する一縣道は、吉野川の上流に沿ひて東南走し、更に北山川河谷に出でて南走して三重縣に入る。また奈良縣より入り來る社線大阪電氣軌道吉野線は吉野山山麓に至る。〔吉野參照〕

【吉野町】 奈良縣大和國吉野郡の北部。櫻の名所吉野山によりて、吉野川の南岸に沿ふ。西は下市町に東北は川を距てて上市町に界す。地は吉野山の山地を占め土地は次第に東南方へ高まり東南隅に於て八五八米の高度を有す。吉野山は大峯山脈の一支脈にして北方吉野川畔より起り、南方青根峰まで峰背一〇粁の尾根の稱呼にして、山上は峰に沿うて道路開け藏王堂・如意輪寺の風ふと共に門前町が生れ、道路の兩側に旅館・料亭・土產物店並びて街衢をなし、こゝに人口約三千の住家の多きも、外に繭・米・麥・養蚕の產物なからず。社線大阪電氣軌道吉野線が山麓に通じ吉野神宮驛（吉野驛）共に昭和三年設置）あり。また架空電車ありて千本口驛・吉野山驛あり。其他自動車・馬車の往來繁く交通至便なり。この地はひとり櫻の名所たるのみならず、古來史蹟に富み、就中吉野朝廷の所在地として懷古の情を唆ること多し。觀櫻の好期は通例四月十二三日より二十二三日頃とし、先づ吉野驛附近の「下の一目千本」に始り、漸次に如意輪寺附近の「中の一目千本」、小山神社附近の「上の一目千本」に及び、最後に金峯神社附近の「奥の一目千本」に及ぶ。古來、吉野山を詠ぜし歌謠は極めて多けれど、本居宣長の「いづれなか花とはわけて眺めましなべて櫻のみよしの山」、八田知紀の「吉野山かすみの奥はしら雪ども見ゆる限りは櫻なりけり」は最も人口に膾炙さる。吉野は、芳野・三芳野とも稱し、早くも神武紀にその名見ゆ。天智天皇の朝、役小角が金峯山を開き、修驗道の漸次盛なるに及びて寺院等のここに建立せらるるもの多く、此頃より櫻樹が植ゑられしものならん。大海人皇子（後の天武天皇）が世を遁れこの山に入り給ひ、ついで持統天皇以下の諸帝も行幸あり花の名所としてその名既に著はる。文治年間に源義經等の一行が靜御前を伴ひて入山し、元弘年間には護良親王が討幾の兵をここに擧げ給ひて藏王堂に拠られしが、北條の大軍の爲利あらず、親王は一時山奥深く遁れ給ひ、村上義光父子が難に殉ぜり。延元元年後醍醐天皇がこの地に潛幸し給ひしより、後村上天皇の正平三年、楠木正行が四條畷に戰死せし後、高師直・師泰等が來りて皇居に火を懸けるに至る間吉野朝廷の所在地たり。天正年間には櫻樹一萬本が增植されしことあり、文祿三年に豐臣秀吉が催せし吉野花見は實に一代の豪遊なり。江戸時代に至れば、德川家康は僧天海に命じ當山の金輪王寺を日光山に移さしめ、爾來吉野山は日光山の支配地となりし故往時の盛觀見ることを得ず。明治維新後は寺院の勢力失墜と共に名勝舊蹟も漸次頽廢に歸せしが、近時それぞれ復舊さるゝに至れり。されば今も吉野に至れば村上義光父子墓・銅大鳥居・仁王門・藏王堂・金輪寺皇居址・吉水神社（もと吉水院）・山口神社（もと勝手明神）・如意輪寺・後醍醐天皇塔尾陵・竹林院・水分神社・金峯神社・西行庵等の舊蹟を探ることを得。このほか明治に創設されし官幣大社吉野神宮あり。いま吉野山は史蹟及び名勝に指定さる。〔吉野參照〕

【吉野】 謂ゆる吉野時代凡そ五十七年間吉野朝廷のありし處。廣義には「歌書よりも軍書に悲し吉野山」の名句に云ふが如く、終始戰略上の本據となりし吉野山を指すも、こゝに吉野と稱するは必ずしも吉野山・吉野町に限定せず、總じて吉野山を中心とする吉野群山（吉野山地）、即ち大和國吉野郡一帶の汎稱とす。

一　地理概觀

吉野の地勢は全般に山嶽地帶にして、北方に聳立する吉野山は南方に延びて益々高峻嶮阻となり、大峯山脈の連峯相重りて大和の津梁をなして紀伊に達走す。河川は吉野川大臺ヶ原山の北に發して西北流し、のち高見山を發したる小川と國樓に於て合し、吉野山の北麓を洗ひて西流し、宇智郡五條の傍にて東南方より北流し來れる支流黑滝川を合し、和泉・紀伊の境をなして遙に紀ノ川となりて、和歌浦に注ぐ。流域州界まで十六里三十一町、河幅三町、水深六尺あり。伯母峯の南方を發せる北山川は大峯山脈の東麓を洗ひて南流し、河合に於て大臺ヶ山の東方を發して西南流し來れる支流を合し再び南流しのち大和・紀伊の境界に至りて西流し北方より南流し來れる十津川と合して更

に南流して熊野灘に注ぐ。北山・十津の二川は山嶽重疊の間を急流して深き溪谷をなし、吉野・黒滝の二川と共に相依りて吉野及びその南方山嶽地帶たる十津川郷の四周を包圍して全く外境と隔絶し、自ら別天地を形成するの觀あり。吉野川は水流緩漫にして、舟運及び木材の運輸に適す。然れども他の河川は皆兩岸絶壁をなし水流急激にして僅かに木材の運輸をなし得るに過ぎず。道路は吉野川に沿ひて北岸に伊勢街道東西に走り、東方は山田に至り、西方は和歌山に至る。京都・奈良及び河内方面より南下して同街道に達し、之より吉野に入らんとせば必予吉野川を渡渉せざるべからず。渡渉點の主なるものは六田・下淵・五條にして、現今の電氣鐵道線路は六田の稍東方の地點を渡りて吉野に入る。吉野川に沿ひて之を溯り伯母峯峠の嶺を越え、夫より北山川に沿ひて急坂を南下し、一は木本に出で一は新道に達す。下淵及び五條を渡渉せる街道は縱れ黒滝川に沿ひて南下し、夫より十津川に沿ひ、溪谷の間を蹤ひて迂回曲折して本宮に出で更に新宮に達す。かくの如く吉野は山嶽と河川によりて天然の要害をなし、守るに易く、攻むるに難く自ら堅固なる一大城郭をなせるの觀あり。されば古來軍事上極めて重要なる地となれり。天智天皇十年皇弟大海人皇子（天武天皇）剃髮して吉野に退隱せられ國權にありて他日の雄飛を期せられたり。

文治元年十一月、源義經、兄頼朝と不和となり、吉野に入り吉水院に潛匿し遂にて遂に奥州に赴くを得たり。元弘變に大塔宮護良親王は吉野山に義兵を擧げられ延元元年後醍醐天皇吉野山に行宮を建てられ、それより後五十七年間、吉野朝廷主としてこの地を戰略上の本據とし勝たる小勢を以て足利の大軍に抗し、皇運回復の雄圖をなしたる所以は、即ちこの地勢に基く天然の要害を利用したるものと云ふべし。

二　郡郷制度の沿革

神武天皇の東征し給ふや、大和に入りて吉野の地を巡幸し給ひ、之を定めて吉野造及び吉野山直・國樔等を分領せしめらる。大化の改新國郡の制整ふに及び郡を立てゝ吉野郡となす。元明天皇和銅四年四月、同郡に始めて大少領各一人、主政二人、主帳一人を置かれたり。其後元正天皇の時吉野郡を吉野監と改められ、和泉監と共に二監となす。和泉監は靈龜二年四月置かれたれば、吉野監も亦この前後に設置せられしものなるべし。律書殘篇に芳野監芳野國郡二郷三里九と見ゆ。監は國に准ぜられ特殊の行政を施されしを知るに足らん。聖武天皇天平四年七月、兩京・四畿内及び二監をして内典の法により以て雨を請はしめらるゝの事あり、尙吉野監の存置を知るべし。同十二年和泉監を廢して河内國に屬せしめられたれば、芳野監も此頃廢せられ、郡制に改められしものか。和名抄によれば、同郡に吉野・賀美・郡賀・雲梅の四郷あり。中世以降吉野に十八郷の名稱あり、その郷名を記したるものなければ、詳かならざれども、賀名生・宗川・樋川・十津川・北山・北・天河・國樔・御料・古田・丹生・池田・河野・黒滝・小川・中荘・官上・龍門なるが如し。而して是等十八郷を管領するものを庄司・公文と稱す。庄司・公文は吉野舊事記に

傳曰、吉野一郡ハ從往古郷士トシテ所々ヲ司リ領之、爰ニ後醍醐帝之時、召一郡之長、勅而各賜八旗、因而一郡之爲旗頭、其庄ヲ司ル故呼庄司、亦呼八旗八庄司而一郡ノ惣將ナリ、次ニ呼從旗頭庄司十六家、公文三十六家、此外ニ下司、正下、郷侍ト號ルモノアリ、都而是等ハ軍場エ赴ク時野伏ヲカリ集メ、組々ノ爲頭故、印ノ旗ヲ用ユ、因爲旗頭、一郡之郷士也。

と見え、皆一郡に於ける古來の郷士にして、後醍醐天皇の時、八旗八庄司の制設けられしと傳ふ。八旗八庄司は秋津氏守吉・御料太夫成清・堀大膳太夫信脩・御岡兵衛・小野氏某・佐野氏某・廣橋氏某・畑山氏某なり。次に從旗頭庄司十六家は

樋垣庄司　有北郷
梨子堂庄司　有御料郷
鹿場庄司　有古田郷
滝庄司　有加名生牢郷
西山庄司　有丹生牢郷
池田庄司　有池田郷
加藤庄司　有河野郷
尼ヶ生庄司　有御料郷
奥谷庄司　有加名氏
中戸庄司　有古田郷
小古田庄司　在黒滝郷
西谷庄司　今ニ庄司ト云
寺谷庄司　有古田郷
桂庄司　有黒滝郷
　　有小川郷
　　有北山郷

等なり。また公文三十六家は

善城公文　有御料庄
平沼田公文　有古田郷
大日川公文　加名生牢郷
四邑公文　官上部郷
宮瀧公文　中庄郷
樫尾公文　中庄郷
阿知我公文　官上部郷
同所公文　上田氏
同所公文　同上、樋本氏
同所公文　同上、中村氏
同所公文　基治、樋口氏
土田公文　同郷、樋口氏
立石公文　同郷
永瀧公文　相模ト云
臨川公文　同郷、加藤氏
河野郷公文　黒滝郷
　　同郷
　　大西氏東氏
　　東稔宗

等これにて、尙ほ矢走牧・鷲家口・六田・丹治・山口等の公文あり。次に正下の一族は河野郷に在り。郷士には堀内氏・和田氏・政所氏・伶原氏・殿野氏・中津川氏・野長瀬氏・玉置氏等あり。吉野一郡は嚴れ

金峯山寺の支配下にあり、されば八庄司等は毎年三月三日吉野藏王堂に出仕會合して、年中の取締めを行ふ慣例ありと傳へらる。而して中世金峯山寺が興福寺一乘院の末寺たるの關係により、吉野郡の年貢が一乘院に收納せられしが如く、東院毎々雜々記、應永十三年四月二十七日良過の書狀に「吉野郡年貢内半分爲給恩可寃行長雅僧正之由畏奉候了」と見えたり。降りて元龜天正の頃に及ぶや、遙下郡筒井の豪族筒井順慶は織田信長と結びその後援によりて天正四年大和一國を領し武威を振ひ頓りに兵を動かして國内を蹂躙し遂みて吉野を併呑せんとす。同八年十月信長は大和平定の實を擧げんとして瀧川一益・明智光秀を大和に入部せしめ、國内の本所・諸寺諸山・國衆等をして悉くその領する所に對し指出を徵せしむ。國中の動搖不安その極に達し前代未聞と稱して驚怖せり。十一年六月、信長弑せられ、十二年八月、順慶また病歿したれども、信長の海内統一の遺業を繼ける豐臣秀吉は大和平定の目的を以て順慶の後嗣定次を伊賀に轉封せしめ、自己の弟秀長を國内に入れ、天正十四年再び指出を徵せしめ、豐年小瑞新介をして吉野郡内を檢地せしむ。後文祿四年更に八島久兵衛尉をして郡内を檢地せしむ。即ち世に太閤檢地と稱するものなり。而して北山舊記に記す所によれば、檢地の使者前年天川より大峯を越し、川合の枝郷西山に至りて檢地に取掛りしに、郷民之に從はざるを以て小瀬村・栃本村に取掛りしに、之亦承引せず、秀吉より申請けざる所領なれば、檢地を受くべき理なしとて之を拒む。强ひて無引棒打する者を打擲するの狀にて、已むなく中止せしと云ふ。されど文祿の檢地は遂に强行せられて郡内に村數二百六十四ヶ村、高三萬三千百九石を得、こゝに近世に於ける郡村制度の基礎をなすに至れり。なほこの時の調査によれば、郡中に騎馬の士二百五十七人、雜兵五百七十人あり。これ謂ゆる吉野の郷士にして、筒井諸記によれば是等の郷士は概ね古來由緒ある者の土着なるを知るべし。

吉野郡騎馬二百五十七人
雜兵五百七十人

秋津治部法印浄證
秋津兵衛門　上市門兵衛　今木藤七
飯貝左吉　岩坪主膳　大石國書　檜垣
本丹波　土田薩摩　千股勘介　西谷右
京　神徴齋　大野孫七　小石肥後　小
河小太郎　小河次郎時元　龍馬家兵部
天目龍馬塚　入野多門　國栖介五郎　龍宗
寺師介　井戸兵衛　柏木主税　西川兵
庫　西川但馬　和田陸奥守　北山千八
郎　木田吉野重秀　横川前司覺班　相
模小犀　川磯法眼　山階法眼　治部法
眼　役ノ井房　飯尾美司　常陸善司主
殿佐　吉水大納言　小路勝兵衛　阿和
加内匠頭　北角春行　柏原寄内　平坂
平介　平左吉　平左近進　前木淳内
大日新六　谷山右馬　瀧村新藏　森本
左右　大峯鷲物　赤松利介　阿野堀源
兵衛
天川谷十二ヶ郷
鈴谷左近清成　野川柔女　三明主膳
坂本小刀彌　平川民部　殿野兵衛　中
津川甲斐　大役庄司永郎左衛門　小役
土佐　芋瀬庄司赤太郎　三浦小松三郎
兵衛　野長瀬半介　宇讃原大學　宇井
長三郎　阿瀬川庄司　中原式部　湯川
庄司　上湯川少進　湯原出雲　小原庄
司次郎　多羅原兵七　鶴砂瀬庄司八郎
平瀬刑部　野尻甲折　池峯小左衛門　葛
川土佐　上葛川織部　遠野與市　殿野
中務　玉置其三郎　四十瀬權大夫　小
山手主殿　七色組母　西野丹波　白川
奥大夫　古瀬大膳　竹鶴兵衛太夫
江戸時代に於ける郡内の石高村數は、元禄十五年大和國郷帳によりて明らかにするを得。即ち左に掲ぐるものなり。

石高	村名	石高	村名
一二・九四五	瀧村	三六・九四〇	平野村
一三〇・〇二八	杉谷村	四〇・七八八	谷尻村
二九一・〇二〇	木津村	二五・六八〇	日裏村
四八・七二四	麥谷村	八八・三九五	大豆生村
一〇八・七二〇	伊豆尾村	二四一・〇一二	鷲尾村
四三・三七七	萩原村	四〇・四八四	木津川村
三一一・八六一	三尾村	一七七・〇一九	挾戸村
一九四・一二八	小村	一八〇・八〇三	鷲家口村（鷲家口郷）
三三一・四五三	中黒村	一八八・三六〇	小栗栖村
四五〇・四四八	大熊村	三〇八・三八八	平尾村（中黒村・大熊村郷）
三八七・九〇八	上片岡村	三三七・〇九一	下片岡村
四八七・六四〇	田原村	三四一・九六八	栗野村
九九・九三八	牧村	二七九・九二三	大野村
四一七・八〇一	色生村	二四〇・四八八	入野村
一〇九・九二四	窪垣内村	一二八・八三一	新子村
一三六・〇〇一	野々口村	一九二・八二九	南國栖村
一二七・三九	大野村	四〇・〇三〇	矢治村
一六四・七三三	樫尾村	一一〇・七三二	菜摘村
八二・三〇四	喜佐谷村	一四〇・四一七	御園村
一四三・一八八	宮瀧村	一八八・七四八	澤風呂村
三一九・三二四	榊井村	四一一・〇七六	河原屋村
三六五・三八〇	平尾村	三一九・三七一	山口村
三六八・四一〇	香東村	四四一・四一〇	柳村
四二・四一三	三津村	三二一・六八〇	西谷村
三三四・三二〇	宮瀧村	一九四・六三五	峰寺村
九一・四〇〇	立野村	三九八・〇〇〇	志賀村
一八〇・三三三	東千股村	一四六・三三〇	西千股村
六四・四七八	瀧ノ畑村	六八一・〇八八	中增村
三八〇・四三〇	西摩志村	三〇七・〇三〇	上市村
三九・三八三	增口村	七四・八四一	北六田村
四二四・二一一	比曾村	二七二・六四一	馬佐村
三六三・三三二	越部村	二二一・三三〇	土田村
二〇七・〇〇〇	新野村	二二四・三三八	畑屋村
一四四・四七二	蔭原村	一九二・八二三	矢走村
八四・四二一	薛尾村	一九六・三四〇	岩囊村
九二・〇六	鉄立村	一九二・三六八	大岩村
一七一・〇二〇	今木村	四三七・一三三	樋垣本村
一〇一・九六四	下淵村	六六四・一二八	新住村
六一・〇八二	下市村	二四八・三七四	阿知賀中村
一一三・〇八四	瀬ノ上村（阿知賀ノ郷）	一六七・〇一四	組村
	中屋村（阿知賀ノ郷）	一四二・七九九	野々熊村（同）

上村	二・〇〇〇	国村	二・〇〇〇
大河内村	二・〇〇〇	小原村	二・〇〇〇
長田村	二・〇〇〇	高原村	二・〇〇〇
佐屋村	二・〇〇〇	大野村	二・〇〇〇
石動村	二・〇〇〇	安倉村	二・〇〇〇
中村	二・〇〇〇	時安村	二・〇〇〇
高田村	二・〇〇〇	安倉村	二・〇〇〇
鳥屋村	二・〇〇〇	小原村	二・〇〇〇
新子村	一・〇〇〇	大谷村	一・〇〇〇
新川村	一・〇〇〇	高原村	一・〇〇〇
石谷村	一・〇〇〇	長谷村	一・〇〇〇
長

北條・足利の二氏、朝命に抗し天下亂るゝや、一山の大衆及び近傍の郷民等義によりて起ち、後醍醐天皇の皇子大塔宮護良親王を吉野山に守護して賊軍を討ち、後には後醍醐天皇行宮をこの地に建て給ふや、忠勤比なく、吉野朝廷四代五十七年間を支へしは、寺坊の壯大と衆徒の强勢によれるなり。次に金峯山信仰の事蹟を略述すべし。金峯山創草記・金峯山縁記・熊野金剛藏王寶殿造功日記等によるに、天智・天武・嵯峨・仁明・文德・清和・陽成・宇多・醍醐・朱雀・村上・冷泉・一條・後一條・白河・堀河・鳥羽・後白河・後鳥羽の諸天皇、藤原道兼・同道長・同頼通・同師通・同齊信・同信家・源俊房・同雅實・同雅定・同通資・同鎮朝等の攝關・朝臣・武將、皆深く金峯山に歸依して、或は經卷・佛具・寶物を奉納し、或は堂塔を建立し、田莊を寄進し、また屢々自ら親しく山驗を攀ぢて參詣し、鎌倉供養をなし、山頂に埋經する等、その信仰の熱烈は寧ろ驚異に値す。以下その顯著なる例を列擧すべし。現今藏王堂に國寶に指定せられたる鍍金經箱三箇あり。是等は皆元祿年間、山上藏王堂の經塚より發掘せられしものにして、その花鳥唐草毛彫ある一箇は嵯峨天皇御寄進のものと傳ふ。天皇は弘仁十三年五月、御自筆の法華經を奉納し給へりとの傳あれば、或はこの經箱に收めて埋めしめられしものか。他の素文の二箇は、宇多・醍醐二帝御寄進のものと傳ふ。宇多天皇經卷奉納の傳あり、醍醐天皇また御自筆の法華經を奉納せられし傳あれば、或は二帝のものか。實物亦必ず平安朝初期の作にかゝる逸品と鑑定せらる。宇多天皇は昌泰三年七月及び延喜五年の兩度御參詣あらせられし傳あり。次に白河法皇は寛治六年七月、永久五年四月、保延二年六月の三度御參詣あり。造功日記によれば御參詣の日程左の如し。

寛治六年四月卅日　精進始
七月二日　御進發
七月十七日　御還向
永久五年三月十九日　精進始
四月十三日　下山着
四月十六日　還御
保延二年五月廿六日　精進始
六月十四日　下山着御
六月十七日　御還向

寛治六年の御參詣は、これを當時の日記記錄等によりて爽書するを得べく、中右記寛治六年四月三十日條に「今日太上皇並中宮始御精進給」と見え、江都督納言願文集中に左の寛治六年七月十三日太上天皇の金峯山詣御願文あり。

敬白　有種々佛經等
以前善根、旨趣如右、夫金峯山者、金剛藏王之所居也、初在西海之西、乘五雲而飛來、今鎮南京之南、掩一天而利益、伏惟擬拓圓蓮日、心戀於寶龕之風、遥北闕而七年、思切於南山之月、方今自初夏之末、及孟秋之半、齋宗聖、致潔齊、遂出無何之鄉、步向不測之路、履洞雲、攀嶺風、風雲之感皓至、蒼山月、酌澗水、水月之應自成、即擬一日之齋會、以遂多年之素願、讚佛乘、轉法輪、長寄不退之車輿、七比丘、百羅漢、新施無漏之衣焉、以增藏王之威光、以添金峯之照耀、況亦聖牙分霞、供養於一千之雪頭、垂跡逢秋、鎮興於五百之夏衆、仰願以此功德成就七地、壺中之天、氷雪廣潔、洞裏之地、煙霞影閑、至彼上臺之長生久視中間之除病延命者、一生之望尤唯在所、於戲奇嚴怪石絶頂長坂之遂施也、寸步猶難耐、神詞靈社當潤龍鱗之陶鑄也、多楊以易迷、非宿善同發往因誘引者、讚降萬乘之登自攀千仞之險手、十善重蕃、兜率之內院無疑、一稱不捨、慈氏之下生豈隔、始自迫階之砦衣、至于荷擔之黔首、以一緣之舊修、授二世之加護、乃至法界平等利益、敬白

寛治六年七月十三日　太上天皇

太上天皇は白河法皇なり。法皇の御歸依の事蹟はこれに止らず、三寶塔院・一乘寺塔等多くの堂塔を建立し、小倉莊を寄進あらせられたり。次に鳥羽法皇・後白河法皇・後鳥羽上皇、また深く御歸依あり、その事蹟頗しければ省略す。延臣にありては藤原道長の事蹟最も著名なり。道長の日記御堂關白記を按ずるに、彼は寛弘四年八月二日京都を發足し、鴨川尻にて舟に乘り、石清水に詣でゝ奉幣あり。三日大安寺に着し、五日經塔寺に宿す。六日壺坂寺に宿り、七日觀音寺に着し、藍宿を重ねて十日金峯山に着し、この夜金照房に宿る。翌十一日休浴齋戒して藏王權現の寶前に詣ずの願念を凝らす。同日の日記に

寛弘四年八月十一日、甲辰、早旦著湯屋、浴水、十杓、祈除、立御物前、參上小守三所、獻金銀五色胡幣、紙御幣等、紙米等護法、又同詣三十八所、同又供幣等、五師朝仁申之、賜被物、次參御在所、獻綱廿條、絹蓋十流、供御明燈、供經經、法華經百部、仁王經□□、三十八所御(寶)爲、菱主上、冷泉院、中宮、東(春)御爲、理趣分八卷、八大龍王爲(寶)心經百十卷、請七僧、百僧、供養了、講師呪願被掛一重、五僧白掛一重

（裏書）十一日、百僧絹一疋、袈裟一條、未前給七僧法服、甲袈裟、僧宿衣、御燈申上僧單重、七僧布施、百僧布施米二石、信濃三端、讃誦百端、滿寺僧供料米百石、又前年手(春)奉書金泥法(華)華經一部、此度奉書(寶)寫經三卷阿(彌)陀經、心經等、同□僧以七口申上、講師覺運大僧都、呪願定澄大僧都、讀師扶公法橋、唄懐壽、三禮明尊、散花定基、堂達運長、皆賜被物、件經等、寶前立金銅燈檠、其下埋、供(寶)僧也、從初今日々修眞讃、五師三

綱給祿、別當金照、朝仁等白掛一重、自餘單重、權大夫(經通)供養經七僧、三十僧、七僧疋絹、金照單重、米三十石、源中納言同之、我經、次女方供經十部、我御明百萬燈、皆有所々御爲、事了見所々、霧下不見如意、還房、金照賜禄、御下向、入夜宿寺、祇園と見えたり。即ち彼は三十八所權現並びに一條天皇・冷泉上皇・中宮彰子（上東門院、道長女）・恭宮の御爲に、法華經百部及び仁王經を、八大龍王の爲に理趣分八卷を供養し、尙ほ自筆の法華經一部八卷、彌勒經三卷、彌陀經、心經等を奉納せり。而して元祿四年山上藏王堂の經塚より發掘せられし經筒、金峯神社に現存せらるるが、これ正しく當時道長が寄進して埋めし經卷を收めし經筒にして、銅製鍍金高さ一尺五分、蓋の高さ一寸七分、口徑身五寸二分、蓋五寸四分あり。身の外周に鐫刻せられたる長大の銘は即ち道長の願文なり。銘文に曰く

南瞻部洲大日本國左大臣正二位藤原朝臣道長、百日潔齋、率信心道俗若干人、以寛弘四年秋八月、上金峯山、以手自泰書妙法蓮華經一部八卷、无量義經觀普賢經各一卷、阿彌陀經一卷、彌勒上生下生成佛經各一卷、般若心經一卷、合十五卷、納之銅筒埋于金峯、其上立金銅燈檠、率常燈、始自今日期龍華會、於是弟子焚香、合掌白藏王而言、法華經者、是爲泰報釋尊恩、爲値遇彌勒、親近藏王、爲弟子无上菩提、先年泰書欲寶參之間、依世間病惱、事與願違、爲恐浮生之不定、且於京洛供養先了、今猶所以埋於鼓者、蓋償初心、復始願之志也、阿彌陀經者、此度泰書、是爲臨終時、身心不散亂、念彌陀尊、往生極樂世界也、彌勒經者、又此度泰書、是爲除九十億劫生死之罪、證无生忍、遇慈尊之出世也、仰願、當慈尊成佛之時、自極樂界、往詣佛所、爲法華會聽聞、受成佛記、其庭此所泰埋之經卷、自然涌出、令會衆成隨喜矣、弟子得宿命通、知今日事、如智者之記靈山於前會、文殊之讚往劫於須臾者歟、嗚呼發菩提心、慢無量罪、逗東岡之匪石、加南山之不雲、埋法身之舍利、仰釋尊之哀憐、藏信心之手跡、願龍神之守護、願根已固、我望已足、抑慈一樹之蔭、飲一水之流、猶不是小緣、況此之道俗若干人、或有以香花手足、與此善者、或有以翰墨工藝、提此事者、南無教主釋迦藏王權現知見證明、願與碑力圓滿弟子、願法界衆生依此津梁、皆結見佛聞法之緣、弟子道長敬白

寛弘四年丁未八月十一日

銘文の日時寛弘四年八月十一日は日記の記事と吻合し、これによりて當時の狀況を詳らかにするを得るは奇しき幸なり。銘文によれば、道長は自書の法華經一部八卷、無量義經、觀普賢經各一卷、阿彌陀經一卷、彌勒、上生下生成佛經各一卷、般若心經一卷、合せて十五卷を經筒に納め、之を金峯山上に埋め、その上に金銅燈檠を立て常燈を奉れるなり。またこの經筒に納めし經卷の一部も近時世に公にせられたり。その一片法華經第一卷の奥書に

長德四□
峯山金□
件第一□
願以此功德、命終□
從彌勒慈尊聽□
提□同引攝□

と見ゆ。即ちこの法華經は、金峯山新願の爲に長德四年書寫せしものなり。日記によれば、法華經は寛弘四年以前の書寫に係り、銘文には明白に先年之を書寫し奉り、坐詣せんと欲せしが、世間病惱により、事願と違ひ、京洛に於て既に供養を遂げし處、今こゝに埋むる所以は蓋し初心を償ひて始願を復する志なりと記せり。以てこの法華經が同經筒中のものにして、奥書と共に道長の自筆に係れるものたるを知るべし。更に東京美術學校に所藏せる經四方、鷲峯瑞花の欄様ある八稜鏡の銘に、

寛弘四年丁未戊午五月廿九日甲午始云々

とあり。さればこの鏡も道長の金峯詣の時のものたる事疑ひなし。更にまた東京市西新井總持寺に所藏せる藏王權現本尊は今缺損して全貌を見る能はずと雖も、その銘に、

長保三年辛酉四月十日辛癸內匠寮史生壬生□

と見ゆ。されればこれも道長當時の遺品にして、或は寛弘四年の金峯詣の時納められしものか。道長の子顯通亦深く金峯山を信仰し、寛弘四年八月十一日父と共に參詣し、長和三年七月十六日、再び參詣す。當時の願文に曰く「弟子爲遂府權路之未業、居門下侍中之要福、歷三公之職攝萬機之務」云々。また百日の潔齋を勤むるや、その願文に曰く「遙攀萬仞之嶮險、早攝萬機之務、是只藏王之恩德也、久住數代之朝、又非藏王之恩德哉」云々と。永承七年七月三度參詣す。以てその信仰の熱意を見るに足るべし。源雅實は寛治二年七月二十八日、康和五年七月二十五日、嘉承元年七月十八日の三度參詣す。江都督納言願文集中に內府雅實金峯山詣の願文を載す。雅實は康和二年七月內大臣に任ぜられ、大治二年六十九歲を以て薨ず。この願文中に「齒過五十」と見えたれど、恐らくは嘉承元年のものなるべし。これ等は帝王・貴紳の信仰事蹟なれども、一般庶民も亦深く當山を信仰したる事云ふまでもなし。現今その信仰大いに衰へたりと雖も、信徒の登攀尙ほ絶えず、夏季諸國より來りて峻嶮に身心の練磨を試みる青年の數は、少からざるなり。

四　元弘の變と吉野

元弘の變を考究するに、その原因頗る遠く且つ混きものあり。我が國は開闢以來君臣の分定まり、上に萬世一系の天皇國家を統治し給ひ、下に百僚萬民之を扶翼し奉り、君臣一體以て國運の隆盛を致せり。されど之を仔細に考ふるに、皇運に隆替あり、國政に變遷のありし事免るべからず。遠き上古は姑く措く、天智天皇藤原鎌足と共に國政を刷新し大化の改新を行ひ給ひしが、のち藤原氏繁榮して朝權を擅にしてより、皇威漸く微に赴き、平安朝の末期に及びて極れり。後三條天皇出でゝ摂關家の專横を歴へ、御子白河天皇御志を繼がせられ、御讓位の後も自ら政務を執り給ふ。之を院政といふ。こゝに於て摂關家の權漸く衰へて皇威復するに至りたれども、これより國家統治の大權は天皇より上皇に移り、上皇こそ主權者にして、天皇は恰も春宮の如く、國政には與り給はず。その弊遂に保元の亂を起したり。また當時の授亂に乘じて勃興せる武士は擢進を遂げ、遂に國政の實權を掌握し、源頼朝出でゝ鎌倉に幕府を開き、武家政治を行ふに及び、統治の實權は公家を離れて武家に移れり。後鳥羽上皇、朝權の回復を志し給ひて幕府を追討し給ひしが、官軍は幕府の强兵に抗し得ず、大敗して、上皇及び順德・土御門の二上皇遠流せしめられ給ひ、延臣或は斬られ、或は流され、所領の沒收三千餘箇所に及ぶ。これより幕府は京都の六波羅に六波羅探題を置き、權臣をこれに任じ以つて、朝廷の動靜を監視し、加ふるに該權北條氏は陪臣の身分以つて、長多くも皇位繼承問題に容喙するの端緒を開きしは、皇威の甚しき衰微と云ふべし。後鳥羽天皇の御後、皇統長深草天皇（持明院統）・亀山天皇（大覺寺統）の二統に分れ給ふ。これ亦幕府が皇統問題に容喙してその衰微覓しきを得ざりしに因るもの多し。大覺寺統の亀山天皇・後宇多天皇英邁にましませしが、後醍醐天皇亦御英邁にして祖父後宇多法皇の院政廢せられて天皇親政となるや、天皇は更に國政の根本的改革を行はんが爲には幕府を倒して武家政治を廢せざるべからずと思召し、正中元年討幕を謀り給ふ。然るに事なからずして謀早く幕府に洩れ、形勢非なるを以て一旦中止し給ひしが、元弘元年再び討幕の軍を催せらる。然るに計露また顯はし、天皇は八月二十四日俄かに皇居を出でて奈良に幸せられ、東大寺東南院に入御ありしが、尚ほこの地の惡むべからざるを以て、山城笠置山金胎寺に赴き給ひ同所に數日御逗留の後、更に移りて二十七日大和笠置山に幸せられ、同地に行宮を置きて北條の大軍と戰ひ給ふ。九月二十八日笠置山遂に陷り、天皇は京都に還幸あり、翌二年三月隱岐に遠流せしめられ給ひぬ。さて天皇の御暴兵あらせられし時、御謀議に與り給へる皇子に尊雲法親王・尊澄法親王等あり。尊雲法親王は先に出家し給ひて梶井門跡を繼がせられ天台座主に補せられ給ふ。世に大塔宮と申す。尊澄法親王は妙法院門跡を繼がせられ、天台座主に補せられ給ふ。蓋し二皇子相尋いで天台座主に補せられしは叡山衆徒の勢力を恃まれしに由るなり。天皇笠置に赴かれし後、二皇子後醍醐天皇は捕へられしが、尊澄法親王は天皇と同じく幕府の軍兵に捕へられ、のち讃岐に流され給ふ。大塔宮は落域に免れ、のち諸方に潜伏して忠勤を抽んじ防戰死守す。然るに元弘三年閏二月一日先づ笠塔後方より敵に襲撃せられ、尋いで藏王堂に激戰あり。吉野遂に陷り、宮は村上義光父子の忠死により辛うじて同地を遁れて天川を經て高野山に落ち給へり。然れども宮の命旨を奉じ諸國の官軍は、四方に相尋いで蜂起せる賊將足利高氏は歸順して同年五月七日京都に討入り六波羅を陷れ、彼の一族新田義貞は兵を上野に起し、同月二十一日鎌倉に討入りて幕府を滅亡せしめたり。また九州探題・長門探題尋いで滅亡す。これより先、天皇は隱岐を遁れ給ひて出雲に御上陸あり、伯耆の名和長年に迎へられて船上山にまします。官軍の捷報相繼ぐや天皇は五月二十三日同地を發輦あり、六月五日京都に還幸し給ふ。天皇親に遵へる皇子・延臣等を召し還し、軍功の士に恩賞を賜ひ、叡慮に從ひて公家政治を行ひ、數百年來の積弊を一掃して國政の根本的大改革に着手し給ふ。世にこれを建武中興と稱す。

五　吉野朝史

〔成立と計畫〕建武中興成るや、國政の改革頗る急激勇斷にして、元弘の戰功に對する恩賞、またその當を得ざるものあり。こゝに於て社會は紛亂錯雜を極め、人心の動搖やまず。殊に武士は疎先以來の安堵の地を離れ、一朝にしてその地位を失ふが如き者少からず。爲に不平の徒多く、是等は相率ゐて武家政治の舊態を望んで新政を寧ばず。足利尊氏はかねて幕府再興の野心あり、天下の人心新政を厭ひて武家政治の復歸を望むの狀を觀望し、巧みに人心を收攬して機を窺ふ。護良親王之を看破し、尊氏を攻めんと謀り給ふ。然るに反つて尊氏の爲に讒せられ鎌倉に護送せられて尊氏の弟直義に囚せられ給へり。建武二年七月、北條氏の餘黨北條時行、兵を起して鎌倉を攻むるや直義防ぐ能はずして鎌倉を出奔するに當り、親王を弑し奉る。尊氏は時行追討の勅許を待たずして東下し、時行を擊破して後も召に應ぜず、鎌倉に據る者多く、起ちにして天下再び亂れて、中興政治は崩壞するに至れり。朝廷乃ち新田義貞をして之を追討せしめしが、官軍は箱根竹下に戰ひて大敗し、西走せり。尊氏兄弟之を追ひて西上し、延元元年正月京都を犯す。天皇叡山に避けて叡山に幸せられ諸國の官軍を召し給ふ。鎮守府將軍陸奥守北畠顯家勤み奉じて陸奥を發し、鎌倉を攻略して更に賊軍の後を追ひて西上し同月下旬義貞等と協力して足利軍を擊破し、之を西走せしむ。天皇乃ち還幸あらせられたり。然るに尊氏は九州に奔りて同地の官軍を破り、勢を挽回し、五月大舉東上して攝津に迫れり。朝廷義貞及び楠木正成をして之を兵庫に激へ擊たしめしが正成海川に戰死し、義貞京都に敗走せり。乃ち天皇再び叡山に幸せられ給ふ。尊氏は京都に入りて、賊名を避けんが爲に、光明院を奉じて擁に朝廷を立て武家政治を再興せり。其後十月五日彼は詐りて天皇に降り還幸を請ふ。天皇權に之を許し給ひ還幸し給ふや、迎へて之を花山院に幽し奉り、光明院へ皇位の御璽なる神器の授受を迫れり。されど天皇はかれて期し給ふ所あり。十二月二十日數人の近臣を從へ、神器を奉じて潛かに花山院を脱れ給ひて、大和に御發向せらる。內山永久寺を經て、同二十三日賀名生に着せられ、二十八日吉野山に移らせられ、吉水院に御逗留の後、更に藏王堂の傍なる實城寺に幸せられ、こゝを行宮に定め給ふ。之を吉野朝廷の成立とす。抑々天皇が皇位の尊嚴を護持し、賊徒討伐の爲にあらゆる手段を講じ給ひし因由を考ふるに、その淵源する所一朝一夕にあらず。初め天皇叡山を下り給ふに當り、特に義貞に謂あり、皇太子恒良親王及び尊良親王を奉戴して北國に下向せしめ給へり。當時の叡慮を推測するに、尊氏の降參の眞意もとより知るべからず。京都に還幸の後如何なる事態の發生せんやも亦知るべからず。萬一尊氏が武力を以て御志に逆ふ如き事を强要し奉らん場合に預め備へられしものと考へらる。果して尊氏は暴力を加へ奉れり。然れども幸ひに吉野に逃れ給ひ、天位いさゝかも變りなき上は、諸國の官軍を催して朝敵たる足利氏を討伐し、戰亂を平定せらるゝ事こそ國家の爲なれ。されば御潛幸後數日、十二月二十五日顯家に下し給へる勅書の一節に、「有子細出京之處、直義等令申沙汰之趣、旁本意相違、如當時者、爲國家愈無其益之間、發爲逢本意、出落中、移住和州吉野郡、相催諸國、重所擬義兵也」と記させ給ひ、また同月二十九日宸筆を以て金剛寿寺に天下靜謐を願せ給ひし御願文には特に御署名「天子尊治」と記させ給へり。而して行宮を建設し給ふや、その地を特に吉野に選び給ひし所以亦深き理由あり。吉野は地勢險絶にて、前方は大和平野に臨み、後方は大峯連峯重疊して紀伊・熊野に續き、吉野・十津・北山の三川、吉野郡一帶を廻りて恰も自然の要害をなせる上、東は伊勢に續きて國司北畠氏の根據地あり、西は河內・和泉に續きて楠木氏等勤王黨の諸城あり、南方の熊野・志摩にも亦勤王の士少かゝず。特に吉野山の金峯山寺は叡山・男山・高野山等と共に規模大にして、衆徒の勢力頗る强大なり。この要害によりてこの勢力を恃む時は足利の武力もまた恐るゝに足らず。元弘の變には飯に大塔宮この地を根據として勤王の軍を擧げ給へり。されば天皇が吉野に幸せられし所以は偶然ならず。當時北畠親房・顯信父子は伊勢にあり、顯信密かに奏して吉野行幸を勸め奉りし趣保暦間記に見えたれば、早く親房等によりて吉野行宮の建設は計畫せられしものと考へらる。さて天皇吉野に着御あらせられし後、主として親房等の畫策により朝敵討伐の作戰は、着々實行せられたり。先づ陸奥に歸任せる顯家に勤書を賜ひて之を召され、北國の義貞にも詔あり て京都を攻めしめらる。よりて顯家は再び義良親王を奉じて長驅墨西上の途に上り、敵を擊破しつゝ近畿に入りしが延元三年五月遂に阿部野に戰死せり。義貞亦同年閏七月燈明寺畷に戰死し、官軍頓に意氣沮喪せり。こゝに於て更に計を立て、同年九月顯信をして義良親王を奉じ陸奥に赴かしめらる。親房之を輔佐し、同月二日伊勢大湊に出航す。宗良親王亦遠江に赴かせらる。然るに船は颱風に遇ひて散亂し、義良親王伊勢に着し吉野に歸り給ふ。同月また懐良親王を征西大將軍に任じて九州に赴かしめらる。かくの如き吉野朝廷の大計畫もその後征西府のみは久しく勢威を振ひしが、他の地方の官軍は次第に衰微し、吉野の勢力從ひて亦振はざるに至りしは、不運の極といふべし。

〔名稱〕吉野朝廷の皇居は、常に移動して一定する所なく、吉野に在りし期間よ

め、六田渡を前衛として、勤王の義兵を擧げらる。この同命旨を國々に下し給ひて勤王の士を募らせらるゝ事頻りなり。幕府の軍兵、宮の搜索に力めしが、吉野にまします事明らかとなるや、大軍を以て來り攻む。吉野の衆徒宮を守護して忠勤を抽んじ防戰死守す。然るに元弘三年閏二月一日先づ笠塔後方より敵に襲撃せられ、尋いで藏王堂に激戰あり。吉野遂に陷り、宮は村上義光父子の忠死により辛うじて同地を遁れて天川を經て高野山に落ち給へり。然れども宮の命旨を奉じ諸國の官軍は、四方に相尋いで蜂起せる賊將足利高氏は歸順して同年五月七日京都に討入り六波羅を陷れ、彼の一族新田義貞は兵を上野に起し、同月二十一日鎌倉に討入りて幕府を滅亡せしめたり。また九州探題・長門探題尋いで滅亡す。これより先、天皇は隱岐を遁れ給ひて出雲に御上陸あり、伯耆の名和長年に迎へられて船上山にまします。官軍の捷報相繼ぐや天皇は五月二十三日同地を發輦あり、六月五日京都に還幸し給ふ。天皇親に遵へる皇子・延臣等を召し還し、軍功の士に恩賞を賜ひ、叡慮に從ひて公家政治を行ひ、數百年來の積弊を一掃して國政の根本的大改革に着手し給ふ。世にこれを建武中興と稱す。

五　吉野朝史

〔成立と計畫〕建武中興成るや、國政の

りも却つて他の地に在りし期間長きに亙れるにも拘らず、之を吉野朝廷と稱する所以は、吉野山當に官軍の中心となれるによれり。從來吉野朝廷をよぶに南朝と稱す。南朝の名稱は後世史家の私稱したるものにあらず。當時の人々既にこの名稱を用ゐ、一般に廣く行はれし事は明らかにして、師守記貞治六年四月二十九日の條に「南朝勅使葉室中納言光資卿」「南朝綸旨」等とあり、六月二十日の條に「南朝洞院大納言實守卿」とあり、七月二十九日の條にも「參南朝」とあり、八月九日の條にも「於南朝料御馬一疋引賜之」とあり、また卿紳樂雜記・看聞御記・椿葉記・續神皇正統記等にも南朝の語み用ゐたり。また南山・南方の語、園太曆・觀應二年日次記・愚管記・吉田日次記・師守記・後愚昧記・南山御出次第・門葉記等に見えたり。但しこれらはすべて京都方君臣の筆錄に係れるものなることは注意すべきことにして、京都方の者が京都の朝廷と共に南方なる吉野にも朝廷の存在することを認めたる事を示すに止まれり。吉野朝廷自體にありては、もとより皇統の正を嚴守し、吉野朝廷以外に他朝の存在を認めざりし所なり。然し富岡本新葉集の奥書に「南朝慶壽院法皇御在位之時云々」の語あり。慶壽院法皇は長慶天皇の御法名なり。この奥書は應永三十二年惠梵の記されしものにして、惠梵は師成親王なり。親王は後村上天皇の皇子にましまし、吉野朝廷の興隆に盡瘁あらせられ、新葉集作者の一人にして歌道を好ませられ、御叔父宗良親王に私淑し給ひし事、この新葉集奥書及び古今序註奥書によりて知らる。次に南部文書北畠顯信の書狀に「みなみかたの御勢」云々の語あり。顯信は親房の二男にして、兄顯家の戰死後、陸奥守として久しく陸奥勤王軍の總帥たりし忠臣なり。かくの如く吉野朝廷の皇胤及び忠臣が南朝・南方の語を用ゐたる事實あり。思ふに南朝の語は京都方に對する對立的語にはあらずして、南山にある朝廷の意にして、當時一般に廣く使用せられ居りしものにあらざるか。南山の語が古くより吉野山に用ゐられ居りし事は既に述べたるが如し。

〔皇居〕吉野朝廷四代の皇居は、或は吉野、或は賀名生、或は觀心寺、或は金剛寺、或は榮山寺、或は住吉等、常に移動せり。これ卽ち吉野朝廷の勢力と足利方の勢力との消長を物語るものにして、官軍の勢威揚る時は、行宮は吉野の山奥より交通便利なる平原に進出し、次第に京都に近づき、足利の權勢揚り、武力を以て官軍に壓迫を加ふるの時は、吉野朝廷は山奥に退きて簡居するの已むなき狀なりき。今行宮移遷の沿革を略述するに、後醍醐天皇は、延元元年十二月吉野山なる實城寺を行宮とし給ひてより他に移らせられず、遂に同地に扇御あらせられたり。次の後村上天皇は、同地に御讓を受け給ひ、正平三年までこゝに在せしが、同年正月賊詩高師直等來り攻め、二十四日吉野陥に陷りしを以て、天皇は難を避けて賀名生に幸せられたり。これより天皇賀名生に在すこと三年、正平六年十一月天下を一統し給ふや、翌七年二月二十六日賀名生を出で、河内東條に行幸あり寺いで同二十八日攝津住吉に幸せられ、閏二月十五日天王寺に行幸あり、同月十九日山城男山に遷ませられ、將に還京あらせられんとす。然るに五月十一日の戰に官軍大敗し、同夜男山を出でゝ翌日再び賀名生に行幸せられたり。爾來こゝに在す事約二年、官軍勢を挽回するや、正平九年十月二十九日河内金剛寺に遷らせらる。同十四年十二月二十三日更に河内觀心寺に遷らせられたり。翌十五年住吉に出で給ひ、同二十三年三月十一日同地に扇御あらせられたり。次の長慶天皇は同地に踐祚あらせられしが、翌二十四年春、吉野に赴かれしが如し。其後天皇の御在所詳かならざれども、宮內省圖書寮所藏本朱孟の奥書によれば、天授五年の頃榮山寺に在し、また同寮所藏本雲州往來及び台記の奥書によれば、弘和二年及び三年倘ほ同地に在すこと明らかなり。次の後龜山天皇が弘和三年踐祚あらせられし地は不明なれども、長慶天皇が同年榮山寺に在すこと確實なれば、同地にて御位を受け給ひしこと疑ひなし。其後吉野に遷らせられし證ありと雖も、その年時を詳かにせず。元中九年十月京都との和議成立するや、天皇は同月二十八日吉野より還京の途に就かせられたり。されば吉野は後醍醐天皇が吉野朝廷を建て給ひし當初皇居となり、其後行宮は一時諸所に移動したりと雖も、また吉野朝廷との關係の密接不離なるを思はずんばあらず。

〔皇位繼承〕後醍醐天皇、御名は尊治、後宇多天皇の第二皇子。延慶元年九月皇太子に立てられ、文保二年二月、十六日花園天皇の御讓を受けて、卽位あらせらる。同年三月九日後二條天皇の皇子邦良親王を東宮に立たせられしが、親王は嘉曆元年三月二十日薨じ給ひぬ。こゝに於て天皇御子の諸皇子を選びて次の東宮を定め給はんとせられしも、鎌倉幕府は兩統迭立の案を固執してこれを容れず、後伏見天皇の皇子量仁親王を立て來る。元弘の變起るや、幕府は天皇を隱岐に遷しまゐらせ、量仁親王を光嚴院と稱し奉る。その東宮には迭立案によりて邦良親王の御子康仁親王を立てたり。天皇隱岐を脫れ給ひて船上山に御滯在中、元弘三年五月七日光嚴院及び東宮康仁親王を廢し給ふ。六月京都に還幸あらせらるゝや、天皇は特に重祚の禮を用ゐられず、遠所より還幸の儀を以てせられたるは、幕府の擅りに擁立せる光嚴院の皇位を認めず、蒙塵中も天位に變動なきを明示せられんが爲なり。翌年新に皇子恒良親王を皇太子に立てらる。足利尊氏叛するや、尊氏は賊名を避けんが爲に、延元元年八月十五日光嚴院に奏してその御弟豐仁親王を踐祚せしめ奉り、光明院と稱す。而して尊氏は鎌倉幕府の故例に遵ひて兩統迭立案を採り、天皇の皇子成良親王をその東宮に立て奉れり。然れども天皇は同年十二月二十一日吉野に幸せられ、行宮みこの地に定め、天位を嚴守し給ひ、吉野朝を建て給ひしかば、もとより京都の光明院の皇位を認め給はず。されば吉野朝廷にありては、其後光明院の後を繼承し給へる崇光院・後光嚴院・後圓融院・後小松院四代の皇位をまた認められ給はず、たゞ後小松院のみは後に御合體によりてその位を正しうせらるゝ事となれり。これより先、延元元年十月十日新田義貞氏の請を容れ給ひ、寂山より還京あらせらるゝに際し、皇太子恒良親王を新田義貞と共に北國に下向せしめられ、萬一に備へられたり。されば親王は、天皇の御資格を以て綸旨を下し給へる事、結城文書に見えたり。されどやがて親王は賊徒の爲に霧ぜられ給ひ、また天皇吉野に幸せられ、依然として天位に在したるを以て、北國の朝廷は成立するには至らざりき。延元四年八月十六日天皇吉野に扇御あらせらる。御在位二十年。御年五十二。如意輪寺の後山塔尾陵に葬り奉る。是より先、延元三年九月義良親王は再度東國鎭撫の爲伊勢大湊より出航あらせられしに途中颶風の爲に果し給はず、吉野に還り給ひしが、天皇扇御の前日、御讓を受けて踐祚あらせられたり。卽ち後村上天皇なり。天皇御在位三十年。正平二十三年三月十一日住吉行宮に扇御あらせらる。御歳四十一歳。河內觀心寺の後山檜尾陵に葬り奉る。天皇に寛成親王・熙成親王の二皇子あらせらる。寛成親王御位を繼がせらる。卽ち長慶天皇なり。長慶天皇の皇位は之を確證すべき史料を缺き、久しく史家の間に疑問とせられしが、大正五年六月、佐々木信綱氏所藏古寫本畔雲千首發見せらるゝに及び、漸く御在位の事實を的確に立證するを得たり。その概略を述べんに、天授二年二月天皇、東宮と共に千首和歌御會を催し給ひ、宗良親王・二條教經・東宮大夫花山院師賢・檢非違使別當中御門經高・花山院長親等勅命によりて同じく千首を詠ず。この事を宗良親王千首の跋には「天授二年の夏の末つかた……內、春宮二御かた、千首御歌あそばさるべしとて、圓自などを初として面々おなじ題にて歌奉るべきよし仰ごと有しかども」云々と見えたるが、畔雲花山院長親は、元中六年正月、畔雲千首の奥書に「天授二曆、仙洞〈長慶院殿〉並當今〈大覺寺殿〉、以此題令詠御、于時愚身並故二條前關白〈教賴公〉、左大將師兼卿〈于時春宮大夫〉、別當經高卿等、可詠之由同有勅命」云々と記したり。卽ち同じ和歌御會を記すに、天授二年當時には內、春宮と記し、元中六年には仙洞並當今と記せり。これ天授二年より元中六年に至る年代の間に於ける御代の變化によるものにして、天授二年の內は元中六年の仙洞となり、天授二年の春宮は元中六年の當今となれるなり。元中六年の當今の後龜山天皇なる事明かなるを以て、天授二年の內、元中六年の仙洞が長慶天皇なる事を證明し得べし。而して嘉喜門院御集によりて、長慶天皇は後村上天皇扇御せられし正平二十三年の春には皇位にあらせられ、同年既に熙成親王を春宮に立てられし事を知るべし。また富岡家藏古寫本新葉集奥書に「斯集南朝慶壽院法皇御在位之時、詔於予叔父中務卿宗良親王、而所被令撰也」とある慶壽院法皇が、建內記及び康富記によりて長慶天皇たる事を證明し得るを以て、新葉集の奏覽せられし弘和元年なほ御在位にして利生護國寺文書に、攝津志宜森內小堤村朝用分に關する弘和三年十月二十日綸旨及び元中元年閏九月八日院宣あるを以て弘和三年の幕に、皇弟にまします東宮熙成親王に讓位あらせられし事を確むるを得べし。御在位十五年。されど天皇の御讓位後の事蹟は詳かならず、扇御は大乘院日記目錄によりて姑く應永元年八月一日、御歳五十二歳と定めらる。御陵亦詳かならず。後龜山天皇は早く後村上天皇御在世中より皇位繼承を豫期せられ給ひしものか、園太曆觀應三年五月二十五日の條に「或云、和州帝黠屈、三歳皇子踐祚之由也」と見ゆ。大乘院日記目錄の長慶天皇扇御の記事を信ずれば、この三歳の皇子は後龜山天皇なるが如し。弘和三年の幕踐祚あらせられ、元中九年京都朝廷と御合體ありて京都に還幸し給ひ、皇位を後小松天皇に讓りて、嵯峨大覺寺に隱栖せらる。御在位九年。皇弟泰成親王は吉野にありて春宮に立てられしが、亦この時廢せられしものゝ如し。吉野朝廷の皇位繼承はこゝに斷絕せり。應永三十一年四月十二日後龜山天皇扇御あらせられ、嵯峨小倉陵に葬られ給ふ。

〔戰爭及び媾和〕延元元年十二月、後醍醐天皇の吉野に行幸し給ひてより、吉野朝廷の官軍方と京都の足利方との間には絕えず戰爭が繼り返され、雌雄を決する激戰の行はれし事も屢々なりき。されどその間また媾和の交涉行はれし事も一再ならず。遂に元中九年十月に至りて媾和は成立して後龜山天皇は京都に還幸あらせられたり。以下、その概略を記述すべし。初め吉野朝廷の作戰計畫は、北畠親房の案によりて頗る大規模にして、京都は常に全國の官軍に包圍せらるゝの形勢にあり、足利方は絕えず官軍の中心たる吉野に對抗すると共に、全國の官軍に對抗せざるべからざる狀況にあり。こゝに於て正平三年正月尊氏は高師直・師泰以下諸將を遣し、大軍を以て河內に進入せしめ、一擧に官軍の死命を制せんとす。楠木正成の遺子正行、勅命により一族を

年二月尊氏・師直の軍を攝津に破り、尊氏をして和を請はしめ、師直兄弟を殺して宿怨をも晴らしたりしが、間もなくまた尊氏と離反す。而してこの間直義は吉野朝廷と京都朝廷との間の和議を企て、使者を吉野に遣はして、斡旋の勞を執れり。吉野朝廷にありては、楠木正儀主としてその衝に當る。朝廷乃ち直義に事書を賜ひ、歸順の上は政權を公家に返還し元弘の古に復すべき論示す。然るに直義は公家政治の時世に副はざるを論じ、政務は武家に委任せられ、たゞ天皇京都に還幸ありて實祚の永遠を圖られたき旨を奏せり。吉野朝廷の元老親房は大義名分によりて、直義の奉答を不可として之を卻け、和議遂に決裂せり。こゝに於て正儀は窮地に陷り、吉野朝廷に叛きて一時足利方に降り、足利方軍勢の誓導をなして、吉野朝廷を攻撃せんとするに至れり。既にして尊氏・直義の間また不和となり、直義京都を出奔するや、尊氏・義詮父子は、媾和交渉に關せし法勝寺惠鎮を强ひて起たしめ、先に吉野朝廷に赴きて歸順を請はしむ。されど朝廷は直義と云ひ尊氏父子と云ひ、その歸順が專ら自己保身の權宜に出づるに過ぎざるを以て、容易に之を聽さず、惠鎮を山中より追放せしめしが、尊氏父子は政權奉還の條件を以て再三懇願せしを以て、十月二十四日漸く之を聽許せられ、直義追討の命を下されたり。かくの如くして六年十一月七日崇光院及びその皇太子直仁親王は廢せられ、天下は遂に吉野朝廷に一統せられぬ。仍りて後村上天皇は翌七年二月二十六日賀名生の皇居を出御あり、河内東條を經て二十八日攝津住吉に着御、天王寺を經て閏二月十九日男山石清水八幡宮に出で給ふ。同二十一日光厳・光明・崇光三上皇及び直仁親王を男山に迎へ奉り、更に之を河内東條に遷し奉ると共に、國々の官軍を催し、この機に乘じて一擧に足利方の勢力を覆滅し、京都の賊徒を掃蕩して之を回復せんとす。時に尊氏は鎌倉にあり、京都にある義詮は官軍に破られて一旦敗走せり。然れども尊氏は直義を斃すや、また叛し、義詮は勢を挽回して京都を覆し、官軍を男山に迫り三月二十一日・四月二十五日・五月十一日三回に亙りて之を包圍攻撃す。官軍既に男山を支ふる能はず、五月十一日夜闇に乘じて天皇以下延臣等、重圍を突いて辛うじて脱れ、奈良を經て十二日夜賀名生に還るを得給へり。この戰闘に四條隆資以下死傷するもの甚だ多く、後醍醐天皇以來の宿望成らんとして遂に破る。八月十七日尊氏父子、崇光院の御弟彌仁王を擁立し、後光厳院と稱し、再び京都朝廷成立す。これを第二回の媾和及び戰爭の顚末とす。其後吉野朝廷は尚も京都の回復を斷念せず、正平八年官軍の攻撃を支ふる能はずして義詮は六月十三日後光厳院を奉じて京都を出奔し、美濃に至り小島を行宮とせり。九月尊氏鎌倉より至りて小島に至り、同月二十一日京都を回復して後光厳院は還幸せられたり。然るにその翌九年十二月二十四日直冬等の軍京都を攻むるや、尊氏父子また後光厳院を奉じて近江武佐に逃れ、翌十年三月二十八日後光厳院は還幸せらるゝを得たり。更に十六年十二月八日また官軍に攻められ、義詮は後光厳院を奉じて再び近江武佐に奔り、翌年二月十日、後光厳院還幸せらる。かくの如く官軍幾度か京都回復を企つれど遂に達成すべからず。のみならず正平九年四月十七日親房薨ずるや、吉野朝廷は重臣を失ひて次第に衰微し來り、諸國の官軍また勢振はざるに至れるに反し、足利方は正平十三年四月尊氏殁したる後も、義詮よく遺業を繼ぎて益々勢力を增大し、幕府の基礎を固め來れり。正平十五年正月の頃、媾和合體の風說また行はれしが、京都の一廷臣が「此事叡慮以來度々雖有其沙汰、毎事不信、更不可事行歟、若爲事實者、天下錯亂、諸家衰微、不能左右事歟」とて之を卻け居るも勢力强大となれる京都の公武間に、媾和の希望なく、遂に不調に終れるを推知すべし。その後正平二十一年九月の頃に至りてまた媾和合體の議あり、十一月の頃に及びて大略議定まりしが、たゞ幕府に於ては同議案を圖東管領と打合せの要ありとて暫時留保することゝなれり。越えて二十二年四月、吉野朝廷の勅使葉室光資上洛して義詮に對面し、議殆んど調ひたるかに見えしが、遂にまた不調に終れり。その原因は吉野朝廷の綸旨に足利降參の語ありし爲なり。義詮は自己の意向に相違する事の甚しきに驚き、交渉を斷絶すると共に、七、八月の頃、吉野朝廷を攻撃するの決意を述べしと云ふ。されどその事もなく尚交渉は進められしものゝ如く、吉野方の楠木正儀代官及び京都方の攝津能直は互に彼此の間を往來し奔走する所ありしが、結局不成立に歸し、且つやがて後村上天皇の崩御せられ、義詮また殺したるを以て、和議全く頓挫するに至れり。次の長慶天皇は勇武の御資性にましまし、主戰論み支持し給ひし故にや、天皇即位せらるゝと共に、多年吉野方の合體論者として媾和交渉に當りし正儀は足利方に降り、爾來天皇御在位中また吉野朝廷に伺候せず。文中二年八月十日正儀案内者となりて、足利軍の細川氏春・赤松範資等を導き天野の行宮を侵せり。官軍氏春の陣を夜襲せしが利あらずして敗れ、四條隆俊以下多く之に戰死せり。天皇は難を避けて吉野に遷幸せられしが、この時天皇讓位ありて後龜山天皇踐祚し給ひし風說京都に傳れり。この戰爭の後は吉野朝廷の勢力甚しく衰へ、漸く態りて再び出でず、爲に大なる戰爭もなく、また媾和合體の交渉も行はれず元中九年に及べり。顧みれば延元元年後醍醐天皇吉野朝廷を建て給ひてよりこゝに五十有七年、初め天皇の宏謨を扶翼し奉り、義貞を翼贊し奉りし延臣武將も殆ど世を去り、その子孫遺業を繼承して未だ足利方をして寧日なからしめしも、天下の形勢は既に昔日の觀なく諸國の官軍の憑むべきもの、僅かに大和・伊勢・紀伊・河内・和泉の豪族及び九州の征西府あるのみなり。されば元中九年十月將軍足利義滿、紀伊守護大内義弘及び吉田兼熙をして媾和合體の事を吉野朝廷に奏するや、吉野朝廷にありては、遂にこの議に應じ、故吉田定房の舗子宗房主として交渉に當り聽許によりて和議成立し、後龜山天皇は京都に還幸の上、神器を京都朝廷の後小松天皇に讓らせ給ふ事となれり。當時の媾和條件は、近衛家文書同年十月三日義滿の請文によれば、後龜山天皇より後小松天皇へ御讓國の儀によりて神器を授受あらせらるべき事、自今以後皇統は持明院統・大覺寺統兩統交互に繼承あらせらるべき事、諸國々衙は大覺寺統の御管領たるべき事、長講堂領は持明院統の御管領たるべき事の四條條あり。かくて同月二十八日、後龜山天皇は神器を奉じ、皇親・臣僚及び名和・楠木・和田各氏、秋山・宇陀・井谷等の豪族一黨を隨へ給ひて吉野を出御ましまし、降雨により橋寺に御一泊あり、二十九日奈良に着御、また雨によりて御滯留まします事二日、越えて閏十月二日京都に着御、直ちに嵯峨大覺寺に入御あらせらる。同五日神器を後小松天皇に讓らせ給ひ、こゝに吉野朝廷は終末を告げたり。さてこの時の御合體の條件を考ふるに必ずしも吉野朝廷に有利なるものにあらず。殊に當時に於ける足利方の態度及び其後に於ける行動を見るに、足利方は吉野朝廷の衰運に乘じて之を京都朝廷に併合せしめ奉れるの感なき能はず。後龜山天皇もとよりこれを豫知せられざりしにもあらざりしが、形勢既に定まれり、また特に一般國民が久しく戰亂の苦に陷れる狀を深く憐み給ひ、聖恩を天道神慮に任せて、遂に媾和合體を斷行せられ給へるなり。この事吉田日次記應永九年三月二十日の條に「此後元弘建武以來世上之轉變、先皇遺詔、明德御合體、御入洛之次第以下、具被仰下、不逆乎叡慮、所詮於聖運之泰否者、偏任天道神慮、□□民間之憂之條、爲御本意之趣被仰下之、叡慮之奥旨直被勅言、面目之至也」と見え、尤も詳らかに御仁慈の叡慮を拜するが得べし。

六　大覺寺統皇胤の衰微と吉野

既に述べたるがごとく、吉野朝廷と京都朝廷とは、元中九年閏十月合體せられしが、その合體條件の中に、將來の皇統は持明院統・大覺寺統兩御統の迭立たるべしとの重大なる一條を含めり。されば後小松天皇の次には必ず大覺寺統の皇胤が皇位繼承し給ふべき理なり。當時長慶天皇の皇子には、後に相國寺住持となり、常濃院に住せる、更に南禪寺住持となり、嘉吉三年五月九日薨ぜられし海門永朝及び明德三年十二月二十九日圓滿院に入室せられ、應永十二年二月十三日薨ぜられし行悟法親王等ましましたり。後龜山天皇の皇子には先に吉野にて薨ぜられし世泰親王の他に、なほ皇子ましましたる事明かなり。應永・永享の頃に小倉宮聖承といふ宮あり。同宮の諱は不明なれども建内記の記す所によれば、この宮は後醍醐天皇の玄孫、後村上天皇の曾孫、後龜山天皇の孫故恒敦宮の御子と云ふ。恒敦宮は御諱また不明なれども、世にいふ良泰親王は或はこの宮にましますか。次に長慶・後龜山兩天皇の御兄弟には、惟成親王・泰成親王・師成親王・懐邦親王・說成親王・良成親王・泰邦親王の諸皇子あり。惟成親王は吉野に於て式部卿・中務卿に任ぜられ、後出家して梅陰兩常と號せられ、應永三十年三月三日薨ぜらる。泰成親王は吉野に於て、太宰帥に任ぜられ、東宮に立てられしが御合體後廢せられ給ひしが如し。應永元年二月六日後龜山上皇が天龍寺に於て初めて義滿に謁を賜ひし時、親王も同じく義滿に御對面あらせられし由從層に見ゆるが、特に「於南方爲東宮」と注記せり。其後の御動靜詳かならず、薨去の年月また不明なり。師成親王は吉野に於て兵部卿に任ぜられ後出家して惠梵と號せられ、應永の末頃まで御在世あらせられたり。懐邦親王は吉野に於て上野大守に任ぜられ、同じく

應永の末頃まで御在世あらせられたり。說成親王も亦吉野に於て上野大守に任ぜらる。福御所と稱せられ、元中九年十月後龜山天皇に隨ひて還幸の御行列に加はり給ひし事、南山御出次第に見ゆ。後出家して護正院に入らせられ、永享五年四月薨ぜられたり。良成親王は後征西大將軍にして、絲めて御幼少の御身を以て正平二十年の頃九州に御下向あり、懷良親王の後を繼ぎて、同地の官軍を統率し給ひ、應永年中薨ぜられしものゝ如し。泰邦親王は師宮と號せらる。山科家雜記應永十九年正月二十六日の條に大覺寺殿師宮と見ゆる方は同一人と考へらるゝを以てこの宮も應永の末頃まで御在世なりしものなるべし。さて足利氏は御合體の後後龜山上皇及び、その御一統に對し奉りて特に之を優遇し奉れりといふが如き事實なく、御氣の如きも御合體の際、諸國々衙は大覺寺統の御管領と約定せられたるも事實は全く行はれず、僅かに若干の御領を有せられしに過ぎず、爲に御生計も動もすれば御困窮を告ぐるの實狀なりき。殊に皇位繼承に關しては、幕府は細心の注意を拂ひ、大覺寺統の皇胤を以て皇位を繼承せしめ奉らざるのみならず、なるべくその皇胤を斷絶せんが爲に、諸皇子を多く出家せしめて寺院に入れ、薨去の後は、繼嗣を置かざるの政策を執れり。されば長慶・後龜山兩天皇の諸皇子御兄弟の宮、及びこれら諸皇子の御子達數多ましますにもかゝはらず、足利氏はこの中より後小松天皇の春宮を選び奉らんとせず、偏に後小松天皇の皇子の御降誕を望み居たりしが如し。應永八年三月二十九日實仁親王御誕生あらせらるゝやこの親王をして皇位を繼承せしめ奉らんとす。こゝに於て後龜山法皇及び大覺寺統の諸皇子、足利氏の遵約を憤り給ひ、若医等亦憤激措かず。應永十七年十一月二十七日後龜山法皇は御窮困の爲と號して、嵯峨を出でゝ吉野に入御せらる。蓋し同地の郷民大衆を惡まれ給ひしものなるべし。やがて應永十九年八月後小松天皇は御讓位ありて實仁親王受禪あらせらる。即ち稱光天皇なり。時に伊勢國司北畠滿雅、吉野と呼應して足利氏の膺懲に起ちて義兵を擧ぐ。幕府大いに驚き、兵を遣はして滿雅の軍を攻むると共に、一方廣橋兼宣を吉野に遣かし、御氣等元の如く復し奉るべきを以て、遂かに還御あらせらるべき旨を再三懇請せり。法皇事の成らざるを以て、遂に應永二十三年九月吉野より還御せられ、再び嵯峨大覺寺に入御あらせられたり。然るにこの後正長元年七月、稱光天皇大漸に及び給ふや御後嗣なきを以て、大覺寺統の君臣は今度こそ大覺寺統の皇胤が皇位を受けさせらるべしと豫期せしに、幕府はまた約に違ひて俄かに伏見宮貞成親王（後崇光院）の皇子彦仁王を、後小松上皇の猶子となし、迎へて皇位に即け奉らんとす。これを聞き傳へる小倉宮は痛憤やる方なく、同月七日京都を御出奔ありて伊勢に赴かせらる。滿雅、宮を奉じて再び義兵を擧げたり。二十日稱光天皇崩御あらせらるゝや、彦仁王入りて踐祚し給ふ。即ち後花園天皇なり。滿雅は遙かに關東管領足利持氏と氣脈を通じ、伊勢・志摩・大和の興黨を糾合して幕府の軍を破り、勢大いに振ひしが、永享二年二月に至り幕府との間に和議成立し、宮はやがて御歸京ありて藏費を受けさせられ、滿雅亦所領を安堵せられたり。其後永享六年二月宮は出家あらせられしも、嘉吉三年二月また蜂起の企ある由聞えしが、同年五月九日遂に薨ぜられたり。當時宮の薨去聞ゆるや、一廷臣は「南北兩朝、元弘建武以來不安不休之處、近年無爭論止干戈、今已歸皇統自然、天運之理可云神慮、證領等附屬勸修寺云々、彼等小生歟、而先年已先父云々、於今者悔御流歸絕了」と記せり。以て宮の威勢の高かりしを察するに足る。今大和吉野郡川上村東河に小倉宮の御墓と傳ふるもの存す。これより先永享二年十一月二日、小倉宮の一子、當時御歳十二歳にまします御方、將軍義教の猶子の儀にて、勸修寺門跡に入室あらせられたり。これを梶井正教尊とす。看聞日記によれば、教尊は去る正長元年踐祚御靈望を以て御謀叛の企あり、御降參によりて力なく御入室あらせられしも、のと云ふ。然れば正長元年小倉宮父子は相共に事を謀り給ひ、成らずして父子共に出家あらせられしなり。かくの如く小倉宮は足利氏の遵約を憤り給ひて、義擧を企つる事一再ならずと雖も、その都度成らず、悲憤の中に薨ぜられしが、間もなく嘉吉の大變を惹起するに至れり。嘉吉三年九月二十三日夜、源尊秀と號する者、日野有光と謀を通じ、大覺寺統の皇胤金藏主を擁して禁闕を犯し、宮殿を燒き、神璽寶劍を奪ひて叡山に德る。當時後花園天皇は女裝して身を以て辛うじて遁れ給ふを得たり。やがて幕府の兵の爲に金藏主及び有光は討たれ、寶劍も後に發見せられたれど、神璽は遂に此時行方を失へり。蓋し一味徒黨の者之を奉じて遁れ出でたるなり。金藏主は御名及び御系統を詳かにせざれども、傳によれば小倉宮の御子、教尊の御弟にして、萬壽寺宮と稱する御方にして、初め禪僧となり孤海和尙の弟子となり、宗因と號し、後還俗し給へるものと云ふ。今大和吉野郡川上村入之業にこの宮の御墓と傳ふるものあるも、實證なく明かならず。而してこの亂に教尊亦關係ありと疑はれ、幕兵の爲に捕へられ、流罪せられ給へり。然るに其後文安元年八月の頃、同じく大覺寺統の一皇胤、大和吉野の奥に於て兵を擧げらるゝの由熊野本宮より京都に注進あり。この宮は泰成親王の皇子圓滿院圓胤法親王の還俗し給へるものなり。擧兵の地は吉野の奥と雖も、實は大和國には

あらず、紀伊國にして北山と稱する所なりと云ふ。抑々北山郷は往時大和・紀伊に亙れる廣大なる地を總稱せしものにして、その大和の北山を奥北山と稱し、紀伊の北山を口北山と稱せり。宮の擧兵せられし地は詳かならざれども、紀伊の北山、即ち日北山の地と考へらるる。されどこの宮の擧兵が、必ずしも大和の北山なる奥北山の地と無緣とは云ふべからず。即ち文安四年十二月十六日、宮が薨ぜられしのち、また大覺寺統の二王子が奥北山に潛居せられ、かの嘉吉三年以來行方を失へる神璽を擁して、郷民等に守護せられ給へる事實あり。二王子の御名及び御系統は亦明かならざれども、御兄弟にして、兄宮は北山村にましますを以て北山宮と稱し、弟宮は川上村神野谷にましますを以て河野宮と稱す。是より先、嘉吉元年將軍義教を弑せし罪によりて滅亡せられし赤松氏の遺臣等は、二王子を害し、神璽奉還の功を以て、主家を再興せんことを幕府に請ふ。幕府之を許すや、遺臣等潛行して吉野の奥に入り、長祿元年十二月二日北山宮を害して神璽を奪ひ同時に河野宮をも害したり。されど神璽は一旦北山郷民の爲に奪取せられしが、後また策略を以て之を入手し、長祿二年八月三十日之を朝廷に獻ず。嘉吉三年以來こゝに十六年にして神器再びは禁中に還るを得たり。さて害に遭ひ給へる二王子は郷民によりて懇に葬られ、御墓各御在所に現存す。然るに更に其後文明元年末の頃、大覺寺統皇胤にして小倉宮の王子と稱せらるゝ御兄弟の宮、吉野の奥及び熊野にましまし、同地の郷民に擁せられて兵を起し、紀伊・大和・和泉の者多く之に應じて勢振ひ、年號を立てらるゝの聞えあり。當時京都は應仁の大亂未だ終熄せず、東軍の細川氏は天皇・將軍を擁して西軍の山名氏に對したれば、山名氏は之に抗せんが爲にこの小倉宮の王子を京都に迎ふ。文明三年八月王子は壺坂・吉市を經て上洛せられ、北野松梅院に入らせられ、それより二條家に移り、内裏に入御あるべしとの風說行はれたり。但し其後の御動靜詳かならず。かくて久しく足利氏の暴逆に抗して吉野朝廷の再興を企てし大覺寺統皇胤も、文明の頃には殆んど衰微せられ、皇胤を擁護して義擧を援助せし吉野の郷民も遂に屏息するの已むなきに至れり。

七　史　蹟

〔吉野神宮〕吉野町に鎭座す。宮城宏壯にして眺望絕佳、山下に吉野川を眺め、遙かに吉野山を望む。境内楓・楓多く、井水の湧出するあり、清洌甘味掬すべし。この地もと丈六山と稱し、一の藏王堂ありしが、明治八年廢絕の後空地となれるを、同二十二年六月、神殿を造營して、後醍醐天皇の神靈を奉祭するに至れるなり。同年官幣中社に列せられ、同三十六年大社に昇格せらる。その後社殿は改築を要することとなり、また宮城狹小なるを以てこれが擴張の議起り、大正十一年四月、内務省は國費五十萬圓を以て新に社殿の改築に着手せしが、その時奈良縣木田川奉彦の主張と德川頼倉侯の贊同とによりて官幣大社吉野神宮奉贊會を組織し、齋館・神宮會館および寶物陳列所等をはじめ、神宮附屬の建造物を新營し、造營事業を助成する事となれり。大正十三年六月同會の組織成り、會長大木遠吉伯、副會長松平頼壽伯・本山彦一、顧問德川頼倉侯・德川達孝伯、理事黑板勝美・阪本仙次・木田川奉彦諸氏就任す。大正十四年四月假殿遷工して同年五月假殿遷宮を行ふ。昭和二年四月本殿上棟式を行ひしが、同年十一月本殿遷工し、三年四月拜殿遷工し、同年九月摂社遷工し、同月二十五日正遷宮を行ふ。奉贊會また着々事業を進め、昭和三年十一月神宮南側に接せる金峯山寺保安林三百八十七坪の買收を了し、續いて同五年二月田畑山林等一萬七百五十八坪の買收を以て宮城擴張の事を完了し、全宮域合計二萬四千四百十一坪七合に達す。その他參道を改修し、防火水道・避雷裝置を施し、櫻・楓等の植樹をなし、鳥居・社號標・道標を建立する等、漸次面目を一新するに至れり。此間昭和七年九月二十一日神宮維持基金として秩父宮・高松宮・閑院宮・東伏見宮・伏見宮・山階宮・賀陽宮・久邇宮・北白川宮・竹田宮及び李王家より金七百圓御下賜あらせられ、同二十二日思召を以て傳後醍醐天皇御料金造秋草蝶彫革卷柄金鼠斗付鞘御腰刀一口を御神寶として神宮へ御寄附あらせられ、同日奉贊會が造營事業を翼贊し、諸般の設備を完成して神宮の尊嚴を保持せんとするの趣を聞召され、思召を以て金一萬圓を御下賜あらせられたり。かくて造營事業は今や全く完成するに至れり。なほ當神宮の攝社御影神社に日野資朝・同俊基を、船岡神社に兒島範長・同高範・櫻山蒸俊を、櫻神社に土居通增・得能通綱をそれぞれ配祀せり。

〔金峯山寺・藏王堂〕吉野山の北端、六田川より登る三十曲町の所にあり。藏王權現を祀る。修驗道の本山にして現今天台宗に屬す。金峯山寺といふは金峯山の寺坊百數十の總稱にして、藏王堂はその本堂なり。初め役小角、修驗道を創立して金峯山を開き、のち聖賢これを再興す。山上山下に藏王堂あり。山下の藏王堂は即ち現今の吉野山藏王堂にして、存基の建立せしものなり。蓋し山上は險峻にして冬期積雪丈餘に及び、冬籠に堪へざるを以て、山下なる吉野に一堂を建立し、練行に當てしものなり。正平三年正月高師直・師泰兄弟來襲し、藏王堂の殿堂・廻廊・神樂屋・寶藏・鑑殿等兵火に罹りて、悉く灰燼に歸せり。往時の壯觀に及ばずと雖も、その結構の壯大なる、現今稀に見る所なり。即ち銅造鳥居は二丈五尺あり

て發心門と稱し、東大寺大佛鑄造の劃像を以て作れるものと傳ふ。山門は康正元年の造立にかかり、大塔は今は土壇を遺すのみ。また鋼製燈臺は高さ一丈。本堂は十八間四面あり。康正元年の再興、天正十九年の修復にかかり、本邦木造建築物中東大寺大佛殿に亞ぐ壯大なるものなり。棟梁柱機の類は堅牢の良材を用ひ、杉柱の周圍一丈三尺、長さ三丈五尺、中に周圍八尺、長さ三丈一尺の鄙踊樹の柱あり。堂内に金剛藏王權現三體を安置す。その高さ二丈六尺・二丈四尺・二丈二尺あり。本堂の前庭は元弘三年二月大塔宮護良親王が北條の大軍と戰ひ給ひ、最後の御酒宴を催され、村上義光と訣別し給ひし所にして、現今四隅に櫻樹を植ゑて標示す。金峯山寺は明治維新の神佛分離の際、明治七年六月官命によりて神社に改められ、今精明神を祀る金峯神社を本社となし、山上藏王堂を奥宮、山下藏王堂を口宮となし、佛像佛具の類を撤回す。然れども山下藏王堂の本尊なる藏王權現の尊像は五大にして移動不可能なりしを以て、暫く幕を張り仕切りを立て、そのままに存置し、表面金峯神社の分靈を祀る爲、その御賓代として鏡を掛け、幣束を立つるに止め、其他の諸佛像類は密場院境内の瀧頂堂・高祖堂・天大堂に移し集む。よりてこれを諸佛堂と稱す。現今の櫻本坊これなり。是等の佛像類は推古朝以來、各時代に亙る百數十體の逸品にして、その内優秀なるものに、推古朝貿鍍金釋迦如來坐像・世原初期地藏菩薩坐像・鎌倉期木貿棒彩色投火小角坐像・弘仁期木貿菩薩坐像・藤原末期木貿無著像・藤原末期木貿普賢菩薩坐像・藤原末期木貿普賢菩薩坐像・藤原末期木貿文殊菩薩坐像・藤原末期木貿大日如來立像・鎌倉末期阿彌陀如來坐像・脇士觀音勢至立像・鎌倉末期原初期木貿十一面觀世音菩薩立像・銅貿鍍金厨子・扁一面等あり。神佛分離ば千數百年來の信仰を無視したるものなりしを以て、信徒は金峯山寺復舊を冀むこと甚だ切なるものあり。此に於て明治十九年五月に至り、藏王堂の復舊を許可せられ、堂内の幕を除去し、舊來の如く藏王權現の尊像を表面に出して之を禮拜せしめ、諸佛堂はその儘として維持することとなれり。なほ藏王堂附近の寺坊は神佛分離の際、或は廢絕し、或は神社に改りしが、東南院は明治十二年復舊し、竹林院は同十三年六月復舊し、櫻本坊は同年十一月復舊し、辛うじて往時に於ける金峯山寺の舊觀を保つの現狀なり。

〔吉野行宮址〕藏王堂の乾方三町許の地にて、字西之尾といひ、實城寺のありし所なり。當寺はまた金輪寺ともいひ、金峯山寺僧坊の一にて、延元元年十二月後醍醐天皇吉水院より移りて當寺を行宮に定め給ひ、三年ここに在し、延元四年八月十六日崩じ給へり。皇子後村上天皇御位を繼がせ給ひ、同じく當寺に坐す。正平三年正月賊首高師直・師泰大軍を以て來り攻め、同月廿五日皇居を犯して火を行在にかく。坊舍多く延燒し、天皇は難を賢者生に避け給へり。後北畠顯能再建すと傳ふれども詳かならず。その後變遷また明らかならずといへども、吉野名所記の記す所によれば、慶長十九年十一月德川家康大阪在陣の節、吉野山は要害の地なればとて、天海僧正に命じ、金輪王寺を修繕せしめて實城寺と改稱し、金輪王寺を日光山に遷し、天海を金峯山寺學頭中興の第一世となす。爾來吉野山は日光宮の支配地となりて、明治維新に及べり。されどこの實城寺は明治八年廢せられて、今は全く荒墟となれり。近年ここに吉野行宮址の碑を建て、櫻樹を植ゑて史蹟に定む。

〔吉水神社〕藏王堂を去ること凡そ三町の所に鎮座せり。本社はもと吉水院と稱し、金峯山寺の一坊たり。傳によれば大寶年中、役小角大峯修行の時休憩の庵室に就いて創立せられしものにして、その後聖寶大峰再興の際、また當院に止宿せりといふ。文治年中、源義經密に當寺に入り、衆徒を賴みしが、衆徒頼朝の命によりて應ぜざりしかば、義經寺を出でて中院谷に隱れたり。然るに之を求めて追蹤し來る者あり。義經乃ち佐藤忠信をして之を拒がしめ、多武峯藤室十字坊に入るといふ。延元元年十二月、後醍醐天皇京都を脱れ給ひて賢者生に潛幸せられ、當院に移られしが、後更に實城寺に移らせられたり。當時吉水院に宗信あり。吉野金峯山の執行にして勤王の志篤かりしを以てこれを賴まれしなり。「花にねてよしやよしのゝよし水の枕の下に石はしるゝと」の御製は當院に御駐輦中の御作なり。宗信その後久しく王事に勤む。宗信の子に瑞壽丸あり。また行宮に奉仕して弘和元中の交に及ぶ。當院には吉野朝廷の君臣に關係ある文書・記錄・什器等を多く藏し、當時の史實を徵するに最も重要なる雲母たり。水戸の史官、大日本史の編纂に當りて早くここに探訪を行ひしこと、現存する德川光圀の書狀によりて知らる。明治八年の神佛分離の際、當院は寺を廢して吉水神社と改稱し、後醍醐天皇を奉祀し、別に小碓公を祀り、院主還俗して神職となれり。但しその建造物等すべて舊狀のまゝにして、延元往時の狀況を察するに足るべし。

〔山口神社〕吉野山藏王堂の南方、街道の右手に鎮座す。俗に勝手明神と稱す。祭神は神佛習合の往時は、多聞天王の乘跡、若宮は文殊菩薩の乘跡とせられしが現今は大山祇命・忍穗耳命・久々廼智命・木花咲耶姫命・苦虫命・葉野姫命の諸神を合祀す。正平三年正月、後村上天皇難を避けて賢者生に落ちさせ給ふ時、社前にて御馬より下り給ひ「遐むかひなきにつけても譽ひてし勝手の神の名」と惜しけれ」の御製を詠じ給ひし事、太平記に見ゆ。尚ほ神社の後方の山は袖振山と稱す。天武天皇の朝、天女來りて舞を奏すとの故事あり、五節舞の起源とす。

〔村上義光の墓〕吉野山吉野驛に近く、路傍の丘上にありて寶篋印塔存す。村上義光は信濃の人にして、彦四郎と稱し、左馬權頭に任ぜらる。元弘の變、大塔宮護良親王熊野十津川の間に潛行し給ひ、賊徒討伐の謀を巡らし給ふや、義光慮從して忠勤を抽ん字。芋瀬莊司兵を率ゐて宮を道に要し迫りて錦旗を受く。義光後れて至り之を知るや、大いに怒りて之を奪取し、宮に道付き奉れり。其後宮に從ひて吉野に入り、北條の大軍を防ぎ奮戰す。元弘三年閏二月一日、賊兵城の前後に迫り、宮の御座所藏王堂既に危し。宮惡戰苦鬪、遂に支へ難きを以て死を決し給ふ。時に義光戰場より走り歸り、宮に此處を遁れて再舉せられん事を勸め、且つ自ら親王に代りて自裁せん事を請ふ。宮之を聽すに忍びず、決戰して共に死せんとせらる。義光懇を勵まし、之を諫め宮を落し奉るや、乃ち親王と稱して敵を欺き、居殿して果つ。後人義光の忠烈を追慕して墓を築き、天明三年十月内藤景文忠烈碑を建立す。後阜上の東北隅にあり。墓を現今の地に移して大いに修繕を加ふ。なほ明治四十一年十一月特旨を以て義光に從三位を追贈せられたり。

村上義隆の墓〕吉野山鬪手神社の南方にある南院谷にあり。義隆は義光の子、護人と稱す。元弘三年閏二月一日父と共に吉野山藏王堂に北條の大軍と奮戰す。義光大塔宮護良親王に代り、留りて自殺せんとするや、義隆井に死せん事を請ふ。義光、之を許さず、宮に從ひて同所を脱れん事を諭す。義隆止むを得ず、父に訣別し、宮を護りて南院谷より天河の方に赴く。然るに賊軍は宮の落ち給ふを知るや、搦手の兵五百餘騎せて之を追躡する事甚だ急なり。義隆危急の迫るを見て、憤然唯一人踏留り、溪谷の細道にありて追ひ來る敵を薙ぎ伏し、防戰する事半時餘、身に十餘箇所の矢創を蒙り、遂に戰ふ能はざるに至るや、奔りて竹叢の中に入り、屠腹して果つ。宮、この際に虎口を遁れ給ひて、辛うじて天河を經て高野山に落ちさせらるゝを得たり。義隆自殺の所は久しく荒草に埋れて顧みられざりしが、明治三年八月、伊勢松井延基偶々これを見て、忠烈の士の墓の荒廢を歎じ募を伐り、驗崖を平にして墳墓を築き、來由を墓石の裏面に刻し、懇に之を弔ふと共に追勳を世に顯彰せり。

〔如意輪寺〕吉野山塔尾にあり。延喜年間日藏上人の創立する所にして、本尊如意輪觀音は役小角の作に係ると傳ふ。正平二年十二月賊將高師直・師泰大兵を率ゐ來襲するや、楠木正行之を防がんが爲四條畷に赴くに先ち、ここに至りて後醍醐天皇の御陵を拜したる後、一族將士の名を過去帳に記し、堂扉に辭世の歌一首を題せし事太平記に見え、世に喧傳す。當寺に國寶藏王權現立像一體あり、その厨子の扉には吉野より熊野に至る行路の景狀を畫き、上部に賛あり。傳へて後醍醐天皇の宸筆となせり。墳内に後醍醐天皇御靈殿・雙塚等あり。雙塚は正行等一族が當寺を出でて戰場に赴かんとするの際、髮を剪りて佛殿に納めしものを埋めしものと云ふ。なほ東方後山に後醍醐天皇の御陵あり。

〔後醍醐天皇御陵〕後醍醐天皇、延元四年八月九日より御不豫に渡らせらる。延臣等御快癒を祈り奉りしも其效なく、日日に重らせ給ひたり。乃ち同月十五日御位を皇太子義良親王（後村上天皇）に讓らせられ且つ遺勅を懷良親王・宗良親王・五條頼元・結城親朝・北畠顯信・臨屋義助等に賜ひ、後事を北畠親房・洞院實世・四條隆資等に託し、翌十六日遂に行宮に崩じ給ふ。崩ずるに臨み、賊徒を討伐して皇運を回復せしむべき旨を御遺言あらせられ、左の御手に法華經を持し、右の御手に御劍を按じて神去り給ふ。延臣等遺勅によりて御臨終の御形を改めず、棺槨を厚くし、御座を正して吉野山藏王堂の艮なる林の奥に圓丘を築きて北向に葬り奉る。即ち如意輪寺の東上にある塔尾陵是なり。御陵の築造に當り、懷良親王遙かに造營料を進められ孝養を盡されたり。千種忠顯の男に忠房といふ者あり。天皇崩御の後、御陵の側に草庵を營み、薙髮して松翁と號し、ここに在りて香華を獻ずと云ふ。今その廢址如意輪寺内に存す。御陵は明治元年三月玉井錦七郎・中條傳之丞の調書によるに、北面に高さ四尺二寸の石鳥居あり、表間三尺、扉高二尺八寸五分、幅三尺、兩間付なり。東西兩脇へ向ひて石の瑞籬四丈六尺五寸のものあり。其の餘は木柵垣にして二十六間五尺五寸あり。相間正面に石燈籠二基あり、白木鳥居高七尺ありて、その表間五尺五寸なり。東傍に銅札を建つ。なほ同書に記す所によれば、元祿度の繪圖には白木鳥居・石瑞籬あり、竹垣三十四間ありしを、天保六年白木鳥居を御陵より五間北方に引き移し、其の跡へ石鳥居扉付に造立し、文化四年竹垣朽損に付き、木柵垣に改む。石燈籠は元祿以後の奉獻にかかるものといふ。また明治十二年十一月の調査によるに、山の周圍百十三間五尺、高さ八間九分。鳥居の内高一間九分、幅一間五分、外高二間、幅一間五分。扉の高さ一間五分、幅同。石垣六十八坪七合。石燈籠高さ一間二分、一對。玉垣長さ四尺五寸、檜四寸角、數三百二十五本、柱桂三十四本、貫三通。總計八百六十七坪なりと見ゆ。

〔世泰親王御墓〕塔尾山の中央、後醍醐天皇御陵に接して存す。世泰親王は後鳥山天皇の皇子にして、新葉集冥傷部に、「世泰親王かくれ給ひて如意輪寺にをさめ侍りし云々」とありて、如意輪寺に葬

り奉りしこと明らかなり。蓋去の年時は詳らかならざれども、新撰集が弘和元年十二月撰進せられしものなれば、その以前なること明らかにして、或は天授三年七月七日薨ずとの說あり。吉野名勝志の著者は、現在の御墓はこれ楠木正行の墓塚にして、實の御墓は如意輪寺附近の見重松といふ處に葬り奉るとの古老の傳を載せ、之を疑へり。

〔吉水院宗信の墓〕吉野山猿曳坂の上、雑木林の小丘上にありて五輪塔存す。宗信は吉水院の僧にて金峯山執行たり。夙に勤王の志篤く、元弘二年一山の衆徒と共に大塔宮護良親王を吉野に奉迎し、之を守護して賊徒を防ぐ。後延元元年十二月、後醍醐天皇大和に潛幸せらるるや、宗信衆を率ゐて之を迎へ奉り、爾來吉野の行宮に奉仕し、皇運の回復に盡瘁す。同四年八月天皇崩御せらるるや群臣悲歎して離散の兆あり、宗信毅然として衆を諭し、新帝後村上天皇を護りて御遺業を達成せざるべからざる所以を唱道せり。大正六年勅功によりて正五位を贈られ、墳墓また修築せらる。昭和十一年十二月忠烈顯彰の碑墓前に建立せらる。撰文は阪谷芳郎男爵にして、揮毫某氏の寄附にかかれり。

〔水分神社〕吉野山水分峠に鎭座す。俗に子守明神と稱す。祭神は、神佛習合の往時は、地藏菩薩の垂跡、若宮は阿彌陀如來の垂跡とせられしが、現今は天水分神・天萬栲幡千々姫命・瓊々杵尊・玉依姫命・高皇產靈神・少彦名命・御子神を合祀す。水の配分を司る神、また祈雨の神として聞え、文武天皇二年四月、祈雨の爲に馬を獻ぜられ、また清和天皇貞觀元年九月祈雨奉幣の事見ゆ。現存の社殿は慶長年間懋臣秀頼が建部内匠頭光重を奉行として再建せしものに係り、本殿・幣殿・拜殿・樓門・廻廊共に頗る豪壯にして、桃山時代建築の特徵を示し、その代表的のものとして何れも國寶に指定せらる。本殿は三殿を一棟に連續し、左右の兩殿は同じきも、中の一殿は小さくして特異の建築樣式を有し、桁組・虹梁・長押・柱頭・蟇股等の彫刻には彩色を施し華麗を極めたり。

〔金峯神社〕吉野山の奥高峰の下に鎭座す。老杉に圍まれ、地は高爽にして閑寂なり。祭神は吉野山の地主の神にして金山彦神とす。文德天皇仁壽二年十一月從三位を授けられ、同三年六月名神に列せられ、齊衡元年六月、相嘗・月次・神今食祭に預り、清和天皇貞觀元年正月從三位勲八等より正三位を授けらる。延喜の制、名神大社に列し、新年・月次・相嘗・新嘗の祭上官幣に預れり。然るに金峯山修驗道の隆盛に伴ひ、祭神を金剛藏王權現に習合し、附近一帶に數多の寺塔建立せられ、精進潔齋の行場として殷盛を極むるに至れり。後、明治維新の神佛分離の際、金峯山寺は神社と改めらるゝや、一山の堂塔多く廢絕せられ、この社を以て金峯神社の本社とし、山上大峯の藏王堂を奥宮、山下吉野の藏王堂を口宮となせり。今當社に所藏する金銅經筒は寛弘四年藤原道長の金峯山祈願の銘文あり。往時の金峯山信仰の貴重なる遺物として著名にして國寶に指定せられたり。尙半塔婆造し方形鐵鞘一箇を藏す。村上義光の所持せしものと傳へ、蒔繪箱と共に同じく國寶に指定せらる。

〔愛染寶塔址〕吉野山の奥地、俗に奥院と稱す高地にあり。愛染寶塔とは愛染堂及び寶塔院を併稱せしものにして、桓武天皇の朝、高雄の草創に係り、宇多天皇の朝相應の中興せしものと傳ふ。同所には安禪寺藏王堂・多寶塔・四方正面堂・鐘樓堂・山王七社・熊野三社等の堂塔あり、附近の丘下になほ多數の僧坊・民屋のありし事は、口碑に岩倉千軒・鍛倉千軒の地名の存するによりて察せらる。岩倉は古く石藏と稱せられ、石藏寺のありし所なり。同寺の寶塔は承保三年白河法皇の建立にかかり、同年十一月二十六日には塔供養行はれたり。歷世金峯山詣の者は皆此處に宿泊して精進潔齋を行ひ、同地を通過して、更に山上に至るを例とせり。また入峯せざる者は、此地に止まて練行を凝らすを例となす。而して此地は吉野山嶽を隔る事遙かにして、幽邃高爽、自ら別天地を形成す。また軍事上極めて要害にして、元弘二年大塔宮護良親王熊野・十津川を經て吉野山に入り給ふや、此地を戰略の根據地に定め給ふ。然るに三年閏二月、賊軍に應じたる吉野の岩菊丸は案内に通じたるを以て、敵を導きて後方より愛染寶塔に攻め入り、火を放つて之を陷れたり。よりて吉野城は前後より敵の襲擊を蒙り、遂に落城するに至れり。かくの如く往時殷盛を誇りし此地も明治維新の廢佛棄釋に遭ひて堂塔悉く破却せられ、現今はその礎石さへ除かれて附近一帶杉檜の造林地と化したり。

〔大峯・山上藏王堂〕大峯山脈は吉野山の南方に聳立し、熊野に縱走する山脈にして、最北に小天井ヶ嶽・大天井ヶ嶽あり、ついで山上ヶ嶽の主峯聳立す。これより山嶽は稍東方に延びて龍ヶ嶽を起し南方に走りて大菩薩嶽・國見嶽・行者還嶽と連續し、山上ヶ嶽より走る側脈は西方に稍村ヶ嶽、ついで頂仙嶽を起す。行者還嶽の山脈更に西南に走りて彌山・佛經ヶ嶽・明星ヶ嶽・孔雀嶽・釋迦嶽・大日嶽となり、山勢稍衰ふ。山上ヶ嶽は俗に大峯と稱し、古來金峯山修驗道の根本道場にして、山下の吉野に對して山上と稱し、頂上に藏王堂あり。天武天皇の白鳳中、役小角、龍房苦修する事一千日、藏王權現化現す。乃ち尊像一體を作りて堂に安置禮拜す。これを山上藏王堂の起原とす。爾來金峯山信仰大いに世に行はるるに及び天皇・上皇の尊貴を初めとして遠近・武將・高僧より一般の民庶に至るまで、渇仰惓惓する所甚だ篤く、遠路を凌ぎ、峻嶮を攀ぢてここに參詣する者跡を絕たず。通例山下の吉野山より山上に至る經路は、金峯神社より新茶屋・百丁茶屋・五番關を經て洞辻茶屋に出で頂上に達するものにして、往時之を吉野奥掛と稱したり。後には洞川上より至る道路開拓せられ、この道近く且つ易きを以て大いに發達したり。頂上は巨巖峙ち斷崖に臨み・油懸・鐘掛岩・西歐・屏風岩・體内くぐり・押分岩・蟻戸淺・飛石・平等石・東歐等の難所ありて、練行の苦難に堪へしむ。頂上より稍東方の龍ヶ嶽に至る途中、小笹の宿あり、これ金峯山の終點にして、大峯は正しくはこれより熊野に至る連峯を稱するものなり。大峯連峯の練行は古來奥通りと稱し、これ亦修驗道の行場にして大日嶽の前鬼を終點とす。元弘の變に大塔宮護良親王は修驗者の御奏にて熊野に落ちさせ給ひて後、北山川を溯りて竹原に出で、これより大峯修驗道の路を北上して山上ヶ嶽に達し、更に吉野に越えさせらる。苦難の狀想像に餘あり。

〔吉野離宮址〕その舊址詳かならざれども、蓋し國樔村大字宮瀧の地なるべし。創始明らかならざれども、神武天皇既に吉野巡幸の御事あり。萬葉集に「みよし野の秋野宮は神からや貴からん、國栖かみまほしからん、山川をさやけくすめり、うべし、神代ゆ定めけらしも」また「神代より吉野の宮のありかよひ、たかくしれるは山川を」の二首の歌、神代よりここに宮殿ありと詠めるは、蓋し神武天皇の御代を云へるものにして、詞林采葉抄に「吉野宮ハ神代ヨリト詠ル歌二首アリ、神武帝ハ畝火ノ橿原宮ニマシマス時、吉野ニ離宮ヲ構ヘテ臨幸アリシ、神代トハ神武帝ノ御宇ヲサスナルベシ」と云へる說は從ふべし。其後離宮は應神天皇、雄略天皇・齊明天皇・天武天皇・持統天皇・文武天皇・元正天皇・聖武天皇の歷朝行幸あり、山川の清美を賞せらる。この宮殿を瀧の宮・瀧の御門・瀧ツ河内の高殿等と歌に詠ぜられしは、その地に瀧流ありて景勝の地なるが故なるべし。またこの離宮を秋津の宮といへり。名稱の起源に關する傳說雄略天皇紀に見ゆ。

〔國樔〕國巢・國栖ともかく。上古、國樔と稱する穴居民族の居住せし地なり。國樔はその先、石穗押別神より出づ。神武天皇、吉野に幸せらるる時、川上に迎入あり。時に天皇これを見給ふに伺ち穴に入り、須臾にしてまた出でて遊ぶ。此時詔して初めて國樔の名を賜へり。其後仁德天皇十九年來朝して大御酒を獻じ醽酒の歌を奏す。これ只來朝延に大儀ある毎に朝し、歌曲を奏し御贄を獻ずる事恒例となれり。之を國樔奏と云ふ。而して小右記寛弘八年正月一日の條に「無國樔奏、依不參上也、近年如此、是大和守頼親時被調、已不參上」と見ゆれば此頃に至りて遂に廢絕し、單に儀式のみ存して京都の官人之を行ふに至れるものなるべし。國樔の地は吉野川の上流にありて峰險にして谷深く、道路險隘なれば、京都に近しと雖も久しく古風を保ち、住民甚だ淳朴にして山果を食し、蝦蟆を獲りて上味となし、一殺と異るものあり。自ら別天地の觀をなせり。筒井諸記に載する大和衆徒國民郷士記の吉野郡中に國栖助五郎の名見ゆ。國樔の裔孫なるべし。

〔戸野兵衛の墓〕大塔村殿野の西教寺より約二町、字石塚前にあり。兵衛は殿野の土豪なり。氏を戸野或は殿野といふ。元弘の變、大塔宮尊雲法親王（護良親王）は赤坂城陷落の後、熊野に落ちさせ給ふとて從者片岡八郎・矢田彦七・光琳房玄尊と共に修驗者に變裝して切目の王子を過ぎて十津川郷に入らせらる。當地の一佛堂にて憩ひ、ここに逗留し給ふこと三日。時に玄尊偶々兵衛の宅に到り、その勤王の志あるを見て、事情を述ぶ。兵衛大いに感激して親王を迎へ、新館を造りて之に奉じ守備を固め、一族竹原八郎と共に四方の義兵を募りて忠勤を盡くしたり。兵衛より六代の孫、兵衛次郎といふ者、文明年間本願寺蓮如の吉野巡化の砌、薙髮して弟子となり、後に自宅の傍に堂宇を建立して佛日山西教寺と號し、之に住し、子孫をして相續せしめし事、同寺の明和元年八月の調書に見ゆ。大正六年十一月特旨を以て兵衛に正五位を贈られたり。

〔竹原八郎の遺蹟及び墓〕大塔村辻堂にあり。元弘の變に大塔宮尊雲法親王（護良親王）熊野に赴かせ給ふの途中、十津川郷に入り、兵衛の一族竹原八郎これを聞きて大いに感奮し、親王を己が宅に迎へ、令旨を奉じて四方の義兵を募り、爾來屢々賊徒と戰ひて王事に勤む。當時八郎の奮戰の狀況は京都にも聞え、花園天皇の御日記元弘二年六月廿九日の條に「是自熊野山帶大塔宮令旨、竹原入道八郎爲大將軍襲來、驚嘆不少」と見えたり。以てその强勢を知るに足るべし。八郎の宅はもと西熊野街道より約一町餘上方の所にあり八郎の後裔この宅地を守り來りしが、江戸時代に至り、木材運搬の便を計りて之を川邊に移したり。然るに明治二十二年八月洪水の爲に居宅流失し、古來の重器財物を悉く亡失し、舊宅址亦水流の爲にその半を削除せられたりといふ。末裔竹原忠顯現今の地に居宅を造りたるが、その地はもとの山腹に當れりといふ。八郎の墳墓は舊宅址より約一町離れたる深林の中にありて二十二年の水害を免れ、古態を變ぜずして現存す。明治三十九年墓前に表忠碑を建立す。撰文は東久世通禧伯なり。なほ大正六年十一月、八郎に對し特旨を以て從四位を贈られたり。

〔片岡八郎の墓〕十津川村玉置川經尾上にあり。片岡八郎は、大塔宮尊雲法親王

（護良親王）の從臣にして、元弘の變、宮は赤坂城陷落の後、八郎及び赤松則祐・矢田彦七・光琳房玄尊等を從へ熊野に赴かせられんとして十津川郷に入り給ひ、戸野長衛及び竹原八郎の宅に潛み給ふ。居る事半歳、出でて竹原に向はせらる。玉置莊司これを聞知し、衆を語らひて之を遮り奉る。仍つて八郎及び彦七赴き論したれども、莊司は之に應ぜざるのみならず、反つて兵を率ゐて急に襲撃し來れり。二人防戦大いに努めたるも、八郎は二矢を被れり。乃ち彦七をして急を宮に報じ、難を避けしめ奉り、自らは止つて奮戦の末、遂に壯烈なる戦死を遂ぐ。郷民其の忠烈を悼み、墓を築きて葬れり。明治十四年五月、墓側に表忠碑を建立す。篆額三條實美公、撰文は島山雲平、書は駐劄神戸鎮管大阪正理事官羅浮廖錫恩なり。なほ大正四年十一月特旨を以て八郎に正五位を贈られたり。

〔丹生川上神社〕　丹生村字丹生に鎮座、祈雨の大社にして、俗に、雨師明神と稱す。祭神水神彌都波能賣神、伊邪那岐命の御子なり。もと山邊郡大和神社の別宮にして、天武天皇白鳳四年神靈敬し給はく、人跡の開えぬ深山吉野丹生川上に宮社を建て敬ひ奉らば、甘雨を降して霖雨を止め給はむと告げ給ふ。よりて宮社をここに造りて祀る。古へ當社の奉幣に大和社の神主、勅使に隨ひて參向し、之を奉る例は之によるといふ。國史を按ずるに、天平寶字七年四月旱によりて幣帛及び黑毛馬を奉り、天平神護二年五月同じく奉幣あり、寶龜六年霖雨の祈願に幣帛及び白馬を奉る。これより水旱には黑馬を、霖雨には白馬を奉るの例となれり。延喜式に「祈雨祭料丹生川上社、加黑毛馬一匹、其霖雨不止祭料又同、但馬用白馬」と見ゆるものの即ちこれなり。爾來歴朝水旱霖雨あれば必ず當社に奉幣あり、靈驗最も顯れ、崇敬あつむ。元慶元年正三位を授け、寛平九年從二位を授けらる。延喜の制、名神大社に列し、中世二十二社の第二十一となり、現今官幣大社たり。神戸は四戸あり寶龜四年五月充てらる。新抄動格符抄に丹生川上神四戸、丹波二戸、大和二戸と見えたり。また寛平七年六月二十六日の太政官符によるに當社の四至は東は鹽勾、南は大山峰、西は板波濱、北は居鼻池を限るとあり。

〔賀名生〕　初め穴生といふ。山嶽重疊屏立し、黑瀧川麓を廻りて寇り自然の要塞をなす。吉野朝延、足利の爲に危急に臨むや、天皇、ここに幸し給ふこと屢々なり。初め延元元年十二月二十一日、後醍醐天皇花山院を駐れ給ひて大和に御幸し給ふや、同二十三日先づ賀名生に入御あり、同地の郷士、堀信堀の居宅に滯留し給ひ、尋で二十八日吉野に移らせられたり。正平三年正月、賊將高師直・師泰兄弟大軍を率ゐて吉野の行宮を犯すや、後村上天皇また賀名生に遷らせられ、宇黑淵に行宮を營み給ふ。正平六年の末足利尊氏一旦歸順し、京都の崇光院及びその皇太子直仁親王廢せられ給ひ、天皇天下を一統し給ふや、穴生を賀名生と改む。同太曆正平七年二月二十六日の條に「傳聞今上皇帝（後村上天皇）令出穴生、此間改名於賀名生」宸居、令赴住吉給」と見ゆ。蓋し天下一統を慶祝するの意に出づるものなり。天皇賀名生を出で、住吉を經て男山八幡宮に鳳輦を進め給ひ、將に入洛せられんとせしが、七年五月十一日賊軍の爲に男山陷り、天皇再び賀名生に幸せらる。爾來、九年十月河内金剛寺に移らせらるるまで當地に御駐輦あらせられたり。而して後村上天皇の男山御駐輦中、光厳・光明・崇光の三上皇及び直仁親王は男山に迎へ取られ給ひしが、後來條に遷さしめられ、後七年六月二日更に賀名生に遷さしめらる。爾來九年三月二十二日河内金剛寺に遷らせらるるに至るまでこの地に御座あり。かくの如き狹隘の僻地に兩皇統の皇親並び在す事三年、もとより御居住の御事情を異にせられたれども、その間また交會あらせられしなるべし。その後正平五年四月、大塔宮護良親王の御子赤松宮と稱せられし御方、吉野の奥に潛居し給ひけるが、當時一族間の不和によりて吉野朝延に參候せる赤松氏範及び吉野十八郷の民兵を率ゐ給ひて突如謀反を企てられ、足利義詮と通じ賀名生に討入りて御所及び公卿等の殿舍み焼拂ひ給ふ。朝延乃ち二條師基を大將軍となし、和泉及び大和宇多・宇智の勢を以て之を討たしめらる。やがて吉野の郷民等は離散し、宮は敗れて南都に遁入し給ひ、氏範は降參して播磨に幽還せしが、後弘和三年九月、同國清水寺に於て守護赤松義則に攻められ、父子四人共に討死せり。

〔北畠親房の墓〕　賀名生村字藏院址に存して五輪塔あり。北畠親房は後宇多・後醍醐・後村上三天皇に歴仕したる忠臣にて吉野朝延の元老たり。初め後醍醐天皇の皇子世良親王の傅育に當る。元亨二年九月親王夭折し給ふや痛惜措かず、出家して宗玄と號し、後疊空と改む。建武中興成るや、皇子義良親王を奉じ、嫡子顯家を援けて陸奥に赴き東國經營に從ふ。足利尊氏叛するに及び親王を奉じて上洛し、尊氏の軍を破つて之を西走せしむ。尊氏東上して京都に入るや、親房伊勢に在り、乃ち次子顯信と謀り吉野に天皇を迎へて行宮を營む。爾來至誠奉公、皇業の回復に盡瘁し、朝敵討滅の善策多く彼に出づ。後常陸に在ること數年、天皇の側に遣ひ、後吉野に歸りて新帝後村上天皇を輔佐す。正平九年四月十七日賀名生に薨ず、年六十二歳。親房の墳墓については明證の存するものなく、何れの地なるかは尚研究の餘地あるが、その最も著名かるはこの地のものなり。明治三十五年の頃、帝國古蹟取調會が設立せられ、

國史上著名なる先賢の墳墓に就いての調査並にその顯彰に從ひたりしが、明治三十六年六月二十二日賀名生華藏院址の五輪塔を以て親房の墳墓と認定し、會長長岡護美子爵より同日付を以て旨を奈良縣知事寺原長輝及び同地の堀重信・林海音兩人に通達し、併せてその保存顯彰を慫慂せり。明治四十一年九月親房に正一位を追贈せらるるや、十月二十五日奈良縣知事を策命使としてこの墓前に到りて奉告せしめらる。同年十一月縣下に大演習行はるるや、明治天皇特に公僧鷹司侍從武官を墓前に差遣して祭祀料を下賜せられたり。また、大正十四年五月臺下博によりて墓側に顯彰碑建立せられたり。かくの如くしてこの五輪塔は既に親房の墳墓として公認せられたるものの如くなれども、仔細に研究するに尚やや疑なきを得ず。近時發表せられたる調査に從へばこの五輪塔の西面、地大部に「十部法華經衆二十五人、文中貳年癸巳十月、各々敬白」の銘文存し、これが文中二年建立せられたる經塚の五輪塔なること察せらる。而して同五輪塔はもと同村小字辻上と稱する總墓地に在りしものを、明治十七年、堀重信が墓地の支配者たる正覺寺住職の諒解を得て現在の場所に移せしものにして、銘文は移轉後に發見せられたるが、そのままになりて現今に及べるものといふ。然ればこの五輪塔のみによりてこれが親房の墳墓と確定するは早計と評すべし。抑々親房が賀名生に薨ぜりといふの證は、常樂記に「文和三年四月十七日、北畠入道於紀州賀名生圓寂」とあるに依りしものにして、本書の記事にして信を置き難しとせんか、親房の墳墓はこの地以外の傳説地の一は室生寺なり。同寺は宇陀郡室生村に存する古刹にして、女人高野の名を以て有名なり。同寺内に古來伊勢國司の墓と傳稱せらるる一基の五輪塔あり。同塔の左には更に寶篋印塔一基、又その左に五輪塔一基あり。大正五年九月、北畠治房、許可を得て發掘調査を行ひしが、何等の證證をも得ず、從ひて同氏が唱へし基壇上の最も立派なるものが親房、中央の寶篋印塔が親房の室行子、他の一基が親房の三男顯能なるべしとの説は遽に信じ難し。その二は同じく宇陀郡伊那佐村大字福西にあるものにして、親房が晩年居住せし滝頂寺の舊址に近し。親房は常樂記によれば賀名生に薨じたる趣なれども、北畠准后傳によれば、正平九年九月十五日滝頂寺阿彌陀院に薨ずとなせり。而して南朝編年記略は親房がこゝに薨じたる後同寺に葬ると記せり。されど兩書の記事果して信を置くべきや否や、また、遽かに決すべからず。さればこの墳墓を親房のものと定むるにはなほ幾多の困難ありといはざるべからず。その三は伊勢一志郡上多氣村字鬼田八千俣川上流の地に存するものにして、二基の石碑あり。その一基の中央に「正一位源親房正平十二年子七月十五日、天德院台宗覺玄大居士」その左側に「從二位天文五年申四月十五日義顯院殿心月晴具大居士」右側に「左中將天正四年子霜月廿六日、圓德院殿通山藤浦大居士」と刻し、碑石の右面に北畠末孫鈴木三四郎と刻む。卽ち親房の末孫を稱する鈴木三四郎なる者の建立せし供養の碑にして墳墓にはあらず。且つ上多氣は北畠顯能が居城霧山城を築き根據地にしたる由緒ある地なれども、親房この地に薨ぜし證證を得ず。然ればいよいよこれを以て親房の墓となすべからざるなり。以上の記述によりて、賀名生・室生寺・福西・上多氣の四所共に各親房の墓と定むるに缺點あり。されど賀名生は世人に喧傳せらるること久しく、勅使の御差遣さへありたることとなれば、明證の發見によりて墳墓が確定せらるるまで、姑く賀名生の五輪塔を親房の墳墓に指定しおくが最も穩當なるべしと考へらる。

〔北山宮の墓〕　上北山村小橡にあり。北山宮は吉野・京都南朝延合體後の大覺寺統の皇胤なれども、その御系統御名を詳かにせず。或は藤吉三年九月日野有光等と謀り、禁闕を犯して神器を奪取し給ひし萬壽宮金蔵主の第一王子自天王と稱せらるる御方といふ。金蔵主、嵯山に籠り太上天皇と號し、大覺寺統の再興を圖りしが、幕府の討手の爲に根本中堂に於て自盡し給ひ、與黨多く誅せらる。この時神器のうち寶劍は發見せられたれども、神璽は一味の者潛に奉じて伊勢に逃れ、紀伊より大和に入り、吉野の郷民等と謀りて大覺寺統の皇胤なる兄弟の二王子を奉じて恢復を圖る。兄宮この地にましまし、神璽を擁せられ給ふ。是より先嘉吉元年六月二十四日、赤松滿祐、將軍足利義教を弑して誅に伏し、家督斷絶す。遺臣石見太郎左衛門尉雅介等、滿祐の弟義雅の息永郎三郎法師丸を立て、内大臣三條實量を頼み、吉野の二王子を弑し、神器奉還の功を以て、主家再興の事を懇請す。實量幕府の外戚たるの故を以て幕府これを聽す。乃ち赤松氏の僉議間宮彦太郎・中村貞友等變名して吉野の奥地に潛入し、宮の御在所に至り、偽りて忠誠を誓ふ。宮乃ちこれを聽し仕へしむ。長祿元年十二月二十八日夜雪大いに降るや、貞友等宮の不備を窺ひて二手に分れ、北山と河野の御座所を同時に襲ふ。丹生屋帶刀左衛門尉・同四郎左衛門尉の兄弟、北山宮を討ち奉り、御璽及び神璽を携へて奔り、伯母峰峠に至りしに、吉野十八郷の郷民等後より之を追躡、丹生屋兄弟を誅し、御首を奪還し奉る。神璽亦奪還せしが賊徒小寺藤兵衛入道性説策略を用ひて再び之を入手して、翌二年八月晦日禁裏に奉還せり。後郷民等宮の御所を佛寺となし、瀧川寺と號し、英靈を弔ひ、また宇谷口に社殿を造營して奉祀し、幕府に

憚りて若一王子と稱したりしが、後北山神社と號し、明治維新の際、祭神自天王と稱すべき由定められ、明治二十六年吉野神宮の境外摂社となりて今日に及ぶ。然るに川上村神之谷の金剛寺境内に自天王の碑あり。碑は明治十五年の建立にかかり、東久世通禧伯の撰文なり。恐らくは史實の誤解に基くものなるべし。

〔河野宮の御墓〕川上村神之谷金剛寺にあり。この宮も御系統御名を詳にせず。或は忠義王と稱せらる。但し北山宮の御弟たることは確實なり。長祿元年十二月二日夜兄宮討たるると同時に、河野にありし弟宮河野宮は、討手間宮彦太郎、上月滿吉に殺害せられたり。中村貞友、御頸を携へて逃れ走る處、郷民等之を追躡し甕谷に於て大西助五郎等、賊徒を要撃し、貞友を射殺して御首を奪還し、後御所の高地に葬り奉る。これ現今の御墓なり。然るに後人この宮と御兄北山宮とを混同し、更に僧秀王とも誤り、明治十五年金剛寺境内に自天王の碑を建立せしが、撰文史實に合はざるは遺憾といふべし。

〔北山莊司の墓〕北山村小樔にあり。嘉吉の變の後、北山宮神璽を擁してこの地に潜み給ふや、北山莊司（桂能明と傳ふ）守護し奉る。長祿元年十二月二日、赤松氏の餘黨、宮を殺害し奉り、神璽を奪ひて遁れて伯母峯峠に至るや、莊司は郷民を率ゐて追跡し、御首並に神璽を奪還せり。莊司の後裔、幕府を憚りて姓名を更へ、墳墓を隠蔽して或は更屋將監の墓といふ。爲めに遺蹟明瞭を缺くと雖も、樔本にある五輪塔の古墳或はその墓ならんといふ。

〔伯母谷將監の墓〕川上村伯母谷中尾にあり。杉の伐株の朽腐せしものありて、石塔の類なし。長祿元年十二月二日赤松氏の餘黨北山宮を害し奉り、御首並びに神璽を携へて伯母峯に至るや、郷士伯母谷將監（橘將監とも、ふ）郷民を率ゐて追跡し、御首及び神璽を奪還すと傳ふ。川上村誌によるに墓上に小祠あり、里人崇敬して天英大明神と稱し、毎年十月一日祭禮を行ふ。また墓地の近傍に法昌寺と稱する禪寺あり。同寺の過去帳に開基傑堂天英居士、南朝功臣長祿三年十月朔日とあり。然れば天英は將監の事にして、長祿三年十月一日殁したるものか。

〔小倉宮の御墓〕川上村東川にあり。御廟所な住吉神社と稱す。小倉宮の御名詳かならず。後亀山天皇の皇子に恒敦宮といふ御方あり。その御子に、聖承まします。聖承は御諱明かならざれども、正長元年七月皇位御譲望によりて京都な御出奔あらせられ、伊勢に赴き、北畠滿雅な頼みて兵な挙げられ、御歸京の後、永享六年出家し、嘉吉三年五月九日薨ぜられたり。薨去の場所は京都なれば、この御墓が聖承のものとは考へ難し。然れば御父恒敦宮或は御子教尊の御墓か。恒敦宮は御事蹟明かならざれども、薩戒記目録に應永二十九年七月十五日、小倉殿御入滅、同十七日御葬禮と見えたるほ或はこの御方な云へるか。而して世にいふ後亀山天皇の皇子良泰親王とは、またこの御方か。然るに世傳にこの御墓の宮は後亀山天皇の第一皇子實仁親王と云ひ、後に嵯峨より大和川上に遷り住し、この地に薨ずとなす。信據し難きものあり。然れば姑く單に小倉宮御墓と定め置くの外なかるべし。

〔聖因親王御墓一川上村入之波奥三公山にあり。御廟所な三公山社と稱す。聖因親王の御系統、御事蹟詳かならず。世傳の説によるに、親王は小倉宮第三の宮にして、萬壽寺孤海和尚の弟子となり、金藏主と申さる。嘉吉三年九月の騒動以來還俗し給ひ、幕府の討手な遁れて近江甲賀郡に隠れ給ひ、後二王子と共にこの地に遷りて薨ぜらる。二王子は自天王・忠義王なりと云ふ。今藏主は嘉吉當時の記錄によれば、叡山にて自害せられし事明かにして、俗説信據すべからざるものあれども、今姑く之に從ふの外なし。

A 櫻花と遊覧

吉野山の櫻は古來頗る著名なるが、その起源は金峯山藏王權現の信仰に起因するものなり。參詣者は藏王權現歸依の信仰心より之な神木として獻木する者多く、殊に天正七年大阪平野の郷士末吉勘兵衛が一萬本な寄附せしが如きは最も大なるものなり。吉野の櫻花の眺望に一目千本といふ事あり。現今の吉野驛附近一帯な下の千本、如意輪寺附近一帯な中の千本、金峯神社附近一帯な奥の千本と稱す。下の千本先づ開花して、漸次中の千本に及び、最後に奥の千本に至る。櫻は悉く白山櫻にして、我が國中部の山中に處有なる多數の天然變種なり。若葉に赤芽・茶芽・黄芽のものあり、花に香氣あるものあり、花梗に毛あるものあり、花瓣に六七枚あるものあり、淡白のもの、淡紅のもの、種々樣々の花、一山な埋めて雲の如くなびき、杉樹の翠色に相映ずる美觀は、以て天下の名聲な博するに宜なりと云ふべし。されば古來ここに來りて遊宴な催す者亦古來甚だ多し。史上吉野遊覧に著名なるは、文祿三年の豊臣秀吉の宴なり。駒井日記等の記す所によれば、秀吉は徳川家康以下の諸將及び紹巴等の文人數多な率ゐてこの年二月二十五日大阪な發し、この日當麻に着し、翌日ここに滞留の後、二十七日吉野山に登り、櫻本坊に宿りて歌な詠す。二十九日、歌會な催す。當寺秀吉以下一行の者の百首の歌、高濃寺文書中に存す。その歌稿の筆者は前六十四首は伊達秀宗、後三十六首は織田常眞にして、箕の寄附者は古昔庵好齊なり。翌晦日花見の宴な催し、三月一日能な行ふ。歌な進して同二日下山して高野山に赴けり。江戸時代に至りてまた、著名なる文人墨客好んでここに遊び、史蹟な探ると共に觀櫻の興な樂しむ。されば吉野山な詠ぜし歌は、古く萬葉集及び歴世の勅撰集はもとより、近世人の詩歌にも頗る多く、伊藤東涯・蘇井竹外・頼山陽・齊藤拙堂・賀茂真淵・本居宣長・芭蕉・其角等の作は人口に膾炙す。近時また交通機關の發達に伴ひ、遊覧客激增し旅館・土産の賣店等また增加して、花時の吉野山は賑盛な極む。

【吉野熊野國立公園】奈良・三重・和歌山の三縣に跨り、面積約五五、〇〇〇ヘクタール（約五五、四〇〇町歩）な占め、山岳・河川・海岸に亙る多種多樣の風景な綜合する點に於て特色な有す。土地の所有別は大部分私有地にして御料林・國有林・公有地之に次ぎ、一部に社寺有地な含む。昭和十一年二月一日國立公園に指定せらる。本公園區域内の山岳部には山上ケ嶽・大台賢嶽・八經ケ嶽・釋迦ケ嶽等の連聳せる大峯山脈南北に走り、其の東方に秀ケ嶽（日出嶽）・大蛇嶽等な擁する大臺ケ原山乾立す。河川部には幽邃なる吉野川、無數の瀑布な懸けて奇勝に富める大杉峡谷、急湍深淵相連なりて、遊八丁の勝景な以て鳴る北山峡等あり。北山峡の大絵巻は更に展開して十津川な合せ、秀明なる熊野川となりて熊野灘に注ぐ。海岸部には、北は鬼ケ城より南は大島に至る外洋に面せる豪快明朗なる南紀の海岸風景あり。更に此等風景地の外に史に名高き吉野山、蔵宮・本宮・那智の熊野三社、其他、我國建國以來の貴重なる靈地・史蹟地等な數多包含せり。本公園は、かくの如き傑出せる各種風景な有するのみならず、史蹟遺跡・社寺參拜・觀光登山・峡谷探勝・河下り・舟遊・海水浴・温泉等總ゆる方面に優れ、両も關西の主要都市に近く利用上至便なるは本公園の一大特色なりとす。

主なる勝地

〔吉野山〕本公園の北日、南朝の史蹟と櫻の名所な以て古來人口に膾炙せり。杉の人工美林と櫻樹とな背景として、旅館・賣店等な並べる吉野町の市街あり。下ノ千本・中ノ千本・奥ノ千本の名所ありて陽春の候は觀櫻客な以て全山賑ふ。

〔吉野神宮〕官幣大社。吉野山の北麓、大和三山方面な望む眺望絶佳の地に鎮座し、後醍醐帝な祀り、攝社御影社に藤原資朝以下七忠臣な祀る。

〔村上義光墓〕吉野神宮より約九粁、路傍の小丘上にあり。

〔藏王堂（金峯山寺）〕吉野町市街の略中央部に位し、白鳳年間役小角大峯山にて苦行し、感得して藏王權現な奉安せるに始まり、寺は行基菩薩が營むと傳ふ。本堂（藏王堂）・仁王門は康正二年の再興にして室町時代の建築、國寶建造物なり。

〔如意輪寺〕吉野町市街の東南臺地にあり、延喜年間日蔵上人の開基、本堂の扉には楠正行の作と傳ふる有名なる獅世の句刻まれたり。

〔後醍醐天皇陵〕如意輪寺の東方一段高き臺地に椎濃き松林に囲まれたり。

〔金峯神社〕奥の千本に近く、老杉に囲まれたる靜寂境にして、古來吉野山主神として名高く、中世以降は修驗者の行場として謂づる者多し。當社より更に登れば大峯山脈の一峰山上ケ嶽に通ず。

〔大峯山〕大峯山脈は吉野山に起りて、山上ケ嶽・大台賢嶽・彌山・八經ケ嶽・七面山・釋迦ケ嶽・大日嶽の諸峰な連れてなほ山勢は衰へず南走す。山麓一帯は水成岩の岩峰屹立して特色ある山勢な呈し、原始林な以て蔽はる。古來女人禁制の修驗道場として著はれ、行者並に一般登山者夥しき數に上る。山脈中最も一般的なる登山地は山上ケ嶽にして山頂附近には役行者な祀れる藏王權現あり。東方には鳴川山の國有原始林、西方洞川上流には吉野杉の人工美林あり。山頂の眺望極めて雄大なり。山上ケ嶽より、大台賢嶽・彌山な經て釋迦ケ嶽方面への縱走は古來「逃隠け」と稱せられ、登山の快味な滋味することな得。殊に山麓より東西の脚下に俯瞰せらるる原始林・人工美林な始め、舟ノ川・宇無川・前鬼川等の溪谷美は特筆に値す。

〔大臺ケ原山〕大臺ケ原山は吉野川・北山川・宮川及び東ノ川の水源地方に蟠居せる高地にて、大峯山脈・熊野地方・伊勢地方の眺望な恣にし、最高峯秀ケ嶽（日出嶽）よりは秋季快晴の日には富士山・木曾御嶽・立山等な遠望し得といふ。大蛇嶽の巌頭に立てば東ノ川の壯大なる峡谷な脚下に、大峯山脈の勇姿に接す。東ノ川の峡谷は、更に蒸籠嶽・千石嶽な刻み、支流には東ノ瀧・中ノ瀧・西ノ瀧な懸く。上流には優美なる溪流となりて濶葉樹の原始林な纏ふ。山上に大臺教會ありて宿泊に應ず。

〔大杉峡谷〕大杉峡谷は臺高山脈な水源とせる宮川の上流に深く刻まれたる峡谷にして、本流大杉谷及び不動谷・女ケ谷・大和谷な總稱して大杉峡谷と呼ぶ。全峡谷に亙り激流・碧潭・絶壁・瀑布連續して變化極りなく、殊に瀑布の數の多く、形態萬態なるは大杉峡谷の特色なり。瀑布は本流・支流な合して、凡そ數百な算し、殊に千丈瀧・不動瀧・ニコニコ瀧・光ケ瀧・七ツ瀧等の壯觀言はん方なく、其他平等嶽・シシ淵・牛鬼淵等の勝地あり。また上流一帯の御料林には今なほ千古斧鉞な入れざる原始林ありて秘境に一段の精彩な加ふ。從來大杉谷の探勝は一般に行はれざりしも近年稍世に著はるるに至れり。探勝の起點としては、大杉部落・大臺ケ原山方面の二途あり。來だ御料林事務所、番人無き山小屋以外に宿泊の設備無く、探勝路も甚しく不完全にして、徒渉・危險箇所通過等の覚悟な要す。

〔熊野海岸〕勝浦港は東に狼煙山、西に夏山の岬な控へたる南紀第一の良港にして、湾内入口に近く中ノ島横り、明媚なる風光な呈し、湾外には黒潮湧卷きて明

快豪宕なる海津風景を誇る。灣に面して數多の温泉あり。旅館の設備完備す。勝浦は南紀探勝の要衝に當り紀勢線に沿ひ、大阪商船航路の發着點となれる外、伊勢方面よりの航路もあり、亦海岸各地に自動車を通じて交通至便なり。那智山の那智瀧は飛瀧權現の御神體にして直下八十餘丈、幅七丈の名瀑として知らる。瀧壺の附近には老杉亭々と繁りて壓倒なり。此の外仁德天皇六年の創立、熊野三社の一にして熊野尖須美大神（いざなみのみこと）を主神とせる官幣中社熊野那智神社、西國三十三番第一番の札所たる那智山青岸渡寺あり。妙法山は那智山の南嶺にして、弘法大師の開基妙法山阿彌陀寺あり。山頂より勝浦方面の眺望絶佳にして、紀勢中線那智驛より登山自動車を通ず。勝浦の東、雲軒にして那智驛に至れば、右車窓に那智浦の曲浦を望む。海濱邑淺にして絶好の海水浴場なり。那智驛より更に東すれば海岸の島嶼面白き宇久井ノ濱、古歌に名高く、神武天皇御駐車の聖蹟地として知らるゝ佐野松原あり。同じく神武天皇の聖蹟地と稱せらるる御手洗の斷崖屹立せる王子ヶ濱等の海岸あり。何れも、優れたる海岸風景を誇り、夏期海水浴場として盛況を極む。勝浦の西、湯川驛より自動車約十數分にして太地町に至る。鯨の港として知らる。附近の燈明崎・掃取崎一帶の海岸は殊に豪快なる海津風景を呈せり。太地より車を進むること數十分にしてかの古歌に著はれたる玉ノ浦に至る。入江深き明媚なる風光を賞すべく、玉ノ浦より舟にて佛崎を經て海洋に出づれば、一轉して豪宕なる海津風景に接し、耳の鼻より森戸崎に至る間千態萬の島嶼浮ぶ。田原海岸一帶の岩礁は規模壮大にして他に其の比を見ず、千疊敷の壯觀あり。新宮市より熊野川を渡りて三重縣に入り、鵜殿を過ぐれば、奏應妙なる黑松の美林現はれ、蜿蜒數里に亘る白砂青松の海岸風景は木本町に及ぶ。此を七里御濱と呼ぶ。井田ノ八丁松原・市木松原・有馬松原は此の御濱中代表的なる松原なり。御濱の遠きんとするあたりに獅子岩あり。互獅子の大洋に咆哮するが如き形を呈し其の狀極めて壯觀なり。名勝天然紀念物に指定せらる。鬼ヶ城は木本町の東北に突出せる石英粗面岩の一大岩塊にして、海水の浸蝕に依る畸形怪異の洞窟は奇觀なり。此より七里御濱の豪快なる眺望を恣にすることを得。名勝天然紀念物に指定せらる。瑤杭岩は古座町より自動車にて約三十分、橋杭岩の奇勝に達す。浸蝕岩石の橋杭の如く羅列せる委は蓋し奇觀なり。名勝天然紀念物に指定せらる。串本町の東に横はる大島は、海岸線の出入に富み、大小の島嶼と共に極めて變化ある海津風景を現出す。樫野崎には トルコ軍艦遭難記念碑在りて、其の西南に迫なる海岸は南國的風光に富まる。

〔九里峡と北山峡〕新宮市より本宮まで九里の熊野川を九里峡と呼ぶ。翠巒の白見岡有林・雪瀧・奏瀧・布引瀧・鈎鐘岩の名勝あり山紫水明の河景を呈す。筏・三段瀧の勝景は正に一幅の繪畫ともいふべく、沿岸に迫迫する傳說に富める部落と共に旅客を喜ばす。新宮市よりプロペラ船にて約三時間にして本宮に達す。本宮には熊野三社の一なる官幣大社熊野坐神社鎭座す。本宮の西南約三粁の地點に湯の峯温泉あり。永享年間小栗判官が病を癒せしとの由來あり。此より自動車或は徒歩にて川湯温泉に至る。川中に湧出する特色ある温泉にして、環境四季を通じて美しく、鮎・河鹿も有名なり。北山峡は大峯山伯母峯附近に源を發する北山川の溪谷にして、途中數多の支流を併せ熊野川となりて熊野灘に注ぐ。中流小口より下流瀞八丁迄を北山峡と呼ぶ。水成岩を褶曲折して流るゝ水勢は、瀧・急湍・瀨・淵の連續をなして、變化絶りなき峡谷美を現出す。殊峡谷を通じて點綴する佳景の中、特に名所として知らるるものを擧ぐれば、上流より七色瀧・相須ヶ淵・一ノ瀧・神護・骨法・黑淵・上瀧・下瀧・瀞八丁等ありて、瀞八丁を以て峡谷の迫れる斷崖の景觀は終りを告げ、下流は秀明優美なる河川となりて流下す。若通北山峡の探勝は瀞八丁と上瀞附近に止る。即ち新宮市よりプロペラ船にて熊野川を遡行し、瀞八丁を賞して、田戸に至り、此より直ちに上流の上瀞を視き見して烏る。然れども北山峡の實價を知らんと欲せば、川舟或は筏にて川下りを試むべし。

〔交通及び登山コース〕吉野熊野國立公園の探勝コースは山岳部・河川部・海岸部の三つに區分せらる。

〔山岳部〕吉野山へは大軌電車の吉野驛に下車す。大峯山脈へは吉野山登山口・洞川口（大軌電車下市口驛に下車し、バスにて洞川に至り、此より登山す）の二あり。大臺ヶ原山へは大軌電車の大和上市驛へ下車し、此よりバスにて、柏木に至り、入ノ波を經て本流川を遡行するものと、バスにて伯母峯峠を越え、河合に至り、木和田を經て大臺ヶ原山に至るものとの二途あり。登山コースの中一般的なるものを擧ぐれば、大峯山、吉野山又は洞川—山上ヶ嶽—洞川又は吉野山、大峯山脈縱走（吉野山又は洞川—山上ヶ嶽—大普賢嶽—彌山—釋迦ヶ岳—前鬼—前鬼口—河合—柏木—大和上市驛）、大臺ヶ原山（大和上市驛—柏木—入ノ波—大臺ヶ原山—迷峰—木和田—河合—柏木—大和上市驛、大杉峡谷への入口としては大臺ヶ原より入るものゝ二つあり。）

〔海岸部〕海岸部へ達するには大阪商船航路に依りて串本町或は勝浦港に至るものと、伊勢方面より省營バス或は航路に依りて木本町に至るものゝ二つあり。猶

庄山岳部より北山川の河下りに依り瀞八丁を經て新宮市に至るものあり。

〔河川部〕大和上市驛よりバスにて小口に至り、此より早朝川舟を仕立て、或は筏に依りて瀞の田戸の旅館に至る。田戸より定期のプロペラ船にて新宮市或は本宮に至る。瀞八丁並に本宮は新宮市よりプロペラ船にて日帰の探勝可能なり。

【吉野山】 ↓吉野町・吉野（ヨシノ）

【吉野川】 ↓吉野（ヨシノ）（奈良縣）

【吉野】 大和國（奈良縣）の古地名。和名抄に吉野郡吉野鄕あり。與之乃と訓ず。その地今の吉野郡大淀町・下市町・秋野村等の邊に當る。

【吉野村】 岡山縣美作國英田郡の東部。吉井川の支流吉野川に沿ひ、東は兵庫縣に界す。北に大吉村、南に江見町、西に粟井村接す。面積一八・一四平方粁。東部・西部に山脈縱走し、村内概ね海拔三〇〇米近き山地に占めらるゝも、吉野川中部か南に貫流し、兩山地の裾に沿岸平野を作る。流域に耕地拓け、他は山林地なり。米・麥・繭・酒類・木炭・生柿・蒟蒻等を產す。縣道河岸に沿うて貫通し、近隣にバスの便あり。〔大聖寺〕古義眞言宗。御室末。天平十年、聖武帝の勅を奉じ行基開創、建武以來寺運隆盛なりしが、慶長五年の兵燹後は振はず。

【吉野村】 岡山縣美作國勝田郡の中東部。勝間田町の東北に連り、東は英田郡に界す。北には勝田村、南には豐國村、西には積月村あり。面積一四・九一平方粁。吉井川支流梶並川東境を南流し、沿岸に平地展けたるも村内概ね三〇〇米内外の丘陵起伏して山林地多し。沿岸平野及び西北部山麓地に耕地拓く。米・麥・繭・生柿・酒類等を產す。勝間田町に約八粁、此處より出雲街道にて、津山市へバスを通ず。

【吉野】 美作國（岡山縣）の古地名。和名抄に勝田郡吉野鄕あり、その地今の勝田郡古吉野村・北吉野村の邊に當り、中世は小吉野庄と稱せし地。

【吉野村】 廣島縣備後國甲奴郡の東部。上下町の北に接し、東は神石郡、北は信家村、西は甲奴村に界す。面積三八・〇一平方粁。北部・東部は山地高く、村内概ね丘陵起伏して、山間處々の斜面地・低地に部落及び耕地散在す。山林地廣大なり。純農業村にして、米・麥・繭・木炭・用材・牛・馬・酒類等を產す。縣道南北に貫通し、省線藝備線備後庄原驛、及び尾道市に自動車の便あり。明治二十八年乙森村・小塚村・小塚村・有福村の四箇村を合併して本村を建つ。〔保泉寺〕大字有福にあり。臨濟宗永源寺派。慶雲山と號す。天平年間、行基の開創と傳ふ。もと天台宗、文和年中、禪刹となる。本尊十一面觀音（傳圓仁作）。

【吉野川】 德島・愛媛・高知の三縣に跨る四國島第一の大河。坂東太郎・筑紫二郎と相並んで四國三郎と稱さる。源を高知・愛媛の縣境瓶ヶ森（一八九七米、石槌山の東方）に發し、石槌山脈と劍山山脈との間を縱谷をなして東流すること凡そ七二粁、この間、瀨戸・立川・穴内川等の諸流を併せ、高知縣長岡郡西豐永村の東北に至りて急に北折し、大四國脊梁山脈を横斷せる所にて延長三〇粁に達せる先行性横谷流を形成し、此處に大歩危・小歩危の大峽谷を造り、兩岸絶壁高く聳え危岩削立し、河床の勾配また甚だ急にして德島縣境より三好郡山城谷村大字川口に至る間の知きは約一八粁に於て六七米の落差（傾斜約二七〇分ノ一）に達し、激流奔湍多く、峽流の景觀、最も壯絶を極む。この間愛媛縣内より縱谷をなして東流する一大支流伊豫川（銅山川）を川口にて、一方、東方の祖谷山中より來る松尾川を併せ北流し、佐馬地村大字白地に於て西方德島・愛媛縣境より來る縱谷佐野川を合す。此處に於て川は讃岐山脈の山脚に衝突し、河蝕を逆しうし兩岸に侵蝕河成段丘を形成し、池田町附近に於て流路を東方に轉じ愈々河幅大に水量また增大し、更に南岸より貞光・穴吹・鮎喰等、北岸より拜原川の諸支流大小一七七を合せて蜿蜒二六六粁、その中流以下に互り三七〇〇方粁の廣大なる扇狀の大沖積平野を形成し、下流部に於て幾多の網狀分流をなし、最後は吉野川及び別宮川の二大分流をなして紀伊水道に注ぐ。沿岸は謂ゆる吉野川沿野にて脇町（德島縣）以西池田町を中心とせる地方は古來良質の池田煙草の產地として著はれ、中流の脇町を中心とせる地域は桑園相連り縣下隨一の養蠶地帶をなし、下流は古來阿波藍の產地として夙に知られしが、今や藍畑地は吉野川の灌漑用水により水田化され、南方の那賀川流域の米作地と相竝びて縣下の二大米作地をなせり。本川はまた交通運輸上重大な役割を果し、美馬郡半田より下流五八粁の間は舟運の便多く、その上流に於ても木材運搬線として使用せらるゝも、南北の交通は河幅大なる爲め橋梁架設に堪らず、最近三好・穴吹・吉野川の三大橋斷橋の間道を見るまで渡船による他なく、交通を妨ぐること絲からざりき。その他幹線國道としては吉野川に沿ひ北岸に鹽業街道あり、脇町・市場・鹽業等の諸邑を過ぎ、南岸には土佐街道ありて省線德島本線またこれと並走し、その沿線には池田・辻・半田・貞光・川島・石井・德島等の諸邑あり。

【吉野村】 香川縣讃岐國仲多度郡の東部。琴平町の東方約三粁餘の所にあり、東は綾歌郡に隣接す。南隣には濁池あり、北は丸亀平野の南部の平地を占め、南は百米餘の丘陵起伏して緩傾斜をなして平地に下る。東北塩なる土器川、西部に金倉川、何れも北流し、灌漑の便よろし。農業を營み米・麥・繭を產し、叺の產あり。北部平地を東西に縣道通り琴平町に至る。古くは和名抄、那珂郡良野鄕の内とす。

〔大宮神社〕大字吉野に鎮座。郷社。祭神、倭姫命。例祭十月十八日。

【吉野村】高知縣土佐國長岡郡の西北部。東は大杉村および本山町に、南は田井村に界し、西は土佐郡に對し、北は愛媛縣に隣接す。面積九四・九五方粁。綾峰重巒して聳立する四國山脈中央の地を占め高峻なる山地をなす。北に工石・佐々連尾・大森・玉泉の諸峯あり、西部に早天山・大己屋山・鎌瀧山等峙つ。中央部溪谷を南流する汗見川は南部にて西境中央部より南流する吉野川に注ぐ。吉野川は屈流しつゝ南境を東に流れ、流域に稍平地を開く。林産業を第一とし、杉その他の木材を產しまた木炭をつくる。牧畜また盛にして牛の飼育を營む。他に鑛產あり。汗見川に沿うて林用軌道通じ、吉野川の沿岸に縣道あり。然し山間の僻村なれば交通は餘り便ならず。昔は宗部郷の内にして、長曾我部の領邑たり。〔白瀧鑛山〕鑛區は吉野村及び土佐郡大川村・愛媛縣宇摩郡富郷村・同別子山村の四箇村に跨りて一〇五萬餘坪。鑛區内の地質は結晶片岩系に屬し、鑛床は其の中の點紋雲泥角閃片岩中に胚胎せる含銅硫化鐵鑛床なるが、褶曲・斷層などにて局部的變動甚しく規則正しき間坑及び採鑛は困難なり。現在、日本鑛業會社の稼行に係り、昭和十年の產額は、含銅硫化鐵鑛四七、四二六瓩にして、此内銅分は佐賀關製錬所に送致して合併製錬し、他は其の儘販賣す。當鑛山はもと白瀧・椛木・中藏・朝谷・大北川・大川など各々獨立稼行せられたるが、明治の末統一されて白瀧鑛山となる。以上の内椛木坑最も古く藩政時代には藩主山内氏によりて採掘せらるると傳ふ。現在鑛夫は六百人内外にして重要鑛山に列す。〔下川鑛山〕吉野村内に約一八萬坪の鑛區を有し、日本鑛業會社の稼行に係る。昭和十年の產額は含銅硫化鐵鑛一二、一九三瓩にして、銅分は佐賀關製錬所に送致して合併製錬し、他は其の儘販賣す。同年六月末の鑛夫數は一〇三人にて現に重要鑛山に列す。〔若一王子宮〕大字寺家に鎮座。郷社。祭神天照皇大神外二神。例祭、八月九日・九月七日。

【吉野村】熊本縣肥後國八代郡の西北部。宮原町の北に隣接し、北は下益城郡小川町に界す。東半は山地にして中央に斷層を以つて終り、西部は八代平野の一部を占むる平坦地なり。田畑頗るよく拓けて米・麻・野菜・果實等を產す。鹿兒島街道は山麓に沿ひて鎖走し西部には南北に走る省線鹿兒島本線ありて北約二粁に小川驛あり。〔吉野村大野貝塚〕村内赤迫の役場の邊に貝塚を留め、その後方の丘陵上には六アールに亙りて貝層存在す。從來、繩紋土器破片・石斧・獸骨土偶・鹿角・猪牙・人骨等出土し、明治十二年、東京大森貝塚の發見者たるエドワードーエスーモールスによりて調査せられし事あり。貝塚の北方半粁の高塚と呼ぶ畑地には、内面に彫刻紋樣を有する石棺あり、また南方半粁の岩屋本と云ふ地の大杉の下にある大野窟古墳には、高大なる石室存す。

【吉野村】大分縣豐後國大分郡の東南隅。大分市の東南方約一一粁にありて、北及び西は戸次町に接し、東は北海部郡に、南は大野郡に界す。全村山地丘陵到るところ起伏し、北境に四六七米の山峯あり北部は其の斜面地なり。林產・畜產及び米・麥等の農產あり。西方二粁餘に省線豐肥本線の竹中驛あり。村内天滿社境内に臥龍梅あり。樹齡七百餘年、附近數十本の梅樹は一株より分れしものと稱し、老幹蟠屈として其狀恰も臥龍の如く、花時には觀客多し。〔高尾神社〕大字宮尾に鎮座。郷社。祭神、上筒男命外三神。社傳に、後鳥羽天皇建久五年の創建なりと。例祭、十月十二日。

【吉野一】鹿兒島縣鹿兒島郡にありし村。昭和九年鹿兒島市に編入す。

【吉野庄】臺灣花蓮港廳花蓮郡花蓮港街の南方約四粁。内地人移民村にして、花蓮港廳に於ける、最初の官營移民部落とす。明治四十三年二月荒蘭社に移民指導所を設け、撫島驛下より九戸二十人を招致せるを最初とし、同年十月更にその數を增し、六十一戸を現在の宮前部落に居住せしめたるが本村の初なり。現在は宮前・清水・草分の三部落に分る。明治四十四年吉野村と命名し、漸次諸設備の改善を見、醫療所・警察官派出所・小學校・神社・布教所等の設置、飲料水の施設、道路・橋梁等の設備を施し、更に農具・肥料・耕牛等の貸與等、指導保護により基礎確立し、大正九年には地方制度改正と共に、吉野區役場を設け、また產業組合・煙草耕作組合・農業組合を組織するに至れり。村民の出身地は北海道外二十一縣に及び、昭和十一年末現在の戸數は二九七戸、人口一、五四一人を算す。開墾地は一、二七〇甲に及び、生產額は水稻の四〇八、四六八圓を最高とし煙草の一五九、五三一圓之に次ぎ、甘藷・蔬菜・果樹の順にして、合計六六六、九四〇圓なり。

【吉野】臺灣總督府鐵道、臺東線の一驛（大正三年設置）。花蓮港廳平野區荳蘭にあり。

ヨシノ　良野　讃岐國（香川縣）の古地名。和名抄に那珂郡良野郷あり。その地はいま仲多度郡吉野村の邊か。

ヨシノ　芳野

【芳野村】茨城縣常陸國那珂郡の東南部。水戸市の北方約七粁にありて、久慈川・那珂川の中間に位す。全村臺地にて畑地多く、所々林を交へ、一部に水田あるのみなり。農業行はれて麥・米の產多し。その他蔬菜の栽培も行はる。縣道は西部を南走して水戸市に通じ、また省線水郡線は東部を西北に走りて、常陸鴻巣驛（大正七年設置）を置く。大字飯田に一乘院あり、舊菅宗にて法滿山と號す。もと久慈郡太田の山吹にあり、のち水戸に移り元禄年中ここに移る。此地に初めその本寺、法明山毘沙門院久福寺ありしが廢し一乘院に移されしといふ。

【芳野村】埼玉縣武藏國入間郡の東北部。川越市の東北隣にして、入間川の南岸にあり。北は川を隔てゝ比企郡と隣りす。入間川は北境を東流し、東方を南流する荒川にも近く、全村平地にて南部に伊佐沼あり。水田よく拓けて米を主產し麥蠶盛にて繭の產額大なり。縣道川越市に通ず。昭和十三年植木村を廢し、その大字鹿飼・上老袋・中老袋を本村に編入。

【芳野村】岡山縣美作國苫田郡の南部。吉井川上流東岸に沿ひ、東は田邑村を隔てゝ津山市と相對す。北は大野村、南は川を以て久米郡に界す。面積六・四五平方粁。東西村界附近に稍山地存するも、概ね地勢平坦。吉井川西南境を東流し、一小川を合して沿岸の土地絲めて肥沃なり。耕地多く、純農村なり。米・麥・繭・生柿等の產多し。省線姫新線津山・院庄の二驛に近く、また出雲街道通ず。

【芳野村】岡山縣備前國上道郡の東部。西大寺町の北西に接し、北は吉都村、西は可知村に隣る。面積六・〇六平方粁。地形稍々南北に伸び、北部に海拔二二五米の小山地蟠るも、南部は吉井川の沖積平野に屬し、小川灌漑し灌水用池の設備も存し、地味肥沃にして耕地よく拓く。古來梨の名產地にして、また米・麥の產多し。村内に製鹽工場を有す。西大寺町に近く交通便利なり。社線西大寺鐵道西大寺町驛・廣谷驛に共に明治四十四年設置）あり。古くは和名抄、上道郡可知郷の内、中世は淺越庄と云へり。

【芳野村】熊本縣肥後國益託郡の西北部。熊本市の西北に隣接し、北は鹿本郡及び其の西の玉名郡に界す。全村山地・丘陵和代して高燥地をなし、南部には金峰山（六六六米）の秀麗なる孤峯聳え、其東の村の中央には西北へ連なれる丘陵ありて西北境に聳ゆる熊ノ嶽（二ノ岳、六八五米）につゞく。東北部は中央の丘陵の東北谷面地をなす。山村なれども殆ど全戸（四九七戸）農業に從事す。一戸平均の土地面積は田地一反・畑地五反・山林五反なり。產物は雷材・竹材・椿・茸・米・麥・甘藷・栗・果實類・花卉・蔬菜等なり。熊本市へ縣道通ず。村名の起原は、吉野朝の忠臣、菊池武重が大友氏と壓戰せし地なれば、吉野にあやかり芳野と命名す。いま首塚・胴塚の遺跡あり。また夏目漱石の草枕に出づる「峠の茶屋」は此地にあり。

〔聖德寺〕宇大多尾、三ノ岳にあり。天台宗にして、寂山正曇院末。安樂院と號す。拋古天皇二年、聖德太子登山開創せられて、三狹山安樂院聖德寺と名づけ給ひし舊蹟なりと傳ふ。本尊聖觀音・脇士不動明王・毘沙門天及び四天王は太子御作にして、また太子木像は太子十六歳の御自作なりと傳ふ。寺は太子此地に下向の際、供奉の僧、開元坊を以て住持とし爾來相續して本郡及び山本・玉名の三郡に跨り三十六坊を有すといふ。菊池氏の盛時、祈願所となり、寺領七十五町を附し、慶長中加藤清正參詣して境内四方八町を附す。一時京都北野梅院に屬せしが、のち正曇寺末に改む。維新後寺領上地せられて、いま頽廢す。境内に雷神堂あり、除雪の札を出す。

ヨシノウラ　芳野浦炭礦　肥前炭田の西部を占むる石炭山。鑛區は長崎縣北松浦郡の佐々村と中里村とに跨りて一六八萬餘坪、住友炭礦合社の稼行に係り、昭和十年の產額は塊炭二五、九五三瓩、粉炭一〇五、八三七瓩、粗炭四、三九九瓩。この總價額九六萬餘圓にして、同年六月末の鑛夫數は八五六人、現に重要鑛山に列す。なほ炭礦名は佐々村大字佐々宇芳野浦に因めるものなり。

ヨシノグチ　吉野口　省線和歌山線の一驛（明治二十九年設置）にして社線大阪電氣に接續す。奈良縣南葛城郡葛村古瀬にあり。

ヨシノダニ　吉野谷村　石川縣加賀國石川郡の南端。加賀山脈の一部を占め手取川上流右岸に沿ふ。東は一六〇〇米—二〇〇〇米に及ぶ加賀・白山山脈の遠嶺を以て岐阜縣大野郡及び富山縣西礪波郡に界し、南より西へかけては手取川の淺流を境に能美郡に接す。面積一四二・五六方粁、郡内隨一の大村なるも村内山岳重巒し、平地に乏しければ人口少く產業・文化また遲る。集落は西境を北流する手取川の河谷に沿ひ農耕・養蠶或ひは林業に從事し、古來白山紬の家内機業も行はる。また金銀鉛などの鑛山あれど何れも振はず。河岸に沿ひて縣道走り、鶴來町・白峰村間バス通ず。社線金名鐵道は對岸を走り、釜清水・下吉谷・白山下等の驛へ便なり。村の東南部山中に中宮溫泉あり。泉質は食鹽泉にして痲痺・痔・痛風に效あり。泉向とす。往時この地に白山比咩神社の中宮ありしを以てこの名あり。湯は八谷川の西岸より湧き、樋にて東岸へ引きし所に浴舍あり。その昔白山衆徒の住みし頃は頗る賑へりといふ。また白布瀧（高さ三三米、巾二米）あり。

ヨシノフ　吉野生村　愛媛縣伊豫國北宇和郡の東部。宇和島市の東方十數粁に位し、北は日吉・三島二村に、西は泉・明治二村に界し、東は高知縣に隣接す。北には戸祇御前山がはじめ數百米の山岳廣く鎮居して中央に低下し、南部にも三百米餘の山岳屹立して中央に傾斜す。兩山地の間を切つて四万十川の支流吉野川屈曲しつゝ東南方に流る。流域には耕地拓けて農業が營む。養蚕業最も盛にて繭の產多く製絲業も行はる。また柔作殊に多く麥も作る。山地は杉その他の木材を產し主として樽材に用ふ。尙ほ木炭・三

設を走し、和歌を製造す。河井に交通して藩政第西に宜酒し、名産宇和島・吉野生蝋（大正十二年調査）あり。村内に天ヶ瀬（海抜三五米、中三米）あり。村名は古野・奥野川・宮生の各一字を取り吉野生村と称せり。大字古野の丸山城に木蓮の頃、竹と内久保の巻城せしものにして、大字古野は城下町として繁盛せり。

ミふノヤマ　吉野山　名称交之城線の一驛（大正十三年調査）。宮見島藩蔵巻高の一驛内町にあり。

ミふノリ　吉則　名称交藩線の一驛（大正五年調査）。山口藩交藩高大瀬村にあり。

ミふくふ　良枯　武蔵国（豊谷川藩）の古称名。和名抄に大良布枯あり、現名之浜之と同じ。その頃に今の新宿市の豊谷川原子安町の要ぶ。

ミふくマ　古濱

【古濱村】　神手藩治所同国宮崎郡の東部。盛町の東北部に位し、西方は古宮郷に接す。北は土山郷の東部に位し、東は土山郷の東部に接し、南は古宮郷に接す。村内は古宮郷

東北方へ續く川内川流域の盆地の一部なり。所々に温泉湧出し前田・山下・般若寺温泉等あり。低地は田畑よく拓けて、米・麥・繭を産し、山麓斜面地は馬・牛を放牧す。また林産物もあり。中央には縣道及び省線肥薩線が縱貫し、北部の吉松驛（明治三十六年設置）よりは省線吉都線東北方へ分岐す。古くは筌羽野といひ、建久岡田帳に筌羽野四十八町五段一丈とありて、島津忠久の從臣愛田小次郎相州より隨從して此地を食邑となし子孫永續して明治に至る。（彼岸櫻自生南限地）指定天然記念物。大字川添前目にあり。御薬樹林中に多く生育し、花時遊覽客を以て雜沓す。（蒼鷺八幡神社）大字川西に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外二神。例祭、十一月二十五日。

ヨシミ 吉見

【吉見（郡）】 武藏國埼玉縣横見郡の別稱。吉見は後世文字に從つてヨシミと讀みぜしも、古くはヨクミと讀み、横見・吉見兩樣に使用せしは、和名抄にも「今稱吉見」とあるによりて知らる。慶長頃の水帳には吉見郡名見え正保の頃に至り横見郡の舊稱を復せしも、公用の外、尙横見・吉見兩樣に使用せり。※横見（郡）

【吉見村】 埼玉縣武藏國大里郡の東南隅。熊谷市の東南方約五粁にして、荒川の西岸にあり。西より南は比企郡松山町等と隣りし、東は北足立郡吹上町に接す。南境附近には稻丘陵地あるも大部分は荒川流域の平地にて、中央部は水田、他は畑地ななす。農業行はれて、米・麥を産し養蠶盛にて繭の産額大なり。縣道は熊谷市・松山町・吹上町等に通じ、殊に省線高崎線吹上驛よりは自動車の便あり。村内に濕川一谷と北條氏政の戰ひたる甲山あり。幕末の鈴王家、根岸伊七（爵從五位）・小島直次郎（爵從五位）は此地の人。

〔吉見神社〕 大字和上に鎮座。郷社。祭神天照皇大御神。創立年代詳かならず。中古吉見郡の總鎮守たり。本殿・幣殿・拜殿・神樂殿・社務所等を具ふ。

【吉見村】 兵庫縣丹波國氷上郡の東北部。柏原町の北々東方六粁餘にあり。東西の兩部は丘陵地にして、南境にも小孤丘あり。竹田川は中央西偏を貫きて北流し流域平野發達せり。田畑よく拓けて米・繭・麥類・蔬菜・花卉・食用農産・果實・製茶等の農産物を主とし其他鷄卵・瓦・藁製品・刈物等を產す。縣道及び省線福知山線が中央を縱貫し後者の市島驛（明治三十二年設置）あり。この地は和名抄、氷上郡美和郷の内にして、中世は吉見庄或は荒庄と呼びし處。蒲冠者範頼の次男吉見三郎資重これに居り、その裔則重に至り天正十年明智氏の兵に滅ぼさるといふ。

〔鴨神社〕 大字梶原に鎮座。郷社。鴨分雷神を祀る。吉野時代よりの古社。江戸時代旗本川勝氏の崇敬あり。鴨郷九箇村の產土神たり。例祭七月三十日。

【吉見村】 山口縣長門國豐浦郡の西南部。下關市の北方約一四粁。北は黑井村に、東は内日村に接し、南は安岡町及び玄海灘に面し、西は豐西村に境す。村は中國山地が西部に終る所、中世層の山地よりなり、南部には沖積地續く。產業は低地には米・麥を產し、漁業に從事する者も少なからず。交通路は下關街道が南北に通じ、之と並行して省線山陰本線通じ、吉見驛（大正三年設置）を置く。和名抄に見ゆる豐浦郡生倉郷の地にして、海岸は吉見浦と稱せられ、前に鴨島を控へ、漁港をなす。いま此地一帶は下關要塞地帶の北部をなす。もと豐西上村と云ひしが大正十一年吉見村と改む。（乳母屋神社）大字吉見下に鎮座。郷社。祭神、王依姬命。社傳に安閑天皇御宇の創建なりと。例祭、十月九日・十日。

ヨシミ 芳水 岡山縣後月郡にありし村。明治三十七年本村及び足次村を廢し芳井村を置き、大正十三年町制を布く。

ヨシミズ 吉水 近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に伊香郡余領郷あり、その地今詳かならざるも延喜式神名帳の伊香郡奥志彌神社はいま高時村にあり、即ち高時村の邊か。

ヨシロ 余領

ヨシワ 吉和

【吉和村】 廣島縣御調郡にありし村。昭和十二年尾道市に編入す。

【吉和村】 廣島縣安藝國佐伯郡の西北隅。西は島根縣に隣接し、北は山縣郡に、東は上水内村、南は四和村に界す。面積一四四・九方粁の大村。四圍山脈に圍まれ北に十方山（一三一九米）、西に冠山（一三三九米）等村界をなし、村内の地勢極めて高燥なり。太田川は本村の南部山地に發して村の中部を北流し、沿岸稍々低地存す。聚落・耕地河岸に集り、他の大部は廣大なる森林地域をなす。米・麥・繭・木材・木炭・薪材・酒類等の產あり。溪谷に吉和鶴泉の湧出あり。山奥の地なれば交通不便。但し四和村・益田町（島根縣）に至る連路村内を通る。

ヨシワラ 吉原

【吉原】 東京市淺草區の北部にあり、古くは新吉原といふ。江戸幕府開府の天正十八年以來、江戸繁華の將來を見越し、江戸に於て淺女屋を營むもの多くなり、既に慶長の頃江戸土着の娼家の漸りなる大橋の内柳の外に、京都の六條より移轉せるものは麴町八丁目に、駿府の彌勒町より轉住せるものは鎌倉河岸に、それ〴〵娼家を營み、三所を合せてその數約五十軒、次いで江戸娼家の好況を聞き傳へて、伏見の撞木町、奈良の木辻町等の傾城屋が漸次江戸に轉住、何れもその業を營むに至りて娼家全盛の兆を來せしかば、幕府は漸くその取締に憂慮を懷き、元和三年巷、達示を以て傾城町取立の場所を下附、同時に小田原より來りて娼家を營める庄司甚右衛門を傾城町名主に命じ、五箇條の「御條目」と稱するに規定を發す。淺原指定地は葺屋町の下の地續宜町の地にして、即ち古の堺町の地なり。當時は、その邊は一面の葭原なりしを以て、土地に因み、葭原と名づけられ、元和三年三月土工を起し、四年に家々建ち揃ひ、同年十一月淺女屋の開業を見たり。これを元吉原開基の事情とす。この葭原の名は、寛永に至りて吉詳文字の吉原に改められ、繁昌したりしが、明暦二年十月、淺原地は御用地として必要なるを以て、所替を命じ、日本堤邊なる今の吉原の地を替地として下附す。かくて、その以前の吉原を元吉原といひ、この代地をば新吉原と呼ぶに至りしなり。然るに翌明暦三年正月十八日の江戸大火にて移轉前に燒失し、代地は未だ地均中なりしため、一時三谷に假宅を許可せられ、八月上旬に至り、新地の家屋工事落成、その十四日を以て新吉原淺原の開業を見るに至る。新吉原の地は昔の中千束村にして大門より水道尻まで京間百三十五間、横幅同百八十間、坪數計二萬七百六十七坪に及び、元吉原の如く江戸町、京町の一、二丁目、及び角町の五箇所を以て同位置を占めしが、のち揚屋町・伏見町・堺町・仲の町・西河岸・羅生門河岸・天神河岸の町名・小名を增加せり。遊女屋は、最初江戸町一、二丁目、京町一、二丁目、角町の五丁目に成立ち、揚屋は揚屋町に一團となりて元吉原の如く廓内に散在せしめず、又仲の町は商家を以て充たすといふ組立なりしが、後、揚屋附隨の茶屋勢力を得るに從ひ、形勢一變し始め、果は主たる揚屋を壓倒せしめ、揚屋町の揚屋も漸次退轉し、遂に明和に至りてその跡を絕つに至る。それより引手茶屋全盛時代を展開し、漸次仲の町の商家を悉皆茶屋側に於て占領するに至れり。しかるに、後年又、揚屋町の茶屋の多くが、淺女屋の專有するところとなり、茶屋は專ら仲の町を固守するに至りて現今に至る。

【吉原土手・吉原堤】 ↓日本堤。

【吉原】 石川縣能美郡にありし村。明治四十年外二村と合し鳥越村となる。

【吉原町】 靜岡縣駿河國富士郡の南部。富士驛の東北にして、北に今泉村、東に原田村、南に島田村、西に傳法村あり。地は富士川下流の三角洲中、沼川下流に位置する沖積平野にして、水田農村の中心をなし、嘗ては郡衙の所在たり。いま製紙工場あり。古くは和名抄、富士郡島田郷の内とす。この地はもと今の地より東南方にありしが延寶八年、津浪して家屋漂流し、天和二年此地に移る。即ち舊吉原の地をいま元吉原村といふ。治承四年源平戰の時、平氏水禽の羽音に敵襲なりと周章狼狽して逃走せしは即ちこの地とす。明治天皇には度々此地にて御小休或は御宿泊遊ばさる。

【吉原村】 京都府丹後國中郡の西北部。峰山町の西南に接し西は竹野郡に界す。西端の丘陵が東北方へ進りて一は中央に蟠り一は北境を限る。中部及び東南部には西南より東北に續く低地開け、竹野川の一支流が東南部を東北流す。農產を主とし、また丹後チリメンの產地にして其產額は農產額と匹敵して外に畜產・林產あり。東部には縣道が縱貫して峰山町へバスを通ず。

【吉原村】 香川縣讃岐國仲多度郡の西北部。善通寺町の西、多度津町の南方にあり、南は三豐郡に接す。南には我拜師・火上の二山聳えて中央に傾斜し、西北に八國山聳立して中央に急斜す。中央は低平なる丸亀平野の西部を占め、沃野をなす。兩山地の間には用水池ありて灌漑を助く。農業最も盛にして全戸數の九〇%農菊・果樹園藝等を營み、叺・麥稈莫田の工產あり。山地よりは石材を出す。八國山麓を國道走り途中より善通寺町へゆく縣道分岐す、交通は至便なり。僧侶にして勤王の志厚かりし成就院月照（贈正四位）は此地の人とす。西郷隆盛と共に薩摩潟に入水せしことは皆く人口に膾炙するところ。雨霧山には香川氏の古城跡あり。（曼荼羅寺）眞言宗善通寺派。我拜師山延命院と號す。四國八十八箇所第七十二番の札所。寺傳に大同年間、空海草創し、自作の大日如來像を安置し、且つ金胎兩曼荼羅を寫して納め、寺號また之による。永祿元年火災に罹り、文祿年間再建なる。御詠歌「わがかにも曼荼羅拜む人はただ二たび三たびかへらざらまし」

〔出釋迦寺〕 大字吉原にあり。眞言宗善通寺派。四國八十八所の第七十三番札所。我拜師山と號す。一に曼荼羅寺奥ノ院なりといふ。寺傳によれば、初め空海當山にありて釋尊靈鷲現を所念すること七日、遂に效なきを慨き身を谿谷に投ぜしに釋尊出現し之が救ふ。因りて谿谷を捨身窟と名づけ、山を我拜師山と稱へ、堂宇を建立し、自性釋迦如來像を安置し、以て出釋迦寺と號す。是れ當寺の濫觴なりと。中世、眞宗善、現地に移す。御詠歌「逢ひぬる六道衆生救はんとたうとき山に出づる釋迦でら」

ヨシワラ 芳原村 高知縣土佐國吾川郡の東南部。北は土佐郡鴨田村を隔てゝ高知市に近く、東は長濱町との間に諸木村を挾む。北には烏帽子山聳えて中央に急斜し、南は仁淀川下流の沖積平野の一部を占む。從つて土地平坦にして沃野なれば、農業よく行はれ米・繭の產あり、また蒟蒻を製造す。牧畜も盛にして牛を飼ふ。山地は林產物を出す。中央部平地か東西に縣道貫通し高知市とはバスの便あり。明治二十六年木塚村より分離獨立す。

ヨスジマチ 四筋町 一に四筋町ともいふ。大阪新町遊廓の別稱。瓢箪町・佐渡屋町・越後町（一名佐渡島町）・吉原町の主なる町四筋ある故の名稱。毒

の門松・中「難波潟梅に名を取り松繁り、紅葉の錦畫さへや、夜見世を新たにお許しと、としや遅しと見にくるわ、四筋の町の軒深く、燈火星の如くにて三五以上の月の顔、さす汐影のわけもよき、局々の手拭は、ねれぬ隙こそなかりけり」雙蝶々曲輪日記・三「寂光の都は変ぞ、四筋町九軒常夜の闇を照らす、井筒が元の賑しさ、数の客雁の来迎と、五百羅漢の本社共、しま黄金の肌ん目がけ　我も我もと入り来れば、客は御身成佛の、帶紐解いて大騒ぎ」男作五雁金・遊後町局炭火の段「変に一つの悪所が御座る、二つ二親に見捨ててすとんと捨てられて、三つ見飽ぬ女郎や禿を集めて、爭酒無理酒口舌事、粋も不粋もおしなべて、夜毎日毎に通ひくるわの四筋町、冬枯もせぬ夕景色、よれの門立辻中に、花を掘へて花ぞろは、誠の花も及びなく、散る事知らぬ里ぞかし」

ヨセ 與瀬町　神奈川縣相模國津久井郡の北部。桂川の北岸にて西は吉野町、東は小原町と隣す。面積小なり。全町山地にて、北境は約四五〇米あり。南方に傾斜し、南境を東流する桂川の谷に迫る。川沿ひの狹き平地には農業行はれて麥等を産し、養蠶も行はる。桂川には鮎を産す。甲州街道は川沿ひに西走し、聚落もこれに沿ふ。省線中央本線また之に沿ひて東部に與瀬驛（明治三十四年設置）を置く。いま小原町・千木良村と共に組合町村をなし、役場を小原町に置く。明治十三年明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際、この地に御小休あらせらる。

ヨタ 余田村　山口縣周防國玖珂郡の西南隅。德山市を去る事東方約二四粁。東は柳井町・新庄村に、南は熊毛郡平生町に、西は同郡田布施町・鹽田村及び田布施町飛地に接す。この地方は花崗岩山地中にありて、南北に細長き形をなし、北部山地は太平山（三一四米）の斜面に屬し、中部には地溝狀の低地が存在し、南部には分離丘陵たる赤子山（二三〇米）急峰す。中部底地は農業地域をなし、米・麥の産多し。聚落は割合散村的にて、東西に省線柳井線通じ、田布施驛に近し。古くは和名抄、玖珂郡餘戸郷の内とす。延元四年の文書に與田莊と見え、東大寺領たり。藩政の頃は岩國藩に屬し吉川家の所領たり。〔余田臥龍梅〕指定天然記念物。宇河添、赤子山麓の畑地にあり、樹齢三四百年を經たる紅枝白花一重小輪野梅性の老樹にて、根本より四本の支幹に分れ、蟠臥して先端の地に着けるところより更に新枝を發して上方に伸生し、別株の如く見ゆるところより臥龍梅の名起る。根本の周圍約五米、枝張東西約一四米、南北約一八米、梅の巨樹として有數のものなり、近年周囲に數百本の梅苗植ふらる。〔願樂寺〕古義眞言宗。弘鹿山と號す。天平十二年行基此地に一宇を創し自刻の觀音像を安置せしに創まる。弘仁五年空海之を再興し、自刻の本尊大日如來像を安置す。爾來寺門隆盛現在に至る。

ヨタ 與泰　讃岐國（香川縣）の古地名。和名抄に大内郡與泰郷あり、その地今の大川郡譽本村・福榮村の邊に當る。

ヨタ 依田村　長野縣信濃國小縣郡の中部。上田市の東に隣り、千曲川の南岸にありて依田川との合流點に位す。村の西半は山地にして、東半は依田川の氾濫原をなし水田卓越す。聚落は多く山地と低地の境に位置し、御嶽堂・北原・飯沼あり。千曲川河岸段丘上に小牧あり。山麓は桑園化行はる。西境に二ツ木峠あり。丸子町より四所温泉への街道に當り、上田市より丸子町へ上田温泉電軌依田窪線通ず。耕地面積四七七町、田一五四町、畑三二三町、うち桑畑二九五町、全面積に對する耕地率三七%に達す。開拓の可成よく行はるゝは郎ち村の西方の山地が蒼千曲川の上段の段丘の平坦面をなすによる。赤裂つて畑は全耕地の七〇%に及び多くは桑畑に利用せらる。舊依田庄に屬し依田氏發祥の地たり。依田氏は多臣の族、信濃國造の裔たる金刺氏より出で、依田城に居りしが、依田城は壽永年間、木曾義仲の居城となる。〔御嶽神社〕大字御嶽堂字日除に鎮座。郷社。祭神、大己貴命外二神。例祭、九月廿八日。〔宗龍寺〕大字御嶽堂に在り。曹洞宗。涌泉山と號す。文安年中の草創にして、初め村内山寺と稱する地にありて中峰山東向寺と稱す。のち回祿に罹りて焼失し、慶長五年、中山宗龍本村中山へ移して再建し、庶山元徹和尚を中興開山として中峰山宗龍寺と改む。享保年中慧岡和尚之を曲澤に移して涌泉山と改む。

ヨタ 與田浦　千葉縣の北部。利根川と霞ヶ浦より出づる北利根川の間の武瀬地十六島にある細長き湖。高度僅に〇・五米にて面積五・〇八平方粁、深度二米位。一面に水草繁茂しこれを採り田の肥料とし、海老・鯽等を産す。水草生ふる爲に水は比較的純良なり、故に十二橋附近の住民これを飲料とす。耕作に行く小舟、佐原より鹿島及び潮來通ひのモーターボート等中央を盛に往來す。

ヨチ 與知　佐渡國（新潟縣）の古地名。和名抄に雜太郡與知郷あり、その地今の佐渡郡内ならんも詳かならず。

ヨツ 與津村　高知縣土佐國高岡郡の東南端。北は東久村に界し西は幡多郡に隣し他は海に面す。西境に沿うて高距數百米の山脈連亙し東部に急斜す。中央部海岸は東南に突出し與津峠をつくり、先端には三峠山の小丘峠つ。突出せる岬の中央及び南岸は砂濱地をなし、土地平坦にして肥沃なれば農業行はれ、藷も出しまた蔬菜の栽培盛に行はれ、胡瓜・茄子・蓉加等、早生園藝物は年々增加しつゝあり。また水産業盛にして鰹・鮪・鹽等の漁獲多し。木村は本郡西端の漁港にして宦

川町へバスの便あり。また沿岸定期船の寄航地なり。村の四方海濱に小室濱あり。與津崎牛鳥南方に突出せる風蝕なるを以て、海水稍々穿穿に小港の形を成す。この濱は標貝の産地として有名にして海濱汀砂數町の間、磯浪の寄せ來る毎に、五色の美麗なる小貝の殼を打上げ頗る美觀を呈す。〔八幡宮〕大字與津に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・田心姫神外四神。元慶二年創立と傳ふ。當郷浦の鎮護神。例祭六月十五日・十一月十五日。

ヨツイビ 四ツ井樋　省線松浦線の一驛（昭和六年設置）。長崎縣北松浦郡佐々村にあり。

ヨッカイチ 四日市

【四日市】江戸の地名。現今日本橋區江戸橋の南詰の所、元四日市町の稱殘り、その河岸を四日市河岸といふ。江戸砂子「江戸にし南詰廣小路の所、此所むかしは四日市場と云村にて、四々の日市立し所と云つたふ、その證風なるにや、今も瓜西瓜冬瓜蜜柑太根などの前栽ものあるひは門松正月かざり物の市立」辰己之園「ろう石か買なら、四日市より親父橋の彌五郎が所で買れエ」自慰鏡歌「賞に酒落本の天下一を以て、四日市の南總館にあたふ」

【四日市市】三重縣北東岸の港市。北方桑名市へ一三粁餘、南方津市へ約三〇粁を隔て、東は伊勢海に面し、南は三重郡楠村に、西は河原田・日永・常磐・三重の四村に、北は大矢知村・羽津村に隣り土地南北に長く面積一七・二六方粁。伊勢平野の北部にて西方鈴鹿山脈より來る海蔵川・三滝川・鹿化川・内部川等これと略平行して貫流し、土地平坦にして中部の市街地を除けば乾田よく發達す。古く東海道五十三次の一驛としてまた海上熱田への渡津として著はれ旅客の來往多かりし地なり。省線關西本線通じて四日市驛（明治二十三年設置）を置き、社線參急電鐵伊勢線の阿倉川・川原町・西町・諏訪・四日市・濱濱の六驛（共に昭和四年開業）あり、社線三重鐵道は伊勢線の諏訪驛に連り、堀木驛（大正二年設置）・南濱田驛（大正五年開業）を置き、また郊外に通ずる道路にはバスの便ありて交通便利なり。古く萬古燒・銘茶の産地として名高く、近年綿糸・綿織物・陶磁器・植物性油・紙等の工業勃興せり。港は綿糸工業の發展に伴ひその原料輸入を主目的とし、明治二十二年、特別輸入港となり、同二十年、特別輸出入港に指定せられ、同三十二年開港となる。三濃川口と内部川口よりの突堤及び繫船岸壁・桟橋等の築港工事も昭和五年に完成し、昭和九年度の輸移出入の貨物品別及び價格を大略擧ぐれば、外國貿易としては陶磁器（約百七十萬圓）・肥料（約百萬圓）・茶胡麻六百萬圓・菜子油・菜子油・綿布・セルロイド等總額約六百萬圓を輸出し、羊毛（約三千二百萬圓）・綿綿（約千六百萬圓）・飼料（約百七十萬圓）・菜子・豆糟・石炭等總額約五千七百萬圓を輸入す。また、一方移出は棉花（約千二百萬圓）・陶磁器（約百六十萬圓）・鯉糟・砂糖（以上共に約百五十萬圓）・内地米・肥料等總額約二千六百萬圓、移入は米（約三百九十萬圓）・砂糖（約三百萬圓・石炭（約二百五十萬圓）・鯉糟・木材・米等總額約二千百萬圓とす。國有本線の貨物驛四日市港驛（大正九年設置）は末廣町に置かれ、また日本郵船會社の北米線及びボンベイ線の寄港地たり。人口五・九萬に近し。丹波與作待夜の小室節「人を乘せたが乘せられて、限りの旅の坂の下、なうあれ夜深にいそぐ乘掛も、泊りは知れて四日市、我に泊りも七七日、中有の旅の馬羊、歩み、しい〳〵」〔諏訪神社〕濱田町にあり。縣社。祭神、建御名方富命。市の總鎮守にて、毎年九月二十六・七兩日の例祭は俗に四日市祭と稱し殷賑を極む。〔いわなし自生地〕指定天然記念物。東阿倉川宇北出口にあり。野生梨の中にて最も原始的のものにて果實に直徑一センチ内外に過ぎず。〔あひなし自生地〕指定天然記念物。阿倉川宇上野にあり。あひなしは普通の梨と犬梨との中間に位する野生梨にて果實の直徑は約三センチ位あり。〔四日市受信所〕阿倉川にあり。名古屋無線電信局の對歐無線電信受信所なり。

【四日市町】大分縣豐前國宇佐郡の北部。驛館村を隔てて宇佐町の西方にあり。西南隣の横山村所在の湖沼を繞りて稍々丘陵地をなせども、其他は概ね地形平坦なり。驛館川は東方一粁餘の地點を東北々流す。水田よく拓けて米産多く又麥も出す。日向街道が中央を横斷し宇佐町及び中津市へ定期バスの往來あり。社線豐州鐵道敷設し、豐前四日市驛（大正三年設置）あり。古くは和名抄、宇佐郡葛原郷の内なるべし。舊郡衙の置かれし地にして、江戸時代には日田の西國郡代の出張陣屋ありて、豐前龍王谷等の民政を掌れり。城塞址あり。豐前志に據れば、淺邊氏松浦宮の裔、天文年中この地に移りて大友氏に屬したりと。明治二十四年町制を布く。〔櫻岡神社〕大字四日市に鎮座。郷社。祭神、蛭子命・大國主命・垂代主命等六柱。永祿元年淺邊筑後守光肥前松浦郡より勸請すといふ。本殿・中殿・拜殿・神樂殿・社務所等を具ふ。〔四日市別院（正明寺）〕眞宗本願寺派。正明寺と號す。大谷派の四日市別院と起原を同じくす。第八世宗順の時、本山より素行を脅められてより大谷派・本願寺派に分立せり。〔四日市別院〕眞宗大谷派。草創年次不詳。當初虎寧藏寺と稱し天台宗を奉ぜしも後眞宗に改宗。爾々大友氏の亂に遭ひて堂宇燒失せしも萬治年中寺基を現地に移し再建す。第八世宗順身暫まらず爲に堂宇寺域浪敗され本山に下附、掛所となる。明治元年兵燹の爲炎上、同六年再建せしが現存のものなり。

ヨツカイドー　四街道　省線總武本線の一驛（明治二十七年設置）。千葉縣印旛郡旭村にあり。

ヨツガネ　四鐘村　島根縣出雲國簸川郡の中北部。今市町の西北に隣接し、北は高濱村、東は川跡村、南は鹽冶村と界す。面積四・一五平方粁。宍道地溝帶西部の平地上に位し、村内地勢平坦、神戸川の支流西流し灌漑の便よく、耕地を以て大部分を占めらる。米・麥・蔬・雜穀等の產多し。今市町に接するを以て交通の便よし。（八野神社）鄕社。祭神、八野若姬命・大年神。式内社。例祭、十月七日。（觀音寺）臨濟宗妙心寺派。補陀山と號す。佐々木義清の創建にて鹽冶高貞の再建に係る。其後一時荒廢せしが慶安元年國主松平直政觀音の靈夢に感じて現存の堂宇を再建す。爾來累世國主の崇敬厚し。本尊、十一面觀音坐像（寧德太子作）。出雲三十三所第四番の札所。

ヨツクラ　四倉町　福島縣磐城國石城郡の東部。平市の東北約一〇粁。東は太平洋に面し、北は雙葉郡に接す。面積六・六八粁。阿武隈山地の東斜面に屬し地勢西部に高く東方に傾斜し、南部及び北部に丘陵あり。塙川は西部に發し町の中部を東流し、太平洋に注ぐ。沿岸に耕地拓く。米・海產物・セメント等の產あり。陸前濱街道は町の東部を南北に通じ北方久之濱町、西南方平市へはバスの便あり。省線常磐線四ツ倉驛（明治三十一年設置）を置く。人口密度は一方粁につき一一三八人あり。天長年中、田戸修理太夫の所領となり、いま白山に其館址あり。寛正・文正の頃、四倉大膳太夫の采邑に歸し、のち岩城氏の領となる。元和八年に内藤氏これに代り、延享以來は幕府の直轄となり、小名濱代官の支配する所となれり。四ツ倉港は太平洋岸に於ける主要なる漁港にして、近海には鰹・秋刀魚・鰯の漁獲多く、町の北方海岸に夏季海水浴場として知らる。附近の漁村は菊麻正月十日頃に古來有名なる火打合が行はる。

ヨツゴー　四ツ合村　新潟縣越後國西蒲原郡の中部。鎧潟東岸の低濕地を占め、西北は新川を境に曾根町に隣接す。村内を新川その他の分流貫通し、概ね平低にて沼田をなす部分多し。米を主產し、近時花卉の栽培も試らる。鎧潟には漁業行はる。南部が略東西に貫通する縣道あり、聚落概ね之に沿ふ。省線越後線越後曾根驛（約四粁、バスを通ず。

ヨツゴヤ　四ツ小屋村　秋田縣羽後國河邊郡の西部。秋田市の東南約六粁。秋田平野に屬し、東部に丘陵ある外は概ね平坦にて、岩見川は南境を西流し雄物川に合し、雄物川は西境を西北に流る。本村は純農村にして米の產多し。羽州街道は村の東部を西北に通ず。南方川添村へはバスの便あり。省線奥羽本線の四ツ小屋驛（大正六年設置）を置く。昔時、御膳川の河道曲折して附近の諸村はこの水害を蒙りしにより川筋を直し、河道を掘替へたり、依て川向の地に豐巻村所屬の萱野出來、仁井田村の人は浸りに萱刈をなす、依つて豐巻村より番小屋を拵て之を禁ぜり、始め交番に防ぎしが、後には三四家を移住して定番とせり、それより漸次移住して遂に一村をなせるにより四ツ小屋村と稱せりと。明治十四年明治天皇、山形秋田及び北海道行幸の際、御野立あらせられし所。

ヨツズカ　四塚　京都市下京區の町名。いま八條四ツ塚町といふ。羅城（羅生）門のありし所。

ヨツツジ　四辻　省線山陽本線の一驛（大正九年設置）。山口縣吉敷郡鋳銭司村にあり。

ヨツヌキ　四貫　愛知縣中島郡にのりし村。明治三十九年本村外四村を廢し長岡村を置く。

ヨツバシ　四ツ橋　→大阪市

ヨツハマ　四ツ濱村　愛媛縣伊豫國西宇和郡三崎半島中央部。北は三机村に西南は神松名村に界し、東は宇和海に、西は伊豫灘に面す。中央を東北より西南に丘陵連互して南に急斜し、北は緩斜し、その先きは出入に富む海岸線を有す。兩岸に縣道通ずるもバスの便なく、交通は主として海上による。溫暖なる氣候に惠まれて農業榮え米・麥・蔬・甘藷等を產し養蠶は最も盛なり。特產として切干甘藷・清酒等あり。水產業行はれ鯛・鰯・鮪等の漁獲あり。大字大久に大泉鐵山あり、鐵鑛は神松名村にも跨りて五〇萬餘坪、休山の麓なりしが昭和十年事業を再開し同年には銅鐵三七噸を產出す。村名は四部落の合せしより起るといふ。

ヨツミ　四海村　香川縣讃岐國小豆郡の西北部。東は北浦村・大鎌村に、南は淵崎村に接し、西及び北は瀨戸内海に面す。南境を四—五百米の山脈連りて北方に傾斜し、村内概ね山地を成すも沿岸諸處に低地あり耕地拓く。沿岸は西北部に漁崎、西南部にも一岬角突出せるも良港に乏し。住民は半農半漁にして專ら米を產す。南方土庄町へはバス通じ、高松市へ汽船の便あり。

ヨツヤ　四谷　【四谷區】東京市三十五區の一。東は外濠を隔て麴町區に對し、北は牛込區、西は淀橋・澁谷兩區、南は赤坂區に接す。舊市内の一區にて山ノ手の一部に屬す。中央を甲州街道が東西に貫通し、その西端は新宿の一部を形成す。地名の起原は此地もと武藏野に續く曠野にて、梅屋・木屋・茶屋・布屋といへる四ツ家轉じて四谷となりしといふ說と、この地に千日谷・茗荷谷・千駄ケ谷・大上谷の四の谷のつく地名あるため四谷と稱せしといふ說とあり。本區は西部に甲州街道並に青梅街道の關門を扼し、舊幕時代より武家地として、また城西に於ける交通の要路として、重要なる地位を占む。月の入るべき山もなく「草より出でて草にこそ入れ」と歌はれし當時の武藏野は、實に今日の四谷を其の一端とせり。地の利を占めし本區は維新後時代の進展に伴ひ、交通機關の發達と相俟つて目覺しき發展を遂げ、今日に於ては山ノ手一流の商業地帶を形成するに至れり。加ふるに本區が大正九年舊豐多摩郡の內藤新宿町を合併せしことは本區將來の伸張力の向ふ所なりとするものとして大なる意義ありき。殊に大正十二年の大震災に聊かの痛手も受けざりし爲、躍進的發展の機運を胴み、遂に「山ノ手銀座」の名を成すまで繁榮するに至る。更に本區の發展を示す著しき現象として市内一流銀行の本區内に本支店を經營するもの、震災後甚だ增加し來たれり。これ卽ち近來郊外交通機關の發展に伴ひ、近郊の地に居住する者夥しく增加し、是等郊外地及び隣接地域が目覺しき發展を遂げたる爲めにて、之を一面より見れば本區の經濟的榮躍を物語る一證左に外ならず。嚴に大正天皇の御大喪を行はせられし新宿御苑は本區の西部に在り、それに近接する全國民崇仰の的たる明治神宮外苑には、明治大帝の聖慮を體せる神宮競技場・記念繪畫館・日本青年館等が設立され帝都並に帝國の中堅たる青年男女に寄與するところ甚大なり。前述の如く本區は明治維新以來常に時運に惠まれ、殊に昭和七年十月大東京成るに及びて本區は殆ど其の中心地帶を占めて、重要なる地位を占む。月の入るべき山もなく「草より出でて草にこそ入れ」と歌はれし當時の武藏野は、實に今日の四谷を其の一端とせり。地の利を占めし本區は維新後時代の進展に伴ひ、交通機關の發達と相俟つて目覺しき發展を遂げ、今日に於ては山ノ手一流の商業地帶を形成するに至れり。加ふるに本區が大正九年舊豐多摩郡の內藤新宿町を合併せしことは本區將來の伸張力の向ふ所なりとするものとして大なる意義ありき。殊に大正十二年の大震災に聊かの痛手も受けざりし爲、躍進的發展の機運を胴み、遂に「山ノ手銀座」の名を成すまで繁榮するに至る。更に本區の發展を示す著しき現象として市内一流銀行の本區内に本支店を經營するもの、震災後甚だ增加し來たれり。これ卽ち近來郊外交通機關の發展に伴ひ、近郊の地に居住する者夥しく增加し、是等郊外地及び隣接地域が目覺しき發展を遂げたる爲めにて、之を一面より見れば本區の經濟的榮躍を物語る一證左に外ならず。嚴に大正天皇の御大喪を行はせられし新宿御苑は本區の西部に在り、それに近接する全國民崇仰の的たる明治神宮外苑には、明治大帝の聖慮を體せる神宮競技場・記念繪畫館・日本青年館等が設立され帝都並に帝國の中堅たる青年男女に寄與するところ甚大なり。前述の如く本區は明治維新以來常に時運に惠まれ、殊に昭和七年十月大東京成るに及びて本區は殆ど其の中心地帶を占めて西部方面の關門を扼し、且また環狀線道路の完成と相俟つて本市交通の焦點となりし爲、區政の發展すること限りなく、其の新興勢力は今や區内に充滿し將に何れか〈溢出せんとする勢なり。殊に山ノ手の一大歡樂境たる新宿通には、デパート軒を竝べ一大百貨店街を爲して面目を一新し、其の他大小各種の商廛舗或は娛樂機關櫛比し、銀座・淺草に對し獨自の感覺と雰圍氣を醸成し、其の華麗なる光彩は街路に溢れる都人士を眩惑せしむ。

【四谷】省線中央本線の驛（明治二十七年設置）。東京市麴町區紀尾井町にあり。

【四谷】愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年廢せられ、その大字元山中は石野村へ、外三大字は高稻村に入る。

ヨツヤ　四家　愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、本村外四村を廢し大里村を置く。

ヨツヤ　四ツ屋村　秋田縣羽後國仙北郡の南部。大曲町の東北約四粁。東北は長野町に接す。橫手盆地に屬し、全村概ね平坦にして、玉川は村の西部を西南に流る。村の生業は農を主とし、米を產す。道路は村の中東部を西南に貫通す。省線生保内線羽後四ツ屋驛（大正十年設置）あり。本村は角館・盛岡への通路に當り、戊辰の際に激戰のありし所。

ヨツヤシンジュク　四谷新宿　江戸の地名。內藤新宿ともいふ。現今は單に新宿と稱す。※新宿。甲驛新話序「いたこ出島のまこもにはあらで、四谷新宿馬糞の中にあやめもしらぬ一番なる」

ヨド　余土村　愛媛縣伊豫國溫泉郡の西南部。松山市の西南に隣接し、南は重信川を隔てゝ伊豫郡に對す。松山平野の中央に位し、全村低平にして沃野をなす。東北方より西南に石手川流れて南境を西流する重信川に注ぐ。灌漑の利便を得て農業盛に行はれ米作を第一とし蘭・麥をも產す。曾て模範村として名高し。松山市より來る國道は西部を斜に走りて隣村に至り、これに並行して社線伊豫鐵道郡中線通り余戸驛（明治二十九年設置）を設く。東部には省線豫讃本線南北に貫通す。松山市へバスを通ず。古くは和名抄、久米郡余戸鄕の內とす。（日招八幡神社）大字保免に鎭座。鄕社。祭神、市杵島姬命外六神。社傳に據るに崇峻天皇二年國司小子益躬、勅を奉じ筑紫より勸請せりと。例祭、十月六日。

ヨド　淀　【淀川】近江の琵琶湖に發し、近畿地方の中樞部を流れて大阪灣に入る川。本流の流路延長に僅に七九粁に過ぎざるも、流域面積は八四〇〇方粁を超ゆ。上流の琵琶湖より流れ出づる部分は瀨田川と稱せられ、南下して山間に入り、滋賀縣・京都府の境界附近にて屈曲し、宇治に於て京都盆地に出づ。瀨田川の下流は宇治川と呼ばれ、宇治川は宇治より伏見を經て淀に達す。淀附近は京都盆地・伊賀盆地・丹波高原より流れ來れる淀川の諸支流の本流に合流する地點にして、淀の地名も亦これに因む。卽ち鞍馬方面より發せる賀茂川は、比叡山西麓を南下する高野川と會し、京都市中央貫流し、伏見より淀の北部にて桂川に入る。桂川は丹波高原南部の水を集めて亀岡盆地に出で、更に保津の峽谷を過ぎて、京都盆地に達し、賀茂川と對稱的流路をとりて京都市の西部を南流し、淀附近に於て、伊賀盆地周縁の山地に發し、京都盆地の南部を過りて北流し來れる木津川と共に本流に注ぐ。此等の支流の合流せる淀より下流の部分は淀川と稱せらる。淀川は京都・大阪兩府の境界をなす山崎の隘路（北に天王山、南に男山丘陵）を通過し、右岸に水無瀨川の小淡を合せ（長三里、水無瀨宮河畔に存す）、西南に轉じ三島郡と北河內郡との境を限り、右岸芥川を合せ、枚方に近づきて天之川を合す、沿岸ほ禁野・渚院址等の史蹟に富み汪洋として大河の奏あり、江口に至りて右に神崎川を分つ。これ實に續日本紀延曆四年遣使堀攝津國神下梓江鰐生野、通手三國川と記されたる淀川の分流にて中世京都より瀨戸內に通ずる要路となりし所なり。江口以西は今は大阪市に屬し、これより下流は更らに數多の分流を派生し、歷史的にも地理的にも共に複雜なる複合三角洲を形成す。卽ち淀川本流は毛馬閘門より南折して大阪市中央貫流し、市の中心部に於て堂島川と土佐堀川とに分れて中之島を抱き、それより下流は安治川・尻無川・木津川の分流となりて大阪に入る。また

毛馬閘門より分岐する新淀川は増水時の放水路として明治卅一年に開鑿されたるものなり。其他新淀川と淀川本流との間には、中津川・正蓮寺川・傳法寺川・六軒家川等の分流あり。淀川は近畿平野の中央部を流るるため、灌漑上重要なるのみならず、江戸時代までは大阪より京都に至る最も重要な交通路にして、伏見・中書島と、大阪八軒屋との間には、淀川川船(三十石船)による旅客及び貨物の往来頗繁を極め、沿線の河港として土佐日記に記されたる山崎をはじめ、橋本・枚方・江口等、いづれも旅客を迎へたる口碑を遺し、明治の初年には小汽船をも通ずるに至りしが、省線東海道本線の開通(明治十年)及び河川改修(明治二十九年)による水位の低下等により、漸くその繁榮を鐵道に奪はるゝに至り、旅客のこの間を舟行するもの殆んど跡をたつに至れり。然れども現在猶ほ石炭・砂利・木材の如き重量貨物の輸送に利用さるゝこと多く、特に京阪間の貨物輸送に於ては、鐵道便を蓋かに凌ぐ狀態にあり。最近川の兩岸に於て舗裝國道の完成なり、殊に八幡・守口間の國道は淀川堤防上を快走せり。かくて自動車の貨物運搬亦多量に上るに至れりと雖も、水運の長所は自からその位置を讓らざるものあり、玆に於てか淀川浚渫、もしくは琵琶湖を通じて大阪灣より敦賀に出でんとする大運河の計劃を論ずるもの尠からず。例令ば田邊朔郎氏の琵琶湖運河計畫のごとき、一萬噸級の船を通ずべき大運河は敦賀より鹽津二十粁、湖水六十五粁、瀬田宇治二十粁、宇治大阪間五十粁、合計百五十五粁(約三十九里)にして山間部は幅八十五米、平地部百二十米、水深十米、閘門の幅二十一米(南と北にて凡そ十數個)經費凡そ六億圓に達すべしといふ。同時に湖面の水位を高めて、水力の源を豐富ならしむることを併せ考ふる時、必しもこの運河は夢想に墮ずざるを思ふ。現在に於ても、豐富なる水量を利用せる工業會社の發達ことに人絹工場・紡績工場などの沿線に分布する、既に盛んなるものあり、宇治水電の功績亦見るべきものあれば、近き將來に於て、この水系の改修とその利用は、恐らく刮目して俟つべきものあらんか。更に現に淀川の河水は、下流に於て大阪市民三百萬の上水の水源地として利用されつゝありと雖も、上流人口の增加に伴ふ水質の惡化に憂む、近き將來に於て京阪神一帶八百萬の人口を養ふべき上水は、之を琵琶湖に求めざるべからざることを併せ考ふるとき、淀川と琵琶湖の水利は實に近畿日本の生命に關す、これ又大運河問題と共に考慮せらるべきは疑ひを要せざる所なり。淀鯉出世瀧・上「身は拾草の拾てもせで、浮名は流れの淀川や、何をたよりに水鳥の、波にゆらるる世の習ひ、疎きは人の情なり、廣き世界は廣けれど、京や浪花の住居さへ、せき留められし水車、月の影さへくる〳〵と、彼方此方に汲みわけられて、行けば丹波路戻れば大和」藤栗毛・七上「アア、なるほどいい月だ。一刻を千金づつの相場なら、三十石のよど川の月。かくくちずさみて、おもはず將景にみとれゐたるが、このうち、岸にかかりゐたりし船も道々こぎ出すやうすに、北八彌次郎が乘たる船も、今出ると見えて、船頭ども、もやひ綱をとき棹さしのべて、ふたりを呼たつるに」

【淀町】 山城盆地の略中央。瓦椋池西岸に位し、京都府山城國久世郡に屬す。附近はもと瓦椋池の湖底たり。のち山城の巨川たる木津・宇治・桂の三川合流しその土砂堆積に因り出現せし洪涵地なり。地は低平にて、洪水の難に慣されし事古來枚擧に暇あらず。瓦椋池面積大なりし近世初までは山城三川の堆積せる島洲が湖岸に鉢び、明德記には淀の中島とある程の地形なりき。故に淀の發生は湖岸堆積の洲・島の集積せるものなり。聚落の形成を見たる時代は明ならざるも、既に平安初期に於ては、京都の外港として發展し、延喜式諸國運漕は總て淀港揚げ京都運送と規定せしものなり。從つて淀には朝廷の御贄所があり、また貴族の莊園より上る納稅物の倉庫が建てられ、かかる事務を處理する者の居所もある筈、京都の港市としての重要なる存在たりき。單に京都のみならず南都大寺院の運上米等の陸揚・納庫も此地にて行はれたるを注意すべし。淀町に接する京都市納所は諸貨物を納むる納屋のありし所ならん。また交通の要所たりし事は當然の事にて、淀川水運の一大中心地たり。之は一に地理的事情の優越せるに基くものにして、淀川本流は勿論木津川上流の木津・加茂、宇治川上流の宇治ノ津、桂川上流の大堰津等盆地周緣に於ける諸港市の中心港となり、且つ京都へ最も接近せる港市たりしに據る。近在の山崎を拔き、延喜式諸國運漕の本據地たらしめしは、一に京都への地理的事情の優越せるに因る。單に水路のみならず、又陸上交通の要地たり。平安初期に於ける京都より奈良への官道は伏見木幡關より宇治經由にして、中央瓦椋池沿岸を南北に縱斷するの道路はなかりき。然るに瓦椋池湖岸の干拓進み、淀の發展を見るに伴ひ、京都より淀經由、西山城路を南下する通路の出現を見、平安末期に於ては專ら此の通路を官道とし宇治經由を脇道とするに至る。鳳輦淀川渡に際し、龍頭鷁首の船にて奏樂のうちに渡御、對岸美豆の頓宮に入御し給ふを例とせられたり。往古の淀は桂川の右岸なる大下津・水垂方面にして、式内淀姫神社鎭座の故地なり。然し後、東方淀發展するに從ひ總稱して淀と言へり。淀城を築城せしは近世初期の事なり。此地古來度々戰亂の巷と化したるは、京師の關門水陸交通の要地たるの地理事情の然らしむる所なり。豐公伏見築城するに當り瓦椋池に直接流入せし宇治川を伏見經由とし、桂川・木津川と城の北邊にて合流せしめ、以つて瓦椋池を全然淀川本流より分離せしめたり。特に愛妾淺井氏(淀君)の爲め淀城築城につき附近の地形一大變遷を見たり。淀城は淀川に沿ひ城内への給水に水車を以つてしたるため、後世淀の水車の名を得、淀川水運來往客の注目する所たり。江戸三百年、淀川舟運の中心は伏見に奪はれたりと雖も、尙ほ淀二十石過書船の根據地として淀川舟運に君臨せり。また淀稱藩主稻葉氏十萬餘石の城下町として威を山城に振へり。然るに廢藩後衰微を來し、加ふるに之に拍車をかけしは、鐵道開通による舟運の衰微なり。かくて淀の繁榮は全く影を沒したるも京阪電鐵の開通と、淀競馬場の建設、昭和十一年乙訓郡淀村を併合等により、五十餘年前の人口に還り、五百萬圓の豪華競馬場は瓦椋池頭に其の威容を誇り、淀の名は競馬を以て代表さるるに至れり。日本永代藏・五「父に山城の淀の里に山崎屋とて、身業の種は親代からの油屋なりしが、家職の穩の番を嫁ひ、無用の奇麗好、此家の福の神は塵にまじり給ひしに、竹箒に恐れて出させ給ふにや、次第に淋しくなりて」假名手本忠臣藏・六「されば別れたその所は、鳥羽か伏見か、淀、竹田と、口から出次第減法彌八」

【淀の渡】 山城國淀川の渡津の一。拾遺・夏「いづ方に鳴きて行くらんほととぎす淀の渡のまだ夜ぶかきに　壬生忠見」

ヨドエ　淀江町　鳥取縣伯耆國西伯郡の北部。米子市の東北方に位し北は美保灣に臨む。面積三・一五方粁。大山火山西麓下に發達せる米子平野の東部を占め、土地平坦にして沃野なれば耕地よく發達す。中央部を貫流して北に注ぐ河川ありて、灌漑は便なり。西南部に小丘あり。農業盛にして米・麥の產多く良質の酒を製造す。また傘を生產し、工業盛なり。市街は東北部、河口の右岸にひらけ海に臨む。國道山陰街道はこゝを通りて西南に貫流し街村をひらく。省線山陰本線はその南側を縱貫し淀江驛(大正十五年設置)を設く。町の人口四〇八七人、稠密なる町をなす。〔日吉神社〕大宇西原字濱に鎭座。鄕社。祭神、大己貴命外二神。例祭、四月三日。

ヨドカワ　淀川村　秋田縣羽後國仙北郡の西端。刈和野町の西方約一〇粁。西は河邊郡に接す。村の西境及び東境には丘陵連りて、淀川は村の中部を東北より西南に貫流し、雄物川に合す。沿岸に耕地拓く。雄物川は南境を南方に迂回して西北に流る。南部には大沼をはじめ沼澤あり。村の生業は農を主とし米・繭を產す。省線奥羽本線刈和野驛へは東方約一〇粁あり。古く船岡川の下游の峽谷を淀川村と汎稱し、のち上・中・下の三村に分ち、上淀川は荒川村に合し、中淀川・下淀川・小種を合し本村を置けり。

ヨドガワ　淀川　省線片町線の貨物驛(昭和二年設置)。大阪市北區淀上江町にあり。

【淀川】 ↓淀川

ヨドバシ　淀橋區　東京市三十五區の一。東は牛込・四谷の二區、北は豐島區、西は中野區、南は渋谷區に接する山ノ手の一部なり。東京市擴張の結果、新たに市に編入されたる所にて、合併以前は淀橋・大久保・戸塚及び落合の四町に分れ、豐多摩郡に屬せり。現在區内は東大久保・西大久保・百人町・戸塚町・諏訪町・上落合・下落合・西落合・角筈・十二社・淀橋及び柏木の諸町に分たれ、區内に新宿驛・淨水地・戸山ヶ原練兵場等あり。淀橋なる地名の起原は橋の名より出でしものにて、その橋は舊柏木村と舊中野村間を流るゝ舊神田上水に架けたる小橋なりき。その橋の名がその附近の民家の地名となり、それが町名となり轉じて區名にまでなるに至れりと。舊淀橋町は柏木・成子・角筈三箇村の合併せしものにて柏木・角筈の二村が天正以前已に夫々部落をなしたるは、小田原北條氏の文書にても明なり。角筈は初め江戸幕府の直轄地なりしが、寛文十二年牛込宗參寺の寺領として分賜し、柏木は德川氏の時伊丹順齋の知行なりしが、寛永十一年湯島麟祥院に賜りたり。而して此の兩村は維新の際、武藏縣に屬し、明治二年品川縣に入りしが同四年東京府の所管となり、更に同二十二年淀橋町となる。今日商業地域として繁榮し居るは人も知る所にて殊に省線新宿驛附近の雜沓は東京一の稱あり。大久保鄕踊園の名に依りて古くより知られし舊大久保町は、早くより住宅地として開けたり。鎌倉幕府以後江戸・豐島・上杉・北條諸氏の屬領なりしが、德川氏となりてより大久保村を東西の二箇村とし、その地域内は旗本の給地・寺領、幕府直領等相錯綜す。明治元年武藏縣に屬し、次で品川縣より東京府の所管となり同二十二年東西兩大久保村並に大久保百人町を合併し大久保村となり、更に大正元年より町制を布く。舊戸塚町は早稻田大學開校以來全く學校街として發展し、今や舊大久保町同樣その人口は年と共に減少する程高密度に達す。德川氏入國の後御鐵砲玉藥同心の火縄給地となる。明治二年品川縣を置きし時、本町の大部分は之に屬せしが、のち牛込區に入りし町村及び下戸塚の一部は東京府所管となり、品川縣の廢止と共に本來の全地東京府に屬す。同二十二年町村制施行と共に從來の戸塚・下戸塚及び源兵衛三村の外に諏訪村を加へて戸塚村となり、大正三年町となる。舊落合町は神田川の末流に位し、概れ低地なるが北西部は一帶の高台にて、武藏野鐵道の電化と西武電車の敷設に依り住宅地として近時非常なる發展をなしつつあり。神田川上水と上井草川とが落合ふ故この町名ありと。維新當時武藏縣・品川縣を經て明治四年東京府の所轄となり、同十一年下落合・葛ヶ谷と三村聯合の戸長役場を設けられしが、同二十二年三村合併して落合村となり、大正十三年町となる。賣花新驛「高井戸の市のたつ名もいとはずして、四季

なり〳〵のたしみにふける淀橋の水車、めぐるもん日のかずかず、いひもてつづくるにいとまあらず」江都近郊名勝一覧

「淀橋。成子宿と中野村の境に架す、大小二つの橋あり、こなたに水車あり、昔、大樹この邊へ御放鷹のとき、淀の水車に擬して、此橋を淀橋と號けさせ給ひしとぞ」

ヨドヤ　淀屋橋　大阪市船場を南北に貫く大通、御堂筋の北端と中之島の間土佐堀川に架けし橋。往昔その南詰にありし大阪の豪商淀屋の屋敷に因む。好色一代女・五「春めきて人の心も見えわたる淀屋橋を越て、中の島の氣色雲靜にして風絶、福島川の蚍蜉ゆたかに雨は傘のしめりもやらぬ程ふりて」西鶴俗つれづれ・五「其比當社に萬燈のありし時、北濱の淀屋橋の法師あまた来社をつれて、通りがけに見付られ、扨もありしにかわる身の上」

ヨナイ　米内　岩手縣岩手郡にありし村。昭和三年に盛岡市に編入せられ、村名を失ふ。

ヨナイザワ　米内澤町　秋田縣羽後國北秋田郡の西部。鷹巣町の南方約一二粁。西南境に大森山（四〇〇米）聳え、東北方に傾斜し、東北部もまた山地ななして、大阿仁川は村の中部を西北に流る。沿岸平坦にして水田拓く。米・繭の產あり。道路には村の中部を西北に通ずるもの、及び東北に通ずるものあり。省線阿仁合線は町内を走り米内澤驛（昭和九年設置）を置く。もと阿仁嘉成氏の居城せし古城址あり、嘉成と鶴子右馬頭貞清居りしが、貞清の時、天正十六年、大曾を南部氏より攻取れり、慶長七年に佐竹義宣が秋田に遷封の時、赤坂下總守朝光、此を守護せり。明治三十五年町制を布く。

ヨナグスク　與那城村　沖縄縣琉球國中頭郡の東部。中城灣と金武灣とを劃する勝連半島の東北側を占め、金武灣の南岸に沿ひ勝連村と腹背をなし、金武灣口に羅列する平安座・高離（宮城）・伊計の諸島を含み、面積二七・九方粁餘。半島部も島嶼部もいづれも第三紀層上に被覆せる隆起珊瑚礁にて所々に丘陵あるも一般に低平にして、平安座島と高離島の如きは滿潮時には徒歩にて交通し得べし。半農半漁の村にて農產に甘藷・甘蔗あり、平安座島の男子は多くは海上に出で東沖縄より與論島・永良部島方面に活動す。半島部の屋慶名は村の主邑にて那覇へはバスの便あり。離島へは發動船の往來あり。

ヨナグニ　與那國　【與那國村】沖縄縣八重山郡四ケ町村の一。八重山諸島（群島）の最西部に位置する與那國島より成る。西表島の西、臺灣の東に浮び、東方石垣港へは西表島を挾みて四二浬、西方臺灣の東岸へは四〇浬を隔つ。略々紡錘形をなし、東西約一一粁、南北廣き部分にて約四粁、面積二九・七八平方粁。第三紀層の石灰岩質より成り中部東西に山地あり、最高點は中央の東偏にある宇良部山（二三一米）にして、山地には樹木よく繁茂し、水量また少からず、沿岸低地には田地ひらけ、米の產あり。北岸中部の租納集落は小舟地に臨み、役場・學校等もこゝに置かれ村の主邑をなす。人口四六〇〇人、密度一五五人を算す。俗に女護島といはるゝも男女の人口は略々同數なり。もと西表間切に屬せしが明治四十一年獨立して與那國村と稱す。無病地にして風土人に適し、住民優雅の評あり。歌曲に「かぬしやま節」卽ち悲曲與那國しよんがいな節や、人頭殺に泣く「なかなん節」等あり。與那國は古へ屢々臺灣人の襲擊に遇ひしを以て之を怖るゝこと甚しく、夜間燈火を戒め、また巨大なる草鞋を流して之を威嚇したりといふ。言語・土俗・風習等古意を傳ふるもの多く研究資料少なからずといふ。〔大和墓〕租納の東南方約二〇〇米にあり、山腹を穿ち、その前面は石垣を以て塞ぎ、中に白骨を納む。その構造、今歸仁の百按司墓と同一系統なり。里人傳へて平家の遺跡といひ、一名を屋鳥墓と稱す。古劍・古器物等を藏すといふも、眞僞詳ならず。

【與那國島】→與那國村

ヨナゴ　米子　【米子】長野縣上高井郡仁礼村の大字。此地の南東部は吾妻山の北側にて吾妻山の峯たる濕山・米子山などあり。濕山には標現達（高さ約一八〇米）・不動滝（高さ約二七〇米）など懸り、その水は何れも米子川に集る。また米子讃山あり、中外硫黄會社の稼行にて、昭和十年には硫黄五四九〇瓦（價額三五萬餘圓）を產出し、同年六月末の鑛夫數は三三八人、現に重要鑛山に列す。古へ米子の地には米子城ありしといふ、楡井（仁礼）氏の族にても築きしものか。城は戰國の頃を以て廢絶せしものゝ如し。

【米子市】鳥取縣西部の都會。縣の西北部より島根半島東端部に向ひ弓狀をなして突出する夜見ケ濱半島の基部を占め、南西は半島內側の錦海（中海）に臨み、北は外側の美保灣に面す。東は日野川の下流によりて西伯郡日吉津村・巖村・春日村に、南は成實村・島根縣能義郡島田村に、西北は彦名村・夜見村に境す。東西約七粁、南北約六粁、面積二二・七六方粁。南方成實村との境には高盛・下坂・行者・ドチドチ等の山々（いづれも一五〇米內外）連りて丘陵性山地をなし、新加茂川はこの山地の北を西流して錦海岸の深浦港に注ぎ、また新加茂川と日野川の分流米川との間には勝田山・陽田山の丘陵あり。これらの丘陵を除けば市域至る所平坦にて、米川その中央を北西に貫流し、夫より分るゝ新開川は市の中部より北に流れて美保灣岸の夜見ケ濱に注ぎ耕地を灌漑す。鳥取藩主池田氏の城代家老荒尾氏の居城せし處にて市街は南西部錦海岸にあり北に米子港、南に深浦港あり、海上、安來・松江・境等へ運輸交通の便よし。陸上には省線山陰本線南東部を横ざりて彌生町に米子驛（明治三十五年設置）を置き、塩線ここより分岐し北西夜見ケ濱半島の先端境港に向ひ、市內に後藤驛（明治三十五年設置）を設く。南方法勝寺・母里に通ずる社線伯陽電鐵と市內電車・皆生電車（米子電軌）も驛前に起りて汽車の發着と連絡し、また東方山陰本線の伯耆大山驛よりは省線伯備線に相連る。その他松江・根雨・渡・福萬・倉吉・大山等に至る乘合自動車の運轉ありて交通上の中心をなす。市の生產總額は約七〇〇萬圓に上り、內工產は約六〇〇萬圓、農產約七〇萬圓、水產約二八萬圓なり。工產には刻煙草（一四〇萬圓）・生糸（一四〇萬圓）を兩大關とし、製鋼・菓子・醬油・農具等これに次ぎ、水產製造物には蒲鉾を第一に鹽鯖・鹽鰯等、農產は米を筆頭に繭・麥・西瓜・蔬菜類等あり。この地古くは加茂と呼ばれ、海濱の一小漁村たり。伯耆守護名和長年の所領となり、後鹽谷・山名・尼子・毛利諸氏の領地となり吉川廣家の時法山に久米城を築く。關ケ原役後、慶長六年中村一氏入國して城池を完成しまた街衢を整理す。次で加藤貞泰を經て、元和四年鳥取藩主池田光政の家老池田由之城代としてこれに居り、寛永九年池田光仲備前より鳥取に轉藩の時將軍德川家光の命によりその家老荒尾但馬城代となる。これより荒尾氏代々米子城に居り明治維新に及ぶ。廢藩置縣の際鳥取縣に屬し、同九年一時島根縣に入りしも同十四年舊に復す。同二十二年町制を布き、大正十五年西伯郡成實村の一部を合併、昭和二年一月市制を布き、同十年西伯郡住吉村を、同十一年車尾村を更に同十三年加茂・福米・福生の三村を市域に編入して現在に至る。人口約四・六萬。〔米子城址〕米子驛の西北一粁、久米町法山にあり。南は新加茂川口の深浦に臨みて對岸の愛宕山・離山に、東は飯山の丘陵に對し要害の地なり。慶長の始め吉川廣家築城を企て關ケ原戰後中村一氏伯耆を領し入國して城池を完成す。一に久米城といひ、後鳥取藩主池田氏の家老荒尾氏城代となり子孫相繼ぎて明治維新に及ぶ。天主閣その他の建物は明治十年頃に破却さる。今は法山公園として計畫中なり。〔勝田神社〕博勞町二丁目にあり。祭神、天照大神（天津社）・大己貴命（地津社）・松尾明神及び猿田彦命（地主社）。例祭、四月十五日。凡そ六百年前弓ケ濱外江村より遷座す。勝田山の麓にして、米子城鬼門鎭護の社として尊崇せらる。社域廣く老松枝を交へ林をなす。〔加茂神社〕加茂町にあり。祭神別雷神。米子の氏神にして中村・加藤・池田等歷代領主の尊崇厚し。境內に古井あり清水湧下より湧く。また米子城八幡臺にありし八幡宮を社內に移し祀る。〔感應寺〕祇園町にあり、日蓮宗。開山は日長上人。愛宕山の北麓にて、北は新加茂川の末、藥研堀を隔てゝ飯山に對し幽靜の境をなす。〔逢理根上り松〕指定天然記念物。博勞町二丁目法城寺境內にあり。砂丘傾斜面に大小二株の老松あり、根は高く露出す。小株は斜面の上部に生じその一根は水平に出でゝ二・七米の間隔ある大株の根に達る。よりて逢理の松とよばる。大株の根上りの高さ四・五米、根幹境界部にて太さ五・五米、小株の根上りは高さ二・七米、根幹境界部の周圍三米、內地の根上り松中、最も著しきものなり。〔錦公園〕西町にあり。錦海に面し、南方に舊城址法山を仰ぎ、老松多く眺望に富む。園內に鳳翔閣・公會堂、種々の記念碑あり。〔皆生温泉〕市の北東部、日野川口皆生海岸に湧出す。弱鹽類泉にして湯量多く温度七一度。北は美保灣を隔てて近く美保關、遠く隱岐の青嶂を望み、東南には大山の秀峰を仰ぎ、白砂青松の間旅亭旅館軒を並べ、米子市內の遊樂郷たり。米子驛より電車の便あり。

【米子電車軌道】私設鐵道。鳥取縣米子市にあり。山陽本線米子驛より出でて北方に走り皆生温泉驛に至る五・二粁。省線と連帶運輸をなし動力は電氣、軌間は一・〇六七米。皆生電車ともいふ。

ヨナシ　夜梨　駿河國（靜岡縣）の古地名。和名抄に志太郡夜梨郷あり、その地いま詳かならざるも志太郡稻葉村の邊に當る。

ヨナバリ　吉隱・吉名張・吉魚張　萬葉集に見ゆる地名。奈良縣磯城郡初瀬町の大字吉隱の附近なるべし。萬葉・一〇「吉隱の野木に零りおほふ白雪のいちしろくしも懸ひむ君かも」

ヨネ　米山　高田市の北東方約三〇粁。日本海岸に近く、新潟縣中頸城郡上米山村・米山村・黑川村の三村境上に峙つ山。標高九九三米。この山上り下り三里と稱せられ、山上に日本三藥師の一なる米山藥師あるによりて名高く、また米山薬句にても名高し。「頸城見をさめ米山三里峠越えれば（ササ）柏崎」登山路は東西南北四方より通じ、約七粁にて達頂し得らる。山頂より西方日本海の眺望極めて良し。山名は山腹まで米作行はれしにより米の出る山の意ならんと云ふ。山の西麓に鉢崎あり、こゝに古の關所址殘る。藥師に就きては黑川村を見よ。

ヨネカワ　米川　【米川村】宮城縣陸前國登米郡の東北部。米谷町の北に接し、北は岩手縣に、東は本吉郡に接す。面積七三・六五平方粁。北上山地の南部に位し、北境には東より高城山（二六九米）・鷲倒山（四一八米）・三峯山（三一六米）、西境に高城山（二九六米）・八森山（三〇二米）、南部に高崎山（三一四米）、東境には論山（二九九米）聳え、四周山地連りて、二又川は東方より來り、村の中部を西流し、西南方に向ふ。沿岸に耕地拓く。米・繭・麥を產し、木炭の產多し。西郡街道は東方より來り二又川に沿ひて西南に向ふ。南方米谷町へはバスの便あり。

【米川村】山口縣周防國玖珂郡の西部。德山市の東北方一六粁。北は川越村に、

東は高森町に、南は熊毛郡三丘村・高水村に、西は八代村に境す。中國山地の南部花崗岩山地中にありて、北部には源九郎山(五七二米)・櫛山(四三一米)、南部には大黒山(三二三米)・龍ヶ岳・鳥帽子岳(六九六米)等聳ゆ。島田川は西南より東北へと流れ、高森・玖珂盆地を作り、本村はその一部をなす。産業は振はず、島田川流域には米作行はる。交通路は山陽道がこの島田川の谷を通じ、また省線山陽本線はこれに並行し、米川驛(昭和九年設置)を置く。和名抄に見ゆる玖珂郡野口郷は本村附近と思はれ、米川は差川とも書かる。

【米川村】 山口縣周防國都濃郡の東南部。西北は徳山市に界し、西南は久米村に、北は須々万村・中須村、南は花岡村に接す。面積二四・四五平方粁。村内緩れ丘陵性山地に蔽はれ、西境に小山脈南北に走りて杉ヶ峠(五六一米)村界をなせり。平地乏しく、大部分は林野地なり。聚落山間に散在し、耕作を行ふ。米・麥・蠶・木炭・鑛産物等を産す。省線山陽本線周防花岡驛へ約五粁。縣道を以て須々万村と共にバス通ず。

ヨネクラ　米倉

【米倉村】 新潟縣越後國北蒲原郡の中央南部。加治川中流左岸に沿ひ新發田町の東北方約八粁。西境に金鉢山(八八八米)荒城山(五四二米)等の連峯ありて東及び東北へ傾斜し、加治川に東境を西北流し東北隅にて數條の分流をなし流域に平地開く。米を主産し養蠶を副業とす。聚落は東部・北部の山麓河岸に散在し縣道・省線赤谷線によりて連絡す。赤谷線は村内に米倉驛(大正十四年設置)を置く。縣道は越後平野と會津盆地を結ぶ主要路なり。往時新發田藩の料米を納めしところと傳ふ。村名も蓋しこれに因るべし。舊會津街道の宿驛たり。

【米倉村】 山梨縣甲斐國東八代郡の中央西部。御坂山中寄日山の北斜面を占むる南北に狹長なる村にて面積一・六七方粁に過ぎず。東は花鳥村、西は境川村、北は永井村に接す。北隅に低地ありて甲府盆地に臨み聚落此處に密集す。養蠶・農耕共に行はるゝも副の産を主とし、米・麥これに次ぐ。北部を貫通する縣道あり省線中央本線石和驛へ約八粁を隔つ。古くは和名抄、八代郡長江郷の内とす。中世清和源氏武田氏の一族この地に居して米倉氏を稱す。〔神社神社〕 郷社。祭神天御中主命。式内社。仁徳天皇四年の創立と傳ふ。舊稱、矛立明神。例祭、四月三日・十一月三日。

ヨネサカ　米坂線　省線奥羽線の一部。山形・新潟兩縣に亙る。奥羽本線米澤驛より發し今泉・羽前沼澤・越後金丸等の數驛を經て、羽越本線の坂町驛に終る。全長九〇・七粁。今泉驛にては省線長井線と接續す。

ヨネサキ　米崎村　岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東に接し、南は廣田灣に面す。北上山地の東南部に位し北境は海拔約五五〇米にして南方に傾斜し、南部は平坦にして耕地拓く。海岸の中央に米ヶ崎の突出ありてその西には脇ノ澤の漁港あり。米・麥・大豆・小豆・馬鈴薯・鮮魚を産す。道路には海岸を東西に通ずるもの及び、村の中部を東北に通ずるものあり。村内に省線大船渡線の脇ノ澤驛(昭和八年設置)あり。東方末崎村、東南方小友村へは各バスの便あり。また三陸汽船の寄航地たり。村内に古墳あり。往時は葛西氏の族臣千葉安房廣綱の居せし所といふ。

ヨネサト　米里

【米里村】 岩手縣陸中國江刺郡の東部。西は玉里村、南は伊手村、東は氣仙郡世田米村及び上閉伊郡小友村に、北は和賀郡谷内村に隣し、省線東北本線水澤驛を東北に去ること二四粁、面積七四平方粁を有す。北上山地東部に蟠まり物見山(八七〇米、本郡最高地點にして江刺・上閉伊・氣仙三郡の境)・大森山(八二〇米)あり、その一帶の高地を種山と稱し一大高原をなし眺望雄大なり、種山放牧地はこの高原にあり。鳴瀬川此處に發し西流して人首を過ぎ人首川となり玉里村に入る。沿岸稍平地あり、耕地開く。高地は大部分秩父古世層に屬し所々に花崗岩露出し、北部五輪峠一帶には蛇紋岩あり。また氣仙郡境に近き東南部一帶には石灰岩ありて石灰を産す。一般に砂土多く保水力弱き憾あり。本村は山村にして田二一一町、畑三五〇町、山林八〇〇町、原野八八一町の有租地あり、農業・林業・牧畜を主とし米・麥・大豆・繭・馬・木炭を主産物とし、また金・鐵鑛・石灰等の鑛産あり。延暦年間坂上田村麿蝦夷の首魁惡路王を滅ぼすや、その一族人首丸逃れて本村大森山に據りたるを官軍追擊討滅してより人首村と稱したりと傳ふ。弘長二年東山大原式部大夫三男阿部重胤當村古館城主となり、子孫相傳へて慶長年間に至る。慶長十一年伊達郡より沼邊重仲人首館に轉封せられ、爾來明治維新に至るまで沼邊氏本村邑主たりき。明治の初年官廳屢々變るに隨ひ種々の變遷を經て、明治二十二年人首村を米里村と改め村役場を置き今日に至る。〔館山櫻樹園〕 沼邊氏居城の跡にして櫻樹を植ゑ風景に富み、春は花見の客雲集す。〔館山神社〕 村内中澤にあり。大同元年、人首丸を討伐したる際、田村麿の信仰せし聖觀音を祀りしものにして、山を負ひ懸崖に臨み今も觀音堂あり、何れの時よりか地名を冠して館山神社と稱し現在に至る。明治八年故ありて別に之を館山つゞきの岡に祀りて村社となる。

【米里村】 鳥取縣因幡國岩美郡の西部。鳥取市の南に位し、東は津ノ井村に、西は倉田村に界し、南は八頭郡に隣接す。南北に爽長なる村にして南半は高距三百米餘の丘陵起伏して中央に低下し、北は鳥取平野の地を占め低平なり。北に小丘あるも餘り高からず。千代川の支流この平地を北に流れて灌漑を助く。農業行はれて米・馬鈴薯・繭等を産す。山地は牧牛を營む。中央を南北に街道走りて鳥取市より出て八頭郡國中村に至る。古くは和名抄、邑美郡美和郷の内なるものの如し。もと大路・三戸古の二村なりしが、大正七年合併して米里村と名づく。

ヨネサワ　米澤村　鳥取縣伯耆國日野郡の東部。北は西伯・東伯兩郡に界し、東は岡山縣に接し、南は神奈川村に、西は江尾・日光二村に對す。北には大山火山に屬する東峰の烏ヶ山聳えて峻嶮なる山岳地をなして南に緩傾斜をなしつゝ低下し、南は數百米の山腹開けて高台狀をなす。平地殆どなければ農業は不振にして林業・牧畜盛に行はれ牛馬の飼育を營み、春秋二期の市は名高し。山腹を東西南北に村道走りて交通を助く。山麓に聚落あつまるも、人口一七一六人を算するのみ。大字御机は大山國立公園の内なり。

ヨネザワ　米澤

【米澤市】 山形縣南部の都會。米澤(置賜郡)盆地の南端に位し、東南は南置賜郡萬世村に、南は山上・南原・上長井三村に、西は三澤村・廣幡村に、北は豊井・窪田二村に、北東は東置賜郡上郷村に隣接し、東西六・三粁餘、南北六粁に亙り面積一八・四八方粁。最上川の支流松川東部を北に貫き、これに合する堀立川は市街の中部を、羽黒川は北東境をいづれも北流し、西北境には鬼面川流れ、土地概れ平坦なり。もと上杉氏十五萬石の城下にして略中央部に位する舞鶴城(松岬城)を中心として發達せる處とす。上杉景勝の臣直江山城守兼續の殖産興業を圖りしと、後藤主上杉治憲(鷹山公)の委蠶機織を奨勵せしため産業大いに發達し、特に米澤織の産地として著はるゝに至れり。今日に於ても市の最重要産業たる工業中、機業は壓倒的の地位を占め、工場總數三九五の内、三四二は機業工場にして、市の生産總額約一一四五萬圓中、絹織物(御召・縮緬及壁・袴地・各種の着尺地等、六〇五萬圓)・絹綿交織(六四萬圓)の産額は六六八萬圓を超え、生産總額の六〇%に當る。工産中織物に次いで重要なるは清酒(約一六〇萬圓)・人絹誓糸(一五五萬圓)を主とし菓子・醬油・味噌・皮革製品・木製品・打刃物・木工品(家具類)等なり。農産には米・果實・食用農産・蔬菜等あるも産額は合計四四萬圓程度に過ぎず。省線奥羽本線市の東部を南北に走りて花澤に米澤驛(明治三十二年設置)を置き、支線米坂線こゝより分岐し、南部より西部に迂回して北西方に向ひ、南部の泉町に南米澤驛、西部の吹屋敷に西米澤驛(共に大正十五年設置)を設く。また米澤驛よりは小野川温泉・御廟町へ、西米澤驛よりは米澤驛及び小野川へいづれもバスの便あり。市外八幡原には宋次飛行場の設あり。市内の繁華街は大町・停車場通・立町・鞴町等にて官公衙・銀行・會社・大商店等は多くはこれらに集る。市は人造絹糸製造の發祥地(大工場は今他に移轉す)にして、また高等工業學校あり。この地古くは出羽國置賜(置民)郡長井庄なり。文治年間源頼朝の奥州征伐に際し、大江廣元の次子時廣功によりて長井庄の地頭に補せられ米澤城を築く。これより長井を氏とし子孫相繼ぐこと百九十年、廣房に至りて、天授六年伊達宗遠のために滅ぼさる。その後宗遠の子政宗は晩年屋代城(今の高畠)を築き、こゝに居りしも、その子孫晴宗・輝宗・政宗(獨眼龍)の三代は、米澤城に居りしものゝ如し。天正十九年政宗は陸奥岩手山に移り、米澤は蒲生氏郷の領となり、その族郷安の居城となる。慶ならずして慶長三年上杉景勝の會津・仙道・庄内・佐渡・置賜の百二十萬石に封ぜられて越後より會津に移るや、直江山城守兼續を米澤城主とす。然るに關ヶ原戰のため景勝減封されて慶長六年米澤に移り、爾來米澤は上杉氏十三世の城下として明治維新に及ぶ。明治四年七月米澤縣、九月置賜縣、同九年山形縣に入り、同十一年置賜地方を東西南の三郡に分つやその南置賜郡に屬せしが、同二十二年獨立して市制を布き今日に至る。〔米澤城〕 市の略中央部(南堀端町)に址あり。大江廣元の二男時廣(長井氏)の創築といはる。平地に築かれし城にて鶴鶴城また松岬城ともいふ。室町時代には伊達氏の居城となり、慶長六年以後上杉氏の城地たり。明治六年濠の一部を殘して他は悉く破却し、松岬公園となす。〔上杉神社〕 松岬公園内西部(舊城本丸址)に鎮座。別格官幣社にして上杉謙信を祭る。例祭四月二十九日。今の社殿は大正十二年の再建。實物殿稽照殿には古文書・武器・佛畫・經卷を藏し内國寶二十餘點あり。〔松岬神社〕 松岬公園の濠東にあり。縣社。祭神は上杉景勝・治憲(鷹山公)。もと上杉神社に合祀されしを大正元年景勝以來の世子御殿のありし現地に移す。例祭五月三日。實物銘助宗の太刀は國寶。〔上杉家廟〕 御廟町にあり。隣接の法音寺の管理に屬す。境内中央の高き所にある謙信の墓を中心に、その前面左右に景勝以下累代の墓(十三)あり。〔善光寺如來〕 御廟町法音寺に祀る。上杉謙信信州にて武田信玄と戰ひし折、善光寺大御堂の領主高梨政盛津守本尊を護り、戰禍を逃れて謙信に獻じ、上杉氏は越後直江津の堂宇に安置せしを、轉封と共に米澤城に移さる。明治九年神佛分離に際し法音寺に移されしものなり。〔白子神社〕 明神堂町にあり。縣社、祭神は火産靈命・埴山姫命。例祭、七月九日。和銅年間の創建と傳へ、永平年中小野良春(當澄の子)の再興。大江(長井)・伊達・直江・上杉諸氏の厚く崇敬せし社。〔林泉寺〕 林泉寺町にあり。曹洞宗。宗猷大光禪師曇英慧應の開基にてもと越後春日山にありしを景勝の時この地に移す。境内に上杉家正室墓所・直江山城守夫妻墓・杉原常陸介親憲墓・武田信清(信玄の六男)墓等あり。〔直江山城守兼續の墓〕 林泉寺境内にあ